

日本美術年鑑

昭和 29 年 版

美術研究所



月夜の鳥

脇田和

序

日本美術年鑑は東京国立文化財研究所、即ち美術研究所が、従前からその調査研究事業の一部として計画従事していたもので、昭和十一年より発行を開始し、今年ここに昭和二十九年版を刊行する運びとなつた。

この年鑑の調査と編輯とは、主として当研究所の第二研究室がこれに当り、古美術関係の項目は第一研究室と資料室とが担当した。

この年鑑の編輯に當つては、諸官庁や美術関係の公私機関をはじめ、多くの学者作家等の御助力を煩わしたが、殊に文化財保護委員会事務局、文部省社会教育局藝術課、日本藝術院、国立近代美術館、東京・京都・奈良の各国立博物館、各地の諸新聞社、雑誌社、美術館、研究所、学校、美術団体の御援助に待つところが多かつた。更にまた大蔵省印刷局は、この年鑑の体裁上印刷技術の困難な点多きにかかわらず、今年も引続きこれを快諾された。ここにこれらの諸機関に対して深く感謝の意を表する。

なおこの年鑑の編輯については常に意を注いで、記事採択の適正と記事内容の充実とに努めているが、その中に思わぬ過誤や不備の点がないとも限らない。これに対しては一般識者の叱正と御教示とを切に希望する次第である。

昭和二十九年一〇月

東京国立文化財研究所長 田 中 一 松

凡 例

一、本年鑑は、昭和二八年一月から同年二月に至る一年間の美術界の主要な出来事を掲載した。

一、本年鑑の内容は、「図版」「本欄」「附録」の三部に大別し、「図版」には右期間中に発表された注目すべき作品の写真を主として掲載し「本欄」はわが国美術界の全般について、全体の展望、主要な事件、注目すべき展覧会、物故者、発表された文献などを記載した。

「附録」は便覧として美術関係の法規、諸施設、団体、美術家及美術関係者名簿などを集録した。便覧の性質上この欄は原則として昭和二九年一〇月現在の記録に従っている。

一、本年鑑であつかう美術の範囲は、一般に行われる狭義の解釈に従い、絵画、彫刻、工藝、および建築に限っている。絵画のうち、日本画と洋画の区別は困難な場合もあるが、だいたい現代の慣習に従った。建築はわれわれの注意をひく範囲にとどめた。

一、人名を記す場合は、すべて敬称をはぶいた。

一、美術文献目録、および美術家及美術関係者名簿についてはそれぞれ項目の初めに凡例を記した。

目次

口 序	脇田和
凡 例	一
目 次	三
	四

本 欄

昭和二八年美術界概観	一
現代美術	一
古 美 術	五
昭和二八年美術界年史	九
附 表	一六
新指定国宝一覽	一六
新指定重要文化財一覽	二六
文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覽	三〇
助成の措置を講ずべき無形文化財一覽	三三
日展関係諸表	三三
第九回日本美術展覧会審査員一覽	三六
各大学美術関係講義題目	三六
主要美術雑誌色刷一覽	三六
美術展覧会	三三

物 故 者	一五
美術文献目録	一六
凡 例	一六
目 次	一五

定期刊行物所載文献

現代美術	一六
西洋美術	一七
東洋古美術	一七
単行 函 書	一七
現代美術	一七
西洋美術	一七
東洋古美術	一七

附 録 (便覧)

美術関係法規	一九
文化財保護法	一九
文化財専門審議会令	三二
文化財専門審議会議事規則	三二
文化財専門審議会常任委員会設置規則	三三
文化財専門審議会諮問事項等取扱要領	三三

文部省組織令抄	三二四	美術関係研究施設	三二九
東京国立博物館組織規程	三二六	美術関係学会	三四〇
京都国立博物館組織規程	三二七	美術教育施設	三四一
奈良国立博物館組織規程	三二八	学 校	三四一
東京国立文化財研究所組織規程	三二九	実 技 研 究 所	三四三
奈良国立文化財研究所組織規程	三三〇	美術観覧施設	三四七
文部省社会教育局芸術課	三三〇	東京画廊一覽	三五五
国立近代美術館	三三〇	京都画廊一覽	三五六
日本藝術院	三三三	大阪画廊一覽	三五六
日本美術展覧会	三三六	美術団体一覽	三五六
正倉院評議會規程	三三八	美術家及美術関係者名簿	三五七
帝室技藝員	三三八	美術関係定期刊行物一覽	三五九

目 録

1 花筏(2回雪月花展)	川合玉堂	9 虹(近藤浩一路水墨回顧30年展)	近藤浩一路	18 浴衣(25回青龍展)	堀口幸子
2 静物(2回日本国際美術展)	奥村土牛	10 岩井浜(2回日本国際美術展)	酒井亜人	19 大仙院石庭(25回青龍展)	琴塚英一
3 柳(2回成和会展)	徳岡神泉	11 おながきし(2回日本国際美術展)	神田一穂	20 岩峰(25回青龍展)	佐々木邦彦
4 浦風(4回日月社展)	矢野橋村	12 花園の団欒(2回日本国際美術展)	岩崎鐸	21 春日山(25回青龍展)	竹内未明
5 笥(2回成和会展)	金島桂華	13 風神雷神(25回青龍展)	川端龍子	22 青梅(25回青龍展)	安西啓明
6 朱鷺(2回日本国際美術展)	吉岡堅二	14 村道(伊豆風物七景)(3回新興美術展)	田中案山子	23 カンナ(25回青龍展)	佐藤土筆
7 夏溪(2回日本国際美術展)	奥村厚一	15 月輪(3回新興美術展)	安孫子荻声	24 倉敷風景A(25回青龍展)	加納三楽
8 水辺に咲く(2回日本国際美術展)	東山魁夷	16 風神雷神(25回青龍展)	川端龍子	25 月出皎兮(38回院展)	横山大観
		17 盛夏(25回青龍展)	小島鼎子	26 O夫人座像(38回院展)	小倉遊龜
				27 茶室(38回院展)	酒井亜人
				28 魚屋(鈿路)(38回院展)	大塚和
				29 牛(38回院展)	須田瑛中

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30
街(9回日展)	稿馬(9回日展)	窓(9回日展)	燦日(9回日展)	澗(9回日展)	庭と仔犬(9回日展)	寿陽公主(9回日展)	夕空(9回日展)	甲南夫人(9回日展)	磐梯(9回日展)	白百合(9回日展)	山湖(9回日展)	群像(9回日展)	カメラ(9回日展)	坐す(17回新制作展)	夫婦(17回新制作展)	山(17回新制作展)	群鳥(17回新制作展)	三人(17回新制作展)	高原(17回新制作展)	断層(17回新制作展)	朝(17回新制作展)	青年(38回院展)	蒼炎(38回院展)	秋尽(38回院展)	木花開耶姫(38回院展)	聖牛(38回院展)	向日葵(38回院展)	月雪の山(38回院展)	湯治客(38回院展)	庭石(水)(38回院展)	玄奘三蔵(38回院展)	耳庵老像(38回院展)	森(38回院展)
堂	三谷	堂	堅	麻	郷	伊	小	寺	加藤	渡辺	西山	杉	梶原	秋野	朝倉	堀	吉岡	廣田	信太	山本	上村	太田	中村	本多	安田	奥村	堅山	島田	松田	岩橋	新井	前田	
尚	青	印	南	田	倉	東	野	島	藤	阿	山	山	原	野	倉	文	岡	田	太	本	村	田	村	多	田	村	山	田	田	橋	井	田	田
郎	子	象	風	次	鞆	水	喬	明	三	湖	雄	寧	子	短	攝	子	津	昌	人	篁	雨	以	茂	彦	牛	風	郎	子	遠	利	勝	青	暉
89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67				66	65	64					
天地鐘秀(2回日本国際美術展)	高原風景(2回日本国際美術展)	高原(2回日本国際美術展)	美術展)	水から上つた馬(2回日本国際美術展)	農(2回日本国際美術展)	森(2回日本国際美術展)	厨房A(2回日本国際美術展)	本国際美術展)	三角くじを喰べる男達(2回日本国際美術展)	畑の中の六桜社(7回女流画家協会展)	砂丘(18回清光会)	婦人像(39回光風会)	夏(27回国画会)	製油所と船(27回国画会)	卓の静物(27回国画会)	静物A(30回春陽会展)	彫刻家(30回春陽会展)	造船所A(30回春陽会展)	静物・リンゴ(30回春陽会展)	三の酉(30回春陽会展)	燈台(30回春陽会展)	回美術文化展)	花・鼻・羽根・ナルチス・スミス	手(3回モダンアート展)	林の幻影(3回モダンアート展)	西洋画			窓辺(9回日展)	雨(9回日展)	望郷(9回日展)		
梅原龍三郎	里見勝蔵	小林和作	坂本繁二郎	井上三綱	原勝郎	中谷泰	玉置正敏	野村千春	熊谷守一	森田元子	宮坂勝	川口軌外	宇治山哲平	小川マリ子	三雲祥之助	南大路一	加山四郎	木村莊八	岡鹿之助	小牧源太郎	村井正誠	山口薫				中村岳陵	福田平八郎	山口蓬春					
115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90								
パレリーナ(15回一水会展)	紅浅間山(15回一水会展)	腰かけのポーズ(15回一水会展)	郊外曇日(15回一水会展)	レルと人(17回新制作展)	働く人(17回新制作展)	静物(17回新制作展)	鳥と魚(17回新制作展)	春の来島海峡(国立公園展)	久住山(阿蘇)(国立公園展)	十和田湖(国立公園展)	はにわ群像(5回立軌会展)	新樹(5回立軌会展)	アンサンブル(5回立軌会展)	海(8回行動美術展)	暮れ近き漁港(8回行動美術展)	展)	白い林(8回行動美術展)	かたち(38回二科展)	母と子(38回二科展)	宮島風景(1)(38回二科展)	変身(38回二科展)	谷中の森(38回二科展)	陶工(38回二科展)	山脈(38回二科展)	再会(フレスコ試作)(38回二科展)								
木下孝則	小山敬三	安井曾太郎	高田誠	川端實	小磯良平	三岸節子	猪熊弦一郎	須田國太郎	田崎廣助	林武	榎戸庄衛	牛島憲之	有岡一郎	向井潤吉	古家新	田中忠雄	田辺三重松	山口長男	東郷青児	鈴木信太郎	岡本太郎	野間仁根	北川民次	鷹山宇一	寺田政明								

116	河(21回独立展)	高島達四郎
117	馬込風景(15回一水会展)	仲田好江
118	畑(21回独立展)	鳥海青兒
119	月と車(21回独立展)	高橋忠彌
120	ハイデルベルグ丘陵(21回独立展)	菅野圭哉
121	雲仙国立公園(21回独立展)	野口彌太郎
122	立雲(21回独立展)	兒島善三郎
123	マナヅル(21回独立展)	須田國太郎
124	港の夜景(17回自由美術展)	難波田龍起
125	エデンの午後(17回自由美術展)	井上長三郎
126	坂道(17回自由美術展)	寺田政明
127	出発(17回自由美術展)	末松正樹
128	自然(17回自由美術展)	長谷川三郎
129	いやなやつ(17回自由美術展)	小山田二郎
130	人間気化(17回自由美術展)	鶴岡政男
131	うづくまる女(17回自由美術展)	森芳雄
132	鳥をとらえる女(17回自由美術展)	糸園和三郎
133	山の晩秋(7回二紀会展)	栗原信
134	室内(7回二紀会展)	佐野繁次郎
135	夕陽の山(7回二紀会展)	中川紀元
136	モレーの道(7回二紀会展)	宮本三郎
137	港(7回二紀会展)	田村孝之介
138	紀伊・勝浦港(7回二紀会展)	鍋井克之
139	バラ(7回二紀会展)	佐伯米子
140	藤原旧道(9回日展)	木下義謙
141	鳥ぐもり(9回日展)	小絲源太郎
142	湖畔(9回日展)	川島理一郎
143	佐渡海村(9回日展)	石井柏亭
144	阿寒湖の秋(9回日展)	中村善策
145	アトリエの裸婦(9回日展)	寺内萬治郎
146	植木屋T君(9回日展)	中野和高
147	桜島雪(9回日展)	田村一男
148	犬吠岬(個展)	兒島善三郎
149	立像(個展)	竹谷富士雄
150	板経韻「歡喜の曲」右(2回日本国際美術展)	棟方志功
151	譽粟と埴輪(個展)	齋藤清
152	母(個展)	瑛九
153	(ローマンの石燈)「フレッジル	
154	ス風景」(30回春陽会展)	長谷川潔
155	抒情(2回日本国際美術展)	恩地孝四郎
156	時間の迷路(30回春陽会展)	駒井哲郎
157	遺作展	
158	おばあさん(17回新制作展特陳)	内田巖
159	雨の夕(遺作展)	山脇信徳
160	優駿出場(遺作展)	中西利雄
161	裸体美人(四人の画家展)	萬鉄五郎
162	朝顔(四人の画家展)	土田麥僊
163	月夜風景(四人の画家展)	小茂田青樹
164	商業美術	
165	広告デザイン(朝日広告賞)	増田謙二
166	石鹼包装箱デザイン	龜倉雄策
167	GRAPHIK表紙	大智浩
168	時局ポスター(2回日本宣伝美術展)	河野鷹思
169	ポスター	大智浩
170	ポスター(於国立近代美術館)	大智浩
171	ポスター	大智浩
172	ポスター(2回日本宣伝美術展)	宮永岳彦
173	グラフィックデザイン	伊藤憲治
174	婦人帽のためのカウンターディスプレイ	村井次郎
175	広告デザイン	宮永岳彦
176	ポスター(於国立近代美術館)	
177	ヴェロニカ(ルオー展)	ルオ
178	黄色の台所(2回国際美術展)	ロルジキ
179	ラコストの眺め(クートー展)	クートー

196 195 194 193 192 191 190 189 188 187 186 185 184 183 182 181 180

浪(個展)……………河内山賢祐

十和田開発功労者記念像……………高村光太郎

展)……………清水多嘉示

裸婦(5回読売アンデパンダン

裸女(9回日展)……………國方林三

裸婦立像(9回日展)……………桜井祐一

海の形骸(8回行動美術展)……………中島快彦

首(9回日展)……………朝倉響子

若い女(9回日展)……………大須賀力

女性像(9回日展)……………加藤顯清

座像(7回新樹会展)……………木内克

作品4(3回モダンアート展)……………植木茂

子を守る母たち(17回新制作展)……………山内壯夫

カンナ(17回新制作展)……………舟越保武

裸の若者(17回新制作展)……………佐藤忠良

自由(其ノ二)(37回二科展)……………笠置季男

母と子ら(17回新制作展)……………本郷新

テラコッタ裸(17回新制作展)……………岡本庄三

179 178 177

彫 刻

灰色のバックの鳥と女(2回日

本国際美術展)……………レ

青いコルサージュの女(2回日

本国際美術展)……………ピ

サファイアー(2回日本国際美

術展)……………ニコルソン

217 216 215 214 213 212 211 210 209 208 207 206 205 204 203 202

染織蠟染鯉屏風(9回日展)……………岸田宗三郎

紫陽花磁製花瓶(9回日展)……………宮之原謙

市出品)……………産業工藝試

モデルルーム(カナダ国際見本

椅子・机)……………渡辺力

彩磁桔梗文水差(9回日展)……………板谷波山

盆(9回日展)……………松田權六

三曲衝立(9回日展)……………山崎覺太郎

屏風古木の株蔞絵(9回日展)……………山崎立山

黒水仙(9回日展)……………岩田藤七

「森」漆屏風(9回日展)……………高橋節郎

染付枝牡丹(茜会展)……………富本憲吉

屏風(2回創作工藝展)……………芳武茂介

家具)……………坂倉準三

舟型小宮(全国漆器展)……………大西忠夫

ザイン展)……………小杉二郎

ミシンデザイン(新日本工業デ

鉢と皿(1回生活工藝展)……………服部泰三

201 200 199 198 197

工 藝

F子の裸像(9回日展)……………朝倉文夫

頭像(9回日展)……………山本豊市

春風(野外彫刻展)……………圓鏗勝二

武蔵野(9回日展)……………木島正夫

うしお(7回二紀会展)……………松村外次郎

236 235 234 233 232 231 230 229 228 227 226 225 224 223 222

紙本着色粉河寺縁起……………和歌山県粉河寺藏

紙本墨面淡彩山水図 伝周文

古美術

(国 宝)

正倉院……………宮内庁管理部

鉄骨構造に依る小住宅……………広瀬謙二建築技

221 220 219 218

建 築

厚生年金病院……………山田守建築事務所

法政大学大学院……………大江宏設計事務所

米国大使館々員アパート……………レイモンド事務所

丸善ビル……………清水建設KK

東京フィルムビル……………レイモンド事務所

富士製鉄株式会社……………久米建築事務所

K銀行逆瀬川独身寮……………中山克己事務所

東野英治邸……………平松義彦設計

関東通信病院看護婦宿舍……………日本電信電話公社

宮城教授の家……………清家清・渡辺力設計

郵政省穩田アパート……………郵政省大臣官房建築部

鑄銅流蠟文花瓶(9回日展)……………杉田禾堂

独楽形花籃(9回日展)……………田辺竹雲齋

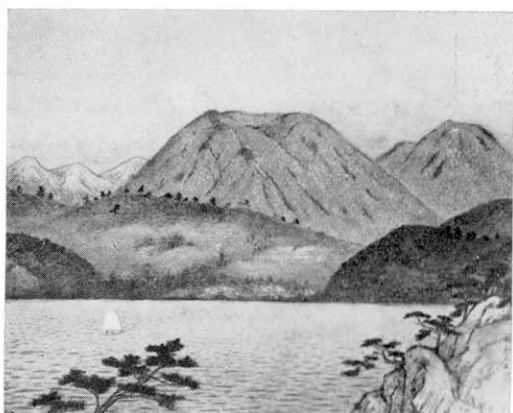
クリスタル花瓶(9回日展)……………吉田丈夫

響(9回日展)……………横山一夢

- 海賦詩繪卷發箱……………京都府教王護國寺藏
 238 熊野懷紙 後鳥羽天皇宸翰、藤
 原家隆、寂蓮筆……………京都府陽明文庫藏
 239 紙本着色
 後鳥羽天皇像 伝藤原信實筆……………
 ……大阪府水無瀬神宮藏
 240 紙本墨画淡彩山水図 雪舟筆……………
 ……岡山県大原總一郎藏
 241 銅造釈迦如来坐像……………京都府蟹満寺藏
 242 大浦天主堂……………カトリック
 ……長崎司教区
 243 南禪寺方丈……………京都府南禪寺
 (重要文化財)
 244 楽焼黒茶碗 長治郎作銘大黒……………
 ……大阪府鴻池善右衛門藏
 245 紙本着色四州真景図 峯山筆……………
 ……愛知県田中平六藏
 246 紙本着色黄山八勝図 石濤筆……………
 ……東京都住友寛一藏
 247 紙本墨画淡彩瀟湘八景図 祥啓筆……………
 ……兵庫県白鶴美術館藏
 248 嵯峨天皇宸翰光定戒牒……………滋賀県延暦寺藏

圖

版



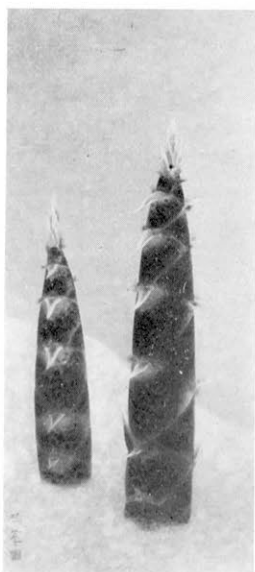
4 浦 風 (日月社展) 矢野橋村



1 花 筏 (雪月花展) 川合玉堂



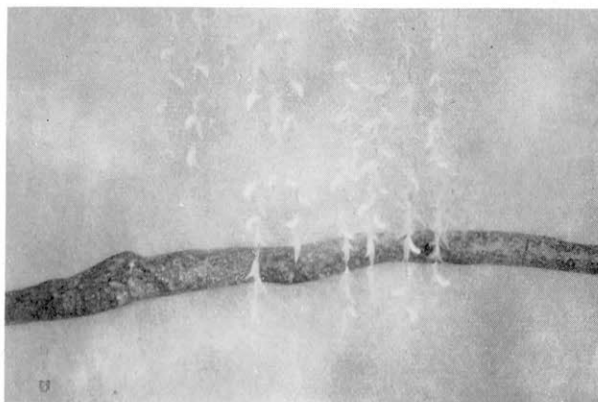
6 朱 鷺 (日本国際美術展) 吉岡堅二



5 筍 (成和会展) 金島桂肇



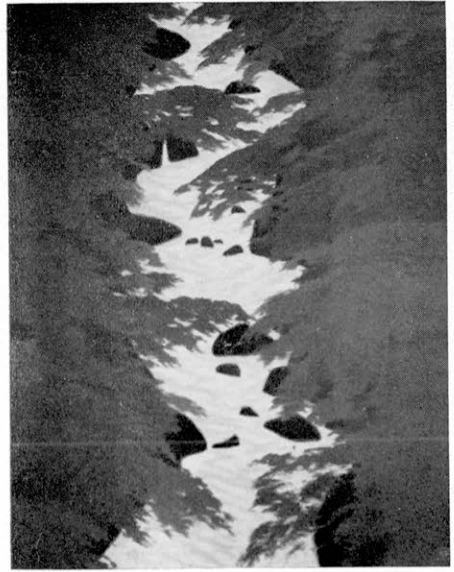
2 静 物 (日本国際美術展) 奥村土牛



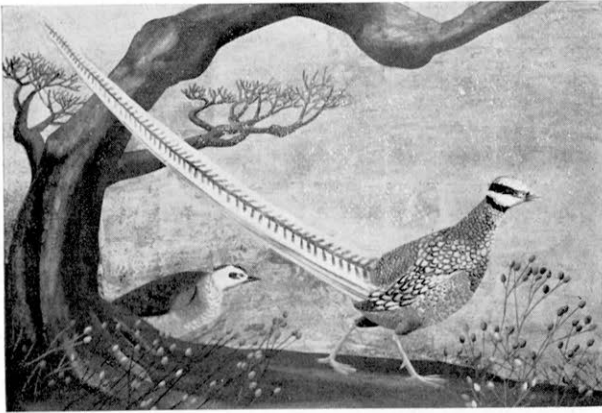
3 柳 (成和会展) 徳岡神泉



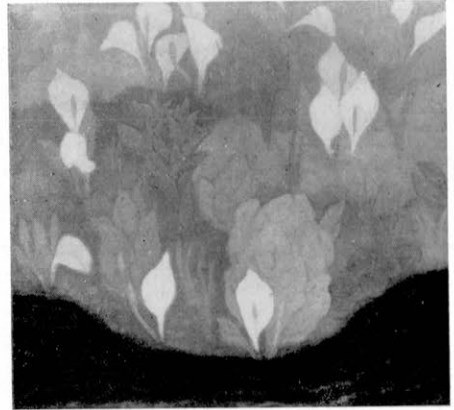
10 岩井浜 (日本国際美術展) 酒井重人



7 夏溪 (日本国際美術展) 奥村厚一



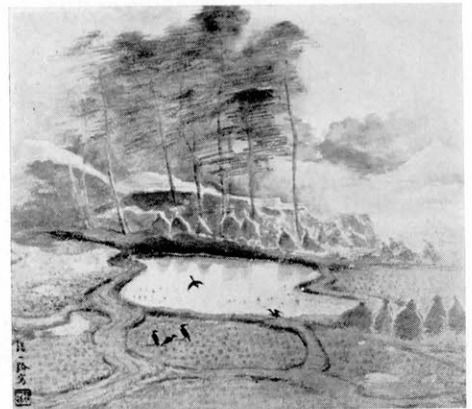
11 おながきじ (日本国際美術展) 伊藤一雄



8 水辺に咲く (日本国際美術展) 東山魁夷



12 花園の団圓 (日本国際美術展) 岩崎 鐘



9 甕 (近藤浩一路水墨回顧30年展) 近藤浩一路



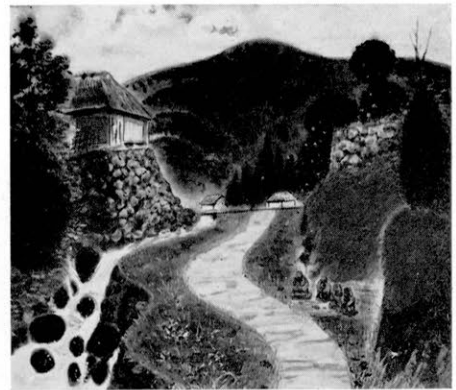
16 風神雷神 (青龍展) 川端龍子



13 風神雷神 (青龍展) 川端龍子



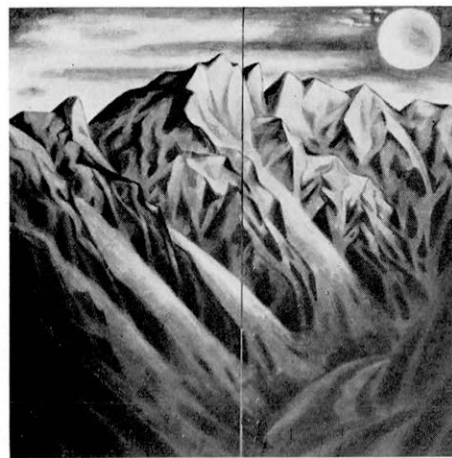
17 盛 夏 (青龍展) 小島彌子



14 村道 (伊豆風物七景) (新興美術展) 田中安山子



18 浴 衣 (青龍展) 堀口幸子



15 月 輪 浮 岫 (新興美術展) 安孫子萩声



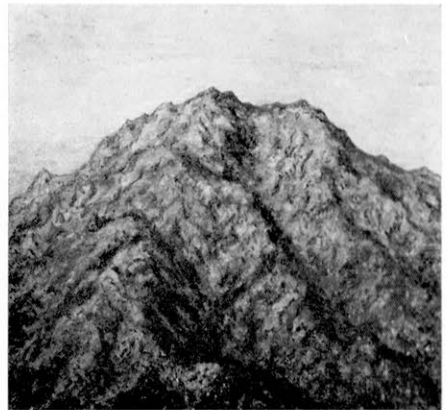
22 青 梅 (青龍展) 安西啓明



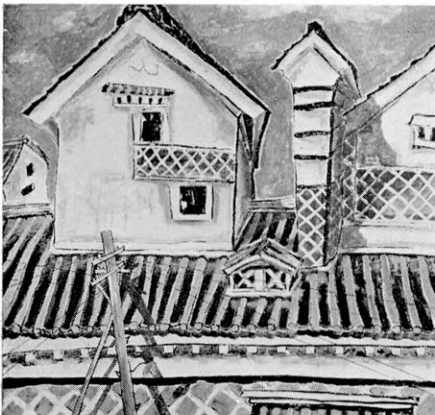
19 大仙院石庭 (青龍展) 琴塚英一



23 カンナ (青龍展) 佐藤土筆



20 岩 峰 (青龍展) 佐々木邦彦



24 倉敷風景A (青龍展) 加納三楽



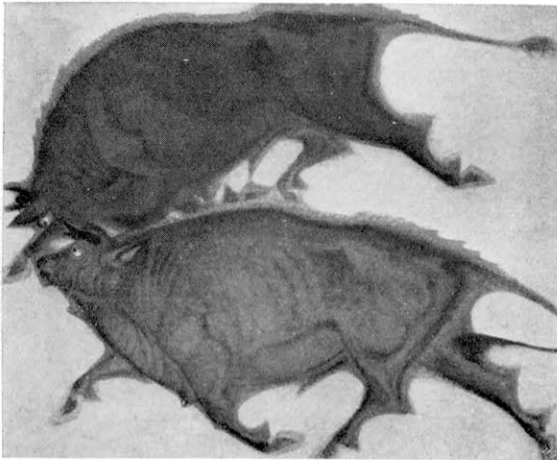
21 春日山 (青龍展) 竹内未明



28 魚屋(釧路) (院展) 大塚和



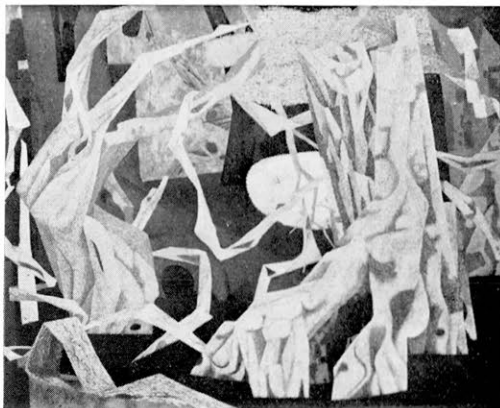
25 月出皎兮 (院展) 横山大観



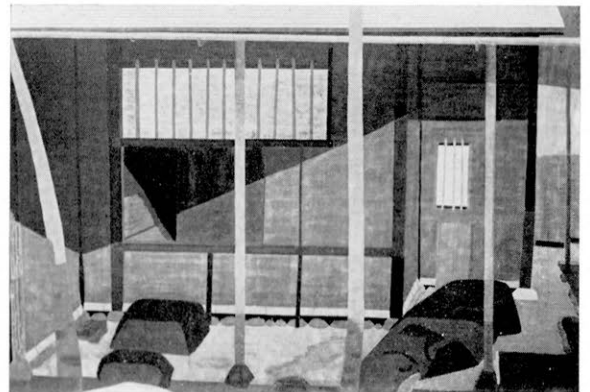
29 牛 (院展) 須田瑛中



26 O夫人座像 (院展) 小倉遊龜



30 森 (院展) 前田暉



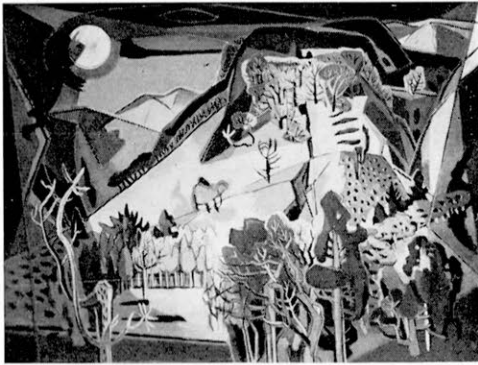
27 茶室 (院展) 酒井重人



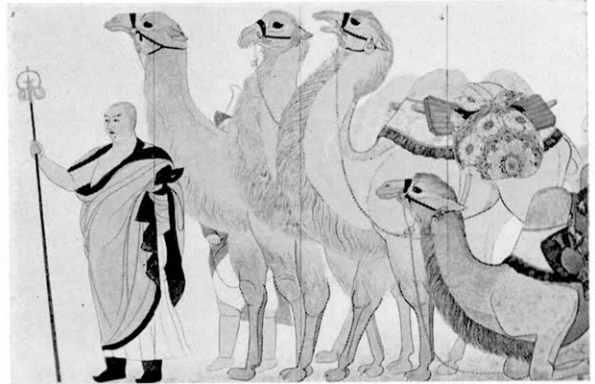
34 湯治客 (院展) 松田文子



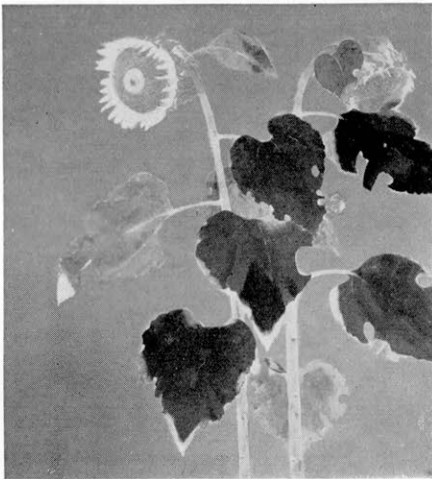
31 耳庵老像 (院展) 前田青邨



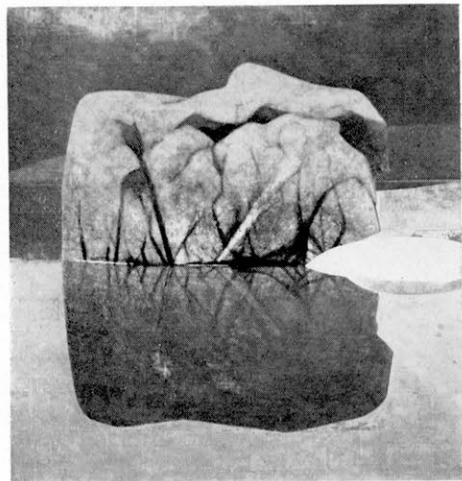
35 月雪の山 (院展) 島田晴郎



32 玄奘三蔵 (院展) 新井勝利



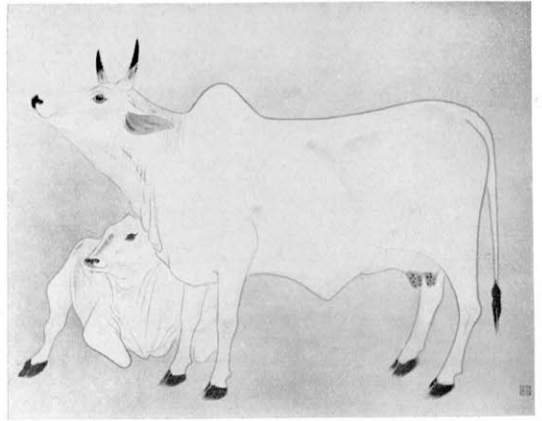
36 向日葵 (院展) 堅山南風



33 庭石(水) (院展) 岩橋英遠



39 秋 景 (院展) 木多 茂



37 聖 牛 (院展) 奥村土牛



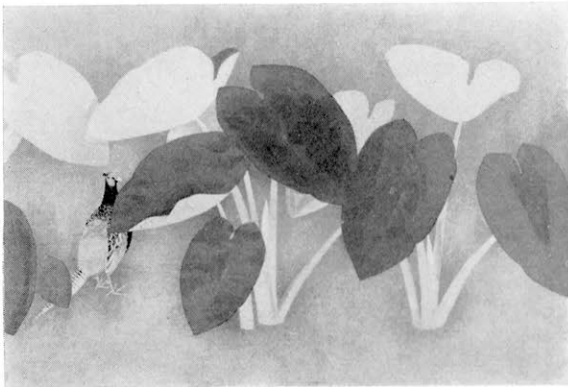
41 青 年 (院展) 太田聰雨



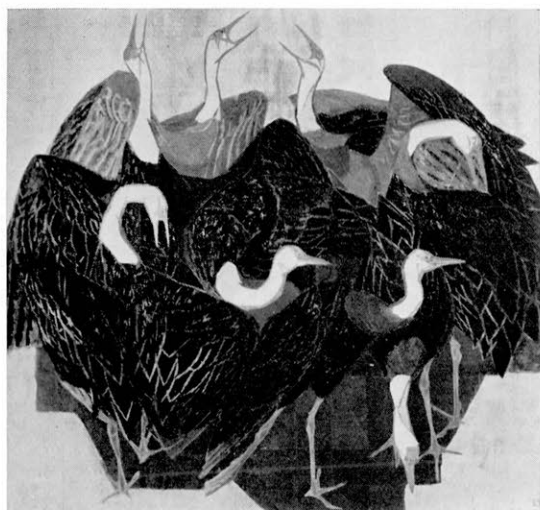
40 蒼 炎 (院展) 中村貞以



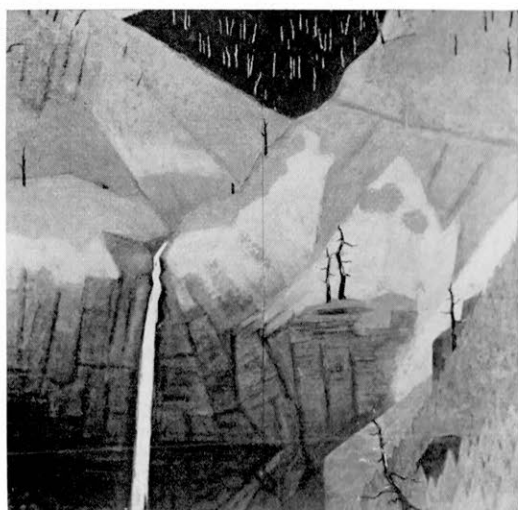
38 木花開耶姫 (院展) 安田靱彦



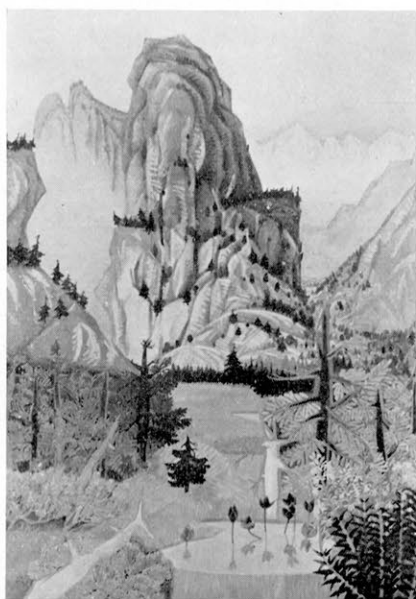
42 朝 (新制作展) 上村松篁



46 群鳥 (新制作展) 吉岡堅二



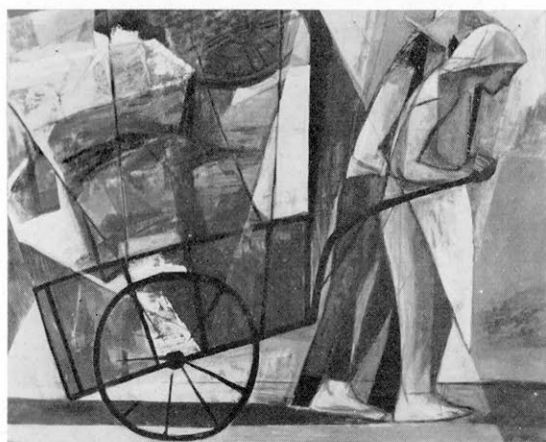
43 断層 (新制作展) 山本丘人



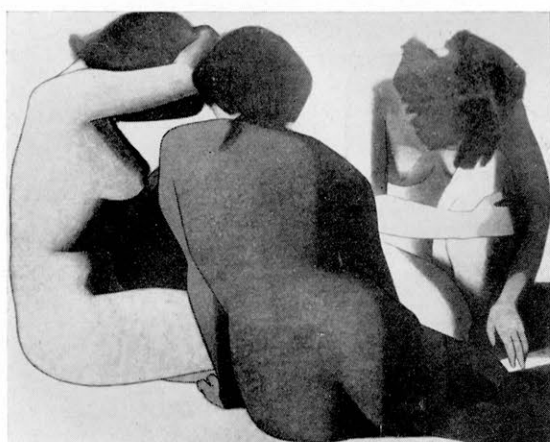
47 山 (新制作展) 堀文子



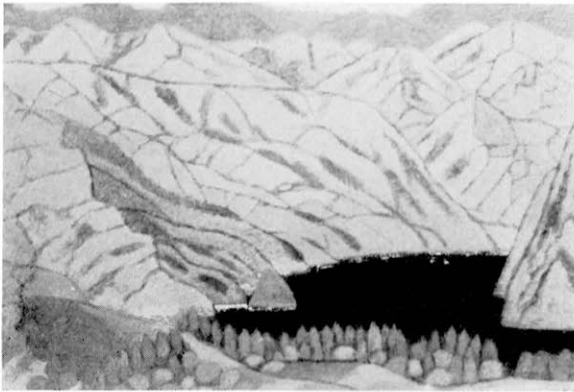
44 高原 (新制作展) 信太金昌



48 夫婦 (新制作展) 朝倉 穉



45 三人 (新制作展) 廣田多津



52 山 湖 (日 展) 西山英雄



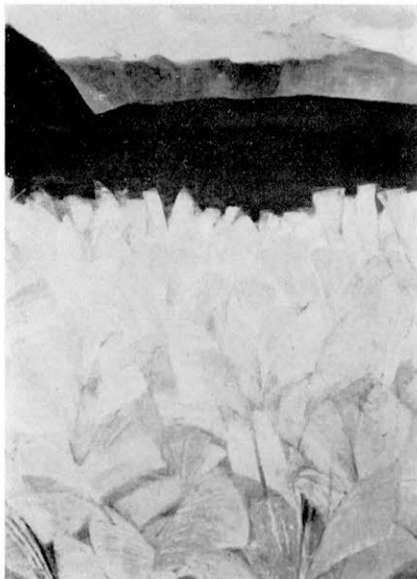
49 坐 子 (新制作展) 秋野不矩



53 白 百 合 (日 展) 渡辺阿以湖



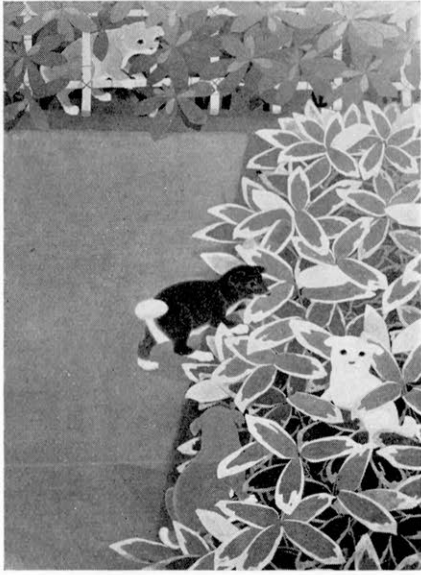
50 カ メ ラ (日 展) 梶原紳佐子



54 磐 梯 (日 展) 加藤榮三



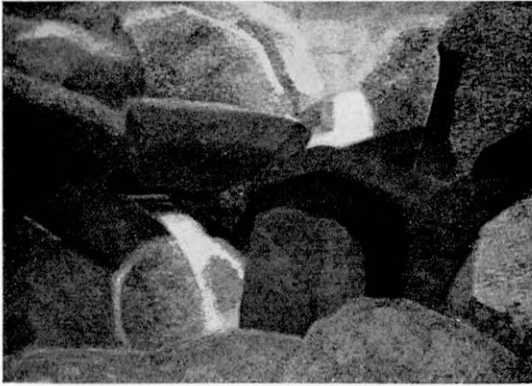
51 群 像 (日 展) 杉山 寧



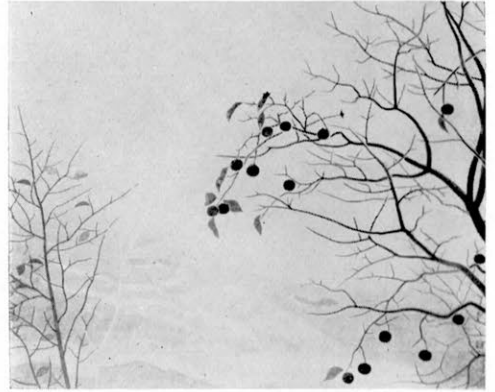
58 庭と仔犬 (日展) 郷倉千靄



55 甲南夫人 (日展) 寺島紫明



59 瀾 (日展) 麻田辨次



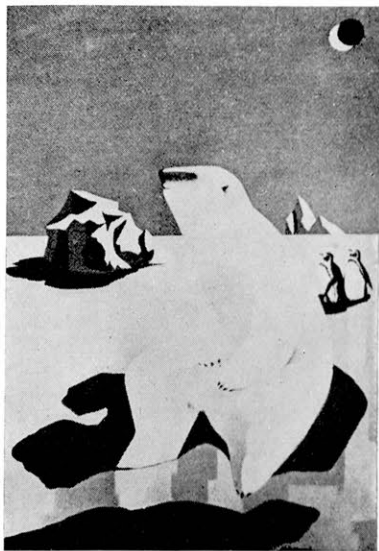
56 夕空 (日展) 小野竹齋



60 鵞 日 (日展) 堅山崖風



57 寿陽公主 (日展) 伊東深水



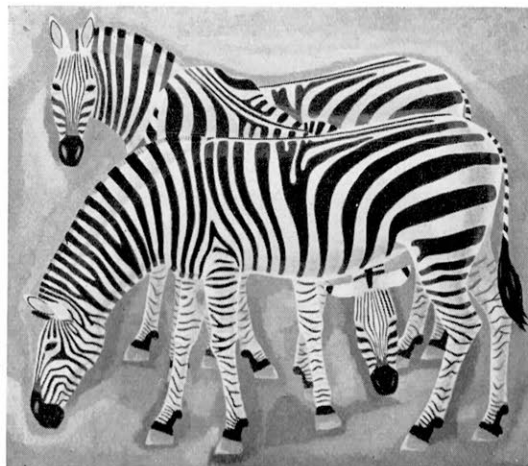
64 望郷 (日展) 山口蓬春



61 窓 (日展) 堂木印象



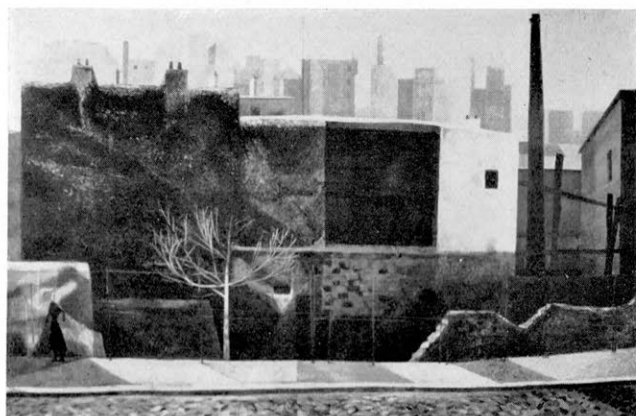
65 雨 (日展) 福田平八郎



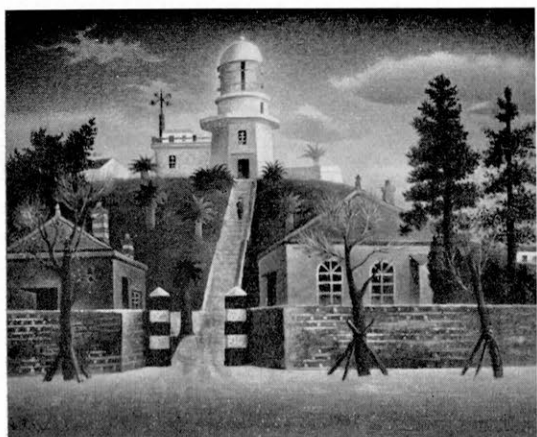
62 縞馬 (日展) 三谷青子



66 窓辺 (日展) 中村岳陵



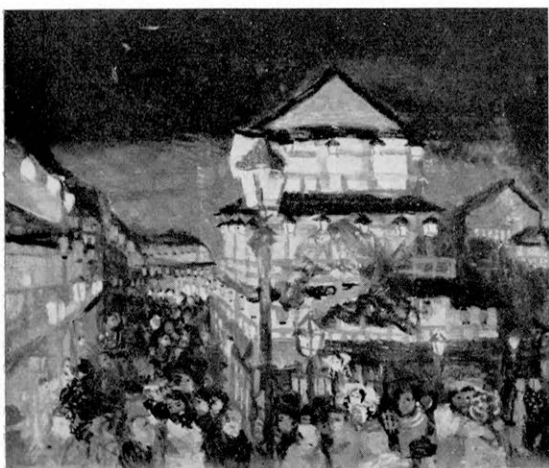
63 街 (日展) 堂木尚郎



70 燈台 (春陽会) 岡鹿之助



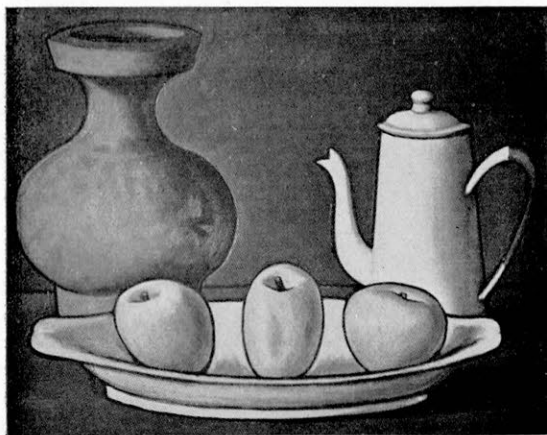
67 林の幻影 (モダンアート展) 山口薫



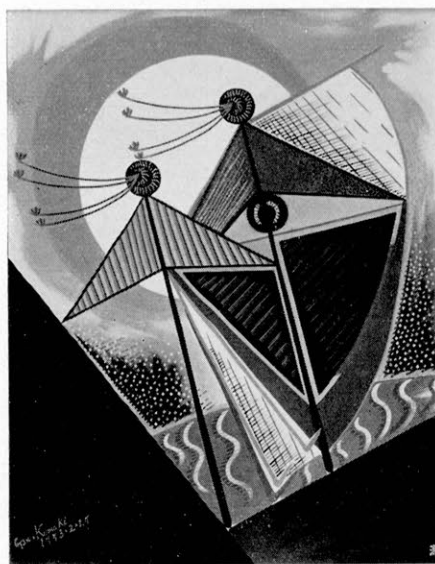
71 三の酉 (春陽会) 木村荘八



68 手 (モダンアート展) 村井正誠

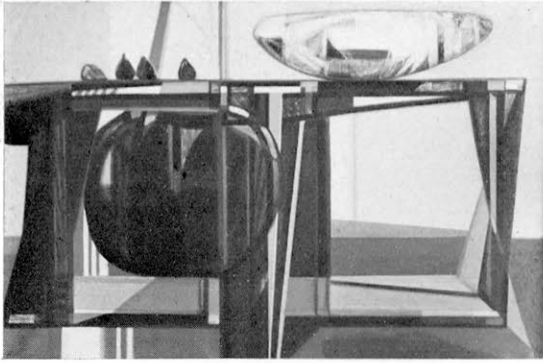


72 静物・リンゴ (春陽会) 加山四郎

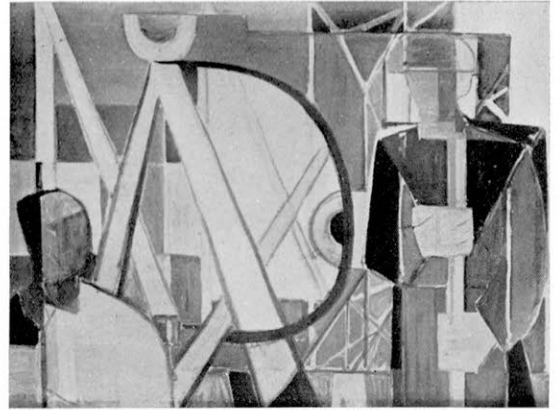


69 花・鼻・羽根・ナルチスス (美術文化展) 小牧源太郎

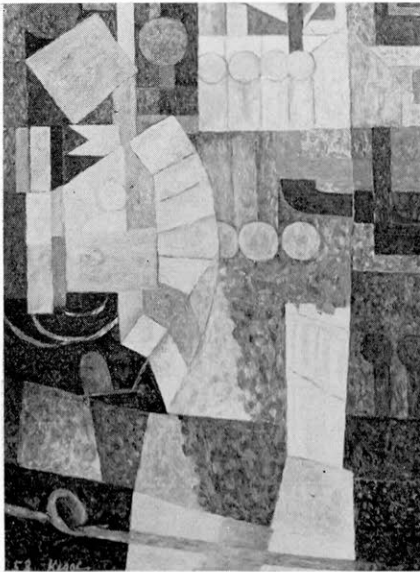
西洋画



76 桌の静物 (国画会) 宇治山哲平



73 造船所 A (春陽会) 南大路 一



77 製油所と船 (国画会) 川口軌外



74 彫刻家 (春陽会) 三雲祥之助



78 夏の湖 (国画会) 宮坂 勝



75 静物 A (春陽会) 小川マリ子



82 三角くじを吹べる男達 (日本国際美術展) 玉置正敏



79 婦人像 (光風会) 森田元子



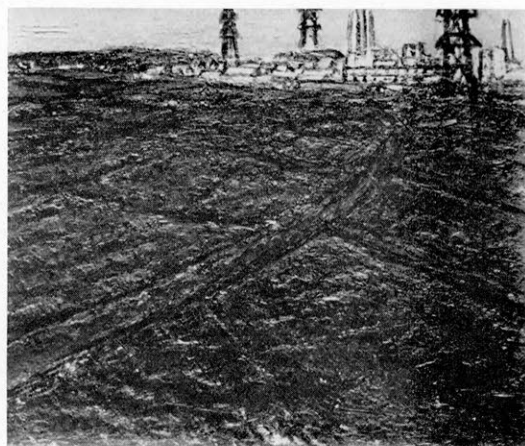
83 厨房 A (日本国際美術展) 中谷 泰



80 砂 丘 (清光会) 熊谷守一



84 森 (日本国際美術展) 原 勝郎



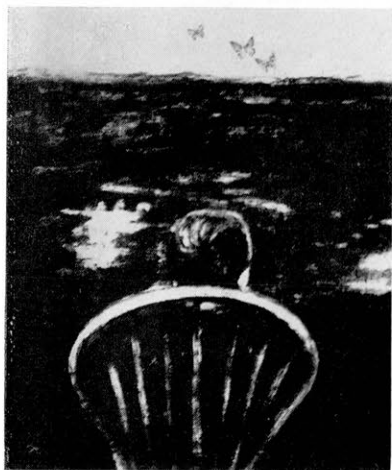
81 畑の中の六桜社 (女流展) 野村千春



89 天地鍾秀 (日本国際美術展) 梅原龍三郎



90 再会 (二科会) 寺田政明



91 山脈 (二科会) 鷹山宇一



85 農 (日本国際美術展) 井上三綱



86 水から上つた馬 (日本国際美術展) 坂本繁二郎



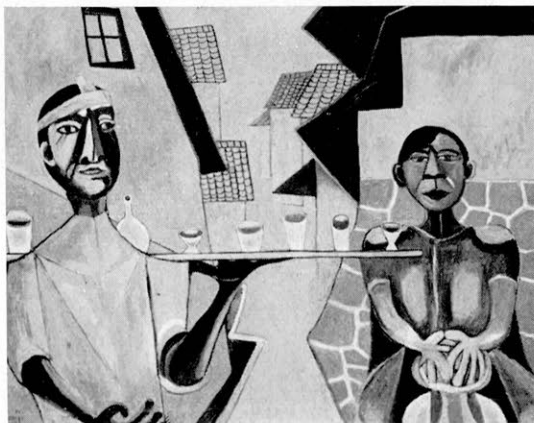
87 高原 (日本国際美術展) 小林和作



88 高原風景 (日本国際美術展) 里見勝蔵



95 宮島風景 (1) (二科会) 鈴木信太郎



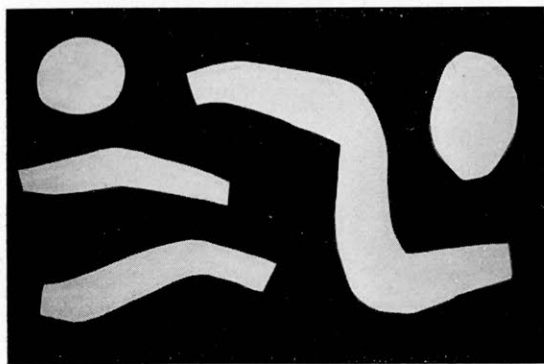
92 陶工 (二科会) 北川民次



96 母と子 (二科会) 東郷青児



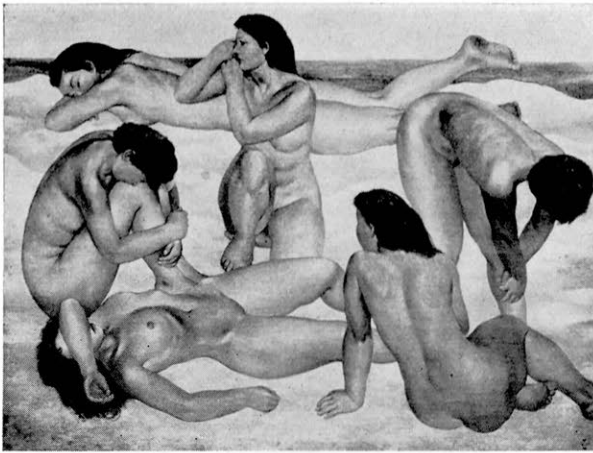
93 谷中の森 (二科会) 野間仁根



97 かたち (二科会) 山口長男



94 変身 (二科会) 岡本太郎



101 海 (行動美術展) 向井潤吉



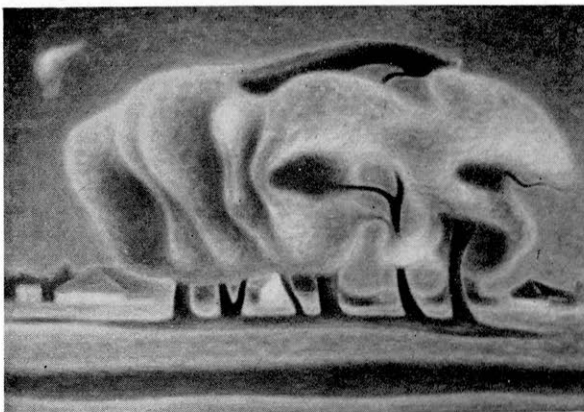
98 白い林 (行動美術展) 田辺三重松



102 アンサンブル (立軌会展) 有岡一郎



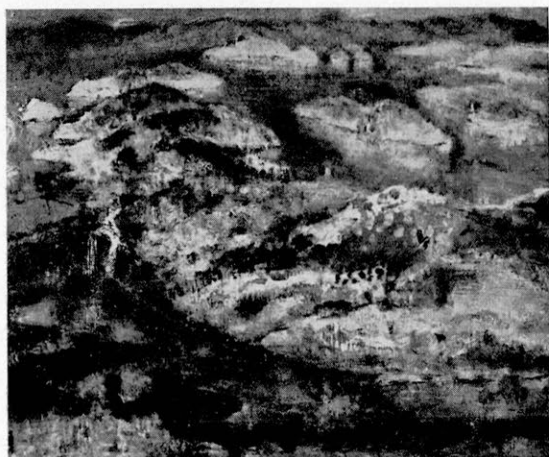
99 基地のキリスト (行動美術展) 田中忠雄



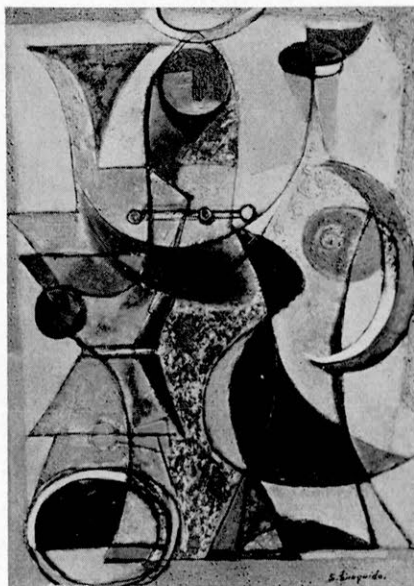
103 新樹 (立軌会展) 牛島憲之



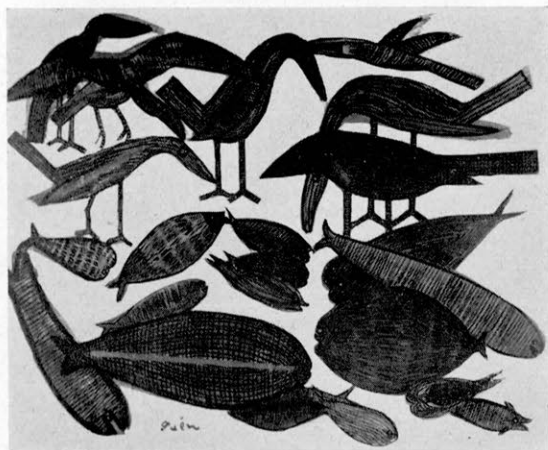
100 暮れ近き漁港 (行動美術展) 古家新



107 春の水島海峡 (国立公園展) 須田國太郎



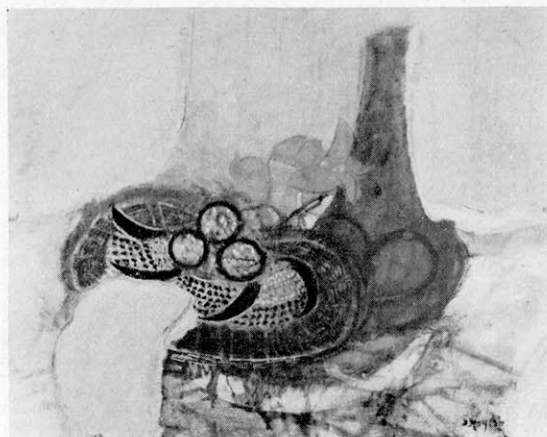
104 はにわ群像 (立軌会展) 榎戸庄衛



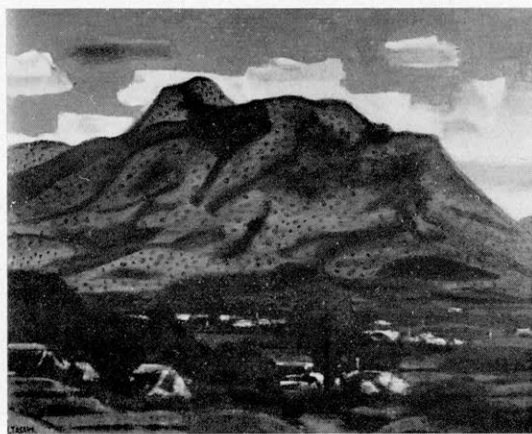
108 鳥と魚 (新制作展) 猪熊弦一郎



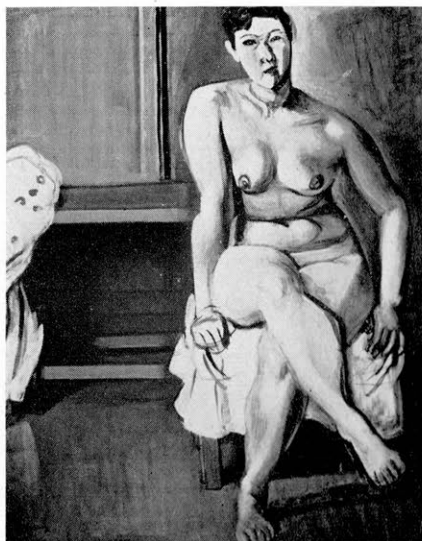
105 十和田湖 (国立公園展) 林 武



109 静物 (新制作展) 三岸節子



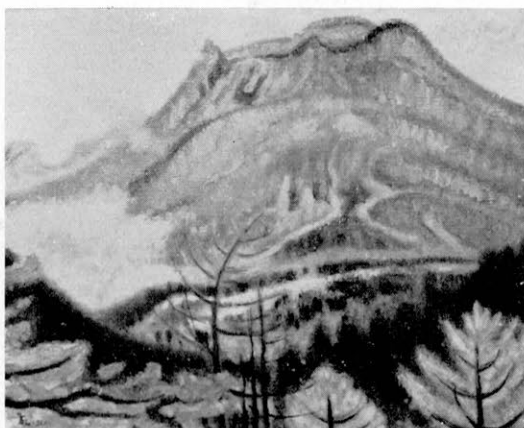
106 久住山(阿蘇) (国立公園展) 田崎廣助



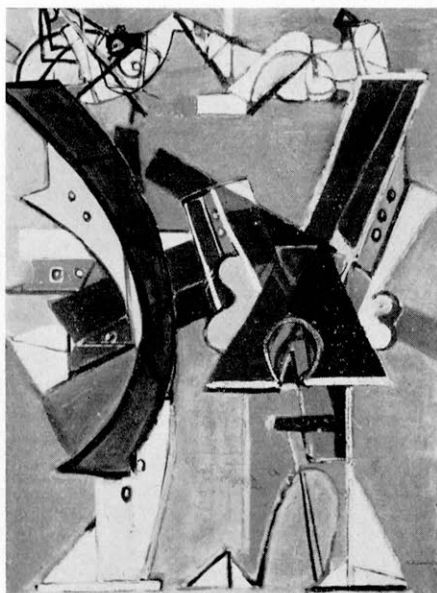
113 腰かけのポーズ (一水会展) 安井曾太郎



110 働く人 (新制作展) 小磯良平



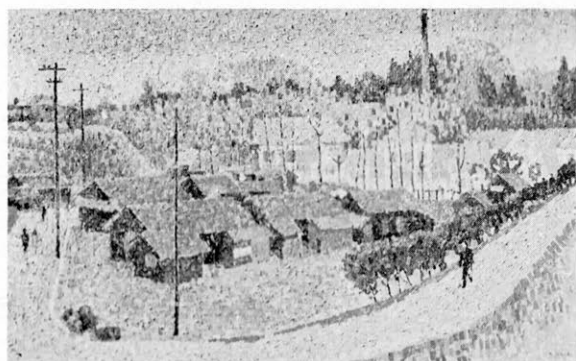
114 紅澗山 (一水会展) 小山敬三



111 レールと人 (新制作展) 川端 實



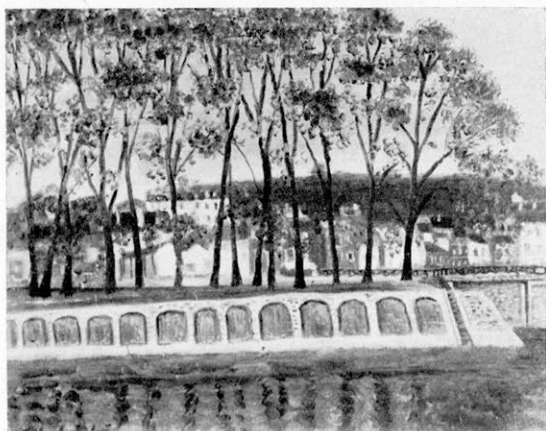
115 バレリーナ (一水会展) 木下孝則



112 郊外壺日 (一水会展) 高田 誠



119 月と車 (独立展) 高橋忠彌



116 河 (独立展) 高畠達四郎



120 ハイデルベルグ丘陵 (独立展) 菅野圭哉



117 馬込風景 (一水会展) 仲田好江



121 雲仙国立公園 (独立展) 野口彌太郎



118 畑 (独立展) 鳥海青兒



125 エデンの午後 (自由美術展) 井上長三郎



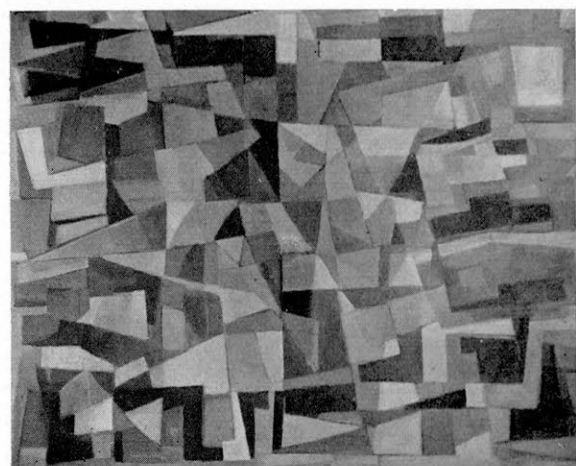
122 立 雲 (独立展) 児島善三郎



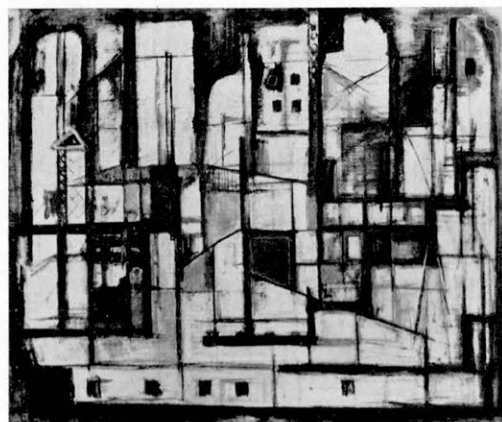
126 坂 道 (自由美術展) 寺田政明



123 マナヅル (独立展) 須田國太郎



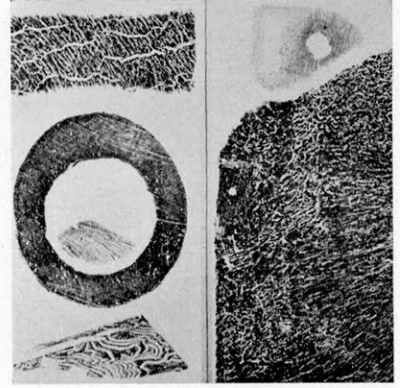
127 出 光 (自由美術展) 末松正樹



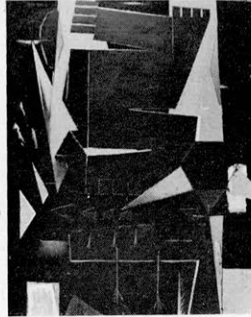
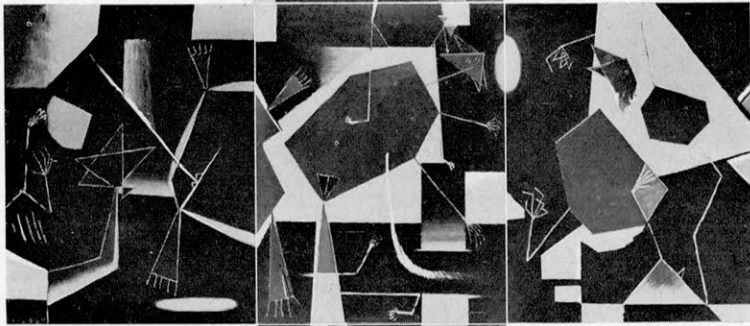
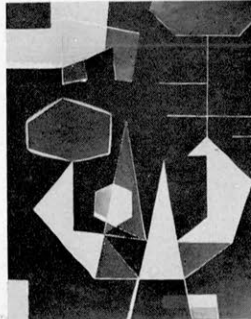
124 港の夜景 (自由美術展) 難波田龍起



131 うづくまる女 (自由美術展) 森 芳雄



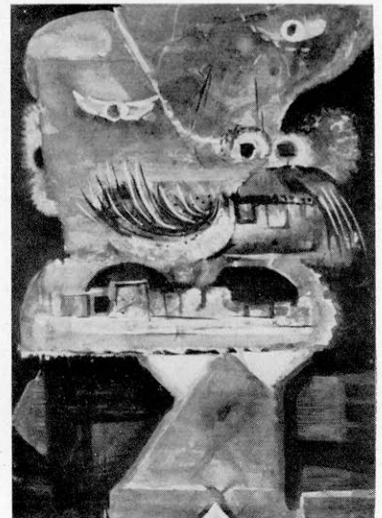
128 自 然 (自由美術展) 長谷川三郎



130 人間気化 (自由美術展) 鶴岡政男



132 鳥をとらえる女 (自由美術展) 糸園和三郎



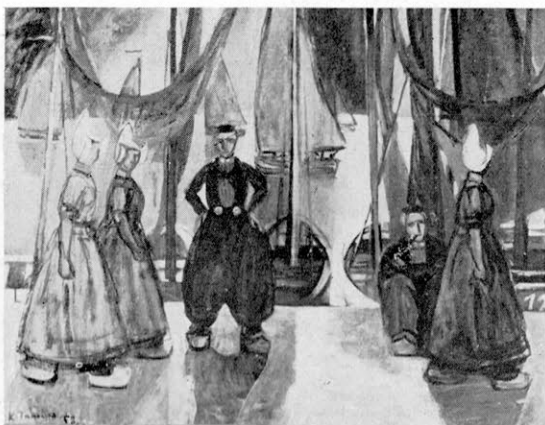
129 いやなやつ (自由美術展) 小山田二郎



136 モレの道 (二紀会展) 宮本三郎



133 山の晩秋 (二紀会展) 栗原 信



137 港 (二紀会展) 田村孝之介



134 室内 (二紀会展) 佐野繁次郎



138 紀伊・勝浦港 (二紀会展) 錦井克之



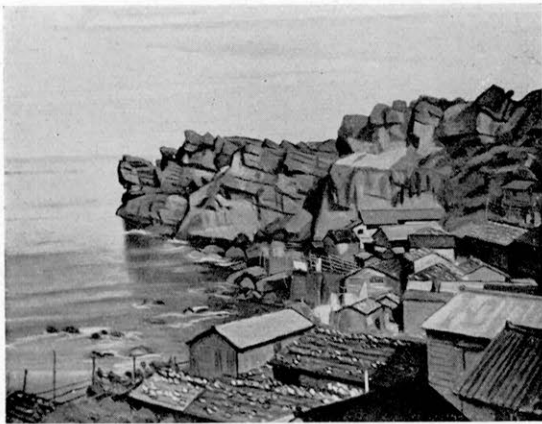
135 夕陽の山 (二紀会展) 中川紀元



142 湖 畔 (日 展) 川島理一郎



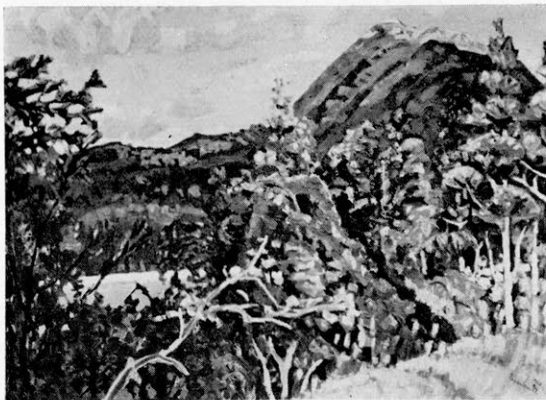
139 バ ラ (二紀会展) 佐伯米子



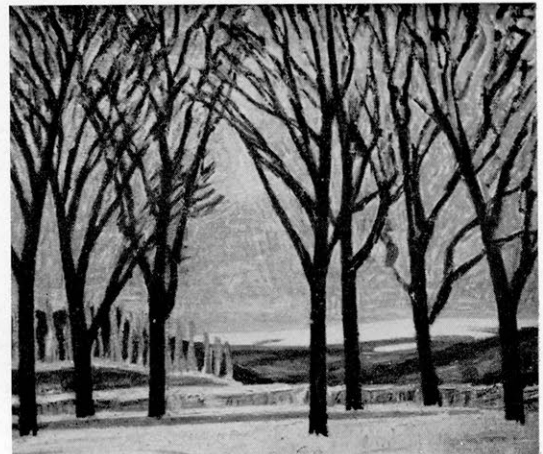
143 佐渡海村 (日 展) 石井柏亭



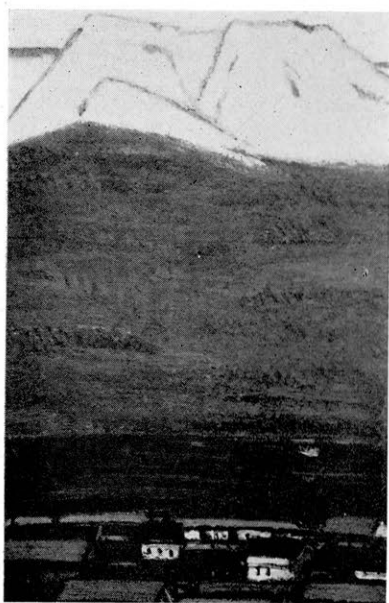
140 蕨原旧道 (日 展) 木下義謙



144 阿寒湖の秋 (日 展) 中村善策



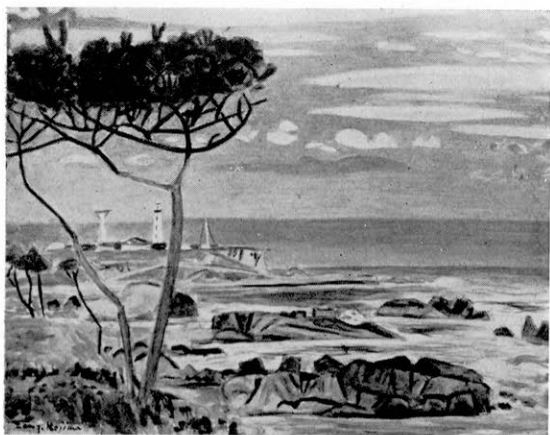
141 鳥ぐもり (日 展) 小糸源太郎



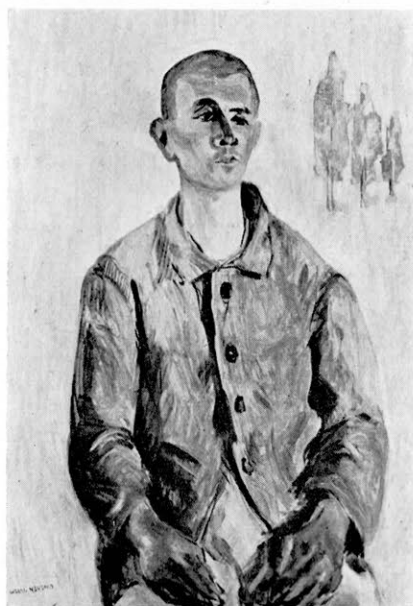
147 桜島雪 (日展) 田村一男



145 アトリエの裸婦 (日展) 寺内萬次郎



148 犬吠岬 (個展) 児島善三郎



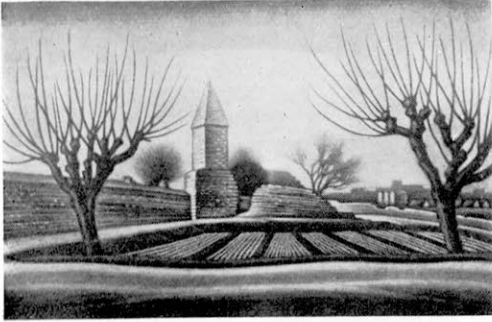
146 植木屋T君 (日展) 中野和高



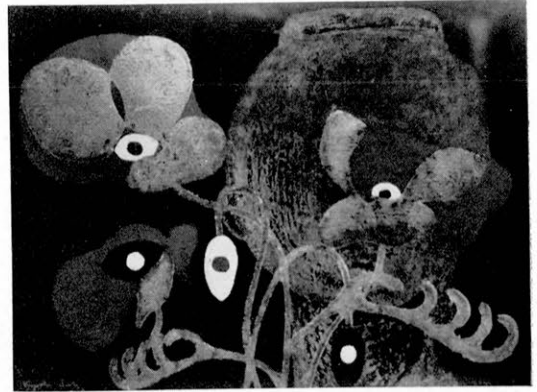
149 立像 (個展) 竹谷富士雄



150 板経韻「歡喜の曲」右（日本国際美術展）棟方志功



153 (ローマンの石燈)「フレジュルス風景」(春陽会) 長谷川 潔



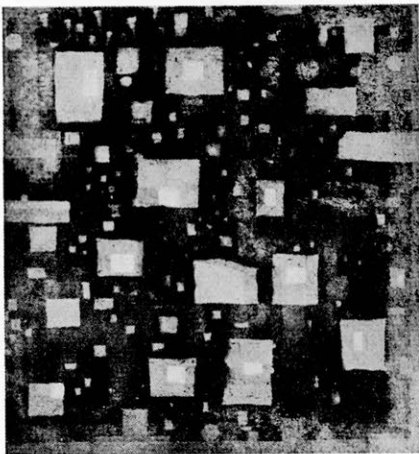
151 墨と埴輪 (個展) 斎藤 清



154 抒 情 (日本国際美術展) 恩地孝四郎



152 母 (個展) 珠 九



155 時間の迷路 (春陽会展) 駒井哲郎



159 裸体美人 (四人の画家展) 萬鐵五郎



156 おばあさん (新制作展特陳) 内田 巖



160 朝 顔 (四人の画家展) 土田 麥穂



157 雨の夕 (遺作展) 山脇信徳



161 月夜風景 (四人の画家展) 小茂田青樹



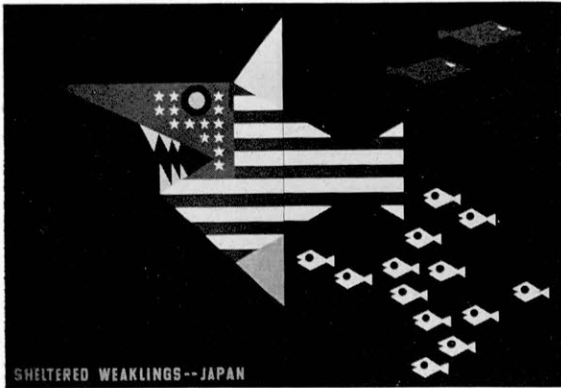
158 優駿出場 (遺作展) 中西利雄



164 GRAPHIK 表紙 大智 浩



162 広告デザイン (朝日広告賞) 増田 謙二



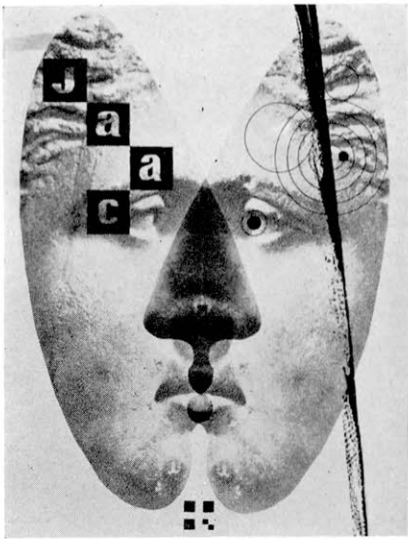
165 時局ポスター (日宣美展) 河野 鷹思



166 ポスター 大智 浩



163 石鹸包装箱デザイン 龜倉雄策



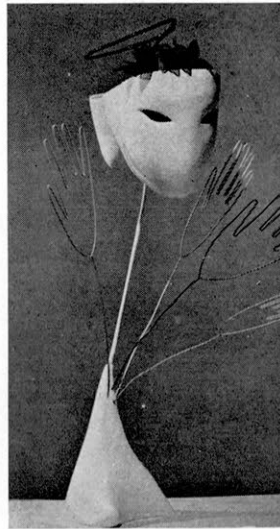
170 グラフィックデザイン 伊藤 潔治



167 ポスター 展会場(於国立近代美術館)



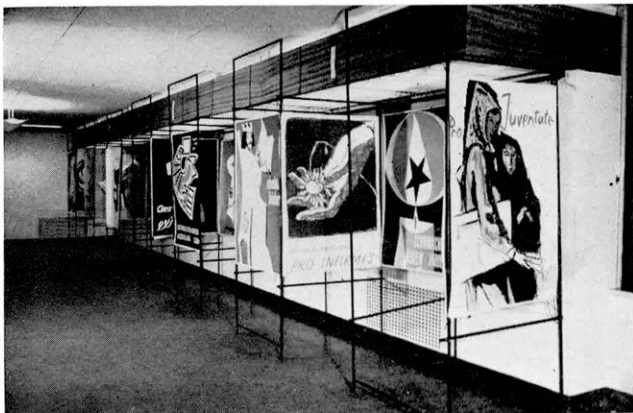
172 広告デザイン 宮永 岳彦



171 婦人帽のためのカウンターデイスプレーイ 村井 次郎



168 ポスター 大橋 正



173 ポスター 展会場(於国立近代美術館)



169 ポスター (日宣美展) 宮永 岳彦



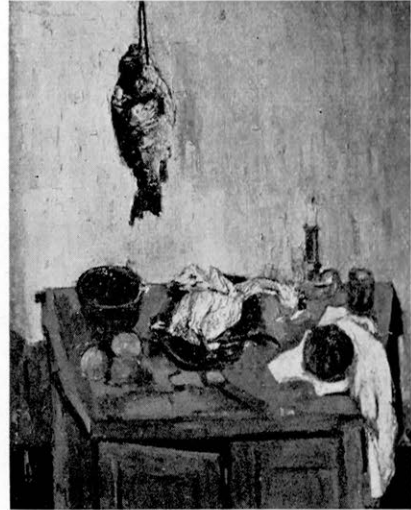
177 灰色のバツの鳥と女 (日本国際美術展) レジエ



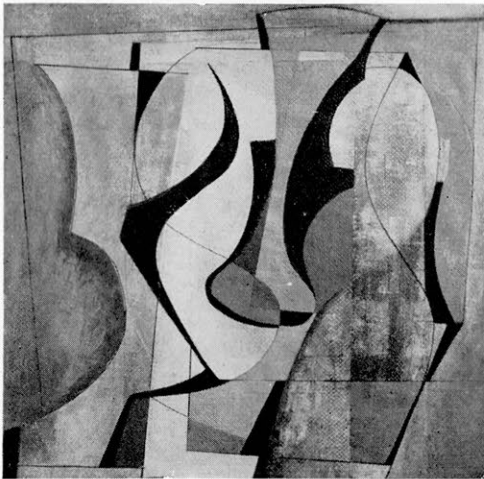
174 ヴェロニカ (ルオー展) ルオー



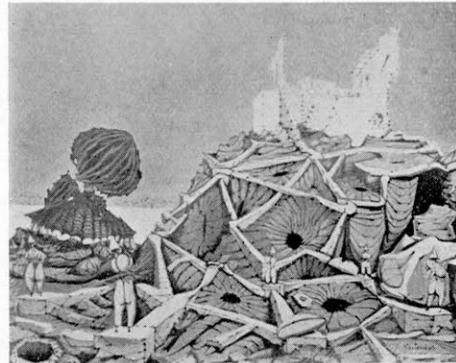
178 青いコルサージュの女 (日本国際美術展) ピカソ



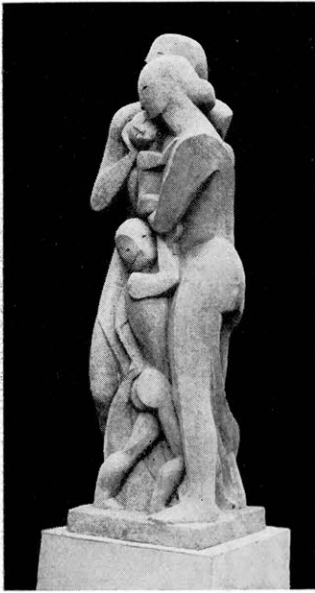
175 黄色の台所 (日本国際美術展) ロルジュ



179 サファイアー (日本国際美術展) ニコルソン



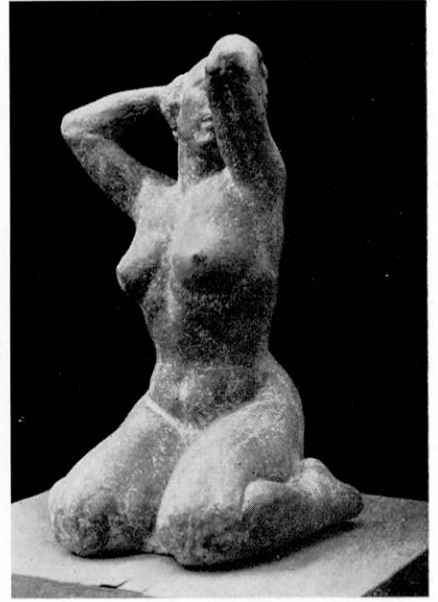
176 ラコストの眺め (クートー展) クートー



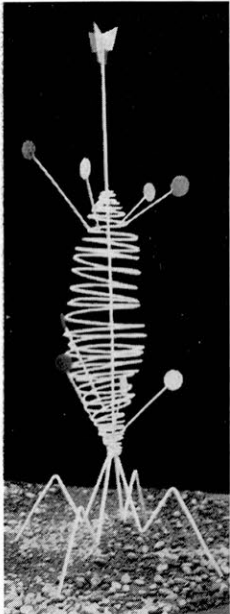
185 子を守る母たち(新制作展)山内 壮夫



183 裸の若者 (新制作展) 佐藤 忠良



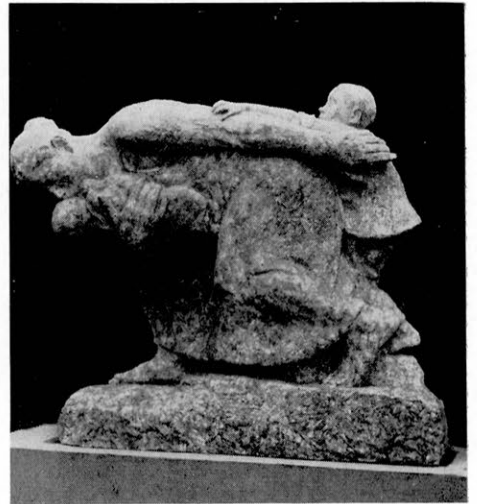
180 テラオクタ裸 (新制作展) 岡本庄三



186 作品4(モダンアート展)
植木 茂



184 カンナ (新制作展) 舟越 保武



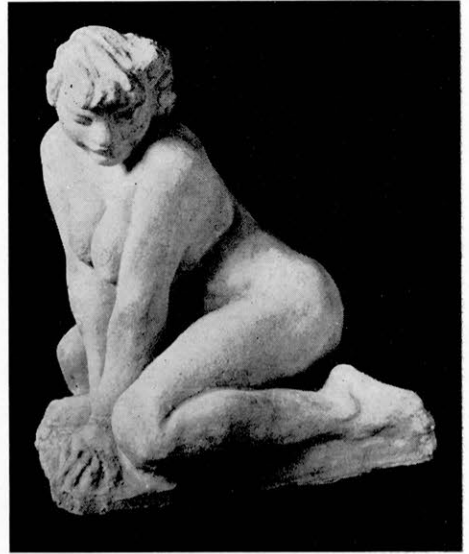
181 母と子ら (新制作展) 本郷 新



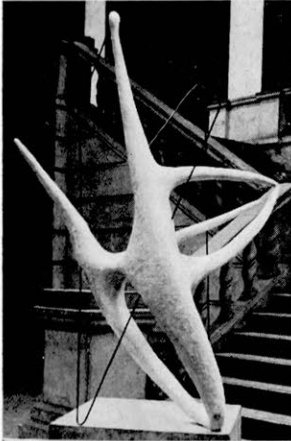
182 自由(其ノ二) (二科展) 笠置季男



190 首 (日展) 朝倉響子



187 座像 (新樹会展) 木内克



191 海の形儀 (行動美術展) 中島快彦



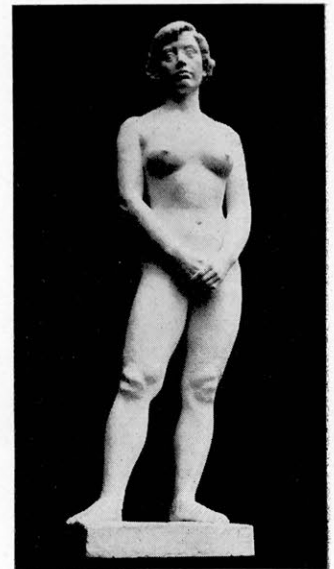
188 女性像 (日展) 加藤顕清



193 裸女 (日展) 國方林三



192 裸婦立像 (日展) 桜井祐一



189 若い女 (日展) 大須賀力



200 武蔵野(日展)木島正夫



197 F子の裸像(日展)朝倉文夫



194 裸婦(アンデパンタン展)清水多嘉示



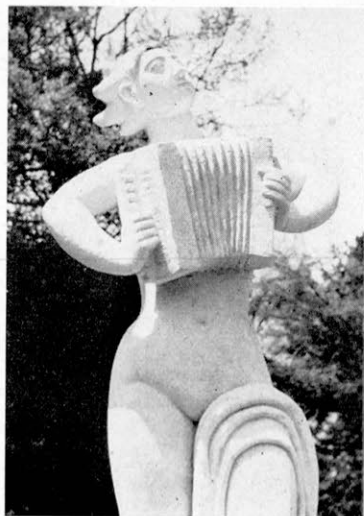
198 頭像(日展)山本豊市



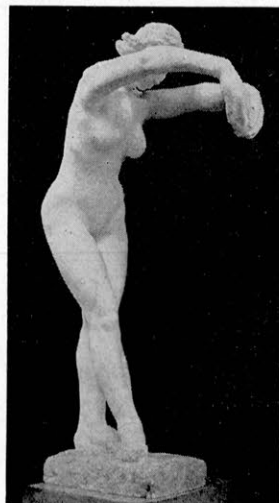
195 十和田開発功労者記念像 高村光太郎



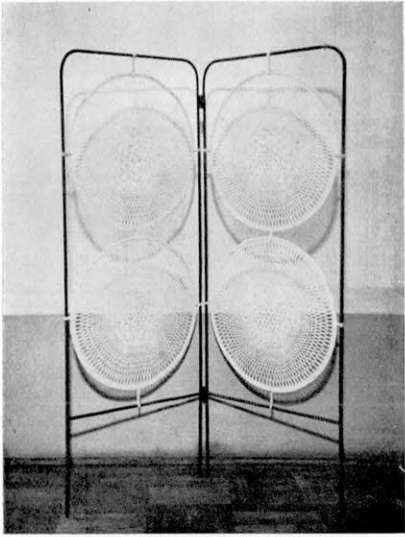
201 うしお(二紀会展)松村外次郎



199 春風(野外彫刻展)山本豊市



196 浪(個展)河内山賢祐



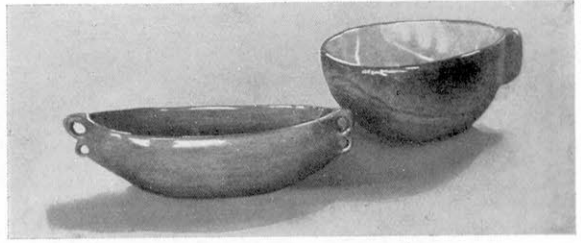
206 屏 風 (創作工藝展) 芳武 茂介



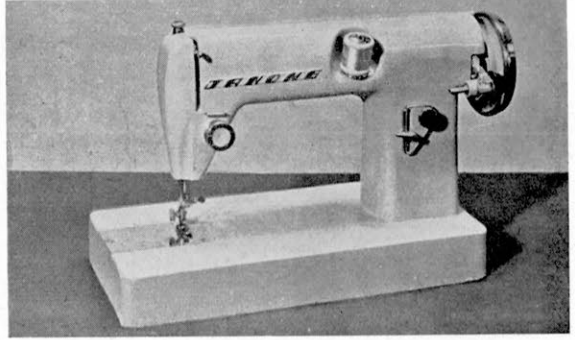
207 染付枝牡丹 (西会展) 富本 憲吉



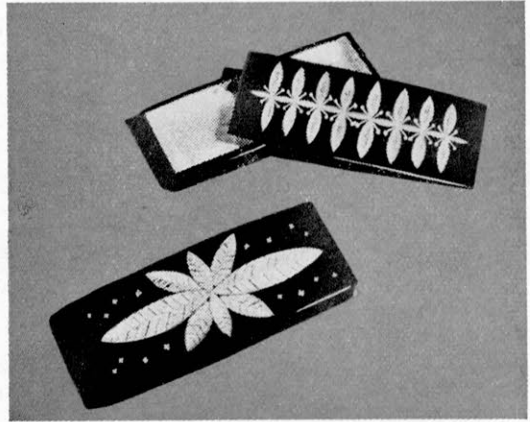
208 「森」 漆屏風 (日 展) 高橋 節郎



202 鉢 と 皿 (生活工藝展) 服部 泰三



203 ミシンデザイン (新日本工業デザイン展) 小 杉 二 郎



204 舟型小箱 (全国漆器展) 大西 忠夫



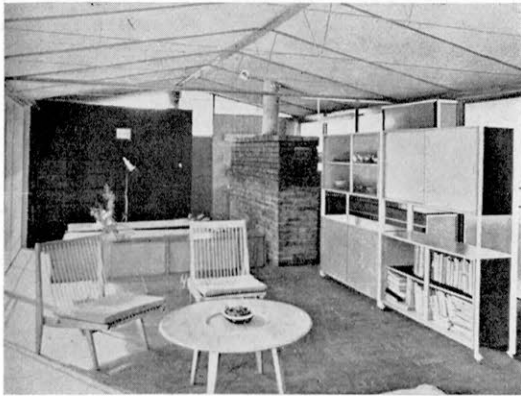
205 家 具 坂倉 準三



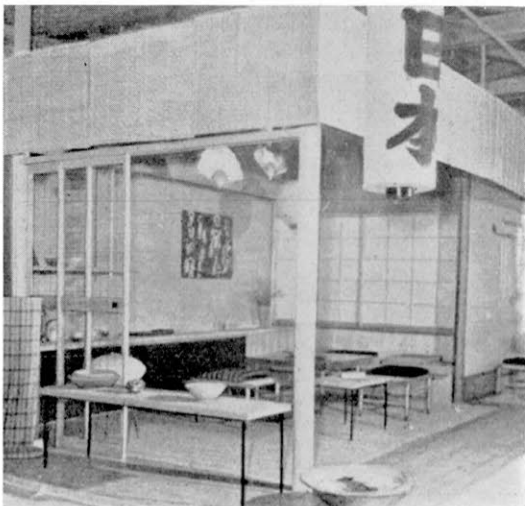
212 盆 (日展) 松田権六



213 彩磁桔梗文水差し (日展) 板谷波山



214 椅子・机 渡辺力



215 モデルルーム (カナダ国際見本市出品)



209 黒水仙 (日展) 岩田藤七



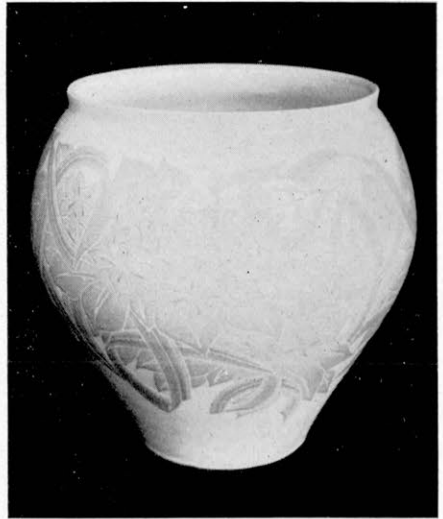
210 屏風古木の株蒔絵 (日展) 山崎立山



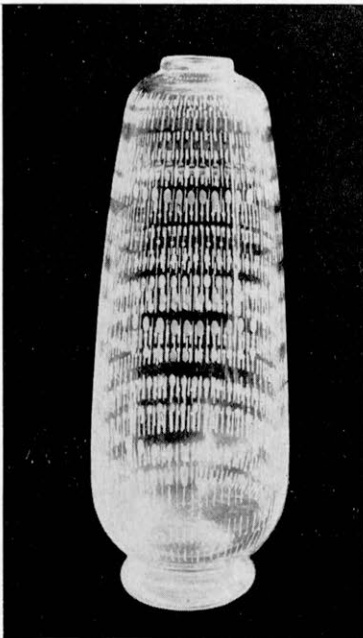
211 三曲衝立 (日展) 山崎覺太郎



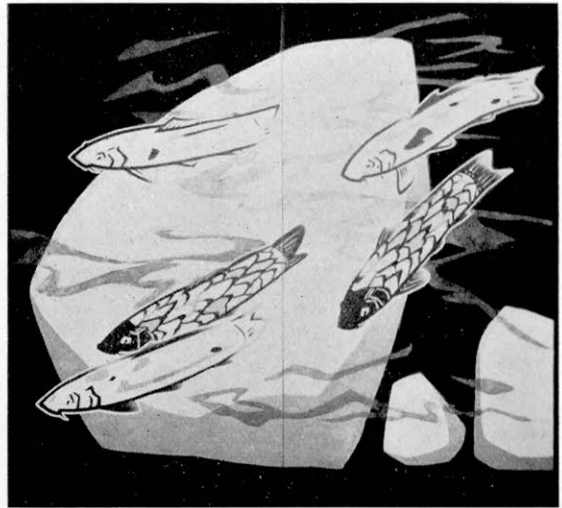
219 独楽形花籃 (日展) 田辺竹雲斎



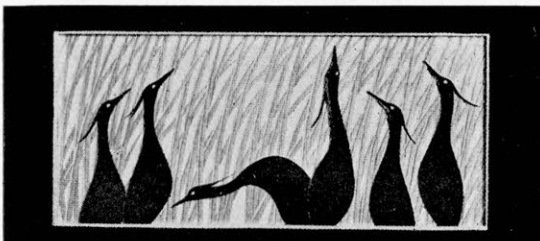
216 紫陽花磁製花瓶 (日展) 宮之原 謙



220 クリスタル花瓶 (日展) 吉田 丈夫



217 染織蠶染鯉屏風 (日展) 岸田宗三郎



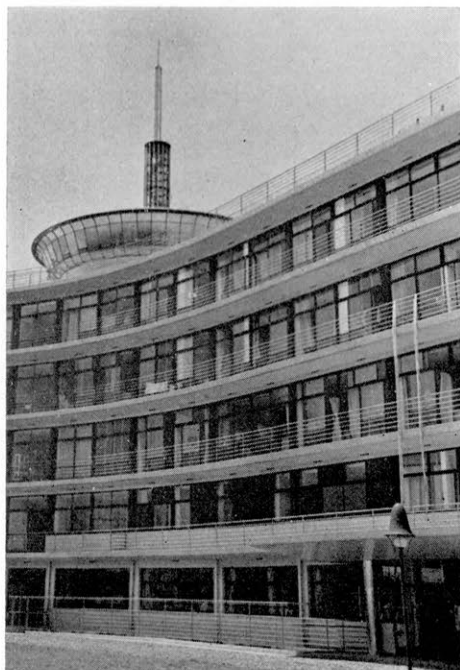
221 響 (日展) 横山一夢



218 鈎銅流蠟文花瓶 (日展) 杉田 禾堂



224 米国外使館職員アパート レイモンド事務所



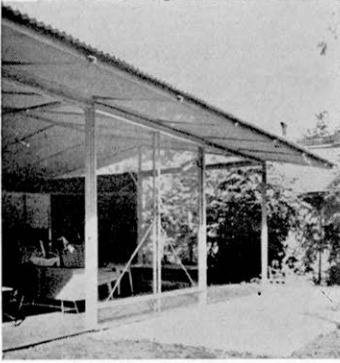
222 厚生年金病院 山田守建築事務所



225 丸善ビル 清水建設KK



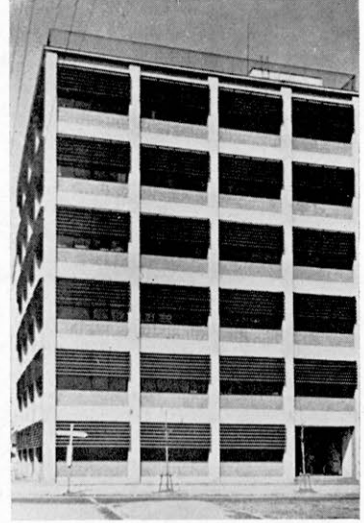
223 法政大学大学院 大江宏設計事務所



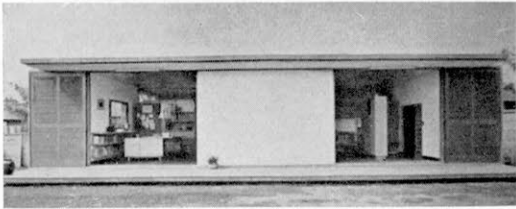
234 鉄骨構造に依る小住宅
広瀬謙二建築技術研究所



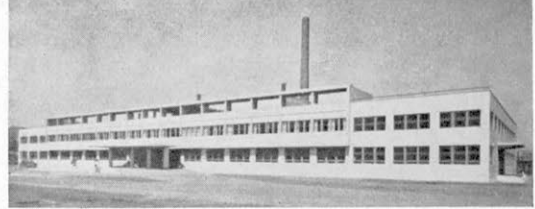
230 関東通信病院看護婦宿舍
日本電信電話公社建築部



226 東京フィルムビル レイモンド事務所



231 宮城教授の家 清家清・渡辺力設計



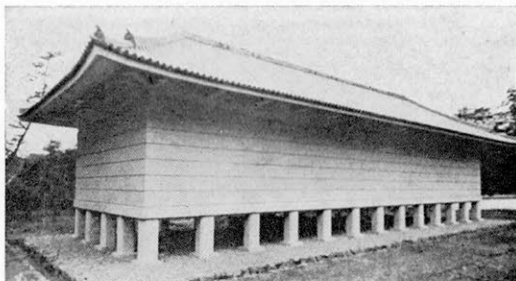
227 富士製鉄株式会社 久米建築事務所



232 郵政省龜田アパート 郵政省大臣官房建築部



228 K銀行澁瀬川独身寮 中山克巳事務所



233 正倉院 宮内庁管理部



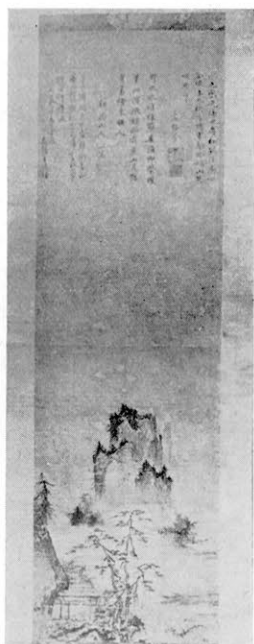
229 東野英治郎邸 平松義彦設計



240 山水圖 雪舟筆



239 後鳥羽天皇像 伝信實筆



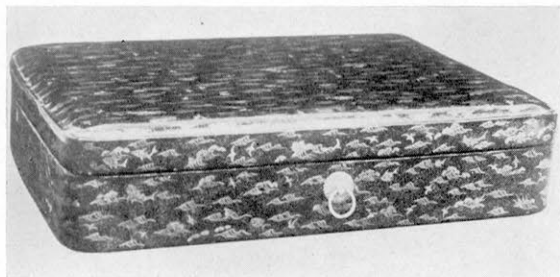
235 山水圖 伝周文



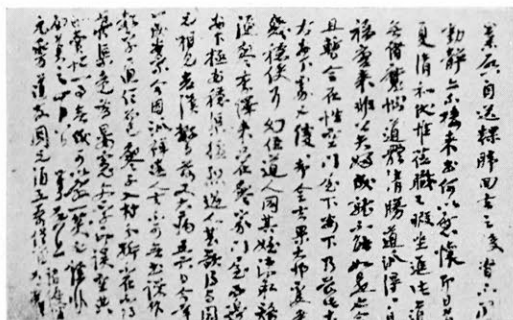
236 粉河寺縁起



241 釈迦如來坐像 蟹滿寺



237 海賦詩絵袈裟箱



238 照野懷紙



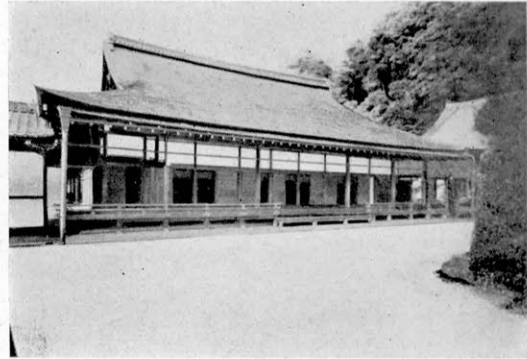
246 黄山八勝圖 石濤筆



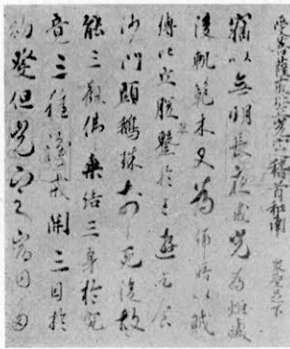
242 大浦天主堂



247 瀟湘八景圖 祥啓筆



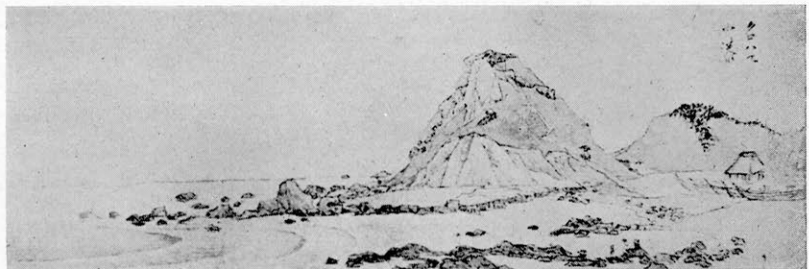
243 南禪寺方丈



248 嵯峨天皇宸翰



244 樂燒黑茶碗 長治郎



245 四州真景圖 嶽山筆

本

欄

昭和二八年美術界概観

現代美術

日本画

二八年一月三日の東京新聞で長谷川如是閑が日本文化の現況を論じたが、とくに洋画と区別がつかないくらいになつた日本画について、これは一種のパンパンの現象であると断じた。この現象必ずしも悲観すべきものでなく、案外これを通して新しい方向が開けるものであるが、それにはこの現象の克服がなければならぬという見方である。日本画家は日本画の自主的な仕事をもつて世に問うことが要望された。

このような反省は、画壇の一部にはすでに動いており、本年度の諸展観を通じて片影をあらわした観があるが、戦後の一辺倒的洋風化の傾向は依然としてつよく、ことに中堅以下の世代ではその傾きが目立つた。いわゆるパンパンの現象はかなり落ちついては来たものの、その根を払拭するほどには到つていないという情況であり、そこには海外画壇や洋画壇への追隨や妥協がおこり、他方にはこれに対するやや形式的な反撥が生れたといつていい。優秀な仕事は、何らかの意味で、この間を縫つて現われたが、そういう対立とは別に二十代の若い作家が各会に登場してきたことは注目される。

展覧会を順に追うてみれば、一月には昨年外遊した堂本印象の滞欧スケッチ展が行われてベテランの洋風化の試みを示し、二月には美人画の寺島紫明が日本的観照のこまやかな密度を示した。三月の雪月花展、未更会は老大家と中堅作家の鑑賞画の水準をみせたものとして興味深く、四月の京都作家をあつめた成和会とともに注目をひいた。成和会に出た徳岡神泉の「柳」は本年度中の秀作に数えられよう。

昭和二八年美術界概観(現代美術)

春の美術院小品展は老大家の出品をやめて、もつぱら中堅新人の舞台となつたが、特別の作品はなく、同じく春の青龍社では川端龍子の「花鳥十二月月」のほか、新人山口吉旺の「幻聴」が目新しい行き方を示した。五月には国立近代美術館で「日本画の流れ」展が行われ、古典と現代の連関を、大和絵、漢画、琳派、南画、円山四条、風俗画の六つの流れにそつて整理したことは、日本画鑑賞のめどを立てる試みとして好評であつた。

六月から夏にかけての展観としては、安田靫彦「淡妝」などの出た清流会があり、つづいては印象派的描法を消化した近藤浩一路の水墨画の全貌をつつす三〇年展があり、日本画壇の野性派ともいふべき新興美術院展、三越の彩光会などが行われた。ことに八月の注視的であつた名作下絵展、鉄斎名作展はいずれも回顧的なものであるが、現代的な観点からも大きな意義があり、日本画の自主的な性格を考える上にも興味ある展観だつたといえる。

九月の院展では、やはり元老たちの新古典的傾向と中堅以下の感覺的傾向の分離が話題となつたが、いずれにせよ旧来の院展式が少しずつ変化しつつあることが看取された。その中で安田靫彦「木花開耶姫」、前田青邨「耳庵老像」、奥村土牛「聖牛」、小倉遊亀「O夫人像」、中村貞以「蒼炎」、新井勝利「女英三蔵」、太田聰雨「青年」、その他、岩橋英遠、酒井亜人、島田訥郎、前田暉、村田瑞枝、松田文字などが多く取上げられた。青龍社は龍子風で一貫しているが、今日ではやや古びたことが指摘され、作品としては川端龍子「風神雷神」、加納三楽「倉敷風景」のほか新人では堀口幸子、横山操などが注目された。

洋画化の先頭を切る新制作の日本画は、日本画材料を無視した行き方が一部から批難され、他の一部からはその意欲が賞されたが、旧来の中堅作家のほか有力な新人が出てきたのは良かった。作品では山本丘人「断層」と上村松篁「朝がきわだつて秀れ、新人としては加山又造、石本正が目立つた。このほか広田多津、奥村厚一、高橋周榮、吉岡堅二の創立会員、堀文子、稗田一穂、岩崎鐸、信太金昌、朝倉撰などの新会員も努力作を示している。

最終行事の日展は、とくに日本画の部門が有力で、ことに京都の作家を多数あつめたところに特色があるが、傾向としては一本でない。しかし中堅以下はだいたい近代感覺主義の穏和な適用に終始していたとみて宜しかろう。問題作の筆頭は屋根瓦だけをかけた福田平八郎「雨」、つづいて金島桂華「冬田」、東山魁夷「たにま」、若いところでは堂本尚郎「街」など。その他では堂本印象、宇田荻郎、山口蓬春、伊東深水、山口華揚らが話題となり、杉山寧、加藤栄三、橋本明治らの代表的中堅作家も目立つた。特選の若い作家にもかなりの出来を示したものがあつり、他会に比して量的に圧倒するだけの強味をもつていたことが特徴である。

以上が本年度展観の概略であるが、このほかに梅原竜三郎、中川一政などは日本画的表現の清新なものを示しているし、和田三造、山喜多二郎なども水墨画に洋風感覺をすなおに盛りこむ行き方を示している。日本画が油彩化する一方、洋画の中に伝統的感覚を入れようとする傾きもみえ、この交錯は益々激しくなり、西洋絵画との対決が鋭くなればなるほどさらにこの交流、反省は根本的になつていく気配があるようである。

洋画

戦後、美術界は年を追つて活況を呈してきている。展覧会も年々増える一方であつたが、今年あたりはそろそろ飽和状態に近いありさまであつた。東京都美術館をはじめ、都心に散在する画廊はデパート、画商の会場を含めて休む間もなく展覧をつづけ、地方においても展覧会場がふえてゆく傾向であつた。しかも洋画はその八割をこえるという盛況である。団体展では陳列点数の増加、部門の新設拡充が行われたが、押しつめられた会場に雑然と列べられたその扱い方には経営のための興業化が明らかであつた。その上創立当初のような主張、絵画運動をもたなくなつた現在、団体の革新を望む声は強い。昨年に引きつづき本年も美術団体解消、再編、整理説が幾度かとなえられたが、その存在理由が画壇の政治経済に結びついている今日、問題はなかなか困難なようで、新しい動きは見られなかつた。むしろ、個展やグループ展に関心が深まつているところから、これら

が充実した動きをみせてゆく事によつて団体公募展に何らかの刺戟を与え、機会を与えることにもなるうといわれている。

国際的な展覧会としては五月の毎日新聞社主催の第二回日本国際美術展が参加一〇ヶ国の作品を展示して注目された。一昨年以來海外美術との交流によつて視野が拡がるにつれ、今年は日本の現代絵画に海外の作家と対等に対決しようという意欲が見えて来たことが指摘され、大きな収穫とされている。と同時に日本美術の近代化、クリマと近代性の問題が盛んに論議されたのは注目される。過去においてもとりあげられた問題であつたが、世界画壇の一環として、モダン・アートの課題として発言されているところに本年の意義があろう。展観作品では一般に抽象的傾向が一そり強くなつて来ているが、もはや単に画面の形式的改装ではすまされなくなつたのも、広く鑑賞層を含めての向上を示すもので国際交流展の功績といえよう。一月には神奈川県立近代美術館でクートー展が、一〇月にはルオー展が東京国立博物館表慶館で開かれ、いずれも油絵、版画等一〇〇点をこえる作品はそれぞれ深い感銘を与えた。

海外展覧会への出品は、インド、ニューデリーの全インド工藝協会から同会主催の第二回国際現代美術展に出品依頼があり、脇田和、山口薫、北川民次、阿部展也、村井正誠、堂本印象、吉岡堅二など二〇名の作品を送り、またサンパウロの第二回国際ビエンナーレ展には牛島憲之、岡本太郎、川口軌外、鶴岡政男、山口薫、水越松南の六名のほか、北岡文雄、平塚運一、駒井哲郎、棟方志功等二〇数名の版画家が出品した。なお、西洋美術の蒐集として著名な旧松方コレクションは戦後フランス政府の管理下にあつたが、改めて日本に寄贈される意向が伝えられた。政府は日仏文化協定を機会に返還を希望していたが、フランス政府は、フランス文化の紹介として日本政府の手で保存、展観の設備を設けること、ロダンの作品の複製をのこすことなど二三の条件つきで、好意ある寄贈の意志を伝えて来た。そこで日本側も予算を計上、フランス美術館設置準備協議会を設け、受入れ準備をすすめており、フランス国会の承認を得れば、招来されるまでに話が進んでいる。

今年の展覧会としてはまず、「近代絵画の回顧と展望」から「近代洋画の歩み」四人の画家展、「抽象と幻想展」と活潑な動きを示した国立近代美術館の展覧が第一にあげられる。近代の線に沿った展示方針、その啓蒙運動は好評で、予想外の鑑賞者を常時吸引した。神奈川県立近代美術館（クーター展、日本風景画展、安井、三宅展等）、ブリッヂストーン美術館（旧松方展等）もそれぞれ有意義な展覧を行った。

本年発表された中で好評だった作品には、林武「十和田湖」、児島善三郎「ダリヤ」、脇田和の子供と鳥の連作、小磯良平「働く人」、三岸節子の諸作、川端美「ルールと人」、安井曾太郎「裸婦」湯ヶ島風景、田崎広助「阿蘇」、中村琢二「婦人像」赤と黄色、小山敬三「紅浅間」、川口軌外の「群像」その他、宇治山哲平、土田文雄、香月泰男の作品、田村孝之介「マジョルカ島の女」、宮本三郎の滞欧作、井上長三郎「エデンの午後」、鶴岡政男「人間気化」、森芳雄「うづくまる女」、山口薫「森の幻影」、中川一政「福浦港」、三雲祥之助「彫刻家」、岡鹿之助「礼拝堂」、加山四郎「静物」、中谷泰、岡本太郎の諸作、小糸源太郎「鳥ぐもり」、鍋井克之、辻永、中野和高、川島理一郎、佐野繁次郎等があり、版画では北岡文雄、恩地孝四郎、駒井哲郎、長谷川潔などが話題にのぼった。この他に中西利雄遺作展、中村彝遺作展、四人の画家展（洋画では萬鐵五郎と中村彝）、内田巖、松本竣介、佐分真等の遺作回顧展が行われた。

彫刻

従来とかく一般藝術から取りのこされ勝ちな彫刻が、近年街頭や駅の内外などにしきりに飾られ、民衆に親近感を与えていることは、彫刻発展のためにも喜ぶべきことである。また二科会をはじめ、第二紀会、行動美術、自由美術等の彫刻部に前衛的な傾向の作品がしきりに陳列されて来ている。しかし、一般的に見て、絵画や建築などに比して低調であることは否めない。

次に各展覧会の彫刻を概観すると、春の読売新聞社のアンデパンダン展では、清水多嘉示の「裸婦」が擡んで居り、七月の新樹会では、清水のブ

ロンズの裸婦「A」「B」、山本豊市の乾漆による「エチエド」もすぐれていたが、木内克がロンズの「裸婦」や「座像」などに個性ある表現を示した。秋の院展には、平柳田中、中村直人が出品せず、会場には石井鶴三の影響が強く見られた。従来院展の彫刻には院自体の伝統的な精神主義があるが、近年これが近代彫刻の造型とマッチせず、佳作を見ないのは遺憾である。出品中、山本豊市の「女の首」、石井鶴三の「少女像」、桜井祐一の「裸婦立像」、菅原安男の「青年」などが注目された。二科展は、前衛的な傾向を年々強めて来ている。出品の中では笠置季男の巨大な石彫「自由」や野口嘉光の「作品F」、戸井啓の「旭」、平川正造の「対話」、日高正法の「作品」などが認められた。行動展では、建昌寛造が渡仏中で出品せず、わずかに林是の「座像」、中島快彦の「海の形骸」、今村輝久の「作品」などがあつた。

新制作展では、山内壮夫の「子を守る母たち」、本郷新の「母と子ら」、佐藤忠良の「裸の若者」「瘦せた女」、舟越保武の「カンナ」、早川巍一郎の「海」、永田大石の「首」などが佳作とされた。二紀会では、松村外次郎、中川為延、自由美術では峯孝などが一応注目された。日展では、写実的な傾向が支配的であるが、これらの中で、沢田晴廣の「愛子母」、清水多嘉示の「青年像」、大須賀力の「若い女」、朝倉文夫の「F子の裸像」、野々村一夫の「青年」、仏子泰夫の「裸像」、朝倉響子の「首」、畝村直久の「深山翁」、安田周三郎の「首」などが、類型的な作品の中では認められていい作品であつた。

なお、この年の個展では、土方久功や河内山賢祐が目立っていた。また展覧会外の作品としては、高村光太郎が十和田湖功労者顕彰委員会の委嘱を受けて製作した「裸像」が最も注目される。

この年三月、ロンドンで開かれたロンドン現代藝術協会主催の国際彫刻コンクールに、笠置季男、菊池一雄等七名が推薦されて出品した。これから、わが国の彫刻も海外に進出する機会が次第に訪れるであろうから、彫刻家の奮起が望まれる。かような意味でも、この年国立近代美術館が「近代彫塑展」を開催して、わが国の近代彫刻と西洋諸国の作品を併せて展覧したことは、わが彫刻界を啓発するところが大きかつた。

尚二月、日本彫刻家連盟が解散し、日本彫塑家クラブが生れた。

工 藝

近年、一般から工藝界に対する期待や要望、また工藝界自体の活動等が年々昂つて来る傾向にあり、その動きは注目されているが、概して生活と結びついた工藝という点に深い関心が寄せられてきている。表面的な形や図案だけに頼り、狭い伝統技術に郷愁をみせている日展作品やデパートのいわゆる高級美術品の類を非難し、生活につながる直截な美を求める声が強くなっている。と同時に一方では生活的なことは別として用にこだわらず工藝もまた純粹美術の一環として表現出来る限界にあり、単に花器や筥の形態を借りて美的表現を一途に追求すべきであると主張する作家も多い。今までも度々言われたことではあるが、むしろかえされながら、そしてその距離はますます大きくなつていく状態である。更にまた機械的な過程を経るものにも、温い血と、ヒュマニティを通わせて、色と形のよるこびを送ることの必要がくりかえされ、叫ばれている。

今年には外国との交流はいよいよ繁く、それにつれて外国の現代工藝、グッド・デザイン運動等の影響がますます大きくなり、ことにアメリカ等で東洋趣味、日本調が工藝運動に大きくとりいれられているのに鑑み、簡素な日本固有のものをふり返り再検討する風潮も高まつて来た。二月には西ドイツ、スツットガルトで開かれた国際工業デザイン展に作品写真を送り、六月にはアメリカのアスペンで開かれた第三回国際デザイン会議に剣持勇が代表として出席し、またカナダの国際貿易見本市、インドネシア貿易見本市、タイ国憲法発布記念博覧会にはモデル・ルームを送つてゐる。

また日本の民藝運動に一つの役割を果した英国の陶藝家バーナード・リーチは、昨年来欧米を巡遊して、日本民藝を紹介して来た浜田庄司、柳宗悦と合流して二月日本へ到着し、作品の発表や制作を行つてゐる。三月、銀座の松坂屋で開かれた朝日新聞社主催、文部省、通商産業省後援の第一回生活工藝展は工藝と庶民生活の結びつきを意図した公募展を行い、七〇〇余点の応募作品の中から二七〇点の入選作を陳列して反響を呼んだ。昨年に引続き第二回目の新日本工業デザイン賞は小杉二郎の蛇の目ミシン頭

部意匠に決定し、デザイン展示会是一般の関心をあつめ、この運動は社会的に認識されて非常な盛況であつた。恒例の日展では伝統的な技術が精緻な美しさを競つたが、熊谷吉郎「染色屏風湖畔の光」、大須賀喬「切嵌象嵌大皿」、染川鉄之助「手の水盤」、宮之原謙「紫陽花磁製花瓶」、山崎立山「屏風古木の株蒔絵」、板谷波山「彩磁桔梗文水差」、松田権六「漆器盆」、岩田藤七「黒水仙」、吉田丈夫「クリスタル花瓶」、芳武茂介「鉄の花さし」、山崎覚太郎「三曲衝立」、高橋節郎「森、漆屏風」等が評判になつた。この他創作工藝協会展、洋和会、段々社、新制作協会建築部、岩田藤七個展等の作品が注目された。

建 築

前年に引き続き、東京、大阪をはじめ多くの大建築が建てられたが、一般的に見て、前年ほどのすぐれた建築は出現しなかつた。官公署、病院、銀行、会社等のビルディングのほか、各都市の住宅としての集団建築が盛んで、これらに見るべきものがあつた。しかし、地価、建築材料、工費の騰貴のために、一般庶民の住宅問題は、行きづまり、国や都市の住宅政策も困難に逢着している。

次に本年度注目される建築を列記する。

○法政大学大学院

設計監理 大江安設計事務所

構造設計 田中正蔵

○東京フィルム・ビルデング

設計 レイモンド事務所

施工 竹中工務店

○丸善株式会社

設計 清水建設株式会社

施工 山田守建築事務所

○厚生年金病院

設計 山田守建築事務所

施工 鹿島建設株式会社

○国立近代美術館(改装)

設計監理 前川国男建築事務所

施工 清水建設株式会社

○穂田郵政アパート

設計監督 郵政省大臣官房建築部

施工 新建設工業株式会社

○関東逓信病院看護婦宿舎

設計、施工 日本電信電話公社建築部

監理 大林組

○帝國銀行独身寮

設計 久米建築設計事務所

担当 吉久秀夫

施工 池田建設株式会社

○帝國銀行独身寮

設計 久米建築設計事務所

担当 吉久秀夫

施工 池田建設株式会社

○K銀行逆瀬川独身寮

設計 中山克己事務所

施工 大成建設大阪支社

○アメリカ大使館々員アパート・ベリ
ーハウス 麻布今井町

指導 レーランド・キング
エトワード・コラン

設計 A・レイモンド設計事務所

事務所 アントニン・レイモン

担当 L・L・ラド
デイビッド・リーヴィ

施工 大林組

○横浜浦島ヶ丘共同住宅

設計 神奈川県住宅公社建設
所、久米建築設計事務所

施工 株式会社中野組

○公務員東郷台住宅

設計 建設省營繕局

施工 株式会社浅沼組

○速水邸 東京芝

設計 大熊喜英

施工 清家清 渡辺力

○宮城教授の家

設計 清家清 渡辺力

施工 工 菅建設株式会社

○Mさんのすまい 東京千駄ヶ谷

設計 杉山隆

施工 工 水沢工務店

○斎藤助教授の家

設計 清家清

施工 工 村上工務店

○伊勢正義アトリエ

設計 吉村順三

施工 工 佐藤秀工務店

○東野英治邸 東京・下高井戸

設計 平松義彦

施工 工 佐藤秀工務店

○鉄骨構造に依る小住宅

設計 広瀬謙二建築技術研究
所

構造 佐藤徳重

○大日本製糖工場

設計 新制作協会建築部

担当 建築総合研究所
山口文象

施工 工 大林組

○第一生命ビルディング 大阪駅前

設計 第一生命ビルディング
管理部

担当 竹中宏平 広瀬初夫

施工 工 竹中工務店

○松山体育館

設計 丹下健三計画研究室

構造 坪井善勝研究室

施工 工 大林組

○琉球政庁

設計 松田、平田設計事務所

古美術

昭和二八年における文化財保護委員会の古美術に対する活動は要約して、別項に掲げた三月及び一月に行われた国宝及び重要文化財の指定、後述の如き建造物の修理、米国における日本古美術展の開催を挙げられる。この日本古美術展は、実に未曾有の企画であり、彫刻一四点、絵画七七点のわが第一級的美術品が太平洋を横断して輸送され米国内左の五ヶ所においで展覧された。

National Gallery of Art, Washington

(一月二五日—二月二五日)

Metropolitan Museum of Art, New York

(三月二五日—五月一〇日)

Seattle Art Museum, Seattle

(七月九日—八月九日)

Art Institute of Chicago

(九月一五日—十一月一五日)

Museum of Fine Arts, Boston

(十一月一五日—十二月一五日)

わが美術品が繊細な素材からなる特殊性から、この企画に対しては危惧せられたが、派遣された係員の献身、彼地の科学的な施設とに相俟つて、大過なく保全せられて、記念的な足蹟を印したことは、至幸とすべきである。なお国際関係としては、七月ジェノア及びミラノに開催された国際博物館協議会 ICOM に東京国立博物館長浅野長武がわが代表として出席した。

建築

建造物の修理事業関係としては、平等院鳳凰堂の解体作業が昨年決定に従つてこの四月から開始、昭和二五年九月キジア台風のため流失した若国の錦帯橋の復興が五月に完成、同月にはまた修理中の松江城天守の上棟式が行われた。一方同月二七日出雲大社の拝殿、庁舎など焼失、また日を同じうして近江神宮の楼門、南廻廊が火災の厄に会つた。一〇月には伊勢

内外両宮の式年遷宮が行われたことも、本年の主要な出来事である。

発掘調査としては、八月初期弥生式文化の遺蹟として著名な福岡県板付遺蹟が、前年に引続き杉原荘介らによつて行われ、一月平城宮址の東北部において道路拡張工事中に列柱跡が発見され、今後の同宮址発掘調査計画の端緒をなした。二月には奈良県橋寺址と定林寺址との発掘調査が石田茂作らによつてなされ、両寺とも塔址土壇の地下に心柱礎石を存することが確認されたことを挙ぐべきであろう。

古建築関係の出版としては、浅野清「法隆寺建築総観」が最も注目すべき業績であり、法隆寺関係の細部研究として福山敏男「法隆寺金堂の裝飾文様」(美術研究所研究報告)がある。なお同寺金堂屋上に鴟尾をあげるべきか否かの問題が論議されたため、諸寺出土の鴟尾に関する多くの資料が集められてその性質が従前より一層明確となつたことは附記に値する。大岡実、森蘊編「日本美術全集第六巻建築、庭園篇」、岸田日出刀「京都御所」は図録として主要なものである。更に中国関係にあつては飯田須賀斯「中国建築の日本建築に及ぼせる影響」は細部研究として事典的な役割をも果すもので重用されよう。外国関係としては日本建築学会編「西洋建築史図集」が出版されたが、これは昭和二四年刊行の「日本建築史図集」とともに簡潔で誠実な出版である。

研究発表乃至論文を見れば、浅野清等の「正倉院紫壇塔の残欠について」(美術史八)は奈良時代の小塔遺品の注目すべき研究であり、同氏の「日本建築の構造と意匠」(美術史九)は日本独自の屋根構造の発達過程を概観したものと目立っている。杉山信三によつて京都白河の宮殿、寺院の一連の研究発表(日本建築学会近畿支部研究会)が始まつたのも有意義であつた。森蘊「円成寺の建築と庭園」(大和文華一)も注意すべき研究であり、横山秀哉の禅宗建築に関する諸論文、殊に「支那禪刹図式の研究」(東北大学建築学報)は大乗寺その他に蔵するいわゆる五山十刹図についての同氏の多年の研究の要約と見ることが出来る。この他川上貢の近世建築に関する諸論考、藤岡通夫の近世京都御所に関する継続中の諸論文も建築史界の収穫と云うべきであろう。なお中国関係として、福山敏男の「麦積山石

窟寺」(美術史九)「校注両京新記卷第三」(美術研究一七〇)「唐長安城の東南部」(古代研究二巻四号)がある。

彫刻

米国における日本古美術展に出陳された彫刻は、主として小金銅仏であつたが、特に丙寅銘半跏思惟像の如き作品が、鑑賞者の反響を呼んだことは、現代の造形藝術の新傾向と相通するものとして注意すべき事実であつた。国内で開催された彫刻関係の展覧としては唐招提寺展(上野松坂屋、一月)鎌倉国宝展(三越、七月)が注目された。前者が同寺伝来の文書、工藝と共に出陳され諸種の資料と同時に彫刻を鑑識し得る点有意義であり、後者は鎌倉を中心とする文化圏の地方色ある作品を集めて、研究者をしてその特色の把握を容易ならしめた。

平等院鳳凰堂の解体作業に伴い、本尊阿弥陀如来像が移座された際、その台座から飛天の頭部が発見された。同堂飛天の研究には未だ問題を存し、この新発見もそれに関連すべき重要な役割を持つものとして注目されよう。

彫刻史研究の新方法として金銅像の透視研究が、期せずしてこの二八年に東京と大阪において始められたことは特記に値するであろう。一は大阪大学浅田研究室にベータトロン設備が完成し、金属製品の透過写真の撮影が可能となり、その実験材料の一として大阪市立美術館寄託の金銅仏を撮影したところ、見事にその内部の鉄心等を影印することに成功した。従前、薬師寺金堂月光菩薩像頭部を工業用X線装置で撮影した例はあるが、かかる装置に比して、簡便な利点があるに着眼して、大阪美術館員が従来殆んど憶測の程度を出ない古金銅仏の内部構造の透視研究に用いされた。一方東京文化財研究所においてもアイソトープ(放射性同位元素)を利用して、おなじく金銅像の透過撮影を行うことに成功し、本年後半實際的撮影を開始するに至つた。即ち米国より輸入したコバルト60から放射するγ線によつて、金銅像の透過撮影するものであるが、その放射源は一〇円硬貨ほどの大きさで、各地に運搬可能であるため、東京における御物四十八

体仏のみならず、奈良薬師寺金堂及び講堂の三尊像の撮影をも試みることに出来、相当の成果を挙げ、且つ今後に期待されること大である。

わが彫刻史関係の出版、研究論文等については、例年に比して特記すべきものを見ないが、中国彫刻に關しては水野清一、長広敏雄の「雲崗」が統刊中であり、「世界美術全集インド東南アジア」は彫刻のみに限らないが、従前欠けたインド、東南アジアの彫刻史の好箇のハンド・ブックとして役立つものである。

繪 画

一米国で開催された日本古美術展においては、絵画七七点が、わが美術の系譜を物語るべく構成されたと云うべきであるが、そのうち鳥獣戯画、源頼朝像、応挙の雪松図等が、一般的に好評を博したと伝える。このことに、現下の米国人の好尚は端的に知られ、今後海外展の場合その企画に參考すべき反響たるを失わない。

国内にあつては三月大阪市立美術館で開催された中国名画展は、昭和一八年同館に寄贈された故阿部房次郎収集品の全容を初めて公開したもので、わが国に必しもかかる例の多くない故人のメモリアル・エクスジビションであると同時に、中国画の鑑賞、研究に対して寄与大なるものがあつた。また本年秋関西で開催された二の中国画小展観（尚雅堂、黒川古文化研究所）は共に明清画を主体とするもので、従来閉却されがちであつたこの分野に対して、新たな関心を喚起すべき一契機となつた。

絵画のみに限られない醍醐寺名宝展（奈良国立博物館四、五月）大徳寺名宝展（銀座・松屋、一〇月）等にそれぞれ看過し得ない作品が出陳されたが、学術的には東京文化財研究所が開所記念行事として十一月行つた室町時代詩画軸展は、現在までの詩画軸作品資料の搜訪の成果を示すと同時に、その研究に資すべき汎い展望を与えるものであつた。なお鎌倉近代美術館の日本風景画展と国立近代美術館の日本画の流れ展とは、現代日本画の系譜を東洋古典絵画のうちに求めんとする新しい試みであつて、鑑賞、研究両面にあつて隔絶しがちな古美術と現代美術とを有機的に結ぶ可能性は

今後助長されるべきものに他ならない。

絵画史関係の調査事業として注目すべきものとしては、亀田孜らの正倉院密院絵調査と東京文化財研究所の行つた鳳凰堂壁面画の調査がある。前者は昭和二五年以来の継続で本年をもつて完了し、更に法隆寺玉虫厨子絵の調査をも併せ行い、いわゆる密院絵の実体を究明して、多年の論争に終止符を打つもの。後者は同堂の解体に際して行われる総合調査の一環をなすもので、X線、赤外線、紫外線等光学的方法を駆使した調査並に撮影は、創建当初の壁面画製作に關する新知見を獲ると同時に、修理作業に対しても資するところ少くない。これらの調査はいずれも自然科学者の協力の下に行われ、この種の基礎的調査にとつては、必然の傾向となりつつある。

絵画史関係の研究論文は、美術研究はじめ専門誌において最も多数を占め、また美術史学会の總會、例會の研究発表についても同様である。「法隆寺金堂災害報告」(美術研究一六七)は、罹災直後の調査に基くもので、痛恨今更ながら、金堂壁面研究に最後の資料を提供するところである。秋山光和「絵因果経、紫式部日記絵巻、金棺出現図のX線による鑑識」(美術研究一六八)はこの種研究方法のテスト・ケースとしての報告であり、また持丸一夫の絵巻物に現れた障屏画研究の二論文(美術研究一六九、一七一)は近世障屏画の源流考察に新生面を開かんとする試みとして留意される。

中国画関係には、米沢嘉圃の「白画源流考」(東洋文化研究所紀要四)「明清画の諸問題」(東方学六)が注目される。特に後者は同氏の国華所掲の明清画八点の紹介と相俟つて、南画様式規定の確立に努力された好箇の研究である。福山敏男「敦煌石窟年代試論」(仏教藝術一九)は同石室の壁面様式による年代考で、今後の研究にとつて一規準たるを失わない。なお、米国所在の日本画、中国画について見直した新しい報告が、日本古美術展に際して渡米した諸氏に期待されるが、本年中、松下隆章によつて、その二三がなされた。

絵画関係の出版は、単行書としても十指に余るが、研究上周到な資料提出の意義で、高く評価されるものとして田村実造、小林行雄の「慶陵」(本文冊、京都大学文学部)を挙げ得る。また自費刊行されつつある住友寛一

の所蔵品の複製も同様に看過し得ないものであろう。数多い図録刊行のうち、世界美術全集の「日本古代」「明清」はハンド・ブックとして附記に値する。

書蹟及び工藝

書蹟関係にあつては、四月京都国立博物館における三十六人集、久能寺經特別展、一〇、一月東京国立博物館の書道名品展が出色のものであつた。後者の李柏書状、嵯峨天皇筆光定戒牒、及び墨蹟名品中初めて公開されるものが多かつた。

陶磁としては、四、五、六月に亘り東京国立博物館で開催された東洋古陶磁展があり、故横河民輔の寄贈された中国古陶磁収集品九〇〇点余の展観で、中国画の阿部収集品展観と並ぶ記念的意義があり、欧米にも著名な同収集が、漢から清に至る体系的な展観は、研究及び鑑賞に資すること多大であつた。これについて、鎌倉近代美術館における日本古陶磁展は、一二〇点ほどの出陳で、必ずしもその数は多くないが、日本陶磁史の汎い展望のきく試みで、小山富士夫の撰択によるものとして注目された。

古陶磁の鑑賞、研究は逐年高まりつつあるが、地方に於ても又盛んで、古窯趾の発掘なども行われ、中でも常滑に於ける地元調査会を主体として一〇月より大々的に開始した古窯趾の発掘調査はその成果が期待される。

又陶磁専門の雑誌がこしばらく見られなかつたが、陶磁協会により、四月以降「陶説」が月刊機関誌として発行され、趣味と研究を兼ねたものであるが、古陶磁研究に一つの役割をなしている。

なお広範囲な工藝関係にあつては、以上のほか髹漆、染織、金工等諸種の展観、研究が行われているが、ここにはすべて割愛することとし、展観に遠隔の地にあつて世人の目から遠去つていた愛媛大山祇神社国宝甲冑展(三越、一月)例年の正倉院展(奈良国立博物館、一月)があつたことに止め、研究としては、太田英蔵の「法隆寺壁画の錦文とその年代」(美術研究所研究報告)を代表的に挙げて、工藝の分野の概観としたい。

以上本年の古美術界の動向は、有意義な展観が行われて一般の鑑賞の機会を多くつくつてはいるが、このうちデパートにおける古美術品展覧が流行する傾向が著しい。このことは、最も容易に一般鑑賞に役立つ利点は認められるが、一方古美術品の保全に関しては必ずしもその施設よりして難点ないといひ得ない矛盾を含み、今後とも問題を残すところであらう。同時に古美術に関する出版も盛んであり、前者の場合と同様、一般に普及の意味での利点あることは否定しがたいが、これも内容の必ずしも拡充した、掘るに足る刊行は寡いといわざるを得ない。共に将来事態の改善を要望されるが、かかる遽に解決し得ない矛盾と問題を含んで、本年の古美術は一応各方面に相当見るべき足跡を残すものといえよう。

昭和二八年美術界年史

一月

○小林秀雄著「ゴッホの手紙」読売文学賞
まうける 毎年その一年間に発表された文学作品の最優秀作品を顕彰する読売文学賞の第四回(昭和二十七年)が一日発表された。その中の文藝評論賞には凡そ一年間にわたつて藝術新潮誌上に連載され、完成とともに単行本として出版された小林秀雄の「ゴッホの手紙」が決定した。

○クローリー展開催 一日から二月二日まで神奈川県立近代美術館においてフランスのリュシアン・クローリーの個展が開催された。油絵二九点、デッサン・水彩二六点、グワッシュ一四点、タピスリー一点、銅版画三〇点の展観であつた。

○第四回毎日美術賞、徳岡神泉の「池」に決定 昭和二十七年一月から二月の間毎日美術賞は日本画、第八回日展出品に公表された作品を対象とする第四回毎日美術賞は日本画、第八回日展出品の徳岡神泉「池」に決定し、一五日発表された。油絵・彫刻には該当作がなく、日本画だけに賞金一〇万円が贈られることになつた。

○大山祇神社国宝甲冑展 読売新聞社の主催により、一五日から二月一日まで日

昭和二八年美術界年史

本橋三越に開催、新国宝の赤糸威鏡、絹糸威鏡等一〇〇余点の出品があつた。

○唐招提寺展 唐招提寺と朝日新聞社の共催により、一六日から二月一日まで上野松坂屋で開催、新国宝の秘仏鑑真和上像をはじめ、同寺の什宝約一〇〇点が出陳された。

○日本古美術展米國で開催 日本古美術展は前年々々末係官及美術品が米國に到着して準備を重ねていたが、二五日ワシントンナショナルギャラリーで蓋をあけた。引続きニューヨーク、シヤトル、シカゴ、ボストンの各都市に於て開催され、多大の反響を呼んだ。

○ペーター・トロンによる金銅仏透視 阪大理学部浅田研究室ではペーター・トロンを利用して金属製品の内部を透視することに成功し、金銅仏の内部構造の撮影を試みた。重美「威王権現」の内部の鉄心が明瞭に現われたところから今後の利用が期待されている。

○「原爆の図」国際平和文化賞の金メダル賞まうける 丸木位里、赤松俊子夫妻が広島に取材して描いた五部作の「原爆の図」が国際平和文化賞のゴールドメダルに入賞したと世界平和評議会からの知らせが二八日とどいた。国際平和文化賞は世界平和評議会が平和擁護に貢献した文学、絵画、映画など

の文化的作品に授与するため本年度から設定した賞である。

二月

○国際工業デザイン展へ参加 西ドイツのシュトゥットガルト市で二一日から三月八日まで開かれるシュトゥットガルトのバアデンヴェルテムベルグ州実業団主催の国際工業デザイン展へ日本も参加することになつた。主催者より出品招待をうけた日本インダストリアル・デザイン協会では費用や日時都合上、実物ではなく写真を主として出品することに了解を得て、各デザイナーより参加を求め、そのうちから五六点を選び、五日航空便で発送した。

○第三回上村松園賞 朝倉撰に決定 上村松園賞の第三回は新制作協会々員、朝倉撰の「働らく人」(第一六回新制作協会展)およびその他一連の作品に決定し五日発表された。福田平八郎、小野竹喬、山口蓬春、山本丘人、上村松園の選考委員によつて、二七年度中に公開された女流画家の日本画作品のうちから選ばれたものである。

○恩賜賞、藝術院賞決定 昭和二十七年度(第九回)の恩賜賞及び日本藝術院賞が内定し、九日日本藝術院から発表された。

恩賜賞
洋画 石川寅治 洋画界および絵画教育につくした功績に対し

日本藝術院賞

第一部 美術

日本画 児玉希望 作品「室内」(第八回日展出品)にたいし

彫刻 沢田晴広 作品「三華」(第八回日展出品)にたいし

工藝 香取正彦 作品「攀龍壺」(第八回日展出品)にたいし

書 辻本史邑 作品「白詩七律」(第八回日展出品)にたいし

建築 村野藤吾 建築界につくした功績にたいし

他部門略

五月二五日午後二時から東京国立博物館において授賞式が行われた。

○日本古美術展に文化使節派遣 ワシントンで開催中の日本古美術展に政府代表文化使節として派遣される文化財保護委員会委員矢代幸雄は一七日出発、米國側と交歓をとげ五月二三日帰国した。

○バーナード・リーチ来日 英国の陶藝家バーナード・リーチは欧米を外遊中であつた陶藝家の浜田庄司、日本民藝館長柳宗悦とともに、一七日羽田に着した。一七年ぶりの来日で一年ほど滞在し制作する予定である。

○藝能選奨美術文部大臣賞決定 昭和二十七年度の藝術分野における優秀作品にたいしておくられる藝能選奨美術文部大臣賞が二七日決定発表された。

美術
日本画 金嶋桂華(第八回日展出品作

「鍾」に対し)

洋画 小林和作(第二〇回独立展出品作「海辺の丘」その他近業に対し)

彫刻 清水多嘉示(第八回日展出品作「裸婦」に対し)

工藝 浜田庄司(個展出品「壺」その他近業に対し)

他部門略。

○日本彫塑家倶楽部発足 昭和二二年創立の日本彫刻家連盟を解散、改めて日本彫塑家クラブとして新発足した。職能団体的性格をはたれ、二科会、新制作協会に属する作家が脱け、日本美術院所屬の彫刻家が加入、顧問に朝倉文夫、北村西望等を推して日展系の色彩が強くなつた。従来行わなかつた作品公募も行う。

三 月

○国際彫刻コンクールに参加 一四日よりロンドンの国立テートギャラリーで開かれた「知られざる政治因」の課題をもつた国際彫刻コンクールに参加の招待は主催者の現代美術協会から昨年一月にとどいた。これに対し日本美術家連盟やその他各作家が知人を通じて通知をしたため申込は多数に上つたが、審査規約の変更などの事情もあり、出品申込手続や審査方法などに関して国内で意見の対立が起つた。そこで斎藤素巖、加藤顕清、本郷新、和田新等が世話人となつて一本化をはかり、審査

委員を決定して、一月九日から一〇日間銀座松坂屋で国内展示会と審査会を行い、笠置季男など七人の作品が選ばれて発送された。朝日新聞社がこれを後援した。この銓衡にあくまで反対した作家二〇数名は、コンクールには参加出来なかつたが、ロンドン展と同じ時に丸善で別に発表会を開いた。

○オランダ大使、東京国立博物館へ油絵を寄贈 オランダ大使P・E・テッペマは個人所蔵の一八世紀のニコラス・ヴァン・ラヴェステイン作と伝えるオランダの肖像画を東京国立博物館へ寄贈した。

○中尊寺に宝物収蔵庫建設 中尊寺金色堂の宝物盗難事件に鑑み、文化財保護委員会では同寺に宝物収蔵庫の建設を決定、着工した。建築は鉄筋コンクリート三階建、鉤型をなし、三ヶ年事業で総工費二、六〇〇万円の予定。

○桃山美術展、朝日新聞社の主催により六日から一七日まで日本橋白木屋に開催。唐獅子図屏風、浜松図屏風等御物三点のほか、初公開の長次郎茶碗を含む八〇余点が展観された。

○東京都美術館に佐藤記念室開設 東京都美術館は設立に際して基金を寄附した佐藤慶太郎を記念して館内に佐藤記念室を開設することになった。講堂奥の二室六五坪を改修して常設陳列場とする計画であり、一五日から「近代印象派絵画複製展」によつて第一回展を開いた。

○国宝・重要文化財第四次指定 文化財保護委員会では二七日、国宝二〇九件、重要文化財一四五件の指定を発表した。国宝は計五七四件、新指定のものに、善光寺本堂、雪舟筆秋冬山水図、隨身庭騎絵巻、新薬師寺十二神将像、香取神宮海獸葡萄鏡等がある。その一部を四月一日から一〇日まで陳列公開した。

○史迹名勝天然記念物・無形文化財指定 文化財保護委員会では三一日、特別史跡本居宣長旧宅など五件、特別名勝六義園など三件、史迹九件、名勝三件、天然記念物四件、無形文化財として藝能関係四件、工芸技術六件の新指定を発表した。

○日光に防災工事 文化財保護委員会では相つゞく国宝建造物炎上から防災事業を計画、その手始めに、東照宮、二荒山神社、輪王寺の日光二社一寺に大規模な防災工事を進め、第一期工事が大体完成した。主な施設は、自動火災警報装置、ドレンチャージャー装置、自家発電設備、貯水池、防火水路の増強、電動ポンプと消火栓の改修などで、工費総額五八五九万円である。

○文藝・美術国民健康保険組合発足 昨年より文藝家協会、日本美術家連盟、出版美術家連盟、日本著作家組合、全日本工芸美術家協会の五団体が設立準備中であつた「文藝・美術国民健康保険組合」は認可を得て二二日発会式を挙げた。理事長に丹羽文雄、常務理事

に伊原宇三郎、理事に鴨下晃湖、中島健蔵、山崎覚太郎を選出し、四月一日から業務を開始した。

○在外公館へ日本画を配置 欧米の日本大使館、公使館、領事館等を日本美術で飾るうとして外務省では日本画家に依頼していたが、第一期として皇太子殿下の立ち寄られる道筋にあたるところに配布を急ぎ、一部作品が完成した。横山大観「東海仙山(イギリス)」、川端龍子「熊野」(アメリカ)、前田青邨「小窩」(フランス)等七三点である。

四 月

○横河コレクション公開 故横河民輔が収集し、東京国立博物館に寄贈した古陶磁約九五〇点のうち、中国陶磁を中心として時代別に陳列、一日から六月三〇日まで、同館の春季特別展として公開された。

○中尊寺華鬘発見 前年一〇月盗難にあつた平泉中尊寺の重要文化財華鬘四個は、二一日東京都内と花巻で、あいついで発見され、久しぶりに寺に帰ることになった。

○月光菩薩修理開始 奈良薬師寺の月光菩薩修理計画は、修理委員会の手で準備を進めていたが、四、五月分の暫定国庫補助金も決つたので、二〇日から本格的修理にとりかかつた。接着にはアララドイドを用い内部に鉄心を入れて補強する。

○ブリッチストン美術館で美術映画製作

東京京橋のブリッチストン美術館では映画部を新設して美術映画の製作をはじめることになった。一昨年来次々と入ってきたフランス美術映画に刺戟され、作家の制作状況や生活を小篇にまとめようとするもので、まず最初に梅原龍三郎の撮影がはじめられた。

○インドの第二回国際現代美術展に参加

五月五日から六月一六日までインド、ニューデリーで開かれた全印度美術工藝協会主催の第二回国際現代美術展に堂本印象、阿部展也等二〇名の作品二〇点を出品した。昨年一月より、同協会から大使館、外務省を経て日本美術家連盟に参加を要請して来たので、連盟で斡旋し、読売新聞社、外務省、ユネスコ後援により、三月三日から五日まで日本橋三越で国内展示を行った後空路輸送した。

○日仏文化協定調印

日本とフランス兩國間の文化関係の発展についてお互いに便宜を与えることを定めた日仏文化協定は、一二日岡崎外相とドジャン駐日仏大使によつて調印された。パリと東京に日仏混合同員会を設け、その実施運営に期待がかけられている。

五月

○日本建築学会賞決定

昭和二十七年年度日本建築学会賞が決定し、一二日同会よ

昭和二十八年美術界年史

り発表された。

一、建築論文

○猿殿造の研究

前橋工業短大教授 太田 静六

○構造物の風圧力に関する研究

建設技官 亀井 勇

○鉄筋コンクリート構造における内部応力の伝達に関する研究

東京工大助教授 加藤 六美

○我国における地震危険度の分布と耐震設計基準震度の研究

東大教授 河角 広

二、建築作品

○日本相互銀行本店

新制作協会々員 前川 国男

三、建築図書

○日本の建築

日大教授 吉田 鉄郎

○奈良文化財研究所開所式

二七年四月

発足した奈良文化財研究所は、ほぼ態勢が整つたので、一五日開所式を挙行し、本格的な研究段階に入った。所長には田沢坦が就任した。

○平等院鳳凰堂修理委員会発足

前年一二月解体を決定した平等院鳳凰堂の修理に關し、一七日修理委員会(委員長村田治郎)が発足した。解体に先立ち、裝飾文様と壁面の剝落防止、本尊移屋のための仮屋の建設を行い、又壁面の模写も行う。

○正倉院新宝庫完成

かねて建設中の正倉院の新宝庫はこの程完成、二二日落成式を行った。着工二六年九月、工費

五、五〇〇万円、様式は高床式の校倉型構造は鉄筋コンクリート、内部は総檜造二階建である。換気は自然換気、照明は普通電燈で五重遮断、耐震耐火であると共に、温度と湿度の調節には特別の措置がとられている。

○出雲大社出火

二七日出雲大社熾火殿より発火、拜殿、庁の舎、十九舎などを全焼、八足門を半焼した。一二日に正遷宮を終えたばかりの本殿は類焼をまぬかれた。

○国立近代美術館買入れ作品決定

国立近代美術館の昭和二十年度買入作品は日本画四点、油絵九点、彫刻一点総額五四〇万円が決定し発表された。

○土田 麦櫻

「林泉舞妓」「写生帖およびデッサン」

村上 華岳

「日高川」

稗田 一穂

「奇異鳥」

油 繪

黒田 清輝

「舞妓」

青木 繁

「日本武尊」

萬 鉄五郎

「湘南風景」「裸婦」

前田 寛治

「裸婦」

小林徳三郎

「海」

松本 峻介

「建物」

野田 英夫

「サーカス」

安井曾太郎

「金蓉」

彫 刻

佐藤 忠良

「群馬の人」

○第二回日本国際美術展開催

毎日新聞社主催の第二回日本国際美術展はフ

ンス、イギリス、アメリカ等一〇ヶ國の参加を得て二〇日から六月八日まで東京都美術館において開催された。

○日本藝術院第一部長決定

日本藝術院では二六日東京国立博物館で總會を開き各部長の改選を行った。今まで欠員になつていた第一部長(美術)には和田英作が選ばれた。

六月

○国際版画協会創立

最近海外美術交流の上にも日本の版画は注目されて来たが、一三日新時代の版画の振興と国際的発達を目的として社団法人国際版画協会が設立された。理事長恩地孝四郎、常任理事品川工で会員は現在活躍中の日本版画協会々員など二〇余名である。

○国際美術懇談会発足

海外との美術交流が盛になるにつれてその斡旋機關の不備が問題となつたが、文部省社会教育局藝術課長宇野俊郎が世話人となり、外務省、文部省、ユネスコ、国立博物館、国立近代美術館、日本美術家連盟、国際文化振興会等各関係者の懇談会が一六日開かれた。従来の国際文化振興会を強力にすることに意見の一致を見たが、その事務の積極化、円滑化をはかるために側面的援助機関としてこれら関係者により国際美術懇談会が結成され、同日発足した。

○第三回国際デザイン会議に参加

工業

デザインについて研究討議する国際デザイン会議の第三回は二日から二七日までアメリカ、コロラド州アスペンで開かれたが、今年から日本もはじめて参加した。代表として通産省工業技術院産業工芸試験所意匠部長剣持勇をおくつた。

○国画3委会創立 国画会絵画部の石原宏策、木内広、高松健太郎等三〇代の作家一五名によつて研究グループ国画3委会が結成された。

○日本アブストラクト・アート・クラブ結成 来年の三月、ニューヨークのリヴァーサイド・ミューゼウムで「アメリカ・アブストラクト・アーティスト」の第一八回展覧会が開催されるが、この展覧会に日本からも三〇点位の出品を期待する旨の招請がアメリカ抽象藝術家協会々長のモリスからとどいた。そこで長谷川三郎等が主となり、純粹抽象藝術の発展と国際交流を目的として、各団体にわかれわかれに所属している抽象派画家の結合として、日本アブストラクト・アート・クラブが結成された。

○ユネスコ本部へ浮世絵発送 ユネスコでは浮世絵複製を買上げ、世界各国で展覧会を開く計画をたて、日本へ依頼していたが、文化財保護委員会の尊旋で完成、パリのユネスコ本部へ発送された。江戸初期から末期へかけての代表的なもので、発送をあとづけるよう系統的に選ばれたものに解説をつけ五

〇組(五〇〇〇枚)を送つた。
〇中国に於ける考古活動 中国に於ける考古学的調査は、北京の中国科学院(院長郭沫若)の考古研究所が一九四九年以来当つているが、最近の調査結果が齎されて反響を呼んだ。特に甘肅省の麦積山及び炳靈寺の両石窟の発見は注目すべきもので、共に北魏様式を最古とし、石仏、壁画をもつているといふ。

〇浅野長武訪欧 東京国立博物館々長浅野長武は、伊太利で行われる国際博物館協議会第三回総会出席のため、一日羽田を出発した。会議の後、英仏白和等ヨーロッパ諸国を訪れ、主として博物館美術館等を視察、八月一日帰京した。

〇サンパウロ四百年祭に日本庭園と建築を寄贈 来年一月からサンパウロ市で、サンパウロ四百年祭が行われるが、在留邦人も日本人協力会を結成これに協賛することとなつた。その一つとして建設費二、〇〇〇万円で日本庭園と家屋を贈り祭典会場を飾る計画がたてられ、その設計を依頼された堀口捨巳はこれを二日完成、日本人協力会に渡した。家屋、庭園の材料は現地で購入するばかりにして持つてゆく予定。

〇在米大使館へ日本画を発送 外務省では今春以来一流日本画家の作品約八〇

点を買上げて在外公館に送つて、いたが、更に今回ワシントン駐米大使館、エジプト公使館、サンパウロ総領事館に、川端龍子、奥村土牛、小杉放庵、橋本明治等の作品が送られることになり一日外務省内で展示会が開かれた。

〇日本銅版画家協会結成 近来関心の高まりつつある銅版画の研究団体、日本銅版画家協会が二日、創立総会を催した。関野準一郎、浜口陽三、駒井哲郎、松田義之等が中心となり年一回展覧会を開く予定。

〇鎌倉国宝展 毎日新聞社の主催により一八日から八月九日まで日本橋三越で開催、鎌倉及びその附近の一社二〇寺秘蔵の宝物一三六点が出陳された。

〇アートクラブ設立 国際的関連をもつ新美術組織、国際アートクラブは、画家、彫刻家、建築家、美術評論家によつて構成され、各国現代美術の発展とその国際的交流のため、研究、其他諸事業を行うものでその国際中央本部はローマにある。現在アートクラブを結成している国は、イタリー、フランス、オランダ等十ヶ国に及んでいる。今年中央本部委員会の決議で会長ブランポリー氏から正式に我國へ参加依頼があり、岡本太郎、小松義雄、村井正誠、末松正樹、恩地孝四郎、植村麿千代等により設立準備が進められていたが二五日、アートクラブの発会式をあげた。

〇美術映画「梅原龍三郎」完成 ブリッヂストーン美術映画の第一作「梅原龍三郎」(二巻)が完成、二五日ブリッヂストーン美術館で一般公開した。

〇サンパウロのビエンナーレ展出品の作家選出決まる サンパウロ市のビエンナーレ展に出品招待をうけたにも拘わらず、関係機関の不用意から締切に間に合わず、参加不能となり波乱を呼んでいたが、この程主催者側の好意で重ねて出品の懇望をうけ、急拠出品者を決定した。岡部長景を委員長とする選考委員会で川口軌外、山口薫、牛島憲之、鶴岡政男、岡本太郎、水越松南の六名の出品者に現地から福沢一郎が参加出品する事に決定した。作品は今月末空郵送する版画四六点に続き、八月二日船便で送られる予定。

〇全国神社国宝展 毎日新聞社の主催により、一二日から三〇日まで日本橋三越で開催した。一〇月二日に皇大神宮、五日に豊受大神宮の遷宮が行われるのを記念して開かれたもので、伊勢神宮はじめ全国著名の神社四六社から宝物一二〇点が出陳された。

〇デザイン学会第一回例会開く デザイン問題研究会はデザイン学会として発足することに決定、その第一回例会を一五日開き、今後の運営などについて協議した。

七月

八月

○重要文化財指定 二九日開催の専門審議会第二分科会(建築)に於て、旧十輪院宝蔵、元箱根村五輪塔等二〇件の重要文化財の新指定を決定した。

○伊勢神宮正殿を公開 神宮司庁は第五九回式年遷宮を前に、二一日、造営工事の全く成つた伊勢神宮正殿を一般に公開し、写真撮影も許可した。

○新長谷寺本堂竣工 岐阜県岡市の新長谷寺の解体工事は二五年一〇月以来すめられていたが、八日竣工式をあげた。同堂は長祿四年の建造、七堂伽藍の整つた室町中期の密教建築である。

九 月

○二科会新設の写真部最初の展覧を行う 一日から開催中の二科会展では新設の写真部が、会員早田雄二、林忠彦、大竹省三、秋山庄太郎の作品と公募作品一七六点を陳列した。

○日本流行色協会発足 流行色に外国の模倣だけでなく、日本独自のものを生みだそうという意図から、日本流行色協会が設立され四日発会式をあげた。発起人には稲村耕雄、剣持勇、猪熊弦一郎、花森安治等、色彩研究家、画家、洋裁家などが多数加つている。

○大庭舞台美術研究所設立 舞台照明を中心に舞台美術の実験研究所が大庭三郎によつて大田区雪ヶ谷七五六に建設され、一五日開所式を行った。

○アイソトープによる金銅仏の透過撮影

昭和二八年美術界年史

東京文化財研究所でアイソトープによる金銅仏の透過撮影が行われた。アメリカから輸入したコバルト60の放射能を利用して金銅仏の内部を撮影したもので、旧御物の四十八体仏をはじめ、その他の小金銅仏像の撮影に成功、二九日には奈良養老寺講堂の月光菩薩像の透過撮影を行い、大金銅像に対する実験として注目を浴びた。

○伊勢の「型紙」、高松の「漆藝」の技術保存のため研究所の新設を計画 文化財保護委員会では無形文化財に選定されている伊勢の「型紙」や高松の「漆藝」の技術保存のため「型紙研究所」「漆藝研究所」の設立が計画されている。新設に対し県と市に三分の一の庫補助を行うため来年度に二四〇万円の予算を計上する予定である。

一〇月

○ルオー展開催 一日から一月一五日迄、東京国立博物館表慶館においてルオー展が開かれた。東京国立博物館、読売新聞社主催、フランス大使館協賛で油絵、グワッシュ、水彩、デッサン、版画一四八点が陳列された。

○元祿美術展 朝日新聞社の主催により三日から二〇日まで日本橋白木屋に開催。国宝夕顔棚図(守景筆)、風神雷神図屏風(光琳筆)等一〇〇点余の出品があつた。

○墨跡名宝展 財団法人常盤山文庫の開

館を記念して、毎日新聞社の主催により、六日から一日まで日本橋三越で開催された。同文庫は菅原通済の収集品を寄贈して設立されたものである。

○鳳凰堂本尊移座 修理工事進行中の平等院鳳凰堂では一四日、本尊阿弥陀如来の移座を行った。鳳凰堂から仮安置所まで約五〇米の間にワイヤーを三本張り、滑車で吊して運んだもので、関係者多数の立会のもとに無事終了した。

○書道名品展 東京国立博物館の秋の特展として二〇日から一月二五日まで開催された。日本の写経、仮名、上代様、和様、唐様、墨跡と中国の書の優品を殆ど網羅して展覧したものである。

○大徳寺名宝展 京都紫野大徳寺は朝日新聞社との共催で、二三日から一月八日まで、銀座松屋で名宝展を開催した。牧溪画、大燈国師墨跡、喜左衛門井戸茶碗等の国宝一二点以下重要文化財四〇点、其他一四〇点の多数が出陳された。

○文化勲章受賞者決定 昭和二八年度、第一二回目の文化勲章受賞者が決定し、二七日発表された。美術関係者では板谷波山と香取秀真がこの榮譽をうけた。授賞式は一月三日文化の日に皇居で行われた。

一一月

○東京文化財研究所長に田中一松就任

東京文化財研究所美術部長田中一松は一日付同所々長に就任した。

○法隆寺金堂上棟式 法隆寺金堂の再建工事の上棟式は一日行われ、昭和九年以来続けられて来た法隆寺保存修理工事の最後の仕上工事に入ることになった。

○毎日出版文化賞決定 一九五三年度、第七回目の毎日出版文化賞が決定し二日発表された。美術書関係では、堀口捨巳著「桂離宮」(毎日新聞社発行)が選ばれ、三日毎日新聞社本社で授賞式が行われた。

○文化信用組合設立 都内に住む文筆家、画家、音楽家、映画、演劇、舞踊家及びその関係者の相互扶助機関として、我国では初めての文化信用組合が設立された。事業は組合員への資金の貸付が主で手形割引、貯金なども扱う。組合長には早川雪洲、副組合長は伊原宇三郎、丹羽文雄、芳村伊十郎等で、顧問には藤山愛一郎、大倉喜七郎等の実業家や大谷松竹社長、小林東宝社長、岩波書店社長等文化関係の事業家が予定されている。先月三一日、都の認可をうけ、三日創立総会を開いた。

○川合玉堂寄附資金による文部省買上作品決まる 文部省では本年度日展作品中川合玉堂寄附資金による買上作品として左の二点を決定、五日発表した。(日本画)堂本尚郎「街」、吉田登毅「浄地」、(洋画)中野和高「植木屋」

君、服部亮英「杏花村」、裕伊之助「潮来」、(彫刻)池田勇八「スタート」、橋本高昇「牡鹿」、(工藝)岸田宗三郎「ろろ染鯉屏風」、米澤蘇峰「花びん」、(書)安東聖空「あかし」、佐藤祐豪「陶淵明の詩」

○文化財保護委員会委員に高橋誠一郎、矢代幸雄再任 文部省では高橋誠一郎、矢代幸雄を文化財保護委員会委員に再任命し、六日発令した。

○文化功労年金受賞者決定 昭和二八年度の第三回文化功労年金受賞者が、九日の閣議で決定、発表された。美術関係では先に文化勲章を授与された、板谷波山、香取秀真の二名で、二日顕彰式が行われた。

○文化財保護委員会委員長に高橋誠一郎再選 文化財保護委員会は二日高橋誠一郎を委員長に再選した。

○新日本工業デザインの審査決定 第二回「新日本工業デザイン」懸賞募集の審査は、予備審査、本審査、推薦決定の三段階に分けて行われ、特選一席に小杉二郎(蛇の目ミシン)、特選二席真野善一(松下電気ラジオオキヤビネット)他十六名の入賞が一日決定した。

○国宝・重要文化財等新指定 一三日文化財保護委員会から国宝・重要文化財の新指定が発表された。今回の指定のうち、国宝は八三件、重要文化財は一九六件、史跡名勝一八件、無形文化財七件である。新国宝には餓鬼草紙、藤

原家伝周文山水図等があり、国宝の合計六七九件となった。

○映画「北斎」完成 「青年ぶろだくしょん」では第一回作品として「北斎」を製作した。浮世絵師北斎の人と画業を彼の生きた時代と、彼の属した庶民階級の生活を背景としてくつきり浮び上げている佳篇。

○高村光太郎、十和田湖畔に建てる裸像を完成 昨春から製作中の十和田湖畔を飾る記念像は一日プロンズに完成し十和田湖畔に発送された。裸女二人を配した七尺余の像で、二日国立公園指定一五周年記念式典と同時に除幕式が行われる。設立場所については予定の湖の東北端「子ノ口」が厚生省国立公園協合理事長田村剛の反対にあい、一方、同公園を文化財保護法で監督する文化財保護委員会では専門審議会での承認、厚生省、文部省の意見の対立となつたが、「子ノ口」を変更し集団施設地区になつている南岸「休屋」に建てられることになつた。

○朝倉文夫、彫塑塾の設立を計画 朝倉文夫は谷中天王寺のアトリエを初め、明治以来今日に至る迄の約六〇〇点に及ぶ彫刻原型、蔵書を投じて財団法人朝倉彫塑塾設立の計画を発表した。事業としては原型、作品の整理保存、公開、子弟の養成が考えられている。発起人には一万田尚登、高橋誠一郎等のほか一〇名が予定され、近く法人設立の申請を行う。

○紫外線による密陀絵調査 正倉院の密陀絵調査を行つている木村阪大、上村大阪学藝大、山崎名大、亀田東北大の各教授らは、法隆寺で玉虫厨子を紫外線で照写した結果、これを密陀絵によるものと確認した。

○ニューヨーク近代美術館中庭に書院造り建築の展示を計画 ロックフェラー三世から毎日新聞社長に、ニューヨーク近代美術館中庭で日本家屋の展示会を開きたいと申し出があり、日米協会が主体となつて計画を進めている。その間近代美術館の建築主任アーサー、ドレックスラーが来日、古代建築を視察の結果、書院造りを選ぶことに決り設計は吉村順三に一任、細部考証は関野克が担当することになつた。会期は明年五月からの予定。

○アメリカ抽象藝術家協会展への出品発送 アメリカ抽象藝術家協会の創立者で現会長ジョージ・L・K・モリスから、明年三月、ニューヨーク、リバーサイド美術館で開く協会主催の展覧会に日本の抽象絵画を出陳される様招待状が長谷川三郎の元に届いた。そこでアブストラクト・アート・クラブの設立とともに出品することに決め、恩地孝四郎、川口軌外、山口長男、吉原治良、村井正誠、山口正城、西田信一、末松正樹、植木茂等の作品三〇点が選ばれた。然し輸送費がなく発送が危まっていたが大阪商船が運賃負担することになり一二月二二日ニューヨーク着

○「きけわだつみの声」の彫像立命館大に建つ 本郷新制作の「きけわだつみの声」は京都の立命館大学の校庭に建てられることになり、八日、戦没学生追悼会の日を除幕式が行われた。

○ゴッホ友の会発足 一〇月以来、式場隆三郎が中心になつて計画されていた「ヴァン・ゴッホ友の会」は二日、日本橋丸善会議室で第一回会合を開き、会組織、運営、役員選定など協議を行つた。研究会の設立、研究者との交流などを企画している。

○国際造型美術家連盟国内委員会結成 ユネスコ本部では、かねて国際造型美術家の連盟設立を斡旋していたが、ユネスコ国際委員会の努力で、一日、日本藝術院、日本美術家連盟、日本工藝家協会三団体関係者が文部省に集り、同連盟の日本国内委員会を結成した。委員長には伊原宇三郎が推された。

○高村光太郎藝術院会員を拒否 一三日藝術院会員の補充選挙で第二部会員に高村光太郎が選ばれたが、二二日正式に辞退を表明した。辞退理由としては藝術院の組織、人的構成などに對する不満、また彫刻家であり乍ら、詩作に對し第二部門の会員に選ば

れたことは不本意だとも述べている。

○飛鳥時代塔跡発掘 飛鳥時代伽藍配置究明のため、東京国立博物館の石田茂作ら一行は、一三日より奈良県高市郡高市村の橘寺及び定琳寺の塔跡の発掘調査を行った。両寺の心礎の発掘に成功、多大の収穫をあげた。

○映画「鎌倉美術」完成 東京国立博物館が「上代彫刻」「桃山美術」につづいて二八年度の作品として製作中であつた「鎌倉美術」が完成した。

○松方コレクションの日本返還問題起る 戦後、在外資産としてフランス政府の管理下におかれていた松方コレクションは日仏文化協定の成立を機に、フランス側の好意で近く日本に返還されることが明らかになつた。然し条件として、同コレクションはすでに個人のものではなく、仏政府管理のものであるからフランス文化を日本に紹介するものとして一般に公開し、日本政府の責任で保存、展覧に必要な美術館を新たに設置することが日本政府に要望されている。それで文部省では来年度予算に一五、〇〇〇万円を計上して美術館の新設を計画、三日の次官会議で「フランス美術館設置準備協議会」(仮称)を設けることを決定、四日の閣議にはかつた上フランス政府に正式回答することになつた。

〔附 表〕

新指定国宝一覽

国宝目録 第四集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和二十八年三月国宝に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した国宝の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古資料、建造物である。

一、この目録に収録した国宝は、第四次指定によるもので、なお将来の指定をまつて目録編集の完璧を期している。

昭和二十八年三月

文化財保護委員会

絵画の部

名	称	員数	所 有 者
紙本墨画瀟湘卧遊図	章深の跋に「舒城李生作」とある 乾道六、七年の葛郊等九人の跋がある	一卷	国(文化財保護委員会保管)
紙本墨画秋冬山水図	雪舟筆	二幅	国(東京国立博物館保管)
紙本着色観楓図	狩野秀頼筆 六曲屏風	一隻	同 右
紙本淡彩隨身庭騎絵巻	岡中に「明治元年十月院御隨身」とある	一卷	東京都千代田区二番町七ノ七 大倉喜七郎
紙本着色花下遊楽園	狩野長信筆 六曲屏風(右隻の二扇を欠く)	一双	同 品川区北品川三ノ三三 原 邦 造

彫刻の部

紙本墨画五部心観(完本)	〔紙本墨画五部心観(完本) 円珍の大中九年の奥書がある〕	二卷	滋賀県大津市園城寺町 園 城 寺
絹本着色大燈国師像	建武元年の自賛がある	一幅	京都府京都市上京区紫野大徳寺町 大 徳 寺
紙本着色後鳥羽天皇像	伝藤原信実筆	一幅	大阪府三島郡島本町大字広瀬水無瀬神宮
絹本着色山越阿弥陀図		一幅	兵庫県芦屋市平田町五九 上 野 精 一
絹本着色聖徳太子及天台高僧像		十幅	同 加西郡下里村大字阪本 一 乗 寺
絹本着色俱舍曼荼羅図		一幅	奈良県奈良市雑司町 大 東 寺
紺綾地金銀泥絵両界曼荼羅図	(子島曼荼羅)	二幅	同 高市郡高取町大字観寛 寺 子 島 寺
紙本着色粉河寺縁起		一卷	和歌山県那賀郡粉河町大字粉 河 粉 河 寺

名	称	員数	所 有 者
木造薬師如来坐像		一軀	神奈川県鎌倉市深沢町笛田 財団 長 尾 美 術 館
木造十一面観音立像(観音堂安置)		一軀	滋賀県伊香郡南富永村大字渡 岸 寺 向 源 寺
木造千手観音立像(所在講堂)		一軀	京都府京都市右京区太秦蜂岡 町 広 隆 寺
木造十二神将立像(伝長勢作)		十二軀	同 同
木心乾漆十一面観音立像(本堂安置)		一軀	同 綴喜郡田辺町大字普賢 寺 観 音 寺
木造法相六祖坐像	康慶作 (所在南円堂)	六軀	奈良県奈良市登大路町 興 福 寺

塑造十二神將立像 <small>(宮毘羅大將像を除く)</small> 附 木造台座裏棧 <small>(所在本堂)</small> 二枚 各に天平の墨書がある	十一軀	奈良県奈良市高畑町福井寺 新薬師寺
木造 <small>梵天</small> 立像 <small>(所在金堂)</small> 帝釈天 各の台座に戯画がある	二軀	同 五条町 唐招提寺
木造四天王立像 <small>(所在金堂)</small>	四軀	同 同 右
銅造阿弥如来及両脇侍像	三軀	同 生駒郡斑鳩町大字法隆寺
木造厨子 <small>(伝橘夫人念持仏)</small>	一具	同 寺 法隆寺
木造釈迦如来及両脇侍坐像 <small>(上堂安置)</small>	一基	同 同 右 寺
塑造道詮律師坐像 <small>(所在夢殿)</small>	一軀	同 同 右 寺

工藝品の部

孔雀文馨 建長二年正月日施入在銘	一面	岩手県西磐井郡平泉村地蔵院
太刀 銘貞光 附 絲巻太刀拵	一口	山形県鶴岡市家中新町酒井忠明
大太刀 銘備州長船輪光 貞治五年二月日 附 野太刀拵	一口	栃木県上都賀郡日光町二荒山神社
海獸葡萄鏡	一面	千葉県佐原市香取香取神宮
太刀 銘延吉 附 絲巻太刀拵 藍地菊紋金襴袋	一口	同 市川市大字市川新田一木村篤太郎
太刀 銘則房	一口	東京都中央区明石町五二青山孝吉
玳瑁天目茶碗	一口	同 築地四ノ六宮脇二郎
秋草文壺 神奈川県横浜市港区加瀬山出土	一口	同 港区芝三田二丁目慶応義塾

新指定国宝一覽(工藝品の部)

刀 <small>金象嵌銘長谷部国重本阿花押(名物)</small> 附 打刀拵	一口	同 赤坂福吉町 黒田長礼
太刀 銘吉房 附 打刀拵	一口	同 世田谷区喜多見町二〇 石島護雄
太刀 銘国行	一口	同 練馬区江古田一八七二 藤沢乙安
片輪車蒔絵螺鈿手箱	一合	同 板橋区常磐台一ノ二九 小倉礼三
金銅宝相華文馨	一面	福井県坂井郡三国町 滝谷寺
金銅蓮花文馨	一面	京都府京都市左京区水観堂町 禪林寺
短刀 銘国光	一口	同 上京区小山中溝 新村出
海賦蒔絵袈裟箱	一合	同 大宮西入ル九条町 教王護国寺
太刀 銘備前国吉岡住左近将監紀助光 南无八幡大菩薩 元享二年三月日 南无妙見大菩薩	一口	大阪府大阪市城東区左専道町 六九三 田中儀之助
劍 無銘 附 黒漆宝劍拵	一口	同 野山 南河内郡長野町大字天 金剛寺
銀装革帯	一条	同 道明寺町
玳瑁装牙櫛	一枚	同 道明寺天満宮
牙笏	一枚	
犀角柄刀子	一口	
伯牙弹琴鏡	一面	
青白磁円硯 伝菅公遺品	一面	
白絲威鏡 兜、大袖付	一領	鳥根県篠川郡日御碕村 日御碕神社
禽獸葡萄鏡	一面	愛媛県越智郡宮浦村 大山祇神社
大太刀 銘貞治五年丙午千手院長吉	一口	同 同 右

書跡の部	名	称	員数	所	有	者
紫綾威鏡	大袖付		一領	愛媛県越智郡宮浦村	大山祇神社	
太刀銘助真			一口	福岡県八女郡豊岡村	中島典三郎	
鎌刀	銘一備劬吉岡住左近將監紀助光 元応二年庚申十一月日		一口	大分県別府市上田の湯	浅原健三	
孔雀文馨	彌勒寺金堂承元三季八月五日奉鑄法 印祐清在銘		一面	同	宇佐郡駅館村 北主	
馮子振墨蹟	与無隠元晦詩		一幅	国(東京国立博物館保管)		
観世音寺資財帳	延喜五年十月一日勘録		三卷	国(東京藝術大学保管)		
延曆交替式	紙背南天竺般若悉曇十八章		一卷	滋賀県大津市石山寺辺町	石山寺	
越中国官倉納穀交替記残卷	紙背伝三昧耶戒私記		一卷	同	同	右
周防国玖珂郡玖珂郷延喜八年戸籍残卷	紙背金剛界入曼荼羅受三昧耶戒行儀		一卷	同	同	右
六祖惠能伝	貞元十九年二月十三日奥書		一卷	同	坂本本町 延曆寺	
類聚古集			十六帖	京都府京都市下京区堀川通花 屋町下ル本願寺前町	大谷光照	
伝藤原行成筆書卷			一卷	同	中京区寺町通御 池下ル本能寺前町	本能寺
龜山天皇宸翰禪林寺御起願文案	(永仁七年三月五日)		一卷	同	左京区南禪寺福 地町	南禪寺
附南禪寺領諸国所々紛失御判物帖一帖			一卷	同	右京区太秦蜂岡 町	廣隆寺
廣隆寺縁起資財帳			一卷	同	同	廣隆寺

考古資料の部	名	称	員数	所	有	者
廣隆寺資財交替実録帳			一卷	京都府京都市右京区太秦蜂岡	町	廣隆寺
古林清茂墨蹟	月林道号 泰定四年三月望日		一幅	同	梅津中村町	寺
大手鑑	第一帖百三十九葉 第二帖百六十八葉		二帖	同	宇多野上谷町	寺
熊野懷紙	後鳥羽天皇宸翰 藤原家隆、寂蓮筆		三幅	同	財団法人 陽明文庫	右
觀心寺縁起資財帳	元慶七年九月十五日勘録		一卷	大阪府南河内郡川上村大字寺	元	觀心寺
日本靈異記上卷	延喜四年五月十九日書写奥書 紙背金藏要集論卷第六		一卷	奈良県奈良市登大路町	觀心寺	
金光明最勝王經	(天平宝字六年二月八日百濟豊虫願 經)		十卷	同	生駒郡伏見町大字西大	寺
大毗盧遮那成佛神變加持經	(天平神護二年十月八日吉備由利 願經)		七卷	同	同	西大寺
南海寄歸内法伝卷第一、第二			二卷	之内	山辺郡丹波市町大字柚 天理大学図書館	
山科西野山古墳出土品				国(京都大学保管)		
一、金装大刀残闕			一口			
附帶草部金具			四箇			
一、革帶筋石残片			一括			
附金銀			一括			
一、金銀平腕双鳳文鏡			一面			
附鏡蓋残片			二箇			
一、刀子残闕			一口			
一、鐵板			一口			
一、瓦硯殘闕			二枚			
一、陶製水滴			一口			
一、鐵釘			一口			

番号	名	称	員数	構造	及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	瑞	巖寺 (本堂 元方丈)	一棟	桁行十三間、梁間右側面九間、左側面八間、一重、入母屋造、本瓦葺、玄關附屬する 棟札 各慶長十四年己酉三月二十六日の記がある		瑞巖寺	宮城県宮城郡松島町大字松島	宮城県宮城郡松島町大字松島
二	善	光寺本堂	一棟	桁行十四間、梁間五間、一重もこし附、撞木造、妻入、正面向拜三間、軒唐破風附、両側面向拜各二間、総檜皮葺 附 三間厨子、寄棟造、本瓦形板葺		善光寺	長野県長野市大字長野元善町	長野県長野市大字長野元善町
三	大	法寺三重塔	一基	三間三重塔婆、檜皮葺		大法寺	長野県小県郡浦里村大字当郷	長野県小県郡浦里村大字当郷
四	神	本明宮 殿 中 門(前殿)	二棟	桁行三間、梁間二間、神明造、檜皮葺 四脚門、切妻造、檜皮葺 釣屋これらに附屬		神明宮	長野県北安曇郡社村字宮本	長野県北安曇郡社村字宮本
五	園	城寺金堂	一棟	桁行七間、梁間七間、一重、入母屋造、向拜三間、檜皮葺 附 厨子 三間厨子、入母屋造、檜皮葺		園城寺	滋賀県大津市園城寺町	滋賀県大津市園城寺町
六	園	城寺新羅善神堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、流造、向拜一間、檜皮葺 附 須弥壇及び厨子一具 厨子一間厨子、宝形造、板葺		園城寺	滋賀県大津市園城寺町	滋賀県大津市園城寺町

建造物の部

大和国粟原寺三重塔伏鉢
和銅八年四月在銘
伯耆一宮経塚出土品
一、銅経筒
康和五年十月三日伯耆一宮辰巳
岳上奉埋納在銘
一、金銅観音菩薩立像
一 軀

奈良県磯城郡多武峯村
談山神社
鳥取県東伯郡倉人村大字宮内
倭文神社

銅造千手観音菩薩立像
銅板線刻弥勒立像
檜扇残片
短刀子残闕
琉璃玉
銅錢
漆器残片
一 二 一 一 一 一 一 一
括 括 括 括 括 括 括 括
枚 枚 括 括 括 括 括 括

七	延曆寺根本中堂	一棟	桁行十一間、梁間六間、一重、入母屋造、瓦棒入銅板葺 附 須弥壇及び宮殿三具 中央宮殿、三間宮殿、入母屋造、妻入、正面軒唐 破風附、とち葺 両脇宮殿、各二間宮殿、入母屋造、妻入、とち葺	滋賀県大津市坂本本町
八	長寿寺本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、向拜三間、檜皮葺 附 厨子 一基 一間春日厨子、板葺	滋賀県甲賀郡石部町大字東寺
九	常楽寺本堂	一棟	桁行七間、梁間六間、一重、入母屋造、向拜三間、檜皮葺 附 厨子 一基 一間厨子、寄棟造、板葺	滋賀県甲賀郡石部町大字西寺
十	常楽寺三重塔	一基	三間三重塔婆、本瓦葺 附 九瓦及び平瓦 各一箇 各応永七年五月の宛書がある	滋賀県甲賀郡石部町大字西寺
十一	都久夫須麻神社本殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、前後軒唐破風附 周匝庇及び正面向拜一間附、総檜皮葺 附 棟札 一枚 建立慶長七年壬子年九月六日の記がある	滋賀県東浅井郡竹生村大字早崎
十二	宝厳寺唐門	一棟	一間一戸向唐門、檜皮葺 附 棟札 一枚 修營慶長八季卯癸六月の記がある	滋賀県東浅井郡竹生村大字早崎
十三	賀茂別雷神社	二棟	三間社流造、檜皮葺 三間社流造、檜皮葺 三間社流造、檜皮葺	京都府京都市上京区上賀茂
十四	本願寺唐門	一棟	四脚門、前後唐破風造側面入母屋、檜皮葺	京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
十五	本願寺北能舞台	一棟	舞台、桁行一間、梁間一間、一重、正面入母屋造、背面切妻造、脇座、庇造、葺きおろし、檜皮葺、後座、桁行一間、梁間一間、片流、こけら葺、橋掛、桁行三間、梁間一間、一重、両下造、檜皮葺	京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
十六	教王護国寺金堂	一棟	桁行五間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 一枚 修造慶長八季卯癸五月如意珠日の記がある	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町

十七	豊国神社唐門	一棟	四脚門、前後唐破風造側面入母屋、檜皮葺	豊国神社	京都府京都市東山区正面通本町東入ル茶屋町	京都府京都市東山区正面通本町東入ル茶屋町
十八	賀茂御祖神社	二棟	三間社流造、檜皮葺 三間社流造、檜皮葺 八角祠堂、一重、檜皮葺 附 厨子、春日厨子、宝形造、板葺 八角造、春日厨子、一基	賀茂御祖神社	京都府京都市左京区下鴨宮河町	京都府京都市左京区下鴨宮河町
十九	広隆寺桂宮院本堂	一棟	桁行正面三間、背面四間、梁間三間、正面一間通り庇、一重、入母屋造、妻入、庇葺きおろし、向拝一間、こけら葺 附 棟札 二枚 永正拾六年己卯二月十四日の記があるもの 奉修理石水院宝殿一字于時寛永十四年七月吉日の記があるもの	広隆寺	京都府京都市右京区太秦蜂岡町	京都府京都市右京区太秦蜂岡町
二十	高山寺石水院(五所堂)	一棟	棟札 二枚 永正拾六年己卯二月十四日の記があるもの 奉修理石水院宝殿一字于時寛永十四年七月吉日の記があるもの	高山寺	京都府京都市右京区梅ヶ畑梅尾町	京都府京都市右京区梅ヶ畑梅尾町
二十一	般若寺樓門	一棟	一間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺 桁行一間、梁間一間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 一枚 于時延享二乙丑年冬十月十七日乙卯の記がある	般若寺	奈良県奈良市般若寺町	奈良県奈良市般若寺町
二十二	東大寺鐘樓	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、本瓦葺 附 須弥壇及び厨子一具 須弥壇 八角造 厨子 八角造、春日厨子、宝形造、板葺	東大寺	奈良県奈良市雜司町	奈良県奈良市雜司町
二十三	東大寺開山堂	一棟	桁行三間、梁間二間、校倉、寄棟造、木瓦葺	東大寺	奈良県奈良市雜司町	奈良県奈良市雜司町
二十四	東大寺本坊経庫	一棟	桁行四間、梁間四間、一重、切妻造、本瓦葺	東大寺	奈良県奈良市雜司町	奈良県奈良市雜司町
二十五	極楽院禅室	一棟	一間社春日造、檜皮葺 一間社春日造、檜皮葺 一間社春日造、檜皮葺	極楽院	奈良県奈良市中院町	奈良県奈良市中院町
二十六	円成寺	二棟	三間一戸入脚門、入母屋造、本瓦葺 附 旧棟木 一本 上棟永享十年戊午十一月十九日の記がある 棟札 一枚 修營慶長十一曆丙午八月吉祥日の記がある	円成寺	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山	奈良県添上郡大柳生村大字忍辱山
二十七	法隆寺南大門	一棟		法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺	奈良県生駒郡斑鳩町大字法隆寺

二十八	長保寺本堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 厨子 一基 一間厨子、本瓦形板葺	長保寺	和歌山県海草郡下津村大字上	和歌山県海草郡下津村大字上
二十九	長保寺多宝塔	一基	三間多宝塔、本瓦葺	長保寺	和歌山県海草郡下津村大字上	和歌山県海草郡下津村大字上
三十	長保寺大門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、本瓦葺 附 扁額 一面 応永廿四年六月一日の記がある	長保寺	和歌山県海草郡下津村大字上	和歌山県海草郡下津村大字上
三十一	善福院釈迦堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、寄棟造、総本瓦葺 桁行五間、梁間五間、一重、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 二枚	善福院	和歌山県海草郡加茂村大字梅田	和歌山県海草郡加茂村大字梅田
三十二	浄土寺本堂	一棟	上棟嘉暦二年卯丁四月十一日の記があるもの 一 一 修補正徳二年壬辰四月十一日の記があるもの 一 厨子 一基 一間春日厨子、板葺	浄土寺	広島県尾道市尾崎町	広島県尾道市尾崎町
三十三	浄土寺多宝塔	一基	三間多宝塔、本瓦葺	浄土寺	広島県尾道市尾崎町	広島県尾道市尾崎町
三十四	明王院五重塔	一基	三間五重塔婆、本瓦葺	明王院	広島県福山市草戸町	広島県福山市草戸町
三十五	大宝寺本堂	一棟	桁行三間、梁間四間、一重、寄棟造、本瓦葺 附 厨子 一基 三間厨子、正面軒唐破風附、こけら葺 棟札 一枚 再興貞享式乙丑年林鐘十二日の記がある	大宝寺	愛媛県松山市南江戸町	愛媛県松山市南江戸町
三十六	崇福寺大雄宝殿	一棟	桁行五間、梁間四間、二重、入母屋造、本瓦葺	崇福寺	長崎県長崎市今籠町	長崎県長崎市今籠町
三十七	崇福寺第一峰門	一棟	四脚門、入母屋造、本瓦葺	崇福寺	長崎県長崎市今籠町	長崎県長崎市今籠町
三十八	大浦天主堂	一棟	ゴシック式五側廊教堂、棧瓦葺、北端八角尖塔附	大浦天主堂	長崎県長崎市南山手町乙一	長崎県長崎市南山手町乙一

国宝目録 第五集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)により、昭和二十八年十一月国宝に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した国宝の種類は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古資料、建造物である。
- 一、この目録に収録した国宝は、第五次指定によるもので、なお将来の指定をまつて目録編集の完璧を期している。

昭和二十八年十一月
文化財保護委員会
絵画の部

名	称	員数	所 有 者
紙本著色餓鬼草紙 絹本著色十六羅漢像	一卷 十六幅	国(文化財保護委員会保管) 国(東京国立博物館保管)	
紙本墨画淡彩山水図(伝周文筆) 文安二年心田清播等三僧の賛がある	一幅	一 東京港区芝白金今里町一二 一 藤原銀次郎 一 赤坂青山南町六ノ	
紙本墨画禅機図断簡(因陀羅筆) 楚石梵琦の賛がある	一幅	一 同 根津美術館 一 財団法人	
絹本著色鷄図 「雄華室印」の印がある	一幅	同	
紙本墨画淡彩周茂叔愛蓮図(狩野正信筆)	一幅	同 渋谷区南平台町六 中村富次郎	
紙本墨画禅機図断簡(因陀羅筆) 楚石梵琦の賛がある	一幅	同 世田谷区岡本町九二 財団法人 静 嘉 堂	
紙本墨画禅機図断簡(寒山拾得図) 楚石梵琦の賛がある	一幅	同 神奈川県小田原市幸町一丁目 浅野長武	

新指定国宝一覽(絵画、彫刻の部)

絹本著色達磨図 蘭溪道隆の賛がある	一幅	山梨県東山梨郡塩山町大字上於會
白描絵料紙墨書金光明経 卷第三 建久三年四月書写の奥書がある	一卷	京都府京都市上京区西賀茂神光院町
絹本著色十二天像(伝宅間勝賀筆) 六曲屏風	一双	同 大宮西入ル九条町 教王護国寺
絹本著色両界曼荼羅図(伝真言院曼荼羅)	二幅	同 同 右
紙本著色花園天皇像(豪信筆) 應元元年の宸翰記文がある	一幅	町 同 右京区梅津中村 長福寺
絹本著色善女龍王像(定智筆)	一幅	同 野山 和歌山県伊都郡高野町大字高野山 金剛峯寺
絹本著色伝船中湧現観音像	一幅	同 同 右 龍光院
紙本墨画淡彩山水図(雪舟筆) 牧松周省並に永正四年了庵桂悟の賛がある	一幅	岡山県倉敷市新川町一〇〇二 大原総一郎
紙本墨画禅機図断簡(丹霞梵公図) 楚石梵琦の賛がある	一幅	福岡県久留米市京町 石橋徳次郎

名	称	員数	所 有 者
木造薬師如来及両脇侍像(薬師堂安置)	三軀	京都府京都市伏見区醍醐東大路町	
銅造釈迦如来坐像(本堂安置)	一軀	同 相楽郡棚倉村大字綺田	
木造四天王立像	四軀	同 加茂町大字西小	
木造十二神将立像(所在東金堂) 波夷羅大將像の足柄に「建永二年四月廿九日彩色了 珊瑚羅大將像の足柄に「衆阿弥」の銘がある	十二軀	奈良県奈良市登大路町 興福寺	

工藝品の部		名	称	員数	所	有	者
		板彫十二神將立像		十二面		同	右
		乾漆葉師如来坐像(西円堂安置)		一軀	同	生駒郡斑鳩町法隆寺	右
		木造地藏菩薩立像		一軀	同	法隆寺	右
		赤絲威鏡 兜、大袖付		一領	青森県三戸郡館村大字八幡	八幡	宮
		附 唐櫃					
		白絲威袂取鏡 兜、大袖付		一領	同	同	右
		附 唐櫃					
		線刻千手觀音等鏡像		一面	秋田県仙北郡豊川村大字豊受	水神	社
		銘 仏師僧崇紀、大趣具主延曆僧仁祐在					
		太刀 銘国宗		一口	東京都中央区明石町五二	青山	孝吉
		短刀 銘備州長住長重		一口	同	港区芝公園八号地三	本阿弥猛夫
		附 甲戌 腰刀拵					
		短刀 銘則重		一口	同	文京区関口台町二六	細川護立
		短刀 銘筑州住左		一口	同	西原町二ノ四一	比毛 関
		附 腰刀拵					
		太刀 銘貞次		一口	同	新宿区下落合二ノ八四	岡野多郎松
		梵鐘		一口	神奈川縣鎌倉市山ノ内	円覚	寺
		銘 円覺寺鐘、正安三年八月、大檀那平					
		貞時 住持宋西澗子曇、大工大和権					
		守物部国光在銘					
		梵鐘		一口	同	建長寺	
		銘 建長寺鐘、建長七年二月廿一日、大					
		檀那平時頼、住持宋沙門道隆題、大					
		工大和権守物部重光在銘					

		太刀 銘備前国長船住近景		一口	静岡県静岡市二番町三十番地	水野米太郎	
		喜歴四年□月日					
		横被 佛陀敷糸袈裟		一領	京都府京都市下京区四ツ塚通	大宮西入ル九条町	教王護国寺
		附 修多羅及組紐 二条		一領			
		梵鐘		一口	同	左京区岩倉上藏町	大雲寺
		銘 延曆寺西宝幢院鐘、天安二年八月九					
		日鑄在銘					
		仏功德菩薩絵経箱		一合	大阪府大阪市都島区網島町四	財団法人 藤田美術館	右
		曜変天目茶碗		一口	同	同	右
		太刀 銘正恒		一口	同	城東区左専道町六九三	田口儀之助
		短刀 銘来国俊		一口	同	南河内郡天見村清水一	七九
		太刀 銘安家		一口	兵庫県河辺郡西谷村字長尾山	二ノ一七	谷野弥太郎
		籠手		一双	奈良県奈良市春日野町	春日野大	社
		金銅透彫舍利塔		一基	同	生駒郡伏見町大字西大	西大寺
		舍利瓶		五具			
		鐵宝塔		一基	同	同	右
		銘 西大寺沙門寂傳、弘安七年八月七日造					
		畢 大工藤原宗安在銘					
		附 木箱					
		銘 西大寺鉄塔五瓶箱、住持沙門高実					
		大永五年六月日在銘					
		梵鐘		一口	福岡県筑紫郡水城村	觀世音	寺

短刀銘吉光 附 腰刀拵	一口	福岡県山門郡城内村大字新外町一	立花和雄
----------------	----	-----------------	------

書跡の部

名	称	員数	所 有 者
大慈宗某墨蹟尺牘 四月八日		一幅	東京都港区芝白金猿町一六七 畠山一清
類聚国史 卷第六十五、第六十七、 第七十七、第七十九		四卷	東京都目黒区駒場町 財団法人 前田育徳会
水左記 自筆本		二卷	同 右
北山抄		十二卷	同 右
西方指南抄 親鸞筆 附 覚信等直門弟写本		六冊	三重県河藝郡一身田町 専修寺
三帖和讃 親鸞筆		三冊	同 右
春秋経伝集解卷第廿六残卷 紙背四分戒本		二卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺
春秋経伝集解卷第廿九残卷 紙背真言儀軌		一卷	同 右
真草千字文		一帖	京都市左京区鹿ヶ谷宮 /前町 小川 広 巳
宋高宗書徽宗文集序 胡三省 文徵明等跋		一卷	同 右
大燈国師墨蹟 印可状 元徳二年仲夏上澣		一幅	同 寺町 右京区花園妙心 寺
深窓秘抄(百一首)		一卷	大阪府大阪市都島区網島町四 ○ 財団法人 藤田 美術館
宝簡集 純宝簡集 又純宝簡集		五十八卷、 五十四卷、 十八冊、 三十冊	和歌山県伊都郡高野町大字高 野山 金剛峯寺

新指定国宝一覽(書跡、考古資料の部)

文館詞林殘卷	十二卷	同 右	同 正智院
文館詞林殘卷	一卷	同 右	同 宝寿院
一字一仏法華經序品	一卷	香川県仲多度郡普通寺町普通 寺	善通寺
誓願寺孟蘭盆縁起 栄西筆 治承二年七月十五日 附 誓願寺建立縁起 一卷	一卷	福岡県福岡市今津町 誓願寺	誓願寺

考古資料の部

名	称	員数	所 有 者
石幢 延文六季七月在銘		一基	東京都立川市柴崎町 普濟寺
銅板法華經 康治元年九月廿四日書寫畢在銘 三十三枚		一口	福岡県築上郡岩屋村 国玉神社
奉彫銅如法妙法蓮華經一部、求菩提 供養畢、康治元年十月廿一日在銘 福岡県築上郡求菩提山出土 附 発掘関係書類 一通		一口	奈良県山辺郡波市町大字布 留 石上神宮
七支刀 泰□四年□月十一日在銘		一口	同

建造物の部

番号	名	称	員数	構造及 び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	明通寺	本堂	一棟	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拜一間、こけら葺	明通寺	福井県速敷郡松永村大字門前	福井県速敷郡松永村大字門前
二	明通寺	三重塔	一基	三間三重塔婆、こけら葺(現在棧瓦仮葺)	明通寺	福井県速敷郡松永村大字門前	福井県速敷郡松永村大字門前
三	南禅寺	方丈	一棟	大方丈及び小方丈よりなる内陣、御厨の間、鳴滝の間、麝香の間、鶴の間、西の間、柳の間、六疊、狭屋の間、広縁よりなる、一重、入母屋造、こけら葺、虎の間三室、九疊、六疊、二十疊、広縁よりなる、一重、背面切妻造、前面大方丈に接続、こけら葺	南禅寺	京都府京都市左京区南禅寺福地町	京都府京都市左京区南禅寺福地町
四	仁和寺	金堂	一棟	桁行七間、梁間五間、一重、入母屋造、向拜一間、本瓦葺	仁和寺	京都府京都市右京区花園妙心寺町御室大内	京都府京都市右京区花園妙心寺町御室大内
五	住吉大社	本殿	四棟	本殿は第一殿より第四殿に至る四棟よりなる各棟住吉造、檜皮葺 附 瑞垣及び門 各殿四周二十一間	住吉大社	大阪府大阪市住吉区住吉町	大阪府大阪市住吉区住吉町
六	孝恩寺	観音堂	一棟	桁行五間、梁間五間、一重、寄棟造、本瓦葺	孝恩寺	大阪府貝塚市木積	大阪府貝塚市木積
七	桜井神社	拜殿	一棟	桁行五間、梁間三間、一重、切妻造、本瓦葺(背面向拜を除く)	桜井神社	大阪府泉北郡上神谷村大字片蔵	大阪府泉北郡上神谷村大字片蔵
八	慈眼院	多宝塔	一基	三間多宝塔、檜皮葺 附 仏壇 一基 二重仏壇、擬宝珠高欄及び後壁附	慈眼院	大阪府泉南郡日根野村大字日根野	大阪府泉南郡日根野村大字日根野
九	唐招提寺	鼓樓	一棟	桁行三間、梁間二間、楼造、入母屋造、本瓦葺 附 厨子 一基 一周厨子、宝形造、板葺	唐招提寺	奈良県奈良市五条町	奈良県奈良市五条町
十	唐招提寺	経蔵	一棟	桁行三間、梁間三間、校倉、寄棟造、本瓦葺	唐招提寺	奈良県奈良市五条町	奈良県奈良市五条町
十一	秋篠寺	本堂	一棟	桁行五間、梁間四間、一重、寄棟造、本瓦葺	秋篠寺	奈良県生駒郡平城村大字秋篠	奈良県生駒郡平城村大字秋篠
十二	長弓寺	本堂	一棟	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺 附 旧棟木 三本 棟上弘安二年己卯二月廿五日の墨書がある	長弓寺	奈良県生駒郡北倭村大字上	奈良県生駒郡北倭村大字上

十三	靈山寺本堂	一棟	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拜一間、本瓦葺 附棟札 棟上私安六年未十一月四日の記がある	靈山寺	奈良県生駒郡富雄村大字中	奈良県生駒郡富雄村大字中
十四	金峯山寺本堂	一棟	桁行五間、梁間六間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺 三間一戸二重門、入母屋造、本瓦葺 附風鐸 康正二丙子九月日の刻銘がある	金峯山寺	奈良県吉野郡吉野町大字吉野	奈良県吉野郡吉野町大字吉野
十五	金峯山寺二王門	一棟	桁行七間、梁間六間、一重、入母屋造、本瓦葺 附壁書 延宝二年四月朔日の記がある	金峯山寺	奈良県吉野郡吉野町大字吉野	奈良県吉野郡吉野町大字吉野
十六	閑谷覺講堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重もこし附、入母屋造、檜皮葺 附玉殿 九間社流造、正面五ヶ所千鳥破風附、檜皮葺 各一間玉殿、入母屋造、妻入、檜皮葺 棟札 五枚	池田宣政	東京都港区芝高輪南町六〇番地	岡山県和气郡伊里村大字閑谷
十七	功山寺仏殿	一棟	上葺安永四年未十月十七日の記があるもの 葺宮殿文化十三丙子閏八月九日の記があるもの 葺宮殿一字嘉永三二月吉日の記があるもの 葺宮殿文久二閏八月吉日の記があるもの	功山寺	山口県下関市長府町	山口県下関市長府町
十八	住吉神社本殿	一棟		住吉神社	山口県下関市一宮町	山口県下関市一宮町

重要文化財一覽

重要文化財目録 第三集

凡 例

一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十七年十一月(建造物の部一より十まで)、および昭和二十八年三月、重要文化財に指定された物件を収録した。

一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古資料、建造物である。

一、この目録に収録したものは、重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された重要美術品等あるいは未指定の物件を、保護法施行後新たに重要文化財として指定したものの外、すでに指定されているものに重要美術品等認定物件又は未指定のものを加えて一件の重要文化財として名称を変更したものを含んでいる。

昭和二十八年三月

文化財保護委員会

絵 画 の 部

名	称	員数	所 有 者
紙本著色兎道朝暾図	青木木米筆 甲申仲秋の年記がある	一幅	国(文化財保護委員会保管)
紙本墨面蜆子和尚図	可翁筆	一幅	国(東京国立博物館保管)
紙本金地著色洛中洛外	狩野永徳筆 六曲屏風	一雙	山形県米沢市南堀端町三五 上杉隆憲

紙本著色紫式部日記絵詞殘闕
東京都中野区千光前町
大倉 龜

紙本著色絵因果経
繪慶忍並聖衆丸筆
卷第四
建長六年二月二十七日の奥書がある
港区芝田村町一ノ三
増田 源三

絹本著色華嚴五十五所絵
一面
芝西久保城山町九
佐々木茂索

紙本著色洋人奏楽図
六曲屏風
一雙
世田谷区田園調布二ノ
七〇一
財団
東明美術保存会

紙本墨面四州真景図
渡辺壘山筆
文政八年の年一
記がある
四卷
愛知県豊橋市花園町
田中 平六

紙本著色四州真景図
渡辺壘山筆
三

絹本著色中峰和尚像
自賛がある
一幅
京都府京都市上京区御前通西
裏北町 選 仏 寺

紙本墨面出山釈迦図
一
紙本墨面梅花図
二
各幅に白雲惠暁の賛がある
三幅
同
福寺北門前東町十五丁目
栗 棘 菴

絹本著色六代祖師像
各幅に西闍子曇の賛がある
六幅
同
寺町 右京区花園妙心
寺

絹本著色華嚴五十五所絵
二面
大阪府大阪市都島区網島町四
財団
藤田美術館

紙本著色紫式部日記絵詞
一卷
兵庫県神戸市葺合区熊内町一
丁目 同 右

紙本金地著色泰西王侯騎馬図
四曲屏風
一隻
市立神戸美術館

紙本墨面維摩図
因陀羅筆
普門の賛がある
一幅
同
東灘区御影町郡
村 山 長 拳

紙本淡彩群猿図
長沢蘆雪筆
襖貼付八、壁貼付三
十一面
同
城崎郡香住町大字森
大 乘 寺

絹本著色華嚴五十五所絵
十面
奈良県奈良市雑司町
大 寺

紙本墨面五部心観
承安三年の奥書がある
一卷
和歌山県伊都郡高野町大字高
野山 西 南 院

彫刻の部

名	称	員数	所有者
大造五大菩薩坐像 (中尊像を除く) (講堂安置)		四軀	京都府京都市下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町 教王護国寺
大造梵天坐像 (講堂安置)		二軀	同 右

工製品の部

名	称	員数	所有者
鉢銅梅竹文透釣燈籠 千葉寺 愛染堂 天文十九年七月十八日在銘		一箇	国(東京国立博物館保管)
古瀬戸黄釉蓮花唐草文四耳壺		一口	同 右
朱塗金蛭巻大小拵		一腰	同 右
太刀 銘備州長船秀光 応安二二年十月日		一口	岩手県二戸郡浄法寺町 佐藤四郎
鉢銅梅竹文透釣燈籠 下野国阿曾郡日向寺観音堂 天文十四年十二月在銘		一箇	栃木県佐野市犬伏町富岡 観音堂
刀 額銘国俊		一口	群馬県高崎市山田町九 樋山吉太郎
古瀬戸黄釉狛犬		一对	千葉県佐原市香取 神宮
短刀 銘来国光		一口	東京都千代田区須田町二丁目 筒井源吉
太刀 銘備州長船基光		一口	港区麻布今井町 三井高公
短刀 銘光包		一口	同 麻布飯倉片町二五 松平康昌
蓮池文磬		一面	同 麻布広尾町一六 安田
花白河蒔絵硯箱		一合	同 赤坂青山南町六ノ一 財団法人根津美術館

重要文化財一覽(彫刻、工製品の部)

太刀 銘備州長船景光 嘉元二二年十月日	銘助茂	一口	東京都文京区関口台町二六 細川護立
太刀 銘助茂 附 糸巻太刀拵		一口	同 渋谷区代々木 明治神宮
短刀 銘国光		一口	同 新宿区下落合二丁目 遠藤士一
短刀 無銘信国		一口	同 太田区千束町一九一 板屋胤雄
梵鐘 陳太建七年十二月十九日在銘		一口	同 世田谷区赤堤町ノ三 井上源太
太刀 銘真守造		一口	同 神奈川県小田原市幸町一 浅野長武
古瀬戸黄釉巴文壺		一口	同 鎌倉市鎌倉山旭丘 梅沢彦太郎
太刀 銘大和国尻懸住則長作		一口	同 同 鎌倉山住吉 森栄一
花鳥文磬		一面	同 同 深沢町笛田 財団法人長尾美術館
孔雀文磬 建長三年四月日菅生寺在銘		一面	同 同 福井県坂井郡兵庫村 大善寺
太刀 銘了戒		一口	同 同 静岡県静岡市二番町三〇 水野米太郎
太刀 銘有綱		一口	同 同 愛知県名古屋市中昭和区山脇町四ノ三二 石井正輝
刀 折返銘有国		一口	同 同 三重県宇治山田市浦田町 神宮司庁
金銅唐草文磬		一面	同 同 滋賀県愛知郡角井村 百濟寺
草花文磬 銘文大悲山仁平四年八月五日		一面	同 同 京都府京都市左京区花背原地 峯定寺
〔權陀穀糸蓑袈 横被〕 附 修多羅及組紐 二条		一領	同 同 大宮西入ル九条町 教王護国寺
法会所用具類 無葉水引 鬘絵袍		六枚 二領	同 同 同 右

三十四点

舍利会装束 衣二領、袴二腰 康元二年三月日在銘	二組		
奚婁	一口		
鼓 台付	一口		
羯鼓 皮各二枚付	二口		
鼓胴	一口		
鉦鼓	一口		
奉施入東寺舍利安貞二年六月在銘	五兩		
木履	十三本		
東寺舍利会八部衆在銘	二枚		
持物 内七本建武元年在銘			
附 大鼓皮			
樂焼黒茶碗 長治郎作 銘大黒	一口	大阪府大阪市東区北浜二ノ四	鴻池善右衛門
緑地金襴手碗	五口	同	右
仏功德蒔絵経箱	一合	同 都島区網島町四〇	財団法人 藤田美術館
囉变天目茶碗	一口	同	右
色絵繪宝羯磨文香炉 仁清作 明曆三年銘	一口	同	右
白縁油滴天目鉢	一口	同	右
小太刀 銘国行	一口	同	右
草花孔雀文磬	一面	同 泉大津市助松松ノ浜	
無文磬	一面	同 細見亮	市
金銅蛭卷柄入峯斧 近江神照寺伝来	一柄	同	右
太刀 銘貞真	一口	同	右
附 糸巻太刀拵	一口	兵庫県芦屋市笹ヶ塚 瀬戸保太郎	

書跡の部	名	称	員数	所 有 者
刀 無銘長太郎	一口			兵庫県芦屋市打出春日町 財団法人 黒川古文化研究
多宝塔文磬	一面			奈良県生駒郡斑鳩町三井 法輪寺
無文磬 銘文東院	一面			同 法隆寺
綴織当麻曼茶羅図	一幅			同 北葛城郡当麻村 当麻寺
金銅蝶形磬	一面			和歌山県伊都郡高野町大字高 野山
赤絲威肩白鏡 兜、大袖付	一領			鳥根県鏡川郡大社町 出雲大社
小倉山蒔絵硯箱	一合			福岡県田川郡川崎町川崎 沖本友市
短刀 銘宇都宮大明神相模国住人広光 入幡大菩薩、文和五年卯月日	一口			同
紺絲威鏡 兜、大袖付	一領			鹿児島県姪良郡隼人町 鹿兒島神宮
色々威胴丸 兜、大袖付	一領			同
色々威胴丸 兜、大袖付	一領			同
唐詩残篇 紙背 白氏長慶集第廿二	一卷			東京都千代田区神田神保町一 ノ七 酒井宇吉
劍門妙深墨蹟 与聖一國師尺牘 淳祐己酉四月望日	一幅			同 中央区銀座西六ノ六 鉄工ビル内 常盤山文庫
断谿妙用墨蹟 白雲雅号傷 咸淳己巳	一幅			同 同 右
法華經授記品卷第六 (裝飾経)	一卷			同 世田谷区田園調布二ノ 七〇一 財団法人 東明美術保存会

無準師範墨蹟 (山門疏) (絹本)	大燈国師墨蹟 法語 元弘二年孟夏	宋版說文解字	宋版吳書	宋版南華真經注疏 (金沢文庫本)	宋版周礼 (蜀大字本)	宋版李太白文集	関白内大臣家歌合 保安二年九月十二日	兀庵普寧墨蹟 尺牘 咸淳壬申春	大鏡	親鸞聖人消息	西方指南抄 親鸞筆	附 覚信等直門弟写本 六冊	三帖和讃 親鸞筆	唯信鈔 聖覚作 親鸞筆	唯信鈔文意 親鸞筆	叡山大師伝	法花支賛義決 弘仁十年六月書写奥書	不空三蔵表制集卷第三
一幅	一幅	八冊	六冊	五冊	二冊	十二冊	一卷	一幅	六卷	十卷	六冊	三冊	二冊	二冊	一卷	一卷	一卷	
東京都世田谷区玉川上野毛町 一、二	同 ○一 玉川瀨田町五	同 財団 法人 静嘉堂	同 岡本町九一二	同	同	同	石川県能美郡山上村字宮竹三 ノ六。	静岡県熱海市東山一七二二 岡田茂吉	愛知県名古屋市中村区船入町 一ノ三	三重県河藝郡一身田町 専修寺	同 東松森三	同	同	同	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	同	同	
五島慶太	徳川罔順	同	同	同	同	同	宮本長則	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

大般若経音義中卷	奥入 藤原定家筆	宋拓輿地図	深窓秘抄(百一首)	法華経勸発品(裝飾経)	物初大観墨蹟 山隠語 咸淳戊辰春(絹本)	大燈国師墨蹟 七言偈	手鑑(百三十九葉)	一山一寧墨蹟 六祖偈	彌磨	彌沙塞彌磨本	日本書紀神代卷(上下) (吉田本) 乾元二年卜部兼夏奥書
一卷	一帖	二幅	一卷	一卷	一幅	一幅	一帖	一幅	二卷	一卷	二卷
滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺	京都府京都市上京区室町通今 出川上ル	同 東山区本町通十 五丁目東福寺北門前本町	○ 大阪府大阪市都島区網島町四	財団 藤田美術館	同	同	同	兵庫県神戸市東灘区佐吉町井 手口一六三七	奈良県奈良市雑司町 東大寺	同	同 山辺郡丹波市町大字柚之 内 天理大学図書館
大橋理祐	栗棘菴	同	同	同	同	同	同	乾豊彦	同	同	同

繩文式土瓶形土器	茨城県稲敷郡高田村椎塚貝塚出土
名	稱
一箇	員數
兵庫県西宮市鞍掛町 辰馬悦蔵	所 有 者

斐斐文銅鐸 福井県坂井郡大石村大字井向出土	一口	愛知県名古屋市中区葵町 富田重助
流水文銅鐸 福井県坂井郡大石村大字井向出土	一口	兵庫県西宮市鞍掛町 辰馬悦藏
流水文銅鐸 滋賀県野洲郡中洲村大字新庄出土	一口	岡山県倉敷市新川町 大原総一郎
豊前国京都郡石塚山古墳出土品 一、三角縁神獸鏡 一、銅鍔 一、刀劍類殘闕	七面 一本 一括	福岡県京都郡新田町大字馬場 宇原神社
画文帯四仏四獸鏡 長野県下伊那郡竜丘村御猿堂古墳出土	一面	長野県下伊那郡竜丘町 開善寺
画文帯四仏四獸鏡 千葉県君津郡清川村古墳出土	一面	京都府京都市中京区東洞院通 丸太町南下ル三本木町 守屋孝藏

漆金獸帯鏡 岐阜県揖斐郡豊木村大字野村城塚出土	一面	京都府京都市中京区東洞院通 丸太町南下ル三本木町 守屋孝藏
銅製船氏王後墓誌 戊辰年十二月殯葬於松岳山上在銘 大阪府南河内郡国分村松岡山出土	一面	東京都文京区水道町三五 三井高遂
鍍銀経箱 附一、金銅経箱台殘闕 一、紺紙金字無量義経殘闕 二紙 奈良県吉野郡金峯山経塚出土	一枚	奈良県吉野郡吉野町大字吉野 山 金峯神社
線刻威王権現鏡像 奈良県吉野郡金峯山経塚出土	一面	同 金峯山寺
銅印「印文「四王寺印」」	一顆	京都府京都市左京区聖護院中 積善院

建造物の部

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	神明社 観音堂	一棟	一間社入母屋造、妻入、向拜一間、唐破風造、こけら葺 附 厨子 一間社神明造、板葺	神明社	秋田県南秋田郡飯田川町飯塚	秋田県南秋田郡飯田川町飯塚
二	鳥居	一基	石造明神鳥居	佐藤武他八名	山形県南村山郡滝山村大字小立	山形県南村山郡滝山村大字小立
三	八幡神社 鳥居	一基	石造明神鳥居	八幡神社	山形県南村山郡堀田村大字成沢	山形県南村山郡堀田村大字成沢
四	引接寺 塔婆	一基	石造塔、十重 至徳三年丙寅八月二十二日の刻銘がある	引接寺	京都府京都市上京区千本通盧山寺上ル閻魔前町	京都府京都市上京区千本通盧山寺上ル閻魔前町
五	岩船寺 十三重塔	一基	石造十三重塔	岩船寺	京都府相模郡加茂町大字岩船	京都府相模郡加茂町大字岩船

十七	觀音寺觀音堂	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、こけら葺 附棟札 修覆嘉永四年四月十七日の記がある	觀音寺	山形県西置賜郡鮎貝村深山	山形県西置賜郡鮎貝村深山
十六	東照宮	四棟	桁行三間、梁間二間、一重、入母屋造、銅瓦葺 附厨子 一間厨子、入母屋造、妻入、正面軒唐破風附、とち葺 一間一戸平唐門、銅板葺 一周延長五十六間、棧瓦葺 石造明神鳥居 柱に承応三年甲午四月十七日の刻銘がある 附棟札一枚 造営承応三天甲午三月十七日の記がある	東照宮	宮城県仙台市北六番丁	宮城県仙台市北六番丁
十五	安楽寺多宝小塔	一基	三間多宝塔、本瓦形板葺	安楽寺	和歌山県有田郡城山村大字二川	和歌山県有田郡城山村大字二川
十四	青岸渡寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔、基壇附 元享二壬三月日の刻銘がある	青岸渡寺	和歌山県東牟婁郡那智町	和歌山県東牟婁郡那智町
十三	夜支布山口神社 撰社立磐神社本殿	一棟	一周社春日造、銅板葺(元檜皮葺) 附天冠一箇	夜支布山口神社	奈良県添上郡大柳生村大字大柳生	奈良県添上郡大柳生村大字大柳生
十二	浮島十三重塔	一基	石造十三重塔	放生院	京都府宇治市宇治町	京都府宇治市宇治町
十一	円光寺本堂	一棟	桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、本瓦葺(元檜皮葺)	円光寺	滋賀県野洲郡野洲町大字久野辺	滋賀県野洲郡野洲町大字久野辺
十	大山祇神社宝篋印塔	三基	石造宝篋印塔	大山祇神社	愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦	愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦
九	hands 寺五輪塔	一基	石造五輪塔	石手寺	愛媛県松山市大字石手町	愛媛県松山市大字石手町
八	金胎寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 正安二年願主□尊の刻銘がある。	金胎寺	京都府相模郡東和束村大字原山	京都府相模郡東和束村大字原山
七	岩船寺五輪塔	一基	石造五輪塔	岩船寺	京都府相模郡加茂町大字岩船	京都府相模郡加茂町大字岩船
六	岩船寺石室	一棟	石造仏龕 応長第二願主盛現の刻銘がある。	岩船寺	京都府相模郡加茂町大字岩船	京都府相模郡加茂町大字岩船

十八	高野家住宅	一棟	桁行南面八十一尺五寸、梁間東面四十六尺五寸、一重三階、切妻造、茅葺	高野宅美	山梨県東山梨郡塩山町大字上於曾一、六五一番地	山梨県東山梨郡塩山町大字上於曾一、六五一番地
十九	天神本殿	一棟	一間社流造、銅板葺(元檜皮葺)	天神社	山梨県東山梨郡八幡村大字大工	山梨県東山梨郡八幡村大字大工
二十	富士浅間神社本殿	一棟	一間社入母屋造、向拜唐破風造、瓦棒入銅板葺(元檜皮葺)	富士浅間神社	山梨県富士吉田市上吉田	山梨県富士吉田市上吉田
二十一	富士浅間神社西宮本殿	一棟	一間社流造、垂鉛引鉄板葺(元檜皮葺)	富士浅間神社	山梨県富士吉田市上吉田	山梨県富士吉田市上吉田
二十二	最恩寺仏殿	一棟	桁行三間、梁間三間、二重、入母屋造、茅葺、初重こけら葺 附 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、妻入、こけら葺	最恩寺	山梨県南巨摩郡富川村大字福土	山梨県南巨摩郡富川村大字福土
二十三	三明寺本堂内宮殿	一棟	一間社流造、こけら葺 附 棟札 一枚 造立宮殿一字天文廿三 甲寅歲九月十日の記がある	三明寺	愛知県豊川市豊川町	愛知県豊川市豊川町
二十四	富吉建速神社本殿	一棟	一間社流造、檜皮葺 附 棟札 六枚 造營慶長十九甲寅歲春二月吉祥日の記があるもの 再興慶長十九甲寅之年十二月二十五日の記があるもの 上葺安永六丁酉歲八月吉祥日の記があるもの 再興天明五乙巳歲九月吉祥日の記があるもの 再興文化三年丙寅七月吉祥日の記があるもの 文政五年四月下旬出来の記があるもの	富吉建速神社	愛知県海部郡蟹江町大字須成	愛知県海部郡蟹江町大字須成
二十五	劍社本殿	一棟	三間社見世棚造、檜皮葺 附 棟札 三枚 造立慶安二年丑五月吉祥日の記があるもの 造立寛文九季己酉五月朔日の記があるもの 上葺貞享三丙寅歲八月吉祥日の記があるもの	富吉建速神社	愛知県海部郡蟹江町大字須成	愛知県海部郡蟹江町大字須成
二十六	東福寺六波羅門	一棟	棟門、本瓦葺	東福寺	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町

二十七	竜吟庵	方丈	一棟	桁行四十七尺七寸、梁間四十二尺四寸、一重、入母屋造、棧瓦葺、玄關附属する	竜吟庵	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町
二十八	竜吟庵	庫裏	一棟	桁行三十六尺四寸、梁間三十九尺九寸、一重、切妻造、妻入、棧瓦葺、廊下附属する	竜吟庵	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町
二十九	竜吟庵	表門	一棟	桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、妻入、棧瓦葺	竜吟庵	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町	京都府京都市東山区本町通東福寺北門前本町
三十	白山神社	本殿	一棟	一間社春日造、檜皮葺 棟札 十二枚 上葺寛永十九年壬午十一月三日の記があるもの 上遷宮承応式年己卯三月廿二日の記があるもの 造宮寛文二年寅三月十四日の記があるもの 上葺元祿四年辛巳天三月吉祥日の記があるもの 修覆正徳四甲午年四月十三日の記があるもの 造立享保丁未十一月吉祥日の記があるもの 奉修享保十八丑癸天十一月吉祥日の記があるもの 上葺明和八卯天三月八日の記があるもの 上葺寛政八丙辰年の記があるもの 修理文化丁辰年二月の記があるもの 造宮文政十三庚寅閏三月二十四日の記があるもの 修理嘉永五子天二月十五日の記があるもの	白山神社	京都府相楽郡加茂町大字岩船	京都府相楽郡加茂町大字岩船
三十一	興福寺	大湯屋	一棟	桁行四間、梁間四間、一重、西面入母屋造、東面切妻造、本瓦葺	興福寺	奈良県奈良市登大路町	奈良県奈良市登大路町
三十二	法華寺	南門	一棟	四脚門、切妻造、本瓦葺	法華寺	奈良県奈良市法華寺町	奈良県奈良市法華寺町
三十三	法華寺	鐘楼	一棟	桁行三間、梁間二間、袴腰附、入母屋造、本瓦葺	法華寺	奈良県奈良市法華寺町	奈良県奈良市法華寺町
三十四	御碕大神宮	大神宮	十四棟	日御碕大神宮	日御碕大神宮	島根県簸川郡大社町日御碕	島根県簸川郡大社町日御碕
	本殿			桁行正面三間、背面五間、梁間五間、一重、入母屋造、檜皮葺			

幣殿

桁行三間、梁間一間、一重、両下造、後面唐破風造、前面拜殿に接続、檜皮葺

拜殿

桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造、向拜一間、唐破風造、檜皮葺

玉垣

折曲り三十三間、檜皮葺

禊所

桁行六間、梁間四間、一重、入母屋造、妻入、檜皮葺

廻廊

折曲り四十一間、切妻造、檜皮葺

楼門

三間一戸楼門、入母屋造、こけら葺

門客人社(二棟)

一間社入母屋造、向拜一間、檜皮葺

神の宮(上の宮)

本殿

桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、檜皮葺

幣殿

桁行二間、梁間一間、一重、両下造、後面唐破風造、前面拜殿に接続、檜皮葺

拜殿

桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、向拜一間、唐破風造、檜皮葺

玉垣

折曲り二十五間、檜皮葺

宝庫

桁行正面三間、背面二間、梁間二間、一重、寄棟造、向拜一間、檜皮葺

鳥居(二基)

石造明神鳥居

附 日御碕御建立彩色塗金物
出雲国日御碕宮御造營銀子請取同入用高目録 一一一冊
日御碕社殿地割図 十三卷
日御碕社殿の図 一三枚
石燈籠 五基
各竿に寛永二十一年申年秋七月吉日の記がある

桁行六十一尺八寸、梁間三十九尺、一重、入母屋造、本瓦葺

棟札 五枚

永祿六癸亥夾鐘十葉の記があるもの

一

三十五	丈六寺本堂(元方丈)	一棟	寛永十九年正月吉日の記があるもの 一 嵯延宝八庚申年二月二十八日の記があるもの 一 開關略伝享保七年壬寅九月穀且の記があるもの 一 維時文化八竜次年辛未七月上旬の記があるもの 一 一 一 一 一 一	丈六寺	徳島県徳島市丈六町	徳島県徳島市丈六町
三十六	丈六寺観音堂	一棟	三周三戸二階二重門、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 一枚 上棟于時寛永廿稔未正月吉日の記があるもの 一 上棟于時慶安元年子九月吉日の記があるもの 一 上棟仏殿修補延宝二甲寅年の記があるもの 一 観音堂修補貞享五辰年四月の記があるもの 一 修補誌宝暦五乙亥九月吉日の記があるもの 一 上棟観音堂再興建立記茲歳明和六己巳夏四月二十八日成就の記があるもの 一	丈六寺	徳島県徳島市丈六町	徳島県徳島市丈六町
三十七	丈六寺三門	一棟	三周三戸二階二重門、入母屋造、本瓦葺 附 棟札 一枚 修補寛政十戌歳二月吉日の記がある	丈六寺	徳島県徳島市丈六町	徳島県徳島市丈六町
三十八	石手寺訶梨帝母天堂	一棟	一間社見世棚造、檜皮葺	石手寺	愛媛県松山市大字石手町	愛媛県松山市大字石手町
三十九	石手寺護摩堂	一棟	桁行三周、梁間三周、一重、宝形造、本瓦葺	石手寺	愛媛県松山市大字石手町	愛媛県松山市大字石手町
四十	浄土寺本堂	一棟	桁行五周、梁間五周、一重、寄棟造、向拝一間、本瓦葺 附 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、妻入、板葺	浄土寺	愛媛県温泉郡久米村大字鷹子	愛媛県温泉郡久米村大字鷹子
四十一	大山祇神社拜殿	一棟	桁行七周、梁間四周、一重、切妻造、本瓦葺(向拝を除く)	大山祇神社	愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦	愛媛県越智郡宮浦村大字宮浦
四十二	鳴無神社	二棟	三周社春日造、こけら葺 附 鰐口 一口 寄附寛文三年七月三日の銘がある 桁行一間、梁間三周、一重、両下造、背面切妻造、正面 拜殿に接続、こけら葺 桁行三周、梁間二周、一重、切妻造、こけら葺	鳴無神社	高知県高岡郡浦ノ内村奥浦東分	高知県高岡郡浦ノ内村奥浦東分
拜殿						

重要文化財目録 第四集

凡 例

- 一、この目録は文化財保護法(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)により、昭和二十八年六月(建造物の部一)、同八月(同二より二十一)、および昭和二十八年十一月、重要文化財に指定された物件を収録した。
- 一、この目録に収録した重要文化財の種別は、絵画、彫刻、工藝、書跡、考古資料、建造物である。

一、この目録に収録したものは、重要美術品等の保存に関する法律(昭和八年四月一日法律第四十三号)によつて認定された重要美術品等あるいは未指定の物件を保護法施行後新たに重要文化財として指定したものを含んでいる。

絵画の部

昭和三十八年十一月 文化財保護委員会

名	称	員数	所 有 者
紙本墨画山水図	各幅に杜貫道の賛がある	二幅	国(東京国立博物館保管)
絹本着色洞山渡水図	「坤寧之殿」の印がある	一幅	同 右
紙本淡彩秋山行旅図	蕭雲從筆	一卷	同 右
丁酉(永曆十一年)の自筆追記がある			
紙本墨画淡彩山水図	狩野正信筆	二幅	一 東京都港区芝白金今里町二二 藤原銀次郎
紙本着色黄山図	石濤筆	一卷	同 麻布市兵衛町一ノ三 住友寛一
己卯(康熙三十八年)の年記がある			
紙本着色黄山八勝図	石濤筆	一冊	同 右
紙本墨画淡彩山水花鳥図	八大山人筆	一冊	同 右
甲戌(康熙三十三年)の自筆題跋がある			

絹本着色梅花双雀図	伝馬麟筆 「雄華室印」の印がある	一幅	同 渋谷区鶯谷町三二 山本達郎
紙本着色竹林茅屋柳蔭騎路図	与謝無村筆 六曲屏風	一双	同 豊沢町二五 簀本公三
絹本墨画龍図	陳容筆	一幅	同 豊島区目白町四ノ四二 財団法人 黎明会
紙本金地著色風俗図	二曲屏風 (伝本多平八郎姿絵)	一隻	同 右
紙本墨画布袋図	一 俣溪黄開の賛がある	三幅	同 右
紙本墨画朝陽対月図	無住子筆 元貞元年の自賛	二幅	同 右
紙本着色天皇撰関影図		一卷	同 右
紙本着色山水図	浦上玉堂筆 辛未(文化八年)浦上春琴、田能村竹田の跋がある	一帖	同 神奈川県鎌倉市鎌倉山旭丘 梅沢彦太郎
絹本墨画達磨図	嘉暦元年清拙正澄の賛がある	一幅	同 財団法人 深沢町笹田 長尾美術館
紙本着色湯女図		一幅	同 静岡県熱海市東山一七三ノ五 岡田茂吉
絹本着色釈迦入相図		四幅	同 右
紙本墨画大道和尚図	伝明兆筆 明德五年性海靈見の賛がある	一幅	同 京都府京都市中京区東洞院通丸太町南入ル三本木町 守屋孝蔵
紙本墨画王羲之書扇図	如拙筆 図中に全愚周崇の賛、地紙に庚戌(永享二年)惟肖得敵の題がある	一幅	同 右
絹本淡彩盤谷図	董其昌筆 図後に董其昌筆送李愿歸盤谷序がある	一卷	同 大阪府大阪市天王寺区天王寺公園内 市立大阪美術館
紙本墨画呂洞賓図	雪村筆	一幅	同 丁目 近畿日本鉄道株式会社(財) 大和文華館保管
絹本着色帰牧図	李迪筆 (騎牛)	二幅	同 右
絹本着色帰牧図	(牽牛)	二幅	同 右

工 藝 品 の 部	名 称	員 数	所 有 者
紙本墨画淡彩瀟湘八景图 祥啓筆		一帖	兵庫県神戸市東灘区住吉町 財団法人 白鶴美術館
絹本着色梅花小禽图 伝馬麟筆 「雜華至印」の印がある		一幅	同 魚崎町横屋 五〇六 山田寅二郎
紙本墨画淡彩山水图 雪舟筆 李孫、朴衡文の賛がある		一幅	同 芦屋市東芦屋町九六 小田 栄 作
絹本着色愛染明王像		一幅	和歌山県伊都郡高野町大字高野山 明 王 院
刀 無銘伝長谷部国重		一口	青森県北津軽郡板柳町字土井 四一ノ一 坂本至弘
瑞花孔雀鏡		一面	栃木県上都賀郡日光町 輪 王 寺
雙龍鏡 久安五年正月十一日在銘		一面	千葉県佐原市香取 香 取 神 宮
梅樹雙雀鏡		一面	同 長生郡一宮町 玉 前 神 社
古九谷色絵亀甲牡丹蝶文大皿		一枚	東京都千代田区神田駿河台二ノ九 梅 沢 義 一
短刀 銘長谷部国重		一口	同 神田二ノ八 筒 井 源 吉
太刀 銘備前国住長船盛景		一口	同 中央区明石町五二 青 山 孝 吉
短刀 銘光包		一口	同 同
太刀 銘備前長船景光 金象嵌銘本多平八郎忠為所持之		一口	同 港区赤坂青山南町六ノ 財団法人 根津美術館
春日山蒔絵硯箱		一合	同 同
嵯峨山蒔絵硯箱		一合	同 同

雨漏茶碗		一口	東京都港区赤坂青山南町六ノ 一五
堅手茶碗 銘長崎		一口	財団法人 根津美術館
太刀 銘備前国住雲次 建武乙亥二年十一月		一口	同 麻布飯倉片町二五 松 平 康 昌
〔打刀拵〕無銘元重		一口	同 同
柿蒂茶碗 銘毘沙門堂		一口	同 白金猿町六七 畠 山 一 清
春日野凶鐔 銘城州伏見住金家		一枚	同 文京区関口台町二六 細 川 護 立
毘沙門天凶鐔 銘城州伏見住金家		一枚	同 同
古九谷色絵牡丹鳥文大皿		一枚	同 渋谷区羽沢町一〇二 塩 原 又 策
脇差 無銘伝正宗		一口	同 桜丘町八八 齋 藤 昌 二
秋草文黒漆太刀 中身銘豊後国行平作		一口	同 〇三 代々木初台町五 渡 辺 国 雄
脇差 銘山城国西陣住人理忠明寿作六十 一歳 元和四年五月十一日		一口	同 七三 佐々木上原二 山 内 豊 景
太刀 銘次忠		一口	同 世田谷区太子堂町 須 藤 宗 次 郎
瑞花雙鳳八稜鏡		一面	同 二 世田谷一ノ九二 香 取 九 江
定窯白磁金彩雲鶴唐草文碗		一口	同 八九 世田谷二ノ一〇 井 上 恒 一
定窯柿釉金彩蝶牡丹文碗		一口	同 同
定窯柿釉金銀彩牡丹文碗		一口	同 同
達磨図鐔 銘城州伏見住金家		一枚	同 新宿区若宮町三〇 古 河 從 純
獅子牡丹揃物 小柄獅子牡丹図 銘宗珉(花押) 笄獅子牡丹図 銘宗珉(花押)		一具	同 同

目貫獅子牡丹図 無銘 縁頭獅子図 縁銘宗珉(花押)	四十七 点	東京都豊島区目白町四ノ四二	財団法人 黎明会
蒔絵婚礼調度 初音蒔絵調度 胡蝶蒔絵調度	十 点	同	同
長生殿蒔絵手箱	一 合	同	同
短刀 銘吉光(名物後藤藤四郎)	一 口	同	同
太刀 銘来孫太郎作 (花押)正応五口辰八月十三日 以下不明	一 口	同	同
太刀 銘来国光	一 口	同	同
太刀 銘国宗	一 口	同	同
短刀 無銘正宗(名物庖丁正宗)	一 口	同	同
刀 金象嵌銘正宗磨上(名物池田正宗) 本阿弥花押	一 口	同	同
短刀 銘正宗(名物不動正宗)	一 口	同	同
短刀 無銘伝正宗(名物一庵正宗)	一 口	同	同
短刀 無銘貞宗(名物物吉貞宗)	一 口	同	同
太刀 銘正恒	一 口	同	同
太刀 銘光忠	一 口	同	同
太刀 銘光忠	一 口	同	同
太刀 銘備前国長船住長光造	一 口	同	同
太刀 銘長光(名物遠江長光)	一 口	同	同
太刀 銘備前長船住兼光	一 口	同	同
梵鐘 東漸、鐘、永仁六年、孟春望日、 大工大和權守物部国光在銘	一 口	神奈川県横浜市磯子区杉田町	東漸寺
囉麥天目茶碗	一 口	鎌倉市雪ノ下	野尻清彦

梵鐘 新長谷寺、文永元年七月十五日、 大工物部季重在銘	一 口	神奈川県鎌倉市長谷	長谷寺
牡丹蝶鳥鏡	一 面	同	財団法人 深沢町笛田
松竹雙雀葦手鏡	一 面	同	同
二王二所物 小柄二王図 銘宗珉(花押) 目貫二王 無銘	一 組	同	茅ヶ崎市東海岸一〇〇六 山田復之助
象図鐔 銘安親	一 枚	同	中郡大根村字落窪 宮崎富次郎
于網千鳥透鐔 銘東雨	一 枚	同	同
太刀 銘国安	一 口	山梨県甲府市百石町一五八	堀内金次
刀 無銘正宗(名物石田正宗)	一 口	静岡県静岡市大岩宮下町一〇	佐藤寛治
猿猴捕月図鐔 銘山城国伏見住金家	一 枚	京都府京都市上京区小山西花池町二七	清田政人
大森彦七図鐔 金象嵌銘利寿(花押)	一 枚	同	同
金銅竜螺鈿波文説相箱	一 双	同	中京区新京極三條下ル桜之町 警願寺
線刻釈迦三尊等鏡像	一 面	京都府京都市左京区鹿ヶ谷宮ノ前町九九	住友吉左衛門
白絲威棧取鏡 大袖付 白絲威棧取鏡 大袖付 附 唐櫃	一 領	同	鞍馬法師大惣仲間
桐矢襖文辻ヶ花染道服	一 領	同	同
亀甲花菱文繻箔打掛	一 領	同	同
綴織鳥獸文陣羽織	一 領	同	同

線刻如意輪觀音等鏡像 銘文仏師雲上	線刻阿弥陀五仏鏡像	太刀 銘兼氏	黒韋威肩白胴丸	太刀 銘貞守	短刀 無銘貞宗(名物石田貞宗) 附 脇差拵	萩薄扇面雙雀鏡	桐竹鳳凰鏡	蓬萊山方鏡	菊花雙鶴鏡	松藤雙鶴鏡	短刀 銘景光	豐干禪師凶鐔 銘安親	刀 無銘貞宗(名物二筋樋貞宗)	短刀 無銘正宗(名物伏見正宗)	附 腰刀拵	梵鐘	禽獸葡萄鏡	鐵十八間二方白星兜鉢及鍍金具
一面	一面	一口	一領	一口	一口	一面	一面	一面	一面	一面	一口	一枚	一口	一口	一口	一口	一面	一括
京都府京都市伏見区醍醐東大路町	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
醍醐寺	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

重要文化財一覽(書跡の部)

書跡の部	名	称	員數	所 有 者																	
鐵三十六間四方白星兜鉢及鍍金具	鐵二十八間四方白星兜鉢及鍍金具	銅水瓶	蜀江錦	太刀 銘景光	線刻阿弥陀五仏鏡像	永延二年八月廿八日在銘	淺黃絲威裱取鏡 兜付	附 立拳鷹當	梵鐘	承和六年、伯耆国金石寺鐘在銘	秋草蝶鳥鏡	柏樹鷹狩鏡	虚堂智愚墨蹟 偽語	大燈国師墨蹟 与宗円道人法語	大川普濟墨蹟 惜煙、四睡偈	附 春屋宗園、策彦周良添狀	雲峯妙高墨蹟 大慧墨蹟跋	無準師範墨蹟 与聖一國師尺牘	大燈国師墨蹟 与明輪禪尼法語	清拙正澄墨蹟 与鉗大治藏主法語	附 金森宗和添狀
一括	一括	一口	三面	一口	一面	一面	一領	一口	一口	一口	一面	一面	一幅	一幅	一幅	一幅	一幅	一幅	一幅	一幅	一幅
奈良県奈良市春日野町	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
春日野町大社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

楚石梵琦墨蹟 無我吾心華室銘 至正丙午秋九月

宋版爾雅疏

宋版外台秘要方

宋版三蘇先生文粹

宋版歷代故事

平中物語

古今和歌集卷第一卷首(高野切)

清拙正澄墨蹟 秀山別稱傷 嘉曆丙寅年

清拙正澄墨蹟 靈致別稱傷 延元元年仲夏

附 小堀遠州添狀 一幅

古今和歌集(清輔本) 本奥書、永治二年中呂上旬書寫

手鑑「翰墨城」(三百十一葉)

紺紙金字法華經(開結共)

紺紙金字法華經

法華經 高山寺惠琳筆

卷第八、延慶三年十月廿二日伏見天皇宸筆奥書

俱舍論記 普光撰 二十二卷

俱舍論疏 法宝撰 三十卷

俱舍論頌疏 円暉撰 五卷

積摩訶衍論 (以上三本東大寺覺樹点本)

十誦律卷第五十二 (神護景雲二年五月十三日孝謙天皇勅願經)

一幅	東京都文京区関口台町二六
五冊	同 世田谷区岡本町九二
四二冊	財団法人 静嘉堂
三三冊	同
十二冊	同
一帖	同
一幅	神奈川縣鎌倉市乱橋材木座
一幅	同 高梨仁三郎
一幅	同 小田原市板橋 松永安左衛門
一幅	同 足柄下郡箱根町湯元 三井高次
二帖	石川縣能美郡山上村字宮竹三ノ六〇 宮本長則
一帖	静岡縣熱海市東山一七二ノ一 岡田茂吉
十卷	同 浜名郡鷺津町 興寺
八卷	同
八卷	三重県四日市市前田町北部二二五 堀田吉雄
五帖	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺
一卷	同 右

石山寺一切經 附 雜寶經卷第四(光明皇后五月一日願經)以下百九十九卷	滋賀県大津市石山寺辺町 石山寺
本朝文粹零本	同
法華義疏(内四卷点本)	同
嵯峨天皇宸翰光定戒牒(弘仁十四年四月十四日)	同 坂本町 延曆寺
後二条天皇宸翰消息(二月十日、御名)	京都府京都市中京区東洞院通丸太町南入ル三本木町 守屋孝藏
馮子振墨蹟 与無隠元晦語	同
南浦紹明墨蹟 法語 德治二祀中秋上澣	同
藤原定家筆消息 九月十日	同
聖一國師墨蹟 法語 (蠟牋)	同
東寺文書(礼楽射御書教箱入)	同 大宮西入ル九条町 教王護国寺
李柏尺牘稿(二通)	同 屋町下ル 竜谷大学
張即之書李伯嘉墓誌銘	同 寺町四四 財団法人 藤井齐成会
貞觀寺根本目錄(貞觀十四年三月九日)	同 右京区御室大内 仁和寺
治承二年賀茂社歌合	大阪府大阪市都島区網島町四 財団法人 藤田美術館
紫紙金字華嚴經卷第六十二	同
十住經卷第三(中聖武)	同
蘇賦書李白仙詩卷 蔡松年以下五跋	同 天王寺区天王寺 市立大阪美術館

名	称	員數	所 有 者
大燈国師墨蹟	与泰綱居士法語	一幅	大阪府大阪市東区高麗町二丁目
明恵上人筆仮名消息	(井上尼宛)	一幅	湯 木 貞 一
中尊寺經	金銀字經 百六十六卷	二百十	同 泉大津市助松ノ浜
紺紙金字華嚴經	金字經 五十卷	六卷	同 南河内郡川上村大字寺
金剛峯寺根本縁起	後醍醐天皇御手印 並御跋(絹本)	八十卷	奈良県奈良市雄司町 大 寺
後小松天皇宸翰秘調伝授書	(永享二年六月廿六日)	一卷	和歌山県伊都郡高野町大字高野山
住吉社法楽百首和歌短冊	(明応四年十二月)	一幅	同 金 剛 峯 寺
附三条西実隆筆序文並相良正任、杉武明連署添状		一帖	山口県下関市一ノ宮町 住 吉 神 社
新撰菟玖波集作者附宗祇署名短冊箱		一卷	
毛利秀元奉納時絵短冊箱		一合	

考古資料の部

名	称	員數	所 有 者
金銅山代忌寸真作墓誌		一面	国(文化財保護委員会保管)
戊辰年十一月在銘			
奈良県宇智郡大阿太村出土			
下野国男体山頂出土品			
一、銅印	四顆		栃木県上都賀郡日光町 二荒山神社
一、三鈷鏡	一箇		
一、三鈷杵殘闕	一箇		
一、錫杖頭	一柄		
一、罌口	一口		
一、銅製合子	一口		
一、銅製千手觀音菩薩立像殘闕	一軀		
一、懸仏殘闕共	一括		

重要文化財一覽(考古資料の部)

一、金銅扉板金具	一枚	奉施入男昧本宮永仁五年七月日在銘	群馬県群馬郡總社町(保管)
一、銅鏡殘闕共	二十八面分		
一、銅錢	六枚		
一、鐵製刀劍類	一括		
一、其他伴出物一切	一口		
上野国山王庵寺塔心柱根卷石	一具		群馬県群馬郡總社町(保管)
武蔵国北足立郡熊野神社境内古墳出土品			埼玉県北足立郡川田谷村 熊野神社
一、硬玉勾玉	四顆		
一、瑪瑙勾玉	二顆		
一、瑪瑙蜜玉	一顆		
一、碧玉算盤玉	一顆		
一、碧玉管玉	六十七顆		
一、瑠璃小玉	一括		
一、碧玉巴形石製品	二箇		
一、碧玉紡錘車形石製品	四箇		
一、滑石紡錘車形石製品	一箇		
一、碧玉釧	六箇		
一、碧玉筒形石製品	四箇		
附 朱小塊 若干	一箇		
繩文式注口土器	一箇		東京都練馬区小竹町二二八一 皆川方 高 松 操
青森県上北郡四和村出土			
袈裟襷文銅鐸	一口		京都府与謝郡三河内村 梅 林 寺
京都府与謝郡三河内村比丘尼城出土			
河内国南河内郡茶臼山古墳出土品			大阪府南河内郡国分町 国 分 神 社
一、青蓋盤竜鏡	一面		
一、三角縁神獸鏡	二面		
山城国久世郡久津川車塚古墳出土鏡	七面		京都府京都市左京区鹿ヶ谷宮ノ前町九九 住友 吉左衛門

重要文化財一覽(建造物の部)

一、画文帯神獸鏡 一、三角縁神獸鏡 一、変形画文帯神獸鏡 一、変形四獸鏡	一面 一面 一面 四面
袈裟繒文銅鐙 兵庫縣三原郡松帆村大字箭飯野出土 附 銅鐙舌 同右出土	一口
大和国高市郡牽牛子塚古墳出土品	奈良 県 (大和国史館保管)
一、七宝龜甲形金具 一、金銅製八花形座金具 一、銅製金具殘片 一、乾漆棺殘片	一箇 一箇 一箇 一括
銅戈 硬玉勾玉 島根縣簸川郡大社町神魂伊能知奴志神社境内出土	一口 一類
	島根縣簸川郡大社町 出雲 大社

番号	名称	員数	構造及び形式	所有者	所有者の住所	所在の場所
一	大 阪 城 門	十三棟	高麗門、本瓦葺 大手門南方短折延長百九十八尺、銃眼九所、石狭間十四所、大手門北方七十一尺、銃眼四所、石狭間七所、多聞櫓北方六十七尺、銃眼三所、石狭間三所、総本瓦葺 短折一重、(一部櫓門)、本瓦葺 二重二階、本瓦葺 短折二重二階、本瓦葺 二重二階、本瓦葺 二重二階、本瓦葺 石造一重、寄棟造、本瓦葺 土蔵造、一重、寄棟造、本瓦葺 桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、本瓦葺、石造井戸枅を含む 高麗門、本瓦葺	国(大蔵省所管)		大阪府大阪市東区馬場町
二	旧 十 輪 院 宝 蔵 門	一棟	桁行一間、梁間一間、校倉、宝形造、本瓦葺	国(文部省所管)		東京都台東区上野公園 東京国立博物館構内
三	円 覚 寺 薬 師 堂 内 厨 子	一基	一間厨子、入母屋造、板葺	円 覚 寺	青森縣西津軽郡深浦町 大字深浦	青森縣西津軽郡深浦町 大字深浦

建造物の部

四	笠卒塔婆	一基	石造笠卒塔婆 延文元年丙申十一月廿七日の刻銘がある	町田平蔵	群馬県北群馬郡豊秋村大字石原	群馬県北群馬郡豊秋村大字石原
五	光福寺宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 元亨癸亥の刻銘がある	光福寺	埼玉県比企郡大岡村大字岡	埼玉県比企郡大岡村大字岡
六	慈光寺開山塔	一基	宝塔、とち葺(相輪を欠く) 石造五輪塔 延慶三季八月五日の刻銘がある	慈光寺	埼玉県比企郡平村大字西平	埼玉県比企郡平村大字西平
七	極楽寺五輪塔	一基	石造宝篋印塔 文保元年二月日の刻銘があるもの	極楽寺	神奈川県鎌倉市極楽寺	神奈川県鎌倉市極楽寺
八	宝篋印塔	二基	石造五輪塔 乾元二年癸卯七月八日の刻銘がある	板間貞次	神奈川県鎌倉市極楽寺五七番地	神奈川県鎌倉市極楽寺五七番地
九	慶増院五輪塔	一基	石造五輪塔 永仁三年十二月日の刻銘があるもの 一間社流造、銅板葺(元こけら葺) 附棟札 四枚	慶増院	神奈川県三浦郡葉山町森戸	神奈川県三浦郡葉山町森戸
十	輪塔	三基	奉葺替宝曆十一辛巳年八月八日の記があるもの 奉葺替天明元年閏五月吉日の記があるもの 棟揚文化二乙丑年九月十二日の記があるもの 奉葺替文化二乙丑年九月二十日の記があるもの	元箱根村	神奈川県足柄下郡元箱根村	神奈川県足柄下郡元箱根村大字提灯山
十一	若宮八幡神社本殿	一棟	奉葺替天明元年閏五月吉日の記があるもの 棟揚文化二乙丑年九月十二日の記があるもの 奉葺替文化二乙丑年九月二十日の記があるもの	若宮八幡神社	長野県松本市大字筑摩	長野県松本市大字筑摩
十二	田村堂	一棟	桁行一間、梁周一間、一重、入母屋造、妻入、こけら葺	上波田区	長野県東筑摩郡波田村	長野県東筑摩郡波田村
十三	高台寺観月台	一棟	桁行一間、梁周一間、一重、三方唐破風造、檜皮葺	高台寺	京都府京都市東山区八坂鳥居前下ル下河原町	京都府京都市東山区八坂鳥居前下ル下河原町
十四	剛琳寺四脇門	一棟	四脚門、切妻造、本瓦葺	剛琳寺	大阪府南河内郡藤井寺町大字藤井寺	大阪府南河内郡藤井寺町大字藤井寺
十五	福祥寺本堂内宮殿及び仏壇	一具	宮殿 三間宮殿、正面軒唐破風(後補)附、板葺 仏壇 三重仏壇	福祥寺	兵庫県神戸市須磨区須磨寺町	兵庫県神戸市須磨区須磨寺町
十六	船屋形	一棟	桁行五間、梁周一間、一重二階、切妻造段違、檜皮葺	牛尾健治	兵庫県神戸市垂水区舞子町細道一、〇六五番地	兵庫県神戸市垂水区舞子町細道一、〇六五番地
十七	広峰神社宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 石造九重塔(竜車及び宝珠を除く)	広峰神社	兵庫県姫路市広嶺山	兵庫県姫路市広嶺山

重要文化財一覧(建造物の部)

十八	満願寺	九重塔	一基	正応六年三月日の刻銘がある 附 法華塔移建碑 一基 寛文八年戊申八月十七日の刻銘がある	満願寺	兵庫県川辺郡多田村大字満願寺	兵庫県川辺郡多田村大字満願寺
十九	一乗寺	五輪塔	一基	石造五輪塔 元亨元年十月十七の刻銘がある	一乗寺	兵庫県加西郡下里村大字坂本	兵庫県加西郡下里村大字坂本
二十	浄土寺	納経塔	一基	石造宝塔、基壇附 弘安元年戊寅十月十四日の刻銘がある	浄土寺	広島県尾道市尾崎町	広島県尾道市尾崎町
二十一	浄土寺	宝篋印塔	一基	石造宝篋印塔 貞和四年戊子十月一日の刻銘がある	同右	同右	同右
二十二	弘前城	三の丸東門	一棟	櫓門、入母屋造、銅瓦葺	国(文部省所管)		
二十三	東照宮	本殿	一棟	桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、向拝一間、軒唐破風附、こけら葺(現在鉄板仮葺)	東照宮	青森県弘前市大字笹森町	青森県弘前市大字笹森町
二十四	津軽	為信霊屋	一棟	破風附、銅板葺 桁行一間、梁間一間、一重、入母屋造、妻入、正面軒唐	津軽義孝	東京都新宿区淀橋下落合三丁目一、七六〇番地	青森県中津軽郡藤代村大字藤代
二十五	南部	利康霊屋	一棟	向拝一間、こけら葺 桁行正面三間、背面二間、梁間二間、一重、入母屋造、	南部利英	岩手県盛岡市下小路町七六番地	青森県三戸郡向村大字小向
二十六	那谷	寺	一棟	御成間、琴の間、四畳、八畳(二室)、十畳、鞘の間、床棚等より成る、一重、入母屋造、棧瓦葺(元こけら葺) 桁行十九尺八寸、梁間二十七尺、一重、入母屋造、棧瓦葺(元こけら葺)	那谷寺	石川県江沼郡那谷村大字那谷	石川県江沼郡那谷村大字那谷
二十七	中牧	神社本殿	一棟	一間社流造、檜皮葺	中牧神社	山梨県東山梨郡諏訪町千野	山梨県東山梨郡諏訪町千野
二十八	新長谷	寺	六棟	桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、棧瓦葺 桁行三間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、棧瓦葺 桁行三間、梁間三間、一重、寄棟造、棧瓦葺 三間社流造、檜皮葺 桁行四間、梁間三間、一重、寄棟造、棧瓦葺 桁行三十七尺一寸、梁間四十一尺二寸、一重、寄棟造、棧瓦葺	新長谷寺	岐阜県関市長谷寺町	岐阜県関市長谷寺町

二十九	久津八幡宮本殿	棟	三周社流造、こけら葺 棟札 七枚 修理上葺万治二亥年三月の記があるもの 葺上延宝四年辰十一月の記があるもの 修覆元祿八亥年四月の記があるもの 修補宝永五戊子四月の記があるもの 修覆宝曆十四年八月の記があるもの 上葺寛政五丑三月の記があるもの 上葺文政六癸未歲九月の記があるもの	久津八幡宮	岐阜県益田郡萩原町大字上呂	岐阜県益田郡萩原町大字上呂
三十	甚目寺	二棟	三周三重塔婆、本瓦葺 四脚門、切妻造、棧瓦葺	甚目寺	愛知県海部郡甚目寺町大字甚目寺	愛知県海部郡甚目寺町大字甚目寺
三十一	滝山東照宮	五棟	桁行三周、梁間二周、一重、入母屋造、向拝一間、銅瓦葺 附 厨子 一基 一間厨子、入母屋造、妻入、板葺 桁行三周、梁間二周、一重、入母屋造、向拝一間、銅瓦葺 桁行二周、梁間一周、一重、背面切妻造、前面拝殿に接続、銅瓦葺 一周一戸平唐門、銅板葺 石造明神鳥居 桁行一周、梁間一周、一重、切妻造、棧瓦葺、水盤を含む	滝山東照宮	愛知県額田郡常磐村大字滝	愛知県額田郡常磐村大字滝
	水屋		石柵 六所 中門東方折曲り延長七十九尺五寸、中門西方折曲り延長八十七尺五寸、幣殿裏東西二所折曲り延長各十六尺八寸、拜殿西方折曲り延長七十三尺九寸、拜殿南及び東方折曲り延長百九十尺二寸 銅燈籠 二基 各竿に慶安元年戊子四月十七日の記がある 棟札 一枚 修營天保四巳九月二十六日の記がある			

三十二	東照宮	七棟	榊行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺	東照宮	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷
本殿	榊行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺	一棟	榊行三間、梁間二間、一重、入母屋造、向拜一間、檜皮葺	東照宮	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷
拜殿	榊行二間、梁間一間、一重、背面切妻造、前面拜殿に接続、檜皮葺	一棟	榊行二間、梁間一間、一重、背面切妻造、前面拜殿に接続、檜皮葺			
幣殿	一周一戸平唐門、檜皮葺	一棟	一周一戸平唐門、檜皮葺			
中右門	各折曲り二十二間檜皮葺	一棟	各折曲り二十二間檜皮葺			
左透塀	榊行一間、梁間一間、一重、切妻造、生子板葺、水盤を含む	一棟	榊行一間、梁間一間、一重、切妻造、生子板葺、水盤を含む			
水屋	榊行三間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、生子板葺	一棟	榊行三間、梁間三間、一重、入母屋造、妻入、生子板葺			
御供所	附(元檜皮葺) 石燈籠 折曲り延長二百五十二尺六寸 石燈籠 二基 各竿に慶安四年辛卯九月十七日の記がある 板札 一枚 慶安四年の卯四月吉日の記がある棟札 三枚	一棟	造營慶安四年辛卯曆九月十七日の記があるもの 修覆天明和乙酉年三月の記があるもの 修覆天保四癸巳年六月の記があるもの			
	三十三 鳳来寺仁王門	一棟	三間一戸楼門、入母屋造、銅板葺(元檜皮葺)	鳳来寺	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷	愛知県南設楽郡鳳来寺村大字門谷
	三十四 手向山神社宝庫	一棟	榊行三間、梁間三間、校倉、寄棟造、本瓦葺	手向山神社	奈良県奈良市雑司町	奈良県奈良市雑司町
	三十五 大神神社三ツ鳥居	一基	木造三輪鳥居 附 瑞垣 左右延長十六間	大神神社	奈良県磯城郡三輪町大字三輪	奈良県磯城郡三輪町大字三輪
	三十六 不動院岩屋堂	一棟	舞台造、榊行三間、梁間三間、一重、前面入母屋造、背面切妻造、妻入、檜皮葺	不動院	鳥取県八頭郡池田村大字岩屋堂	鳥取県八頭郡池田村大字岩屋堂
	三十七 真光寺	二棟	榊行五間、梁間四間、一重、入母屋造、向拜一間、本瓦葺 附 棟札 一枚 慶長癸三月十五日の記がある	真光寺	岡山県知気郡備前町西片上	岡山県知気郡備前町西片上

三十八	淨土寺	山門	二棟	四脚門、切妻造、本瓦葺 三疊台目茶室、水屋及び四疊、四疊半の勝手より成る、 一重、入母屋造、茅葺 附 中門 短折延長五間、一重、切妻造、棧瓦葺	廣島県尾道市尾崎町
三十九	宗光寺	山門	一棟	四脚門、切妻造、本瓦葺	廣島県三原市本町
四十	沼名前神社能舞台	能舞台	一棟	桁行一間、梁間一間、一重、切妻造、妻入、こけら葺	廣島県沼隈郡鞆町
					廣島県三原市本町
					廣島県沼隈郡鞆町

昭和28年度補助金交付表（4半期別補助額）

目	補助額	第1~4半期 補助額	第2~4半期 補助額	第3~4半期 補助額	第4~4半期 補助額	備考
国宝其他建造物保存 修理費補助金	216,168,000	84,179,000	70,191,000	44,106,000	17,692,000	
国宝其他宝物類保存 修理費補助金	16,511,000	4,518,000	7,374,000	4,619,000	0	
法隆寺国宝其他保存 修理費補助金	45,500,000	20,000,000	9,400,000	9,800,000	6,300,000	
日光二社一寺国宝其 他保存修理費補助金	25,000,000	8,000,000	11,000,000	6,000,000	0	
史跡名勝天然記念物 保存修理費補助金	12,398,000	4,192,000	4,283,000	3,693,000	230,000	
国宝其他防災施設費 補助金	52,263,000	13,301,000	23,939,000	15,023,000	0	
中尊寺宝物類収蔵庫 建設費補助金	13,300,000	3,300,000	3,300,000	3,300,000	3,400,000	
文化財公開費交付金	453,000	0	150,000	270,000	33,000	
無形文化財助成金	2,320,000	625,000	647,000	688,000	360,000	
埋蔵文化財収蔵庫建 設費補助金	1,000,000	0	800,000	200,000	0	
国宝建造物其他災害 復旧費補助金	18,736,000	0	0	8,854,000	9,882,000	
法隆寺国宝其他防災 施設費補助金	3,490,000	0	0	0	3,490,000	
計	407,139,000	138,115,000	131,084,000	96,553,000	41,387,000	

文化財保護委員會昭和二八年度補助金交付一覽

文化財保護委員會昭和二八年度補助金交付一覽

補助金交付表 (府県別補助額及件数)

文化財公開費 交付金	無形文化財助 成金	埋蔵文化財収 蔵庫建設費補 助金	文化財取 費補 助金	国宝建造物其 他災害復旧費 補助金	法隆寺国宝其 他防災施設費 補助金	合 計					
						交 付 額	件 数				
						950,000	3				
						3,988,000	4				
						13,300,000	1				
50,000	1					1,270,000	4				
						100,000	1				
		70,000	1			3,740,000	2				
		70,000	1			1,060,000	4				
						150,000	1				
						38,100,000	7				
		70,000	1			70,000	1				
50,000	1					9,214,000	5				
						1,660,000	2				
170,000	3	200,000	2			10,060,000	10				
		70,000	1			1,616,000	6				
		38,000	1			8,818,000	8				
						1,750,000	1				
		295,000	2	80,000	1	13,485,000	6				
				1,040,000	4	11,780,000	6				
						10,871,000	7				
		70,000	1	800,000	1	7,309,000	10				
		51,000	1			5,780,000	9				
				200,000	1	866,000	2				
33,000	1	210,000	2	760,000	2	13,804,000	17				
		45,000	1	441,000	3	1,943,000	13				
				2,154,000	5	34,455,000	20				
				3,660,000	38	46,400,000	75				
		500,000	1			5,548,000	8				
		101,000	1	800,000	1	17,468,000	11				
50,000	1			2,279,000	21	3,490,000	1	77,231,000	40		
				1,644,000	4	3,984,000	11				
						0	0				
		200,000	2			13,868,000	10				
50,000	1					135,000	2				
						7,276,000	5				
				710,000	2	3,803,000	7				
						0	0				
		240,000	2			8,049,000	8				
				560,000	1	7,365,000	10				
				640,000	1	10,447,000	5				
				990,000	12	2,250,000	17				
				637,000	3	687,000	3				
50,000	1			350,000	1	3,275,000	6				
				1,321,000	4	1,321,000	4				
				350,000	1	1,453,000	3				
		70,000	1			120,000	2				
				320,000	1	370,000	2				
453,000	9	2,320,000	21	1,000,000	2	18,736,000	105	3,490,000	1	407,139,000	377

文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覧

昭 和 2 8 年 度

科 府 目 別	国 宝 其 他 建 造 物 保 存 修 理 費 補 助 金	国 宝 其 他 建 造 物 保 存 修 理 費 補 助 金	法 隆 寺 国 宝 其 他 保 存 修 理 費 補 助 金	日 光 二 社 一 寺 国 宝 其 他 保 存 修 理 費 補 助 金	史 跡 名 勝 天 然 記 念 物 保 存 修 理 費 補 助 金	国 宝 其 他 防 災 施 設 費 補 助 金	中 尊 寺 宝 物 取 藏 庫 建 設 費 補 助 金	類						
北海					700,000	1	250,000	2						
青森	3,000,000	1	788,000	2	200,000	1								
岩手								13,300,000	1					
宫城					300,000	1	920,000	2						
秋田	100,000	1												
山形	3,670,000	1												
福島							990,000	3						
茨城					150,000	1								
栃木	5,300,000	1		25,000,000	3		7,800,000	3						
群馬														
埼玉	8,250,000	2	234,000	1	680,000	1								
千葉	1,610,000	1					50,000	1						
東京	9,570,000	3	120,000	2			1,046,000	4						
神奈川	500,000	1												
新潟	7,950,000	2	780,000	4			50,000	1						
富山	1,750,000	1												
石川	13,110,000	3												
福井	10,740,000	2												
山梨	8,590,000	3					2,281,000	4						
長野	3,255,000	4			200,000	1	2,984,000	3						
岐阜	2,395,000	2					3,334,000	6						
静岡							666,000	1						
愛知	9,435,000	5	339,000	4	2,500,000	1	527,000	2						
三重	462,000	1	340,000	4	350,000	1	305,000	3						
滋賀	23,700,000	3	786,000	8			7,815,000	4						
京都	30,661,000	10	6,551,000	16	3,358,000	4	2,170,000	5						
大阪	3,258,000	3	120,000	2			1,670,000	2						
兵庫	14,350,000	3	247,000	3										
奈良	19,500,000	4	2,694,000	3	45,500,000	1	3,718,000	9						
和歌山			1,930,000	6			410,000	1						
鳥取														
島根	8,100,000	1	238,000	2			60,000	1	5,250,000					
岡山	85,000	1												
広島	6,220,000	1	616,000	3			440,000	1						
山口			163,000	1										
徳島					1,200,000	2	1,730,000	2						
香川	6,000,000	1					1,809,000	5						
愛媛	4,420,000	2	485,000	5			1,900,000	2						
高知	9,657,000	2					150,000	2						
福岡	530,000	1	80,000	1			650,000	3						
佐賀														
長崎					1,150,000	2	1,725,000	2						
熊本														
大分							1,103,000	2						
宮崎					50,000	1								
鹿児島							50,000	1						
總計	216,168,000	66	16,511,000	67	45,500,000	1	25,000,000	3	12,398,000	19	52,263,000	82	13,300,000	1

文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覽

国宝其他建造物保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
青森	長勝寺三門	弘前市西茂森町	3,000,000	
秋田	神明社観音堂	南秋田郡飯田川町	100,000	
山形	慈恩寺本堂	西村山郡靉翻村	3,670,000	完
栃木	西明寺楼門及塔婆	芳賀郡益子町	5,300,000	
埼玉	高倉寺観音堂	入間郡豊岡町	2,420,000	完
〃	喜多院庫裡	川越市大字小仙波	5,830,000	
千葉	宝珠院観音堂(光堂)	印旛郡永治村小倉三門口	1,610,000	完
東京	根津神社拜殿	文京区根津須賀町	6,909,000	完
〃	観音寺本堂及仁王門	西多摩郡霞村	2,519,000	完
〃	東照宮社殿(上野)	台東区上野公園内	142,000	
神奈川	臨春閣仏殿、三重塔	横浜市中区本牧三の谷	500,000	
新潟	乙宝寺塔婆	北蒲原郡乙村	720,000	完
〃	蓮華峯寺金堂及弘法堂	佐渡郡小木町	7,230,000	
富山	護国八幡宮社殿	西礪波郡埴生村	1,750,000	完
石川	尾崎神社社殿	金沢市西町四番丁	6,000,000	
〃	那谷寺鐘楼	江沼郡那谷村	1,400,000	
〃	妙成寺開山堂	羽咋郡上甘田村	5,710,000	
福井	神宮寺本堂	小浜市遠敷神宮寺	4,240,000	
〃	丸岡城天守	坂井郡丸岡町霞	6,500,000	
山梨	窪八幡神社拜殿外社	東山梨郡八幡村北窪	2,380,000	完
〃	窪八幡神社高良神社	〃	1,600,000	
〃	大善寺本堂	〃 勝沼町	4,610,000	
長野	中禅寺薬師堂	小県郡西塩田村	1,125,000	完
〃	智識寺本堂	更級郡上山田村	695,000	完
〃	福德寺本堂	下伊那郡大鹿村	1,235,000	
〃	遠照寺釈迦堂	上伊那郡三義村	200,000	
岐阜	新長谷寺本堂	関市新長谷寺	825,000	完
〃	国分寺本堂	高山市総和町	1,570,000	
愛知	名古屋城東南隅櫓	名古屋市中区南外堀町	998,000	完
〃	密蔵院塔婆	春日井市熊野町	667,000	完
〃	高田寺本堂	西春日井郡師勝村	5,200,000	完
〃	金蓮寺弥陀堂	幡豆郡横須賀村	2,170,000	
〃	長光寺地藏堂	中島郡大里村	400,000	
三重	観菩提寺楼門	河山郡島ヶ原村	462,000	
滋賀	延暦寺根本中堂及廻廊	大津市坂本本町	20,000,000	
〃	西明寺二天門	犬上郡東甲良村	1,360,000	完
〃	石山寺鐘楼	大津市石山寺辺町	2,340,000	完
京都	平等院鳳凰堂	宇治市宇治蓮華	6,255,000	
〃	大報恩寺本堂	京都市上京区五辻通六軒町西入ル溝前町	7,000,000	
〃	教王護国寺講堂	〃 下京区四ツ塚通大宮西入ル九条町	8,046,000	
〃	教王護国寺南大門	〃	1,640,000	完
〃	西本願寺黒書院	京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町	280,000	完
〃	妙心寺小方丈	〃 右京区花園妙心寺町	100,000	完
〃	勸修寺書院	〃 東山区山科勸修寺仁王堂町	230,000	完
〃	二条城米蔵北大手門	〃 中京区二条通堀川西入ル二条城町	3,375,000	完
〃	建仁寺勅使門	〃 東山区大和太路通四条下ル四丁目小松町	2,245,000	

文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覧

県別	名称	所在地	補助額	備考
京都	春日神社本殿	京都府相楽郡精華町	1,490,000	完
大阪	住宅(吉村邸)	大阪市住吉区住吉町	1,490,000	完
〃	金剛寺本堂及楼門	大阪府南河内郡長野町	1,068,000	
〃	金剛寺食堂	〃	700,000	
兵庫	円教寺大講堂	飾摩郡曾佐村	13,800,000	
〃	太山寺仁王門	神戸市垂水区伊川谷町	250,000	完
〃	御霊神社本殿	有馬郡三田町貴志	300,000	
奈良	極楽院本堂	奈良市中院町	5,000,000	
〃	法華寺本堂	〃 法華寺町	5,000,000	
〃	十輪院本堂及南門	〃 十輪院町	4,000,000	
〃	松尾寺本堂	生駒郡矢田村	5,500,000	
島根	松江城天守	松江市殿町	8,100,000	
岡山	閑谷燬校門	岡山市山下	85,000	完
広島	厳島神社 ^{客社} 3棟	佐伯郡宮島町	6,220,000	完
香川	本山寺本堂	三豊郡本山村	6,000,000	
愛媛	太山寺本堂	松山市太山寺町	3,800,000	
〃	大山祇神社本殿	越智郡宮浦村	620,000	完
高知	高知城天守	高知市丸ノ内	8,310,000	
〃	土佐神社本殿外3棟	〃 一宮	1,347,000	完
福岡	宗像神社拜殿	宗像郡田島村	530,000	完
計		66件	216,168,000	

備考 記載の完は昭和28年度工事完了のもの

国宝其他宝物類保存修理費補助金

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考
青森	八幡宮	唐櫃入赤糸威鎧兜大袖付	三戸郡館村	382,000	
〃	〃	紫糸威肩白浅黄鎧兜大袖付	〃	406,000	
埼玉	常楽院	木造軍荼利明王立像	入間郡吾野村	234,000	
東京	早稲田大学	紙本墨書東大寺文書15通	新宿区戸塚町	} 120,000	
〃	〃	玉篇卷第9残巻	〃		
新潟	茂林寺	木造地藏菩薩半跏像	蒲原郡小須戸町	232,000	
〃	貞観園保存会	〃 薬師如来立像	刈羽郡高柳村大字	158,000	
〃	白山神社	〃 聖観音立像	西頸城郡能生町	152,000	
〃	国分寺	〃 大日如来坐像	中頸城郡春日村	238,000	
愛知	熱田神宮	菊蔀絵手宮	名古屋市熱田区新宮坂町	62,000	
〃	〃	日本書記	〃	32,000	
〃	宝生院	紙本墨書	〃 中区門前町	30,000	
〃	東観音寺	古書籍16種の内空也上人誅	〃		
〃	〃	木造弥陀如来坐像	渥美郡二川町	215,000	
三重	念仏寺	〃 阿弥陀如来坐像	上野市寺町	257,000	
〃	専修寺	紙本墨書 水鏡 上中下	河芸郡一身田町	} 45,000	
〃	〃	後陽成天皇宸翰御消息	〃		
〃	近長谷寺	近長谷寺資財帳	多気郡佐奈村	38,000	
滋賀	園城寺	木造智証大師坐像	大津市別所	25,000	
〃	福正寺	木造地藏菩薩立像	栗太郡葉山村	50,000	
〃	善隆寺	木造十一面観音立像	伊香郡永原村	48,000	

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考	
滋賀	兵主大社	刺繡三味耶幡	野洲郡兵主村	321,000		
	延暦寺	伝述一心戒文 上中下	大津市坂本本町	} 170,000		
		悉曇藏				
		紙本墨書	東浅井郡竹生村	24,000		
		空海将来經等目錄表	伊香郡南富永村	148,000		
	京都	向源寺	木造十一面觀音立像	京都市上京区紫野大徳寺町	20,000	
		大徳寺	紙本淡彩養叟和尚像			
		妙法院	木造千手觀音立像 1001編の内	東山区東大路通 渋谷下ル妙法院前側町	3,179,000	
		棲霞寺	木造阿弥陀如来兩脇土像	右京区嵯峨釈迦 堂藤ノ木町	342,000	
		大福光寺	方丈記	京都府船井郡高原村	} 38,000	
			玉篇 第廿四断簡			
		仁和寺	新修本草	京都市御室大内	} 84,000	
			般若經理趣品			
		神護寺	紺紙金字一切經2273卷の内	右京区梅ヶ畑高 雄町	650,000	
		高山寺	絹本着色仏眼仏母像	梅畑尾町	63,000	
		教王護国寺	木造五大菩薩坐像	下京区四塚通大 宮西入九条町	691,000	
			梵天帝釈天坐像		544,000	
			海賦蒔絵袈裟箱		64,000	
		妙心寺	小形武具	右京区妙心寺町	121,000	
		(東) 本願寺	教行信証	下京区烏丸通七条	200,000	
	(西) 本願寺	紙本墨書 熊野懷紙附添状	下京区堀川通花 屋町下ル本願寺前町	79,000		
	陽明文庫	紙本墨書 平記	右京区宇多野上 ノ谷町	476,000		
大阪	道明寺天満宮	銀装革帶等	南河内郡道明寺町	} 120,000		
		笹散雙雀鏡、笹散蒔絵鏡				
兵庫	太山寺	絹本着色兩界曼荼羅図	神戸市垂水区多聞町	} 247,000		
		絹本着色十一面觀音像				
奈良	九品寺	木造阿弥陀如来坐像	南葛城郡大正村	96,000		
	光林寺	木造阿弥陀如来立像	磯城郡川西村	25,000		
奈良	薬師寺	月光菩薩等	奈良市西ノ京町	2,573,000		
	和歌山	紺紙金銀字一切經(中尊寺 經) 4296巻の中	伊都郡高野町	1,050,000		
		紺紙金字 一切經(荒川經) 3575巻中		630,000		
	釈迦文院	大和州益田池碑銘并序 (絹本)		90,000		
	龍光院	紙本墨書 最勝王經		} 110,000		
		諸經要集巻第五				
	西南院	紙本墨画五部心觀		50,000		
島根	心覚院	木造阿弥陀如来坐像	浜田市松原町	150,000		
	出雲大社	肩白赤糸威鎧兜大袖付	簸川郡大社町	88,000		
広島	文裁寺	木造十一面觀音立像	世羅郡東村	189,000		
		聖觀音立像		200,000		
	摩訶衍寺	木造十一面觀音立像	豊田郡原田村	227,000		
山口	国分寺	木造四天王立像 4編の内 広目天, 多聞天	下関市東南部町	163,000		
	愛媛	大山祇神社	紫革威鎧大袖付	} 342,000		
		洞丸				
		野太刀				
		萌黄綾威腰取鎧大袖付		64,000		

県別	所有者	名称	所在地	補助額	備考
愛媛	大山祇神社	薫革威胴丸大袖付2領の内	越智郡宮浦村	79,000	
福岡	宇原神社	豊前国京都郡石塚山古墳出土品の内三角緑神獸鏡	京都郡苅田町	80,000	
	計	67件		16,511,000	

法隆寺国宝其他保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	法隆寺	生駒郡斑鳩町	45,500,000	前年度繰越 825,000

法隆寺国宝其他防災施設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
奈良	法隆寺	生駒郡斑鳩町	3,490,000	

日光二社一寺国宝其他保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
栃木	東照宮	日光市日光	12,687,500	
シ	二荒山神社	シ	2,975,000	
シ	輪王寺	シ	9,337,500	
	計		25,000,000	

史跡名勝天然記念物保存修理費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
北海道	五稜郭跡	函館市亀田	700,000	
青森	蕪島うみねこ繁殖地	八戸市鮫町	200,000	
宮城	旧有備館及び庭園	玉造郡岩出山町	300,000	
茨城	佐久良東雄旧宅	新治郡林村	150,000	
埼玉	塙保己一旧宅	児玉郡金屋村	680,000	
長野	松本城跡	松本市北深志	200,000	
愛知	名古屋城跡	名古屋市西区南外堀町	2,500,000	
三重	旧崇広堂	上野市	350,000	
京都	鹿苑寺(金閣寺)庭園	京都市上京区金閣寺町	2,500,000	
シ	酬恩庵庭園	綴喜郡田辺町	678,000	
シ	西芳寺庭園	京都市右京区松尾神ヶ谷町	150,000	
シ	大仙院書院庭園	シ 上京区紫野大徳寺町	30,000	
兵庫	姫路城跡	姫路市本町	1,500,000	
島根	今市大念寺古墳	出雲市	60,000	
山口	錦帯橋	岩国市	1,000,000	
シ	明倫館	萩市	200,000	
長崎	出島和蘭商館跡	長崎市出島町	550,000	
シ	平戸和蘭商館跡	北松浦郡平戸町	600,000	
宮崎	西都原古墳群	児湯郡妻町上穂北村	50,000	
	計	19件	12,398,000	

国 宝 其 他 防 災 施 設 費 補 助 金

県 別	名 称	所 在 地	補 助 額	備 考
	(建造物防災施設)			
宮 城	大 崎 八 幡 神 社	仙台市八幡町	800,000	
栃 木	東 照 宮 寺	日光市大字日光	3,840,000	
〃	輪 王 寺	〃	3,030,000	
〃	二 荒 山 神 社	〃	930,000	
山 梨	窪 八 幡 神 社	東山梨郡八幡村北	700,000	
〃	熊 野 神 社	〃 奥野田村熊野	954,000	
長 野	善 光 寺	長野市大字長野元善町	2,494,000	
〃	諏 訪 神 社	諏訪郡本郷村大字乙事	415,000	
岐 阜	永 保 寺	多治見市虎溪山町	980,000	
〃	円 鏡 寺	本巢郡北方町	210,000	
〃	新 長 谷 寺	関 市	482,000	
静 岡	富 山 本 宮 浅 間 神 社	富士宮市大字桜ヶ丘	666,000	
愛 知	伊 賀 八 幡 宮	岡崎市伊賀町	427,000	
滋 賀	延 暦 寺	大津市坂本本町	400,000	
〃	〃	〃	6,960,000	
〃	石 山 寺	大津市石山寺辺町	230,000	
〃	西 明 寺	犬上郡東甲良村	225,000	
京 都	蓮 華 王 院	東山区東大路洪谷下ル妙法院 前側町	595,000	
〃	慈 照 寺	京都市左京区銀閣寺町	595,000	
〃	妙 心 寺	京都市右京区花園妙心寺町	560,000	
〃	石 清 水 八 幡 宮	綴喜郡八幡町大字八幡荘	400,000	
大 阪	観 心 寺	南河内郡川上村寺元	700,000	
奈 良	檀 原 神 宮	高市郡畝傍町	700,000	
和 歌 山	護 国 院	和歌山市紀三井寺	410,000	
島 根	出 雲 大 社	簸川郡大社町	3,000,000	
〃	〃	〃	700,000	
〃	万 福 寺	美濃郡益田町	1,050,000	
広 島	厳 島 神 社	佐伯郡宮島町	440,000	
山 口	住 吉 神 社	下関市一ノ宮町	980,000	
〃	功 山 寺	〃 長府町	750,000	
香 川	神 谷 神 社	綾歌郡松山村神谷	245,000	
〃	国 分 寺	〃 端岡村国分	334,000	
愛 媛	興 隆 寺	周桑郡徳田村古田	1,260,000	
〃	松 山 城	松山市堀ノ内町	640,000	
高 知	高 知 城	高知市丸ノ内	100,000	
長 崎	崇 福 寺	長崎市今籠町	725,000	
〃	興 福 寺	〃 寺町	1,000,000	
大 分	宇 佐 神 宮	宇佐郡宇佐町宇佐	640,000	
〃	泉 福 寺	東国東郡豊崎村横手	463,000	
	小 計		40,030,000	
	(宝物保存施設)			
福 島	弘 安 寺	大沼郡新鶴村米田	910,000	
山 梨	歙 盛 院	南巨摩郡三町村下河東	250,000	
〃	菅 田 神 社	東山梨郡塩山町	377,000	
岐 阜	東 円 寺	中津川市中津川	300,000	
〃	美 江 寺	岐阜市美江寺町	550,000	

文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覧

県別	名称	所在地	補助額	備考
岐阜	願興寺	可児郡御崇町	812,000	
愛知	龍照院	海部郡蟹江町	100,000	
大阪	四天王寺	大阪市天王寺区元町	970,000	
兵庫	浄土寺	加東郡小野町浄谷	400,000	
奈良	室生寺	宇陀郡室生村	250,000	
〃	極楽寺	生駒郡安緒村東安緒	200,000	
〃	金剛山寺	生駒郡矢田村	1,643,000	
島根	鱒淵寺	簸川郡平田町別所	500,000	
香川	願興寺	大川郡造田村	350,000	
福岡	戒壇院	筑紫郡太宰府町	520,000	
	小計		8,132,000	
	(宝物防災施設)			
神奈川	總持寺	横浜市鶴見区鶴見町	400,000	
〃	浄楽寺	横須賀市芦名	352,000	
〃	極楽寺	鎌倉市極楽寺	140,000	
〃	杉本寺	鎌倉市二階堂	154,000	
香川	金刀比羅宮	仲多度郡琴平町	780,000	
	小計		1,826,000	
	(史跡名勝天然記念物保存施設)			
北海道	釧路のタンチヨウ及びその渡来地	釧路郡釧路村川上郡標茶村	50,000	
〃	最寄貝塚	阿寒郡阿寒村網走市	200,000	
宮城	多賀城跡	宮城郡多賀城町	120,000	
福島	薬師堂石仏	相馬郡福浦村	30,000	
〃	三春滝桜	田村郡中郷村	50,000	
千葉	原幽学遺跡	香取郡中和村	50,000	
新潟	春日山城跡	中頸城郡春日村	50,000	
長野	信濃国分寺跡	小県郡神川村	75,000	
三重	谷川土清墓	津市大字刑部	50,000	
〃	庵補陀落寺町石	上野市	100,000	
〃	本居宣長旧宅	松阪市松阪殿町	155,000	
京都	桂春院庭園	京都市右京区花園寺ノ中町	20,000	
兵庫	楠木正成墓碑	神戸市生田区多聞通	70,000	
奈良	石舞台古墳	高市郡高市村	250,000	
〃	藤原宮跡	〃 鴨公村	200,000	
〃	法隆寺旧境内	生駒郡斑鳩町	225,000	
〃	平城宮跡	奈良市	100,000	
〃	奈良公園	奈良市	150,000	
香川	象頭山	仲多度郡琴平町、善通寺町	100,000	
高知	土佐オナガドリ	高知県	50,000	
福岡	国分瓦窯跡	筑紫郡水城村	70,000	
〃	鹿毛馬神籠石	嘉穂郡頼田村	60,000	
鹿児島	出水郡のツル及び渡来地	出水郡、阿久根市	50,000	
	小計		2,275,000	
	計	82 件	52,263,000	

兵庫県

大乗寺宝物類防災施設昭和27年度よりの繰越金 551,408 円
 大乗寺宝物類保存施設 〃 298,286 円

中尊寺宝物類収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
岩手	中尊寺	西磐井郡平泉村	13,300,000	

埋蔵文化財収蔵庫建設費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
長野	平出遺跡	東筑摩郡宗賀村	800,000	
静岡	登呂遺跡	静岡市高松	200,000	
	計		1,000,000	

文化財公開費交付金

県別	名称	交付先	補助額	備考
宮城	東北、北海道地区郷土芸能大会	宮城県教育委員会	50,000	外60,000円 文部省芸術課 より補助 外10,000円
埼玉	関東地区郷土芸能大会	埼玉県	50,000	
東京	全国郷土芸能大会	財団法人 日本青年館	90,000	
	雅楽公開	宮内庁楽部楽友会	10,000	
	日本伝統工芸展	財団法人 文化財協会	70,000	
愛知	東海北陸地区郷土芸能大会	愛知県教育委員会	33,000	
奈良	近畿地区郷土芸能大会	奈良県	50,000	
岡山	中国四国地区郷土芸能大会	岡山県	50,000	
長崎	九州地区郷土芸能大会	長崎県	50,000	
	計	9件	453,000	文部省の補助 70,000

無形文化財助成金

県別	名称	交付先	助成内容	補助額	備考
	(芸能)				
山形	黒川能	黒川能保存会	映画作製	70,000	
福島	野馬追、流山踊	相馬野馬追保存協会	〃	70,000	
群馬	神代舞	群馬県教育委員会	〃	70,000	
神奈川	チャッキラコ	神奈川県教育委員会	〃	70,000	
長野	二十五菩薩来迎会	二十五菩薩来迎会保存会	〃	70,000	
愛知	花祭	北設楽郡町村会	〃	70,000	
大阪	文楽	因会、三ツ和会	後継者養成等	500,000	
大島	鷺舞	津和野町教育委員会	映画作製	70,000	
宮崎	夜神楽	宮崎県教育委員会	〃	70,000	
	小計			1,060,000	
	(工芸技術)				
東京	黄八丈	黄八丈技術保存会	設備整備	100,000	
	長板中型	長板中型本染技術保存協会	設備、技術講習	100,000	
新潟	小千谷縮	小千谷縮布技術保存会	技術記録作製	38,000	
石川	九谷焼	徳田八十吉	〃	120,000	
	沈金	前大	〃	175,000	

県別	名称	交付先	助成内容	補助額	備考
岐阜 愛知 三重 兵庫 島根 香川	飛驒春慶	飛驒春慶技術保存会	技術記録作製	51,000	
	七宝	林貞信、太田良治郎	〃	140,000	
	伊勢型紙	伊勢型彫刻組合	型地紙製作	45,000	
	丹波立杭	丹波立杭窯保存会	窯の記録作製	101,000	
	和根	島根県教育委員会	技術記録作製	150,000	
	川存	川勇	〃	120,000	
	蒔	井雪	〃	120,000	
	小計			1,260,000	
	計		21件	2,320,000	

国宝建造物其他災害復旧費補助金

県別	名称	所在地	補助額	備考
	(建造物)			
石川	長流亭	江沼郡大聖寺町江沼神社境内	80,000	
福井	明通寺本堂	遠敷郡松永村	720,000	
愛知	八剣社富士神社本殿	海部郡蟹江町大字須成	720,000	
〃	犬山城天守	丹羽郡犬山町大字犬山	40,000	
滋賀	金剛輪寺本堂	愛知郡秦川村	880,000	
〃	和田神社本殿	大津市膳所錦町	240,000	
京都	龍吟庵方丈藏	京都市東山区本町通東福寺北門前本町	690,000	
〃	角屋東奥蔵	〃 下京区西新屋敷揚屋町	80,000	
〃	二条城唐門外3棟	〃 中京区二条通堀川西入	220,000	
〃	西本願寺白書院	〃 下京区堀川通花屋町下ル	160,000	
〃	建仁寺方丈	〃 東山区大和大路通四条下ル	240,000	
〃	妙心寺大方丈	〃 右京区花園妙心寺町	160,000	
〃	広隆寺桂宮院本堂	〃 〃 太秦峰岡町	40,000	
〃	金剛院塔婆	東舞鶴市大字鹿原	16,000	
〃	宝積寺塔婆	乙訓郡大山崎村	24,000	
兵庫	石峯寺塔婆	美囊郡上淡河村	800,000	
奈良	鳳園寺廟堂	吉野郡里滝村	160,000	
〃	福智院本堂	奈良市福智院町	800,000	
〃	南明寺本堂	添上郡大柳生村	480,000	
〃	丹生神社本殿	〃 柳生村	160,000	
和歌山	法音寺本堂	有田郡岩倉村	240,000	
〃	八幡神社境内社天神社拜殿	〃 南広村	320,000	
山口	今八幡宮本殿、拜殿、楼門	山口市大字八幡馬場	535,000	
愛媛	大山祇神社拜殿	越智郡宮浦村	560,000	
高知	竹林寺文殊堂	高知市一宮五台山	640,000	
熊本	明導寺九重石塔	球磨郡湯前町	150,000	
鹿児島	八幡神社本殿	伊佐郡大口町	320,000	
小計			9,475,000	
	(宝物)			
福井	意足寺 木造千手観音立像1軀 附紙本墨書千手千眼陀羅尼經	大飯郡佐分利村	180,000	

県別	名称	所在地	補助額	備考
	(史跡名勝天然記念物)			
福井	小浜神社の九本ダモ	小浜市	70,000	
三重	西福寺庭園	敦賀市	70,000	
滋賀	旧崇広堂	上野市	224,000	
京都	庵補陀落寺町石	〃	112,000	
滋賀	旧豊宮崎文庫	宇治山田市岡本町	105,000	
京都	延暦寺境内(比叡山鳥類繁殖地)	大津市坂本本町	624,000	
京都	兵主神社庭園	野洲郡兵主村	210,000	
京都	玉鳳院庭園	京都市右京区花園妙心寺町	56,000	
京都	霊雲院庭園	〃	280,000	
京都	仁和寺御所跡	〃 〃 御室大内	560,000	
京都	旧二条離宮(二条城)	〃 中京区二条通堀川西入	280,000	
京都	酬恩庵庭園	綴喜郡田辺町	175,000	
奈良	伊藤仁斎旧宅	京都市上京区東堀川通	70,000	
奈良	頭塔	奈良市高畑町	280,000	
和歌山	当麻寺中之坊庭園	北葛城郡当麻村	140,000	
山口	新宮藺沢浮島植物群落	新宮市	700,000	
福岡	常栄寺庭園	山口市	175,000	
福岡	王塚古墳	嘉穂郡桂川町	140,000	
福岡	元寇防塁	福岡市	38,000	
福岡	国分瓦窯跡	筑紫郡水城村	105,000	
福岡	弥永一里塚	朝倉郡三輪村	14,000	
福岡	日岡古墳	浮羽郡千年村	56,000	
福岡	珍敷塚古墳	浮羽郡福富村	70,000	
福岡	鹿毛馬神籠石	嘉穂郡穎田村	70,000	
福岡	石人山古墳	八女郡下広川村	42,000	
福岡	清水寺本坊庭園	山門郡東山村	280,000	
福岡	本庄の樟	築上郡上城井村	21,000	
福岡	隠家の森	朝倉郡朝倉村	14,000	
福岡	黒木の藤	八女郡黒木町	140,000	
佐賀	横田下古墳	東松浦郡浜崎町	175,000	
佐賀	多久聖廟	小城郡多久村	42,000	
佐賀	名護屋城跡	東松浦郡名護屋村	420,000	
長崎	高島秋帆旧宅	長崎市東小島町	350,000	
熊本	熊本城跡	熊本市本丸町	743,000	
熊本	相良のアイラトピカツラ	鹿本郡内田村	350,000	
熊本	水前寺成趣園	熊本市出水町	78,000	
大分	白杵磨崖仏	白杵市深田	350,000	
大分	小計		7,629,000	
	(防災施設)			
滋賀	長命寺	蒲生郡島村	200,000	建造物 防災施設
京都	大徳寺	京都市上京区紫野大徳寺町	29,000	〃
京都	鹿苑寺	〃 金園寺町	9,000	〃
京都	正伝寺	〃 西賀茂鎮守庵町	13,000	〃
京都	由岐神社	〃 左京区鞍馬本町	31,000	〃
京都	妙心寺	〃 右京区花園妙心寺町	23,000	〃
京都	仁和寺	〃 御室大内	5,000	〃
京都	天龍寺	〃 伏見区醍醐東大路町	13,000	〃

県別	名称	所在地	補助額	備考
京都	松尾神社	京都府相楽郡高麗村	8,000	建造物
〃	〃	京都市中京区二条通堀川西入ル	21,000	防災施設
〃	二建寺	〃 東山区大和通四下ル	7,000	〃
〃	高南台禅寺	〃 八坂鳥居前下ル	7,000	〃
〃	南稻荷神社	〃 左京区南禅寺福池町	9,000	〃
〃	醍醐醍醐寺	〃 伏見区深草藪ノ内	8,000	〃
〃	上三西智西	〃 醍醐東大路町	11,000	〃
〃	〃	〃	43,000	〃
〃	〃	〃 左京区大原百井町	22,000	〃
〃	〃	〃 中京区堀川通花屋町下ル	5,000	〃
〃	〃	〃 東山区新橋通大和路	13,000	〃
〃	〃	〃 東入ル	13,000	〃
〃	〃	〃 山科勸修寺仁王堂町	13,000	〃
〃	〃	〃 右京区松尾神ヶ谷町	11,000	〃
奈良	般東春興新今福極十崇伝不海唐	奈良市般若寺町	7,000	〃
〃	〃	〃 雑司町	40,000	〃
〃	〃	〃 春日野町	28,000	〃
〃	〃	〃 登大路町	35,000	〃
〃	〃	〃 高畑町	21,000	〃
〃	〃	〃 福智院町	7,000	〃
〃	〃	〃 福智院町	7,000	〃
〃	〃	〃 中院町	15,000	〃
〃	〃	〃 十輪院町	7,000	〃
〃	〃	〃 西紀寺町	7,000	〃
〃	〃	〃 小川町	7,000	〃
〃	〃	〃 法蓮町	7,000	〃
〃	〃	〃 法華寺町	15,000	〃
〃	〃	〃	7,000	〃
〃	〃	〃 五条町	49,000	〃
京都	蟹青隣	京都府相楽郡棚倉村	168,000	宝物保存
〃	〃	京都市東山区粟田口三条坊町	70,000	施設
〃	〃	〃 右京区花園妙心寺町	70,000	〃
和歌山	入幡小神社	那賀郡那賀村	384,000	〃
	合計	105 件	18,736,000	

文化財保護委員会昭和二八年度補助金交付一覽

助成の措置を講ずべき無形文化財一覧

(昭和二十八年二月現在)

工芸技術関係 (三九件)

名称	氏名	住所	所
植物染料 紫根 茜染	栗山文次郎	秋田県鹿角郡花輪町	
漆芸	河面冬山	東京都渋谷区代々木富ヶ谷町一、四六八	
用具	小宮又兵衛	同 目黒区中目黒三ノ一、〇九二	
木画	木内省古	同 豊島区長崎四ノ二七	
江戸小紋	小宮康助	同 葛飾区上平井町二、三七一	
黄入丈	黄入丈技術保存会	同 八丈島大賀郷村	
長板中形		同 一円	
木版画		同 一円	
御所人形	野口光彦	同 文京区久堅町二七	
衣裳人形	平田恒雄	同 台東区上野桜木町五四	
上絵付 (黄地紅彩)	加藤土師萌	同 神奈川県横浜市港北区日吉	
小千谷縮	小千谷縮布技術保存会 (代表西脇亮三郎)	同 新潟県小千谷市	
銅鑼	魚住安太郎	同 石川県金沢市長町五	
沈金	前大峰	同 輪島市	
上絵付 (九谷)	徳田八十吉	同 小松市大文字町九五ノ一	
加賀友禅	木村文二	同 金沢市横山町二番丁三四	
墨流し	広場治左衛門	同 福井県武生市蓬来町三七	

助成の措置を講ずべき無形文化財一覧

志野ゆ	荒川豊蔵	岐阜県多治見市大畑町二丁目	
瀬戸黒	山田栄一	愛知県愛知郡鳴海町神明三七	
揚子のり		同 名古屋市中区東区丸下立売上ル	
七宝	加藤唐九郎	同 東春日井郡守山町翠松園	
織部焼	六谷紀久男	同 三重県鈴鹿市寺家町伊勢彫刻組合	
錐小紋	児玉博		
紋小	中島秀吉		
伊勢彫具	中村勇二郎		
伊勢彫具	南部芳松		
彫つき	城之口みえ		
彫つき	森村清太郎		
彫つき	隈田定治郎	京都府京都市左京区下鴨上川原町七九	
彫つき	廣瀬信次郎	京都府京都市上京区出水通烏丸西入	
表装金襴	深見重助	同 左京区八瀬町	
唐組	石黒宗鷹	同 同 中京区油小路通夷川上ル	
天目ゆ	伊藤富三郎	同 同 東山区泉湧寺東林町三七	
植物染料	宇野宗太郎	同 同 同 同	
辰砂	喜多川平朗	京都府京都市上京区烏丸下立売上ル	
羅	山本熊太郎	東西織物所	

京友禰	田畑喜八	京都府京都市中京区小川通夷川下ル下丸屋町四五三
御所人形	上野為二	同 同 猪熊通三条上ル姉猪熊町三一五
三つ折人形	岡本正太郎	同 同 下京区御幸町通
烏梅	岡本庄三	同 同 中京区押小路富小路東入橋町六三
規矩術	井尾浅次郎	奈良県添上郡月瀬村桃香野
備前焼	吉田種次郎	同 奈良市北袋町
存清	金重陶陽	岡山県和気郡備前町伊部
菫馨	香川勇	香川県高松市古馬場町一四
日本刀	磯井雪枝	同 同 西浜新町
上絵付 (色鍋島)	高橋金市	愛媛県松山市道後石手一
	今泉今右衛門	佐賀県西松浦郡有田町赤絵地区

日展関係諸表

第五、六、七、八、九回日本美術展覧会出品申込並びに陳列点数比較備考 (第六回から参事加わる)

会期別	科別	申込点数					陳列点数					
		第一科	第二科	第三科	第四科	第五科	第一科	第二科	第三科	第四科	第五科	
第五回		五九一	一四七〇	二七〇	八五三	四八八	三、六〇〇	二、八〇〇	一、五三〇	二、三三〇	一、二八〇	一、四一五
第六回		六〇〇	一、五七四	二九五	六七〇	五〇一	三、六〇〇	二、八〇〇	一、五三〇	二、三三〇	一、二八〇	一、四一五
第七回		六五三	二、〇一九	二七九	七一九	六〇二	四、四〇〇	三、五五〇	二、〇〇〇	二、四一〇	一、二八〇	一、四一五
第八回		六九三	二、四七七	三三三	九二二	六九四	五、〇九六	三、六八〇	一、〇二〇	二、四一〇	一、二八〇	一、四一五
第九回		七五七	二、九二八	三三七	八八四	八七六	四、七九二	三、七四〇	一、五〇七	二、四一〇	一、二八〇	一、四一五
計												

第五、六、七、八、九回日本美術展覧会、会期、観覧人員、政府買入品数調比較

会期別	会期	観覧人員		一日平均	政府買入品					計
		総人員	観覧人員		第一科	第二科	第三科	第四科	第五科	
第五回	二四日	七六、〇二二	三、二〇〇	一	一	三	二	三	一〇	
第六回	三一日	一四六、四七五	四、七二五	三	〇	一	三	二	八	
第七回	三二回	一六四、六一〇	五、一四四	二	三	三	二	二	二	
第八回	三四日	一七八、三八九	五、二四六	二	三	三	二	二	二	
第九回	三四日	一七二、四一九	五、〇七一	二	三	二	二	二	二	
計										

第五、六、七、八、九回日本美術展覧会入選人員及び新入選人員数比較

会期別	科別	第一科		第二科		第三科		第四科		第五科		計
		入選	内新入選	入選	内新入選	入選	内新入選	入選	内新入選	入選	内新入選	
第五回		二一八	四四	三〇四	七四	一五三	一九	二五三	五四	一九〇	一〇一	二九二
第六回		二一八	四七	四八九	一二四	一六八	一一	三一五	六二	一二八	三六	二八〇
第七回		二五五	四一	四七五	一〇一	一七三	二〇	三八五	七九	一四二	四四	二八五
第八回		二六八	三二	五六二	一三六	一八〇	二〇	二九四	五八	二三九	四四	三三四
第九回		二七四	二四	四九五	八九	一三三	一一	三五二	六二	二五四	九八	二八四
計												

第九回日本美術展覧会審査員一覽

第一科(日本画)一五名

會員 小野竹喬

堂本印象

中村岳陵

松林桂月

伊東深水

宇田荻邨

堅山南風

金嶋桂華

望月春江

麻田辨次

岩淵芳華

東山魁夷

杉山寧

高山雄

山本倉丘

會員 有島生馬

石井柏亭

川島理一郎

辻弘永

中澤弘光

中村研一

山下新太郎

石川寅治

伊原宇三郎

鬼頭鍋三郎

寺内萬治郎

中野和高

參事 裕 伊之助

長谷川 昇

胡桃澤源人

木下義謙

高野三三男

佐竹 德

島野重之

高岡惣七

高光一也

田村一男

中村琢二

第三科(彫塑)一五名

會員 朝倉文夫

内藤 伸

平櫛田中

藤井浩佑

後藤清一

清水多嘉示

橋本朝秀

松田尚之

木下 繁

富永良雄

長谷川義起

森山朝光

宮地寅彦

山本雅彦

吉田久 繇

第四科(工芸)一九名

會員 海野 清

松田 樞 六

飯塚琅玕齋

河村 蜻山

高野 松山

杉田 禾堂

大須賀 喬

各務 敏三

井上 良齋

北原 三佳

木村 雨山

高久 空木

高橋 節郎

平野利太郎

松崎福三郎

三井 義夫

結城 哲雄

第五科(書)一五名

會員 尾上 柴舟

相澤 春洋

川村 驥山

西川 驥山

印南 溪龍

近藤 秋篁

鈴木 翠軒

炭山 南木

高畑 翠石

高塚 竹堂

田中 塊堂

手島 右郷

中村 蘭台

平尾 孤往

山田 正平

各大学美術関係講義題目

〔官立〕

東京大学

〔文学部美学美術史学科〕(美学)「美学概論」「美学演習」教授竹内敏雄、「音楽学序説」講師野村光一、「近世美学の諸方法」講師山本正男、「美術史」「西洋中世

美術史概説」「西洋美術史演習」助教授吉川逸治、「近代フランス美術史」講師富永惣一、「日本彫刻史」講師田澤坦、「中国陶磁史」講師小山富士夫

(在学員数)「美学」及「美術史」九六名

〔考古学〕「考古学概論」「王国維『簡牘檢畧考』講読」

教授駒井和愛、「日本考古学」「日本考古学演習」講師

八幡一郎、「野外考古学」助教授岡野雄、「西南亜細亞

考古学」講師杉勇

(在学員数) 五名

京都大学

〔文学部美学美術史学科〕(美学序論(Bコース))「藝術の創造と形式研究」教授井島勉、「仏教美術の主題

研究」教授上野照夫、「日本の近世美術」講師源豊宗、

「中世の西欧絵画」講師吉川逸治、「演習 美学美術史

の諸問題」教授井島勉、「演習 Schiller : Philosophische Schriften」講師河本敦夫

(在学員数)「本科」二〇名、「聴講生」二名、「内地研修

員」五名、「内地留学」一名

〔新制大学院文学研究科〕「藝術の創造と形式研究」「大

学院演習」教授井島勉、「中世の西欧絵画」講師吉川

逸治

(在籍者) 四名

〔考古学〕「鏡鑑の研究(前学年の続き)」「演習近時の考

古学上の諸問題」教授梅原末治、「朝鮮考古学研究(前

学年の続き)」「演習 G. V. Child : What Happened in History 講読」助教授有光教一、「日本古墳

墓の研究」講師小林行雄、「演習 Albert Grünwedel :

Buddhistische Kunst in Indien 講読」教授長広敏

雄

(在学員数) 四名

〔新制大学院文学研究科〕「東亜古代文明の研究」教授

梅原末治

東北大学

〔文学部美学美術史学科〕(美学)〔Emil Ullitz: Geschichte der Ästhetik 演習〕教授村田潔、「美学普通講義」「美学特殊講義古典美学に於ける諸問題」講師西田秀穂、「音楽論 講師加藤成之(美術史) 西洋美術史」〔普通講義近代フランス美術〕「西洋美術史演習 Heinrich Wölfflin: Die Klassische Kunst」教授村田潔

〔東洋藝術学科〕「日本美術史普通講義奈良時代盛期より平安時代」「日本美術史特殊講義水墨画」「日本の画論画史演習」教授亀田孜
(在学員数) 美学、美術史科一四名、東洋藝術史科六名
〔考古学〕「普通講義東北地方の古代文化」「特殊講義考古学研究法及実習」講師伊東信雄

九州大学

〔文学部美学美術史学科〕「演習 Wölfflin, Gedanken zur Kunst-Geschichte」「日本美術史」「東洋美術史演習」助教谷口鉄雄、「音楽美学」講師辻在二
(在学員数) 一一名
〔考古学〕「裝飾古墳」「考古学演習(一)」「助教鏡山猛

東京藝術大学

(美術学部)「人体美学」教授西田正秋、「舞台美術論」講師吉田謙吉、「色彩学」「色彩形態論」講師上原之節、「産業工藝史」「工藝論」「東洋工藝史」助教前田泰次、「美学演習」教授村田良策、「美学演習」助教西本順、「美学概論」教授村田良策、「美的構成 講師水谷武彦」、「西洋工藝史」「西洋美術史演習」「西洋美術史特殊講義西洋の文様」教授新規短男、「西洋美術史演習」「西洋美術史概説」「西洋美術史特殊講義西洋近世美術」教授吉川逸治、「東洋美術史概説」「東洋美術史演

習」「東洋美術史特殊講義服飾について」教授谷信一、「日本美術史概説」「日本美術史演習」教授脇本十九郎、「西洋美術史特殊講義初期ルネッサンス美術」教授摩寿意善郎、「美学特殊講義」助教西本順、「漆工史 講師吉野富雄」、「西洋建築史」講師蔵田周忠、「日本東洋建築史」講師太田博太郎、「考古学」「日本古代風俗史」教授藤田亮策

(在学員数) 美術学部 七八八名

長崎大学

〔文学部〕「色彩論」教授山中清一郎、「彫塑論 助教授喜多正雄」、「構成 助教中島三雄」、「西洋美術史(古代、初期キリスト教美術)」「近代絵画」教授田崎維男
(在学員数) 四五名

東京工業大学

〔美術史〕講師北川桃雄

京都学藝大学

〔美術科〕(美学美術史)「美学概論」講師井島勉、「西洋近代絵画」講師河本敦夫、「日本美術史概説」「西洋美術史概説」「美学美術史特殊講義(ヴェルフィン研究)」助教中村二柄

神戸大学

〔文学部文芸科藝術学〕「世界藝術史」「実証藝術学」「藝術学藝術史演習」教授小林太市郎、「日本美術史概説」「東洋水墨画史」「東洋美術史概説」「仏師論」教授谷信一、「日本近世絵画史」「藝術学藝術史演習」助教山根有三、「藝術ジャンル論」「西洋美学史」「藝術史研究の方法論」講師辻部政太郎、「藝術学藝術史講義」講師岩山三郎

京都工芸繊維大学

〔工芸学部〕「美学概論」「美学特論」「西洋美術史」教授河本敦夫、「日本美術史」「東洋美術史」「美術史特論」教授土居次義
(在学員数) 四八七名

〔公立〕

盛岡短期大学

〔美術工藝科〕「美学」講師松本絵、「日本・東洋美術史」講師小杉一雄、「西洋美術史」「藝術概論」教授森口多里
(在学員数) 三二名

金沢美術工藝短期大学

〔美学〕「西洋美術史」教授板垣鷹穂、「日本美術史」講師中一松、「東洋美術史」教授秋山光夫
(在学員数) 一九五名

岩手県立美術工藝高等学校

〔美学〕校長森口多里、「美術史」海野経
(在学員数) 美術科 四二名 工藝科 三三名

〔私立〕

早稲田大学

〔文学部美術史学科〕(文学部)「美術概論」「西洋美術史」演習 教授坂崎坦、「日本美術史」「日本美術研究」講師安藤正輝、「東西美術研究 講師富永愨一」、「東洋美術史」「東洋美術研究」教授小林一雄、「日本建築史」「東洋建築史」「西洋建築史」教授田辺泰、「美学」助教青柳正広、「美術批評」講師大澤武雄、「日本工芸研究 講師中川千咲」、「考古学」講師駒井和愛、(大学院)「西洋

美術史特論」「文献(一)」「演習」教授坂崎坦、「建築学特論」教授田辺泰、「西洋古代美術」「文献(二)」講師富永惣一、「東洋美術史学特論」「文献(三)」講師田中一松、「文献(四)」講師安藤正輝
 (在学員数)学部一文(昼)一〇二名、二文(夜)七三名、大学院旧制五名、新制九名

慶応義塾大学

「文学部美学美術史学科」「西洋美術史概説(ルネッサンス以降)」「西洋美術史演習 H. Read, The Meaning of Art (II)」美学概論「教授守屋謙一」「美学特殊(美的自律性の問題)」美学演習 Worringer, Abstraktion und Einföhrung」教授金田廉、「東洋美術史概説(平安後期以後)」東洋美術史演習 仏教美術研究「印度美術」講師菅沼貞三、「藝術学音楽藝術論」講師村田武雄、「近世日本美術史 江戸板木絵史」享保より文化まで」講師洪井清、「原典講読 H. Read The Meaning of Art (I)」講師八代修次
 (大学院)「美学特論比較美術学」「美学演習カント」判断力批判「講読」美学特殊研究 Burckhardt: Cicero 講読」教授守屋謙一

同志社大学

「文学部文化科学美学藝術学専攻」美学概論」教授園頼三、「美学史」助教授金田民夫、「西洋古代、中世美術史概説」講師ポールラインガー、「西洋近世美術史概説」助教授金田民夫、「日本古代中世美術史概説」日本近世美術史概説」講師土居次義、「演劇学概論」講師辻部政太郎、「東洋美術史概説」講師下店静市、「藝術学概論」助教授金田民夫、「映画学概論」講師野淵和(大学院文学研究科哲学専攻修士課程)「美学体系及演習」「藝術学研究及演習」「美術史の理論及演習」教授園頼三、「美学特講及演習」講師河本敦夫、「藝術哲学及演習」講

師井島勉

(大学院文学研究科哲学及哲学史専攻博士課程)「藝術哲学特殊研究又は文献研究」教授園頼三
 (在学員数)一一九名、大学院一〇名

(考古学)「考古学」考古学研究実習」講師酒清仲男、大学院「文化史と考古学及演習」講師梅原末治

女子美術大学

「美学」中山公理、「藝術学」澤柳大五郎、「人体美学」西田正秋、「西洋美術史(一)」坂崎坦、「西洋美術史(二)」富永惣一、「日本美術史」久野健、「考古学」後藤守一
 (在学員数) 四五六名

武蔵野美術学校

「美学」「美術史」板垣應穂、「美術史」金原省吾、田中一松

主要美術雑誌色刷一覽

現代及西洋美術

作者	画題	雑誌名	号数
巖光鳥	エデンの午后	美術手帖	六六
井上長三郎	開	美術手帖	七六
井上照子	夜の港	美術手帖	五七五
梅原龍三郎	桜の(岩彩)	美術手帖	五七三
富士	山心	美術新潮	六〇四
富士	山心	美術新潮	四〇一
浅周	山美術手帖	美術手帖	七二
岡鹿之助	礼堂	美術手帖	七一
岡田謙三	作	美術手帖	五七七
岡本太郎	娘	美術手帖	五七八
川口軌外	静物	美術手帖	五七一
川端実	工	美術手帖	七五
北脇昇	空	美術手帖	七〇
坂本繁二郎	水より上る馬	美術新潮	四〇七
佐野繁次郎	ピエ	美術手帖	六九
島崎鶏二	草花	美術手帖	七五
末松正樹	旗のある風景	美術手帖	五七四
杉全直	独	アトリエ	三三四
杉山寧	猫	美術新潮	四〇九
関根正二	姉妹	美術手帖	六九
高島達四郎	河	美術手帖	五八〇
高山辰雄	春の光	美術新潮	四〇九
田村孝之介	スペインの踊子	日本美術	一八〇
徳岡神泉	柳	美術新潮	四〇九
中川一政	風	美術手帖	六〇九
中西利雄	一	美術手帖	五七一
野田英夫	サカ	美術手帖	六八
橋本閔雪	梨の花	美術新潮	四〇六
橋本明治	金屏風の前	美術手帖	四〇九
林武	十和田風景(国立公園展出品)	美術手帖	七六
速水御舟	横向少女	美術手帖	五八〇
速水御舟	埃及風俗図卷	美術手帖	七一
萬鉄五郎	裸婦	美術手帖	七六
萬鉄五郎	裸婦	美術手帖	五八〇

東山 魁夷	尾 瀨	沼 藝術新潮	四ノ九	アルツング	T・五二一	四	みづゑ	五七七	クレイン	馬のいる風景(バス テル)	藝術手帖	七四
日高 昌克	絶 巖	晩 秋 凶 藝術手帖	七二	ワイヨン	大きな母子像	みづゑ	五七五	グ	リ	譜	アトリエ	三二〇
福田豊四郎	春 遠	から じ 藝術新潮	四ノ九	ヴェラスケ	マリアアナ女王	藝術新潮	四ノ五	グリューネ	ウアルト	キリスト磔刑(イー ゼンハイム祭壇画)	藝術手帖	七四
福田平八郎	鮎	こ	六ノ八	ス	め ざ め	シ	五七八	ウアルト	馬にのる聖マルタン とマント	アトリエ	三一五	
藤井令太郎	壊れた椅子	美術手帖	七〇	エーレンパ	コンポジション	シ	五七六	グレイヴス	眼の中の知られざる 鳥	みづゑ	五七五	
堀田 操	断	も 章	七二	リ	横 顔	美術手帖	六四	グワルデイ	サン・ジョルジョ・ マジョーレ寺	美術手帖	七二	
前田 寛治	裸	婦 心	五七二	カルズー	戦争と愛(版画)	みづゑ	五七一	ゲンスボロ	婦 人 像	シ	七〇	
前田 青邨	鳩	心	六〇一	カルズー	工 事 場	シ	五七五	ゴーガン	婦 人 像	アトリエ	三一九	
松本 竣介	黒	い	五七二	カンディン	ベネロープ	シ	五七六	ゴッホ	風 景(部分)	アトリエ	五七二	
三岸好太郎	都	花	六八	スキイ	もいろいろのアクセ ント	美術手帖	六四	ゴッホ	婦 人 像	シ	五七四	
三雲祥之助	少	年 会	七四	カンピリ	誘惑せられた女	みづゑ	五七六	ゴッホ	赤い花を抱く人	シ	シ	
宮本 三郎	画	室	六八	クートー	二人の女(石版)	美術手帖	六六	ゴッホ	タヒチ風景	シ	シ	
米良 道博	モレーガナル	みづゑ	五七八	クートー	遠方の風景(グワッ シユ)	みづゑ	五七〇	ゴッホ	タ・マテーテ(市場)	美術手帖	六九	
裸女	透視法による背影と	美術手帖	七四	クートー	緑色の部屋	シ	六五	コタン	ブルターニュの農場	藝術新潮	四ノ九	
萩山 七重	新しい時代への踊り	みづゑ	五七二	クートー	果 物 娘	美術手帖	六五	コタン	静 物	美術手帖	七五	
森 芳雄	うづくまる女	シ	五八〇	クートー	句読点のある岩	シ	シ	コタン	静 物(部 分)	アトリエ	三一九	
安井曾太郎	陽 河 原 風 景	アトリエ	三二一	クートー	夏の浜辺(グワッ シユ)	藝術新潮	四ノ二	コタン	花 と 壺	シ	三二〇	
山口 薫	子供のための楽曲	美術手帖	六五	クートー	夏の日(グワッシユ)	シ	シ	コタン	種子をまく人	みづゑ	五七七	
山口 蓬春	少年とからすの子	みづゑ	五七七	クートー	おかれてしまつた水 浴者(グワッシユ)	シ	シ	コタン	オーヴエル風景	美術手帖	七二	
山下新太郎	あ や め	藝術新潮	四ノ九	クートー	ヤ マ ネ 樹	シ	シ	コタン	アルルのアリスキャ ンプ通り	藝術新潮	四ノ九	
山本 丘人	寄 席 心	二	六ノ一	クラウヴェ	作 品(石版)	美術手帖	七四	サザラン	静 物	シ	四ノ三	
吉岡 堅二	風 雪 の 後	藝術新潮	四ノ九	クレイ	窓ごしの聖者	アトリエ	三一五	サザラン	いばらの頭	みづゑ	五七二	
脇田 和	月 夜 の 鳥	みづゑ	五七七	クレイ	窓 の 構 図	シ	シ	ザッキン	昆 虫	美術手帖	六四	
アスナーゴ	女 児	美術手帖	七一	クレイ	役者のマスク	シ	シ	サンジェ	少年の顔(水彩)	みづゑ	五七八	
アトラン	鳥 に 話 す	美術手帖	七一	クレイ	植物の三日月	シ	三二〇	ジョット	羊飼と共に居るヨハ ヒム(バドアのフレ スコ)	美術手帖	七一	
アトラン	友 達	美術手帖	六九	クレイ	ヴェネツィアの小部 屋(パステル)	藝術新潮	四ノ八	ジョット	眼の中の知られざる 鳥	美術手帖	七二	
アトラン	品 みづゑ	五七七	シ	クレイ	馬のいる風景(バス テル)	藝術手帖	七四	ジョット	馬にのる聖マルタン とマント	アトリエ	三一五	

主要美術雑誌色刷一覽

シケイロス	今日のわれわれの象徴	美術手帖	六四	デイロール	作	品	美術手帖	七五	ピカソ	病める子	みづゑ	五七三
シヤガール	時は岸辺のない河である	美術手帖	七三	デクレーン	作	品	アトリエ	三二〇	姉妹	シ	シ	シ
ジョン・マリン	30番街から5番街をのぞむ	美術手帖	七六	デュファイ	セーヌ河	みづゑ	五七四	婦人	像	シ	シ	五七七
スミス	バレエ装置	美術手帖	六六	黒い貨物船	ス	シ	五八〇	母	バツカナル	アトリエ	シ	三一四
ズルバラン	静物・シトロン、オレンジ、バラ	美術手帖	七六	ヴェニス(水彩)	ス	シ	四ノ五	ソファによるマネ(部分)	レベッカの掠奪	美術手帖	六五	六五
セヴェリニ	光のまるいひろがり	みづゑ	五七六	ドラクロア	作	品	四ノ三	夜の町	カラー・フォト	アトリエ	三二一	三二一
セザンヌ	楽器のあるコンポジション	美術手帖	七六	ドンゲン	ナギー	アトリエ	三二一	ナッシュ	静	アトリエ	三一九	三一九
セザンヌ	聖ヴィクトアル山(二点)	アトリエ	三一八	ニコルソン	鏡の中の少女	みづゑ	五七五	ピカソ	鏡の中の少女	美術手帖	六四	六四
セザンヌ	静物・林檎	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	弓を引くヘラクレス	美術手帖	六九	六九
セザンヌ	赤いチョッキの少年	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	夜の室内(部分)	アトリエ	三一九	三一九
セザンヌ	聖ヴィクトアル山・ピベミユにて	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	南仏の海	みづゑ	五七二	五七二
セザンヌ	パレットを持つ自画像	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	帽子をかぶつた娘	美術手帖	六四	六四
セザンヌ	山の麓の家	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	夏の歩み	美術手帖	六四	六四
セザンヌ	モンデュールの日没	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	金魚と石膏像	美術手帖	六四	六四
セザンヌ	プロヴァンスの山	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	版	美術手帖	六四	六四
セザンヌ	ルスタクの展望・マルセイユ湾	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	洒落者ブラン	美術手帖	七〇	七〇
セザンヌ	自画像・ベレ	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	群像(版画)	美術手帖	七〇	七〇
セザンヌ	キヤルダンス	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	ペパーミントの瓶	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	ジュフロワの肖像	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	医師ガッシエの家	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	コンボジション	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	雄鶏	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	静物	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	青い水底	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二
セザンヌ	聖アンナのデッサン	美術手帖	七六	鏡の中の少女	鏡の中の少女	美術手帖	六四	ブルーデル	壁画「花売り」部分	美術手帖	七二	七二

ミ	太陽の前の女と鳥	鳥	アトリエ	三一九	ル	オ	逃	亡	者	みづゑ	五七八	ル	ノ	ア	自	画	像	藝術新潮	四ノ一																					
シ	作	品	三二〇	シ	ル	キ	リス	ト	受	難	五七九	ル	ベ	ン	男	の	肖像(部分)	美術手帖	七〇																					
シ	陶	片	六六	シ	花	エ	ジ	プト	へ	の	逃	シ	レ	ジ	女	色	の	バックの鳥と	七																					
シ	人	物	七四	シ	エ	ジ	プト	へ	の	逃	亡	シ	レ	イ	絵	画	みづゑ	五七八	シ																					
シ	ブラザホテルのグ	ラ	五七〇	シ	U	a	n	u	r	i	シ	シ	レ	イ	作品(グワツシ)	画	美術手帖	七四	シ																					
シ	ルメ・レストランの	た	シ	シ	晩	秋	No. 1	シ	シ	シ	シ	シ	シ	レン	ブラン	サ	ス	キ	ヤ	シ																				
シ	ための壁画	鳥	シ	シ	No. 3	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	ロ	イ	ピ	ン	の	腕	時	計	シ																		
シ	鳥のいる静物	品	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	ロ	ザ	イ	コ	ー	ヒ	ー	を	飲	む	人	達	シ														
シ	詩	人	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	ロ	テ	イ	ロ	ン	グ	ル	ネ	ル	の	橋	藝術新潮	四ノ三														
シ	勤	女	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	ロ	ト	レ	ッ	ラ	・	モ	ー	ル	に	て	み	づ	ゑ	五六九												
シ	エルヴィール	ル	四ノ一	シ	小	道	・	サン	ク	ル	ー	の	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ											
シ	ズボロウスキー夫人	美	術	手	帖	六六	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ										
シ	モネー	海	七	シ	花	の	中	の	女	美	術	手	帖	六八	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ									
シ	ルウアン	の	教	会	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ								
シ	形而上学的静物	み	づ	ゑ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ							
シ	皿	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ						
シ	デ・プロフィデンス	心	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ				
シ	青ひげの男	世	界	八	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ				
シ	セラフィニス	ア	ト	リ	エ	三	二	一	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ			
シ	甘きかなしみ	美	術	手	帖	七	五	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ		
シ	場末(水彩)	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ		
シ	キリストの顔(エマ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	
シ	イユ)	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	
シ	たそがれ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	
シ	ヴェロニック	藝	術	新	潮	四	ノ	三	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	
シ	エジプト逃避行	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
シ	唱ら仲間	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
シ	ヴェテラン	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
シ	リ・ルップの想い出	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
シ	晩秋 No. 3	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ

主要美術雑誌色刷一覧

古美術

繪画

宗祇像(部分) 藪本莊五郎藏	國華	七三〇
三十二番職人歌合絵ノ中桂の女 幸節静彦藏	〃	七三一
岡田米山人筆延寿図 大橋理祐藏	〃	七三二
椿椿山筆柳に燕図 細見良藏	〃	七三三
長高齋栄昌筆 隅田川図卷(部分) 土屋栄藏	〃	七三四
高橋草坪筆猪名川至神崎寔景卷 (部分)米田邦造藏	〃	七三五
土佐光吉筆源氏物語須磨及び菊亭 宣孝書詞書(部分)	〃	七三六
椿椿山筆山海奇勝図卷ノ中駿州府 中駅図	〃	七三七
浜松図屏風(部分)里見忠三郎藏	〃	七三八
渡辺崋山筆四州真景図卷 田中平 三藏	〃	七三九
八幡縁起絵卷(部分)藤井徳義藏	〃	七四〇
鶴岡放生会職人歌合絵卷(部分) 相田八四郎藏	〃	七四一
法隆寺金堂第五号壁(罹災前)	美術研究	一六七
法隆寺金堂第三号壁(罹災後)	〃	一六八
紫式部日記絵卷第一段部分 高梨 仁三郎藏	〃	一六八
宋摹周文矩宮中図部分 ベレンソ ン藏	〃	一六九
蕪村筆竹林茅屋図屏風部分 横江 捷三旧藏	〃	一七〇
粉河寺縁起部分 粉河寺藏	〃	一七一
小形檜扇 殿島神社藏	〃	一七二
大谷探検隊将来キジル壁面部分	仏教藝術	一九
伝徴宗筆搦練図(部分)ポストン美 術館藏	〃	二〇

長信筆花下遊楽図屏風(部分)	ミューゼ アム	二七
餓鬼草紙(部分)	〃	三〇
歌舞伎遊楽図屏風(部分)大津賀善 次郎藏	〃	三三
樹下人物図 東京国立博物館藏	大和文華	九
樹下美人図 箱根美術館藏	〃	〃
聖ペテロ像 覚王寺旧藏	〃	〃
法華経薬草喻品(久能寺経) 見返 武藤金太藏	〃	一〇
訶梨諦母図 三宝院藏	〃	一一
金剛繕菩薩図(金胎仏画帖の中) 大和文華館藏	〃	一二
伝源俊頼筆巻子本古古今集(部分) 大倉喜七郎藏	ミューゼ アム	三一
倭漢朗詠集(太田切)部分 静嘉堂 藏	大和文華	一〇
蓮華虚空蔵菩薩像 神護寺藏	仏教藝術	一八
クメールの女神像トルソー	ミューゼ アム	二六
天人像(旧法隆寺金堂天盖附品) 藤井徳義藏	大和文華	一二
菩薩頭(クムトラ発見) 満山順吉 藏	〃	〃
緑釉注瓶	ミューゼ アム	二八
沃懸地獅子螺鈿鞍部分	〃	二九
銅製宝塔 奈良原神社藏	〃	三二
宋緑釉黒牡丹文劃花瓶	大和文華	九
木米作瓜文様鉢	〃	〃
著彩陶鉦 大和文華館藏	〃	一〇

工藝

黒漆螺鈿玳瑁念珠宮 当麻寺藏	大和文華	一〇
古伊万里松竹梅文大壺 大和文華 館藏	〃	〃
怪獸文金玉帶鉤 安徽省寿县出土 陳仁濤藏	〃	一一
嘉靖彩瓷魚藻文方盤 大和文華館 藏	〃	〃
李朝鉄砂葡萄繪壺 大和文華館藏	〃	〃
伝光悦作 群鹿詩繪春日笛筒 大 和文華館藏	〃	〃
青磁鳳耳花生 毘沙門堂藏	〃	一二
青磁鉢 東京国立博物館藏	〃	〃

美術展覧会

一月

現代ヨーロッパ版画展 1—2
月22 鎌倉・近代美術館
クローバー個展 1—2月22 鎌
倉・近代美術館 [「記」東京22
(岡本謙次郎)]

出品目録
(油絵)
植物の街 1944
緑の広場の三つの雲 〃
七つのアイロン 〃
その窓の前に 〃
雨に濡れている帽子 〃
プールの娘 1945
幻想の寝台 〃
第三のモナコ人 1946
椅子に変形されたパ
ンの運搬人 〃
小さな遊戯者 〃
城 1947
緑色の部屋 〃
眠っている裸婦のエ
チュード 〃
塔の近くの風景 〃
パンの運搬人の家の
なかに見られるもの 〃
白い脚の樹 〃
青い脚の樹 〃

パンのある最初の静
物 1947
パンの運搬人の戸棚 〃
果物 娘 1949
ラコストの眺め 〃
緑の時の海 〃
穴のあいている他の
岩 1950
黒い点のある水浴者 〃
ロワラルブル夫人 〃
ヴァイナルブルロワ
ルの断片 〃
ロワラルブルとそ
の反影 〃
トリアノンの娘たち 〃
若いロワラルブル 1952
(デッサン・水彩)
八月の広場 1944
二つの樹 〃
親切な若い娘 1945
午 〃
坐っている大きな女 〃
天 使 娘 〃
若い天 使 〃
休んでいる人 〃
パリ 郊 外 〃
プールの若い婦人 〃
二十七番目の婦人 〃
鼠がかつた人間 〃
アイロンの幻影 〃

クロソスの思い出
別の眠っている者 1945
影 〃
馬を見ている眼 〃
三つのしるしの馬 〃
いなかの戸棚 〃
ランプを頭にのせた
パンの運搬人 〃
印刷紙の修正 〃
一幕の終り 1948
点のついている人た
ち 〃
褐色の背景のある果
物 〃
牧場のうへの果物 〃
会 話 〃
(タワシト)
青春の若者 1945
夜 〃
青 い 人 1947
点のある岩 1948
遅れてしまった水浴
者 1949
八月の日 1950
夜ひらく口 〃
遠方の風景 1951
八月十五日の海岸 1952
海岸と鳥 〃
鳥の歌の近く 〃
風景のなかの三つの
花束 〃

緑の 人 1952
晴着をきた人 〃
(タビスリー)
(綴織の壁布)
魔法の手 1944
(オー・フォル)
(腐蝕銅版画)
西洋碁盤をもつ人 1946
オルフェオニール 〃
さまよう天使 〃
〃 〃 〃
物語のある顔 〃
フェードルの椅子 〃
ラコスト城の三つの
眺め 1947
夏休みの思い出 〃
サド 侯 爵 1948
〃 〃 〃
十一に仕切つた人物 〃
カフカの「幼年」 〃
物語のある顔 〃
ジュカス近郊の若者 〃
大きな果実とその近
く 1950
七月の夜婦人 〃
サド 侯 爵 〃
夜の 顔 1951
〃 〃 〃
黒 い 月 〃
〃 〃 〃

黒い月 1951
遊 び 〃
脚 〃
近郊の婦人 1952
全和光水墨展 2—10 京都・
萬壽寺
中国金石文拓本特別陳列 4—
31 京都国立博物館
煎茶陶器特別陳列 4—3月31
京都国立博物館
大観玉堂双壁展 5—15 大
阪・松坂屋
歌舞伎衣裳展 6—11 渋谷・
東横
2 回年賀状版画コンクール展
6—11 日本橋・三越
13 回国際写真サロン展 6—11
日本橋・三越 [「批」朝日8
(金丸重嶺)]
全日本学生油絵コンクール展
6—11 日本橋・三越
島田正治個展 6—11 大阪・
阪急
1 回三叉展 6—11 京都・大
丸
高橋忠弥個展 7—13 中央公
論社画廊 [「批」美術批評2月
(大久保泰)]
5 回ルバイ展 8—13 京都・
丸善
堂本印象派欧スケッチ展 9—
19 銀座・松坂屋 [「批」朝
日14(北川桃雄)、毎朝夕刊19

ルネッサンス・デッサン展(岡本
コレクシヨン) 9-19 銀
座・松坂屋
ロンドン現代美術協会国際彫刻
コンクール出品日本国内展
9-19 銀座・松坂屋
毛利眞美滯仏作品展 9-13
資生堂(批)毎日夕刊11、朝
日13(植村鷹千代)
原勝己個展 9-11 岡山・金
剛荘
20回独立展 10-25 京都市美
術館
豊秋半次個展 10-15 京都・
丸物
中本達也・利根山光人共同個展
11-20 タケミヤ(批)美術
批評2月(徳大寺公英)
耀光会新作日本画展 11-15
大阪・三越
岡村芳男個展 12-17 サエグ
サ
芝田米三・濱田昇児近作展 12
17 京都府ギャラリー
無名会展 13-22 日本橋・三
越
示現会新春展 13-18 日本
橋・三越
日本現代美術展 13-25 岡
山・天満屋
3回緑樹会作品展 13-18 大
阪・大丸
小衫放庵新作日本画展 13-18

大阪・高島屋
早川良雄・泉茂・山城隆一作品
展 13-18 大阪・阪急
開國百年記念洋学展 14-16
早大図書館
空田たけを個展 14-17 資生
堂(批)毎日17、美術批評2
月(田近憲三)
1回染色展 14-19 日本橋・
白木屋
風景画三人展 14-18 日本
橋・高島屋
菅野圭哉個展 14-20 大阪・
梅田画廊
唐招提寺展 15-2月1 上
野・松坂屋
京都市立日吉ヶ丘高校3回美術
コース展 15-19 京都市美
術館
大山祇神社國宝甲冑展 15-2
月1 日本橋・三越
國崎登美油絵個展 15-18 京
都市美術館
染色工藝展 16-21 銀座・松
坂屋
船木道忠・研志父子新作陶展
17-25 たくみ
櫻新人賞作品展 17-22 大
阪・三越
2回勁草会展 17-22 大阪・
三越
3回光風会京都支部展 17-22
京都・丸物

丹波立杭窯展 18-23 たくみ
北澤映月個展 19-24 日本
橋・丸善(批)朝日24(河北
倫明)
牛島憲之個展 19-24 サエグ
サ(批)毎日夕刊24
小山良修・丸山富美男水彩画展
19-22 資生堂(批)美術批
評3月(佐波甫)
土方久功彫刻個展 20-24 日
本橋・丸善(批)朝日20(高
村光太郎)毎日夕刊23
二科会々員水墨画展 20-25
上野・松坂屋
古徑・靱彦・青柳素描展 20-
31 中央公論社画廊(批)朝
日25(河北倫明)
星崎孝之助個展 20-29 兜屋
(批)東京タイムズ29(中河與
一)
大佛開眼千二百年慶賀美術展
20-28 大阪・高島屋
武者小路實篤・眞垣武勝二人展
20-25 大阪・大丸
美濃古陶名品鑑賞会 20-25
大阪・阪急
5回中西北嶺個展 21-26 日
本橋・白木屋
小川千壺個展 21-25 日本
橋・高島屋
21世紀青年美術協会展 21-30
タケミヤ
松崎八笑亭個展 21-25 京都
市美術館

京都市美術教育作家展 22-28
京都市美術館
川端龍子色紙十二月展 24-31
大阪・三越
2回蒼古会日本画展 24-29
京都・大丸
大津田テコラテイープ・アート
展 25-31 大阪・ギャラリ
1御門
2回彩友会展 26-31 サエグ
サ
野間仁根・鈴木信太郎・三岸節
子洋画小品展 27-31 岡
山・金剛荘
三雲祥之助・小川マリ子油絵二
人展 27-31 日本橋・丸善
(批)朝日30(植村鷹千代)
3回墨洋会展 27-2月1 日
本橋・白木屋
濱田知明銅版画展 27-31 フ
ォルム(批)朝日31(植村鷹
千代)美術批評3月(瀧口修
造)みづる3月(北園克衛)
東西日本画八大家展 27-31
日本橋・丸善
中川・三島・曾山三人展 27-
2月1 大阪・梅田画廊
日本画家淡彩素描展 28-2月
4 並木画廊
駒井哲郎個展 28-31 資生堂
(批)朝日31(植村鷹千代)毎
日夕刊31、美術批評3月(瀧
口修造)みづる3月(北園克
衛)

4回秀作美術展(一九五二年度
選抜)28-2月8 日本橋・
三越
(批・記)
朝日2月3(富永惣一)
東京2月3
朝日夕刊28(河北倫明)
29(北川桃雄)
30(河北倫明)
2月2(河北倫明)
2月3(田近憲三)
3(北川桃雄)
4(北川桃雄)
5(富永惣一)
6(瀧口修造)
出品目録
(日本画)
石の友 岩橋英遠
池の友 丸木スマ
河原島 丸木田訥郎
夕映の長崎 西山英雄
仔犬 郷倉千鞆
六郷河 長谷川綾子
夕熱の秋 安孫子荻声
冬 野崎 貢
働 く 朝倉 攝
朝 人 朝倉 攝
蓮 曦 佐々木邦彦
情熱の終末 上村松篁
迷い子の天子 岩崎巴人
古墳 岩崎 鏗
椿 望月春光志
哀歌 松田文子
東北の雪の花嫁 小関きみ子
奇異 鳥 稗田一穂

伝説のある森 信太金昌
 アイヌ村松乙彦
 高原堀文子
 丘立てる女 山本丘人
 六甲の山 秋野不矩
 飛天 澤宏
 大原雨後 小松均
 鮎座 酒井三良子
 夏敷 福田平八郎
 島敷 徳岡神泉
 南の国 伊東深水
 入の平 福田豊四郎
 美しき朝 小倉遊亀
 湯治場 前田青郎
 或る日の太平洋 横山大観
 花清の浴 奥村土牛
 桜島の船 中村貞以
 晩秋 酒井重人
 彩雪 竹内未明
 雄子 吉岡堅二
 東京百景の内 茨木杉風
 浅草ストリップ (西洋画)
 マンヂアール 有岡一郎
 静物 矢橋六郎
 ゴルゴダの夜 田中忠雄
 裸婦二人 古茂田守介
 つらの町 福澤一郎
 男の像 久保守
 舟と子供 赤穴宏
 金太郎 脇田和

二河風人 荻太郎
 クレタのユーロ 山口薫
 朝景 今井俊満
 夜房 中谷泰
 厨火 小出卓二
 花の段 鳥海青児
 春の段 広瀬功一
 残雪 中村琢二
 女 山下大五郎
 開墾地風景 野村千春
 冬のたんぼ 森田元子
 或るポーゾ 野口弥太郎
 海辺 安井曾太郎
 立像 林好江
 静物 仲田好江
 白い花の静物 高島達四郎
 浅間山 栗原信
 濠端 寺内万治郎
 裸婦 青山義雄
 初夏の阿蘇山 川崎広助
 花と裸婦 須田国太郎
 鶴の丘 小林和郎
 海辺の丘 原勝郎
 森外北 木村莊八
 窓外 鍋井克之
 食器と西瓜 小糸源太郎
 雪 佐伯米子
 アンチープのテラス 櫻井濱江
 人々 鈴木信太郎
 蝶々夫人の家 桂ゆき子
 進物(ふくろ) 古家新

青性者 山中春雄
 犠牲者 吉井忠
 夜 漆原英子
 ボンサマルタン 海老原喜之助
 花蝶 鷹山宇一
 夜月 田中君子
 五 村田實史雄
 裸と働く人々 北川民次
 水辺の牛 井上三綱
 漁夫 井上長三郎
 出の土 覆戸庄衛
 夜のカーニバル 斎藤愛子
 洪水 小川端実
 一人 小山田二郎
 五月の街 難波田龍起
 作品Z 田中井正誠
 母と子 村部展也
 夜明け 阿部展也
 はじまり 鶴岡政男
 地と天 末松正樹
 埋葬 津高和一
 造の船 品川工
 夢の中の飛行 北岡文雄
 滞船 齋藤清
 凝視(獲物) 駒井哲郎
 時間の玩具 駒井哲郎
 蜜柑畑 井手宣通
 少女と屏風 山下新太郎
 蓼科高原 田村一男
 人間の構図 小磯良平
 馬 坂本繁二郎
 岬(山蔭) 伊谷賢蔵
 真夏の静物 木村辰彦

三人 (彫刻)
 人桑田道夫
 群 中島快彦
 Y 子大倉治
 群馬の人 佐藤忠良
 二 人建昌覚造
 わたつみの声 本郷新
 女の首 清水多嘉示
 猫 木内克
 青年の首 伊東傀
 トルルス 山本豊市
 半迦像試作 新海竹蔵
 藤尾像 河内山賢祐
 牧野虎雄氏像 堀進二
 ラ・パンセ 柳原義達
 作品(木彫) 植木茂
 エチュード 野崎一良

二月
 藤松博個展 1-10 タケミヤ
 [批]美術批評3月(徳大寺公英)
 寺島紫明個展 1-11 銀座・松坂屋 [批]朝日10(河北倫明)
 無名会日本画・木彫展 1-9 大阪・三越
 東洋美術品展観 1 京都・有隣館
 近代美術展(近代洋画の歩み) 西洋と日本 1-4月15 国立近代美術館

[記]
 朝日夕刊9、10、11、17、19、
 26、3月4、3月5、3月
 18、3月20、4月6、4月8
 東京12、13、15、17、18、23、27、
 3月1、3月2、3月4、3月
 7、3月9、3月18(大久保泰)
 毎日13
 漢武梁祠拓本展 2-7 壺中
 居
 高村智恵子紙絵展 2-12 中
 央公論社画廊 [批]朝日7
 (河北倫明)
 1回槐風会日本画展 3-5
 サエグサ
 松風会日本画展 3-8 上
 野・松坂屋
 十大家新作画額装展 3-6
 兼素堂
 1回青羊会日本画展 3-8
 日本橋・三越
 堂本印象滯欧スケッチ展 3-
 8 大阪・高島屋
 新人作陶展 3-8 京都・大
 丸
 5回日本アンデパンタン展(読
 売主催) 4-20 東京都美
 術館 [批・記]
 読売1月31(滝口修造)
 読売夕刊9(田近憲三)
 読売12(滝口修造・富水惣一)
 読売夕刊13(富水惣一)
 読売夕刊16(鈴木進)

読売夕刊17(滝口修造)

20(佐波甫)

東京7(田近憲三)

毎日夕刊11

朝日18(植村鷹千代)

東京タイムズ18(佐波甫)

水木伸一「愛の画」展 4-8

日本橋・高島屋

舞台美術五人展 5-10 京

都・丸善

野崎利喜男個展 6-10 資生

堂

現代闊秀作家日本画展 7-12

大阪・松坂屋

14回一水会展 8-13 大阪・

そごう

2回聖工藝展 8-13 京都府

ギャラリー

日本現代美術展 8-22 呉市

公民館

22回JAN展 9-14 日本

橋・丸善 [批]毎日14、美術

批評3月(三雲祥之助)

山本惣一個展 9-14 サエグ

サ

2回舞台美術展 10-15 日本

橋・三越

片山公一個展 10-14 日本橋・

丸善

吉田博油絵版画展 10-15 日

本橋・三越

田中案山子日本画展 10-15

日本橋・三越

山本恵一個展 10-14 サエグ

山中春雄個展 10-15 大阪・

大丸

新興美術院展 10-15 名古屋・

松坂屋

堂本印象滞欧スケッチ展 10-

15 京都・大丸

合田好道金彩赤絵陶画展 10-

15 大阪・阪急

八木澤茂夫個展 11-20 タケ

ミヤ [批]美術批評3月(徳

大寺公英)

塚本茂個展 11-14 資生堂

荻野康児作品展 11-15 日本

橋・高島屋

身延山本尊出開帳展 11-22

日本橋・高島屋

ロートレック展 12-28 光風

会館 [批]朝日15、19、

毎日25

3回輸出包装展 13-18 銀

座・松坂屋

清浦青楓油絵展 16-19 資生

堂

瀧美美峰個展 17-22 日本

橋・三越

国際視光美術協会展 17-22

日本橋・三越

如月会日本画展 17-22 名古

屋・松坂屋

2回レイド洋画彫刻展 17-22

京都画廊

日本風光展 17-22 日本橋・

三越

杉英治油絵個展 17-22 大

阪・阪急

1回北澤映月個展 17-22 京

都・大丸

野井十個展 18-21 日本橋・

丸善

中川保夫・村上彦二人展 19-

22 大阪・梅田画廊

フレデリック・クレイン、マリ

イ・レイモン絵画展 20-22

日仏学院 [批]朝日21(植村

鷹千代)

安井曾太郎素描淡彩集展 20-

28 兜屋

大原美術館世界名画展 20-3

月11 大阪・そごう [批]大

阪毎日3月7(杉本)

2回羽衣染織美術研究所作品展

20-21 京都・佐々木

モダン・アート展 21-3月5

東京都美術館

[批]

東京25(岡本謙次郎)

3月7(福島繁太郎)

毎日3月3

朝日3月4(植村鷹千代)

美術批評4月(植村鷹千代)

みづゑ5月(植村鷹千代)

大沼真呂個展 21-28 タケミ

ヤ

子春会展 21-26 大阪・三越

野村陶山個展 21-26 大阪・

三越

安井曾太郎デッサン展 22-28

札幌・大丸

6回日本アンデパンダン展(日

本美術会主催) 22-3月5

東京都美術館

[批]

毎日27

美術批評4月(植村鷹千代)

みづゑ5月(植村鷹千代)

松本謙介遺作小品展 23-28

中央公論社画廊 [批]東京27

(岡本謙次郎)

1回三枝会展 23-28 サエグ

サ [批]東京26(岡本謙次

郎)、朝日27(植村鷹千代)、

毎日28

彫金親和会展 24-3月1 日

本橋・三越

1回東京教育大構成科作品展

24-28 日本橋・丸善

西村憲定個展 24-28 大阪・

梅田画廊

麻田弁次新作日本画展 24-3

月1 名古屋・松坂屋

硝子協会展 24-3月1 日

本橋・高島屋

3回卯月会日本画展 24-3月

1 大阪・大丸

武者小路実篤近代画展 24-3

月1 大阪・高島屋

坂本益夫小品展 24-3月1

大阪・阪急

古九谷彩磁鑑賞会 24-3月1

麗陽会新作日本画展 24-3月

1 京都・大丸

5回京都美術懇話会展 24-3

月1 京都・大丸

三 月

江崎寛友個展 1-5 光風会

館

榎本和子個展 1-10 タケミ

ヤ [批]美術批評4月(滝口

修造)

千葉大工業意匠科卒業制作展

1-3 千葉大分館

原精一個展 1-7 大阪・梅

田画廊

シユール・ラ・イズム展 1-

12 神戸・新光会画廊

安井曾太郎素描淡彩集展 1-

7 大阪・梅田画廊

松風会展 1-8 大阪・松坂

屋

中島保彦個展 2-5 資生堂

[批]美術批評4月(佐波甫)

大兼実油絵展 2-7 日本

橋・丸善

広重名作展 2-10 中央公論

社画廊

2回槐風会日本画展 2-7

サエグサ

1回朝日広告賞入賞作品展 3

-8 日本橋・三越

インド国際美術展出品国内展示

会 3-5 日本橋・三越

石井柏亭近代水彩画展 3-8

日本橋・三越 [記]朝日6

行動美術春季展 3-8 日本
 橋・三越 [批] 東京7(福島繁太郎)、東京8(岡本謙次郎)、朝日8(植村鷹千代)
 二科春季展 3-10 銀座・松坂屋 [批] 東京7(福島繁太郎)、朝日8(植村鷹千代)、東京9(岡本謙次郎)、美術批評4月(植村鷹千代)、みづゑ5月(植村鷹千代)
 2回雪月花展 3-7 兼素堂 [批]サン6(金子義雄)、朝日7(河北倫明)
 3回卯月会展 3-8 京都・大丸
 東丘会洋画展 3-8 名古屋・松坂屋
 インカ・波斯古陶展 3-8 大阪・高島屋
 日本画風景画展 3-8 大阪・大丸
 古徑・靱彦・青邸デッサン展 3-8 大阪・阪急
 小西安夫洋画個展 3-8 大阪・阪急
 田中泰助洋画個展 3-7 日本橋・丸善
 赤星孝個展 4-8 福岡・岩田屋
 阿部鷗個展 6-10 光風会館 [批]美術批評4月(佐波甫)
 江森礫個展 6-11 フォルム
 西山眞一個展 6-10 資生堂
 桃山美術展 6-17 日本橋・

美術展覧会(3月)

白木屋
 [記]
 朝日夕刊9(野間清六)
 10()
 12(近藤市太郎)
 13(岡田護)
 15()
 16()
 13回美術文化協会展 7-18
 東京都美術館
 [受賞・新会員]
 美術文化賞-原田主司
 新会員-戸川金雄、千田健次 [批]
 東京タイムズ17(難波田龍起) 毎日17
 美術批評4月(植村鷹千代) みづゑ5月(植村鷹千代)
 主要出品目録
 印会員、△印会友
 ハイデスの爪。松沢 宥
 センチメンタル・ハイデス
 剝製のハイデス
 ハイデスの首
 ハイデスの魚
 ハイデスの部
 ハイデスの脳
 ハイデスの頤
 溶けるハイデス
 ハイデスの頤
 分解
 フェニックス

秋からす風。岡田 徹
 尻尾を出した機械
 尻尾がない機械
 生きもの
 晩秋の譜
 春の譜
 理(ことわり)B
 増田 彰
 人間A
 人C
 遁走曲
 あかし。猪飼重明
 あきれた人々
 リメンパ
 フェニックス
 いきどおり
 愚かな会談
 ナンセンス
 始祖人。白木正一
 西を見る
 風見架
 降架
 切線
 作品A
 自我頤。白玲
 「アンドロメダ連作の内」化石
 合理主義
 飢餓天使
 「アンドロメダ連作の内」フェニックス
 メデューサ蘇生

原罪。白玲
 550
 雨月。笹川由為子
 落陽
 春宵
 春虚。佐伯和美
 埋葬。池原正男
 顔。池原正男
 裸婦
 子供と太陽
 裸婦
 はな。小牧源太郎
 花・シグナル
 婚姻図(高砂や)
 花・鼻・羽根・ナルチスムス
 三重像。小原 勉
 ささげ。小原 勉
 現代人の化石
 親子二代
 とらわれ(デッサン)屏風サンギ。古澤岩美
 パレー屏風(リアルダイデ)めぐりあい(デッサン)屏風コンテ) 糸姫
 喉
 石を投げる少女
 白毛女
 たゆたい

逃。早瀬龍江
 悦。樂
 非可逆的睡眠
 The Lost World
 似而非宗教
 原始情緒
 女の仕打。石井玲一
 春遠からじ
 脱皮
 くぐつめ
 暮行の色
 逆行の海。金子 滋
 黎明期
 結氷期
 青の困憊
 底。流
 走らされる。小林 勇
 風の日
 怪獣と人
 クリスチャン
 激突
 ねぐら
 小鳥の国の物語
 第一話。柴田静子
 第二話
 第三話
 人。島津純一
 コントラスト
 火口
 悪食者
 おむ貝
 風。堀尾 実

九品展 16—19 壺中居
武藏野美術学校卒業制作展 16
—20 武藏野美術学校

3回未更会展 17—20 兼素洞
〔批〕東京19(久富貢)

バーナード・リーチ展 17—25
上野・松坂屋〔批〕毎日 19

(高村光太郎、大原惣一郎)
行人社展 17—23 光風会館

樺貞雄個展 17—21 日本橋・丸善

至交会日本画展 17—22 日本橋・高島屋

3回京都陶藝クラブ新作陶展
17—22 大阪・高島屋

宇城時志個展 17—22 大阪・阪急

2回清燧会新作日本画展 17—22 京都・大丸

国友会画展 18—22 日本橋・高島屋

新水彩展 19—29 東京都美術館

選定無形文化財工芸技術内示展
19—29 東京国立博物館

〔記〕日本美術工藝5月(観塔楼)
29回白日会展 20—29 東京都美術館

3回一線美術展 20—4月1
東京都美術館

6回示現会展 20—4月1 東京都美術館

琉球陶漆器展 20—22 岡山・

金剛荘
現代美術家クラブ展 20—22
日本橋・三越

日本美術院小品展 21—29 日本橋・三越

〔受賞〕
試作賞

▽絵画—伊坂静雄、大矢黄鶴、染谷祐通

▽彫塑—矢崎虎夫、土井要輔、奨励賞

▽絵画—島田訥郎、荘司福、四夷星乃、森崎伯雲、松田文字

▽彫塑—大和作内、長濱虎雄、櫻井祐一、松村秀太郎、池田佳年、村上丙

〔批〕
朝日26(河北倫明)

宮脇公實個展 21—30 タケミヤ
〔批〕美術批評5月(瀧口修造、みづゑ5月(植村鷹千代)

要樹平日本画展 21—26 大阪・三越

4回田中健三個展 22—28 松島ギヤラリ
〔批〕美術批評5月(杉本亀久雄)

1回レアル美術会展 23—28 日本橋・丸善

岡麓遺墨小品展 23—28 中央公論社画廊

中島清之作品展 23—28 横浜・大和銀行ビル

1回光采会洋画展 23—28 大阪・美交社

森野圓象木彫展 23—28 日本橋・丸善

遊飽会展 24—29 日本橋・三越

野口道方染色作品展 24—28 サエグサ

旧松方コレクション特別展 24—5月10
ブリヂストン

〔記〕
朝日25、26、28
朝日夕刊31

毎日4月8(土方定一)
東京31(野口彌太郎)

シシ2(二雲祥之助)
シシ8(石井柏亭)

シシ10(中村研一)
シシ11(宮本三郎)

1回生活工藝展 24—30 銀座・松坂屋
〔記〕工藝ニュース7月

日本風景画展 24—4月30 倉・近代美術館

青峰重倫作品展 24—29 大阪・梅田画廊

2回双全会日本画展 24—29 大阪・大丸

小川芋銭遺墨展 25—29 日本橋・高島屋

松島正人洋画個展 25—30 大阪・梅田画廊

廣瀬功、中川力、大津鎮雄三人展 26—31 資生堂

第一美術小品展 26—4月2
上野・松坂屋

1回瀬戸雅陶の会 26—28 東京・商工会議所

柳緑会人形展 26—31 銀座・松坂屋

8回東邦美術院展 27—31 池袋・西武

長谷川優策遺作展 27—31 日本橋・白木屋

近代日本美術回顧展 27—4月19
京都市美術館

〔日本画〕
出品目録

櫻楓屏風 今尾景年

帝釈試三獣図 幸野楳嶺

松潤瀑布 森寛齋

山莊夜雨 富岡鉄斎

雨中白鷺 菊池芳文

富のとぐ鹿 竹内栖鳳

龍 木島櫻谷

山上乗園 都路華香

樵 水田竹圃

長恨歌 橋本關雪

南波照 西山翠嶂

散策 菊池契月

霧 氷川村曼舟

園裡即興 西村五雲

女 人 像 中村大三郎

ピ ア ノ 日 上 村 松 園

晴 日 前 田 青 邨

観 ぬ ぎ 林 小 松 均

く ぬ ぎ 裳 北 澤 映 月

明 裳 北 澤 映 月

娘 牀 土 田 麥 僊

平 牀 土 田 麥 僊

舞 妓 林 司 馬

伝 書 鳩 富 田 溪 仙

風 景 竹 村 龍 太

海 日 風 小 野 竹 喬

冬 日 帖 大 智 勝 觀

婦 女 堂 本 印 象

麥 梅 福 田 平 八 郎

白 梅 福 田 平 八 郎

菊 梅 福 田 平 八 郎

広 沢 雨 余 近 藤 浩 一 路

粟 宇 田 荻 邨

紅 蜀 葵 金 島 桂 華

ぬ え 案 本 一 洋

森 の 梟 川 崎 小 虎

安 佐 我 保 登 内 微 笑

雨 の 大 阪 池 田 遙 邨

草 の 山 口 華 楊

秋 林 小 景 三 宅 鳳 白

山 鹿 上 村 松 篁

船 造 る 砂 丘 三 輪 晁 勢

春 會津勝巳
 淨 心橋本明治
 春 雨板倉星光
 内 色野添平米
 魚 調前田萩邨
 遲 日水野深草
 關 ひ福田翠光
 港 西山英雄
 朝 勝田哲
 得 西村卓三
 爽 度長森守明
 画 室の一隅川上拙以
 洋 猫池田栄廣
 淨 雪真道黎明
 檜 森綠翠
 九 月寺嶋紫明
 種 痘太田聰雨
 真 葛ヶ原の蓮月北野恒富
 芙 渠澤安鞆
 洛 北の秋武藤章
 朝 三谷十糸子
 男 兒生る向井久万
 少 憩菊池隆志
 母 子廣田多津
 夕 映奥村厚一
 秋 郊林能理
 蜻 蛉尻町麻田鷹司
 風 景石本正
 清 水坂多
 靈 性の立像大野秀隆
 器 官露呈三上誠
 洋 裁の女堂本尚郎
 清 裁の女堂本尚郎
 砂 上秋野不矩

樹 蔭麻田辨次
 林 暖冬木清
 生 景松元道夫
 風 景神原始更
 (洋画)
 伊藤快彦像 原田直次郎
 少 女像 伊藤快彦
 グレーの柳 浅井忠
 新 夫 人 鹿子木孟郎
 某未亡人の肖像
 満洲記念 岡田三郎助
 神戸港の朝陽 藤島武二
 雲の影走る 南薫造
 霧の湖畔 山本鼎
 志賀高原の秋 辻永
 室 内 三上知治
 放 牧 河合新蔵
 魚 霜鳥正三郎
 雞 太田喜二郎
 按 摩 さん 和田三造
 朝 鮮 歌 妓 中澤弘光
 古 陶 服部喜三
 楽 器 を 持 てる 女 寺内萬治郎
 庭 後 阿以田治修
 石 潤 佐竹徳次郎
 裸 婦 田邊至
 山 峽 小寺健吉
 春 光 田中善之助
 岩 壁 大橋孝吉
 晴 日 寄 壁 石原義武
 夏 の 海 岸 風 景 高間惣七
 崖 旭谷左右
 五 月 の 谷 伊庭傳治郎
 海 辺 の 夏 青山義雄

少 女 読 書 木下孝則
 鶴 のある 静物 黒田重太郎
 芽 出 し 頃 の 蘆 の 葉
 湖 平 安 春 色
 雞 舎 里 見 明 正
 加 茂 川 の 桜 國 盛 義 篤
 流 錦 義 一 郎
 牡 丹 長 原 坦
 赤 い チョッキ 南 政 善
 柿 福 井 勇
 港 女 像 鍋 井 克 之
 少 女 像 近 藤 光 紀
 那 り の 前 小 磯 良 平
 踊 り の 前 鈴 木 信 太 郎
 早 春 風 景 柴 原 菖 造
 龍 戸 内 海 中 村 研 一
 瀨 戸 の 画 室 市 ノ 木 慶 治
 或 日 の 画 室 伊 藤 四 郎
 猫 と 老 木 伊 藤 三 郎
 子 供 達 大 貫 浩 三
 女 三 人 光 安 浩 行
 大 原 女 伊 庭 傳 治 郎
 燈 下 伊 谷 賢 蔵
 裸 山 今 井 憲 一
 眠 ら れ ぬ 夜 の た め に
 画 室 に て 安 藤 信 哉
 春 朝 井 閑 右 衛 門
 嶽 倉 員 辰 雄
 岬 (室戸) 須 田 國 太 郎
 村 須 田 國 太 郎
 信 濃 の 鍛 冶 屋 石 川 滋 彦
 黄 土 田 中 佐 一 郎

黄 檗 山 の 禪 悅 堂 石 井 彌 一 郎
 (彫刻)
 弓 吉 田 靉 示
 布 を 持 つ 女 中 村 三 郎
 若 ぎ 日 清 水 禮 四 郎
 腰 かけ た る 女 柴 田 和 彦
 裸 婦 田 中 源 三
 猫 座 像 大 野 隆 一
 女 像 松 田 尚 之
 初 夏 圓 鏢 勝 二
 親 子 の 鹿 橋 本 高 昇
 働 き の 後 吉 開 伊 喜 蔵
 裸 婦 小 笠 原 貞 弘
 曹 植 (原型) 石 本 曉 曠
 鏡 藤 井 浩 祐
 夢 建 昌 大 夢
 寂 吉 田 靉 示
 婦 人 像 辻 晋 堂
 女 像 岡 本 庄 三
 球 進 藤 武 松
 坂 上 田 村 磨 山 崎 朝 雲
 老 人 の 胸 像 大 西 三 四 郎
 在 り し 日 の 黙 雷 石 本 曉 曠
 (工藝)
 大 礼 儀 仙 果 文 花 清 水 六 和
 瓶 英 雄 團 志 鈔 銅 軍 津 田 信 夫
 雜 置 物 河 村 蜻 山
 瑠 璃 磁 群 鷺 図 花 大 國 柏 斎
 蝦 環 付 達 磨 形 釜 清 水 六 兵 衛
 染 付 草 花 文 花 瓶 山 崎 覺 太 郎
 蝸 牛 宝 石 簞 筒 叶 松 谷
 染 付 花 鳥 花 瓶 叶 松 谷

流 線 型 なる 置 時 井 上 彦 之 助
 計 鷺 の 図 手 宮 奥 村 霞 城
 青 瓷 葡 萄 象 嵌 文 宮 永 東 山
 花 瓶 堂 本 五 三 郎
 烏 瓜 図 花 器 清 水 六 兵 衛
 果 実 文 飾 皿 清 水 六 兵 衛
 草 花 図 彩 漆 衝 立 番 浦 省 吾
 秋 晴 鑄 銅 花 器 豊 田 勝 秋
 青 銅 鷺 文 水 盤 林 萬 壽 人
 眠 処 成 毯 津 田 信 夫
 富 士 釜 大 西 淨 長
 銀 電 文 の 龜 置 物 山 脇 洋 二
 鑄 銅 鶴 文 花 瓶 香 取 正 彦
 葉 文 銅 花 瓶 村 越 道 守
 青 華 水 指 楠 部 彌 弼
 漆 画 人 物 祭 礼 の 図 飾 箱 神 坂 雪 佳
 紅 白 梅 飾 皿 清 水 六 兵 衛
 油 滴 瓢 花 瓶 河 合 榮 之 助
 黃 玊 瓷 靈 芝 紋 花 瓶 清 風 与 平
 漆 器 粟 鴉 飾 筥 前 大 峯
 牡 丹 の 圖 和 紙 糊 稻 垣 稔 次 郎
 繪 屏 風 小 合 友 之 助
 染 額 雙 馬 図 皆 川 月 華
 染 絵 波 紋 掛 額 中 村 鷗 生
 猷 身 の 秋 佐 野 猛 夫
 ろ う け つ 屏 風 す 伊 東 翠 壺
 菱 花 文 花 瓶 皆 川 月 華
 染 衣 裳 四 時 の 花 森 野 嘉 光
 塩 葉 枇 杷 図 花 瓶 山 崎 覺 太 郎
 漆 瓦 屏 風 山 崎 覺 太 郎
 桔 梗 図 大 皿 鈴 木 貞 路
 漆 器 棚 引 棚 鈴 木 貞 路

乾漆鷲置物 奥村 究果
和染八丈風景 皆川 泰蔵
彫金初夏飾盆 谷口 幸珉
唐草文様花瓶 伊東 陶山
両面刺繡四季花 岸本 景春
鳥屏風
野薔薇象嵌花瓶 近藤 悠三
象嵌一輪挿 中島 清
金環 蝕 八木 一夫
手織錦立花屏風 山鹿 清華
双頭壺 鈴木 治
壺 山田 光
3 回関西総合美術展 28-4月
19 大阪市立美術館
山陰新築展 28-4月3 たく
み
中国清朝陶磁展 29-4月5
名古屋・徳川美術館
生誕百年記念ゴッホ展 29-4
月3 大分・キムラヤ
東京藝術大学美術学部卒業制作
展 30-4月1 東京藝大
東京藝術大学卒業生歡送展 30
-4月1 東京藝大
1 回濱田信個展 30-4月4
サエグサ〔批〕東京タイムズ
4月1、みづる5月(植村鷹千
代)
2 回デモクラート美術展 30-
4月4 日本橋・丸善
柄鳳小景展 30-4月5 大阪・
丸善
現代美術家作品即売展 31-4

月2 銀座・松屋
1 回多田北島同門会実用美術展
31-4月4 日本橋・丸善
西宮在住作家による觀光西宮市
二十五景展 31-4月5 大
阪・阪急

四月
春の青龍展 1-12 日本橋・
三越
〔受賞〕
古野新生、堀口幸子、横山操、
中川佐風路、山口吉旺
〔批〕

朝日8(河北倫明)
美術批評5月
出品目録
花鳥十二ヶ月 川端 龍子
都会寸景 加納 三樂
チューリップ 山崎 豊
春影 市野 亨
人形 安西 啓明
暁 フレンド 安西 啓明
マイフレンド 安西 啓明
連作の十 安西 啓明
甲府舞鶴城 小島 鼎子
あし 小島 鼎子
彩雲 小島 鼎子
春水 龜井 支兵衛
空地ある風景 龜井 支兵衛
切通し道 池 佐藤 土筆
洛南 浅春 琴塚 英一
冬 池 佐藤 土筆

岳 相 佐々木邦彦
雪の山寺 天狗岩 結城 天童
お染久松 大塚 香緑
山かんむり 鶴波 渡邊不二根
廢残水鳥 裕
信濃路の雨 裕
寒汀 入江 臥水
月光 林 渡會 伊良子
魚渦 林 心耳
上代 高山 晴雄
淨雪 代 高山 晴雄
神與 古野 新生
訪夏 加藤 輝三
立図 上條 靜光
靜物 中川 佐風路
山生 重定
小郷 安東 丈夫
野池 田 洛中
鶴水 池 田 洛中
樹根 細野 光治
三浦三崎 生田 文視
春畦 池 田 房雄
白鷺 丹羽 長春
紅白 武市 政輝
雪後 谷野 敬一郎
横臥 横山 操
白壁の家 横山 操
スカイフ 石井 昭二
南苑 古橋 青艸
常想 苑 古橋 青艸
修善寺風景 竹内 廣吉
苔 三浦 打魚
紅映 石崎 昭三

北国点景 堀口 幸子
香日 鈴木 光英
春日 石川 白圭
葉子 石川 白圭
流清 拓植 一枝
安治 川 英賀 田憲二
晚秋 皆川 久代
與瀨の山 鳥居 和子
瓦斯 タンク 岡村 一
大和早春 中島 晃輪
幻聴 山口 吉旺
39 回光風会展 1-16 東京都
美術館
〔受賞・新会員〕
光風相互賞-杉村 悖
光風特賞-鶴飼 幸雄
岡田賞-浅井 光男
南賞-手塚 義三郎、森清 治郎
光風賞-三尾 公三
光風工藝賞-松風 榮一
工藝賞-升本 津子、辻清 明
新会員-大桃 寛、金澤 秀之助、
鳥居 昇、根津 莊一、辻朗、
北濱 淳、野平 上、櫻井 慶治、
小林 易夫、日原 晃、守屋 千
之、久木 弘一
〔批〕
朝日5(植村鷹千代)
東京9(久富貢)
毎日14
美術批評5月(船戸 洪)
會員出品目録
鱒と海女 金澤 秀之助

「滯船」銚子港 金澤 秀之助
椅子に寄れる 高田 正二郎
黒い家 笹岡 了一
凍土 山喜多 二郎太
卓上静物 山喜多 二郎太
静物 山喜多 二郎太
画室の二人 高光 一也
画架 杉村 悖
赤い魚 杉村 悖
石膏像 小川 博史
浜椅子のある構図 西村 愿定
CHANTER 小林 易夫
青年像 小林 易夫
山上望(王子ヶ 岳) 大原 省三
私A氏の肖像 服部 亮英
馬込の春 江藤 純平
春室 江藤 純平
静物 安達 眞太郎
日向にて 牧野 司郎
猫柳 長原 坦
読書の鬼頭 鍋三郎
鏡の前 鬼頭 鍋三郎
高原に藤匂う 辻 永
画室の中村 研一
籠の果物 小寺 健吉
霧の日の 小寺 健吉
K夫人像 河井 清一
冬の海 小糸 源太郎
行春 小糸 源太郎
満ちくる潮 中澤 弘光

よせくる波中澤弘光
裸婦 A 寺内萬治郎
水郷石橋武治
午後一時跡見泰
静物 耳野卯三郎
ねこの肖像 清水良雄
病後の肖像 新道繁
バラの鉢 有馬三斗枝
若き日 庄司栄吉
夫人 鈴木栄二郎
浅景 金子徳衛
風内 櫻田精一
窓の女 山下忠平
冬樹 山信雄
かき ね 水 上 雄
黒衣 水 上 雄
裸婦 大澤海蔵
室 大澤海蔵
M 姨邊武夫
花 梯 西山眞一
裸婦 竹澤基
H 子 宮 脇 三
並 木 高 木 春 太 郎
双 姪 新 本 兵 次 郎
花 女 藤 本 東 一 良
室 内 櫻 井 悦
瓢箪 上 島 一 司
花 池 伊 藤 四 郎
静物 伊 藤 四 郎
天人 村 岡 平 藏
T 子 主 像 島 野 重 之

Y 嬢の像 島野重之
競馬の朝比奈文雄
風 日 辻 朝
山 ぶどうみ 伊藤梯三
夏 高宮一榮
裸婦 山田新一
郊外 西村喜久子
庭 柳瀬俊雄
新樹 井手宣通
伊豆早春(一) 井手宣通
婦人 森田元子
冬 原 田 村 一 男
藏 王 村 一 男
冬 丘 村 一 男
二 人 溝 江 勘 二
春 飾棚によりて 三尾文夫
河 邊 中 島 音 次 郎
春 窓 松 尾 正 己
並 木 道 山 口 猛 彦
風 景 道 山 口 猛 彦
描く少女 遠山清
春の雪 足代義郎
鳥かごと果物 足代義郎
布をさらす 高橋道雄
熱海の夜景 高橋道雄
画房小閑 藤彦右衛門
水指のある静物 藤江理三郎
早春の丘 藤松正利
座 春を呼ぶ 守屋千之

説書 根津莊一
かごを持つ 大倉克次
八重洲通り 大倉克次
早 春 舟 木 德 重
手 風 琴 舟 木 德 重
仙石 秋元松子
静物 秋元松子
枯れた芭蕉 田中実一
婦人 熊澤欽三
雪の日 熊澤欽三
少 女 藤 井 芳 子
昌子ちゃん 藤井芳子
春 近 幸 島 重 雄
室内座 辻村八五郎
横 向 座 辻 村 八 五 郎
子供とシロホン 久本弘一
落葉とカンナ 久本弘一
上 高 地 三 輪 孝
花 飾 西 尾 善 積
横 裸 婦 西 尾 善 積
静物 山中清一郎
画家の家族 岩船修三
一 隅 三 上 義 人
冬 丘 中 條 茂
初 の 秋 中 條 茂
横たわる裸婦 伊藤應久
雪 景 大 桃 寛
残 雪 大 桃 寛
写真機 西岡義一
植 物 園 西 岡 義 一
菓子 大河内信敬

巴里郊外モレー 三宅克己
風景の老樹 三宅克己
楠 西 田 舎 三 宅 克 己
仏蘭西の田舎 相馬其一
初 夏 相 馬 其 一
晩 秋 山 本 彪 一
千 曲 山 本 彪 一
風 船 荒 井 邦 朝
滯 望 船 荒 井 邦 朝
海 望 船 荒 井 邦 朝
花 女 星 野 正 三
室 内 櫻 井 慶 治
黄色い服 飯田彌生
赤い服 飯田彌生
黒い服 飯田彌生
沙 夕 飯 田 彌 生
北 國 魚 益 山 英 吾
小 網 代 岡 田 又 三 郎
静物 岡田又三郎
龍安寺石庭 松浦莫章
工 場 井 上 武
湖 畔 小 林 眞 二
つれづれ 和田香苗
追 想 山 崎 坤 象
夜 航 清 原 重 以 知
蓼 花 梶 原 貫 五
水 仙 梶 原 貫 五
室 内 森 山 肇
静物 角野判治郎
漢 馬 白 川 一 郎
北 岳 和 田 清
熱海の或日 和田清

岬の風景 市ノ木慶治
ひととき 鳥居昇
りぼんをつける 坂田虎一
女 舍 坂 田 虎 一
鶏 膏 池 野 壽 彦
石 膏 池 野 壽 彦
曇りの日 古屋浩藏
松 柏 由 里 明
裸婦 北濱淳
小使さん 北濱淳
雪国の少年 北濱淳
あみものする婦 花 齋 藤 齋
静物 花 齋 藤 齋
窓 齋 藤 齋
梅 齋 藤 齋
画室の一隅 伊藤鎗一
石膏のある静物 小川智
A 西村俊郎
B 野平上
樹間展望 野平上
深まり行く秋 神保和幸
異国の街 宇城時志
校庭 宇城時志
琉球古典調 名波山愛順
黄 昏 山 村 孝 太 郎
レッスンの合間 山村孝太郎
風 峽 足 立 眞 一 郎
緑 蔭 鈴 木 三 五 郎
舟のある湖畔 米本一郎

(工 藝)

青銅花瓶 西村英夫
 鑄銅壺
 銅鑿起七宝額皿
 山形駒太郎
 風車輪
 クリスタル硝子
 一噌元治
 花瓶
 染額群禽之図
 小林清
 乾漆花生
 佐藤正己
 漆絵皿らん
 蛾と静物
 海魚(額)
 中村董一
 葉銅花挿
 銀蝸牛文ブローチ
 鉄・三つの盛器と花器
 中村俊介
 青銅花さし
 額裸像
 大阿久重治
 花瓶
 森正洋
 灰皿A・B・C
 帯
 センター
 郷
 蠟染ドレスA
 中田満雄
 アフラ図案(捺染)
 生きているギリシャ—ギリシャと現代美術—展
 1—30 光風会館

美術展覧会(4月)

春光会展 1—5 日本橋・高島屋
 臺中居開業三十周年記念展 1—5 臺中居 [批]朝日4、東京5(各)
 清水鏤徳個展 1—4 資生堂
 難波田龍起個展 1—10 タケミヤ [批]美術批評5月(徳大寺公英)、みづゑ5月(植村鷹千代)
 全国陶磁器大展示会 1—15 上野公園・美術協会
 4次指定新国宝特別展 1—10 東京国立博物館
 3回春潮会展 1—5 大阪・高島屋
 星崎孝之助個展 3—8 上野・松坂屋
 関西大家日本画展 3—8 大阪・そごう
 京都市行動集団展 3—9 京都市美術館
 柚木久太・祥吉郎・沙弥郎父子三人展 3—5 岡山・金剛荘
 12回創元会展 4—16 東京都美術館
 [受賞]
 会員努力賞—青地秀太郎、長谷川龍甫
 準会員賞—高島常雄、中島研介
 創元会賞—福迫徹郎、鶴永悦男、木村秀雄 [批]

東京9(久富貢) 毎日14
 美術批評5月(船戸洪) 会員出品目録
 コンボジ A 木下幹一
 シンポジ B
 静物 A 名村定志
 B
 ヴァイオリンと 鱗龍之助
 ピン
 町角
 花と少女
 藤橋正枝
 静物
 川口雄男
 月夜
 青地秀太郎
 冬
 梅浦
 長谷川龍甫
 江の浦
 風と子供
 久米小夜子
 エチュード朝
 昼
 朝
 中村一郎
 冬の朝
 朝
 工場の暁
 川口四郎
 室内
 内川四郎
 花辺
 大槻達二
 幽昧
 赤津実
 風景
 大島敷

製煉工場 川合幾郎
 教室 美義
 梨花 児子
 室内 坂本幹男
 海浜 橋本花子
 石膏のある風景
 窓 井上自助
 残る者
 母子像
 建物 A 塩見俊治
 B
 C
 朝の伊豆 石塚三郎
 早春の伊豆 倉員辰雄
 雲間 倉員辰雄
 あかしやの花 長谷川政子
 椿丘 円城寺昇
 砂丘 鈴木千久馬
 オリブ 鈴木千久馬
 静物
 小豆島小景
 栗の花 小野彦三郎
 赤実果木
 道
 少女像 石山松一
 早春の伊豆 田中繁吉
 吹笛 中野和高
 街 A 安藤信哉
 B
 風景 B 沼倉正見
 春景 沼倉正見
 梅散つた頃 金沢重治
 冬の午後 秋宮地亨
 鶏舎

風景 齋藤彌平
 猫上 菊 柏木治子
 冬の夜 東海林広
 夜の部屋 小泉繁
 裸婦とアカシヤ 深谷徹
 室内 深谷徹
 静物 樋口一郎
 早春の庭 樋口一郎
 桜咲く道 勇雄
 樹周 勇雄
 静物 牧田嘉一郎
 海岸小景 広本季与丸
 大谷石を出す現 戸谷賀一
 場の風景 出口龍一
 室内にて 荒明実
 室内 A 敬子
 B
 春の壁 高橋北修
 黄色い壺 内田一郎
 晩秋の樹間
 漁村 佐々木真夫
 早春の海
 早春の風景 犬飼尚
 女像 平野逸郎
 堵い建物 塚本張夫
 春光(A) 塚本張夫
 (B)
 レスコパチンコ 安武芳男
 店やすみの日
 やすみの日
 樹下洗春海

冬の海岸	増田常吉	冬の田圃	海晏寺
事務室内	海太吉	婦人像	倉橋英男
画面	室倉橋英男	初	斎藤二男
紅梅	大橋城	教会	中西清
外苑	魂中西清	荒魂	魂中西清
春庭	三橋兄弟治	静物	三橋兄弟治
波切の街	内山市郎	モザイクの家	内山市郎
丘	栗原七三	給水ポンプ	栗原七三
鑄造場	豊千里	造船場	豊千里
みなと	恩田孝徳	河岸風景	恩田孝徳
窓のしらべ	堀内孝恵	窓のしらべ	堀内孝恵
土偶	偶々	窓のしらべ	偶々
窓ぎ	手島貢	窓ぎ	手島貢
静物	上野維信	池邊	上野維信
風景	野々垣甚一郎	山景	野々垣甚一郎
牧場の入口	小川勝蔵	高原の牧場	小川勝蔵
素仙堂絵画展	4-5 品川		

8 回日本美術院小品展	4-15	海晏寺	8 回日本美術院小品展	4-15
大阪・三越		佐久間阿佐緒個展	5-30	高
3 回新世紀群展	5-9	分・若草公園		大
4 回田中健三個展	6-10	阪・梅田画廊	[批]美術批評	大
5 月(杉本亀久展)		伊谷賢蔵個展	6-11	東京画
猪熊弦一郎メタモルフオーゼ展		6-11	中央公論社画廊	
降旗俊三郎水墨個展	6-11	壺中居		
2 回中央美術協会展	6-11	日本橋・丸善		
青尚会小品展	6-10	弥生画		
廊		松本弘二個展	6-12	兜屋
画廊開設記念日本画展	6-12	大阪・丸善美術		
2 回成和会展	7-10	兼素洞		
[批]朝日10(河北倫明)、サン		11(金子義雄)		
室町・桃山・江戸蒔絵現箱展		7-26	根津美術館	
北出塔次郎作陶展	7-12	大		
阪・高島屋		京都美術懇話会小品展	7-12	大
京都・大丸		一采社展	8-12	日本橋・高
島屋	[批]産経24			

雲野寺証塑像特別陳列	8-5	1 回春潮会洋画展	9-15	上
野・松坂屋		自由美術六人展	10-14	資生
堂	[批]美術批評5月(植村	鷹千代)		
2 回赤光会展	10-15	日本		
橋・白木屋		横河コレクシヨン東洋古陶磁展		
11-6月30	東京国立博物館	末松正樹個展	11-20	タケミ
ヤ	[批]美術批評5月(植村	鷹千代)		
應千代)	みづる6月(徳大寺	公英)		
今村紫紅遺作展	11-12	京		
都・陽明文庫		瀧田項一作陶展	11-17	たく
み		豊秋半次日本画個展	11-16	
大阪・松坂屋		日月社小品展	12-18	銀座・
松坂屋	[批]産経24	後藤愛彦油絵展	13-18	日本
橋・丸善		中村彝小品展	13-18	中央公
論社画廊	[批]東京15(岡本	謙次郎)	朝日17(河北倫明)	
木下孝則洋画近作展	13-18	大		
大阪・美交社		今村紫紅遺作展	13-16	大
阪・三越		イサム・ノグチ作品展	13-19	
壺中居				

新制作春季展	14-19	日本		
橋・三越		[批]		
朝日17(植村鷹千代)		東京19(岡本謙次郎)		
産経24		美術批評6月(徳大寺公英)		
乾山代々を偲ぶ会	14-19	日		
本橋・三越	[記]毎日14(バー	ナード・リーチ、柳亮)		
週刊朝日表紙原画展	14-19			
銀座・松坂屋	[批]朝日18(植	村鷹千代)		
7 回春風会展	14-19	京都・		
大丸		田之口青晃(鯉十題)展	14-19	
大阪・大丸		2 回岡田又三郎個展	15-18	
資生堂		1 回黄芽会展	15-18	日本
橋・丸善	[批]産経24	13 回日本木彫会展	15-19	日
本橋・高島屋		春の特別展(三十六人集、久能		
寺経特別展	15-30	京都		
国立博物館		萌春会展	16-22	上野・松坂
屋		夏寛と一茶展	16-25	高岡市
美術館		画廊開設記念洋画展	16-24	
大阪・丸善美術		30 回春陽会展	17-5月4	東
京都美術館				

〔受賞・新会員・新準会員〕			
春陽会賞			
▽絵画―藤井令太郎、柳原達			
男			
▽舞台美術―板坂晋治			
新会員			
今竹七郎、田邊謙輔、本莊			
起			
新準会員			
▽絵画―市川晃、谷口一芳、			
広野股生、越智雄二、寺澤			
正敏、松村禎夫、津谷鹿市、			
山田陸三郎、大久保圭子、			
石川武彦、日下昌三郎			
▽版画―平田康、上田長雄			
▽舞台美術―織田音也			
[批]			
朝日22(植村鷹千代)			
東京23、24(今泉篤男)			
産経24(柳亮)			
毎日夕刊25(土方定一)			
日経27(福島繁太郎)			
みづる6月(徳大寺公英)			
出品目録			
。印会員、△印準会員			
花	山本英子		
壊れた椅子	藤井令太郎		
ドンキホーテ			
椅	子		
森の少女と犬△三井永一			
花帽	子		
馬	旅白井幸彦		
村の中の家			
腕を組んだ裸婦	岸 葉子		

裸婦(二人)岸 葉子
 シ 魚の静物。川隅路之助
 シ アネモネ
 魚の静物。川島 滋
 庭 庭 鹿之助
 燈 赤いバックのチ 三吉雅子
 ユーリッップ
 静物。物。南大路一
 造船所にて 1。宮田武彦
 造船所にて 2
 造船所にて 2

婦人座像。荒木市三
 白い服の女
 あぢさいと魚
 花と女。黄碧月
 滯船。A。木本晴三
 白い建物。B。坪井鼎
 金仙。花。坪井鼎
 ドイツ菊と花
 (版画)
 中之島。A。市原宏郎
 電車。市原宏郎
 P O S T
 静物。木村晃郎
 古事記連作の内
 建御雷神と建
 御名方神
 静物。平田康
 アブサンの酔
 レスポスの女
 星座。武田健夫
 誘い。山口和佐夫
 街。山口和佐夫
 接吻。山口和佐夫
 ビル。山口和佐夫
 ひも。山口和佐夫
 町工場。山口和佐夫
 船着場。山口和佐夫
 かえるの歌。森村惟一
 NOCTURN
 No. 13
 夜の船出
 か。ほ。森村惟一
 悲しみの顔。森村惟一
 倒立。森村惟一

ローマンの石燈
 (風景) ユス。長谷川潔
 小窓の花瓶
 窓辺の白猫
 街。駒井哲郎
 PASSAGE
 (終曲)
 街。駒井哲郎
 火。駒井哲郎
 こけし(女) 上野長雄
 建築場。上野長雄
 夜の神戸港
 夜の建築場
 岬。前田藤四郎
 回想的琉球
 壺とさぶる
 早。北岡文雄
 雨の夜の女
 夜の感傷
 青い服。市川陽一郎
 街。市川陽一郎
 白い倉庫。市川陽一郎
 露揚。市川陽一郎
 荷揚。市川陽一郎
 像。伊藤利夫
 スプリング。加藤秀雄
 人。加藤秀雄
 静物。A。福田庸一
 魚と静物。B。渡辺一夫
 ひまわり。友田みね子
 かまな。友田みね子

裸婦。若山為三
 紅衣。小柳秀太郎
 花。内川端彌之助
 ヤ。宮脇晴
 室。宮脇晴
 ミルクを飲む幼
 児。宮脇晴
 黄衣。由美
 入。中川一政
 福浦。中川一政
 楽。東晴司
 椅子とひまわり
 花と魚。柳原達男
 静物。1。柳原達男
 樹の中の家。木村莊八
 三の酒(たけく
 らべ一齋)
 丘の上のバラッ
 ク。蓮。横堀角次郎
 白木。蓮。横堀角次郎
 倉のある風景
 風景。1。土屋義郎
 りんご。小穴隆一
 裸婦。小穴隆一
 五月の魚。南条一夫
 うさぎ。南条一夫
 窓外風景。山川清
 つぼとみかん箱。前川鋼平
 緑の壁。島原敏美
 機械と人間。中村洋吉
 鶏と人間

空地にて。松の谷美枝子
 みどり色の布。河野昭二
 レモンのある静
 物。小川緑
 夕暮れの港。小川緑
 学院の見ゆる丘
 古い洋館。小川マリ子
 静物。A。小川マリ子
 魚のある静
 物。C。魚津良吉
 桃と紫陽花
 魚のある静
 物。2。三吉亮久
 家の物。三吉亮久
 浜の人々。中野満男
 冬の門。八木伸子
 卓上。中谷泰
 母。中谷泰
 暗い。中谷泰
 乳。中谷泰
 アラビヤ夜話。川島昇太郎
 りんご。藤田周平
 魚のある静物。藤田周平
 マンドリン持つ
 少女。野村千春
 望の富士電氣遠。野村千春
 岡の上の日野
 デーゼル
 冬のあぜ。三雲祥之助
 制

彫刻 家。三雲祥之助
 婦人座像
 長崎山手風景 松島正男
 海辺風景
 黄色い家 井上重生
 燈台と漁船
 那岐村にて 田川勤次
 (その一)
 (その二)
 住吉にて 松下忠
 ステッキを持つ
 老人
 壁
 黒い壺 上原欽二
 風景 A.佐藤篤郎
 枯れたる花 加山四郎
 静物(リンゴ)
 厨房静物
 少女と犬 水谷清
 絵を描く女
 運動選手
 室内静物 原田平治郎
 窓
 ひまわり
 静物 竹内博
 赤い建物 水野豊彦
 静物 中寿太郎
 漁船
 教会に行く人 浜野政治
 街
 丘 山上喬
 精 手塚宏一

ユニット 清水源太郎
 ひまわり 清水章司
 化学工場 徳田信保
 アネモネ 曾根徹
 伊豆風景
 善波 築瀬武夫
 工場の高田力蔵
 洋館 高田力蔵
 濠洲風景 上野春香
 町(博多) 上野春香
 魚のある静物 藤野竜
 丘 藤野竜
 暁の並木 倉田三郎
 松の庭 A.倉田三郎
 牧庭 B.遠藤典太
 我庭 遠藤典太
 港の堂
 街角の家 谷中茂
 壺 荒瀬貞次
 二 荒瀬貞次
 創 荒瀬貞次
 混迷 荒瀬貞次
 告 荒瀬貞次
 春 荒瀬貞次
 たくみ立像 森本光子
 海辺 越智雄二
 花の工場 高橋辰雄
 山麓の工場 高橋辰雄
 河港の風景 石井光楓
 さつきの頃 石井光楓

われ住む村。石井光楓
 書斎 児玉彦三
 少 女
 ハーモニカ
 草名海岸 杉浦延寿
 白ダリア 安部川輝久
 白い家 木原康行
 わらべ歌 石川武彦
 捨石の山 小林政雄
 漁港 中西肇
 火の見櫓のある風景 塚田邦彦
 風景 塚田邦彦
 ランプのある静物 関頼武
 くわいと鶏 津谷鹿市
 さよりの構図 津谷鹿市
 舟橋聖一氏作小説「花の生涯」さ。木村莊八
 しゑ
 雄 鹿 石井鶴三
 相撲 石井鶴三
 翡翠 魚 加山四郎
 章魚 加山四郎
 鱧 魚 加山四郎
 秋刀魚と鱧 加山四郎
 石鯛ときんぎょ 加山四郎
 あかえひ 加山四郎
 め ぬき 加山四郎
 鍋 加山四郎
 ベラなど 加山四郎
 ひとでなど 加山四郎
 静物 志村一男
 3 2 1 志村一男

めざしのある静物 飯川雪
 滝 天笠義一
 春の村 高垣又太郎
 風景 A.宮本義雄
 二人と魚 生駒英世
 洋館の軒下 畑中三次
 堀の内 狩野幹夫
 静物 遠藤敏也
 工場風景 小沼通郎
 風景 田中隆夫
 水門 渡辺政友
 蓮花 長瀬正雄
 白蔵所風景 武繩道子
 貯蔵所風景 鈴木明
 舟だまり 阿部平臣
 とげのあつた丘 篠窪亮
 静物 久保田恒男
 樹の間 大橋賢造
 門色 董 田邊謙輔
 黒い机の鯉 董 田邊謙輔
 鯖 董 田邊謙輔
 丘の風景 鬼塚金華
 風景 鬼塚金華
 静物 杉丸進
 卓上の静物 広野股生
 静物 三つの型による
 福浦港早春 小栗哲郎
 夏の家族 伊藤善
 海防堤の見える 伊藤善
 構図 伊藤善

北穂高第二尾根。足立源一郎
 滝谷ドーム北壁
 魚 上田健一
 首里風景 大嶺政寛
 琉球の墳墓
 鳥かご 宗久恭子
 さかな 宗久恭子
 ニコライ堂附近 長野栄次郎
 アマリ、ス 小見辰男
 花 大谷俊治
 窓 萩原冽
 壺と食器 井出実
 森 井出実
 冬の子供 笠木実
 Onna
 釣の静物 久守昭義
 鮭 久守昭義
 残雪と工場風景
 冬の山 中村巽
 椅子と花 高倉武徳
 丹生 山 鈴木敏董
 風景 五十嵐藤俊
 静物 高木勇次
 怪魚の復活 島内三郎
 魚の受胎 島内三郎
 増大する不均衡 田中岑
 二つのもの
 冷やかなる生産
 少 女 大沢鉦一郎
 髪 女 大沢鉦一郎
 静物 A.藤島清雄
 静かなる流体 B.五味秀夫

交代する気象 五味秀夫
 女と 馬長岡忠三郎
 演奏者 川口輝夫
 風景 中村芳郎
 壺と 斎藤勉
 (映画)「千羽鶴」 セット設計 丸茂孝
 (映画)「縮図」 セット設計
 (映画)「原爆の子」 セット設計
 (映画)「お茶漬の味」 セット設計 浜田辰雄
 春隣 1 仲村勇
 札幌大通り 谷口一芳
 冬の北海道 片岡正典
 土蔵風景 石田正典
 自画像 井岡実
 風景 井岡実
 仏頭のある静物 松原鉄之
 黒オリーブの女 小山田敏子
 鶏舎 小田四郎五郎
 田園早春 関四郎五郎
 桑畑のある風景 中村徳三郎
 港の歌 中村徳三郎
 海の歌 中村徳三郎
 工場の歌 日高万典
 風景 菅原和夫
 静物 伊藤慶具
 農家 佐藤昌胤
 湖畔 畔々

森 佐藤昌胤
 ダリ ヤ。新沼杏一
 さくら草と魚
 ストリープ
 佐倉早春 伊川鷹治
 沼の渡し 伊川鷹治
 夏の庭 伊藤勲志
 牛と農夫 越智正人
 山手街 藤井俊一
 古沼風景 山本朝子
 静物 尾関重之介
 薬品棚 河村寅明
 富野風景 尾関重之介
 果物 入巻本辰夫
 赤いコート 森川鏝
 手を組む裸婦
 ベレーの女
 ランプのある静物 本道守
 白壺と果物 伊藤慶之助
 果物とガラス器 伊藤慶之助
 昼景 豊泉恵三
 朝日 豊泉恵三
 水辺の杉林 日下昌三郎
 風景 松藤二郎
 建物の景 野口正二
 白い木 山下達郎
 静物 深野昌作
 潮来出島 角南松生
 静物 角南松生
 潮来出島 角南松生
 材木のある広場 伊藤三雄
 風景 竹崎三峰
 卓上静物 五十嵐藤俊

露 草久保圭子
 古風な風俗 加賀孝一郎
 マネキン人形風
 俗と花
 人と花
 イチジク 田中重治
 漁船 前田和子
 赤い建物 稲垣毅
 春と蕃椒 松本尚美
 壺と蕃椒 古淵正信
 室内静物 加藤秀夫
 女と鳥籠 加藤秀夫
 花と鳥籠 加藤秀夫
 鉄棒(振り運動) 松村禎夫
 庭の子供(脚懸) 松村禎夫
 庭の子供 大嶺政敏
 草上静物 大嶺政敏
 乾魚 吉田達磨
 岩山 吉田達磨
 古壺 今竹七郎
 セントジョン寺 今竹七郎
 シカゴのガード 今竹七郎
 下天 今竹七郎
 早春残照 本荘越
 花の風景 鶴飼毅
 街の風景 鶴飼毅
 都会の谷間 小泉倫之助
 中年の期 小泉倫之助
 窓辺静物 横尾丈夫
 憩い 横尾丈夫
 菊花 賀茂牛之輔
 花 賀茂牛之輔
 かれい志水真澄

鯉魚池のある風景 伊藤敏博
 山あじさい 藤堂全三郎
 高麗の壺と乾隆瓦片 藤堂全三郎
 高麗壺 岩崎又二郎
 花壺 岩崎又二郎
 静物 川長次
 静物 宇田政夫
 静物 山根義雄
 春景 山下平衛
 風景 森下平衛
 はべま 玉那覇正吉
 窓のある室内 二見和男
 段々 加藤尚
 犬山 寺澤正敏
 盆踊 寺澤正敏
 静物 川原貫一
 郊外風景 安斎儀之
 ビンの静物 藤野成己
 静物 藤野成己
 花のある静物 藤野成己
 十字架のある建物 宮内政美
 風景 宮内政美
 静物 海本健
 静物 稲熊万栄
 坂道にある家 野崎英男
 室内風景 大西江二
 東山手風景 小西都夫
 聖堂の見える庭 北川清臣
 窓 関根勢之助
 街角 関根勢之助
 建物 山田栄作
 花景 土方千枝子
 風景 長尾清春

あみもの 原田武雄
 花と少女 森村惟一
 こだま 山崎達郎
 山下町附近 小田原早見
 夜の楽器 小田原早見
 窯場 堀池隆一
 南伊豆風景 堀池隆一
 静物 依田美代子
 坂道 君野隆治
 窯道 笠松春彦
 街路 千本祐三
 壺と果物 川上健次
 静物 三橋玲子
 風景 鈴木和子
 野菜のある静物 小松忠雄
 黒いテーブル 飯田顯
 籠のある風景 永井金四郎
 北野町風景 前田清子
 労働終る 桑重清
 冬景 柳澤健
 洛北風景 片桐欣子
 教会のある風景 石黒平三郎
 薫色の花と果物 石黒平三郎
 工場風景 照井明
 雪景 照井明
 風景 阿部佳男
 天坪のある台 山本千香子
 動物園 稲葉淑郎
 鳩 岩見吾郎
 桐の実と教会 東政雄
 麦の建物 田家裕久
 雪の建物 成田英一
 厨子甕 安谷屋正義

失	望	加藤助八	鶏	小屋	小堀信子	工場	風景	景都築武雄	風	景	花山良彦	風	景	中野敏	具のある静物	那	楠昭	静	物	桜井邦彦	我里の秋	三	嶋幸作	秋	四	方れい	平穩村の雪景色	高	山清	窓辺の花	戸	田節子	丘	堀	信春	風	景	森松治	花と少女	土	田道寿	町の花屋	鈴	木一弘	(舞台美術)			羽衣(天女)	緒	方規矩子	細男舞(働く人々)	1		2			3			4			5			6			7			8			9			10			加藤道夫作	思	中嶋八郎	ひ出を亮る男			キングスレー作	小	林雅夫	探偵物語	限	加藤彰亮	オニール作	2		りなき命1	加	藤彰亮	3			森本薫作	女	小見辰男	一生第一幕			松本亀松作	舞	鈴木雅博	踊劇「院の月」			ビゼー曲「カル	金	子和一郎	メン」二幕アス			パスチャの酒場			大野洋照明		
---	---	------	---	----	------	----	----	-------	---	---	------	---	---	-----	--------	---	----	---	---	------	------	---	-----	---	---	-----	---------	---	----	------	---	-----	---	---	----	---	---	-----	------	---	-----	------	---	-----	--------	--	--	--------	---	------	-----------	---	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	----	--	--	-------	---	------	--------	--	--	---------	---	-----	------	---	------	-------	---	--	-------	---	-----	---	--	--	------	---	------	-------	--	--	-------	---	------	---------	--	--	---------	---	------	---------	--	--	---------	--	--	-------	--	--

ジョン・サルマ	矢島正二郎	ン作 幻の魚	磯田音也	蟹満寺縁起	河野国夫	探偵物語	吉田謙吉	竜鬚	溝	伊藤熹朔	森本薫作「退屈な時間」	鬼	北川勇	債	幸	古賀宏一	ウイリアム・サ	幸	古賀宏一	ロイヤン作			福なる薙儀			2			3			4			5			6			7			8			9			10			加藤道夫作	思	中嶋八郎	ひ出を亮る男			キングスレー作	小	林雅夫	探偵物語	限	加藤彰亮	オニール作	2		りなき命1	加	藤彰亮	3			森本薫作	女	小見辰男	一生第一幕			松本亀松作	舞	鈴木雅博	踊劇「院の月」			ビゼー曲「カル	金	子和一郎	メン」二幕アス			パスチャの酒場			大野洋照明		
---------	-------	--------	------	-------	------	------	------	----	---	------	-------------	---	-----	---	---	------	---------	---	------	-------	--	--	-------	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	----	--	--	-------	---	------	--------	--	--	---------	---	-----	------	---	------	-------	---	--	-------	---	-----	---	--	--	------	---	------	-------	--	--	-------	---	------	---------	--	--	---------	---	------	---------	--	--	---------	--	--	-------	--	--

ジョン・ミリン	林芳雄	グトン・シリン	沼井肇	作「海へ降りゆく人々」	照明種	葉通雄	小島系	チエホフ作「かもめ」	第二場	小島系	「トパーズ」	模	小島系	「同」	「装	小島朝艸	置図	夜	鈴木利夫	短	夜	鈴木利夫	武者小路実篤原	三	田潤之助	作三和尚			パレエ	クレ	長瀬幸子	パレエ	クレ	松下朗	パレエ	クレ	松下朗	2			3			4			5			6			7			8			9			10			椎茸と雄弁	伊	藤熹朔	毒薬と老嬢	1		親和力	2		ヘッダ・カープ	探	偵	レル	真	野誠二	女			ア			ク			ロ			ケ			手			フ			リ			パ			子			リ			ズ			カ			カ			フ			カ		
---------	-----	---------	-----	-------------	-----	-----	-----	------------	-----	-----	--------	---	-----	-----	----	------	----	---	------	---	---	------	---------	---	------	------	--	--	-----	----	------	-----	----	-----	-----	----	-----	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	----	--	--	-------	---	-----	-------	---	--	-----	---	--	---------	---	---	----	---	-----	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--

芥川竜之介作 関口恵美子
「三つの宝」1
2
3
三つの宝 長尾みのる
時 武内まさるを創作 関口恵美子
「狐のしつば」装
置図
現在「時」
未来「時」
6回春月泰勇油絵展 17-22
フォルム [批]産経24、美術
批評6月(植村鷹千代)
女流作家七人展 17-21 日本
橋・白木屋 [批]産経24
1回レアル美術会展 17-22
大阪・そごう
27回回画会展 18-5月3 東
京都美術館
[受賞・新会員・新会友]
国画賞
▽絵画—小橋康秀、小林敏夫
▽版画—伊藤勉、金守世士夫
▽工藝—田口芳郎
▽写真—中山巖、北原信男
新人賞
▽絵画—野田好子、本田克己、
堀内康司、長野静司、高橋
義則
▽版画—小橋康秀
▽工藝—長沼孝一、丸山太郎
▽絵画—鳥村潔

八八
船岡賞
▽絵画—中島宣矩
新会員
▽絵画—鈴木昭二、小館善四
郎、上田清一、田中道久、
北村綱義、音部幸司
▽工藝—抽木沙弥郎
▽写真—島田貫一郎
新会友
▽絵画—和田忠司、菊地辰幸、
石井佐一、張善正次、川村
浩章、内藤健一、土田次枝、
遠藤未満
▽工藝—前川典子、原田麻那
▽写真—加藤悦二、飯谷六郎
[批・記]
東京23、24(今泉篤男)
朝日24(植村鷹千代)
産経24(柳亮)
毎日夕刊25(土方定一)
日経27(福島繁太郎)
朝日27
みづる6月(徳大寺公英)
出品目録
。印会員、△印会友
(絵画)
憂鬱な日 小橋康秀
散歩の時間
悲しみの人々 堀内康司
戦争への凝視と
対話
魚頭の静物
唐橋 子△横田 鏗士
くれない

別離。高松健太郎
 夜の人々の群。立石鐵臣
 傷つける彼等は。須田剋太
 路上に。須田剋太
 残されたもの。須田剋太
 作品。須田剋太
 卓の静物。宇治山哲平
 蓮。宇治山哲平
 風速計のある静物。石原宏策
 家。石原宏策
 静。石原宏策
 かぼち。石原宏策
 回。石原宏策
 静。石原宏策
 風。石原宏策
 眼のない魚(A)。國松登
 シ(B)。國松登
 雪。國松登
 作品。國松登
 シ。國松登
 接。國松登
 三匹のベコ。高橋美則
 昇。高橋美則
 魚。高橋美則
 静。高橋美則
 作。高橋美則
 絵。高橋美則
 無。高橋美則
 二人の。高橋美則
 能。高橋美則
 燈。高橋美則

美術展覧会(4月)

静。海辺の空に浮いた花。野田好子
 飛。野田好子
 三。野田好子
 静。野田好子
 浦。野田好子
 群。野田好子
 ク。野田好子
 駅。野田好子
 雪。野田好子
 と。野田好子
 コーヒーポット。野田好子
 裸。野田好子
 教。野田好子
 作。野田好子
 婦。野田好子
 い。野田好子
 閉。野田好子
 花。野田好子
 那。野田好子
 柘。野田好子
 木。野田好子
 樹。野田好子
 波。野田好子
 風。野田好子
 河。野田好子
 祈。野田好子
 教。野田好子
 親。野田好子
 葉。野田好子
 虚。野田好子
 煩。野田好子
 春。野田好子

藤澤美堯
 青木一美
 松浦清次
 橋谷治
 宮下明
 内廣
 木達
 貞一
 渡邊貞一
 青木達
 彌
 細谷重雄
 水仙と椿。細谷重雄
 枇杷と桃。細谷重雄
 花。細谷重雄
 鳥。細谷重雄
 シ。細谷重雄
 作。細谷重雄
 シ。細谷重雄
 静。細谷重雄
 作。細谷重雄
 逆光。細谷重雄
 マーガレット。細谷重雄
 桂川。細谷重雄
 鏡のある静物。細谷重雄
 花のある静物。細谷重雄
 老シリヤエフ像。細谷重雄
 シ(A)。細谷重雄
 シ(D)。細谷重雄
 シ(B)。細谷重雄
 山。細谷重雄
 敵。細谷重雄
 椿。細谷重雄
 敵。細谷重雄
 静。細谷重雄
 渡邊義一君像。細谷重雄
 ざ。細谷重雄

晩秋。向井千代子
 鮭。向井千代子
 がくの花。内ヶ崎光枝
 まむし酒のある。清水光子
 静物。清水光子
 花。清水光子
 母。清水光子
 生。清水光子
 梨。清水光子
 時化のあと。清水光子
 晩春。清水光子
 早春。清水光子
 春。清水光子
 静。清水光子
 山。清水光子
 裸婦。清水光子
 完成。清水光子
 夏。清水光子
 黒。清水光子
 ガラス鉢と魚。清水光子
 少。清水光子
 畫。清水光子
 裸。清水光子
 立。清水光子
 坐。清水光子
 瓶。清水光子
 猫。清水光子
 人。清水光子
 渡。清水光子
 鴨。清水光子

夏。山。土田文雄
 静物C(アネモネ)。中村好宏
 シ(A)。中村好宏
 シ(B(ランプ))。中村好宏
 花のある静物。富岡令子
 山の上の湖畔。松木満史
 梟の死。小館善四郎
 冬の部屋。小館善四郎
 雑。小館善四郎
 魚。小館善四郎
 ラ。小館善四郎
 黒。小館善四郎
 花。小館善四郎
 室。小館善四郎
 風。小館善四郎
 双。小館善四郎
 黒。小館善四郎
 ラ。小館善四郎
 厨。小館善四郎
 森。小館善四郎
 木。小館善四郎
 鳩。小館善四郎
 早。小館善四郎
 静。小館善四郎
 静。小館善四郎
 校舎のある風景。多田昇平
 少。多田昇平
 窓。多田昇平
 蓮。多田昇平
 母。多田昇平

伊豆風景 山本友子
 裸婦坐像 中原元次郎
 仔犬と少年 眞野岩夫
 山 原田五郎
 かねいのある静物 北村喜八郎
 物かみをすく 吉野不二太郎
 小鳥・子供・鬼 西村淳
 山 中村米太郎
 池とあひる 坪谷虎男
 秋 佐藤哲三
 みぞれ
 たもの木 △田中道久
 杉 △田中道久
 雛子 △田中道久
 構成 森和
 春 河村千代三
 静物 澁川榮志
 チヤボ △澁川榮志
 十和田湖の観湖 眞垣武勝
 四谷大宮御所の煙突 △眞垣武勝
 山莊の夏 △眞垣武勝
 美しき肩掛の女 久保守
 燈台のある風景 辻愛造
 漁港への道 △辻愛造
 煙突とおんなの子 △中島宜矩
 ストーブのある室内 △中島宜矩
 岸壁 有馬周三
 残雪 内堀勉
 木曾馬籠 △内堀勉
 玉川風景(A) △松田正平
 (B) △松田正平

かんな島内きみ
 壺と花立荒金透
 月と裸婦 △石井照
 裸婦 △石井照
 瀬戸内海の恋人 △三橋健
 記念塔 △三橋健
 卓上 石井佐一
 山間の風景 △石井佐一
 工場の風景 △石井佐一
 冬 平田勝規
 牛骨のある静物 △平田勝規
 人 日野原克磨
 石炭殻を拾う物 △日野原克磨
 ランプと果物 △梅宮馨三郎
 場の静物(赤) △末石川雅也
 卓の静物(赤) △末石川雅也
 「いかり」のある風景 △大木博己
 豚小屋 △大木博己
 誕生 矢岡勳
 人 生島村潔
 風 池邊貞喜
 風衣の人(B) △池邊貞喜
 六甲の春 △池邊貞喜
 六甲の春 △池邊貞喜
 六甲早春 △池邊貞喜
 六甲早春 △池邊貞喜
 停船 △池邊貞喜
 風景 神原仁
 奈良風景 荒木寛
 手袋のある静物 △森本三郎
 アトリ風景 △吉田清勳
 浜風 △吉田清勳
 ガスタシクのある風景 △杉本賢司

堀端高橋立
 髪を結ぶ女 大沼陽子
 風景 伊賀優
 雪景 伊賀優
 蝶々 △伊賀優
 人工風景(A) △川村浩章
 風景(B) △川村浩章
 静物(A) △宗像逸郎
 窓(B) △宗像逸郎
 氷上のコンテス △藤原徳太郎
 トランプ △藤原徳太郎
 燈台の見える丘 △音部幸司
 燈台の見える丘 △音部幸司
 春の静物 △清水映子
 黒衣婦人 △清水映子
 森の歌 △松野良治
 作 品 別所明芳
 父(写真) △船坂博通
 父と子 △船坂博通
 幻を追う品 中山純
 作 コール △岡島菅吉
 スコール △岡島菅吉
 海もい で △小野由行
 おもいだすもの △加藤悦二
 ならんだもの △加藤悦二
 染物 △岡島慶松
 船腹 △岡島慶松
 河川工事場 △高橋富路
 木相 △杉野誠三

雪の日の伊東常雄
 作 品 中山常雄
 春 風 鈴木高亮
 若木 坂谷仁三郎
 岩礁 森義一
 残照 塚本彌八
 舗道の日 川崎満男
 憩いの日 川崎満男
 黒帽子 △島田貫一郎
 銀色の橋(其二) △島田貫一郎
 銀色の橋(其一) △島田貫一郎
 杜 若西山清
 高村光太郎氏 吉川富三
 静物(2) △長濱慶三
 静物(1) △長濱慶三
 作品七番 柿沼和夫
 庭場風景 小菅成夫
 牧場風景 北原信男
 緬羊 北原信男
 古跡(長崎) △菅野清兵衛
 桜 蓮 菅野清兵衛
 木 蓮 菅野清兵衛
 椿 安藤榮一
 雲 長崎港舟
 牛 △川崎龜太郎
 東大寺講堂跡 入江泰吉
 淳ちゃん △北角玄三
 空 野島康三
 海 北角玄三
 静物 中居正躬
 ペンデラム・フオート △天野龍一
 花 △中山巖

花田の旧正月 △中山巖
 秋田の旧正月 △中山巖
 窓 木村昌斗志
 ス 田中信次
 影 △田中信次
 風 △田中信次
 氷柱 △池宮清二郎
 静物(C) △池宮清二郎
 スイッチ △池宮清二郎
 作 チューリップ習 △安藤不二夫
 無題 橋本清一郎
 阿蘇の山 △橋本清一郎
 醉眼 松田静夫
 樹脈 松田静夫
 北国の道 金山晴顯
 雪 華山下實
 田園 濱田得一
 舟 安藤廣
 風雪 飯谷六郎
 森の中の表(1) △竹見義雄
 情 △竹見義雄
 岩 △佐藤元臣
 屋根 △佐藤元臣
 残照 △佐藤元臣
 吹雪の朝 △山下喜久雄
 庭雪 △山下喜久雄
 鳥の標本など △福田貂太郎
 千傘 △吉島鐵井

舟のある夜景 佐木田光夫
 まどべのアルプ 森 昭胤
 花 白根美代子
 墓のある雪景色 淵上貞子
 窓 増田富緒
 窓 木下勘二
 窓 神田富士雄
 白 い 牛 池田甚三郎
 釣具など(鳥賊) 直井澄子
 花と女 千葉作太郎
 早春のリング樹 杉山昌三九
 夜 服部邦行
 風 河原健二
 自 画 像 蛭澤 尙
 船のある風景 中村 宏
 樹 又田善治
 風 廣中久五郎
 花の静物 平田茂子
 梅 石原勇美太郎
 ガラス 瓶 島雄たけし
 群 裸 古賀猷知郎
 風 景 田中美知子
 少女と猫 妹 北川重春
 たそがれの街 高瀬捷三
 小坪 景 石ケ森恒藏
 静 物 安藤誠吾
 風 景 安藤誠吾
 溪 流 島 常武
 午 後 白田輝四郎
 裸 婦 島野大作
 木 と 社 高田民治
 夜 の 庭 景 吉留 要
 石 の 庭 山崎隆夫

石、紙、ブリキ、山崎隆夫
 石鏡のある静 (2) 岩尾秀樹
 氷 器 (1) 原能登正智
 農 具 日向 裕
 ポ ン ド 日向 裕
 馬 物 三戸了一
 静 物 川口軌外
 異 影 川口軌外
 製油所ト船 川口軌外
 群 像 香月泰男
 散 歩 香月泰男
 休 憩 井上三綱
 浴 の 娘 井上三綱
 島 の 子 橋本三郎
 あひるのメ 橋本三郎
 サ メ 橋本三郎
 抜 根 橋本三郎
 カニと魚 金子幸正
 トルソ(A) 金子幸正
 シルソ(B) 金子幸正
 岡崎郊外 鈴木坂治
 早 春 鶴田昌司
 船のある風景 小泉富司
 木 株 岡島吉郎
 風 景 岡島吉郎
 曇日(ロック、ガ
 1デソ) 上田清一
 早 春(甲山) 上田清一
 静 物 田中三郎
 画 家と梟 伊藤彌太郎
 花 づ と 濱田邦男

花と 巖 濱田邦男
 浚 機 川越昭子
 原爆幻想、2S 大須賀政一
 地区の子供達 宇田要之助
 只見川上流 稲田俊志
 只見川夕映 石野隆
 木 立 彼末 宏
 真冬の丘 塚本新治
 ペトルウシカ 松本一夫
 ひ も の 塚本新治
 裸 婦 黒原和男
 白 い 網 高橋照子
 窓 高橋照子
 「愛と題して」愛 二見利節
 の駒 二見利節
 の玉 二見利節
 愛 の 籠 二見利節
 聖 観 音 権隨 弦
 雑 木 林 佐藤哲夫
 風 景 小田原龍生
 港 の 子 供 尾田 龍
 夏 の 吹 き 尾田 龍
 笛 吹 き 尾田 龍
 声 ラムプと骨 本田克己
 ラムプと骨 本田克己
 二 人 名 井 玲
 朝 齋 藤 滋 夫
 窓 齋 藤 滋 夫
 集 齋 藤 滋 夫
 画 室(夜の花) 中村 博
 出 雲の春 塚 運一
 薄暮(出雲) 塚 運一
 卓上のギター 遠藤高光

栗の木と栗の毬 林 一美
 春の石神井(2) 南風原朝光
 公園 南風原朝光
 牛骨と花 日野原克磨
 静 物 境 進
 21回日本版画協会展 18-5月
 3 東京都美術館 [批]朝日
 26(植村鷹千代)
 会員出品目録
 静 物 武井武雄
 池 物 武井武雄
 鬼 物 武井武雄
 静 物 木村晃郎
 金判八分 木村晃郎
 現世降下 木村晃郎
 獨健報恩講 木村晃郎
 断食苦行 木村晃郎
 みみづく 根本霞外
 よたか 根本霞外
 東北の女 前川千帆
 雪 前川千帆
 静 吉田政次
 No.21 吉田政次
 No.22 吉田政次
 No.19 吉田政次
 No.20 吉田政次
 No.23 吉田政次
 No.24 吉田政次
 No.25 吉田政次
 No.26 吉田政次
 No.27 吉田政次
 No.28 吉田政次
 No.29 吉田政次
 No.30 吉田政次
 生物のイメージ 塚本 哲
 バチのある静物 塚本 哲

虫の 巢 関野準一郎
 鳩と結晶 関野準一郎
 夜の鳥 関野準一郎
 コレスロンの勝 関野準一郎
 利 関野準一郎
 オレンジの花咲 木和村創爾郎
 く鳥 木和村創爾郎
 オリイブの島 木和村創爾郎
 作 品 星 裏一
 雪の中のうた 星 裏一
 二月の童女 星 裏一
 坂 道 武藤孝二
 静 物 武藤孝二
 小山水車 永禮孝二
 館山寺奥道 岩田覺太郎
 港 橋本興家
 風 神 黒木貞雄
 麦 武田由平
 コンポジシ 武田由平
 コンポジシ 武田由平
 駒井哲郎
 分割されたる自 駒井哲郎
 画像 駒井哲郎
 賭 駒井哲郎
 夜の風景の中の 駒井哲郎
 雪と子供 駒井哲郎
 蔵王火口湖 前田政雄
 赤城山湖 前田政雄
 假 面 品 川 工
 像 文字のある自画 品 川 工
 眞 畫 品 川 工
 都 會 品 川 工
 哲 學 品 川 工
 夢 若山八十

美術展覧会(4月)

木木会染色工藝展 24—28 日
 本橋・白木屋
 正宗得三郎個展 24—28 日 日本
 橋・白木屋
 石川滋彦南阿・南米作品展 24
 1—29 大阪・そごう
 週刊朝日表紙原画展 25—29
 新潟・小林デパート
 白鶴春季展—梅原龍三郎自選靜
 物画鑑賞會、唐三彩・宋磁・
 明赤絵特別陳列 25—5月17
 神戸・白鶴美術館
 流形派遣形展 25—29 日比谷
 画廊
 醍醐寺名宝特別展 25—5月31
 奈良国立博物館
 利根山光八小品展 26—5月6
 大森・べれー
 1 回平和をまもる美術展 26—
 5月3 大阪市立美術館
 中野秀人個展 27—5月2 日
 本橋・丸善
 黒田頼綱個展 27—30 資生堂
 4 回全国陶藝展 27—5月3
 東京都美術館
 ルノアール複製画展 27—5月
 2 中央公論社画廊
 魯山人作品展 27—5月2 壺
 中居〔批〕朝日30〔岡田護〕
 1 回日本彫塑展 27—5月9
 東京都美術館
 桑原、三枝、山東、鷺尾、山崎油
 絵展 27—5月2 日本橋・
 丸善

4 回高澤七郎漆絵展 28—5月
 3 日本橋・三越
 10 回東丘社記念展 28—5月3
 京都・大丸
 1 回百合会日本画鑑賞展 28—
 5月2 サエグサ
 4 回日社展 28—5月3 日
 本橋・三越
 高光一也個展 28—5月3 日
 本橋・三越〔批〕産経5月1
 (横川毅一郎)
 京洛陶藝展 28—5月3 日本
 橋・三越
 5 回京都市美術展 28—5月27
 京都市美術館
 8 回赤松柳女史俳画展 28—5
 月3 大阪・阪急
 新作日本画展 28—5月3 京
 都・大丸
 青木大乗近業展 29—5月3
 日本橋・高島屋

五月

3 回新工人展 1—5 資生堂
 (批)工藝ニュース7月
 2 回青丘会展 1—6 銀座・
 松坂屋〔批〕東京タイムズ
 5、産経16
 正宗得三郎個展 1—6 日本
 橋・白木屋
 横堀角次郎個展 1—7 上
 野・松坂屋〔批〕産経16
 山口勝弘個展 1—10 タケミ
 ヤ〔批〕産経16、美術批評6
 月(池邊陽)
 楽茶碗展 1—17 根津美術館
 梅原龍三郎「ヴェニスとパリ」
 ケツチ帖(複製)展 1—10
 大阪・梅田画廊
 6 回行動美術全関西展 1—10
 大阪市立美術館
 ヴィトリウス展 1—10 タケ
 ミヤ〔記〕工藝ニュース8月
 中村登造作展(三十周年記念)
 1—31 茨城県立美術館
 出品目録
 西洋少女(少年時代模写
 1907年頃)
 洋燈之図(初めての油絵
 習作 裸婦(1908年)
 雪 画 像(二十歳頃)
 自 画 像(二十歳頃)
 麦藁帽の自画像
 写真による肖像画
 自 画 像
 少女の顔
 湯上りの女(未完)
 幼女臥像(新宿中村屋の
 娘(文展出品三等)
 女 物
 静 物
 うちわを持てる(未完)
 女
 大島風景(太平洋展出品)
 自 画 像
 (デッサン)
 口笛を吹く男(シ)

婦 人 像
 母 子 像
 犬
 アネモネ
 夏 の 庭
 画室の庭(1918年)
 目白風景
 ルノアールの泉(記憶模写1920)
 臥ている自画像
 果 物
 静 物
 自 画 像(デッサン)
 婦 人 像(1回金塔社展
 出品1908年)
 血を吐く男(バステル)
 立てる裸女(未発表、1922年
 による)
 泉
 ドクロの静物
 百日草静物(1923年)
 静 物(シ)
 ドクロを持てる(画稿、一年間
 の試作)
 朝顔の静物(1923年)
 自画像
 老 母 の 像
 第五回帝展発
 表、実母では
 なく最後まで
 病中の世話を
 した岡崎きい
 女像
 静 物(花)〔絶筆、1924年
 2月〕
 游心会日本画展 3—9 松島

ギヤラリ
 ヨーロッパ版画展 3—6月14
 鎌倉・近代美術館
 (記)
 朝日夕刊 25、26、27、28、
 31、6月1、6月2、6月4、
 6月5、6月10、6月12
 朝日13、14
 3 回森々会展 4—9 日本
 橋・丸善〔批〕産経16
 阿以田治修個展 4—9 サエ
 グサ〔批〕産経16
 39 回光風会展 4—14 大阪市
 立美術館
 九品庵展 5—9 壺中居
 日本童画会展 5—10 日本
 橋・三越
 大貫松三油絵展 5—10 日本
 橋・三越
 全朝日報道写真展 5—10 日
 本橋・三越
 24 回第一美術展 5—19 東京
 都美術館〔批〕時事13、産経
 16
 関西独立小品展 5—10 大
 阪・阪急
 久本弘一個展 5—9 大阪・
 梅田画廊
 2 回緑風会展 5—10 大阪・
 大丸
 梅原・安井展 5—24 酒田・
 本間美術館
 日展 5—31 高岡市美術館
 6 回無厭会清水焼名家展 5—

10 京都・大丸
13 回日本画院展 5-19 東京
都美術館 [批] 時事13、産経

16 出品目録

リ 望月春江
螢火の如く 穴山勝堂
秋の園 川崎小虎
丑童子 野田九浦
妙高山 山田曲江
花 山本姿水
牡丹と光淋 岩田正己
茶の店 服部有恒
5 回装幀美術展 5-10 日本
橋・三越
[受賞]
文部大臣奨励賞
世界の現代建築 (原弘・彰
国社)
装幀賞
△教養書①世界映画史(高
久広・白水社)②私たちの
生活手帖(亀倉雄策・婦人
画報社)
△専門書①世界の現代建築
(原弘・彰国社)②桂離宮
(毎日新聞社図書編集部・
毎日新聞社)
△文藝書①劉生絵日記(澤
田伊四郎・龍星閣)②死者
はいつまでも若い(山口長
男・白水社)、萩原朔太郎

全詩集(恩地孝四郎・創元
社)

朝日8(植村鷹千代)
美術手帖7月(北園克衛)
19 回東光会展 6-19 東京都
美術館

時事13、産経16
会員出品目録
冬 木 立 青木正春
木 室 立 中井重男
画 室 中井重男
う ち わ 岩中徳次郎
漁 の 村 石本秀雄
春 の 野 車
乳 母 石本秀雄
画 学生 石本秀雄
白 い 手 袋 石本秀雄
静 (マンドリンケ
ースのある)
静 (シクラメン)
静 (青いピン)
魚 夫 奥野康春
多 夫 奥野康春
鏡 天 奥野康春
春 夫 奥野康春
晩 秋 奥村四郎

作 品 A 高田恵以

山 春 松本富太郎
早 春 家永隼三郎
磨 香 碗豆 A 家永隼三郎
春 窓 山崎修二
若 芽 窓 山崎修二
母 と 子 関口茂
編 物 関口茂
室 内 石田勝重
丘 布 高 島村剛生
由 布 高 島村剛生
新 物 柳田貞久
静 物 柳田貞久
時 計 店 錦織保久
向 月 亭 松永和夫
風 景 松永和夫
人 物 松永和夫
尾 道 風景 A 大木茂
婦 人 像 B 宇野亀一
静 物 宇野亀一
少 女 像 宇野亀一
色 と 小 鳥 境 保博
た そ が れ の 南 園 野 澤 寛
堂 興 福 寺 本 堂 野 澤 寛
清 光 齋 藤 国 雄
木 樵 松 永 敏 太 郎
婦 人 像 松 永 敏 太 郎
冬 の 六 間 川 河 原 修 平

静 物 河原修平

静 物 河原修平
梅 咲 く 窓 斎藤与里
花 浦 湾 山本日子良
勝 浦 温 泉 山本日子良
果 物 山本日子良
麗 浦 温 泉 山本日子良
だ り や 山本日子良
蒲 郡 山本日子良
説 書 山本日子良
夕 月 山本日子良
窓 際 山本日子良
古 都 の 春 山本日子良
波 切 風 景 山本日子良
花 屋 山本日子良
奈 良 秋 色 山本日子良
三 月 堂 山本日子良
少 女 と 子 猫 山本日子良
奈 良 公 園 奥 山 山本日子良
芥 子 山本日子良
朝 月 雨 山本日子良
五 月 雨 山本日子良
神 山 の 富 士 山本日子良
雨 山本日子良
嘯 山本日子良
三 津 海 岸 山本日子良
静 物 山本日子良
風 景 山本日子良
温 室 山本日子良
牡 丹 山本日子良
椿 山本日子良
静 物 山本日子良
茶 棚 の 前 に て 山本日子良

浮世絵と子供 兼 功

浮世絵と子供 兼 功
葡萄園の客 桑原福保
リンゴをむく婦人 山本日子良
海を行く道 山本日子良
のんだくれ 山本日子良
木 立 坂田憲雄
家 子 像 斎藤久子
母 子 像 斎藤久子
風 年 像 斎藤久子
青 年 像 斎藤久子
人 物 江藤哲
春 物 江藤哲
人 物 江藤哲
姉 妹 平通武男
バ レ リ ー ナ 大蔵敏秋
淡 路 人 形 大蔵敏秋
海 敷 風 景 B 岡本肇
倉 敷 風 景 B 岡本肇
景 の 前 小早川篤四郎
屏 風 の 前 小早川篤四郎
齒 科 診 療 室 小野政吉
静 物 小野政吉
座 像 小野政吉
座 像 小野政吉
外 輪 山 像 小野政吉
雪 景 佐藤一章
大 歩 危 佐藤一章
静 物 佐藤一章
山 物 森田茂

裸 婦森田茂
海 邊風景 葦名芳夫
阿 蘇 曉景 清原武則
小 島 風景 岩下三四
三 画 室 関 熊岡正夫
静 物 物 熊岡正夫
人 龍 門 山 多田俊彦
山 三 月 大和田富子
人 形のある静物 椅子のある静物
温 室 の 花 長 根 翠
山 里 の 春 松 岡 正 直
青 い 建 物 能 登 靖 幸
残 の 宮 前 西 川 高 次
春 の 宮 前 西 川 高 次
風 景 高 谷 重 夫
早 春 漁 村 大 滝 斗 良 樹
早 春 池 畔 橋 詰 英 一 郎
坐 像 橋 詰 英 一 郎
夏 の 日 射 し 中 久 木 康 夫
自 画 像 中 久 木 康 夫
久 子 像 高 田 肇 三
春 の 雪 梅 津 五 郎
調 理 場 梅 津 五 郎
舞 臺 梅 津 五 郎
船 置 場 風景 真 木 宣 武
裏 町 津 島 初 穂
街 景 安 達 良 雄
製 光 景 安 達 良 雄
暖 冬 大 平 敬 次 郎
立 秋 の 頃 東 山 正 孝
新 緑 の 長 崎 山 田 正 孝

静 物 石 見 せん
窓 辺 静 物 稲 村 退 三
静 物 大 寄 兼 久
群 牛 大 歳 暁
風 景 大 寄 兼 久
妙 高 山 原 本 賢 治
春 雪 船 越 連 雄
溪 谷 清 水 昌 一
境 内 遠 藤 德 一
大 崩 海 岸 高 島 茂 雄
静 物 橋 尾 整 八
下 手 物 安 宅 義 則
窓 会 風 景 松 本 暁 周
都 会 風 景 福 本 春 子
つ つ じ の 頃 福 本 春 子
座 像 大 河 内 幸 俊
静 物 渡 邊 義 一
吾 妻 溪 谷 渡 邊 義 一
S 氏 像 渡 邊 義 一
早 村 一 男 作 品 展 6-10 日本
田 村 一 男 作 品 展 6-10 日本
橋 ・ 高 島 屋 (批) 産 経 16
7 回 六 人 展 6-9 資 生 堂
〔批〕朝日8(植村謙次郎)、美
術批評6月(富永惣一)
2 回 清 宋 会 展 6-10 兜 屋
武 者 小 路 実 篤 展 6-12 教 寄
屋 橋 画 廊
中 国 画 特 別 陳 列 7-31 京 都
国 立 博 物 館
彩 光 会 染 色 展 8-14 上 野 ・
松 坂 屋
伊 藤 深 水 ・ 川 瀬 巴 水 現 代 木 版 画
展 8-13 銀 座 ・ 松 坂 屋

ロジエ・ヴァン・エック個展
9-14 フォルム〔批〕毎日
13 美術批評6月(川口軌外)
第一グループ展 9-13 日比
谷 画 廊
佐々木邦彦新作日本画展 9-
14 大阪・三越
4 回 日 月 社 展 9-14 大 阪 ・
三 越
8 回 赤 光 社 日 本 画 展 9-14
大 阪 ・ 松 坂 屋
新 制 作 協 会 展 10-24 高 松 美
術 館
福 田 眉 仙 中 国 絵 巻 展 11-13
東 京 ・ 美 術 俱 楽 部
伊 勢 正 義 個 展 11-15 資 生 堂
〔批〕毎日13、産経16
唐 三 彩 鑑 賞 展 11-15 壺 中 居
ウ ア ン ・ ゴ ッ フ 展 11-16 日
本 橋 ・ 丸 善
〔記〕
朝 日 12、13、14、15、16
産 経 13
每 日 14 (大 河 内 信 敬)
阿 部 覚 個 展 11-20 タケミヤ
〔批〕美術批評6月(滝口修造)
山 本 正 個 展 11-16 東 京 画 廊
〔批〕産経16
錦 絵 に よ る 日 本 文 化 史 展 11-
6 月 新 作 展 大 阪 城 天 主 閣
日 本 画 新 作 展 11-16 大 阪 ・
丸 善 美 術
村 山 俊 夫 個 展 12-16 サエグ
サ

能 彪 会 展 12-17 日 本 橋 ・ 三
越
現 代 歌 人 筆 蹟 展 12-17 洪
谷 ・ 東 横
日 本 画 の 流 れ 展 ― その 系 譜 と 展
開 ― 12-6 月 21 国 立 近 代
美 術 館
〔批〕記
東 京 20 (福 田 豊 四 郎)
時 事 20 (鈴 木 進、H)
産 経 30 (横 川 毅 一 郎)
朝 日 15
朝 日 夕 刊 11、18、20
日 経 18
10 回 東 丘 社 展 12-17 大 阪 ・
大 丸
中 川 一 政 紙 本 小 品 展 12-17
大 阪 ・ 高 島 屋
春 の 青 龍 展 12-17 大 阪 ・ 高
島 屋
岩 田 藤 七 新 作 ガ ラ ス 器 展 13-
17 日 本 橋 ・ 高 島 屋 (批) 記
朝 日 17 (岡 田 護)、産 経 15、工
藝 ニ ュ ー ス 7 月
ク リ ー ト 一 個 展 13-6 月 14 プ
リ ゼ ス ト ン
出 品 作 は 鎌 倉 の 近 代 美 術 館 で
開 け ら れ た 時 (1 月 1、2 月 22)
の も の と 同 じ
〔記〕
東 京 タ イ ム ズ 15 (富 永 惣 一)
4 回 研 水 会 展 13-18 大 阪 市
立 美 術 館
7 回 墨 心 会 展 15-21 上 野 ・

松 坂 屋
池 田 飄 阿 作 品 展 15-20 黒 田
陶 苑
1 回 瑞 雲 舍 展 15-20 銀 座 ・
松 坂 屋
パ ラ 十 題 展 15-27 銀 座 ・ 松
坂 屋
奈 良 文 化 財 研 究 所 開 所 特 別 展
15-16 奈 良 文 化 財 研 究 所
藝 艸 堂 改 装 記 念 晒 鳳 版 画 展 15
-21 京 都 ・ 藝 艸 堂
白 樹 会 彫 塑 展 16-20 日 本
橋 ・ 白 木 屋
長 谷 川 濤 次 郎 個 展 16-21 フ
オ ル ム
18 回 清 光 会 展 16-21 資 生 堂
〔批〕東京19(岡本謙次郎)
パ ー ナ ー ド ・ リ ー チ 展 16-21
大 阪 ・ 松 坂 屋
浜 田 庄 司 新 作 陶 器 展 16-21
大 阪 ・ 松 坂 屋
富 山 妙 子 個 展 16-20 大 阪 ・
梅 田 画 廊
39 回 光 風 会 展 16-28 京 都 ・
丸 物
3 回 京 都 工 藝 作 家 展 16-21
京 都 府 ギ ャ ラ リ
せ ・ も あ 綜 合 美 術 展 16-20
京 都 ・ 宮 崎
水 木 伸 一 愛 の 画 展 17-19 日
比 谷 画 廊
滝 田 頂 一 新 作 陶 展 17-24 萩
窪 ・ い づ み 工 藝 店
5 回 眞 会 展 18-23 日 本 橋 ・

丸善	小出橋重小品展	18—26	中央
公論社画廊			
[批]			
東京22(岡本謙次郎)			
朝日24(仲田定之助)			
西澤富義近作展	18—23	大	
阪・美交社			
福田眉仙中国絵巻国内展示会			
18—21 産業会館内アメリカ文化センター			
矢崎千代ニバステル遺作展	18		
—23 並木画廊			
河合榮之助新作陶器展	19—24		
日本橋・三越			
斑目秀雄個展	19—23	サエグ	
サ			
日本美術協会展	19—24	日本	
橋・三越			
1回日本宣伝クラブ展	19—23		
日本橋・丸善			
10回東丘社展	19—24	神戸・大丸	
6回関西新制作展	19—26	大	
阪市立美術館			
6回女流綜合美術展	19—24		
大阪・大丸			
4回コンレアル展	19—24	大	
阪・阪急			
津高和一個展	19—24	大阪・アベノ近鉄	
欧米商業美術展	19—24	新	
宿・三越			
現代大家新作洋画展	19—24		

大阪・高島屋	青甲社研究会展	19—24	京
都・大丸			
富本・河井・浜田三人展	20—		
24 日本橋・高島屋			
3回新工藝展	20—30	和光	
現代大家日本画展	20—31	銀座・松屋	
各務敏三クリスタル硝子展	20		
—31 銀座・松屋			
2回日本国際美術展	20—6月		
8 東京都美術館			
[批・記]			
日経25(福島繁太郎)			
毎日夕刊25(土方定一)			
毎日夕刊25(瀧口修造)			
毎日26(石川達三)			
6月2(菅原通濟)			
東京6月3(今泉篤男)			
朝日夕刊6月3(富永惣一)			
産経6月4(柳亮)			
時事6月5合評			
佐波甫			
古田勝			
古茂田守介			
毎日6月6(田村泰次郎)			
15(瀧口修造)			
16(植村鷹千代)			
19(土方定一)			
20(宮本三郎)			
21			
22(瀧口修造)			
23(植村鷹千代)			

毎日夕刊26、27、29、6月1、6月2、6月1	今泉篤男	宮本三郎	菅野圭哉
みづゑ7月合評			
出品目録			
アメリカ			
想い出の庭	チャールズ・パーチファイ		
東の風			
犯罪者寫眞陳列館			
市街			
想い出の庭			
跨線橋	モリス・グレ		
蛇と月	イヴス		
月光を浴びた蛇			
きつつき			
眼の中の知られざる鳥			
なめくじのため			
に舞うころもり			
河からみたマン	ジョン・マリ		
ハッタンの下街			
タオスの山、人物と机			
對岸のカムデン山			
メイン州ヨーク島沖			
えびの風味(メイン州テイヤー島にて)			
沖の砂島(メイン州にて)			
絲の様な光のすじ	マーク・トビ		

ブロードウエイの午後	マーク・トビ		
街の輝き			
バックダッドからの延長			
太鼓、インディアンと神の言葉			
ユニバーサル・フィールド			
花	チャールズ・デイルムス		
輝			
入			
郊外の家々			
ポードビルの踊り子達			
踊る水夫達			
淵	ライオネル・ファイニンガ		
ルエネベルグの古い裝飾			
變遷			
月の出(コネチカット州にて)			
偉大な雲			
不吉な雲			
祭典(ヴェニスにて)	モーリス・ブレンダガスト		
シエナ・カムボ・ヴィトリオー・マニエレ			
トレーパー(セントラルパークにて)			
四月の雪(セーラムにて)			
引汐の海岸			
セントラルパーク			

湖の闘い第一景	ジェラルド・デ・パロス		
第三景			
第四景			
コンボジション			
ピンクの背景に色彩の配列			
彼は好人物で貧困だった(ドストエフスキ)	デイルド・ボナ		
静物			
壁畫のための研究			
クロキス			
坐つた少女	フラヴィオ・カルヴァ		
坐つた女			
キューバの詩人ニコラス・グレイ			
レーの肖像			
アルベルト・カヴァルカントの肖像			
像	エミリアノ・デ・カヴァルカント		
睡り			
像とコンボジション			
漁夫	オスワルド・ゴエルディ		
悪者			

一日の終り	オスワルド・ゴエルデイ	聖者	アルナルド・ペドロソ	アリゾナ	ベン・ニコル	ラ・トレラ	クリスチャー
遠景	クロワイヌ・グラシアノ	聖林者	ト・クラブ	箱コロレートの	ソン・ニコル	工事場	カルツィ
坐つた女	グロワイヌ・グラシアノ	凱旋門	ローム(サン・タンジエロ橋)	六つの眼	茶色の盃	赤いテーブル	ミデイ
坐つた男	グロワイヌ・グラシアノ	茂みの中にある樹木	北の海	羊皮紙の本	茶色の盃	右側に暗灰色の人間が現われる	クリシアン
母と二人の子供	グロワイヌ・グラシアノ	丘の上の女	港の一隅	サイゴン(フロウアンズ)	サイファイアー	ゲートルグの造船場	ジョルジュ・ダイエ
死んだ女	グロワイヌ・グラシアノ	型	サイゴンの塔	聖ジョルジュオ寺(ヴェニス)	色面	モントリシャール漁夫	ジャック・デ
フレヴォのステ	グロワイヌ・グラシアノ	景色	工業地風景	ピエール・ポ	サセックスの荒野	屋根	ジャック・デ
現代幻想 一部	マルセロ・グ	黄色い月	静物	リック・ス	掘割の淵	ブランコの女	オスカー・ド
豚の群の中の死	ラスマン	景色	静物	ピンク・ス	緑の馬場	連作第六〇	フリッツ・グ
二つの像	リサ・ファイケル・ホフマン	庭の中の牧神	子供の顔	フランス・ス	金魚池のあるテラス	老練な射手	エドワード・
静物	リサ・ファイケル・ホフマン	網	桃色の寝室	アンリ・ト	エドワード朝の花	花	マルセル・グ
樹木の像	リサ・ファイケル・ホフマン	三人の像	麦 薬 菊	フェルナン・トウサン	メキシコの女	山上の雲	ロメル・グ
母と子	リサ・ファイケル・ホフマン	ガアッシュ	読みかけて睡る女	ジュル・ド・レ	寄りかかる女	寄りがかる女	ピエール・グ
ウオルター・リユーイ	ウオルター・リユーイ	侵入者	食肉鳥	ジャン・ヴァン・ローワ	裝飾用カード機	東部海岸	アスタラ
アルデミイ	アルデミイ	アラゴンの女	マラケッチュの中庭(モロッコ)	イギリス	天使を配せる静物	フラン	ハンズ・アル
ヨランダ・モ	ヨランダ・モ	静物	鏡の中の少女	イギリス	アトリエ	アルケイ	ツング
オランダ・モ	オランダ・モ	オステンド港	白の浮彫	鏡の中の少女	夏の夜	山の測定	グヤック・ラ
オランダ・モ	オランダ・モ	お土産	白の浮彫	白の浮彫	化粧する女	岩	グヤック・ラ
オランダ・モ	オランダ・モ	コンポジション	白の浮彫	白の浮彫	化粧する女	化粧する女	グヤック・ラ
オランダ・モ	オランダ・モ	コンポジション	白の浮彫	白の浮彫	化粧する女	化粧する女	グヤック・ラ

讀	背を向けたモロツコの女	黄色の臺所	冷水器	岩石の顛落	静物	小人のスペイン	漁船	ポーシヤ	ピアノストとクラリネット奏者	バスク風景	空間の眞夜中	青いコルサージュの女	母子像	公園で讀書する女	緑の椅子	鳥の飛行機	絵画	港の朝	一九五二年十一月三日
	アンドレ・ロート	ベルナル・ロルジュ	アンドレ・マルソン	マツドレ・モーリス・マゾ	アンドレ・ミノー	フランシス・モンタニエ	イヴォンヌ・モツテ	マルセル・ムーリイ	ローラン・ウドー	ジャン・ピオベール	パブロ・ピカソ	エドワール・ピニヨン	アンドレ・プランソン	ジャン・プーニイ	マリオ・プラシノス	ジュエラル・シユナイデル	ヴェ・サンジェ	ピエール・スーラージュ	

帽子の女	大きな母子像	絵画	ヴァルミイ	サルトの風景	ドイツ	ラ・ギアナツツ	異	ソロモンより	青い日傘	月の右手に	公園劇場	蜘蛛	一九五一年七月十一日	一九五〇年Z.	設営者	夜明け前	十一月のある午後	海邊の狂想曲	一九五二年Z.
コスタ・テッ	グロッド・ヴェナル	ジャック・ヴィヨン	ガブリエル・ザンデル	アンリ・ヴォルムセル	フランソワ・デノワイエ	ハインツ・バットケ	ヴィリ・パウマイスター	ヴァイリ・バウマイスター	マンフレット・ブルト	アレグザンダー・カマロ	エルゼ・ドリゼン	ヨアゼフ・ファスベンダー	ゲルハルト・フイーツ	ゲオルク・グレスコ	ヴェルナ・ヘルト	カル・ホー	フアー	ユーローク	

動く目標	雪の花	シヤイヨの狂女	黄色の着物を着た東洋の女	たゞよい	赤い塔のある風景	熱帯水族館	壁画	成層	逃亡者	大地の爆発	輪乗	オヴィエドの変形に寄せて	恋人同志	イタリア	小	船	サレンテイノ地方の風景	人物	季節の想像	宇宙の幻想
ゲオルク・マ	イルンスト・ム・ナイ	シユ	ペーター・シュエタイン	フォルト	ハインツ・トレーケス	テオ・ヴェルナー	ヴォテイー・ヴェルナー	フリッツ・ヴィンター	マック・ツイシマーアン	エンリコ・パウルツチ	ヴィンチエン	ド	ヴィンチエン	オ・ギニテ	エミリオ・ヴェ	エドヴァ				

硬化した解剖	水平の構図	ピザノの風景	絨毯の上の卵	牧夫	溪流の女	海浜の詩人	偶像	整形されれ蝶	あの時	鏡の女	船渠	お通夜	浴みする人と魚	海上の形像	田園	橄欖畑の小道	田園風景	ローマの郊外	政治	カフエ	デッサン
エンリコ・プランボリーニ	フランコ・ジエンテイリ	フエリーチ	エ・カソラー	ルイー・バルトリーニ	トリリーニ	バザルデル	ラ・アフロ	バザルデル	ラ・アフロ	ロレンツォ・ヴァイアーニ	フアウスト・ピランデルロ	アルツォロ	フランチェスコ・ペロツテ	コ・ペロツテ	フランチェスコ・ペロツテ	フランチェスコ・ペロツテ	コ・ペロツテ	ジュゼツベ	ヴィヴァ	ペアックレニ	

風景	農作物の女	地下水	サンタ・アニー	タ水郷	花の夫人	ツリス	水晶玉を抱いた娘	窓	踊	静	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘	娘
ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル	ラモン・アル	カナル

老人の踊り	スイス	モデルの休息	農婦	椅子とヴァイオリン	マスケットのある静物	ビールを給仕する女	自画像	果物	静物	ブルヴァール・デュ・フィロゾー	静物	冬の朝	オリーブの春	クリスマスの静物	夏の風景	三人姉妹	夜の櫛	林檎	葡萄酒の生命	静物	風景	ひまわりと果物	腐った切り西瓜					
ラモン・アルパ・デ・ラ・カナル	モリス・バルロー	ボジョール	エミール・シャンボン	マックス・グブラー	ルネ・ギナン	ジャン・ラト	ユージエ・ス・マルタン	ポール・マテ	フリッツ・パ	マルセル・ボ	ハンス・ウル	リッヒ・ザ	ス	ウイリー・ズ														
市内の祭り	村の中	モデルの休息	北海の魚	皮をはがれた兎	死んだ鵠	日本	赤茶碗	馬のあし	老画家とモデル	開墾	異教徒	農山	伊豆海	熱い子	かぶす	タンゴの町	花園の団欒	粧える女	和(屏風)	自然(版画)	森原	リンゴ畑	白いレース	高麗	滝			
エルベール・トウリヤ	アドリヤン・オリーイ	ジャン・フラ	グム	伊東深水	伊藤繼郎	井上長三郎	井上三綱	糸園和三郎	猪熊滋彦	石川	岩崎	長谷川三郎	原勝郎	浜口陽三	堀部正一郎	堀文子												
パレリーナ	飯倉の坂	飯倉風景	鳥に話す脇田	鳥の少年	二人の少年	保線工	キリコを作る人	日傘と人	胸中の地図	ペンキ職人	電車の中の手	魚のある静物	チューリップ	管絃	婦人の週間	作品	裸婦	朱鷺(と)	冬の阿蘇山	静物	雪原	雪山	北辺の牧場	阿寒の秋	スペインの女	枯美	温泉残雪	車
東郷青児	鳥海青児	脇田和	渡辺武夫	川端實	川口軌外	川上澄生	香月泰男	加山四郎	川西英	桂ユキ子	吉原治良	吉岡憲	吉岡堅二	田崎廣助	田村一男	田邊三重松	田村孝之介	田中佐一郎	高田誠	高橋忠彌								
影	炭鉱(地下建造)	夕蝶	三つの道路とサ	三角くじを喰べる男達	三日月	港街	夜鹿	男鹿の半島	男鹿の小浜	婦人	月と静物	我家も見える村	奇蹟の花の記念	暮色	海芋	厨房	赤良の春	奈良の春	板絵「欣喜の曲」	子供と青衣の母	静物	坐像	春蘭	立鐘	天地鐘	朱の風景	青の静物	
高橋忠彌	多賀谷伊徳	鷹山宇一	玉置正敏	曾宮一念	鶴岡政男	中村善策	中村琢二	中山巍	中川紀元	仲田好江	中谷泰	南城一夫	鍋井克之	棟方志功	村岡平蔵	村岡平蔵	向井久吉	向井久吉	梅原龍三郎	宇治山哲平								
花曇	沢巖	七人の美女	風景(丘にて)	長崎大浦天主堂	夏物	静物	夏像	群像	礼拝堂	漁人	野に立つ少女	タンクの見える風景	ガード風景	煙突の見える丘	あかさびた風景	抒情 No. 2	花と果物	机上の静物	裸婦	室内	山口湖畔平野村	鳩小舎	水盤のある風景	桜雨	梅雨	卵、女、折れ釘、	マツチ、板	
牛島憲之	上村松篁	野間仁根	野村守夫	納富進	奥村厚一	奥村土牛	織田廣喜	阿鹿之助	大澤昌助	大田忠	大野五郎	恩地幸四郎	小川マリ	小野末	荻太郎	熊谷守一	久保守	栗原信	桑田道夫									

ビエタ 黒田頼綱
 銀化せる鯛 安井曾太郎
 樹下の人々 山本正
 窓辺 山口薫
 季節の哀歎(田雨と鳥) 山口薫
 ダム・エリザベットの戴冠 山口薫
 月光の島 山本丘人
 静物 山口華楊
 作品 A 山口長男
 B 山本敬輔
 モニュマン 山本敬輔
 太の夕陽 山本敬輔
 雪の夕暮 松島正人
 冬近き山 松島正人
 流水の河 眞下慶治
 大荆街 古澤岩美
 人 藤田剛治
 日 藤田剛治
 海 小林和作
 高原 小林和作
 春 小糸源太郎
 農 小磯良平
 花・シグナル 小牧源太郎
 風 小牧源太郎
 裸像 小泉清
 像 小泉清
 入浴 小松均
 夕焼 小松均
 デコちゃん 高野三三男
 A 嬢 高野三三男
 Radio activity in my room 駒井哲郎
 エチノード 駒井哲郎
 泰山木と壺 古茂田守介

パレットや壺な 古茂田守介
 漁夫 小出卓二
 少女と月 小山田二郎
 影を追う女 小松義雄
 人 寺田竹雄
 愛人 麻生三郎
 母子 麻生三郎
 座 阿部展也
 顔 阿部展也
 ガラス台鉢 朝井開右衛門
 五月の花 朝井開右衛門
 飛んでゐる 荒井龍男
 叫ぶ 荒井龍男
 五つ月 秋野不矩
 勤らく人(清掃) 朝倉攝
 夫 朝倉攝
 千倉 齋藤長三
 白間津 齋藤長三
 埴輪 齋藤清
 無我 齋藤清
 ピエロ 佐野繁次郎
 花 佐野繁次郎
 裸婦 佐田勝
 青衣 佐田勝
 水より上る馬 坂本繁二郎
 四月の高原 坂本繁二郎
 岩井浜 酒井亞人
 門 酒井亞人
 高原風景 里見勝藏
 佛画 里見勝藏
 三河花祭の鬼 北川民次

高遠風景 木下義謙
 夕洋館風景 木村莊八
 西洋館風景 宮本三郎
 聖者の門 宮本三郎
 婦人座像 三雲祥之助
 春泥 三雲祥之助
 ランプのある静物A 三岸節子
 造船 三岸節子
 ストープ掃除 島岡實
 水辺に咲く 東山魁夷
 おながきじ 稗田一穂
 母 稗田一穂
 並木 廣田多津
 家 廣田多津
 庭舎 日向裕
 裸婦 森芳雄
 女 森芳雄
 赤松 森芳雄
 婦人 森田元子
 市の人々 森田元子
 野の人々 森田元子
 常緑樹の冬 鈴木保徳
 山峡 鈴木保徳
 晩春 鈴木信太郎
 牡丹 鈴木信太郎
 動物園 須田國太郎
 静物 須田國太郎
 卓上静物 須田國太郎
 立秋(ハイデルベルク) 菅野圭哉
 雪景(葦王) 菅野圭哉
 作品 10 須田剋太

作品 11 須田剋太
 吹杉本健吉
 対話 杉全直
 作品 A 末松正樹
 B 末松正樹
 7回旺支会展 20-6月2日 東京美術館
 [受賞]
 旺支会賞-石原政之
 牧野賞-寺田脩三
 奨励賞-関喜一、前根松太郎
 委員出品目録
 冥想 堀田清治
 空嘘 堀田清治
 L子 高野真美
 春像 高野真美
 窓の外 高野真美
 緑のポト 遠山純一
 赤のポト 遠山純一
 幻燈機のある静物 阪井谷松太郎
 朝の庭 高間惣七
 花とホロホロ鳥 高間惣七
 春の庭 高間惣七
 静物 佐藤文雄
 貝殻の静物 佐藤文雄
 卓上 佐藤文雄
 童子 田辺嘉重
 女の神様 田辺嘉重
 春霞鳳凰山 大久保作次郎
 小斎 大久保作次郎
 野菜 田沢八甲
 真鶴風景 田沢八甲

つよぶつ 小林猶治郎
 しよぶつ 小林猶治郎
 せいぶつ 小林猶治郎
 おつか 吉村吉松
 門 吉村吉松
 磯原風景 鈴木金平
 夕の磯 鈴木金平
 燻製 鈴木金平
 花の島 梅野順三
 江の島 梅野順三
 乗鞍 梅野順三
 外堀の春 皆見鷗三
 明雨 皆見鷗三
 女 青山囊
 姉妹 A 近藤せい子
 姉妹 B 近藤せい子
 母 近藤せい子
 ひと 近藤せい子
 十字架を負ふ人 近藤せい子
 絵を描く人 近藤せい子
 新緑の庭 小林喜代吉
 芥子 小林喜代吉
 早春 小林喜代吉
 北大路魯山人絵画展 21-23
 日本橋・高島屋
 齋藤眞成個展 21-25 大阪・梅田画廊 [批]美術批評7月
 梅田画廊 [批]美術批評7月
 村尾絢子個展 21-25 大阪・梅田画廊 [批]美術批評7月
 (杉本龜久雄)
 小野里利信個展 21-31 タケミヤ [批]美術批評7月(植)

村鷹千代) 長井雲坪名作展 22—28 上野
 ・松坂屋(批)産経30(横川毅一郎)、時事27
 東原方徳風景画展 22—24 岡山・金剛荘
 橋本三郎個展 23—28 フォルム
 茶の湯釜展 23—6月7 鎌倉
 ・近代美術館
 東洋石仏展・ユーラシア青銅美術展 23—6月21 大阪市立美術館
 春の青龍展 23—28 大阪・三越
 高芙蓉遺作展 23 京都・一心院
 朝井清版画個展 24—30 サエグサ
 近世南画展 24—6月14 神戸
 ・白鶴美術館
 山本丘人素描展 25—27 弥生画廊
 西洋古美術工藝品展(スヘイン) 25—29 資生堂
 宮原明良日本画個展 25—30 日本橋・丸善
 開国百年記念江戸絵展 25—6月15 滋賀県立産業文化館
 18回清光会展 25—28 京都・土橋画廊
 4回彩尚会展 26—29 壺中居
 奥村厚一日本画展 26—31 日本橋・三越

美術展覧会(6月)

川端龍子新作「水に因める」十題展 26—31 大阪・高島屋
 山本正個展 26—30 大阪・梅田画廊
 石井元個展 26—31 大阪・大丸
 児玉幸雄個展 26—31 大阪・阪急
 竹杖会小品展 26—31 京都・大丸
 大森明悦近作展 27—30 中央公論社画廊
 手工藝展 27—6月10 東京都美術館
 五月会展 27—31 日本橋・高島屋
 東光会展 28—6月5 大阪市立美術館
 叶敏陶器個展 28—6月1 京都府ギャラリー
 瀧川太朗俳画展 29—31 上野・松坂屋
 圭成会美術展 29—6月2 日本橋・白木屋
 3回京都市藝作家展 29—6月3 銀座・松坂屋
 2回東西大家日本画新作展 29—6月15 大阪・そごう
 ホウル・デキヤルブ個展 30—6月4 フォルム(批)美術批評7月(福島辰夫)
 13回美術文化協会展 30—6月7 京都市美術館
 京洛陶藝展 30—6月4 大阪・

三越

独立美術京都市作家展 30—6月7 京都市美術館

六月

柏原覺太郎個展 1—4 資生堂
 久本弘一個展 1—5 光風会館
 春蘭桃紅書作二人展 1—6 中央公論社画廊
 3回一九五〇年協会展 1—6 日本橋・丸善
 染織展 1—10 東京都美術館
 [批]産経6月3
 浮世絵展 1—11月25 箱根美術館
 ロージェ・ヴァン・エック新作展 1—10 日仏会館
 藝術文化展 1—6 日比谷画廊
 齋藤博之個展 1—10 タケミヤ
 3回槐風会日本画展 2—6 サエグサ [批]産経13
 日高昌克・川喜田半泥子水墨画と茶盤展 2—6 壺中居
 [批]産経13、美術批評7月(藤本韶三)
 薰風会展 2—7 日本橋・三越 [批]サン6(金子義雄)、産経13
 岩田藤七ガラスの会 2—7 京都・高島屋
 2回罍罍展 2—7 京都・大

丸

香月泰男デッサン展 2—7 大阪・阪急
 松田忠一油絵展 2—7 大阪・大丸
 佐原公明水彩個展 2—7 大阪・阪急
 岩田藤七・小原豊雲「ガラスと花」二人展 2—7 大阪・高島屋
 7回アンデパンタン女流画家協会 3—16 東京都美術館
 [受賞]
 女流画家協会賞—入江一子
 産業経済新聞社賞—月館れい
 日本航空賞—小川マリ
 M夫人賞—神谷信子
 船岡賞—中谷ユキ
 [批]
 産経9
 時事10
 東京10(岡本謙次郎)
 朝日夕刊11(植村鷹千代) 毎日14
 美術批評7月(船戸洪) きぬた会染色作品展 3—7 日本橋・高島屋
 6回清流会展 3—6 兼素堂 [批]サン6(金子義雄)、産経13
 藝術文化展 3—6 日比谷画廊
 大津美術研究会展 3—8 京都・丸善

菁莪会展 4—9 京都府ギャラリー

尾野敏郎・船木道忠展 4—10 京都・やまと民藝店
 5回鳥会展 4—10 大阪・丸善美術
 明星会日本画展 5—10 日本橋・白木屋 [批]産経13
 19回根津美術館定期展 5—8 根津美術館
 古今扇面名作展 6—11 銀座・松屋
 春季美術展(茶器) 6—7 長尾美術館
 山崎外郷油絵展 6—21 有楽町・山紫クラブ
 木内克個展 6—11 フォルム
 [批]美術批評7月(大久保泰) やすらい会漆藝展 6—7 京都・宮崎
 日本竹藝協会新作発表展 6—11 大阪・三越
 7回文人連盟展 6—7 京都市美術館
 佐藤泰治個展 8—13 日本橋・丸善 [批]産経13
 梅原龍三郎近作展 8—13 弥生画廊
 [批]
 朝日夕刊10(河北倫明)
 東京11(岡本謙次郎)
 産経13
 美術批評7月(柳亮)
 龜倉雄策グラフィック・デザイ

- ン展 8-13 中央公論社画廊 [批・記]美術批評7月(植村鷹千代)、工藝ニュース8月 岡本唐貴個展 8-12 大阪・梅田画廊
- スケッチ小品展 8-15 京都・藝艸堂
- 北斗会展 9-14 上野・松坂屋 [批]産経24(横川毅一郎)
- 欧米商業美術展 9-14 新宿・三越
- [批] 東京タイムズ11(勝見勝) 東京13(原弘) 露麗社展 9-21 東京都美術館
- 2回伊東深水清美会絵と華の会 9-14 日本橋・三越
- 欧米ホスタ1展 9-14 新宿・三越
- 8回新匠会新作工藝展 9-14 大阪・高島屋
- 1回九燭会展 9-14 大阪・大丸
- 2回西欧古美術展 9-14 大阪・阪急
- 2回一新会展 9-14 京都・大丸
- 佃勇隆個展 9-13 サエグサ井深微写真作品展 10-13 資生堂
- 阿部天陽個展 10-14 日本橋・高島屋
- 日本水彩展 10-21 東京都美

- 術館 木村一郎陶藝展 10-20 銀座・安藤七宝店
- 広田剛郎個展 10-24 神戸・草土舎
- 糸園・中條・多賀谷三人展 10-14 佐世保・親和銀水ホール
- 野口彌太郎個展 11-17 東京画廊 [批]
- 産経24(横川毅一郎) 毎日13 美術批評7月(大久保泰) 武蔵野風景洋画展 11-20 池袋・西武
- 北代省三個展 11-20 タケミヤ [批]美術批評7月(植村鷹千代)
- 9回現代美術展 12-22 東京都美術館
- 高原会日本画展 12-17 銀座・松坂屋
- 1回木工藝展 12-14 京都・宮崎
- 六青会油絵展 13-17 日本橋・白木屋
- 近藤浩一路水墨三十周年回顧展 13-21 日本橋・三越
- [批] 読売19(鈴木進) 東京20(河北倫明) 産経24(横川毅一郎)
- 4回東大教養学部美術展(鐵齋外) 13-14 東大教養学部

- 12回春泥展 13-18 大阪・三越
- 1回薫風会展 13-18 大阪・三越
- コノスケ・星崎二五年滯仏作品展 13-18 大阪・松坂屋
- 南寛個展 13-18 フォルム
- 6回日本美術協会展 14-18 京都・丸物
- 一九五三年(3回)日本宣伝美術会展 14-20 銀座・松坂屋
- [受賞] 日本宣伝美術会展—宇留川泰特選—大塚享、青木まこと、増田正、山名ありせ、深澤邦郎、関井陸明ほか三名共同作品、中村誠、出牛實、村越襄
- 奨励賞—渡邊優、紫田猷一、奥野玲子、清水和久、高田一郎、奥野潤一、佐々木隆、宇田川清一、本田入郎、魚成祥一郎、堀正員、村田道紀、松本次郎、齋藤隆男、伊藤純、豊島孝
- [批] 毎日18 産経24(横川毅一郎) 美術批評7月(深水正策) 工藝ニュース8月(勝見勝)
- 小山良修水彩展 15-18 資生堂 [批] 美術批評7月(寺田千繁)

- 岸田劉生小品展 15-23 中央公論社画廊 [批]
- 東京17(岡本謙次郎) 朝日21(河北倫明) 江川平三大阪風景小品展 15-20 大阪・梅田画廊
- 諸作家素描・淡彩展 15-20 大阪・梅田画廊
- 千葉かつお個展 16-20 サエグサ [批]美術批評7月(三雲祥之助)
- 松島画舫日本画展 16-20 日本橋・丸善
- 1回石門会展 16-21 上野・松坂屋
- レオナルド・ダ・ヴィンチ ネスコ世界巡回展 16-21 日本橋・三越 [記]毎日17
- 磯部草丘個展 16-21 日本橋・三越
- 宮之原謙新作陶展 16-21 日本橋・三越
- 美術工藝連合展 16-21 日本橋・三越
- 飛鳥・奈良時代染織展 16-28 根津美術館
- 富竹会陶藝展 16-21 日本橋・三越
- 19回東光会展 16-21 岡山・天満屋
- 中国古美術展 16-21 大阪・阪急
- 福富雷童個展 16-21 大阪・

- 大丸 4回新樹会染織作品展 16-18 京都・宮崎
- 1回九燭会展 16-21 京都・大丸
- 春の青龍展 16-21 神戸・大丸
- 松本富太郎個展 17-21 日本橋・高島屋
- 7回鳳会展 17-21 日動画廊
- 奥多摩美術家展 17-21 銀座・松屋
- 太田喜二郎遺作展 17-21 大阪・高島屋
- 3回新興美術院展 18-29 京都美術館 [批]
- 産経24(横川毅一郎) 産経26 朝日27(河北倫明) 東京28(野間清六) 東京タイムズ29
- 現代大家洋画鑑賞展 18-19 大阪市庁内
- 京都美術研究科作品展 18-22 京都府ギャラリー
- 広田剛郎油絵展 18-24 草土舎画廊
- 森治樹・安藤一甫二人展 19-23 資生堂
- 2回日本国際美術展 19-30 大阪・そごう
- 土牛、壺、丘人小品素描三人展 20-24 日本橋・白木屋

内藤健一個展 20—25 フォルム

上口愚朗茶碗展 20—24 黒田陶苑〔批〕日本美術工藝8月(館林唐一郎)

日本古陶磁展 20—8月9日 鎌倉・近代美術館

段々社金工展 20—26 和光

新作洋画展 20—25 池袋・西武

亀倉雄策グラフィックデザイン展 20—7月10日 鎌倉・近代美術館

2回現代日本陶藝展 20—28 大阪・松坂屋〔批〕日本美術工藝9月(内藤匡)

7回墨心会日本画展 20—25 大阪・松坂屋

6回日本美術協会展 20—25 大阪・三越

奥村厚一日本画展 20—25 日本橋・三越

名鞍特別陳列 20—7月31日 東京国立博物館

榎戸庄衛画展 21—30 タケミヤ〔批〕美術批評8月(植村鷹千代)

ニッポン美術展 22—7月 4 東京都美術館〔批〕産経30

坂本善三画展 22—27 日本橋・丸善

サロンド・ウエスト・パンチュール 22—27 大阪・フジカワ画廊

青山義雄潘仏作展 22—26 大阪・梅田画廊

中川タマヲ画展 23—27 サエグサ〔批〕美術批評8月(村井正誠)

棟方志功版画展 23—28 上野・松坂屋

彩光会日本画展 23—28 日本橋・三越

信濃美術展 23—28 日本橋・三越

佐伯祐三、三澤好太郎油絵展 23—7月2日 兜屋

スバル会展 23—28 大分・トキワ画廊

高橋勝雄山の油絵展 23—28 大阪・阪急

2回大美会日本画展 23—28 大阪・大丸

小泉清油絵小品展と小泉八雲を偲ぶ遺品陳列 23—28 大阪・阪急

坂口一草新作画展 23—28 大阪・高島屋

農島会展 23—28 京都・大丸

2回現代工藝展 24—28 日本橋・高島屋〔批〕産経30

中川一政新作花十題展 24—27 兼素堂

東京26(岡本謙次郎)朝日27(河北倫明)産経30

キイス・インゲルマン画展 24 24

中央公論社画廊〔批〕毎日27、美術批評8月(徳大寺公英)

薔薇会日本画展 24—28 銀座・松屋〔批〕産経30

4回権会展 24—30 資生堂

東京26(岡本謙次郎)毎日28

美術批評8月(今泉篤男)5回自主連立展 24—7月4日 東京都美術館

2回二葉会展 25—28 黒田陶苑

杉全直画展 25—30 高円寺・ドミノ

2回勤草会展 25—7月1日 京都府ギャラリー

川島理一郎画展 26—28 岡山・金剛荘

伊東翁壺・同奎作陶展 26—7月2日 銀座・松坂屋

古美術展 27—7月12日 高岡市美術館

大阪美術工藝展 27—7月2日 大阪・三越

2回碧草会日本画展 27—7月2日 大阪・松坂屋

3回工藝洋和会展 27—7月8日 和光

近代彫塑展 27—8月23日 国立近代美術館

産経30

東京7月13(清水多嘉示)毎日7月4日

朝日28、29、30、7月1、3、4、5、6、7、8、10、11、12、13、14、15、17、18

一水会委員小品展 29—7月4日 大阪・美交社

田中修洋画個展 30—7月4日 日本橋・丸善

灰野文一郎作品展 30—7月4日 サエグサ

6回彩交会日本画展 30—7月5日 日本橋・三越

4(金子義雄)、時事6 連袖会一五周年展 30—7月5日 日本橋・三越

鱧利彦画展 30—7月5日 上野・松坂屋

22回朔日会展 30—7月12日 東京都美術館

独立美術会員小品展 30—7月5日 大阪・大丸

5 国画会全員作品展 30—7月5日 大阪・高島屋

大谷房吉油絵個展 30—7月5日 大阪・阪急

1回サンクルーフ展 30—7月5日 大阪・阪急

7月

3回渡邊辰之助洋画展 1—4 資生堂

3回美術館友の会展 1—5 池袋・西武

10回明治会展 1—5 日動画廊

尚美展 1—4 壺中居

伊藤陽康画展 1—5 日本橋・高島屋

香取秀真喜寿記念展 1—7 中央公論社画廊

名井万亀画展 1—10 タケミヤ〔批〕時事9、美術批評8月(植村鷹千代)

新制作協会東京日本画部研究会展 1—5 銀座・松屋

川口軌外絵画展 1—7 大阪・梅田画廊

全国新製品展示会 1—11 銀座・全国物産館〔記〕工藝ニ

ユース9月

創型会彫刻研究所展 2—9 東京都美術館

鳥海青児作品展 2—7 京都府ギャラリー

清水六兵衛作陶展 3—9 銀座・松坂屋

2回街頭美術展 3—5 池袋東口広場

普門咲画展 3—10 藪田美術店ギャラリー

高間惣七画展 4—8 兜屋

〔批〕サン7

小川芋銭遺作展・風流河童会展 4—10 日本橋・白木屋

国焼茶碗展 4—19 根津美術館

至潮社小品新作展 4-9 大

阪・三越

北斗会展 4-9 大阪・松坂

屋

創風会日本画展 4-9 京

都・丸物

49回太平洋画会展 5-17 東

京都美術館

古澤岩美個展 5-31 高田

寺・ドミノ

武者小路実篤近作展 5-14

京都・すいれん

長谷川潔創作版画展 6-11

サエグサ

謙次郎、毎日9

ゴッホ複製画展・海外印刷美術

展 6-7 西銀座・映画世

界社

古家新油絵展 6-11 大阪・

丸善美術

米澤蘇峰作陶展 7-12 日本

橋・三越

1回我妻碧宇個展 7-11 日

本橋・丸善

広本森雄個展 7-11 日本

橋・丸善

(植村鷹千代)

龍土会展 7-12 上野・松坂

屋

福友会展 7-12 銀座・松屋

梅原龍三郎近作展 7-12 大

阪・阪急

現代大家新作日本画展 7-12

大阪・大丸

荻野康児水彩画個展 7-12

大阪・高島屋

3回洋和会展 7-15 和光

(記)工藝ニュース9月

複製による素描水彩小品展 8

14 中央公論社画廊

日本クレヨン画会展 8-12

銀座・松屋

鳥取木工展 8-15 たくみ

東華会絵画展 8-12 東洋美

術館

多賀谷伊徳作品展 8-17 大

牟田・松屋

比美洋画展 8-12 武生市公

会堂

38回クラマ画会展 8-13 日

本橋・丸善

3回四階美術展 9-13 京都

府ギャラリー

段々社展 9-16 和光 (記)

工藝ニュース9月

小川原修個展 10-14 資生堂

(批)時事12、産経31、美術批

評8月(四宮潤一)

沼田一郎ガラス絵個展 10-15

鎌倉・松林堂画廊

島村洋二郎個展 10-20 新

宿・ヴェルテル

5回関西独立展 10-16 大阪

市立美術館

水害救援くらぶ・ほんびる絵画

展 10-15 大阪・そごう

サロン・ド・ジュワン展 11-

15 日本橋・白木屋 (批)産

経31、美術批評8月(浦口修

造)、みづゑ9月

新世代展 11-20 タケミヤ

(批)美術批評9月(村井正誠)

6回彩文会日本画展 11-16

大阪・三越

現代大家日本風物十二ヶ月版画

展 11-16 大阪・松坂屋

1回飯田善国個展 13-18 日

本橋・丸善 (批)産経31、美

術批評8月(大久保泰)

4回画人展 13-24 東京都美

術館

瀬戸陶藝展 13-19 日本橋・

三越

3回祇園会展 13-19 京都・

土橋画廊

2回弥生会展 14-18 弥生画

廊

中谷龍一個展 14-18 サエグ

サ

独立美術会員展 14-19 日本

橋・三越

(批)

東京17(久富貢)

産経31

美術批評8月(瀬木慎一)

2回新日本工業デザイン展 14

19 日本橋・三越 (記)工

藝ニュース9月

工彩会工藝展 14-19 日本

橋・高島屋

遠藤了敏・中野うめよ洋画展

14-19 上野・松坂屋 (批)

産経31

古渡リギヤマン展 14-19 大

阪・阪急

足立源一郎油絵展 14-19 大

阪・阪急

家永驥三郎近作展 14-19 大

阪・大丸

全国工藝名匠展 14-19 大

阪・高島屋

鈴木木三「海と花」小品展 15-

21 中央公論社画廊

2回ビエナール美術展出品作国

内展 15-21 銀座・松屋

鳥海青児作品展 15-19 大

阪・梅田画廊

東三在野美術家連盟展 15-20

豊橋・浦柴屋画廊

5回京都陶藝家クラブ作陶展

15-19 京都府ギャラリー

小椋昭三・猪俣和子二人展

15-20 京都・丸善

1回青々会竹工展 17-26 安

藤七宝店

麻生豊銀座復興絵巻展 17-22

銀座・松坂屋 (批)産経21

(横川毅一郎)

鎌倉国宝展 18-8月9日

本橋・三越

宮澤賢治遺墨展 18-25 上

野・松坂屋

3回関西自由美術展 18-26

大阪市立美術館

内堀勉油絵新作展 18-23 大

阪・三越

若狭物外個人展 18-23 大

阪・松坂屋

7回職場美術展 19-31 東京

都美術館

佐藤美代子個展 20-23 資生

堂 (批)産経31

青井辰雄個展 21-25 サエグ

サ (批)美術批評8月(山口

薫)

自由美術七月展 21-26 日本

橋・三越

(批)

東京24(岡本謙次郎)

産経31

美術批評9月(針生一郎)

恵爾会日本画展 21-26 日本

橋・三越 (批)産経30

クレアシオン洋画展 21-26

上野・松坂屋 (批)産経31

美術批評9月(村井正誠)

2回金曜会展 21-31 タケミ

ヤ (批)産経31

5回加藤溪山翁新作陶磁展 21

1-26 大阪・高島屋

奥田郁太郎色紙展 21-26 大

阪・阪急

民藝新生活展 21-26 大阪・

阪急

玄々社金工展 21-26 大阪・

大丸

2回日本彫金会関西展 21-26

京都・大丸

福永晴帆個展 22-26 日本橋

・高島屋

萬鐵五郎小品展 22—29 中央
公論社画廊

〔批〕

東京28(岡本謙次郎)

朝日28(河北倫明)

毎日29

サン30(金子義雄)

美術文化協会展 23—30 岩国
商業高校

五一年協会展 24—30 松島画
廊

一九五三年日本宣伝美術会展
24—29 大阪・そごう

四国風物油絵展(国画会々員)
25—29 日本橋・白木屋

歌—吉井勇、版—棟方志功流離
抄版画展 25—31 大阪・松
坂屋

山田皓齋新作日本画展 25—30
大阪・三越

白鶴美術館夏期展覧会—天目と
堆朱の觀賞、大谷房吉油絵自
選展 25—8月23 神戸・白
鶴美術館

日本画東西大家展 29—30 岡
山・金剛荘

勝田哲写生展 26—8月1 京
都府ギャラーリ

永原織治日本画個展 27—29
日本橋・丸善

石川滋彦新作風景展 27—31
大阪・梅田画廊

一回日本水彩画会大阪展 27—
31 大阪市立美術館

中谷龍一個展 27—29 大阪・
美交社

東葉会余技展 28—8月2 日
本橋・三越

大家八州男個展 28—8月1
サエグサ〔批〕美術批評9月
(鶴岡政男)

浦崎永錫個展 28—8月2 上
野・松坂屋

姉崎蠟油絵展 28—8月2 大
阪・阪急

佐藤大寛個展 28—8月2 大
阪・高島屋

日本美術家連盟関西支部水害救
援扇子・うちわ揮毫即売会
28—8月2 大阪・大丸

独立美術十二人展 28—8月2
京都・大丸

加藤八洲男近作展 28—8月6
京都・すいれん

モダンアートグループ展 29—
31 資生堂〔批〕美術批評9
月(針生一郎)

繪更紗東京展 29—8月2 日
本橋・高島屋

川邊雅明個展 31—8月2 大
分・トキワ

一回緑雨会展 31—8月5 大
阪・そごう

八月 月
明治・大正・昭和名作下絵展
1—16 銀座・松屋
〔批・記〕

サン5
朝日1、2(河北倫明)

3、4(脇本樂之軒)

5、7、8(河北倫明)

9、10(北川桃雄)

10、12(田中一松)

毎日11
以白会展 1—10 銀座・松坂
屋

苦味会工藝展 1—7 岡山・
金剛荘

佐藤眞一個展 1—10 タケミ
ヤ

新商業美術展 1—6 資生堂

川端龍子色紙12ヶ月巧藝画集
1—15 大阪・三越

松井繁個展 1—15 大阪・ド
ガ

3回京都工藝美術作家協会総合
展 1—10 大阪・松坂屋

長谷川利行遺作展 1—25 市

立神戸美術館

兵庫県美術工藝展 1—25 市

立神戸美術館

田中佐一郎油絵個展 4—8

日本橋・丸善

7回新樹会展 4—9 日本
橋・三越

朝日8(富永惣一)

産経19(横川毅一郎)

美術批評9月(柳亮)

出品目録

彫 刻

○ 招待 辻 晋 堂

氏(フロンズ・首)

光 木 氏(シ)

吉 川 氏(シ)

○ 会員 山本豊市

エチユード(乾 漆)

座 像(石 膏)

小 鳥(フロンズ)

ト ル ス(テラコッタ)

裸 婦(フロンズ)

両手をつく(テラコッタ)

そり返る(石 膏)

横 わる(テラコッタ)

ら ずくまる(シ)

ト ル ス(シ)

裸 婦 座 像(シ)

手 を 上 る(シ)

足 を 曲 る(シ)

○ 会員 清水多嘉示

裸 婦 A(フロンズ)

シ B(シ)

山羊小屋
あいびき(石燈籠)

山 羊 女

少 女

あ み も の

馬

ねたり起きたり

○ 招待 小川原脩

隼と仔馬 A

馬 B

泉 坑

○ 招待 山本蘭村

都 心 風 景

屋 上 風 景

地 下 鉄 道 風 景

地 袋 風 景

風 景 A

シ B

○ 招待 広本森雄

落 陽 物

静 物

防波堤のある海(淡彩)

スポーツライト

ふ く ろ

いなすまのある海

女

失楽園(淡彩)

鉄扉のコレクション

願 望

ガ ー ド 下

一〇五

〔記〕毎日々刊25(高司信輔)
18回デッサン社展 13—15 サ
エグサ

秋山良太郎個展 14—18 資生
堂

鉄斎名作展 14—23 日本橋・
高島屋

〔批・記〕
美術批評10月(今泉篤男)
読光14(鈴木進)

サン20(金子義雄)

19回東光会展 14—19 徳島・
栄屋デパート

中西利雄遺作展 14—26 大
阪・そごう

八汐会日本画展 15—18 上
野・松坂屋

現代オランダ版画展 15—9月
30 鎌倉・近代美術館〔批〕

美術手帖10月(益田義信)

勝田哲素描展 15—20 大阪・
松坂屋

富田漢仙回顧展 15—18 京都
・土橋画廊

1回真島健三洋画個展 17—22
日本橋・丸善〔批〕美術批評

9月(瀬木慎一)
連袖会一五周年展 17—24 大
阪・三越

2回新工業デザイン展 17—27
大阪・三越

木内岬、木内広、西田、小貴作
品展 18—22 サエグサ
カトリック美術展 18—23 日

本橋・三越

7回紅土会展 18—23 日本
橋・三越〔批〕産経31

新国宝写真展 18—23 日本
橋・三越

フランス、イタリヤ建築美術写真
展 18—23 日本橋・白木屋

一線美術近作展 18—23 銀
座・松屋〔批〕産経31

春信版画展 18—25 日本橋・
白木屋

島田洗耳日本画展 18—23 銀
座・松屋〔批〕サン24(金子
義雄)

1回龍土会展 18—23 京都・
大丸

小出橋重ガラス絵並にデッサン
展 18—23 大阪・阪急

柳瀬俊雄作品展 19—22 資生
堂

米良道博油絵個展 19—23 日
本橋・高島屋〔批〕産経21

西村伊作陶器展 19—23 日本
橋・高島屋

2回京都商業デザイン協会展
19—23 京都府ギヤラリー・
朱明会日本画展 19—21 京
都・土橋画廊

白峰会展 20—25 上野・松坂
屋

フレッド・クライン個展 20—
24 日動画廊

浮世絵展 20—26 池袋・西武
三岸黄太郎個展 21—25 兜屋

〔批〕美術批評9月(森芳雄)

明治初期洋画展 21—29 中央
公論社画廊

内藤道廣個展 21—31 タケミ
ヤ〔批〕美術批評9月(井上
長三郎)

村野深秋新作展 21—24 松島
ギヤラリー〔批〕産経22

旧皇居襷絵小下図展 21—27
銀座・松屋

平和のための美術展 22—26
郡山市公会堂

飯田実雄個展 24—27 資生堂
〔批〕美術批評9月(瀬木慎一)

小西安夫個展 25—29 サエグ
サ

フオール展 25—29 日本橋・
丸善〔批〕産経31、美術批評

10月(桂川寛)

五島正珉金彫展 25—30 京
都・大丸

小出三郎個展 25—30 大阪・
大丸

3回砂丘俳画展 25—30 大
阪・阪急

独立十人の会展 26—30 日本
橋・高島屋〔批〕産経31

矢野茫土日本画展 26—30
上野・松坂屋〔批〕美術批評

10月(藤本詔三)

新世紀群野外展 27—30 大
分・若草公園
彩潮展 28—9月3 銀座・松
屋〔批〕産経31

新しい紙の造形作品展 28—9
月2 日本橋・白木屋

現代写真展 29—10月4 国立
近代美術館

〔批・記〕
毎日9月11(田中雅夫)

朝日26、28、29、30、31、9
月1(伊奈信男)

9月2、4、5、6、
7、8(金丸重嶺)

サン9月5、6(田中雅夫)

東京9月29(土門拳)

毎日10月2

日宣美公募展 29—9月3 神
戸・三越

九 月
38回二科展 1—19 東京都美
術館

〔受賞・新会員・新会友〕
二科賞

▽絵画—西村千太郎

▽特待
▽絵画—近藤長三郎、月館れ
い、天野三郎、原田直康、
鈴木幸雄

▽影塑—藤川東一郎、野口嘉
光、權藤武政

新人賞
▽絵画—中井勝郎

▽影塑—戸井啓

▽絵画—寺田竹雄、高岡徳太
郎

▽影塑—野水信、乗松巖、笠
置季男

新会員

▽影塑—廣瀬不可止

新会友

▽絵画—沼田哲郎、金原昌
平、高賢三、石橋宏一郎、
伊賀勇高、戸川串田、森田
信夫

▽影塑—平川正道

〔批・記〕

朝日4(植村鷹千代)

6(千澤植治)

産経6(柳亮)

朝日7(勝見勝、伊奈信男)

日経7(福島繁太郎)

読光7(瀧口修造)

時事8

産経8(柳亮)

東京8(岡本謙次郎)

毎日9(土方定一)

サン23(金子義雄)

東京日々10月13
東京8月22
毎日8月26

産経4(大久保泰)
7(シ)
10(シ)
時事9(東郷青児)
朝日夕刊10(六浦光雄)
毎日11
美術手帖10月

みづる10月(植村鷹千代)

出品目録

・印会員、△印会友

(絵画)

作品 B △佐々木良三
 イザの誕生 関谷 陽
 サークスの女 鶴岡義雄
 出を待つ人々
 路 傍 C △堀越隆次
 作品 B △吉村 勲
 街 品 B △荻野康児
 作 品 A △山口長男
 乙 女 B △宮川富佐子
 南 の 果 て △織田廣喜
 風 サークス △
 女 暗い海岸 △山本不二夫
 目覚めたる女 △桂 ユキ子
 人間の歴史 △鈴木信太郎
 硝子皿のある静物 △
 武蔵野の一隅 △
 宮島風景 2 △
 カルメン(スペインの人形) △
 宮島風景 1 △
 バレリーナ △東郷青児

赤いベルト。東郷青児
 母と子 △
 ソワレ △
 月夜。井上覚造
 草原。鷹山宇一
 孔雀と少女 △
 黄昏の街 △
 山脈 △
 隆靈術者。北川民次
 陶工 △
 海の踊子。吉田一夫
 漁の踊子。野間仁根
 子供と昆虫 △
 谷中の森 △
 群 落 △大澤昌助
 柵 △
 まひる △
 ことおわりぬ。田中君子
 花摘みの少女。織田リヲ
 娘と犬。岡本太郎
 変身 △
 Peinture E △松葉清吾
 D △
 C △
 B △
 A △
 よろこび(フレ)。寺田竹雄
 スコ試作 △
 貝殻のある静物 △
 裸婦(△) △
 ショウインドウ △
 をのそく子供 △
 煙突の見える風景(△) △

再会(フレスコ)。寺田竹雄
 試作 △
 機械化された鳥 △
 母(子) △
 防波堤(△) △
 丘の上(△) △
 顔(△) △
 人間解説 △浪江勘次郎
 夜につづく朝 △
 淡き陽。野村守夫
 海辺の歌 △森田信夫
 狂暴なるあがき △天野三郎
 窓 辺 △西村千太郎
 過ぎたるは及ばず △
 私たちは生きてゆく △
 ゆく △
 牛 澤田哲郎
 漁 夫 △佐藤吉五郎
 二 人 △斎藤三郎
 静 寂 △
 地 熱 △
 鼓 動 △阿部金剛
 死 人 △馬場 賢三
 人々と小島 △
 森 の 精 △原田直康
 夜 の 歌 △金原昌平
 希 望 △中 田 豊
 乱 舞 △藤川 覚三
 家 族 △藤井 二郎
 部屋の一隅 △
 夜の花売り △
 収 獲 △
 真昼の浄水場 △

夕 焼辻本敬三
 二 人 △吉井淳二
 草 原 △米良道博
 影法による静物 △
 裸 女 △
 透視法の壺 △
 透視法による背 △
 影と裸女 △
 子 供 △清水刀根
 母 と 子 △
 憂 愁 △
 零 (しづく) △井上賢三
 パレ △
 太平洋文化 △
 の 跡 △山尾薫明
 雲 の 散 歩 △長谷川三千春
 水 辺 △青山龍水
 森の中 △
 受胎告知 △山路真護
 月 を 売 る △阿部金剛
 Rein △
 海 辺 △伊藤研之
 赤い建物 △
 一本の木と馬 △
 海 辺 △
 聖 堂 △山本敬輔
 作 品 △
 (一) △
 (二) △
 (三) △
 馬 △吉原治良
 曲 作 △

海 小 沢 風 景 △丹下富士男
 踏 切 番 △桑原 實
 水の上の群像 △
 カンナの花かげ △青木秀夫
 姉 と 妹 △高根秀雄
 壱 輪 の 夜 狩 △野 守
 母 子 △石橋宏一郎
 街 路 △
 魚 売 り △
 青 い 街 △佐藤陸郎
 午 睡 △鈴木幸雄
 出 水 △
 風 景 △小園井一郎
 作 品 △
 あはれ文化 △上田民子
 灯 と 白 と 黄 △酒見敏雄
 黒 と 白 と 黄 △井口一朗
 コンボデション △
 第二 △
 四 人 △土田信次
 造船所の夜 △
 ツク △竹内 清
 漁 夫 △山田優紫
 五 番 街 の 西 △伊賀勇高
 山 小 屋 △伊東俊平
 結 実 △越谷繁造
 三 つ の 窓 △
 鮪 船 △磯村利雄
 冬 築 △真邊啓介
 筑後川洪水の巻 △伊東静尾
 草 笛 △
 漁 解 放 △
 婦 能 問 △弘

クレイン 西村龍介
黒い少女・白い加藤正一
家 族 2 芹澤普吾
樹木と人体 指田由米
ケ ー キ 春田安喜子
丘 の 家 石田隆一
街 の 人 影 上野富蔵
静 物 A。松本弘二
木 曾 路 の 夏 川 々
木 曾 路 の 夏 川 々
静 物 B 々 々
瀟 路 遠 望。福島金一郎
田 園 詩 々 々
御 岳 路。服部正一郎
霞 ケ 浦 々 々
水 辺 々 々
部 屋 の 一 隅 飯田慶三
花 と 女。錦 義一郎
魚 と 女 々 々
小 鳥 と 女 々 々
柳 河。中原 實
石 場 風 景 宮原俊夫
工 場 風 景 高岡徳太郎
岩 たんすのある静 々
物 たんすのある静 々
砂 丘 々 々
花 と 鳥 弓座由美
夏 昏 々 利彦
黄 昏 々 々
畑 の 実 り 々 々
せ と も の 工 場 伊藤高義

蝶 の 群 荻尾テル
噴 水 水野保雄
夜 猪田七郎
眠 の 中 の 月館孝一
風 の 母 子 近藤長三郎
悲 し め の 母 子 々 々
堀 川 風 景 末永一夫
ア コー デオン 弾 小玉光雄
き 街 の 一 隅 加藤若栄
街 の 一 隅 加藤若栄
漁 夫 の 朝 鈴木理助
ラ・ノスタルジ 藤野一友
ツク 々 々
古 い 庭 々 々
水 の 華 野田敦郎
少 女 中村瑠璃子
過 去 と 現 在 郭 仁植
洪 いけにえ(二人) 々 々
マリアをきく男 渡邊 弘
根 C 高田 稔
愛 情 十河 徹
路 上 の 憂 愁 西野秀雄
森 の 歌 青木一利
海 辺 の 哀 愁 増田 勉
腰 を 下 し て い る 八重垣逸郎
少 女 末金富美子
郷 愁 末金富美子
嘆 きの ストリッ △ 花谷時子
パ ー 愁 々 々
憂 愁 々 々 秀男
樹 蔭 登丸秀男
凱 旋 門 北重敏
街 角 の 子 供 寺田健一郎

待 つ 人々 石川新二
踊 り 子 達 小野佐二男
灰 色 の 群 像 木村令二
淋 し い 街 々 今長谷巖
二 人 山内靖巳
海 双 曲 の 争 い 吉本忠彦
緑 蔭 仙名秀雄
火 宅 喩 品 仙名秀雄
沈 黙 仙名秀雄
テラスの上の憩 和 田 太 郎
い 々 々 々 利夫
後 パタ屋家族と午 末 光 利 夫
望 楼 田 中 良
蓮 と 月 家 永 勝 之 亮
卓 上 構 成 A 園 部 孝
月 に 眠 れ る 牛 伊 藤 博 次
女 と 表 現 す る 城 菊 地 昭
ま る い 椅 子 相 澤 義 和
春 よ ぶ 山 澤 山 卓 爾
手 下 げ 編 み 米 原 あ い 子
猿 渡 邊 ヨ シ
コ マ シ ャ ル ア ー 高 橋 満 寿 男
チ ス ト 矢 野 時 基
買 物 物 原 友 木
ボ タ 山 の あ る 風 景 平 野 信 一 郎
景 丹 那 漁 港 譜 中 井 勝 郎
お 山 の 上 の 僕 の 家 立 松 富 雄
あ る 月 の あ る 夜 風 景 立 松 富 雄
噴 水 塔 の 見 え る 風 景 立 松 富 雄
ただ 生 きて い る 杉 英 治

海 の 歌 岩波泰夫
初 夏 の び わ 湖 田 中 幸 吉
夜 景 2 飯 島 貞 子
森 の 群 像 B 友 田 利 夫
馬 の 群 像 C 城 戸 正 善
神 影 川 原 ま さ 子
森 C 山 森 博 之
郷 愁 新 開 盛 寿
悲 し き 風 景 金 子 三 蔵
蟬 し ぐ れ 佐 藤 隆 昭
煩 イ プ 名 嘉 真 武 雄
煩 悩 清 水 映 鳳
失 題 皆 川 實
金 魚 と 四 人 小 川 清
午 後 綾 路 哲 美
桐 畑 カ ポ チ ヤ 花 葛 西 康
咲 く 後 綾 路 哲 美
音 楽 家 の 埋 葬 村 田 耕
道 化 の 街 太 田 四 郎
マ ン ド リ ン 長 谷 川 陽 三
立 像 裸 婦 花 村 典 人
幻 白 井 幸 彦
北 の 海 に て 橋 本 潔
蛾 (仮題) 村 上 善 男
黒 の 日 A 山 田 達 雄
真 昼 の 砂 武 田 仁 一
三 人 渡 邊 弘 喜
私 人 金 子 茂
楽 器 を 持 っ た 少 女 中 川 時 之 介
水 渦 B 吉 田 道 宏
手 鏡 を 見 る 女 坂 本 昇
白 い 静 物 田 村 ゆ た か
没 陽 佐 野 允 子

寛 罪 上 田 春 雄
混 迷 高 瀬 保 栄
人 生 石 橋 泰 幸
結 婚 式 黒 木 耀 治
傷 心 大 石 隆
爆 発 後 の 疏 安 工 内 藤 道 廣
場 槲 稲 垣 克 己
混 濁 池 上 丁 一
翁 と 孫 高 橋 晴 人
貝 車 中 馬 師 津 夫
停 車 田 中 弘
女 小 島 詰 治
波 小 島 詰 治
紊 れ た 顔 矢 澤 伸 一
紊 れ た 顔 矢 澤 伸 一
夜 の 群 像 根 木 茂 子
作 品 A の 白 妹 廣 瀨 實
姉 妹 廣 瀨 實
子 供 た ち 徳 九 成 夫
花 束 を か へ る 小 出 泰 弘
森 A 萩 原 ひ ろ 子
海 景 新 野 俊 賢
風 景 柳 田 孝 次 郎
追 憶 の 海 棚 橋 俊 彦
丘 ち 澁 谷 光 典
ま ち 犬 童 次 夫
女 の 作 品 石 附 進
白 の 作 品 利 根 川 洸
風 景 の 中 の 裸 婦 新 田 稻 實
風 景 の 中 の 裸 婦 新 田 稻 實
暗 き 衝 迫 C 河 原 照 夫
三 人 杉 浦 成
騎 士 藤 田 金 之 助
か ね 割 り の あ る 風 景 山 本 甚 吉

二点
一点

下条三男
池田正三
安藤広吉
岡崎滋
紀藤虎一
君島養夫
木本康人
岸添慶三郎
北垣毅
森若正孝
佃正夫
名村博明
永吉清次
楢戸茂
永田久光
香野幸雄
後藤恒
小松崎假弘
弓削英子
鏡光男
富尾宜史
原正弥
岩本重子
伊藤銳彦
岩崎友治
伊藤妙子
宇田川芳夫
白田計
柴田初次
柴垣星
清水精基
村上章
日置勝駿
山名瑠子
山崎弘

一点

柳下秀雄
上田勲
大淵陽一
緒方たけ志
奥津国道
大羽誠一
大野巳喜男
扇啓吾
安部清一
赤土政太
新居信二
大橋桃之輔
大内敏嗣
田村繁清
高山一政
大野賢一
芦立ゆらし
有本功
田中正明
高頭栄一
高橋良
高橋正
田邊善夫
岩田正
池口順悟
伊東文
岩崎恭輔
石川茂
江幡進
三基克
水野光雄
井上勇
宮内藤四郎
松村秀男

一点

牧万里子
松井芳子
松田國秀
松本芳昇
藤原寿雄
藤平清次
古田順吉
鈴木日
鈴木信二郎
鈴木信二
藤坂飄介
橋永一男
吉田実三
無題
1. 近藤日出造
2. 杉浦範茂
3. 杉浦範茂
4. 小野佐世男
世に轟く日。小野佐世男
秘密ストリップ
御用
似顔原画。清水崑
あなかしこ
ポッポと
ポッポと
飛んでこい
マンガ貴賓席
森熊猛
ホルモン料理店
山下紀一郎
二人の笛吹き
柿本八郎
歩調とれ!
日本刀の仕上を
急ぐ人
日本の丘

(漫画部)

ダレス旅日記
どれいA
くたびれたカー
新説蝦夷神話
壁あつき場所
世界的水準
ニッポンの月
乗車御注意
ガンバレ、オカ
ザキ
とのさまかえる
○等国の政界
おみやげ
着色飲料水
募金難
M・S・A問答
銀行ギャング
衣類を求めて
惹きな
コレクション?
閑情
情操教育
「アジア」ボウ
の虫
立体映画恐怖症
国怪
大市計
都市計
援会
都会の裏面
国民諸君と共に
新歸朝

もうあきた
おつかない時代
脱出
貸間アリ
文化について
Star and Star
意気
鎌倉カーニバル
の内
ビックパレー
虚々実々猿
赤色恐怖症患者
狂走
二分された平和
療養生活より
時計屋と歌人
ヌード・浜の女
夏の富士
作
勉強・ポートル
ヨント・ファッソ
自転車
蟻の街の作家
黒人
撮る女
コンボジショ
ン・楽屋にて
田園風景
風
馬跳び泣く子
神田ツ子
の子
ゴム長
光と影・砂丘
内村幸助
岩宮武二
岩瀬禎之
池田正義
稲垣信一
早田雄二
林忠彦
萩原宣昭
羽田敏雄
林一夫
島中穂臣
土門拳
徳増八郎
豊島八郎

(写真部)

競輪場の塀 戸明愛太郎
 さすらひ 中条新一
 花咲く村 沼沢精一郎
 女・觀光日本京 沼田義治
 都東本願寺
 横浜にて(1・2) 吉田栄三丈
 女性(1・2) 大竹省二
 漁村にて 奥元次
 基地 大津徳徳
 秋田おばこ 大野源二郎
 ヌー ド 小原陽児
 天神祭・ニッポ 荻野幹雄
 傘・老 奥村浩
 信 心 加藤友一郎
 アパートの見え 片岡敏男
 風景 女 梶 実
 裸山牧 川島庸介
 種山 野川代鶴治
 孤兒院にて 金子今朝雄
 黒い瞳の女・ポ 梶 君治
 ートレイト
 京都壬生狂言 亀井茂治
 愛と運命 龜山正憲
 槍ヶ岳・雲表の 風見武秀
 山 川口 等
 浴岩の桜島 川口 等
 洗髪女・ヌード 吉野銀之助
 (光) 昭 和 新 山 吉村伸哉
 浜辺の人生 吉田順吉
 串本の湖 吉田畔夕
 唐津山笠 吉崎一人
 こけしと娘・基 吉田金太郎
 地の哀愁

ヌードB・ヌー ドC 田 中信次
 最近の横須賀・ 谷本秀武
 柄の浦・神前結 婚式
 四条通り・清水 寺
 天売島の岩 竹森 実
 街角で・公休日・ なわとび・お嫁 入り
 夕映える不知火 田島由亀雄
 田 園 田代章治
 残 燈 筑紫敏男
 竜 宮 島 中島良太郎
 祇園会・裸婦と 愛猫 中村升一
 桂離宮・角屋 習作・春宵 中川登志
 女万才師 中村由信
 サークス(社会 の窓) 中村 聖
 農 婦 長崎港舟
 奈良の石仏 中藤 敦
 お 寺 長崎 稔
 花 ストラ 中村忠三
 レストラン 中安辰夫
 特飲街の女 黒川清司
 御宿の漁夫 桑原甲子雄
 女 (三) 山下義美
 華と土(C) 松下一草
 信仰・老バイオ 船越義雄
 リン弾き 藤田昌彦
 清純の燦き 藤井克美
 楽屋にて 小林 晃
 足

ヌー ド 小松健次
 祇園祭の鈴 近藤竜夫
 女 児島寛二
 風景其一・其 古徳博美
 の二 江 弘
 富士山・夜の富 士登山・尾瀬沼 足あと・ロマン ス
 再 忌 遠藤喜一郎
 良子・薫子・ス 秋山和欧
 里野 秋山和欧
 女 ストリップ・ 秋田 彰
 楽屋の踊子 太鼓を持つ女 安藤茂雄
 浅草の人生 青木藤吉郎
 天満天神祭・祇 園会 佐伯啓三郎
 村の人其一・ 其二 杵島 隆
 博多山笠桶田入 の御祝 北原信男
 母 子 北洞南一
 雪解けの頃 水野六平
 桂離宮・罹災の 表情 三上四郎
 備前の裸祭①② 緑川洋一
 乞食 城台 巖
 山神に祈る・ほ んがら洞・山麓 の春 柴崎高陽
 ヌー ド 清水一洲
 女・海辺の女 篠崎 正
 鈴の人々 平井春風
 脚 平賀 真

姫路城・アイス を売る男・異国 の子供 森 副二郎
 ヌード「緑蔭」 杉山吉良
 ヌード「風船」 波止場にて 助川敏郎
 競輪場の人々 鈴木源太郎
 (A・B)・阿蘇 ヌード
 若い人 鈴木久雄
 寂しき瞳 迫田敏郎
 顔 飯田欽太郎
 農民連作「青 年」「父子」「女」 植田正治
 街の人気者 内田良樹
 笹田繁子 内田伊佐夫
 階段にて 上田 滋
 交通巡査連作其 ノ一 中野 薫
 ヌー ド 松井一之 五味 賀
 女 38回院展 1-18 東京都美術 館
 [受賞・新同人・新院友]
 来年度無鑑査
 ▽絵画―松田文子、坊坂倭文 明、酒井亜人、眞野満
 ▽彫塑―笹村草家人、千野茂、 櫻井祐一、菅原安男
 佳作(白壽賞を加う)
 ▽絵画―島田訥郎、服部漁舟、 伊坂静雄人、前田暉、馬場 不二、岡本彌壽子、羽石光 志、塩出英雄、清原斉、松 山美知子、津田時子、松尾

冬青、須田瑛中、本田茂
 ▽彫塑―山本兼文、山口信子、 土井要輔、矢崎虎夫、小柳 津三郎、久保寺恭、山崎修、 大和作内、矢形勇
 新同人
 ▽絵画―岩崎英遠
 新院友
 ▽絵画―福王寺法林、堀田和 更、戸張節士、小西国葉、 米本豊司、高村草樹、益井 三重子、蓮尾辰雄、田中圭 一
 〔批・記〕
 朝日5(河北倫明)
 産経5(横川毅一郎)
 朝日6(千澤禎治)
 日経7(鈴木進)
 読売7(瀧口修造)
 産経8(柳亮)
 東京8(久富貢)
 毎日8(土方定一)
 東京タイムズ11(田近憲三)
 毎日11(三輪郷)
 サン23(金子義雄)
 東京日々10月13
 東京8月26
 毎日12
 毎日13
 産経9(天河内信敬)
 12(柳亮)
 出品目録
 農 家 高橋 萬年
 宮代の 森 廣井 稔

椿	ダ	書	庭	新	静	山	犬	夕	村	や	鳥	初	朝	朱	白	生	明	花	茸	菓	容	聖	立	澄	月	K	晚	山	數	魚	風	馬	醉		
リ	ヤ	斎	長	川	福	戸	松	浜	童	ぎ	籠	瀬	衣	衣	河	久	横	郷	丸	祭	歌	樹	秋	山	像	秋	湖	大	屋	景	小	園			
寺	四	横	長	川	福	戸	松	浜	童	ぎ	籠	瀬	衣	衣	河	久	横	郷	丸	祭	歌	樹	秋	山	像	秋	湖	大	屋	景	小	園			
田	夷	山	谷	上	王	張	岡	崎	加	澤	堀	中	渡	渡	村	芳	溝	倉	木	館	樹	下	森	島	森	黒	櫻	横	大	大	大	服			
六	星	余	川	芳	寺	節	政	左	藤	田	川	庭	辺	辺	双	由	和	ス	岡	下	後	孝	崎	田	田	庭	山	塚	塚	塚	部				
華	乃	祢	澄	江	林	士	信	子	峰	志	公	華	友	友	舜	貴	子	マ	栗	孝	純	男	平	次	藤	藤	善	堅	堅	松	松	漁			
胡	島	十	前	草	柏	池	疎	踏	少	鶏	甲	群	家	ア	平	街	早	壺	山	菊	秘	信	芥	写	裏	帰	岩	宴	凍	小	娘	早			
姫	女	井	景	上	景	物	閑	屋	女	景	駒	像	路	ト	景	色	譜	村	岩	加	山	藤	山	梯	路	菊	常	清	魚	憩	ち	春			
守	西	木	横	江	野	木	長	築	山	浅	齋	松	平	吉	渡	土	番	小	長	岩	藤	山	小	小	常	常	原	甲	小	小	莊	筭			
屋	川	下	山	口	村	下	谷	山	口	井	藤	山	山	川	辺	生	場	西	井	崎	藤	山	島	川	盤	盤	原	斐	川	川	司	輪			
多	春	俊	津	正	袋	光	川	素	達	金	文	美	山	啓	美	勝	春	国	亮	玲	將	井	直	多	大	大	已	雨	雨	福	芳	二			
志	江	春	惠	忠	韵	上	朝	紅	万	万	緒	知	夫	治	夫	宜	雄	葉	之	千	郎	文	樹	子	空	空	八	虹	虹	福	二				
北	店	上	初	春	牛	閑	塚	永	南	舞	松	清	山	初	秋	庭	教	女	西	遅	夢	群	花	緑	後	暮	三	群	礼	門	高	秋			
国	風	景	頭	古	日	庭	庭	遠	伊	伊	泉	泉	手	の	の	会	会	村	西	日	の	像	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋		
景	里	月	近	神	須	池	高	王	声	豆	林	泉	て	夏	塔	江	染	沢	日	見	像	松	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋		
頭	見	岡	藤	三	田	田	橋	主	声	鈴	齋	塩	竹	飯	伊	谷	村	沢	見	見	松	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋			
月	山	榮	千	千	冬	中	玄	王	声	木	藤	出	内	田	坂	尻	田	三	見	見	松	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋			
里	山	貴	尋	枝	青	廣	輝	主	声	大	紫	幸	幸	小	野	五	泥	三	見	見	松	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋			
人	人	貴	尋	枝	青	廣	輝	主	声	大	紫	幸	幸	小	野	五	泥	三	見	見	松	三	三	庭	後	暮	三	群	礼	門	高	秋			
大	花	風	赤	鐵	朝	森	浜	無	谿	伽	雞	明	琉	郊	秋	み	B	荒	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦			
原	景	景	い	骨	長	(無)	山	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
初	夏	夏	建	骨	崎	鑑	手	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
夏	夏	夏	建	骨	崎	鑑	手	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
尾	尻	加	赤	鐵	朝	森	浜	無	谿	伽	雞	明	琉	郊	秋	み	B	荒	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦		
形	玉	藤	い	骨	崎	鑑	手	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
有	登	登	い	骨	崎	鑑	手	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
載	登	登	い	骨	崎	鑑	手	題	流	羅	舍	鏡	球	外	み	夫	上	波	牛	初	海	新	宮	庭	背	丘	麦	睡	瓦	瓦	瓦	瓦	瓦		
井	少	裸	女	リ	驟	裸	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	紫	
村	年	婦	立	ボ	リ	婦	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
氏	座	A	像	ン	リ	小	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	
の	像	B	矢	セ	ン	小	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	
胸	像	B	矢	セ	ン	小	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	
像	像	B	矢	セ	ン	小	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	
田	近	矢	山	子	雨	小	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真	真		
中	藤	形	本	女	小	小	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	
太	宏	勇	兼	女	小	小	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	
郎	宏	勇	兼	女	小	小	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	

女の立像 田中太郎
少女像 関長造
速水逸良氏像 保田春彦
裸婦 三宅多喜男
石 岸村忠次
裸婦 高橋友武
上野光男氏像 三浦幸雄
若 長浜虎雄
たかを君の像 尾 巖
赤木顕次先生像 妹 巖
窪田空穂先生の像 野原 東
女 立 像 吉田 満
習 女 像 宮本理三郎
立 女 像 青柳謹衛
K 氏 の 首 像 大野 清
井村氏像 小柳津三郎
婦人胸像 〃
T 教 授 〃
ヂュニヤ(無鑑査) 笹村草家人
裸婦像 土井要輔
M 氏 像 〃
童 子 像 山本力吉
立 女 像 宮越啓子
立 女 像 森 豊一
O 女 像 大和 作内
婦 人 像 〃
東 北 の 人 像 茨木敏雄
裸婦立像(無鑑査) 櫻井祐一
阿弥陀三尊 千野 茂
裸婦座像 寺内幸雄

座 像 石川季彦
裸 女 像 半藤政衛
女 像 藤江隆義
裸 女 像 久保寺恭
椅 像(無鑑査) 基俊太郎
F 像 小島 弘
立 像 山田郁子
男 像 山崎 脩
男 像 四田昌二
胸 像 山口信子
若 髪 像 矢崎虎夫
青 年 像 〃
裸 婦 立 像 中村留雄
U 像 菅原安男
青 年 像 〃
裸 婦 立 像 〃
川 勤 女 像 松村秀太郎
習 勤 女 像 〃
ト ル ソ 像 村上 弘
Y 子 の 像 〃
月 出 像 横山 大観
木花開耶姫 安田靱彦
耳 庵 老 像 前田青郎
峠 路 像 大智勝観
嵐 の 後 真道黎明
四 月 の 頃 郷倉千靱
睡 蓮 堅 山南 風
向 日 葵 〃
夕 風 酒井三良
花 風 富取風堂
聖 夫人坐像 奥村土牛
O 夫人坐像 小倉遊亀
月 あかり 田中青坪

青 年 太田聰雨
玄 奘 三 蔵 新井勝利
白川学園の子供 北澤映月
連(特異児童の保育院) 〃
西施を真似る女 小谷津任牛
花 小 松 均
雲 (1) 中 島 清
カ (2) 中 島 清
七 面 山 中島多茂都
婦 人 像 石井鶴三
少 女 像 喜多武四郎
青 年 像 〃
友人座像 〃
大弁才天女像 大内青甫
紫紅園主人像 〃
頭 像 山本豊市
S 氏 像 宮本重良
D 氏 像 松原松造
彫刻家N氏 村田徳次郎
婦 人 頭 部 〃
G 線 関 谷 充
P 線 〃
宮嶋鎮治氏像 辻 晉 堂
裸 女 古藤正雄
樹 蔭 〃
25回青龍社展 1-13 日本橋
[受賞] 青龍社奨励賞 古野新生、横

山操、岡信孝、堀口幸子、水島祐
〔批・記〕
朝日5(河北倫明)
産経5(北川桃雄)
日経7(鈴木進)
東京8(久富貢)
毎日8(土方定一)
東京タイムズ11(田近憲三)
東京日々10月13
東京8月24
毎日3
〃10
産経3(大河内信敬)
美術批評10月
出品目録
風 神 雷 神 川 端 龍 子
仏 誕 〃
倉敷風景 CBA 加納三樂
良寛と芭蕉 福岡青嵐
北 円 堂 山崎 豊
薬 房 〃
静 流 市 野 亭
砂 丘 安 西 啓 明
連作の十一 〃
立 川 市 変 貌 〃
青 梅 〃
盛 夏 小 島 鼎 子
放 牧 時 田 直 善
顔 女 龜 井 支 兵 衛
少 女 〃
大山院石庭 琴塚英一
カ ナ 佐藤土筆

滝 佐々木邦彦
明けゆく甲斐駒 〃
岩 峰 〃
南 彩 譜 結城天童
人 形 部 屋 大塚香絲
春 日 山 竹 内 未 明
雲 と 富 士 渡 邊 不 二 根
ス タ チ オ 水 島 裕
堀 川 端 渡 會 伊 良 子
室 生 の 塔 林 心 耳
漁 港 三 崎 高 山 晴 雄
い つ き 島 古 野 新 生
あ や つ り 人 形 中 川 佐 風 路
赤 松 生 重 定
菩 提 の 滝 安 東 丈 夫
躍 獅 子 池 田 洛 中
奔 流 酒 井 白 澄
七 面 鳥 尾 越 勝 之 助
苗 壳 池 田 房 雄
夢 あり 武 市 政 輝
彩 水 谷 野 敬 一 郎
駅 前 広 場 横 山 操
シ ョ ー ウ ィ ン ド 〃
夕 石 井 昭 二
睡 蓮 津 山 廣 子
良 宵 内 堀 吉 兆
べ 子 鈴 木 光 英
仏 頭 青 木 秀 次 郎
清 刈 秀 夫
樹 蔭 富 田 保 和
風 富 永 一 布
芳 春 柘 植 一 枝
聖 音 竹 内 廣 吉
涼 観 三 浦 打 魚

緑 藤一 白石崎昭三
 浴 衣 堀口幸子
 石を囲みて岡 信孝
 暖 日 丹 青子
 叢 花 丹 青子
 のうぜん 土屋輝雄
 立 葵 皆川久代
 二月堂 中島晃輪
 雌 雄 山口吉旺
 水 影 大塚達夫
 F 喫茶 店 高頭信子
 佳 日 高田晃瑠
 暮れゆく 高信了己
 壁 もぼたん 近藤青樹
 いもぼたん 近藤青樹
 或る建物 藍木清
 泰山 木坐光寺信祥
 目録外出品
 四国遍路(草描 川端龍子
 十一點)
 8 回行動展 1-19 東京都美
 術館
 [受賞・新会員・新会友]
 行動美術賞
 造 画 中畑美那子、吉仲太
 行動美術新人賞
 賞 励 賞 伊藤勝美
 賞 励 賞 川端亮治、平川勇、
 柘植太
 賞 励 賞 小門光男
 会友賞
 賞 励 賞 辻親造

美術展覧会(9月)

▽彫刻—伊藤忠義
 新会員
 ▽絵画—江見絹子、高須国之、
 全和光
 新会友
 ▽絵画—田中阿喜良
 ▽彫刻—野崎一良、白井謙二
 郎
 [批・記]
 朝日4(植村鷹千代)
 シ 6(千澤横治)
 産経6(柳亮)
 日経7(福島繁太郎)
 読売7(瀧口修造)
 時事8
 産経8(柳亮)
 東京8(岡本謙次郎)
 毎日9(土方定一)
 東京8月23
 シ 27
 毎日8月29
 シ 5
 産経11(大久保泰)
 毎日13
 美術手帖10月
 みづ多10月(植村鷹千代)
 主要出品目録
 作品 28・8・15 津高和一
 シ 28・8・8
 シ 28・8・16
 シ 28・8・12
 シ 28・7・16
 展 望 村田實史雄
 社(ヤシロ)

浜 辺 村田實史雄
 海へ行く道
 保津 峽 福井 勇
 嵐 峡
 瑠 璃 溪 佐藤眞一
 よこたわる 佐藤眞一
 立つ坐わる
 はい上る
 不 安 斎藤眞成
 凶 荒 下高原龍巳
 こども・裸婦・
 仏像
 こども三人
 山のこども
 静 物 生 澤 朗
 漁 港 の 人 小出卓二
 淀川風景
 富士遠望
 港 女 小林武夫
 婦 女 小林武夫
 壺のある静物
 海 向井潤吉
 碧い湖(摩周)
 白い林(阿寒)
 朝霧(阿寒)
 ノーモア(1) 高橋 進
 ノーモア(2)
 月 暈 山中春雄
 炎 天 高井寛二
 さんにん 高井寛二
 ひ と 高井寛二
 ふ た り 高井寛二
 津 軽 海 峽 榎倉省吾

木 かけ 榎倉省吾
 窓 粧 西 阪 修
 化 粧 西 阪 修
 姉 妹 西 阪 修
 オルガンの前
 由美ちゃん 柏原覚太郎
 二 裸 柏原覚太郎
 画室のある静物
 白 い 花 川原章二
 漁 村 川原章二
 花 と 草 田中忠雄
 基地のキリスト
 クレネ人シモン
 の行い
 予言者の像
 室内 裸 婦 伊谷賢蔵
 飯田高原と九重
 連峯
 九州の山(硫黄・
 三肥・由布)
 九重山脈(湧蓋
 山)
 暮 近 き 漁 港 古 家 新
 秋 の 静 物 古 家 新
 黒 い 家 古 家 新
 牡 丹 古 家 新
 み な と 飯田清毅
 踊 り 子 達 飯田清毅
 純 私 小 説 田川寛一
 幼 女 坪内節太郎
 幼 女 坪内節太郎
 老 婦 像 伊藤信夫
 踊 る 法 燈 難波香久三
 象徴的な盆栽

(彫 塑)
 大 地 向井良吉
 作 品 今村輝久
 海 の 形 骸 中島輝彦
 作 品 13 阿井正典
 作 品 12
 独 (ひとり) 慎
 石 試 作 板谷 慎
 坐 像 林 是
 立 像 三 態 伊勢典賢
 5 回立軌会展 1-6 日本
 橋・三越 [批]産経8(柳
 亮)、美術批評10月(柳亮)
 秋の青龍社社人展 1-13 日
 本橋・三越
 佐田勝風景作品展 1-10 夕
 ケミヤ [批]美術批評10月
 (鶴岡政男)
 三輪晃勢日本画個展 1-5
 日本橋・丸善
 中津瀬忠彦個展 1-5 サエ
 グサ [批]美術批評10月
 (今泉篤男)
 中国、朝鮮古陶磁展 1-10 月
 30 日本民藝館
 16 回華厳会展 1-6 京都市
 美術館
 特選作家日本画小品展 1-6
 京都・大丸
 2 回桃山美術研究所展 1-5
 京都府ギャラリー
 1 回生々会日本画展 1-6
 大阪・高島屋
 南蛮美術展 1-25 市立神戸

美術館

齋田武夫近作展 1—5 大

阪・梅田画廊

土井伸彦、船井裕、吉田稔郎三人展 1—15 大阪・下ガ

井口東白子俳画展 1—7 大

阪・三越

稻垣稔次郎版画展 1—6 大

阪・阪急

6回木彩余作品展 2—6 銀

座・松屋

新型象三人展 2—6 銀座・

松屋〔批〕美術批評10月(岡

本太郎)

日本産業輸出貿易展 2—6

銀座・松屋

11回白鳳会展 2—7 光風会

館

青葉会展 2—6 日本橋・高

島屋

勝本富士雄個展 2—5 資生

堂

国画3季会展 5—9 日本

橋・白木屋

東洋美術品展観 6 京都・有

鄰館

現代版画五人展 7—14 中央

公論社画廊

〔批〕朝日9、11、12、13、14(仲

田定之助)

美術批評10月(植村鷹千代)

2回葵会展 7—12 日本橋・丸善

大口登個展 7—10 資生堂

〔批〕美術批評10月(三雲祥之

助)

上阪雅人版画展 8—13 日本

橋・三越

光風会會員洋画展 8—14 光

風会館

日宣美公募展 8—10 名古屋

屋・丸栄

6回創造展 8—15 大阪市立

美術館

川西英近作版画展 8—13 大

阪・大丸

田川勤次油絵展 8—13 大

阪・阪急

東西大家新作日本画展 8—15

大阪・三越

漢土会展 8—12 サエグサ

朱葉会秋季展 9—13 日本

橋・高島屋

新水彩秋季展 9—13 銀座・

松屋

11回有秋会日本画展 8—16

大阪市立美術館

原勝己個展 11—13 岡山・金

剛社

モタン・アト展 11—20 神

戸・新光商会画廊

安孫子荻声個展 11—15 資生

堂

藤澤典明個展 11—20 タケミ

ヤ〔批〕美術批評10月(江川

和彦) 5回水彩画三人展 11—16 大

〔記〕

橋本花子洋画展 11—16 銀

座・松坂屋〔批〕サン17(金

子義雄)

7回市民美術展 12—17 京

都・丸物

応翠の襖絵と国焼展 13—23

神戸・白鶴美術館

佐藤武造漆絵展 14—19 和光

矢部連光、林二郎染色木工展

15—19 日本橋・丸善

国立公園絵画展 15—20 日本

橋・三越

〔記〕毎日15、18、19

菁々会日本画展 15—20 上

野・松坂屋

浅井忠水彩展 15—22 中央公

論社画廊〔批〕朝日21(河北

倫明)

国際印刷美術展 15—20 銀

座・松屋

〔記〕朝日16、17、18(原弘)

山下摩起新作個展 15—20 大

阪・高島屋

梶本喜久代草絵創作展 15—20

大阪・大丸

心理的にみた幼児画展 15—20

大阪・大丸

芭蕉名句真蹟展 15—20 大

阪・阪急

1回五合展 15—20 京都・大

琉球の陶器と織物展 15—20

京都・大丸

グループ展根 15—19 サエグ

サ

河村俊子油絵展 16—19 資生

堂〔批〕美術批評10月(江川

和彦)

日本画新人展 16—20 日本

橋・高島屋

宮坂昌夫新作油絵展 16—22

大阪・三越

スマタ工房展 16—22 光風会

館

生々会展 16—20 日本橋・高

島屋〔批〕朝日20(河北倫明)

阪部保治、小野忠弘、三浦安奈

絵画展 18—22 京都府ギヤ

ラリー

丹阿彌岩吉個展 19—23 日本

橋・白木屋

武者小路實篤近代作画展 19—24

大阪・松坂屋

武者小路實篤個展 20—23 銀

座・松坂屋

15回一水会展 21—10月7 東

京都美術館

〔受賞・新会員〕

一水会優賞—永井潔、尾崎正

章、名取名徳、中畑卯人、

丸野豊司

一水会賞—伊藤正、岡勇、新

井邦雄、泉治彦、藤島煇

サクラ新人賞—永井潔

一六

フジエF賞—徳田良仁

船岡賞—野村光司、矢野雄蔵

新会員—柚木祥吉郎、渡邊祐

一郎、成田みさ子、酒井精

一、泉治作

〔批・記〕

朝日23(植村鷹千代)

産経25(柳亮)

毎日26(土方定一)

日経28(福島繁太郎)

東京28(岡本謙次郎)

時事10月1

サン10月2(金子義雄)

東京タイムズ10月2

東京日々10月13

毎日29

10月1

産経10月7(大河内信敬)

美術手帖11月

みづゑ12月(柳亮)

出品目録

。印委員、△印会員

材木座海岸 小泉 元生

麿 車 千葉福太郎

菖蒲とバラ。高橋 庸男

裸 女

白 い 壺

ミ モ ザ

午 後 成田みさ子

室 内

ガラクタ物(一) 尾崎 正章

静 物

ガラクタ物(二)

純・白い建物。福田新生
 プラジャー・コ
 ーセット
 白い裏道
 素踊。高野三三男
 ターキー。安宅虎雄
 静物。し。安宅虎雄
 娘。物。し。安宅虎雄
 ミシンの前の婦。筒井廣道
 人像。筒井廣道
 故郷の村。三浦俊輔
 川奈風景。三浦俊輔
 夏。橋。神田きみ
 鉄。橋。神田きみ
 白たく黒たく。與志美登野
 川筋の街。関口和子
 バレリーナ。関口和子
 装蹄。馬。中村善策
 山。村。中村善策
 流。村。中村善策
 牧場。早。春。伊藤正
 雪の牧欄。柚木祥吉郎
 横向きの裸婦。柚木祥吉郎
 カナリヤ。庭。幸。雅二
 秋。庭。幸。雅二
 五月の浅間。北川五郎
 靴下を履く女。北川五郎
 朝のドック。榊井一夫
 ポーズする夜。徳田良仁
 良。夜。田代修一
 椅子の静物。田代修一

クレーンのある。松野輝彦
 風景。周。戸田國人
 樹。ド・キホーテ。戸田國人
 母の像。泉。治彦
 トラン。橋。坂。乾
 数寄屋。橋。坂。乾
 荷の上。高。森。捷。三
 卓の前。高。森。捷。三
 頭。仏。湖。畔。近。岡。善。次。郎
 牧。アイヌと孫。見。島。三。吉
 アイスと孫。見。島。三。吉
 花。卓。上。静。物。見。島。三。吉
 卓上静物。見。島。三。吉
 水瓜と少年。中。村。琢。二
 北白川の女。中。村。琢。二
 扇をもつ女。大。津。鎮。雄
 コレクション。大。津。鎮。雄
 屋。根。大。津。鎮。雄
 犬とゴムの木。木。村。辰。彦
 静。物。木。村。辰。彦
 時計のある静物。高。田。誠
 浅き。春。高。田。誠
 郊外。日。高。田。誠
 野。沢。残。雪。高。田。誠
 卓上静物。田。崎。廣。助
 早。春。の。武。蔵。野。田。崎。廣。助
 早。春。の。阿。蘇。山。田。崎。廣。助
 初。秋。の。阿。蘇。山。田。崎。廣。助
 早。春。の。阿。蘇。山。田。崎。廣。助
 ぶどうを持った。深。澤。紅。子
 少女。深。澤。紅。子
 きもの少女。深。澤。紅。子
 本をみる人。高。校。生。奥。田。郁。太。郎
 高。校。生。奥。田。郁。太。郎

造。船。所。鈴木良三
 朝。の。港。夕。富。進
 港。の。道。納。富。進
 旧。道。納。富。進
 麦。秋。富。進
 裸。婦。高。橋。貞。一。郎
 故郷の時。高。橋。貞。一。郎
 読。書。高。橋。貞。一。郎
 天龍河岸(秋)。林。登。美
 静。物。林。登。美
 静。物。林。登。美
 けんだまあそび。田。中。春。彌
 (B) 田。中。春。彌
 横。向。き。塩。見。栄。一
 Y 夫。人。弦。田。英。太。郎
 波。夫。人。弦。田。英。太。郎
 造。船。所。松。本。一。郎
 松。本。風。景。加。藤。水。城
 山男のYさん。加。藤。水。城
 雪。上。剪。定。木。万。壽。三
 りんご梯子。木。万。壽。三
 食堂の棚。近。藤。吾。郎
 塑像静物。白。埜。み。さ。子
 黄色のセーター。埜。み。さ。子
 小。憩。丸。野。豊。司
 椅子の静物。丸。野。豊。司
 裸。婦。中。沢。喜。三。郎
 香。住。風。景。西。元。保
 丘。風。景。尾。井。和。男
 夏。野。村。光。司
 港。野。村。光。司
 室。内。野。村。光。司
 リングのある卓。森。下。照。子
 厨。房。森。下。照。子

夜明の浅間。山。川。勇。一。郎
 山。の。道。渡。邊。祐。一。郎
 冬。の。道。渡。邊。祐。一。郎
 芝。浦。風。景。心。金。子。博。信
 都。心。金。子。博。信
 有。楽。町。に。て。大
 若。木。松。齋。藤。大
 浅。春。伊。豆。齋。藤。大
 画。室。富。田。通。雄
 裸。婦。富。田。通。雄
 湖。の。詠。訪。湖。岸。早。出。守。雄
 夏。の。詠。訪。湖。岸。早。出。守。雄
 モデル(休憩時)。新。井。邦。雄
 子。供。新。井。邦。雄
 ニコライ堂。山。中。仁。太。郎
 船。渠。風。景。山。中。仁。太。郎
 初。車。場。夜。景。板。倉。國。臣
 操。車。場。夜。景。板。倉。國。臣
 ノルマンさんの。西。澤。今。朝。夷
 家。蝶。小。山。周。次
 黒。養。軒。島。崎。清。海
 精。養。軒。島。崎。清。海
 手袋の婦人。荒。谷。直。之。介
 画。室。に。て。荒。谷。直。之。介
 婦。人。像。青。野。馬。左。奈
 港。の。風。景。青。野。馬。左。奈
 夏。の。風。景。宮。田。三。郎
 窓。の。風。景。宮。田。三。郎
 橋のある風景。石。井。ゆ。た。か
 裸。婦。石。井。ゆ。た。か
 教。寄。屋。橋。を。望。む。伊。藤。正。明
 春。の。静。物。齋。藤。誠
 丘。齋。藤。誠

青いセーターの。浦。野。昭。二
 女。宗。と。花。岡。崎。祇。容
 孟。宗。と。花。岡。崎。祇。容
 映。画。を。見。る。佐。原。泰。治
 廃。堂。上。田。哲。農
 扉。と。春。上。田。哲。農
 行。春。上。田。哲。農
 河岸のクレーン。上。原。長。児
 河。岸。の。クレーン。上。原。長。児
 猿。沢。池。畔。田。村。雅。保
 リンク風景。林。村。雅。保
 三。河。鳥。羽。秋。原。実
 み。ど。り。栗。林。忠。男
 港。の。少。女。像。栗。林。忠。男
 群。像。栗。林。忠。男
 花。と。少。女。像。栗。林。忠。男
 夏。の。雲。栗。林。忠。男
 青。衣。不。破。栗。林。忠。男
 少女読書。栗。林。忠。男
 川。治。へ。の。道。別。東。博。資
 新。樹。の。頃。栗。林。忠。男
 ゆ。り。野。間。佳。子
 干。魚。野。間。佳。子
 寝。覚。之。床。木。下。義。謙
 須。原。風。景。木。下。義。謙
 母。の。見。え。る。風。景。串。田。良。方
 静。物。1。故。ビ。ア。チ。エ。ン
 静。物。2。故。ビ。ア。チ。エ。ン
 頬杖つく裸婦。片。山。芳。樹
 若。松。港。風。景。片。山。芳。樹
 冬。の。沼。末。松。勇
 六。月。の。丘。大。月。源。二
 黒。い。着。物。大。月。源。二
 花。さ。く。り。ん。ご。樹。大。月。源。二

裸婦 杉村彰一郎
 裸婦 中曾根信雄
 風磬 景赤塚禎三
 裏の北 梯飯島敏三
 冬の北 大田中祥三
 港 滝田裕川
 広瀬川新緑 千葉明
 室 内 燭 勇 隆
 浜木 綿 覆本白華
 K子 嬢 中山敏男
 道 角 富永哲一
 街 養所にて 若林利重
 療養所にて 若林利重
 校門の雪 山研行雄
 融雪 志田繁治
 夏の駅車場 小田原寅雄
 ひまわり 呉天華
 画室の偶 中川藤二郎
 魚村の朝 金井美寧
 仁 王 江口正巳
 秋 雨 平川要
 黒帽子の少女 津田正毅
 横浜 山口惣四郎
 橋 新木正之介
 晩 夏 根岸 敬
 浅間 山谷内俊夫
 稽古の前 水田莊介
 月形村風景 高橋五郎
 静 鈴木英一郎
 礼拝堂 相川昭二
 断 層 田中惣三郎
 夜の楽器店 小田原早見
 城のあ 松村秀夫
 逆光の女 市山時一郎

長崎大浦天主堂 市山時一郎
 桜 山口 潔
 暖 冬 内田 修
 機 関 車 川島誠司
 秋のくれ 鷺見憲治
 変電所と冬の林 鷺見憲治
 櫻園 岡 勇
 銀座 岡 勇
 I 座 岡 勇
 八ヶ岳山麓 小松秀雄
 囲爐裏火 小田幸枝
 秋の富士宮 稻川一郎
 七面鳥 森山 保
 古 都 関戸伊三郎
 四月 堂 加藤 進
 波切風景 高橋麗子
 風 上 静 物 山中新一
 卓上 静 物 辰巳文一
 佐保川堤 城戸清登
 出番を待つ女達 高野数雄
 K子嬢 伊藤政二
 道遊の割戸 野北晏照
 二 人 棚田貞治
 温 室 棚田貞治
 マンドリンと少 松田澄夫
 女 松田澄夫
 六甲山麓 元川嘉津美
 唐もろこし 薩摩増子
 庭 多和與三
 鯖とスルメ 横田達明
 アトリエ 田中太郎
 コレクション 田中太郎
 梅雨ばれ 飯田 實
 雪の北信 高橋政文

入江に望む家 小栗 精
 赤い装ひ 鈴木睦美
 雪 道 西出外信
 風 景 栗村政信
 夏 衣 皆吉志郎
 猫と少女 加藤清江
 晩 夏 小柳耕司
 初冬の西秩父 浅見嘉正
 静 物 梅澤慶子
 N 氏 像 鈴木 進
 窓 辺 服部 保
 水彩画家H氏 岡田行一
 朱 楽 岡田行一
 樹間熱海 野壽一
 松と溪流 狩野壽一
 鬼怒川風景 羽宗雄
 城山春寒 鳥羽宗雄
 花と農家 奥田憲三
 古風な花屋 奥田憲三
 中網湖残雪 深山鎮男
 博物館彫刻室 泉 精一
 漁 港 井戸三郎
 おかつて 飛矢崎眞守
 浅間を望む 石本美子
 み な と 越後島進
 サークラス 城戸清登
 雪 後 松田晃八
 山陰風景 後 甲斐 敬
 午 後 甲斐 敬
 湖 畔 望 小平 鼎
 高原遠望 小平 鼎
 古陶酒器静物 前ヶ崎悌六
 湖畔の測候所 尾澤勝朗

画 究 の 像 眞下慶治
 ひととき 忠 義
 立秋の犀川 忠 義
 初秋の犀川 忠 義
 老 婆 像 渡邊正一
 甲 斐 駒 常岡卯三郎
 静 物 常岡卯三郎
 晴 間 能勢眞美
 樹 水 河上一也
 岩 と 潤 本郷 悌
 溪 秋の若松 悌
 砂丘の若松 悌
 小雨ふる渡場 瀧川太郎
 梅雨晴れ 森 寅雄
 裸 婦 (A) 森 寅雄
 丘 の 家 池谷寅一
 晴 夏 日塔笑子
 若 肌 日塔笑子
 少 女 須山 計
 六郷橋畔 須山 計
 造船所附近 須山 計
 ボイラー工場 鶴 雄
 水車のある山村 鶴 雄
 漁 村 高見耿太郎
 川 辺 菊地秀一
 丘 子 荒井一郎
 息 子 荒井一郎
 一 子 荒井一郎
 中 島 松田忠一
 石 山 小野藤一郎
 大和の山 小野藤一郎

田毎の嫩黄 小野藤一郎
 西之原風景 二宮雪夫
 画室にて 鍋谷傳一郎
 教会風景 金丸直衛
 ポプラの丘 吉田 新
 傘 坂道のある風景 酒井精一
 丘 の 倉 中村徳次郎
 アトリエ 中村徳次郎
 切 通 し 松田幸三
 う た ね 高橋桂子
 読 書 小林守村
 部 屋 の 隅 江刺家桂子
 楽 屋 に て 五味悌四郎
 初 夏 安藤軍治
 九 重 三角嘉壽男
 漁 村 重 三角嘉壽男
 雨 の 日 松本正男
 街 の 女 深江義保
 横むきの女 深江義保
 横 浜 柴田寛保
 砂 浜 柴田寛保
 M 氏 像 川端哲雄
 早春の諏訪湖畔 兼松 貞
 習 作 澤井和男
 機 関 区 川 鯉秀数
 工場の見える風 花立年夫
 景 小 さい 港 岡 隆夫
 風 景 増田英一
 裸 婦 磯田耕司
 ビアホール 藤 島 奨
 静 物 藤 島 奨
 薫 物 近藤啓二
 静 物 近藤啓二

街の包 風間完
花の場 代喜香一郎
工作品 P 江戸健
コンポジション 江
海浜によせる 江
黒い点 江
土人と鳥 江
夢かな水底 江
静かな水底 江
車のある風景 岡崎邑彦
海辺の母子 竹谷富士雄
海辺のくらし 江
初秋 江
星の散る夜飯 島昇
集つた船 館石昭
子と少年 伊勢正義
鳩と少年 伊勢正義
犬と少年 伊勢正義
婦人像 伊勢正義
少人像 伊勢正義
基地風景 A 松林武二
T さ ん 鈴木 誠
母と子 A 鈴木 誠
横臥裸婦 A 鈴木 誠
室内婦人像 鈴木 誠
横臥裸婦 B 鈴木 誠
白衣人像 鈴木 誠
母と子 B 鈴木 誠
童女像 鈴木 誠
よる 丸田智恵子
中の島風景 (大) 小松益喜
阪) 小松益喜
堂島川風景 小松益喜

タンクの見える 陶山寛義
風景の見える 陶山寛義
海 塔 高野 朗
幻想の街 五百住 乙
小供の夢 江
リボンと少女 江
水と底 田中登代子
屋根 坂根 進
手と足と 米倉正弘
工場のある風景 太田 忠
汽車の見える風景 太田 忠
景 太田 忠
ダムのある風景 江
月蝕の湖 山内タダコ
花 菊池 東彦
風景 (谷) 武藤文昭
夜の急行列車 辰野宗一
作品 A 伊佐地郁郎
椅子 服部龍男
道 連 鷺尾丁末子
工場 金子直一
花 田中 修
村 田中 修
牛 田中 修
干 江上 明
みづり 赤穴 桂子
湿 地 赤穴 桂子
顔ならぶ 西田 勝
後むく前むく 西田 勝
横たわる 西田 勝
室内 構図 川崎和男
丘の見える静物 後藤歌子
二人の裸像 古茂田守介
母 子 古茂田守介

桑の木 長尾 剛
母子群像 神吉 清
MADO 岩野 莊吉
ピロッドの譜 細野 弦一郎
猫と鳥 猪熊 弦一郎
魚と猫 猪熊 弦一郎
人と猫 猪熊 弦一郎
猫と猫 猪熊 弦一郎
人と猫 猪熊 弦一郎
鳥と猫 猪熊 弦一郎
小供・猫・魚 猪熊 弦一郎
家と船 尾崎 幸雄
貨物船 尾崎 幸雄
音 佐々木 甲一
ジョルジュ・サ 佐々木 甲一
ジンドルピクトル 佐々木 甲一
ジュの館より 原田 ミナミ
「ディアヌス」 原田 ミナミ
ジョルジュ・サ 原田 ミナミ
「ディエヌ」 原田 ミナミ
ジョルジュ・サ 原田 ミナミ
「ディエヌ」 原田 ミナミ
精より「フア 原田 ミナミ
デット」 原田 ミナミ
さんまの貨物列 原田 ミナミ
車 上田 鷹市
千魚とありんぼ 上田 鷹市
か れ ひ 森 脇 榮
鉄 棒 青木 外司
愛 丹羽 和子
白 花 加治 屋 陸
Antionie 村上 彦
Aporia 村上 彦
脈モノクロー 村上 彦
ムB 村上 彦
滞 船 石川 滋彦
造 炭 埠頭 石川 滋彦
造 船 所 石川 滋彦

月と語る 伏屋 順二
少女 鈴木 悦郎
大 駅 中村 貞夫
慈 鳥 脇 田 和
放 鳥 脇 田 和
あやとり 名柄 禎子
おどり子 名柄 禎子
月と造船所 米島 昭
バレイリーナ 神田 美恵子
港 竹本 三郎
作 品 L 齋藤 誠一
堀 鈴木 新夫
工場 大國 章夫
ガスタンクと工 大國 章夫
眼・眼・眼 三浦 勇
木の夢 安田 高行
マリアの承諾 青木 國雄
風景 増田 熙正
トンネルのある 田 澤 茂
長屋 田 澤 茂
風のある日 田 中 弘三
室 内 桑田 道夫
港 浅野 敏明
裸婦二人 上野 卓
積まれた椅子 高津 鐵朗
海辺の歌 河合 房子
早 河合 房子
いん石の構造 木村 林吉
海辺挽歌 田中 田鶴子
ル花瓶 三岸 節子
流れる雲 三岸 節子
くちなし 三岸 節子

静物 三岸 節子
捕えた鳥 三岸 節子
か れ い 三岸 節子
二つの壺 大江 孝
田町附近 大江 孝
煙突と道 谷川 彰
怒り 谷川 彰
メリケン波止場 牧野 千里
船と人と三枝守正
不吉な星村上圭樹
海 辺 黒木 晴子
アトリエ 若松 光一郎
青い海と白い砂 宮野 照江
陶器工場 竹内 欽吾
α の 西尾 一三
山の如く 九重 浦子
生 中尾 進
二 人 櫻井 幸太郎
街 角 丸山 正三
禍 日 山口 寛
曇 日 山口 寛
ビル 無 今野 五郎
廃 屋 福井 喜代子
公 園 福田 鑿治
森 福田 鑿治
木精とその恋人 岩崎 鐸
原 始 林 岩崎 鐸
詩人が天子にな 岩崎 鐸
るとき 岩崎 鐸
札幌植物園 岩崎 鐸
森の中の相談 岩崎 鐸
狐 婚 工藤 甲人
は 狐 婚 工藤 甲人
は 狐 婚 工藤 甲人

立室静休漁青銚子外魚群母家川月花海風水鳥の光家S理若静土器浅港睡或秋風路
 戸の樹林日船曲の娘川のお盆もてる鳩と子治いと底底景毛麻田鷹司芒(朝)夜井崎昭治
 像岸本聖四郎平川敏夫西村昭二郎渡邊学岡彦次郎池田幹雄
 橋本誠吉

夫高女白景トタン魚志工裸裏裸REKISIS
 原石岡井熊功吉原麻美川辺隆啓宮川啓魚上村園子古沢宗太郎河内舟子
 朝倉正博功美啓魚子太郎治

閉赤三春鹿朝断白黒礁波池湖月野草姉坐椎坂々作赤木埋池港葉或母二無高寮
 さい建人堤廠。上。庫。潮。高。鹿。犀。牛。原。弟。す。林。景。寺。村。晴。雄。沼。名。坂。千。吉。郎。内。藤。秀。夫。池。田。勝。之。助。上。田。康。雄。博。作。子。横。山。朱。實。無。題。向。井。久。万。原。信。太。金。昌。朝。倉。太。金。昌。琪
 村山好生

群初洪新天青鳥工工春馬つ瀬川家滯正馬鶴海白午花池拳裸将工町夜夜休廻裸
 鳥。夏。水。新。天。青。鳥。工。工。春。馬。つ。瀬。川。家。滯。正。馬。鶴。海。白。午。花。池。拳。裸。将。工。町。夜。夜。休。廻。裸
 吉岡堅二

岩頭布のミチコラリミチコ像
 内田巖遺作陳列
 室耕樹山海群或土河工婦蘇剝柿山
 内海老原德造

妻の像 野の光 故増田雅子
 作 品 1 2 3 4
 ひぐれの兄弟宮脇公實
 湖底の喪近藤正一
 機械王国 長野昭三
 夜とり A 渡部麗子
 無題 内田武夫
 露の命 田武夫
 稲妻 妻 妻
 遠い火 妻 妻
 樹上の孤児 妻 妻
 人物 A 三田 康
 姪の像 妻 妻
 人物 C 妻 妻
 倉庫の街と女 相原久太郎
 工 場 角田 郁夫
 寺院(クラルテ) 角 浩
 国立図書館 妻 妻
 寺院(ポルドウ) 妻 妻
 公園の噴水 妻 妻
 ローズ色の群像 長野たみ子
 水に映る工場 安保健二
 黒い煙突 妻 妻
 Metamorphose 城口 幸男
 帰り道 荒井 茂雄

日のあたる場所 荒井茂雄
 て猫をだく女 加藤金一郎
 作 品 A 寺戸恒晴
 進 行 寺戸恒晴
 集 い 松田 穰
 秋 景 萩 照正
 風 景 戸田 綾子
 籠を持つ女 野中一二三
 デイゼル汽罐 野中一二三
 白い建物の風景 三澤 弘
 石室の中のはに 新井理夫
 室内の女 矢島綾子
 竹 坂井範一
 と き 松山幾三郎
 戦歿学徒遺稿素 福原大造
 描より 福原大造
 ベンチ 井村 恵一
 製氷工場 A 糸田 芳雄
 働 く 人 小磯 良平
 壺のある場所 中村 善一
 或る裏街 杉原 香子
 街 子 服部 和益
 母 子 服部 和益
 三 つ の 卵 服部 和益
 静 物 横井 正子
 足 と ハト 伊藤 継郎
 ハ ト A 伊藤 継郎
 裸婦 D 有賀 良治
 黒のフォルネット 灘波 秀二
 魚のある静物 安保 淑子

夜作 齋藤孝利
 舟作 柴田 徳
 造 型 I (作画) 室田 豊四郎
 猫 犬 島 瀬島 好正
 目 玉 焼 室田 豊四郎
 ヨ ッ ト 室田 豊四郎
 木 と 裸 婦 和田 久
 室 内 野 中 進
 鳩 舎 大 磐 玲子
 伝 説 (母の話) 石原 薫
 鎮 魂 歌 有 安 隆
 埋 葬 有 安 隆
 基 礎 工 事 川 端 實
 レールと人 川 端 實
 工 夫 川 端 實
 工 場 川 端 實
 文 字 の 家 浜口 忍翁
 作 品 A 鎌田 正蔵
 追いつめられた 深尾 庄介
 鏡 の 中 深尾 庄介
 縦 の 構 図 安 藤 勲
 駅 と 馬 後藤 壽 眠
 室 内 荻 太 郎
 Cabinet 内 荻 太 郎
 帆 長田 重男
 裸 婦 C 村尾 絢子
 港 しなき命 太田 博
 涯 大住 閑子

輝く太陽 大住 閑子
 受 難 大住 閑子
 少女の死 山 東 洋
 鳥に集う 鈴木 房子
 「ほりと」はし 鈴木 房子
 造 船 所 武井 佐智子
 牛 と 少 年 大崎 泰
 風 景 沖 中 宏
 婦 人 像 加藤 毅
 人 魚 茂木 稔
 女 二 人 網谷 義 郎
 海岸の町 熊木 利一
 黒い鳥の死んで いた町 熊木 利一
 自 転 車 金子 隆一
 夜の線路 増永 直樹
 房州紀行 岡田 正二
 河岸の工場 新 晴 明
 作 品 I 矢津 柄 紀
 幻 想 小 山 良 彦
 ロ 記 小 山 良 彦
 パ リ ス の 誕 生 畑野 玉次郎
 プリンスの誕生 畑野 玉次郎
 二 人 堀木 勝 富
 浜 辺 B 宮原 武 義
 グロリア 齋藤 正 夫
 重 い 静 物 郷 義 郎
 意 志 合田 小三郎
 読 書 大川 三平
 鳥 の 出 と 魚 山本 峯 生
 月の出と魚 山本 峯 生

風 景 山下 充
 花とビーナス 富家 貞男
 滞 客 浮田 克 躬
 観 小 野 忠 重
 港 客 江村 達 哉
 訪れた子 小野 忠 重
 スーベニール 毛 利 照
 或る風景より 宇佐 美 忠 雄
 マンドリンとロ 川路 美 鈴
 月 東本 つ ね
 街 も 齋藤 孝 利
 え も の 東本 つ ね
 少女の死 宮下 美 子
 黄色の世界 西田 紘
 ゆめの島 西田 紘
 夏 (彫刻) 伊東 傀
 立 像 伊東 傀
 家 族 像 菊池 一 雄
 かあさん鳥 上田 鷹 市
 魚 野口 阿 久
 小デリアナ 明田 川 孝
 郵便配達人 I 氏 芥川 永
 カ ン ナ 舟越 保 武
 魚 西 常 雄
 若 い 女 西 常 雄
 年 老 い た 男 山本 格 二
 男 山本 格 二
 画家の貌 佐藤 忠 良
 瘦 せた 女 佐藤 忠 良
 裸 の 若 者 阿部 米 藏
 青年の首 阿部 米 藏
 海 (エスキース) 早川 巍 一 郎

愛 耳 老。村田勝四郎
 或る主題のため
 青 春
 なごむ 春
 おこばの首内田英也
 裸婦習作嘉野稔
 S トンボのトルス 井岡俊子
 男のトルス 明珍昭二
 首 サカス後藤光行
 つぶさん内田曙
 肉屋の娘 石田武至
 立 像 近藤鑑郎
 H 倒立三角 岡山明
 小暗い場に高雄自治
 習 作 照井榮
 立 像 石場清四郎
 H 氏 像 今泉節子
 達 氏 像 吾妻兼治郎
 オランダの水夫 吾妻兼治郎
 裸 婦(A) 吾妻兼治郎
 シ 婦(B) 吾妻兼治郎
 首 (習作B) 小井田佳穂
 軍 (習作B) 初馬正治
 ト ル 鶏 豊福知徳
 立 ち あ が る 池田長健
 首 池田長健
 牡 牛 藤井利一
 T 吉岡茂代
 女 小坂圭二

首 仔を待つ 井山金一
 習 作 白崎金次郎
 首 仲本道弘
 首 本田明二
 首 鳩座 手島脩
 女 座 像 五十嵐芳三
 青 年 像 松崎利郎
 ト ル 像 瀧山茂男
 男 人 像 T 瀧山茂男
 職 人 像 土谷武
 裸 婦 像 大國丈夫
 夜 ル 宴 伊藤審
 裸 婦 習 作 伊藤達也
 S ト ル 像 濱岡登美子
 ト ル 像 高橋清
 F 子さんの首 高橋清
 女 の 首 加藤昭男
 ト ル 首 中澤暹
 女 の 首 岡本庄三
 テラコッタ 首 岡本庄三
 裸 婦 像 久保孝雄
 シ 首 久保孝雄
 坐 像 久保孝雄
 膝をつく裸婦 田畑一作
 習 作 鳥居昌枝
 黒 い 首 永田大石
 作 品 D 田村興造
 首 品 M 長島伸夫
 自 刻 像 松村禮一
 鯉 刻 像 古屋太郎
 青 年 吉田芳夫
 子を守る母たち 山内壯夫

母と子と。本郷新
 鳩 け ナ 山本常一
 か け ナ 山本常一
 アヒルのヒナ 武次郎
 首 H 武次郎
 首 T 武次郎
 裸 婦 武次郎
 (建築)
 小 橋 子 岩崎信治
 ロビー家具(ホモゲンホルツによる構成)
 小椅子 試作 渡部壽美子
 スポット用ブラケット器具(同種二点) 佐々文夫
 フロアスタンド(同種二点) 松村勝男
 組立イス 松村勝男
 箱を分解して箱におさめた処
 住宅 試案 毛利武信
 ラブシート 渡邊優
 KOPFURNITURE(ソファベッド)及び附属テーブル、説明用パネル 小川耕一
 小住宅におけるスクリーン(フアンチユア) 山口勇次郎
 水族館(AQUARIUM)の住宅 森野正清
 ティーブル 植熊弦一郎
 サイドテーブル 猪熊弦一郎
 テーブル 猪熊弦一郎
 椅子(3) 猪熊弦一郎
 アケサイドテーブル 猪熊弦一郎

N市公会堂。池邊陽
 住 宅 No.14 子 吉村順三
 No.15 子 谷口吉郎
 国立科学博物館 谷口吉郎
 理工学科館(図) 谷口吉郎
 8枚 石川県織維会館
 模型 東京都市舎 丹下健三
 外務省庁舎計画 案 丹下健三
 松山市体育館 山口文象
 大日本製糖株式 山口文象
 会社堺工場 山口文象
 大 久 保 郎 山口文象
 土 田 郎 山口文象
 あるファッションショウのための舞台装置 所担当 三輪正弘
 瀧泉郷(伊東) 岡田哲郎
 武藤野(箱根) 岡田哲郎
 居間の家具 劍持 勇
 Living Furniture 劍持 勇
 ひくい椅子 劍持 勇
 小さい椅子 劍持 勇
 丸テーブル 劍持 勇
 角テーブル 劍持 勇
 戸 欄 劍持 勇
 その他アクセサリ(竹敷物クッション等) 劍持 勇
 2回 INING 日本画展 21-26
 日本橋・丸善 [批]産経30
 加藤唐九郎新作陶藝展 21-25
 黒田陶苑
 2回創作工藝展 21-29 和光
 [記]工藝ニュース12月

齋藤博之個展 21-26 サエグ
 開国百年記念文献展 21-26
 日本橋・丸善
 田中岑個展 21-30 タケミヤ
 [批]産経30、美術批評11月(針生一郎)
 鈴木千久馬油絵展 22-27 日
 本橋・三越 [記]サン25(金子義雄)
 羽陽美術クラブ秋季展 22-27
 上野・松坂屋
 秋陽美術展 22-30 銀座・松
 屋 [批]産経30
 赤松雲嶺新作個展 22-27 大
 阪・高島屋
 上田清一油絵個展 22-27 大
 阪・大丸
 武者小路実篤小品展 22-27
 大阪・阪急
 25回青龍社展 22-27 京都・大丸
 草間章展 23-30 神戸・新光
 商会ギャラリー
 3回清瓊会日本画展 23-10月
 1 大阪・三越
 羽藤馬佐夫個展 24-30 資生
 堂 [批]産経30
 前田玄武日本画展 24-25 大
 阪・大丸
 泉茂近代個展 24-28 大阪・梅田画廊
 5回記念白鷺会展 24-30 大
 阪市立美術館

- 1回三黄金洋画展 25—30 銀座
- 座・松坂屋 (批)産経30
- 木村莊八「花の生涯」挿絵展 26
- 30 日本橋・白木屋
- 黒田久美子個展 28—10月3
- 日本橋・丸善 (批)産経30
- 藤島武二水彩・バステル・素描展 28—10月7 阿部善清堂
- [批・記]産経30、東京10月6
- (岡本謙次郎)、時事6
- 日本陶彫会展 29—10月4 日本橋・三越 [批]産経17(横川毅一郎)
- 和額展 29—10月3 岡山・金剛荘
- 十月会洋画展 29—10月4 上野・松坂屋
- 二一世紀青年美術協会展 29—10月3 サエグサ
- 25回青龍社展 29—10月4 大阪・大丸
- 田村孝之介滞欧作品展 29—10月4 大阪・阪急
- 武者小路実篤、真垣武勝油絵二人展 29—10月4 京都・大丸

読売9月30 対談 志賀直哉 梅原龍三郎 福島繁太郎	毎日3	時事5 (利根山光人、福島辰夫)	読売夕刊5 (佐藤春夫)	6 (草野心平)	7 (里見勝蔵)	9 (猪熊弦一郎)	東京10、13 (中川一政)	朝日13 (唐木順三)	14 (川島理一郎)	読売13 (阿部知二)	読売夕刊21 (広津和郎)	24 (長興善郎)	27 (高見順)	出品目録	死せるキリストと泣く聖女達	素描 一六五	白を挽くサムソンの素描No.1	No.2	No.3	No.4	パリのセエヌ河水彩 一六二	聖書より	グワッ	乳母	一六三	女の道化	グワッ	一六五	磯末	グワッ	一六六	場末	水彩	芝居の呼込	グワッ	裸体	シユワッ	日経11 (福島繁太郎)	産経9 (柳亮)	ルオ一展 1—11月15 表慶館 (批・記)
----------------------------	-----	------------------	--------------	----------	----------	-----------	----------------	-------------	------------	-------------	---------------	-----------	----------	------	---------------	--------	-----------------	------	------	------	---------------	------	-----	----	-----	------	-----	-----	----	-----	-----	----	----	-------	-----	----	------	--------------	----------	------------------------

芝居の呼込	油絵 一六六	道化	グワッ 一六〇	郊外のキリスト	シユワッ 一六〇	道化横顔	シユワッ 一六〇	大きな人形	シユワッ 一六〇	赤い鼻	シユワッ 一六〇	少女像	シユワッ 一六〇	青い鼻	シユワッ 一六〇	踊り子	グワッ 一六〇	キリスト両面	グワッ 一六〇	キリストの顔	グワッ 一六〇	サルタンバンク	油絵 一六〇	女の道化	グワッ 一六〇	キリストの顔	グワッ 一六〇	女の顔	グワッ 一六〇	裸婦群像	水彩 一六〇	裁判官	油絵 一六〇	死の川	グワッ 一六〇	ピエロと少年	グワッ 一六〇	三人の裁判官	油絵 一六〇	われらのジャンヌ・ダルク	グワッ 一六〇	キリストのまど	グワッ 一六〇	いいマルタ・マリア家のキリスト	グワッ 一六〇	キリストの顔	グワッ 一六〇	ヴェロニカ	グワッ 一六〇
-------	--------	----	---------	---------	----------	------	----------	-------	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	---------	--------	---------	--------	---------	---------	--------	------	---------	--------	---------	-----	---------	------	--------	-----	--------	-----	---------	--------	---------	--------	--------	--------------	---------	---------	---------	-----------------	---------	--------	---------	-------	---------

天上の星	油絵 一六〇	エジプトへの逃	グワッ 一六〇	寺院の内部	グワッ 一六〇	平和	グワッ 一六〇	ペドロ	グワッ 一六〇	歌う仲間	グワッ 一六〇	避難する人	グワッ 一六〇	横顔	グワッ 一六〇	十字架のキリス	グワッ 一六〇	頭固親分	グワッ 一六〇	ヴェテラン	グワッ 一六〇	ヨルダンの河辺	グワッ 一六〇	テレジーナ	グワッ 一六〇	キユメの巫女	グワッ 一六〇	(シヴァール)	グワッ 一六〇	花	グワッ 一六〇	ピエロ	グワッ 一六〇	エバ	グワッ 一六〇	キリスト受難	グワッ 一六〇	救われざる王	グワッ 一六〇	古い場末	グワッ 一六〇	悲しみの場末	グワッ 一六〇	ピエロさん	グワッ 一六〇	セラフィヌ	グワッ 一六〇	(古い)旅曲馬団	グワッ 一六〇	オネジス	グワッ 一六〇	小さなルキ	グワッ 一六〇	月光	グワッ 一六〇	秋	グワッ 一六〇	晩	グワッ 一六〇
------	--------	---------	---------	-------	---------	----	---------	-----	---------	------	---------	-------	---------	----	---------	---------	---------	------	---------	-------	---------	---------	---------	-------	---------	--------	---------	---------	---------	---	---------	-----	---------	----	---------	--------	---------	--------	---------	------	---------	--------	---------	-------	---------	-------	---------	----------	---------	------	---------	-------	---------	----	---------	---	---------	---	---------

晩秋No.4	油絵 一六〇	キリストのまど	グワッ 一六〇	子供	グワッ 一六〇	甘きかなしみ	グワッ 一六〇	葉子	グワッ 一六〇	この人を見よ	グワッ 一六〇	晩秋No.3	グワッ 一六〇	たそがれ	グワッ 一六〇	エジプトへの逃	グワッ 一六〇	亡	グワッ 一六〇	むなしき夢	グワッ 一六〇	T. ahuri	グワッ 一六〇	晩秋No.2	グワッ 一六〇	風景	グワッ 一六〇	青髯	グワッ 一六〇	デ・プロフンデ	グワッ 一六〇	イス	グワッ 一六〇	ヴェルサイユ	グワッ 一六〇	風景	グワッ 一六〇	馬の子	グワッ 一六〇	美術家の像	グワッ 一六〇	ヴェルレエヌ	グワッ 一六〇	ヒンデンブルグ	グワッ 一六〇	十字架のキリスト	グワッ 一六〇	秋	グワッ 一六〇	死の川	グワッ 一六〇	リトグラフ	グワッ 一六〇	外	グワッ 一六〇	「受難」のための色彩エッチ	グワッ 一六〇	「エビユ親 再来」のための	グワッ 一六〇	銅版	グワッ 一六〇
--------	--------	---------	---------	----	---------	--------	---------	----	---------	--------	---------	--------	---------	------	---------	---------	---------	---	---------	-------	---------	----------	---------	--------	---------	----	---------	----	---------	---------	---------	----	---------	--------	---------	----	---------	-----	---------	-------	---------	--------	---------	---------	---------	----------	---------	---	---------	-----	---------	-------	---------	---	---------	---------------	---------	---------------	---------	----	---------

親しき思い出
自 画 像
裸婦(リトグラフ)
リトグラフ
シ

「自画像」着色リトグラフ
リトグラフ手彩色
ミゼレレ(リトグラフ)
エマイユ・本
エマイユ
エマイユ
挿 絵 本
坂本善三、赤星孝二人展 1
5 資生堂
小磯良平バステル素描展 1
6 兜屋
ユネスコ世界学童美術展 1
7 ブリヂストン

〔記〕
毎日9月—20、21、22、23、
24、25、27、29、30
インド文化展 1—11 上野・
松坂屋
丸の内クラブ南画展 1—3
中央公論社画廊
大川三平個展 1—10 タケミ
ヤ〔批〕美術批評11月(鶴岡
政男)
博物館特別名作展観 1—10
東京国立博物館
8 回行動美術展 1—11 大阪
市立美術館
佐藤眞一個展 1—6 大阪・
梅田画廊〔批〕美術批評11月

(杉本龜久雄)
大阪新刀名作展 1—11月8
大坂市立美術館
名刀武器工藝展 1—31 大阪
城天主閣
白鶴美術館秋季展—中国洛陽郊
外金村古墓出土品、中国・日
本の仏教美術— 1—11月3
神戸・白鶴美術館
桃山時代を中心とする茶陶名品
展 1—20 奈良国立博物館
光風会々員展 2—10 光風会
館
33 回平安書道展 2—4 京都
市立美術館
元祿美術展 3—20 日本橋・
白木屋
雪舟、雪村他雲谷派名作展 3
—20 酒田・本間美術館
高澤七郎漆絵展 3—8 大
阪・三越
潮会洋画展 3—8 大阪・松
坂屋
現代大家陶藝展 3—8 大
阪・高島屋
榊原紫峰、富本憲吉作画展 3
—9 大阪・高島屋
小林和作個展 5—10 中央公
論社画廊
〔批・記〕
朝日7(仲田定之助)
毎日6
美術批評11月(今泉篤男)
青峰重倫個展 5—10 日本

橋・丸善
大虚会日本画展 5—8 日本
橋・丸善
谷角日沙春作品展 5—10 日
本橋・丸善
5 回レジュミ展 5—9 京都
府ギヤラリ
現代瀬戸陶藝家作品展 5—15
大阪第一生命ビル
田中太郎陶磁器油絵個展 5—
15 大阪第一生命ビル
墨跡名宝展—菅原通濟蔵— 6
—11 日本橋・三越
中国古代金石拓本展 6—11月
25 鎌倉・近代美術館
初山七重個展 7—10 フォル
ム〔批〕毎日8、美術批評11
月(植村鷹千代)
風霜会日本画展 6—11 日本
橋・三越
濱田哲郎個展 6—9 資生堂
オランダ版画展 6—25 大阪
市立美術館
坂根福寿油絵個展 6—11 大
阪・阪急
島成園近作個展 6—11 大
阪・大丸
バーナード・リーチ名作鑑賞展
6—11 大阪・阪急
三輪兆勢個展 6—11 京都・
大丸
稀星会油絵展 7—11 日本
橋・高島屋
宋瓷名品展 7—10 壺中居

安井曾太郎、安田靉彦、三宅克
己自薦展 7—11月25 鎌
倉・近代美術館
中筋幹彦個展 7—10 サエグ
サ
吉川靈華展 8—17 阿部養清
堂
松山茂助欧米スケッチ小品展
8—10 兜屋
21 回独立展 9—26 東京都美
術館
〔受賞・新準会員〕
独立賞—水島清、入江一子、
西山舜之助、飯田實雄、小
原稔、米原智、吉田俊雄
新人賞—岩間正男
ブルーザー賞—松樹路人、芝
田耕、来栖重朗
新準会員—鐵指公藏、池田林
一、芝田米三
〔批・記〕
毎日13(土方定一)
東京日々13
朝日13(植村鷹千代)
サン16(金子義雄)
産経16(柳亮)
東京18、19(今泉篤男)
日経19(福島繁太郎)
時事21
東京4
産経20(大久保泰)
毎日24
美術手帖12月

みづる12月(柳亮)
出品目録
。印会員、△印準会員
無のぼり△仲村一男
花物 C 米原 智
静 D 西山舜之助
夜の子 松島一郎
海ときね。松島一郎
白とぎね。松島一郎
鍛冶屋 児島善三郎
ダリ ヤ。児島善三郎
立雲 菊地精二
裸婦(B)。菊地精二
少女 岩間正男
裸婦(A) 松樹路人、芝
母 田耕、来栖重朗
海 池田林一、芝田米三
水 池田林一、芝田米三
日 池田林一、芝田米三
蕨 池田林一、芝田米三
青の静物 林成巳
月の橋。高橋忠彌
月の箱 高橋忠彌
静物 市川克巳
裸婦 杉内忠男
静物 杉内忠男
静物 杉内忠男
静物 杉内忠男
群像 岩間正男

秋 三 三 秋
 まわり A 歳 田 亨
 原 空 野 末 人
 象 池 田 林 一
 地 田 田 林 一
 中 田 中 舍 密
 祭 田 中 舍 密
 風 祭 田 中 舍 密
 夜 祭 田 中 舍 密
 造 船 所 風 景 鐵 指 公 蔵
 石 垣 の 村 錦 織 恭 一
 港 錦 織 恭 一
 人 形 安 田 謙
 午 徒 益 田 遠 吉
 女 徒 益 田 遠 吉
 風 徒 益 田 遠 吉
 習 徒 益 田 遠 吉
 静 徒 益 田 遠 吉
 鳥 徒 益 田 遠 吉
 女 徒 益 田 遠 吉
 ひ 徒 益 田 遠 吉
 静 徒 益 田 遠 吉
 湖 徒 益 田 遠 吉
 山 徒 益 田 遠 吉
 静 徒 益 田 遠 吉
 花 徒 益 田 遠 吉
 河 徒 益 田 遠 吉
 牛 徒 益 田 遠 吉
 暮 徒 益 田 遠 吉
 テ 徒 益 田 遠 吉
 風 徒 益 田 遠 吉
 室 徒 益 田 遠 吉
 花 徒 益 田 遠 吉
 夏 徒 益 田 遠 吉

馬 中 津 瀬 忠 彦
 C 中 津 瀬 忠 彦
 A 武 田 正 人
 B 武 田 正 人
 池 武 田 正 人
 水 武 田 正 人
 魚 武 田 正 人
 静 武 田 正 人
 煙 突 の ある 風 景
 花 武 田 正 人
 風 武 田 正 人
 草 上 の 会 話
 砂 丘 尾 正 彦
 白 日 中 天 に 在 り
 お 茶 工 場 八 木 昌 一
 江 の 浦 風 景 八 木 昌 一
 駅 頭 薄 暮 鈴 木 栄
 森 の ある 風 景 河 原 新 一
 曲 芸 西 田 良 三
 静 物 B 織 田 繁
 憩 居 串 佳 一
 裁 物 牧 野 正 則
 静 物 牧 野 正 則
 風 景 山 中 馨
 栗 の 木 の 道 鈴 木 保 徳
 青 華 鈴 木 保 徳
 坂 路 鈴 木 保 徳
 老 婦 人 像 鈴 木 保 徳
 手 風 琴 鈴 木 保 徳
 化 粧 野 主 哉
 キ ー ル 湾 菅 野 主 哉
 ハ イ デ ル ベ ル グ 菅 野 主 哉
 静 物 菅 野 主 哉

ボ ン 菅 野 主 哉
 ハイ デ ル ベ ル グ 菅 野 主 哉
 丘 陵 菅 野 主 哉
 ビ ル バ オ 菅 野 主 哉
 白 都 里 オ 菅 野 主 哉
 モ ン プ ラ 菅 野 主 哉
 プ レ ー メ ン 菅 野 主 哉
 ノ ー ト ル ダ ム 高 昌 達 四 郎
 街 コ ロ ネ ー シ ョ ン 高 昌 達 四 郎
 河 パ リ の 遊 覧 船 高 昌 達 四 郎
 瓶 物 B 佐 藤 辰 治
 静 物 佐 藤 辰 治
 裸 婦 図 藤 岡 一
 朝 鮮 扁 壺 安 岡 陽 三
 鎌 倉 風 景 安 岡 陽 三
 静 物 A 濱 田 孝
 静 物 濱 田 孝
 白 い ベ レ ー 大 久 保 泰
 裸 婦 大 久 保 泰
 少 年 益 田 遠 吉
 魚 の ある 静 物 益 田 遠 吉
 花 束 と 貝 鬼 木 美 代 子
 網 と 青 年 山 中 徳 次
 海 の 仲 間 山 中 徳 次
 橋 の ある 静 物 佐 野 比 呂 志
 卵 の ある 静 物 鈴 木 武
 室 内 岡 部 繁 夫
 赤 い 太 陽 岡 部 繁 夫
 港 の 夏 島 村 三 七 雄
 真 鶴 港 島 村 三 七 雄
 裸 婦 志 村 計 介

少 女 志 村 計 介
 温 室 B 水 野 恭 子
 月 恩 田 秋 夫
 川 吉 野 公 脩
 羈 旅 西 田 哲 郎
 運 河 の 街 永 井 功
 花 代 高 須 鞆 子
 古 田 中 佐 一 郎
 狂 言 田 中 佐 一 郎
 婦 人 像 菊 地 忠 彦
 家 族 習 作 菊 地 忠 彦
 和 具 の 港 赤 尾 長 二
 樂 師 五 木 繁 志
 海 辺 望 月 鏡 一
 二 人 望 月 鏡 一
 卓 上 果 実 赤 堀 佐 兵
 郊 外 ノ 工 場 赤 堀 佐 兵
 畑 地 松 島 正 人
 岸 壁 松 島 正 人
 埋 立 地 松 島 正 人
 建 物 松 島 正 人
 雨 後 宮 之 原 親
 器 具 と 空 間 細 野 猛
 煙 突 の ある 風 景 佐 々 木 弘
 工 場 の 見 える 風 景 佐 々 木 弘
 景 佐 々 木 弘
 サ ー カ ス C 大 越 宏 純
 ガ ラ ス 工 場 A 大 越 宏 純
 仕 度 小 島 善 太 郎
 猫 小 島 善 太 郎
 静 物 小 島 善 太 郎
 晩 秋 の 山 小 林 和 作
 海 山 小 林 和 作
 十 和 田 湖 林 武

横 向 少 女 林 武
 十 和 田 湖 林 武
 裸 婦 中 間 冊 夫
 風 景 金 澤 謙 太 郎
 パ ン の ある 静 物 金 澤 謙 太 郎
 冬 景 岡 秀 四 郎
 S 工 場 裏 春 日 部 洋
 三 宅 島 の 原 始 林 小 原 雄 二
 椅子 に よ れ る 小 原 雄 二
 椎 の 木 の 原 始 林 小 原 雄 二
 家 (B) 平 林 克 之
 南 瓜 の ある 静 物 菊 川 洋 子
 花 の 家 鈴 木 泰 正
 丘 の 道 飯 田 健 治
 黄 色 い 道 飯 田 健 治
 櫛 山 下 充
 F 町 展 望 鈴 木 栄
 魚 展 望 鈴 木 栄
 か ぼ ち や 入 江 一 子
 海 (白 浜 風 景) 小 西 治 男
 香 住 風 景 大 久 保 正 義
 ト ン ネ ル の 上 の 木 村 昭 二
 町 木 村 昭 二
 鯖 田 中 憲 一
 残 冬 高 野 次 郎
 内 海 風 景 西 村 武 雄
 台 北 風 景 (2) 新 見 棋 一 郎
 石 膏 像 と ヴ ァ イ オ リ ン 櫻 井 寛
 冬 の 帝 釈 徳 永 豊
 制 服 の 女 中 村 節 也
 爽 秋 の 浅 間 中 村 節 也

美術展覧会(10月)

二二七

風景(トンネル) 新田三喜
廊下 高橋弘二
夕日 高橋弘二
狸穴 高橋弘二
畑 高橋弘二
狸穴風景 鳥海青児
あおぎり 齋藤求
ひまわり 齋藤求
木やり 長谷川善四郎
波止場風景 若狭眺男
鳥羽港 池上三郎右衛門
マンントの女
坐像 松島鈴子
N夫人像 松島鈴子
静物 櫻井浜江
人面 藤原常次
舞台 山内善昭
運ぶ 吉村やす子
玉葱 吉村やす子
普門院茶房 吉村やす子
那須山晩夏 清水鍊徳
名松・金剛峯寺 清水鍊徳
とりとり 高畑正明
踏台のある静物 岩部定男
裸婦 佐野益男
ストロブ 佐野益男
画架 佐野益男
レモン絞り 佐川敏子
風景 A 本楚都志子
トビタ附近 丸谷幸治郎
室内 朝比奈靖司
ストロブのある 朝比奈靖司

馬込風景 鈴木正彦
風景(北野) 齋藤紅一
かんな 寺尾半次郎
静物(A) 大阿久恒章
花と裸婦 市村力
風景 門林典次
ニコライ堂 片野八重子
池小鳥と共に 佐藤志呂終
小鳥と共に 大和久昭志
禽舎 木村英雄
魚と果物 木村英雄
Y子像 野坂八重
函館港 矢崎牧廣
札幌の街 湯浅栄一
大山々 湯浅栄一
静物 町田京子
黒卓 額田晃作
子ども 辻正人
舟ノライ堂 大森房之助
麓の町 原晃一郎
冬空 後藤孝三
花空 後藤孝三
月影 鶏川誠一
ボタ 須田國太郎
マナヅル 須田國太郎
走鳥 須田國太郎
イヌワシ 須田國太郎
漁家 齋田武夫
花と女 西田蔵次郎
人と魚 B 西田蔵次郎

婦人 永井宏
月夜 奥村日出雄
花と金魚鉢 奥村日出雄
牛と農夫 奥村日出雄
朝の対話 奥村日出雄
広場の朝市 奥村日出雄
エチニード(I) 木下陸
風景(A) 佐々木毅
静物 B 織田昇
二人の女 後藤可與子
ミドリの上衣 伊東郁三郎
裏庭 岩瀬憲一
卓上 芝田米三
窓際の静物 芝田米三
夏夜 斑目秀雄
只川 斑目秀雄
裸婦 岡部文之助
羅白 岡部文之助
羅白 岡部文之助
雨岳 洲崎勇
飯田橋風景(2) 洲崎勇
三宅島原始林A 石上泰三
風影(2) 山下武夫
窓辺 山下武夫
静物 井上成一郎
静物 井上成一郎
静物 井上成一郎
静物 井上成一郎
機関庫(1) 武田諒治
森の秋 A 森竹五郎
街川風景 松岡祥
掛川風景 河口淳太郎
少年の風景 倉沢國夫
港の見える風景 吉田穂雄

初秋の垣根 正木智海
風景 B 藤晴巳
長崎風景 伊藤彪
新橋風景 伊藤彪
長崎風景 伊藤彪
静物 D 森川豊子
運河と工場 坂井政雄
建物 C 西山康三郎
風景 多田千代治
風景 多田千代治
早春山麓 小松恒太郎
二丘 小松恒太郎
砂丘 A 小松恒太郎
砂丘 B 小松恒太郎
横向 小出三郎
立か 小出三郎
腰かけ 小出三郎
静物 坂本善三
扇の裸婦 足達襄
鳥のある静物 足達襄
土手のしげみ 黒田秀道
漁港にて 黒田秀道
静物 吉浦愛子
木箱の上の静物 吉浦愛子
本箱の上の静物 吉浦愛子
小さな港 龜山全吉
荒園 橋本昭
コンポジション 岸正豊
古い工場 田名網敬一
静物 鎌田和子
二人裸婦 鳥居敏文
作業場一隅 鳥居敏文

工房群像 鳥居敏文
金谷風景 A 小田切正
高松風景 A 小田切正
友達寺 澤安三郎
風景 坂田武夫
西濃町風景 香川孝夫
信濃町風景 香川孝夫
倉沢風景 川戸二郎
沢風 川戸二郎
静物 正信茂登喜
静物 正信茂登喜
室内 萩原卓也
往還 北山茂
造船場附近 柳澤真一
若松洞海湾 池田実人
造船 池田実人
街所 中島靖侃
自画像 B 江口良
朝日山麓 江添栄一郎
朝日山麓 江添栄一郎
井戸と母子 堀越鬼
河口風景 市川正三
雨室にて 斎藤満温
画室にて 山本照巳
三人(A) 山本照巳
愁籠のある静物 岡田寿子
鳥籠のある静物 岡田寿子
海女の構図 松尾一枝
鳥籠 松尾一枝
浜の男 熊谷登久平
柿実る出羽路 熊谷登久平
春のたそがれ 熊谷登久平
朝の海 中村善種

造 船 所。中村善種
 漁 物 D 河村 春
 静 物 青木四郎
 ハルピン風景 中野和枝
 かぼちや B 高崎文夫
 静 物 B 土橋啓次
 横臥裸婦 黒木辰男
 晴まの午後 黒木辰男
 海辺の牛 B 寺林金次
 工 場 海本 健
 二 人 辻 茂
 森 岡本至公
 波止場風景 佐々木栄一
 臥せる人たち 浜田重雄
 舟のある風景 有馬良昨
 ションのコンボジ 坂井俊雄
 三人のコンボジ 坂井俊雄
 人を待つ 大庭シツ子
 裏 街 神保 亶
 戒 橋 平井光 亶
 業 宮崎精一
 農 具 下川都一朗
 壺を作る人 シ 藤井浅太郎
 街 (B) 内田慎蔵
 木 挽 長谷羊子
 ダリ ヤ 溝部嗣雄
 工 場 (A) 山川磐夫
 少 女 像 西さだ子
 にわとり 吉松真司
 ベンチの女 中村 弘
 陸に上った船 中安 徹
 羅 漢 B 中安 徹

三 羽 龜 澤 妙 子
 潮 岬 三 村 行 雄
 鐵 柱 古 川 吉 重
 工 事 場 松 原 久 明
 室 内 高 橋 好 文
 待つてゐる椅子 大 沼 亮 之 助
 風 景 C 木 村 茂
 炊 事 場 中 山 春 子
 外 人 墓 地 中 村 幸 平
 工 場 永 見 泰 之
 生 き る 西 野 久 子
 室 内 米 田 持
 静 物 荒 井 勝 子
 女 帽 子 を 持 て る 少 女 荒 井 勝 子
 月 の 出 江 口 賢 一
 雪 の ボ タ 山 新 開 益 次 郎
 彼 岸 A 土 肥 信 一
 鍛 冶 屋 小 田 正 春
 船 有 る 風 景 山 本 耀 也
 想 の 風 景 岡 本 美 津 子
 里 の 風 景 山 田 康 雄
 藍 の 風 景 西 条 茂
 農 民 と 太 鼓 (A) 加 藤 涓 一
 建 物 大 澤 作 蔵
 水 害 救 出 作 業 奥 野 弘 治
 長 崎 の 夏 A 江 島 和 男
 静 物 大 垣 泰 治
 静 物 篠 原 国 治
 厨 房 江 田 豊
 山 羊 と 母 子 岸 信 正 義
 野 須 永 正 道
 皮 革 工 場 米 原 二 郎
 三 人 伊 藤 秀 子

船を待つ人 矢野徳一
 門のある風景 斎藤 実
 漁 港 の 夕 陽 吉 田 肇
 勞 働 者 岡 本 ま こ と
 勤く人々(B) 森 田 喜 昇
 河畔の工場風景 内 田 公 雄
 木 立 ち 斎 藤 洪 人
 箕 面 四 宮 礼 吉
 春日部風景(5) 大 谷 幸 一
 収 獲 広 瀬 通 秀
 晩 春 の 畑 関 喜 一
 樹 工 場 須 藤 美 玲 子
 鐵 工 場 中 島 哲 郎
 静 物 龜 山 倫
 二 人 米 山 信 子
 風 景 (B) 獅 子 田 浩
 丘 の 景 山 田 国 夫
 風 景 影 堤 九 州 男
 鯉 の 景 宮 下 広 吉
 裸 婦 C 木 島 真 二
 秋 の 河 辺 (B) 岡 崎 善 夫
 秋 景 松 永 繁 雄
 石 棺 高 橋 佐 太 郎
 風 景 小 成 一 雄
 二 帆 小 林 敦 規
 機 帆 古 瀬 虎 麓
 作 品 A 今 西 政 司
 室内静物(B) 上 出 穂 美
 横 浜 風 景 (B) 菊 地 茂 雄
 静 物 浮 島 弘 行
 静 物 仲 村 俊 夫
 魚 静 物 大 淵 浚 治

船と魚なぞ 小泉秀夫
 鳩と少年 荒木アヤ子
 三ツノッポ 石田英吉
 教 子 の 像 森 永 風
 F 子 の 像 大 泉 い か り
 風 景 関 龍 夫
 市 場 藤 川 九 郎
 か ん な 栗 一 林 丈
 静 物 B 山 本 正 道
 よこれた建物 菅 原 稜 三
 蓮 花 石 崎 宏 矩
 淡 漑 船 等 青 山 岩 松
 少 女 像 国 村 芳 夫
 入 江 石 橋 幸 子
 クレインの見える風景 若 林 和 夫
 街 景 若 林 和 夫
 自 画 松 岡 真 男
 静 物 (魚) 佐 藤 洋
 石 炭 今 村 昭 寛
 鹿 と 蝶 熊 代 駿
 鉄 橋 古 田 茂 正
 女 物 井 出 陽 一 郎
 静 物 B 小 森 園 綾 子
 冬 景 田 中 栄
 駅前風景 井 手 誠 一
 街 景 世 利 徹 郎
 壺 工 場 小 津 卓
 ガ ス 工 場 大 鷲 豊 文
 Y 子 喜 多 健 男
 カンナのある静物 小 林 信 子
 壺 物 菊 地 敏 雄
 風景 (街) ヤ 山 下 一 子
 宮 本 安 広

波止場の人物 庭田定男
 作業のある風景 西 田 清
 下 町 風 景 梶 谷 寿 雄
 竹 林 西 村 雄 一
 M ち や ん 田 中 早 瀾
 横 浜 風 景 引 地 正 志
 工 場 地 帯 三 浦 照 子
 庭 高 岡 陸
 北海の漁夫達 横 森 政 明
 南 田 堂 佐 久 間 保 雄
 マンドリンのあ 木 村 健 治
 静 物 坂 本 保
 街 女 本 城 勇 夫
 庭 儀 殿 南 照 賢
 牛を購ふ人 原 田 直 実
 静 物 A 青 木 泰 子
 三 崎 風 景 植 松 真 治
 室 内 塚 田 と ほ る
 7 回 二 紀 展 9 - 26 東 京 都 美 術 館
 (受賞・新同人)
 二紀賞—三浦和志
 佳作賞—小林研三、西岡寛、
 海後五郎
 奨励賞—黒澤三郎、小林莊
 利、坂下清康、石腹悦三、
 佐野繁次郎
 同人努力賞—金田辰弘、原勝
 四郎
 同人賞—瀧川美一
 新同人—三浦和志、進藤信
 一、熊野俊市、中原四十二、
 齋藤慶男、小島謙、上島悦

三、松村三之、結田信、窪三郎、島田しづ、品川祐次郎、吉田富士夫、長野隆業、齋藤聖香、水野欣三郎、長谷川八十

〔批・記〕

毎日13(土方定一)

東京日日13

朝日14(植村鷹千代)

17(徳大寺公英)

産経16、17(柳亮)

東京18、19(今泉篤男)

日経19(福島繁太郎)

時事21

東京2、5

産経15(田近憲三)

毎日21

美術手帖12月

みづる12月(柳亮)

主要出品目録

。印同人

女と 布。児 玉幸雄

女と果物

道路工夫。伊藤歳夫

塗装工夫

女と乾物夜。島岡 実

画 家1。佐野繁次郎

ニ ユ1

室 内1

ニ ユ2

ヴルゴニーユの

女 エロ

ピ エロ

美術展覧会(10月)

画 家2。佐野繁次郎
マ ダ ム
ニ ユ3
堀 割。高山道雄
後 庭
断 層(赤)。山口操助
コンボジション。堀江万寿男
操 車 場
干物と月。近藤嘉男
夜
昼
現代の牧歌。古賀 肇
休 息。窪 三郎
卓上の魚
みどりの丘。結田 信
みどりの森A
もちつき。秋森久朗
S 港の突堤。西々木孔
S 港の突堤
日やとい労働者。西岡 寛
の肖像
木枯しの季節
海辺の静物。森本健二
台所の静物
金魚とカレー
鮮 魚
鳥 (A)。金田辰弘
 (B)

放 牧。森 英
ノサップ岬
積木をせがむ子。北村 脩
手 術
ス ー ドA。島田しづ子
秋の静物。鍋井克之
夜 の 窓
紀伊。勝浦港
梅林の丘
南紀。東白浜
いでゆのある山。岸岸義一
水
聊斎志異(鴛鴦 銭化)
野 (狐の夢)
赤 道
海辺のMONU。中西 勝
M E N T U
母子永遠
路 地帯。曾我芳子
工場公園3。土岐国彦
奈良公園
パイプと犬。三浦和志
裏 町
街 景
風 (彫刻)。中川為延
さみだれ。島あふひ
初夏の庭
築 土。大兼 実
正 倉 院

奈良の朝。大兼 実
蜜蜂の学校。成井弘文
パリのPar
ベットの風景
雨の野道。宮本三郎
モンマルトルの
家
モレーの道
シャルトルにて
トレドの道
石の丘
トレドの朝
石垣の家
果 も の。水清公子
牡 丹。黒田重太郎
函 嶺。雪
秋 果
枯山水石組
夏 人 像。原勝四郎
婦 人 像。原勝四郎
海 傍
路 と子供ら。中川紀元
花と風景
山村風景
夕陽の山
ニス山の村。佐伯米子
静 物
パ ラ
ダ リ ヤ
つ いらく。小林研三
鳥
水仙と牡蠣など。横井礼市

ヨットの浮ぶ声。横井礼市
熱帯の原始林
三 ツ 面
ヒヨコと老人
マヨルカ島の女。田村孝之介
港
アンダルシアの
娘
山の晩秋。栗原 信
支 笏
ピ ア ノ。石腸悦三
ア パ ー ト
ひばら湖。秋保正三
風 景
春 の 湖。坂 宗一
庭 朽 船。小島真佐吉
老 女と鶏
少 女の歌。加藤敏子
森 内の女
裸 童
笛 童
ガ ー ド。加藤秋夫
清 水 港
商 工 議 所
青 春(彫刻)。直鍋 忠
顔 (三人の子供)
夢野風景。品川祐治郎
氷 室 町
船 鉦。山田一雄

山 庭先の裸婦。山田一雄
 庭先の裸婦。井上安男
 寝覚の床
 毛皮の上の裸婦
 サークラスの女。林 健造
 サークラス
 フジの蒐集。吉田富士夫
 海の見える風景。黒澤三郎
 焚火
 画 学 生。鳥取 敏
 闘わぬ闘牛
 作品(C)。高階重紀
 店頭の印象。宮川 仁
 ポーズの印象
 庭の風景。堀澤好一
 静 物
 黒 衣。藪野正雄
 室 内
 椅子による
 ダリヤ。津田周平
 二つの椅子。津田周平
 漁 港
 石膏像のある静物
 とり小屋。久野修男
 あげ潮
 構 内。田邊栄次郎
 トランス。田邊栄次郎
 丘のまち。海後五郎
 植 輪。小林莊利
 塔岩流(松島)。上野與一郎
 球場と工場
 鏡 松田 豊
 猫

コンポジション。伊東市太郎
 昼の街。中原四十二
 白 船。築山節生
 防波堤。築山節生
 半島と船。濱田 信
 踊るコザック。濱田 信
 フォニソスの
 末裔
 御伽。熊野俊市
 赤ちやん
 M停車場の雪。山本秀臣
 不 安。鴨居 玲
 行 上島悦三
 La Victime。鈴木猛人
 窓辺の静物。中谷ミユキ
 静 物
 百花童女図。松村三之
 港の一隅。坂本益夫
 橋と木実。國松伽耶
 草 笛。丸樹長三郎
 陸橋附近
 夜の操車場。山本直治
 ねている山羊。森谷讓太郎
 踊る女達。山田 等
 いこい。芝野武男
 稲 田。松本正子
 山間の家。瀬尾 暹
 母 子。市野長之介
 兄 妹。宮永岳彦
 花 光。内海九郎
 漁 夫。藤村和生
 美術館の庭。安部治郎吉
 雪 景。安部治郎吉
 汚れた太陽。松岡寛一

作品 A。進藤信一
 静 物。齋藤慶男
 庭 西田静子
 黄色いジャケツ。奥村隼人
 作品(水)(彫刻)。長谷川八十
 好 日。水野欣三郎
 アトリエの一隅。遠山陽子
 少 女
 初夏の草丘。崎元八十八
 窓 辺
 山の池畔。早川貞明
 秋の陽。上原綾子
 海 底。真野佐左衛門
 作 品(1)。橋原祥太郎
 砂浴をする七面
 鳥
 雨の木津川泊船。清水茂郎
 猫 岩月虎雄
 Y 婦人像
 爐 辺(夜)。岡田登志男
 恐 慌。白銀 功
 海 辺。坂下清康
 家 族。戸島孚雄
 パレリーナ。伊川 寛
 ふるさと。小島 謙
 夜
 女 (1)(彫刻)。佐野繁次郎
 (2)
 (3)
 (4)
 (5)
 E V A。瀧川美一
 勤らく人々。藤田 禮
 兄 妹

幻想。安藤義茂
 寂 寞
 赤シャツの男。青木一男
 エトランジェ
 静 物。中野安治郎
 画 室
 化 粧
 Post (B)。神保俊子
 秋 果。伊藤泰造
 菊 正宗得三郎
 宿場の雨(大平 時)
 橄欖山のクリス
 レンゲ草
 御山乙女(1)
 白雲紅葉
 草刈乙女
 野の百合
 御山乙女(2)
 大平峠の若葉
 天池石壁(高青 邱詩意)
 母子像(彫刻)。齋藤聖香
 混血児
 17回自由美術展 9-26 東京
 都美術館
 (批・記)
 毎日13(土方定一)
 東京日々13
 朝日16(植村鷹千代)
 17(徳大寺公英)
 東京18、19(今泉篤男)
 日経19(福島繁太郎)
 時事21

一三二
 東京1
 毎日21
 産経21(柳亮)
 毎日22(佐波甫)
 産経24(佐波甫)
 美術手帖12月
 みづる12月(柳亮)
 主要出品目録
 鐘 三井滋夫
 ある窓 川口精六
 微笑 麻生三郎
 裸 物
 静 物
 北国の家 難波田龍起
 心象の街
 港の夜景 西田信一
 形 象
 秋夜の断想
 沼のあぶく 清水七太郎
 茶 池田淑人
 花 跡 A 野崎南海雄
 痕 跡 B 鐵生
 点 景 島 鐵生
 輪 と 裸 松本忠義
 卓 と 骨
 牛 クソツの埋葬 廣田嘉興
 少 女(A)
 母 子(B)
 分倍河原風景 久保田九一

裏街(北フラン)	松本 正子	青 年 像	藤田 清	工場の煙突	森 芳雄	墜ちた鳥	大野五郎	風景	赤衣の女	上原二郎	人とバクダン	家族	清希 卓	自然体の凝結	長谷川三郎	環 境	然 長	自 然	時 代	母 子	踊り遊び(石膏原形)	昆野 恒	海(セメント)	彫刻	クレー小舟(セメント)	彫刻	雨(マリオンネット)	彫刻	眠る人	小林 邦二	病む少年	鶴岡 政男	人間気化	末松 正樹	消 亡	小野 忠弘	せむし	花 火	樹 林(山麓)	小谷 博貞
----------	-------	-------	------	-------	------	------	------	----	------	------	--------	----	------	--------	-------	-----	-----	-----	-----	-----	------------	------	---------	----	-------------	----	------------	----	-----	-------	------	-------	------	-------	-----	-------	-----	-----	---------	-------

樹 林(湖畔)	小谷 博貞	鳥をとらえる女	糸國和三郎	そくばく	矢島甲子夫	笑 い	今井繁三郎	語 1	作 品(A)	文 挾 克明	黒と白の作品	オノサト	船 景	井上 照子	風 景	朝 景	エデンの午後	井上長三郎	孤 寂	寺田 政明	坂 道	稲田 三郎	コンポジション(はにわによる)	次 郎	田 中 健三	お化け煙突	A 佐田 勝	風 景	小谷 良徳	風 景	竹中 三郎	神話によるコンポジション	木内 岬	トルソ(彫刻)	濱口 陽三	髪 いやなやつ(A)	小山田二郎	顔 (B)	小 山	顔 (C)	景 濱田 知明
---------	-------	---------	-------	------	-------	-----	-------	-----	--------	--------	--------	------	-----	-------	-----	-----	--------	-------	-----	-------	-----	-------	-----------------	-----	--------	-------	--------	-----	-------	-----	-------	--------------	------	---------	-------	------------	-------	-------	-----	-------	---------

支那の門	濱田 知明	カノノ1(空虚)	山口 正城	2(對抗)	における	3(流動)	における	4(休止)	寒 窓	登崎 太三郎	黄色の絵	堀内 規次	ふるさとびと	吉井 忠	ジャズ	富成 忠夫	エスキース(青年)	孝	T氏夫人(彫刻)	N 君(シ)	5回コンレアル展	9-18 大	阪市立美術館	9回走泥社陶展	9-12 京都	市美術館	四人の画家展(中村彝、小茂田青樹)	10-11月1 萬鐵五	郎、土田 麥穂	11月3-11月	25) 国立近代美術館	〔批・記〕	朝日20(河北倫明)	東京26(岡本謙次郎)	朝日31(河北倫明)	毎日9	朝日23	朝日11月12(河北倫明)	朝日13	朝日15	支那の門	濱田 知明
------	-------	----------	-------	-------	------	-------	------	-------	-----	--------	------	-------	--------	------	-----	-------	-----------	---	----------	--------	----------	--------	--------	---------	---------	------	-------------------	-------------	---------	----------	-------------	-------	------------	-------------	------------	-----	------	---------------	------	------	------	-------

朝日11月17(河北倫明)	朝日14(岡本謙次郎)	毎日11月18	時事11月20(佐波甫)	雪 像	1908	肖 像	1909	巖 像	1910	白壁の家	1911	少女の像	1912	友 女 像	1911	幼 女 像	1912	自 画 像	1911	婦 人 像	1912	牛乳ビンのある静物	1913頃	少女半身像	1913	女 像	1911	ハンテングを被る自画像	1912頃	自 画 像	1912	大島風景(バステル)	1915	少 女 像	1914	自 画 像	1912	静 物 像	1913	裸 婦 像	1913頃	静物(果物と瓶)	1913頃	少女下図(水彩)	1913	少女 像	1914	少 女 像	1914	少 女 像	1914	少 女 像	1914	大島風景	1914
---------------	-------------	---------	--------------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-----------	-------	-------	------	-----	------	-------------	-------	-------	------	------------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	----------	-------	----------	------	------	------	-------	------	-------	------	-------	------	------	------

朝日11月17(河北倫明)	朝日14(岡本謙次郎)	毎日11月18	時事11月20(佐波甫)	雪 景	1918	山鳥のある静物	1917頃	ひまわり	1916頃	自 画 像	1917頃	田中館愛橋博士	1916	大島風景	1915頃	自 画 像	1920	エロシエンコ氏像	1920	男 顔 像	1920	静 物 像	1921	血を吐く男(クレヨン)	1921	どくろをもてる自画像	1923	どくろの静物	1924	老 母 像	1924	静 物 像	1924	室田義文像	1924	静 物 像	1924	パイプのあるひまわり	1924	静 物 像	1924	自 画 像(デッサン)	1912	自 画 像(デッサン)	1912	大島風景	1915頃
---------------	-------------	---------	--------------	-----	------	---------	-------	------	-------	-------	-------	---------	------	------	-------	-------	------	----------	------	-------	------	-------	------	-------------	------	------------	------	--------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	------------	------	-------	------	-------------	------	-------------	------	------	-------

美術展覧会(10月)

一三三三

32 回 弦月会洋画展 12-18 大

阪市立美術館

1 回 青桃会展 12-18 大

立美術館

日本名作展 12-11月1 京都

市美術館

出品目録

山 水 図 狩野芳崖

山 水 図 狩野芳崖

大 鷲 図 狩野芳崖

山 水 図 狩野芳崖

木曾真山水 橋本雅邦

瀟湘八景卷物 橋本雅邦

瀟湘八景 橋本雅邦

無 我 橋本雅邦

迷 児 橋本雅邦

流 燈 橋本雅邦

山 路 橋本雅邦

瀟湘八景八幅 橋本雅邦

游刃有余地双幅 橋本雅邦

夜 橋本雅邦

生々流転 橋本雅邦

御物 飛泉双幅 橋本雅邦

御物 飛泉双幅 橋本雅邦

秩父宮家 橋本雅邦

秩父靈峰春曉 橋本雅邦

御の花二曲一雙 橋本雅邦

御物 龍蛟躍四 橋本雅邦

波さわぐ 橋本雅邦

魔障 橋本雅邦

白狐二曲一雙 橋本雅邦

弱法師六曲一雙 下村観山

春雨六曲一雙 下村観山

俊徳丸 下村観山

天心先生画稿 下村観山

拈華微笑 菱田春草

王昭君 菱田春草

賢首菩薩 菱田春草

落葉六曲一雙 菱田春草

黒き猫 菱田春草

大原の奥今村柴紅

護花鈴六曲一雙 今村柴紅

近江入景 今村柴紅

たそがれ 今村柴紅

熱国の巻巻物 今村柴紅

新川 今村柴紅

潮見坂 今村柴紅

黄菊白菊双幅 今村柴紅

東海道左富士 今村柴紅

春さき 今村柴紅

桃源 今村柴紅

萌芽速水御舟 今村柴紅

宮津 今村柴紅

比叡山 今村柴紅

灰燼 今村柴紅

昆虫二題 双幅 今村柴紅

ベルラジオの裏 今村柴紅

街魚 今村柴紅

鯉魚 今村柴紅

春池温 今村柴紅

あやめ 今村柴紅

白芙蓉 今村柴紅

阿弥陀堂 小林古径

いでゆ 小林古径

芥子園 小林古径

犬と遊ぶ 小林古径

鶴と七面鳥二曲 小林古径

一雙 小林古径

清姫六曲 小林古径

髪動 小林古径

不守屋大連安田鞆彦

夢殿 安田鞆彦

御産の禱り 安田鞆彦

五合庵の春 安田鞆彦

二少女 安田鞆彦

日食 安田鞆彦

風来山人 安田鞆彦

孫子勒姫兵 安田鞆彦

黄瀬川の陣六曲 安田鞆彦

王昭君 安田鞆彦

京八景前田青邨

西遊記 前田青邨

洞窟の頼朝 前田青邨

罌粟六曲一雙 前田青邨

大同石仏 前田青邨

阿修羅 前田青邨

郷里の先覚双幅 前田青邨

風神雷神 前田青邨

佐分真遺作展 13-24 光風会

館(批)東京23(大久保泰)

1 回 京都陶藝導壇会展 13-18

銀座・松屋

自由美術九人展 13-18 上

野・松坂屋

3 回 木村斯光日本画展 13-18

日本橋・三越(批)サン17(金子義雄)

7 回 商業ホスター展 13-18

日本橋・三越

国松登個展 13-17 フォルム

福井美智、鹿野文千二人展 13

18 大阪・阪急

真赤土工藝展 13-18 大阪・阪急

北大路魯山人作品展 14-18

日本橋・高島屋(記)毎日20

(小山富士夫)

富本憲吉日本画小品展 14-18

京都府ギャラリー

山田稔油絵個展 15-19 草土

榎倉省吾個展 15-17 資生堂

[陶説]発刊記念絵画・陶磁巨匠展 15-17 壺中居

国際美術展 15-31 高松市美術館

唐時代文化展 15-25 岡山・天満屋

8 回 行動美術展 15-28 京都市美術館

醍醐寺宝聚院秋季特別展 15-11月20 醍醐寺

福原達朗新作陶展 16-17 王子・飛鳥茶廊

宮本三郎滞欧作品展 16-21 第一会場(油)兜屋

第二会場(水彩・デッサン)

銀座・松坂屋

[批] 毎日20

美術批評11月(大久保泰)

幸寿個展 16-22 大分・町村会館

絵更紗美術協会展 16-18 京都市美術館

互井開一水彩画展 17-21 日本橋・白木屋 [批]時事20

濱口陽三銅版画展 19-24 阿部善清堂 [批]美術批評11月(大久保泰)

森芳雄個展 19-24 中央公論社画廊 [記]毎日22

水澤順子洋画個展 19-24 日本橋・丸善

佐藤正己乾漆工藝展 19-24 日本橋・丸善

初霜会展 19-28 高岡市美術館

書道名品展 20-11月25 東京国立博物館

開国百年記念井伊大老展 20-25 日本橋・三越

松本佐吉新作陶展 20-25 日本橋・三越

7 回 丁委会展 20-25 上野・松坂屋

3 回 熊倉順吉陶器展 20-24 フォルム [批]時事23、美術批評12月(藤本留三)

小島真佐吉、菊池秀一、小竹義夫三人展 20-24 サエグサ

美術展覧会(10月)

一三五

木彫名作展 20—27 東洋美術館
 神谷信子ガラス絵展 20—29 日本橋・高島屋
 14回半月会洋画展 20—25 大阪・阪急
 1回レアラ・ロンド油絵彫刻展 20—25 大阪・阪急
 武者小路実篤近作小品展 20—23 大阪・高島屋
 萬葉庵河村碧巖一画一挿展 20—25 大阪・高島屋
 中国美術展 20—25 大阪・大丸
 凡艸会展 20—25 京都・大丸
 鐵齋展 20—11月3 滋賀県立産業文化館
 中村玲方個展 21—25 日本橋・高島屋
 ロジェ・ヴァン・エック作品展 21—31 タケミヤ〔批〕美術批評12月(福島辰夫)
 佐伯祐三遺作展 21—27 大阪・梅田画廊
 藝術文化展 21—25 日比谷画廊
 1回生々々日本画展 21—25 京都府ギャラリー
 眞赤土工藝展 22—29 安藤七宝店
 本宮龍太郎個展 23—27 日本橋・白木屋〔批〕美術批評12月(福島辰夫)
 干ヤラリ—「瓔珞」開設記念展

23—26 瓔珞型生派展 23—28 上野・松坂屋〔批〕美術批評12月(針生一郎)
 現代大家洋画展 23—25 一宮図書館
 大徳寺名宝展 24—11月8 銀座・松屋
 丹桂会日本画展 24—11月3 新宿・伊勢丹
 新形象三人展 24—27 大阪・産業会館
 眞道黎明新作個展 24—29 大阪・三越
 大森啓助近作洋画展 24—30 大阪・高島屋
 青木大乗個展 24—30 大阪・高島屋
 初期風俗画名作展 25—11月8 名古屋・徳川美術館
 12回蒼穹社美術展 25—31 京都・朝日ビル
 明清書画展 25 京都・鳩居堂楼上
 勝田寛一、東俊二、藤澤典明三人展 26—31 光風会館〔批〕美術批評12月(瀬木慎一)
 瀧川太郎東京風物百選展 26—31 阿部登清堂
 青紅会染織工藝展 26—31 日本橋・丸善
 岡部敢作陶展 26—31 壺中居
 眞寛遺墨展 26—31 大阪・丸善美術

井上恒也日本画展 27—11月1 日本橋・三越
 織田廣喜作品展 27—31 サエグサ〔批〕美術批評12月(福島辰夫)
 荒井陸男「海と船」洋画展 27—31 フォルム
 天井陸三個展 27—11月1 上野・松坂屋
 佐伯米子個展 27—11月1 大阪・大丸
 油谷達個展 27—11月1 大阪・阪急
 日本彫塑家クラブ関西支部彫塑展 27—11月1 京都府ギャラリー
 日本画風景展 27—11月1 京都・大丸
 梅原龍三郎、中川一政油絵展 28—31 兼素洞〔批〕朝日28(河北倫明)、サン31(金子義雄)
 春陽四人展 28—11月1 日本橋・高島屋
 鍋井克之近作展 28—11月3 大阪・梅田画廊
 大阪二科展 28—11月15 大阪市立美術館
 3回セモブ展 28—11月1 京都市美術館
 浦上玉堂小品展 28—11月2 教寄屋橋画廊
 須田國太郎素描展 29—11月3 京都・丸善

9日回展 29—12月1 東京都美術館
 (批・記)
 日経11月2(福島繁太郎)
 産経 2(横川毅一郎)
 時事 2 対談(辻永水)
 朝日 3(河北倫明)
 産経 3(柳亮)
 朝日 4(柳亮、北川桃雄)
 朝日 4(植村鷹千代)
 東京 4(久富貢、岡本謙次郎)
 朝日11月5(徳大寺公英)
 産経 6(岡田譲)
 時事 7(野間清六)
 時事 9 対談(伊藤深水、三輪 鄰)
 毎日 10(土方定一)
 東京タイムズ11月10(伊福部隆彦)
 東京タイムズ11月14(柳亮)
 時事11月16(大島隆一)
 東京 23 対談(澤田晴廣、荒城季夫)
 東京 24、25、28
 毎日 31
 産経11月1(大河内信敬)
 毎日 5
 時事 5
 産経 5(大河内信敬)
 東京タイムズ11月5
 朝日11月6(佐波甫)
 東京タイムズ11月7
 産経11月7(田近憲三)

産経11月10(大河内信敬)
 時事11月11
 毎日 11
 産経 12(佐波甫)
 産経 12(大河内信敬)
 サン 12(金子義雄)
 時事 12(石井柏亭)
 読売 12(瀧口修造)
 東京タイムズ11月12
 産経11月13(佐波甫)
 毎日 14
 産経 16(柳亮)
 毎日 22()
 毎日 27
 12月1
 みづる12月(柳亮)
 (会) は日本藝術院会員の略
 (参) は日展運営会参事の略
 (審) は審査員の略
 (依) は出品依頼者の略
 (無) は無鑑査の略
 (特) は特選の略
 (朝) は朝倉賞の略
 (買) は川合玉堂氏資金により買入文部省寄贈作品
 (白) は白寿賞の略
 (日本画)
 小鳥 屋田中淑子
 山 莊(白)陳永森
 河 岸下保昭
 故 郷佐藤罔夫
 縞 馬(白)三谷青子
 御見野(特・白)速藤桑珠
 風景

椅子による (依) 木本大果
 暮れゆく妙高 (依) 中野草雲
 築の男 (依) 篠崎之男
 浜の子 供清水保雄
 花と子 摩川村憲邦
 志原 女利倉喜久子
 大鷓鴣と 蘭山田規代
 丘 中田晃陽
 曇り 日池田虹影
 放牧 (依) 松元道夫
 少年 (依) 根上富治
 雪年 (依) 山口玲烈
 春 (依) 勝田哲
 山頂宿雪 (依) 白井烟嵩
 水 趣河野華涯
 比叡山 (依) 白倉嘉入
 林泉 (依) 大平華泉
 寂照 (依) 鈴木朱雀
 たに (依) 安島雨晶
 蒼翠成風 (依) 横尾深林人
 夏の窓 (依) 三河義太郎
 午 辺 浅田蘇泉
 水 後 笠原可於
 辺境の旅 宿佐藤永芳
 山 道 山本瑛幾
 潤声 (依) 嶋谷自然
 バレリーナ (無) 澁谷江津
 風の 景 西村文男
 木の 間 今田青宏
 静の 郷 成田陽
 水 辺 是永仲一
 温泉 室 橋爪堆恩
 教会のある風景 伊藤昇

三門 人三輪良平
 向日 葵藤田尚志
 陽のあたる学校 齋藤俊雄
 海 (依) 山下巖
 彩リンゴの光 永山富士太郎
 しらべ 宮内英好
 蓮 太田稻吉
 南宇留 具志堅古雅
 雨の 日水野陽翠
 池 畔 高橋澄爽
 薬師新雪 後藤貞之介
 暮るさとの町 沼間宮正
 帆 佐藤鳳山
 木場風景 (朝) 細川暢洋
 明の 森 龜割達三
 浴 後 濱倉清光
 雨 後 長嶺雅男
 赤松の丘 江馬進
 伝 承 伊藤弘
 田園風景 栗原重一
 浄 小島淳一
 入 高木義夫
 フル 田中針水
 森のたそがれ 大野博
 音 葉 關根雅雄
 飛泉直 荻田東嶺
 暮 高橋立州人
 朝 白鳥映雪
 沼 谷口英雄
 中の島風景 福井澤太
 桜 島 福井澤太

山気浩然 (依) 矢野鐵山
 原 始 林 (白) 松本郭南
 牧歌 (依) 幸松春浦
 雞 猪田青以
 海の見える画室 山本茂斗萌
 秋 湖 河部貞夫
 緑 蔭 八幡白帆
 夏 苑 西内利夫
 聖 堂 高橋克明
 池 若杉正
 か 福井宗之助
 滝 潭 月居偉光
 少 女 社本我泉
 遅 日 佐藤晴行
 初 秋 山科杏亭
 戸 隠 岩澤重夫
 琉 璃 木村杏園
 函 館 風 細木成實
 見 景 松本精三
 葉 伊藤石華
 村 白石勝敏
 白 葛 中塚一杉
 日 草 葛原輝
 春 立 頃 菅浦大悦
 清 色 散 椀 戸田北遙
 五 色 散 椀 戸田北遙
 樹 間 猪原大華
 家 族 今野可啓
 紀 川 仙田雪子
 二 人 清水正一
 杉 山 舟山三朗
 洋 桑 原清明
 黄 昏 桑原清明
 竹 秋 吉原以恭
 浴 の 室 利倉群青

洛北の 武藤章
 溪 杉浦盈二
 道 間 瀬珠一
 村 稻田和正
 丘 那波多目塩星
 岩 遠山唯一
 団 鈴木秀光
 杉 道 福與悦夫
 信 濃 石井健之
 温 室 羽根爲信
 銀座八丁目河岸 藤田孝正
 祭 場 笠井利光
 カ ン ナ 荒川晃雲
 緬 羊 笠井利光
 内 海 島 勝谷木俣
 明 神 岬 岩本周潤
 籓 のある風景 猪木匡四郎
 内 職 町 吉村三郎
 酒 場 青島淑雄
 浄 池 藤井靖峯
 朝 顔 堀田秀叢
 憩 西 田 惠泉
 参 道 川 上 青山
 良 宿 大 矢 大 響山
 椿 水 田 慶 泉
 夕 橋 本 綵 可
 波 塔のある風景 大島秀信
 塔のある風景 大島秀信
 左の作品は十一月十四日まで
 陳列
 マネキン人形の
 夜 造 船 所 水馬コマ
 木 造 船 所 水馬コマ
 は つ 夏 宮坂一義

雨 後 井上正晴
 郊外風景 石川景眺
 比叡の杉 宇田弘彦
 山 大 關 禹 江
 小倉山紅葉 崎山木芳
 庭 下 村 正 一
 若き尼僧と仔山 井上白楊
 羊 橋 河 田 賢 三
 鉄 室 田 場 笙 月
 温 室 春 戸 田 英 二
 浅 女 の い こ い 小 關 き み 子
 海 女 の い こ い 小 關 き み 子
 河 港 宇 田 大 虚
 白 蓮 荒 木 天 立
 杉 木 立 小 野 踏 青
 ふるさと 畔 柳 榮
 サボテン 松 井 孝 二
 花と少年 山下 薫
 時 雨 野 直 原 玉 青
 樹 那 波 多 日 功 一
 湖 景 辻 藤 千 曲
 湖 畔 佐 藤 千 曲
 秋 景 川 島 浩
 港 の 街 堀 史 明
 豊 年 踊 江 川 文 展
 た そ が れ 關 口 如 水
 丘 景 山 田 實
 知 多 風 野 々 内 良 樹
 秋 景 奥 本 高 千
 水 路 石 川 義
 雪 林 宮 原 明 良
 馬 河 原 悦 人
 蓮 池 幸 野 豊 一

夕 照 奈良 裕 功
 瀬 戸 村 杉 山 丈 夫
 ピエロと馬 海老澤 東 丘
 堀 河 端 飯 田 史 朗
 庭 寺 井 重 三
 水 門 暮 色 平 口 勝 雄
 麦 イ ン ド 村 山 徑
 山 大 野 幹 彦
 幽 篁 山 科 雅 男
 故 郷 小 豆 澤 禮
 山 の 田 中 町 進
 少 女 矢 野 安 津
 觀 音 崎 風 景 宮 澤 鉄 夫
 坐 せ る 女 東 詔 光
 港 の 見 える 室 内 海 野 旭 世
 冬 高 地 森 正 元
 上 の 山 黒 澤 春 穂
 夏 の 山 黒 澤 春 穂
 真 女 児 (雨 月 物 語 蛇 性 の 淫 より)
 港 石 田 重 子
 黄 昏 佐 久 間 祥 史
 朝 涼 門 井 掬 成
 初 秋 林 正 明
 女 二 人 秋 林 正 明
 麦 二 人 秋 林 正 明
 充 青 島 治 男
 廣 瀬 風 景 中 澤 博
 つ づ け 前 菅 谷 晴 亮
 ま だ い 岡 村 房 柄
 樹 ど 安 藤 重 春
 (西 洋 画)
 石 切 り (依 山 本 日 子 士 良)

画 室 (特 朝) 浅 井 光 男
 冠 鶴 遊 ぶ 苑 鈴 木 稔
 奏 で る (依 平 松 讓
 硝 子 戸 の な か (依 三 尾 文 夫
 横 た わ る 寺 島 龍 一
 森 田 先 生 読 書 竹 澤 基
 店 頭 (特 朝) 野 村 光 司
 ひ な た の 窓 (依 伊 藤 四 郎
 蓮 横 内 太 郎
 「立 つ」 (依 森 田 元 子
 阿 寒 湖 の 秋 (依 中 村 善 策
 庭 柏 木 治 子
 ポ ー ズ す る 裸 (審 高 光 一 也
 海 辺 に 憩 ふ 泉 治 彦
 客 の 居 る 部 屋 田 中 春 弥
 木 陰 (審 島 野 重 之
 田 舎 の 町 (特 朝) 日 原 晃
 緑 先 手 塚 義 三 郎
 婦 人 像 (無) 庄 司 栄 吉
 午 後 (特 朝) 田 原 輝 夫
 山 際 (參 鈴 木 千 久 馬
 窓 際 (參 鈴 木 千 久 馬
 横 浜 (依 井 手 宣 通
 三 時 の 集 ひ 山 川 利 夫
 雨 の 小 路 (依 高 橋 五 郎
 母 と 子 ら (無 岩 下 三 四
 寸 鯉 (特 朝) 鶴 浦
 漁 村 大 桃 寛
 黄色い ティ
 ブ ル ・ ク (無) 小 泉 繁
 ひ る す ぎ 西 岡 義 一

水 色 の (岡 田 賞) 飯 田 彌 生
 座 像 (岡 田 賞) 飯 田 彌 生
 横 臥 裸 婦 (依 伊 藤 悌 三
 棧 橋 反 町 博 彦
 群 鴨 (無) 大 沼 静 藏
 教 会 へ (特 朝) 岡 田 又 三 郎
 散 髪 桑 原 福 保
 画 室 の ヴァキオリ
 ア ト リ エ (特 朝) 罇 龍 之 助
 ア ト リ エ (依 大 内 田 茂 士
 物 思 大 野 晴 義
 画 室 の 一 隅 (依 稻 原 健 三
 ア ト リ エ (岡 田 賞) 松 本 富 太 郎
 レ ー ス の (岡 田 賞) 鈴 木 陸 美
 女 と 山 羊 (岡 田 賞) 鈴 木 陸 美
 湖 畔 の 風 景 林 正 美
 裏 口 磯 谷 桂 治
 修 理 工 場 原 田 貞 嘉
 少 年 と 日 雀 堀 英 治
 地 下 道 栗 原 七 三
 静 物 三 橋 兄 弟 治
 小 豆 島 風 景 中 岡 恒 雄
 觀 音 港 音 漆 畑 廣 作
 午 後 の 漁 港 長 谷 川 彰 一
 曇 日 の 海 辺 酒 泉 淳
 帝 積 岐 佐 藤 義 太 郎
 雨 の 日 青 木 潤
 水 辺 牧 原 萬 之 助
 桐 咲 く 齋 藤 大
 自 画 像 乾 一 雄
 操 車 場 夜 景 西 澤 今 朝 夷
 潮 来 十 二 橋 大 崎 善 生
 き も の (依 荒 谷 直 之 介
 波 切 風 景 内 山 市 郎

初 秋 の 池 水 野 以 文
 二 人 の 裸 婦 富 田 通 雄
 秋 の 取 り い れ (依 三 宅 克 己
 二 女 (特 朝) 不 破 章
 風 景 山 本 彪 一
 ある 日 の 訪 問 者 たち (依 赤 城 泰 舒
 棒 三 橋 英 子
 鏡 の 前 小 林 哲 夫
 漁 港 氏 家 秀 之 進
 奈 良 公 園 (依 小 堀 進
 残 雪 渡 邊 義 一
 丘 佐 藤 進
 陶 器 工 場 古 壕 壽 一
 自 画 石 版 諸 行
 無 情 初 転 法 輪 (依 織 田 一 磨
 流 転 無 窮
 室 内 武 田 由 平
 ひ な た 守 洞 春
 冬 の 月 夜 長 坂 春 雄
 潮 来 參 審 買 裕 三 彩 亭
 温 泉 宿 三 階 (依 前 川 千 帆
 大 浦 の 天 主 堂 福 田 福 治
 祭 壇 の 処 女 永 瀬 義 郎
 版 画 潮 来 初 夏 木 和 村 創 爾 郎
 上 ノ 小 池 馬 淵 聖
 不 来 方 頰、大 恩
 世 主 十 二 使 徒 板 棟 方 志 功
 画 鏡 棚
 大 岩 不 動 滝 (作 泉 田 康 治
 品 第 二)
 し ごと 机 露 野 清 美
 開 演 前 宮 下 登 喜 雄
 お 祭 り 朝 井 清

造 船 所 武 藤 完 一
 工 場 東 一 雄
 壊 れ た 船 中 田 幾 久 治
 朝 の 風 景 宮 田 三 郎
 盆 地 の 秋 末 河 正
 夜 依 上 田 哲 農
 山 宮 波 金 一
 裏 長 屋 青 野 馬 左 奈
 花 の ある 静 物 南 征 一 郎
 ある 明 る き 宵 (依 古 川 弘
 蹄 の 音 山 田 篤
 裸 婦 相 澤 光 朗
 河 岸 豊 千 里
 丁 寮 の 渡 ろ う 下 阿 部 廣 司
 M 夫 人 像 町 田 源 三 郎
 ヴァイオリ
 ン を 持 つ 女 (無) 田 中 實
 出 港 前 鈴 木 信 男
 秋 日 (依 早 出 守 雄
 山 徑 坂 上 明 司
 川 岸 風 景 柴 田 祐 作
 鶏 舍 (依 白 瀧 幾 之 助
 湯 治 客 (依 池 部 鈞
 湖 畔 (會 審) 川 島 理 一 郎
 ア ト リ エ (參 審) 寺 内 萬 治 郎
 の 裸 婦 (參 審) 寺 内 萬 治 郎
 蘭 花 と イ ン コ (審) 高 間 惣 七
 藪 原 旧 道 (審) 木 下 義 謙
 裏 磐 梯 (參 審) 藤 藤 與 里
 植 木 屋 (參 審) 買 中 野 和 高
 T 君 (參 審) 買 中 野 和 高
 志 摩 早 春 (會 審) 辻 永

立てる (會・審) 中村研一
 裸婦 (會・審) 中村研一
 盛夏風景 (參) 小山敬三
 赤と黄色 (審) 中村琢二
 白い裸婦 (依) 小寺健吉
 幼女 (審) 高野三三男
 通天橋 (會・審) 山下新太郎
 新緑 (會・審) 石井柏亭
 佐渡海村 (會・審) 石井柏亭
 千曲の (會・審) 有島生馬
 河波 (會・審) 小糸源太郎
 鳥ぐもり (參) 小糸源太郎
 鏡の前 (參) 審鬼頭鍋三郎
 風景 (依) 安宅安五郎
 椅子に凭 (參) 審長谷川昇
 白川村 (參) 審石川寅治
 の春 (參) 審石川寅治
 静物 (依) 耳野卯三郎
 野澤浅春 (依) 高田誠
 佐渡の寺にて (依) 鈴木栄二郎
 茂庭栗林 (特) 朝山川忠義
 Bar 宮脇成行
 無題(未完) (依) 藤見泰
 若人 (依) 有馬三斗枝
 浅間 (依) 西山眞一
 主婦 K (依) 藤江理三郎
 早雲山麓の夏(無) 辻明
 座 像 三宅次郎
 海 像 柚木祥吉郎
 座 像 坂元一男
 湖畔小憩 (依) 山田新一
 二人の子供 (依) 渡邊武夫
 池 畔 (參) 大久保作次郎

T老像(特) 朝篠田喜與志
 花を活 (岡田賞) 原本虎雄
 ける (岡田賞) 原本虎雄
 僧院の雪 酒見恒平
 堤議長像 依南 政善
 聖牛「ナンデニー」(平和) 上知治
 最上川冬 依真下慶治
 赤い花 安宅虎雄
 山羊の遊ぶ庭 松永敏太郎
 初秋 (無) 藤井芳子
 浜大津 (依) 遠山清
 山 峡 (依) 納富進
 室内 (依) 辻村八五郎
 教会の見える風景 (依) 高宮一榮
 静物 (無) 舟木徳重
 婦人像 (依) 安達眞太郎
 釧路暮色 (依) 近岡善次郎
 陶都風景 長谷川進
 雑草 (依) 長原坦
 布良崎 (依) 朝比奈文雄
 房州風景 横山義雄
 馬と武人 白川一郎
 家 族 東海林廣
 鐘 景 樋口一郎
 風物 (依) 村岡平蔵
 人 物 (依) 村岡平蔵
 たそがれ (依) 溝江勘二
 秋の草花 島戸繁
 婦人像 (依) 土佐林豊夫
 ろしろむき (依) 弦田英太郎
 の裸婦 (依) 倉員辰雄

池畔秋色 西寺鐵舟
 ふくろ (依) 新道繁
 清津峡谷 審佐竹徳
 桜島雪 (審) 田村一男
 鶴の踊り (會・審) 中澤弘光
 睡蓮 (審) 胡桃澤源人
 円テーブル (依) 大澤海蔵
 室内 (依) 櫻井悦
 上町小路 森清治郎
 裸婦 (依) 田中繁吉
 庭前 (依) 佐藤一章
 キリスト (參) 審伊原守三郎
 の首 (參) 審伊原守三郎
 支那服の女 (依) 江藤純平
 職場の娘 (依) 福田新生
 バレースタヂオ 菅沼金六
 川治いの教会 伊藤正
 徳川山住宅地を 中條茂
 望む 坊根津莊一
 達 赤花村 (依) 貫服部亮英
 赤い浴衣 藤彦衛門
 南の窓 辻利平
 風物 景 大村浄一
 初堂にて 相井春雄
 聖堂 (依) 大島士一
 裸婦 (依) 大島士一
 里の静物 (依) 黒田頼綱
 花と貝の静物 (依) 黒田頼綱
 微風 藤川光次
 牧場の母子 (依) 上島一司
 蟬の声 取明徳
 婦人像 守屋千之

トルソを配した 丸野豊司
 静物 (無) 小林易夫
 水族館 (無) 鳥居昇
 水書をする婦人 鳥居昇
 日陰 (依) 幸島重雄
 静物 秋元松子
 C嬢の像 (依) 水上信雄
 門 後藤秋生
 早春浅間 (依) 奥瀬英三
 花帽子 齋藤齊
 山龍河岸 (無) 高橋貞一郎
 壺と女 花田忠吾
 室内 (依) 山田設義
 實際の裸婦 (依) 廣本了
 芝浦風景 (無) 渡邊祐一郎
 雪 崖 松田文雄
 頬ずるの女 (依) 柳瀬俊雄
 カンナと白蝶 久本弘一
 御茶どき (依) 梶原貫五
 巖 祇園卓志
 窓辺 (依) 鈴木三五郎
 緑蔭 川村精一郎
 露台にて (依) 筒井廣道
 漁物 港 高橋道雄
 静物 (依) 渡邊浩三
 花と少女 (依) 市ノ木慶治
 月島風景 松永和夫
 雪 後 熊澤欽三
 印 象 櫻井慶治
 裸婦 (依) 中川力
 青い船 林鶴雄
 砂丘 (依) 平原武男

街 石塚三郎
 漁夫 (依) 白石隆一
 熱海風景 和田清
 室内 内星野正三
 立 宮脇憲三
 南 窓 三浦俊輔
 残 矢野雄蔵
 丘の 秋 菊池義泰
 室内 (依) 小川博史
 画面の隅 野々垣甚一郎
 石 偶 安武芳男
 静物 藤野嘉市
 雨の 日 金子千恵
 朝 依) 新保兵次郎
 裸婦と椅子 (依) 西尾善積
 ボート (依) 山口猛彦
 隊 依) 笹岡了一
 室内 (依) 山喜多二郎太
 画面 依) 西村愿定
 裸婦 (依) 安藤信哉
 黄色い花 門馬小二郎
 画面 依) 廣瀬功
 室内 依) 中村一郎
 噴水 依) 村上耀聰
 勺 依) 矢島堅土
 隅 依) 北村定志
 水 依) 名村定志
 乳母 依) 車久富邦夫
 錐体のある静物 (依) 足代義郎
 雪 依) 佐々木兼次郎
 D氏像 (依) 里見明正
 天使失墜 (依) 川口雄男
 林間の少年達 齋藤國雄

まつりの日 (依)橋本花子
 風景 (依)木村鑛一
 室 (依)藤田義雄
 ともろこし 三上義人
 室内 内川口四郎
 二人 清原武則
 初 秋久米小夜子
 晩 夏 (依)石本秀雄
 扉 (依)三島利正
 X織維業者 (無)金澤秀之助
 組合 (無)金澤秀之助
 画室の卓 (依)杉村惇
 室の一隅 島村達彦
 シヤコタン (依)山下忠平
 都川風 景 高橋規矩治郎
 静 物 鹽出千鶴子
 四 月 山下太郎
 高砂の町角 成夫
 網を繕ふ 奥野康春
 奈良の秋 (依)河井達海
 花売りの娘 榎戸喜子
 N嬢の像 津田耕造
 街 橋 近藤正人
 陸 齋藤俊夫
 風景 上野實
 稲波 富士一男
 石灰工場 笹山清作
 畑と工場 藤原昭三
 森の秋 榎本榮一
 アトリエ 加藤春景
 雨の鯨岡健
 郊外初秋 川村親光
 展外初秋 川村親光
 玉葱と女鈴木満

沼 内藤定昭
 台 所 矢崎美代子
 静 物 片山昭博
 黒衣の女 中村勝美
 勝手も北川威夫
 知多の海辺 森新市
 壺をもつ少女 神戸文子
 浜 辺 後藤孝屯
 メリケン波止場 矢野馨
 閑庭 内野太吉
 玩具 庭 川井正信
 蜜柑のある冬村 船越達雄
 川岸の村 西山性一
 静物 熊岡まゆみ
 美濃の窯場 水野一好
 材木座海岸 小泉元生
 風の工場 景山本郁男
 山の工場 (依)大津鎮雄
 仕舞 梅林良子
 早春 (依)櫻田精一
 小憩 三井滋
 月見 草島田四郎
 漁の朝 港 高見耿太郎
 雪の朝 (無)長屋勇
 樹 林 能勢真美
 パンガアル (依)岩井彌一郎
 静物 (依)岩井彌一郎
 建物 物 長尾和義
 水溜り (依)草光信成
 初秋 中島音次郎
 若い人 (依)伊藤清永
 裸婦 片岡銀藏
 閑日坂本正
 草上団欒 (依)和田香苗
 葉籠のある静物 井上和

岩 田代順七
 読書 徳田良仁
 港 井上武
 陳列 野本正雄
 冬の山 (依)能見三次
 草刈り 女 瀬田忠司
 孔明の雀宮本たかね
 あみもの塚本張夫
 深雪 朝倉力男
 古城趾の初秋 尾崎侃
 少と 女 小栗孝昭
 一と 女 小栗孝昭
 残りの花 古屋浩藏
 初話 (依)高田正二郎
 対話 (依)高田正二郎
 雪の摺上川上流 渡邊良雄
 壺と少年 (依)森田茂
 婦人坐像 井上自助
 百合 倉橋英行
 山合 (依)光安浩行
 酒場 (依)堀田清治
 浜へ出る道 瀧 清
 座像 (依)江藤哲
 鏡の前 (依)中村新次郎
 初秋 大澤徳久
 昼の神苑 (依)清水敦次郎
 室内 物 中山三郎
 国境の山 (依)樽松正利
 休息 東典男
 ヴェランダ (依)小早川篤四郎
 広瀬川畔 沼倉正見
 ガラス工場 戸谷賀一
 静物 杉山一正
 裸女 關山一正

盆おどり 早田嘉之
 サンダースホー 笹鹿彪
 ムの子供達 進來哲
 雨の装 鶴田吾郎
 コンストラ (依)鶴田吾郎
 クシヨン (依)松尾正己
 ゆかた 藤井軍三郎
 しゅんせつ船 藤井軍三郎
 坑道 (無)福田義之助
 佐渡の屋根 佐川忠金
 白鷺のゐる (依)石橋武治
 風景 (依)石橋武治
 おけいこ 高木英雄
 脚を拭ふ女 (依)河井清一
 工房の秋 野澤寛
 工尻 湖 松村三冬
 少年選手 (依)田中實一
 「森」 (依)河上一也
 部屋の一隅 池田喜一郎
 横たはる裸婦 森寅雄
 花とくども (依)角野判治郎
 柵 (依)西村喜久子
 兩國 橋戸田定
 常陸平潟港 (依)関口隆嗣
 雪の千曲川 谷内俊夫
 婦人 像 小合保一郎
 里の初冬 飛田昭喬
 犀川秋快晴 (依)堀忠義
 水底 三田村築
 双鶏 (依)山下繁雄
 繩場 長江兼次
 三瀬海岸 (依)刑部人
 安藤教授 金田新治郎
 風景 (無)池邊一郎

しげ子像 廣本季興丸
 裸婦 若林稔
 二少女 因本多京
 初夏 (依)金澤重治
 室内 小景 荒明実
 清韻 (依)清原重以知
 静物 森谷宏
 港口 (依)柚木久太
 小怪 原本敏乎
 船泊り (依)鈴木良三
 沖繩情 趣 名渡山愛順
 街舎 (依)大倉克次
 牧舎 (依)吉村芳松
 午春の後立山 永島吉太郎
 草上 松岡正
 秋晴の入江 土井六郎
 東大寺 松浦莫章
 砂丘の若松 本郷惇
 構内展望 萬羽章
 窓辺 福谷光磨
 たそがれ 林泰二
 齒科医の一隅 石野安親
 踊り 婦 桐野江節雄
 少女のいる部屋 金子仁三郎
 白浜風 景 森桂一
 室 内 鈴木貫司
 姉妹 内 藤 靖彦
 午後の風景 松井正治
 公会堂 小川武雄
 燈台の家 益山英吾
 床の上の女 富山芳男

クレインのある 居關金一
 風景 公園 附近 武蔵原鐘二
 二 人 圓地信二
 静 物 千田徹夫
 静 物 田口泰
 犬 山 附近 鈴木武司
 か の 裏 や 豊岡稔
 駅 の 裏 町 川村嘉久
 兼六園初秋 喜多善三郎
 しろかき 児子美義
 丘 らぬ水 廣井邦一
 濁らぬ水 柳野信雄
 K 朝の塩田 荒川節
 早朝の塩田 荒川節
 百済観音 松田忠一
 コールタンを塗 長井幸一
 つた家 奥龍雄
 母 子 太田美代子
 風 景 瀧川太郎
 佃島朝景 瀧川太郎
 ヘリコプター 西川高次
 港 川端謹次
 生 花 小木曾和夫
 居間より 伊庭康雄
 むくげ 黒田尚文
 水禽 高島常雄
 老人と山羊 川邊外治
 眼科にて 水戸敬之助
 長崎の丘 松崎利行
 運 河 宇野一
 黄 衣 千名恒
 辻製陶之土間 田中太郎
 海 峽 松野輝彦

ゆかた 梶田英一
 赤い絨氈 森谷重夫
 萩の町 野平上
 手袋のある静物 森田芳治
 水 海老澤殿夫
 ろちわ持つ女 足立眞一郎
 冬 齋藤俊雄
 朝 遠山義春
 少年像 山口登志夫
 工場の小道 岩田順三
 森の小道 佐藤ふさ子
 温場の一隅 西光寺亨
 窯場の一隅 伊藤鎗一
 祇園絵馬堂 中川義憲
 山羊小舎のある 坂口義幸
 庭 坂口義幸
 修道院晩秋 池谷寅一
 青衣坐像 北村世志夫
 バレリーナ 安藤軍治
 「隅」 波多野光臣
 街角 藤田静也
 室内 山岸正也
 椅子に倚る女 都筑浩
 港 山内悦世
 秋光 久山章
 田植する飛驒の 徳永富士子
 女 徳永富士子
 三霞洞 谷口國介
 穴道湖畔 鳥屋尾孝吉
 スタジオの隅 奥田憲三
 石を切る山 梶山名一郎
 化粧 飛矢崎眞守
 春 飛矢崎眞守
 丘の梅 平勇雄

滯り 櫻井康壽
 雨上 岡本由郎
 カナリヤ 松野邦夫
 室内の午後 山田キミ
 高原の午後 山上文
 黄 熊井惇
 機関庫風景 渡邊一美
 画室 佐々木福基
 朝 許長貴
 黒い時計のある 多和薫
 静物 松本昇
 裸婦 池田功
 中の海 池田功
 室内静物 兼功
 ガイド 下丸珠枝
 少 橋本百合子
 長岡天神の池 井上三郎
 初秋好日 香取徳
 年老いた建物 花井善道
 海浜 坂本幹男
 曇り日の豚小屋 小路榮治
 静物 糟谷實
 風景 伊藤朝子
 仔山 岩月光金
 秋 橋本正躬
 室 橋本正躬
 城 松村秀夫
 静物 稲村退三
 踊子 武留井義男
 アップリング 西村俊郎
 湖畔春色 大森榮八郎
 坐像 山本仁朗
 宮廷舞楽蘭陵王 平澤恒
 (舊名定人)

静物 柳田久
 窓 川田茂
 飾 森川光
 緑 東惠美
 山門の松 矢田幸一
 風景 塗師祥一郎
 閑 談 關口茂
 静物 長見昭夫
 乾物 久米康生
 農村風景 犬飼尚
 桜島風景 境元資
 自画 吉田富美
 祈 吉川勉
 白壁のある道 高倉一二
 ゴールデンドン 小村平八
 海 中井重男
 M氏と娘 山本茂一郎
 静物 中込勇
 ガラス工場 大坪實
 織物 加藤久幹
 窓 武内和夫
 秋 荒井邦朝
 河 松本邦朝
 瀬戸の街 堀正一
 埠頭驟雨 森正一
 初と少女など 伊藤博
 花と少女など 筒井茂雄
 滋賀里夏の午後 成田浩子
 農 遊馬正
 湖 遊馬正
 小鳥 大田祐司
 室内 大田祐司
 学 杉山元輝
 紡績工場 杉山元輝

社頭 篠原薫
 切株 和田秀雄
 お客様 岡田行一
 漁村(大海) 大瀧斗良樹
 蓼科高原 長谷川龍甫
 静物 本周美智子
 河 畔 松本正人
 古い家の中 善浪迪
 裸婦 中曾根信雄
 海辺の瓦焼 青井幸雄
 窓辺の静物 島村剛生
 池上線ガード 田中良尊
 蓮 池田俊彦
 画面 赤津實
 波切風景 尾崎弘
 水 郷田所義信
 谷あい(奥武蔵) 川島實
 窓辺のひととき 藤原昇一
 仏画の 前 武永楨雄
 紙芝居見る子供 塩見暉夫
 牧舎 寺崎善次郎
 裏 高谷重夫
 運河 西田亨
 薄暮の漁港 望月正男
 母の像 津田克巳
 枯れた花 井口ふさ
 倉敷風景 岡本肇
 調 梅津五郎
 本牧の商館 三樹保
 憩へる選手達 井上正勝
 出帆 池田隆
 木曾風景 塩原文二

変電 所大島 勲
 千 飄 有元康道
 店 戸田郁郎
 家 林 幸雄
 聖 堂 鶴飼幸雄
 演 奏 眞野俊久
 山 辺 片村功
 赤 い 卓丸山豊一
 母 と子 新延輝雄
 丘 か 岡島勇次
 窓 ぎ 村上鐵太郎
 入 江 藤井岡次郎
 更 衣 末原晴人
 児 島 の 山 佐藤辰一
 静 物 花 巖
 室 内 御正 伸
 三人 片 輪 小又 光
 窓 辺 静 物 山崎修二
 研究 室 の 昼 八木茂雄
 古 風 な ビアノ 福井重男
 新 田 ビル 音羽禿也
 つる ぱら 稲垣久治
 台 所 相 川 昭 二
 猫 静 物 由 里 明
 店 頭 林 義 雄
 潮 見 北 濱 淳
 庭 隅 齋 藤 二 男
 赤 坂 見 附 菊 池 健 藏
 港 (長崎) 村 山 俊 夫
 U 君 像 氷 室 幸 吉
 荷 揚 げ 場 谷 淵 正
 蓼 科 山 笠 周 嘉 一 郎
 路 地 藤 卷 正 憲
 覺 王 山 風 景 小 川 松 壽

脊をむく裸婦 平野逸郎
 白たく黒たく 與志美登野
 貧しきサーカス 三輪 孝
 内海風景 高橋 武
 雪の摺上河畔 加藤五郎
 梨樹に倚る 浅井政勝
 丘 下 上 海 野 經
 山 の 老 樹 炭 田 幸 一
 ドラム罐のある 矢田清四郎
 風景 矢田清四郎
 み ち 潮 境 保 博
 駒ヶ岳遠望 讀谷山朝典
 水門の見える風 辻 正 男
 農 婦 熊 野 禮 夫
 茶 籠 箭 關 口 文 雄
 鉄 工 場 村 田 省 藏
 魚のある店頭 石河彦男
 午さがりの駅 山 尾 平
 炭 坑 風 景 久 原 弘
 と ん び 勝 見 謙 信
 白聖の教会 眞木宜武
 静 物 小 野 政 吉
 雪 着 晴 進 藤 正 一 郎
 船 着 場 石 原 義 武
 田 町 風 景 内 山 孝
 八 事 風 景 西 尾 毅
 佐 渡 二 見 附 近 栗 林 秀 雄
 F 子 の 裸 像 (彫 塑)
 (會・審) 朝 倉 文 夫
 野口兼資師能 (依) 後 藤 良
 姿 媿 捨

女性像 (參) 加藤顯清
 立 女 (審) 長谷川義起
 青年像 (參) 清水多嘉示
 裸 婦 (審) 木 下 繁
 関東学院々長 依 水 船 六 洲
 坂田祐先生像 依 橋 本 朝 秀
 明 地 (參) 審 橋 本 朝 秀
 深山翁像 (依) 畝 村 直 久
 貝を持つ (審) 宮 地 寅 彦
 い で ゆ 池 邊 瑠 璃
 秋 (依) 富 永 朝 堂
 森の幻影 (依) 中 野 桂 樹
 雙性ヴィナス (依) 柚 月 芳
 ざくろ (依) 古 川 順 三
 初 女 (依) 大 須 賀 力
 若 い 女 (依) 西 山 如 拙
 秋 光 横 山 文 夫
 明 顔 西 田 明 史
 勤く男の顔 横 山 豊 介
 自然科学者 (會) 齋 藤 知 雄
 北 陸 の 娘 館 山 諷 粹
 若 い 鹿 菊 岡 義 政
 首 後 藤 修
 女 子 像 退 三 井 高 義
 後 子 像 (依) 杉 本 宗 一
 立 女 子 像 (參) 堀 進 二
 髪洗ふ女 (參) 堀 進 二
 裸 婦 倚 像 長 谷 川 塊 記
 幻 想 (依) 毛 利 教 武
 首 須 藤 力 二 郎
 老 年 大 津 留 依 子
 立 てる 女 新 井 喜 惣 次

農 夫 (依) 山 根 八 春
 相 撲 山 口 伊 之 助
 雷 音 (依) 都 賀 田 勇 馬
 立 てる 裸 婦 志 賀 修 一
 菩薩頭 (參) 佐 々 木 大 樹
 青 い 女 中 村 青 田
 M 子 の 首 片 山 義 郎
 葡 萄 佐 伯 留 守 夫
 Y 君 堀 豐 之
 黙 示 に 聴 く 諏 訪 與 里 於
 思 惟 眞 海 德 太 郎
 女 齋 藤 二 郎
 習 作 南 庄 作
 水 辺 石 橋 賢 藏
 秋 長 谷 川 和 幸
 女 習 作 緒 方 敏 雄
 少 年 小 川 由 加 里
 裸 婦 佛 子 泰 夫
 女 立 像 市 之 瀬 廣 太
 わかもの (依) 木 村 珪 二
 緑 風 大 村 正 夫
 早 蕨 渡 邊 廣 行
 狩 も だ ち (依) 分 部 順 治
 と も だ ち 尾 形 喜 代 治
 男 浴 (依) 中 川 清
 沐 浴 (依) 中 川 清
 な が れ (特 朝) 小 森 邦 夫
 裸 女 (參) 國 方 林 三
 伊豆の女 (特 朝) 山 脇 正 邦
 清 溪 虛 無 (參) 雨 宮 治 郎
 關 魂 (審) 富 永 直 樹 (旧 名 良 雄)
 女 性 (參) 審 松 田 尚 之
 滝 (無 特 朝) 綿 引 司 郎

浦 島 (會) 北 村 西 望
 少 女 (依) 一 色 五 郎
 挑 む 立 川 金 祿
 希 望 (依) 靱 山 三 毅
 聖 牛 佐 藤 勝 輔
 裸 婦 川 口 信 彦
 仲 仕 金 子 直 裕
 風 と 家 族 (依) 森 野 圓 象
 天 平 (依) 和 田 金 剛
 一 九 五 三 の 作 (依) 佐 藤 靜 司
 め ば え (特 朝) 宮 本 光 庸
 裸 婦 松 田 喜 三 郎
 憶 ひ (依) 畫 間 弘
 男 富 岡 泰
 仲 間 (依) 圓 鋤 勝 二
 若 い 人 (依) 黒 田 嘉 治
 裸 婦 (依) 短 幸 成
 若 者 中 野 素 昂
 女 性 中 村 博 直
 明 暗 竹 内 不 忘
 ハ ン タ 中 島 敦
 地 温 今 城 國 忠
 潮 風 山 畑 阿 利 一
 愛 児 を 抱 く 大 村 清 隆
 少 年 像 中 垣 秀 吉
 鹿 い 夢 太 田 昭 夫
 青 嶺 は 招 く 佐 藤 義 重
 銀 嶺 は 招 く 佐 藤 義 重
 若 き 日 秦 浩 三 郎
 若 人 宮 本 知 忠
 裸 像 (依) 三 國 慶 一
 抒 情 (依) 三 國 慶 一
 青 海 年 辺 山 脇 正 司
 平 野 敬 吉

立 像 小島克也
 涼 安西順一
 裸 婦 小池藤雄
 入 坑 前松浦良
 平和(三部作のうち歡喜) 永原廣
 華 の 上 木村威夫
 思 永井浩
 風 堤 達男
 円 盤 飛岡文一
 若 い 女 川田秀和
 裸 婦 得能節朗
 た め ら 古川武治
 裸 婦 (依) 矢野判三
 木 藍 笹野恵三
 男 難波孫次郎
 爽 涼 向山峽路
 男 米村勝二
 男 高藤鎮夫
 萌 高藤松吉
 暁 遠藤鉦次
 神 の みに 伊藤信藏
 馬 大野信義
 裸 婦 山崎正義
 男 今川良雄
 農 夫 中野五一
 少年 立 潮田皓哉
 女 の 像 遠山静夫
 生 起 戸張幸男
 裸 婦 清水禮四郎
 少 女 立 齋藤高德
 或る塔講想の一部 (依) 柴田佳石
 山 熊谷幸太郎
 二人の女性 日下寛治

少 女 小田寛一
 若 婦 人都築宗彦
 裸 坐 像 石原昂
 無 想 小西竹太郎
 山 湖 鈴木仁亮
 愛 技者 羽紫小枝子
 競 技者 H 横山五郎
 裸 婦 立像 (依) 赤堀信平
 幸 佐藤助雄
 立てる女 (特) 朝服部仁郎
 青 年 松野伍秀
 裸 婦 佐野文夫
 牡 牛 (依) 岩田千虎
 作 品 F 吉田鎮雄
 曠 望 杉村 尙
 髪をもつ少 女 (依) 關谷 充
 裸 婦 立像 (依) 岡本錦朋
 雲に漂う (参) 吉田三郎
 愛 子 母 (参) 澤田晴廣
 愛 大地の母 (依) 藤野舜正
 大地の母 (審) 吉田久繼
 双 華 (特) 朝太田良平
 女 遠望 (無) 特朝進藤武松
 五三年夏の (依) 瀬戸團治
 無 題 阿部正基
 髪 (無) 齋藤吉郎
 浴 泉 (無) 三木貞雄
 裸 婦 立像 淺井行雄
 救 援 村岡久作
 裸 婦 (依) 久原濤子
 裸 婦 北地基爾

陽 光 (参) 横江嘉純
 着 戲 池上舜
 陽をうけて 塚又四郎
 は ま 江川丈平
 青 春 濱谷廣雲
 秋 晴 西 俊夫
 青年像 (依) 小笠原貞弘
 始 三枝惣太郎
 女 子 寺畑助之丞
 母 と 女 原田新八郎
 海 龜 貝 保
 裸 婦 荒井東一郎
 無 限 荒井東一郎
 秋 女 鶴田壽孝
 少 年 立像 草野睿三
 青 年 立像 眞下梅吉
 裸 婦 立像 石塚輝雄
 少 女 上 (依) 羽下修三
 鮭 技の 前 梅田 修
 麗 岐路に立つ者 三坂耿一郎
 裸 婦 (無) 立川義明
 ひととき (依) 長沼孝三
 青 年 (無) 野々村一男
 裸 武蔵野 (無) 特朝木島正夫
 裸 婦 高木久成
 男 依) 古賀忠雄
 牡鹿 (特) 朝買橋本高昇
 女の首 (依) 買池田勇八
 スタート (依) 買池田勇八
 糸を巻く女 (審) 森山朝光

MARY HUSTED (無) 特朝安田周三郎
 孔雀(大弁才) (依) 大内青圃
 天女墳水盤 (依) 朝倉響子
 像柱ノ内 (依) 倉持 芳
 少女坐像 (依) 安永良徳
 首 影 (参) 審後藤清一
 幼 女の顔 (會) 審藤井浩佑
 山脇先生像 (依) 北村正信
 浴 後 (審) 山本稚彦
 (美術工芸)
 壁面華の精 津田祐作
 山海 譜 伊藤裕允
 鉄 花 器 槻尾宗一
 線 文 花 瓶 桂 寛
 花器ある立体構 苗村伸郎
 成 蠟型 鑄銅花器 宮田宏平
 陶器 習作 鈴木 茂
 フアイヤスクリ 金田正士
 青 い 壺 西 大由
 木かげの舞 石川義夫
 漆器雪晴れ衝立 加藤五兵衛
 染織裂象嵌木立 永澤 煌月
 ちの朝
 萬葉二曲屏 (無) 村田博三
 風 豊漁 立 三村昌弘
 海 衝 立 三村昌弘
 漆杏く鳥壁飾 角野岩次
 硯 漆 漆之図盃 池内荷芳
 彫 漆 漆之図盃 池内荷芳
 クリスタル皿 江頭源一

木製シルク張り 田代栄喜
 照明具 若林作司
 色 紙 箱 田村吾川
 透彫文陶鉢 勝田静璋
 双鳩漆器手箱 堀尾卓司
 さんきらい研 村田吉生
 暮 打込象嵌秋風屏 小林尙琅
 風 和紙漉込いちぢ 山内一生
 く之図立屏風 熊谷吉郎
 湖 畔 の 光 小森克巳
 漆器 衝立 小久保婦久子
 四 季 大久保婦久子
 抽象文硝子花瓶 中村貞雄
 成型花盛器 松原貞嗣
 窯変線条文花瓶 小倉千尋
 鑄 銅 花 器 清水辰雄
 海草の図象眼 長澤久次郎
 漆器 盛 器 武内信弘
 染付花瓶(雑木 林) 新開 晃
 線と円硝子花瓶 山本 曠
 肩 衝 平 釜 高橋與四丸
 灰 釉 の 壺 清水叩一
 耳付鑄銅花器 横倉嘉山
 黒釉陽春意花入 加藤英一
 箱 ざくろ文瑪瑙小 相原正夫
 「仲秋譜」人形 鶴卷三郎
 鶏頭花手箱 玉井 信
 黒 釉 花 器 米澤 久
 瓶 蠟地釉七宝花 竹島金次
 彫 漆 水草文筐 眞子實也
 染付画(夜空) 加藤 巖

魚群花瓶 新山多々志
 花(人形) 武田三千子
 七宝 釜高 春齊
 千珂の箱 那智瀧子
 彩漆文飾 平石晃祥
 管 岡本玉水
 竹ノ棚 中田錦石
 陶製草華紋様花 磯谷丹舸春
 瓶 鐵 鉢 河内三郎
 蘭花文花器 帖佐美行
 線紋花瓶 菊地正直
 七宝燒黒釉抽象 太田良治郎
 文花瓶 苑 山本十絲
 靜 山下恒雄
 鍛金鉄打出し海 澤井平三郎
 鹿置物 澤井平三郎
 軟陶菱形花挿 古瀬堯三
 花 瓶 香取宏臣
 打出し花瓶 清水洋
 線文花器 木村庄太郎
 鑄銅花瓶 松下秀紅
 鍛金花器 草加春陽
 馬 草加春陽
 水面文花瓶 中靜昭平
 水仙華文匣 橋爪義雄
 水器「浜辺」 市橋敏雄
 葉文花瓶 小島章光
 雷神置時計 中島實
 青銅水盤 齋藤玉城
 鑄銅花器 和泉湧清
 竹製 宮 東竹園齋
 陶器鉄絵あざみ 中村雅臣
 花瓶 中村雅臣
 彫金黒味銅花器 桂 信春
 乾漆花器 米納泰三

乾漆盛器 増村益城
 黒石地鈞花生 中清太郎
 游魚文花瓶 野本星黄
 花器 龜井勝
 漆卓「月光」 富士野灯舟
 蠟型鑄銅魚透脚 宮田藍堂
 花器(銅花止附) 德田魁星
 爽秋飾皿 齋藤明
 鑄金水盤 音丸 隼
 小梅草葉パネル 三村比呂志
 漆棚「海辺」 高山 誠
 風 池田和子
 染色屏風「川」 能川光陽
 「梅染二曲屏風 清水正雄
 ぺんぎん衝立 太田誠二
 うし、すすき両 松本基巳夫
 面漆器衝立 中井貞次
 尻無川風景屏風 岡田貢陽
 愛宕の暮色 市川芳子
 いこひ 山形駒太郎
 萌芽衝立 鈴木貫爾
 花と彫刻(依) 藤井觀文
 鑄金和風洋室欄 月明沈金彫風呂
 先屏風 榜彫菊醬桐とす
 すき小屏風 明石朴景
 菖子フアイヤス 中島繁穂
 クリン 藤井 昭
 「貝」壁面裝飾 藤井 昭
 砂丘小屏風 川端三義
 組子木立四曲屏 原 稻生
 風 野村和人
 染色屏風八ツ手 酒井榮一
 刺繡二曲屏風美

蓮池之図染色屏 磯部 陽
 風 升本い津子
 秋 橋田裕土
 向日葵染屏風 野上 隆
 竹 染革衝立 補田撫泉
 スモス乱る(依) 大井見太郎
 牧場の彼方 森本久則
 「からす」小屏風 山田峴山
 秋の陽小屏風 水見晃堂
 壺咲啄同時 山下楊哉
 寄木造透(北斗賞) 鈴木八郎
 彫小屏風(北賞) 宮窪博憲
 織部志野張合せ 篠田義一
 花瓶 高梨徳三郎
 四折小屏風「慈 栗原くま
 光」 小菅小竹堂
 草文象嵌花瓶 大木秀春
 ざぼし風呂呂先屏 栗原くま
 風 小菅小竹堂
 猫 硯箱 有田利章
 「木の実」鳥銅象 古川 一
 嵌四分一箱 勝尾青龍洞
 叭叭鳥金具 鈴木幸平
 線紋鉄瓶 横倉友次郎
 彫漆硯宮(無) 吉田 堂
 切嵌象嵌(參・審) 大須賀 喬
 金銀彩花鳥壺 齋藤 銈一
 花 器 白井幸次郎
 海浜之譜(特・朝) 中村翠恒
 花瓶 瓶 三上 猛郎
 ひととき 岡本 輝子
 花 瓶 三上 猛郎
 文庫水藻 目黒清秀
 彫漆花器 磯 小口正二

月兔紋様 鉄瓶 宮 昌太郎
 潮風文様花瓶 大森信比古
 秋の野飾鉢 藤村豊秋
 遊魚 壺 土屋杏平
 魚辺花瓶(依) 河合榮之助
 彫漆游魚色紙宮 高橋静道
 カンナの図飾宮 加島信夫
 硝子クリスタル 青野武市
 花器 丘 大熊納子
 砂 大熊納子
 花器(鍍金)銅(特・朝) 松原春男
 青銅魚紋花器 能町辰次郎
 青銅構成模様 森下 学
 鑄銅巻蛇 山本自爐
 霽秋平脱裝飾箱 伊藤隆光
 アルバム 堤 圭一
 刺繡小屏風夕顔 横尾 彰
 飛天金具(裝飾 大木秀春
 ハンドバック) 栗原くま
 盛 小菅小竹堂
 あきのくさくさ 栗原くま
 釣花 瓶 鈴木幸平
 山里の図染着物 古川 一
 (訪問服) 勝尾青龍洞
 飾皿山岳の黎明 勝尾青龍洞
 野 草 櫻村大六
 芒 棚(參)前 大峰
 飛雪 笠(依)根來實三
 くず葉模様 戸出政志
 輪花香盆 矢島正明
 白磁 壺 久保駒太郎
 豊 磁 壺 宏きよ子
 百日紅文様彫漆 高橋耕南
 宮 高橋耕南
 クリスタル(參・審) 各務 鑽三

緋銅象嵌文花瓶 大久保鼎湖
 構成文屈輪彫飾 力丸卓二
 白磁線文花瓶 長谷川 勇
 飛吼壺(參) 香取正彦
 銀打出うつわ 稻山幸三郎
 珍泉紋 足付盆 山口權之助
 青銅象嵌花瓶 金森榮一
 手の水盤 染川鐵之助
 彫金田宮 錦秋 松尾忠次
 貝文料紙箱 本田義明
 靜沼手 篋 後藤 學
 青鐵部双条文長 栗木伎茶夫
 角大皿 飯野啓三
 「蝶蛾」小屏風 福岡萍哉
 漆器小屏風「追 山下悦夫
 想」 藤澤淳二
 漆器水辺に咲く 山出守二
 小屏風 村田與一
 染二曲屏風「井 祝 三良
 戸」 森のパーティ
 庭ノ図風宮先屏 木下穆堂
 野鶴漆衝立(依) 番浦省吾
 蠟染屏風章魚干 龜山竹司
 或るデパート 山岸登美
 (染色屏風) 山岸登美
 染織海幸 瀬戸 算
 染屏風 桑 鶴飼 菁
 漆風呂先屏風閑 冬木理紗男
 庭

麦秋文花瓶 加藤省吉
 網目花器 田中千山
 蠟型鑄造水盤 須賀松園
 〔種費〕
 彫漆海老紋の宮 彼谷芳水
 線文花瓶 吉賀大眉
 八角 釜名和光山
 紫紅勃三稜花壺 宮下善壽
 蠟銀象眼花瓶 濱達也
 いづみ 阿部なを
 彫漆小屏風 岡部啓象
 花 生 山本正年
 薄地紋 釜角一圭
 (鑄銅)花瓶 中谷禮男
 彫金細口銅花瓶 添田勇
 鍛金木兔之置物 小川正波
 水文布目象嵌手 上田哲三
 氷裂はぜ印花瓶 安田友彦
 鑄銅銅鳩置物(無) 八井孝二
 花籃(北斗賞) 飯塚小玗齋
 彫金宮花文 今大路長光
 裸婦文花瓶 城戸夏男
 海辺のうら 市橋とし子
 うさぎ耳鑄銅花瓶 森村壽々
 紫陽花磁製花瓶 (參)宮之原謙
 雨後染色屏風 上野斌郎
 みなと 宮崎白鷺
 染色二曲屏風 牛坂源吾
 (粧) 存星西屋敷之図
 壁飾 今雪浩三
 飾茶棚志貴野 金田紅鯨
 四聖紋瓶掛 今藤晴一

竹手 宮田中篁齋
 マツト白磁 瀧井與志司
 〔方耳花瓶〕
 豆ノ図手箱 坂本正春
 冬 中野馨一
 鑄銅馬香爐 松沼永壽
 無題(花瓶) 石田來之助
 (銘)坐鶴盛盤 末村笙文
 彩釉盛器 中村秋塘
 晩秋の林花瓶 小川欣二
 鑄銅(蔓)花瓶 渡邊正
 草ふへ 綿貫萌春
 堆大鉢 島一郎
 鶴首花瓶(依)土肥刀泉
 遊禽文花瓶 新開寛山
 瑞花置物 渡邊紫鳳
 クリストタル硝子 高木茂
 コンポート 津田如洋
 鑄銅花器 下口宗美
 追編花籃 前田竹房齋
 透編花籃 加藤澗川
 花文 釜伊藤鏝一
 魚文 松山榮
 鑄銅花瓶 永澤永信
 魚紋花瓶 松井よし子
 手織壁掛(浜木綿) 水野光太郎
 四季草花屏風 飯田喜代鏡
 彫金水芭蕉棚 駒井直堂
 載金蔬菜之図 駒井直堂
 屏風 漆器子母猫座屏
 染屏風かんな 竹園耕太郎
 刺繡屏風 作田善兵衛
 富岡伸吉
 染色たそがれ 成竹登茂男

〔猿〕衝立 新村撰吉
 〔菊〕四曲屏風 奥村一雄
 船 中村光哉
 描染屏風蓮池の朝 西出宗雄
 截金吊額実 齋田梅亭
 樹間晴日漆 依)小松芳光
 器衝立 依)小合友之助
 蔦繡屏風雨 依)小合友之助
 染彩屏風魚譜 依)皆川月華
 青銅花器 依)會田富康
 夕映文手箱 依)吉田醇一郎
 青磁国萃文花瓶 依)清水六兵衛
 荔枝紋赤銅銅象嵌飾宮 依)大谷玲石
 (特)朝 依)加藤土師萌
 梅文壺 依)加藤土師萌
 烏置物 依)介川芳秀
 鑄銅飛躍飾壺 依)丸谷端堂
 雁文乾漆六 依)本間薺華
 稜盤 依)本間薺華
 慶夏花瓶(參)浦部彌弼 依)本間薺華
 十二稜宇宙釜無鈴木盛久 依)本間薺華
 鑄銅花器(顔) 依)原直樹
 青瓷花瓶(參)大森光彦
 彫漆芙蓉 依)今井盛大郎
 文鼓箱 (特)朝 依)今井盛大郎
 唐銅水禽耳 依)山本純民
 花瓶 依)山本純民
 平文小 依)大場松魚
 籠籠 (北斗賞) 依)大場松魚
 駱駝図飾皿 依)北出塔次郎
 池辺交歡置物(依)高橋介州
 千鳥草文花瓶 依)河合喜燕
 上 依)古木下純寛

鉄打出し(北斗賞) 三井安藤夫
 鶴置物(北斗賞) 室瀬春二
 漆節籠筒(北斗賞) 室瀬春二
 春庭蒔絵節籠筒(依)三田村自芳
 袖彩鉢(特)朝 鈴木青々
 板金獅子置物(依)中野恵祥
 牽牛花影青花瓶 浅見隆三
 清流飾宮(審) 結城哲雄
 刺繡時路の家(參) 岸本景春
 刺繡壁掛(審) 平野利太郎
 (花と魚菜)
 屏風古木(特)朝 山崎立山
 染二曲屏風(依)大坪重周
 〔浜辺の岩〕
 〔高原染色〕 依)山岸堅二
 四曲屏風
 染軸リス(審) 木村雨山
 けし小屏(特)朝 二口志保子
 風 依)二口志保子
 雲 依)般若侑弘
 裝飾 依)般若侑弘
 蠟染(鱈) 依)岸田宗三郎
 屏風(買) 依)岸田宗三郎
 緑釉シルバール組 依)田沼起八郎
 込み飾宮
 黒絵陶壺(依)河村喜太郎
 打出福久置物(審) 三井義夫
 水芭蕉飾宮 依)河合秀甫
 白瓷花瓶 依)岡本爲治
 彫金素銅花瓶(依) 信田洋
 雁手箱(參) 審)高野松山
 秋韻(北斗賞) 依)平田郷陽
 染付花瓶(依) 伊東翠壺
 鑄銅流蠟(參) 審)杉田禾堂
 文花瓶

汀花器(特)朝 岸澤武雄
 彩磁桔梗(會) 審)板谷波山
 文水差(會) 審)香取秀眞
 みみづく香爐(會) 香取秀眞
 漆器盆(會) 審)松田權六
 青銅壺(會) 高村豊周
 彫金龍銀鹿(參) 二橋美衡
 置物
 花瓶青瓷(參) 審)河村蜻山
 陶額アトリエ(依) 森野嘉光
 〔漆〕 依)馬横山白汀
 街二枚折屏風(依) 福澤健一
 立葵屏風(參) 吉田源十郎
 翅音手織綿 依)中村鵬生
 壁面裝飾1 依)平松保城
 漆絵(太陽連作のふも) 依)光典
 陽を追ふ(無) 辻 光典
 の
 手織錦衣裳夢(參) 山鹿清華
 閑庭(額) 依)岡部達男
 牛ノ図飾皿 依)伊東陶山
 影漆小屏風 依)音丸耕堂
 雨のふより 依)音丸耕堂
 板橋額盆 依)島野三秋
 魚文花器 依)堂本漆軒
 色紙張意壽 依)大下雪香
 絵小屏風
 蝶透紋壁掛(無) 鴨 政雄
 黒水仙(參) 審)田藤七
 花藍(參) 審)飯塚瑠玗齋
 磁製盛器(無) 依)内田邦夫
 からあひ花瓶(依) 鴨 幸太郎
 鑄銅花器(審) 松崎福三郎
 唐 賦 五味文郎

広口麦花瓶 (審) 井上良齋
 乾漆壺 (依) 磯井如眞
 青銅魚文透花器 (依) 長野埜志
 木花開耶姫 (依) 堀柳女
 青瓷花瓶 (審) 買米澤蘇峰
 鑄銅雙鳥文花瓶 (審) 北原三佳
 モザイク飾皿 (依) 板谷梅樹
 割花黃蜀 (北斗賞) 叶光夫
 葵図壺 (依) 小川英鳳
 「花」銀彫金花瓶 (依) 各務滿
 クリスタル花器 (依) 鹿島一谷
 踊 (偏壺) (依) 松風榮一
 鶏頭花瓶 (北斗賞) (依) 佐々木象堂
 「狸」伏香炉 (依) 無松本佐吉
 花の壺 (依) 福田三郎
 カリスとパテナ (依) 宮坂房衛
 フォルム (依) 原喜明
 孤獨 (依) 平松宏春
 焰器花器試作 (依) 加藤舜陶
 鉄游牛置物 (依) 吉田丈夫
 花クリスタル花瓶 (依) 山脇洋二
 瓶 (依) 河内宗明
 純銀打出愛育之置物 (依) 芳武茂介
 鉄の花さし (依) 青木滋芳
 染檀山「水」無青木滋芳
 スクリーン (依) 佐藤潤四郎
 (博物館) 黒釉花器 市川廣三

躍鳥「扇壺」今井政之
 志野花器 加藤嶺男
 花の精 (照明装) 長谷川恵一
 置) いちぢくノ花器 加藤鏡一
 花器 加藤賢三
 「新緑」三面屏風 三田村秀雄
 金欄手スクリー 浅野廉
 「雪」遊ぶ) 影金楽人隅棚 三橋國民
 蝶壁花入れ 加藤元男
 海 辺 伊藤雅子
 漆バネル「渚」 (依) 佐治正
 漆色壁面裝飾 大いなるメロ (審) 高久空木
 三曲衝立 (參) 山崎覺太郎
 編物額サボテン 齋田あさ
 楽しき仲間 酒井敬之助
 ねぎ坊主 坂井誓徳
 「森」漆屏風 (審) 高橋節郎
 漆バネル「ツボ」 原田修二
 蝸牛図レース衝立 山田二三子
 想念 (依) 山室百世
 額面堀割り 伊勢珙子
 鑄銅黒豹 (北斗賞) 蓮田脩吾郎
 衝立 三人の少女 (彫) 窪田良次
 漆額面) こでまり草の図 鈴木雅也
 響 (パネル) (北斗賞) 横山一夢
 壁 (額) (依) 六角顯雄
 「愛寵」漆器衝立 寺井直次

湖曲影金皿 (無) 龜倉蒲舟
 花器 阪口宗雲齋
 彫漆盛器 (依) 佐藤陽雲
 白磁亀置物 松尾仁
 草花文様雨端硯 (依) 雨宮靜軒
 銀地螺鈿水指 北村大通
 「露」 銀線飾箱 高坂雄水
 蘇鉄染屏風 金丸水明
 橋 十束敏子
 歳月四枚折染屏 梶山伸
 葉鶏頭染四曲屏 竹田文江
 風 青銅花器 三苦正雄
 象牙磁雉子置物 内藤義兼
 白瓷花瓶 井上治男
 黒釉象嵌壺 館野善次郎
 陶製初夏 (電柱とツバメ) 眞鍋知道
 黒絵扁壺陶器 藤平正文
 陶裸 中里忠夫
 九谷色絵耀変大鉢 淺藏五十吉
 乾漆花器 八箇清珠
 果実文花瓶 涌波蘇隆
 長 四方釣 閑川上南甫
 四方釣 高橋敬典
 けし文壺 瀧一夫
 乾漆花器 小山健藏
 朝露鎌倉彫飾箱 (依) 富樫光成
 鍛金四分一花生 羽原秋芳
 梟角 壺 林平八朗
 独楽形花籃 (無) 田邊竹雲齋

鑄銅瑞雲花瓶 中島保美
 蓮の実文陶宮 谷口美平
 花盛紫菱「うねり」 小峠秀夫
 銀四分一切 (依) 小川友衛
 嵌花瓶 里見駿吉
 双魚文彩磁盛器 伊東奎
 海芋之図花瓶 池田逸堂
 鑄銅瑞雲果花文 林茂松
 透銅 池田逸堂
 レグホン花瓶 古宇田正雄
 ヨット模様花瓶 一后一兆
 猫蒔絵 篋 大江文象
 驚絵ノ壺 小森十九
 盛 藤原ただを
 線条紋扁壺 野口光彦
 赫夜姫昇天 (依) 寺池旬焔
 鯨 扁壺 清水青巖
 鑄銅瓢花さし 小林美春
 彫金唐獅子置物 河本五郎
 染付花器 山越弘悦
 色絵赤澁釉木ノ葉文 小林照雲
 粟花 大樋年郎
 陶器「蝶紋」花器 加藤嘉山
 葉文様花瓶 堀如眞
 青銅飾耳付花瓶 井尾敏雄
 銀矧合花瓶 野口晴朗
 游 藍流文花瓶 桶谷定一
 彫金「飛躍」壁面嵌込裝飾 加藤宗巖
 早 春 張間麻佐緒
 梧桐図、染四 (依) 談議所榮二
 曲屏風

染屏風、暖房之 三浦景生
 躍動飾棚 横山玉抱
 鶴の図詩絵屏風 八木一
 染色「屏風」樹木) 喜多村榮太郎
 関 志 吉岡勝二
 「空」衝立 佐藤貞一
 和染戸隠の民家 皆川泰藏
 染色二曲屏風 岩下洋
 染衝立「白日」 南部吉英
 (書) 湖中酒に對す 佐山翠雲
 宿石邑山中 七丈南豊
 詠懷 (白楽天詩) 武政北總
 画 鶴 行 大橋富峯
 高青邱 詩 貞廣春山
 無明 賦 友井篁村
 寒山 詩 荻原冬眠
 竹里 詩 中野大雅
 宋司馬温公独楽園記 藤本竹香
 晋陶弘景語 櫻井松居
 中村憲吉の歌 山口古堂
 奉觀嚴鄭公斤事 桑澤子雪
 岷山沱江図 藤田蒼碩
 蘇東坡詩 渡邊錦舟
 四時詠書樂詩 小佐山洪堂
 高青邱詩草筆峯 吉田浩堂
 張謂湖中對酒作 上松義山
 終南別業 墨谷鶴村
 良寛 詩 墨谷鶴村
 胡茹の歌 杉原丘南
 山居秋暝 南尚雲
 將進酒 角田朴水
 社 甫 詩 三宅劍龍

仁賀保香城詩	止水讚	題義公禪房	萬葉二首	唐詩七律(妬花)	開先漱玉亭	七律	詠富士山	飲酒詩	唐詩	陶淵明答龐參軍	李白詩	春江花月夜	春江花月夜	李白詩	枯木花開春日麗	獨酌三杯妙	以怡余情	爐火一炷中	合和履中	唯我知	黃雞白	合詩情	周意難適俗	生涯似蠶魚	無門	山紫水明石	流	好古笑流俗	好古乘道	寸鉄在手	中氣味偏長	靜光陰最好閑
萩原龍碩	綾村坦園	田中虚松	鶴飼昭子	高須翠雲	田邊栖竹	佐々木春芳	大塚越柿	長江左翁	守時大融	伊藤樵舟	太田京子	中野蘭疇	富樫休軒	高畑翠石	土谷雲盧	松原蒼洲	内藤江月	中村淳	杉本翠鳳	吉益昱堂	高畑素石	内藤香石	中原野呂	古谷青山	二葉樹香	井川嘲花	山崎祥石	山崎正平	山鹿清一路	山鹿清一路		
陶淵明詩	和歌集抄	涼秋(富青邱作)	四季の歌	江上吟	山家集抄	拾遺和哥集抄	望不盡山歌	鄭審詩	徐禎卿在武昌作	湖中对酒作	臨洞庭	王摩詰五言律二首	江上晚眺	茶煙	月	李白五言古詩	禮記	春夜宴桃李園序	載叔倫の詩	良寛秋暮詩	二十首の一	陶淵明の詩飲酒	秋霖家居	杜甫七律	舍弟	杜甫詩	李太白古詩	酒作	張正元	杜甫の詩	李太白詩	
入山東石	齋賀雅峰	土崎龍山	井上青香	佐藤鳳城	坪井正庵	橋本嘉文	戸田提山	影山磐溪	荒井君石	原田青邨	富田翠江	鷺見淺嶽	渡邊秀華	金子紫竹	米田玉泉	鈴木未央	八木泰翠	中塚霜竹	堀江翠峽	山田松鶴	大澤松亭	小西狭川	真島雄山	阿部江東	大橋暁山	中村旭坡	中村旭坡	黒澤春來	山本激堂			
劉長卿詩三首	鳴門之詩	良實詩	蘇東坡古詩	杜甫の詩	春目漱石	西山行	夏目漱石	西白詩	李白詩	古柏行	李太白詩	王陽明登嶽詩	仏説阿彌陀經	李太白詩	拾遺集抄	幽居	時雨	後拾遺集抄	松声(白樂天詩)	拾遺集抄	春	う	山家集秋歌抄	高齋問望	首	王昌齡詩七絶二	明	韓昌黎七言律	詩二首	良寛詩	杜少	
高木大鳩	富永眉峰	高木桑風	井上澄慶	二川篁堂	中原一耀	吉田豊照	水木愛堂	伊藤昌山	西川萬象	浅見寛洞	藤川恵堂	篠塚新峯	北垣華洞	工藤愚丁	刀谷恒子	錦洞	鈴木龍雲	平勢雨村	北尾明華	川崎泉陽	福田芳春	山本翠蹊	山下荻丹	菅沼香風	小川南流	神崎紫峯	大澤碧水	鶴木大壽	結城巨流			
唐詩五言律	劉長卿詩二首	唐詩二題	李白詩長干行	李白詩長干行	答呂梁仲屯田	江上吟	唐詩七絶	唐詩五首	東波獄中詩	野分の頃	念仏正信偈	菜根譚	文天祥過平原作	杜甫七言律詩	兵車行	蘇東坡の詩	長干行	長相思	江上吟	喪陽曲四首	山居秋暝	春門張船山の詩	雲居寺孤桐	作	蘇東坡詩	常建作	峴山	雨	心			
泉原壽石	神谷葵水	遠藤雪南	相原墨陔	岩間祥霞	宗田明峰	中川雨亭	曾根桂泉	小林蒼松	兼松泛香	大澤史峰	村田竹涯	花山春霞	栃木芝山	堀田翠堂	石澤煌峰	芝山天行	淺見錦龍	中芝竹	鬼頭大愚	渡邊求古	高木鳴鳳	大瀧如水	黒田芳汀	三田清白	中井史朗	小出聖水	今野修竹	久野麦錢				
和詩給事寓直	詩五言律二首	白居易詩	良寬上人詩	雨夜聞雁	白居易詩	高適時(夜別韋司士)	江上吟:唐李白	桃源	八月三日夜作	唐詩五律十二首	宣城謝眺北樓	李白之詩(秋登)	司馬溫公真率銘	杜山	寒室	廬室	虞美人	李白の詩	唐詩(特朝)	遊太山六首/中一首	寒山詩	律	杜少陵五(特朝)	倪雲林詩(依)	題山水	馬行	蘇東坡詩	常建作	峴山	雨		
泉原壽石	加藤光城	米倉大謙	安原畢雲	弦卷松蔭	大野篁軒	菅野小雀	武市秀峯	小名木東邨	江川蒼竹	都築西淑	鈴木天城	安藤榻石	中平南海	阿部翠屋	高橋蒼峰	西村桂洲	廣津雲仙	鈴木祖泰	上條信山	高木哲洲	佐々木坡唐	安井壽泉	無門行(無)	五十音歌(依)	七言古詩(杜)	蘇東坡詩	常建作	峴山	雨			
吉田桂秋	梅田一丘	木梅溪	安井壽泉	高木哲洲	佐々木坡唐	安井壽泉	無門行(無)	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依	依		

蘇東坡詩舟中夜 津田翠依
 起 杜甫 詩 村寄鴨畦
 杜 甫 詩 岡本松堂
 漱 石 詩 太田慎齋
 題破山後院寺 木村知石
 瓜疇老人 (特朝) 龜井清堂
 略伝 四時讀書其一 塚本樹石
 高青邱寓興三首 小島訥言
 高青邱詩 江口翠揚
 興高適詩同 江口翠揚
 登慈恩寺浮圖 江口翠揚
 王介甫詩明妃曲 鍋島古龍
 白帝城懷古 稻田雲道
 白樂天木蓮樹 角谷芳齋
 三首 江口翠揚
 江山晚眺 仁平鳳竹
 王荏詩別薛詩 花田峰堂
 公子行 加藤梅香
 慈烏夜啼 小菅秋嶺
 嘆仏傷 (特朝) 阿部珂山
 扁舟意 山崎大抱
 賀の歌 (依) 桑田笹舟
 唐詩楷書 (依) 沖六鷗
 哀江頭 黒川研水
 李涉詩 北村九皐
 二曲屏風半 (依) 中村春堂
 七律 川上白翠
 白樂天松声五言 辻本翔鶴
 古詩 辻本翔鶴
 摩詰過香積 (無) 森田翠香
 寺詩 吉田栖堂
 劉禹錫陋室銘 松永凌雲
 漢仲長統志論 藤岡九波
 李白詩 藤岡九波

雲山 因川浪青蓮
 胡茄 歌 山田尚頌
 李太白古風 (依) 鈴木汪亭
 詩 望月祥堂
 早秋 作 宮川翠雨
 詩 望月祥堂
 林和靖隱居秋日 望月祥堂
 慶外亭 伊東參州
 處來詩「我生何 佐々木如堂
 歸田園 居近藤撰南
 七律 川上晴亭
 行草書六 (參) 審川村驥山
 言句對聯 (會) 審尾上柴舟
 雪 寒山五絶 (依) 江川碧潭
 小町抄 池部松堂
 七言絶句 (依) 青山杉雨
 父母恩重經抄 源元芳子
 奥の細道 (審) 高塚竹堂
 さくら (參) 審相澤春洋
 福徳田満 (審) 鈴木翠軒
 閑情淡遠四 (會) 豊道春海
 字額 洪濤滔天 (審) 手島右卿
 秋のけはひ (依) 羽田春柱
 みよし 野 奈良島まよ子
 あかし (依) 買安東聖空
 安分歌 (依) 池晴嵐
 杜甫詩 (依) 赤羽雲庭
 陸放翁遊停 (依) 村上三島
 化寺詩 (依) 村上三島
 和光同塵 (依) 松井如流
 山家集抄 倉重天拜
 山家集 (無) 谷邊橋南
 清少納言集 山本御舟

布希の里 (依) 吉澤義則
 良寛のうた 吉田黄桂
 まつかね 前島松軒
 小町集 西谷卯木
 後撰和歌 (特朝) 浮乘水郷
 集抄 長塚節の (特朝) 増田節堂
 歌 山家集抄 平盛拜山
 古和歌集卷第十 八抄 小山隆
 久方帖 松本直
 高方集 (抄) 深山龍洞
 貫之集第一 宮本竹逕
 後撰和歌集秋歌 東山一郎
 貫之集第九 岡田秋翠
 山家集抄 小野桂華
 浜松が枝 (無) 大石隆子
 妙法蓮華經如来 奥田家出
 寿量品第十六 旅のうた 平田華邑
 班 雪 池田鳥川
 古今和歌集第十 八 二宮伯龍
 和泉式部集抄 有城青柳
 李白「月下 (審) 印南溪龍
 独酌」 (依) 上田桑鳩
 無題 (依) 上田桑鳩
 唐詩七律四 (參) 辻本史邑
 首 絶 王國維七 (參) 審西川寧
 春は曙 (審) 田中塊堂
 仏説阿弥陀經 番場敬華
 来吉斎記 (參) 松本芳翠
 古歌二首 (依) 内田鶴雲

自泳五律 (依) 津金雀仙
 唐詩七絶 (特朝) 徳野大空
 元道山詩 (依) 小坂奇石
 蘇東坡詩 (審) 近藤秋篁
 李文山九日 (審) 平尾孤往
 詩 白樂天詩 (審) 炭山南木
 黄山谷詩 (依) 山崎節堂
 魏徵述懷 田中海庵
 人日宿杜二拾遺 小林孤秋
 秋風之辞 藤原鶴來
 李白二詩 津村枕石
 李太白詩 島津半仙
 張協雜詩之一 大岡皓崖
 南鄰 小森玉陽
 陶淵明酬劉 (買) 佐藤祐豪
 柴桑詩 書譜之語 (依) 柳田泰雲
 紅葉 (依) 日比野五鳳
 唐詩 (依) 宇野雪村
 江上吟 細川墨水
 東坡詩 (無) 今井凌雪
 長干行 藤田霞畦
 高青預詩 三村秀竹
 司馬溫行詩 岩谷青海
 王翰詩古長城吟 岡本白濤
 古詩 天石東村
 白樂天詩 中林子鶴
 菜根譚 (無) 菅谷幽峯
 李白に寄 (特朝) 殿村藍田
 衆流截斷 (依) 生井子華
 掃唇鼓舌 (依) 園田湖城
 鳥黑鷺白殿木春洋
 道得入成金山鋤齋

萬物作焉而 (審) 中村蘭亭
 不辭 十分痛処 (特朝) 保多孝三
 憂心 欽 (依) 関野香雲
 尋常之瀟無吞舟 小林斗盒
 一狐の腋 中静魯公
 雁去燕來 水野東洞
 執共 中伏見冲敬
 尺沢之鮎 森田緑山
 大象不遊の免徑 松谷石韻
 壺中日月長 永野芳蘭
 前度劉郎 (特朝) 梅丁齋
 融 暢 (參) 石井雙石
 起弄明月霜天高 橋本碩台
 周南、兗 菅 (無) 佐藤桃巷
 第一章 物新人旧 (依) 松丸東魚
 夢使脱蹊 大久保翠洞
 樂其所安 久保田大郷
 震島社七人展 30-11月4 銀
 座・松坂屋
 河合榮之助大皿展 31-11月5
 大阪・三越
 井上造遺米作品展 31-11月
 6 大阪・高島屋
 未生流紫明会秋の新作展 31-
 11月5 大阪・松坂屋
 一一月
 牧野虎雄遺作展 1-3 多摩
 美術大学
 流形造形展 1-5 日比谷

画廊

小山田二郎洋画個展 1-10

タケミヤ [批]美術批評12月 (針生一郎)

板谷波山陶藝展 1-5 安藤

七宝店 [批]産経17(横川毅 一郎)

3回街頭美術展 1-3 池袋 東口

畑正吉彫展 1-8 上野・松坂屋

山中春雄個展 1-7 横浜・ホースネック [批]美術批評12月(寺田透)

絵巻に現われた通信展 1-10 通信博物館

労美展 1-7 大阪・労働会館

2回佐藤大寛個展 1-6 大阪・高島屋

松平康南油絵展 2-7 阿部 養清堂

11回造型版画協会展 2-7 光風会館 [批]美術批評12月 (恩地孝四郎)

菊地精二油絵個展 2-5 資 生堂

飯島庸行個展 2-7 兜屋

[批]美術批評12月(植村鷹千 代)

麓人展 2-7 日本橋・丸善

3回走泥社作陶展 2-10 和 光

秋季国展 3-8 日本橋・三 越

清瓊会日本画展 3-8 日本 橋・三越

初霜会展 3-8 日本橋・三 越

頌松会日本画百人展 3-8 上野・松坂屋

一九五三年建築サロン 3-8 日本橋・三越

日仏文化交流展 3-14 日本 橋・丸善

中国朝鮮古陶磁展 3-8 上 野・松坂屋

13回大分県美術協会展 3-8 大分・商工会館

河井寛次郎作陶四十年記念展 3-17 芝・光輪閣 [批]産 経17(横川毅一郎)

泰西名画展 3-29 大阪・フ ジカワ画廊

2回千種会日本画展 3-8 京都・大丸

プラスチック藝術展 3-8 京都・大丸

17回新制作展 3-15 京都市 美術館

3回一よう会和染展 3-8 大阪・阪急

杉本健吉、大谷房吉、須田勉太 とも会会展 3-11 大阪・ 高島屋

マリイ・レイモン、フレッド・

クレイン二人展 3-15 プ リヂストン

[批] 毎日7(徳大寺公英) サン10(金子義雄)

美術批評12月(瀬木慎一)

4回日向裕個展 4-9 フォ ルム

美術文化秋季展 4-7 サエ グサ [批]美術批評12月(瀬 木慎一)

奥村土牛素描展 4-10 中央 公論社画廊 [批]朝日8、産 経17(横川毅一郎)

新匠工藝展 4-8 日本橋・ 高島屋

尚美展 4-7 壺中居

金山平三近作発表展 4-10 大阪・美交社

小名文夫個展 4-7 トップバ ン・セールズ二階

1回乾水会展 4-9 大阪・ 淀屋画廊

清水多嘉示近作ブロンズ展 5 -7 岡山・金剛荘

良寛遺墨展 5-10 京都・丸 善

南画院展 5-10 美術倶楽部

古川昌一個展 6-10 資生 堂

洋画七人展 6-11 銀座・松 坂屋

日本彫塑家クラブ関西支部展 6-11 大阪・そこら

日本風俗変遷展 6-8 京都

・華頂学園

バーナード・リーチ、棟方志功 展 7-13 たくみ

三輪晃勢スケッチ展 7-12 京都・丸物

菅橋彦、小杉放庵二人展 7- 13 大阪・高島屋

2回愛媛県展 7-11 松山市 県民館

1回稀星会油絵展 7-13 大 阪・高島屋

故坂口右左視妻描展 7-20 京都・すいれん

青山熊治遺作展 8-23 神戸 ・白鶴美術館

東西日本洋画新作展 8-9 京都・美術倶楽部

4回關交社文人画・書・篆刻展 8 妙法院御殿

大河内信敬水彩画展 9-14 阿部養清堂 [批]時事13(日野 耕之祐)、産経17(横川毅一 郎)

岡田三郎助展 9-14 光風会 館 [批]東京13(大河内信敬)

小泉清個展 9-14 東京画廊

[批]産経30

野外アンデパンタン展 9-19 大分市キムラヤ画廊前

キャンデル会展 9-14 日本 橋・丸善

矢橋六郎個展 10-14 サエグ サ

齋藤清版画展 10-15 日本橋

・三越

鈴木信太郎油絵展 10-15 日 本橋・三越 [批]産経17(横 川毅一郎)

日野耕之祐個展 10-15 上野

・松坂屋 [批]時事13(大河 内信敬)、産経17(横川毅一 郎)、美術批評12月(難波田龍 起)

京松会展 10-15 銀座・松屋

宮本三郎滞欧近作展 10-15 大阪・阪急

1回錦虹会作品展 10-15 大 阪・大丸

宮坂昌夫新作展 10-16 大 阪・中央クラブ

野尻弘中之島風景スケッチ展 10-14 大阪・淀屋画廊

佐々木邦彦個展 11-15 京都 府ギャラリー

杉全直個展 11-16 フォルム

[批]美術批評12月(瀬木慎一)

ボザール五人展 11-20 サエ グサ

佐伯祐三回顧展 11-17 中央 公論社画廊

白寿会展 11-15 日本橋・高 島屋

慈雲尊者墨跡並日本古陶磁展 11-14 日本橋・相馬堂

デモクラート小品展 11-20 新宿・ヴェルテル

2 回現代洋画壇一五人新作展

11-16 大阪・梅田画廊

38 回院展 11-22 名古屋・松坂屋

2 回中部示現会展 11-20 京都市美術館

現代オランダ版画展 12-12月 13 名古屋・徳川美術館

京都染織文化展 12-20 日本橋・三越

小川千麿画展 13-15 岡山・金剛荘

孔版文化展 13-17 ブリヂストン

大石照作品展 13-19 大阪市クラブ(及び 24-27 大阪・大丸)

萩原碌山作品展 14-15 長野県種高町第一公民館

洋画名作展 14-25 市立神戸美術館

国立公園洋画展 14-19 大阪・三越

初霜会展 14-19 大阪・三越

石川泉工藝名匠展 14-19 大阪・高島屋

7 回京都工藝美術展 14-19 京都・丸物

中国絵画展観 (黒川古文化研究所主催) 14-15 芦屋・黒川古文化研究所

大観・玉堂双壁展 15-25 銀座・松坂屋

時事(三輪郷)

美術展覧会(11月)

サン27(金子義雄)

産経30

一水会展 15-25 大阪・その

陽明文庫同好会例会 15 陽明文庫

百軌会同人展 16-21 日本橋・丸善

日展特選・岡田賞受賞作家展 16-21 光風会館

児島善三郎油絵個展 16-21 サエグサ [批] 毎月21、産経30

北岡文雄個展 16-19 資生堂村井正誠、山口薫、長谷川三郎三人展 16-21 阿部善清堂

栗田九品庵展 16-21 壺中居熊岡美彦遺作展 16-21 東洋美術館

田村一男近作展 16-20 大阪・丸善美術

噴技会象牙彫刻展 16 日本橋・北商事内同会

滝川太郎油絵静物個展 16-21 並木画廊

3 回新興美術院秋季展 17-22 銀座・松屋 [批] 産経30

池田勇八彫塑展 17-22 日本橋・三越

良寛逸品展 17-29 新宿・伊勢丹

美術研究所開所記念展 詩画軸

17 美術研究所(東京文化財研究所)

寺田春式個展 17-21 東京画

廊

燦耳会美術工藝展 17-22 銀座・松屋

大兼実個展 17-21 大阪・梅田画廊

日新社新作日本画展 17-22 名古屋・松坂屋

沖繩民藝展 17 千葉成田町図書館

陶藝三人展 17-23 大阪・大丸

栖鳳・関雪・松園名作回顧展 17-23 大阪・大丸

渡欧記念中川一政新作発表展 17-22 大阪・大丸

伊藤彪油絵個展 17-22 大阪・阪急

朝鮮・中国古美術展 17-22 大阪・阪急

1 回六酒会展 17-22 大阪・大丸

今日のフランス作家展 18-25 中央公論社画廊 [批] 朝日22

(植村騰千代)

9 回山形県展 18-22 酒田・本間美術館

松田正平個展 18-24 フォルム [批] 産経30

津田青楓個展 18-22 日本橋・高島屋 [批] 産経30

開設一周年記念展 18-22 中央公論社画廊

海老原喜之助個展 18-12月2 大牟田・松屋

一茶俳画俳句展 18-24 大

阪・淀屋画廊

複製浮世絵百選展 19 渡辺版画店

高橋虎之助洋画展 19-21 大阪・第一生命

辻晋堂彫刻個展 19-24 京都・丸善

新国宝・重文特別展 19-25 東京国立博物館

1 回柏陶会展 20-25 日本橋・白木屋

高瀬捷三個展 20-25 資生堂

佐藤猛ろうけつ染展 20-24 大阪・高島屋

瓶掛展 20-22 大阪・高島屋

長岡忠三郎個展 21-25 日本橋・白木屋

早瀬龍江・白木正一二人展 21-30 タケミヤ

8 回風会展 21-25 日動画廊 [批] 産経30

ルオI展 21-12月10 大阪市立美術館

現代美術展 21-12月6 高岡市美術館

日美会秋季展 21-23 日比谷画廊

米子美術家協会展 21-24 米子公民館

ゴッホ生誕百年記念展 21-23 諏訪市美術館

鈴木信太郎油絵個展 21-26 大阪・三越

茨木杉風、横田仙草二人展 21

1-26 大阪・松坂屋

38 回二科展 21-12月3 京都・丸物

津田周平、山田一雄、金田辰弘三人展 21-25 京都府ギャラリー

武者小路実篤個展 22-28 壺中居

上島一司個展 22-24 京都・祇園画廊

2 回河井達治油絵個展 22-26 大阪・梅田画廊

4 回工藝洋和会展 23-30 和光 [批] 産経30

ブレザントクラブ同人展 23-26 銀座・松島ギャラリー

川村竹雄作品展 23-29 横浜・ホースネック [批] 美術批評29年1月(中井幸一)

吉田ふじを他女流作家三人展 24-28 日本橋・丸善

石塚三郎個展 24-28 光風会館

川端龍子「奥の細道」連作個展 24-29 日本橋・三越 [批] 時事28、産経30

東陶会新作陶展 24-29 日本橋・三越 [批] 産経30

奈良工藝展 24-29 日本橋・三越

潮会展 24-29 上野・松坂屋 [批] 産経30

真垣武勝個展 24-25 フォルム [批] 美術批評12月(福島

辰夫

- 西村 雁定個展 24—28 阿部 養
- 清堂〔批〕産経 30
- 木村 鉄雄油絵展 24—28 サエ
- グサ
- 棟方 志功鳥魚百態展 24—29
- たくみ
- 日仏文化協定成立記念フランス
- 図書文化展 24—30 プリヂ
- ストーン
- 〔記〕
- 朝日 23、24、25、26、27、28
- 日本 画秀作展 24—29 大阪・
- 丸善 美術
- 特別 名品鑑賞会 24—29 大阪
- ・ 阪急
- 七 番館新作工藝品展 24—29
- 大阪・ 阪急
- 1 回錦虹会展 24—29 京都・
- 大丸
- 中国 美術展 24—29 京都・大
- 丸
- 青木 大乗個展 24—30 大阪・
- 高島屋
- 那智 瀧子セメント工藝展 25—
- 29 日本橋・高島屋
- 野水 会日本画展 25—29 日本
- 橋・高島屋
- 川合 修二陶藝展 25—29 日本
- 橋・高島屋
- 七 彩会展 25—26 米子公民館
- 小松 益喜個展 25—29 大阪・
- 大丸
- 4 回勤労者美術展 25—30 京

都市美術館

- 山本 敬輔個展 26—12月1 中
- 中央 論社画廊〔批〕産経 30
- 美術 批評12月(針生一郎)
- 3 回青晴会洋画展 26—30 フォ
- ルム
- 熊野 俊一個展 26—30 資生堂
- 6 回白寿会展 26—29 大阪・
- 高島屋
- 美術 文化協会秋季展 27—30
- 村松 ギャラリー
- 本郷 新彫刻小品と素描展 27—
- 12月2 兜屋
- 新制 作展 27—12月6 大阪市
- 立 美術館
- 小磯 良平壁画習作素描展 27—
- 12月5 大阪・梅田画廊
- 38 回クラマ画会展 27—30 京
- 都・アサヒ ギャラリー
- 先 進美術展 27—12月1 京都
- 府 ギャラリー
- 時田 直善個展 28—12月3 大
- 阪・松坂屋
- 五 沐会新作工藝品展 28—12月
- 3 大阪・三越
- 錦 義一郎油絵展 28—30 京
- 都・土橋画廊
- 鈴木 昶油絵個展 28—29 京都
- ・ 妙智院
- 吾心 会展 28—29 京都市美術
- 館
- イ タリヤモザイク桜井 炉山個展
- 29—12月8 和光
- 田部 井石楠日本画展 30—12月

5 日本橋・丸善〔批〕産経

- 12月3
- 新制 作ミニアチュール展 30—
- 12月5 阿部 養清堂
- 流 形派遣形展 30—12月5 横
- 浜・ホース ネット
- 富田 漢仙遺作小品展 30—12月
- 5 大阪・丸善 美術
- 一 一二月
- 抽 象と幻想展 1—1月20 国
- 立 近代美術館
- 〔批〕記
- 毎 日2
- 朝日 3、4、6(植村 鷹千代)
- シ 8、9、10(瀧口 修造)
- 読 売3(瀧口 修造)
- 小 出橋重、古賀 春江展 1—1
- 月 31 鎌倉・近代 美術館
- 〔批〕毎日 26
- 小 出橋重作品
- 油 彩
- 銀 扇 1914
- N の 家 族 1919
- 静 物 〃
- 自 画 像 1920
- カ ーニユの窓 1922
- カ ーニユの風景 〃
- 心 斎橋スケッチ 〃
- ア ザ ミ 1923
- 花 1923頃
- 帽 子を冠った自 1924
- 画 像

草花

- 草 花 1924頃
- 雪 の市街風景 1925
- 腰 かけている裸 1926
- 草 花 〃
- 草 上 蔬菜 1926頃
- 卓 上 蔬菜 1927
- 草 女 結 髪 〃
- 裸 女 静 物 〃
- 野 菜 静 物 〃
- 婦 人 像 1927—28
- 裸 婦 立 像 1928
- 雪 景 色 〃
- 風 景 1928頃
- 裸 婦 1929
- 支 那寝台の裸婦 〃
- 電 線のある風景 〃
- 桃 上 蔬 菜 〃
- 卓 上 蔬 菜 〃
- 裸 婦 1929—30
- 芦 屋 風 景 1929—30
- ケ シ の 花 1930
- 盛 フランス人形 装 〃
- 顔 フランス人形 〃
- フ ランス人形 〃
- ソ フアの裸女 〃
- 前 むきの裸女 1930
- 室 内 裸 身 〃
- 後 むきの裸女 〃
- 水 彩・デッサン 〃
- 腰 かけている女 1924

花

- 花 1927
- ス テンド・グラ 1929
- 裸 婦 〃
- 蓼 喰う虫挿絵 〃
- 裸 婦 〃
- 立 っている女 〃
- 支 那寝台の裸婦 〃
- 大 阪を歩く 1931
- ガ ラス絵
- 立 てる裸婦 1926
- 裸 婦 1929
- ス テンド・グラ 〃
- 横 臥裸婦 1930
- 裸 婦 〃
- 裸 婦 〃
- 裸 婦 〃
- 裸 婦 〃
- 屏 風 〃
- 池 辺の鶴 1926
- 山 の 図 〃
- 古 賀春江作品
- 横 たわる裸婦 1918頃
- 婦 人 像 1919
- 干 人物 〃
- 婦 人 像 〃
- 母 子 1921
- 農 夫 たち 〃
- 観 音 〃
- 坐 せる婦人 〃
- 埋 葬 1922
- 二 階より 〃
- 将 棋をさす人々 1923—4

七面坂	1924	遊園地A	1926
窓辺の婦人	〃	美しき博覧会	〃
婦人	〃	花園地	1926
庭先の婦人A	〃		
庭先の婦人B	〃		
花物	〃		
静物	〃		
風景	1925		
夏山景	1926		
煙山景	1926-7		
煙山景	1927		
素朴な月夜	1929		
花月夜	1929-30		
單純な哀話	1930		
音楽	1931		
現線を切る主	〃		
智的表情	〃		
白い貝殻	1932		
くじやく	〃		
水彩	1933		
風景	1921		
海女	1923		
母C	〃		
母B	〃		
母A	〃		
河岸風景	1924		
庭先	1925		
静物	〃		
花物	〃		
美しき博覧会	1926		
遊園地A	〃		

美術展覧会(12月)

遊園地B	1926	尚美展 1-4	壺中居
婦人	〃		
街外風景	1926-7		
窓外風景	1927		
子供供	〃		
公園のエピソード	1928		
素朴な月夜(下)	〃		
図景(下)	1929		
カッパ	〃		
風景(下)	1930		
赤い月	1932		
そらにある	1933		
抽象A	〃		
梅象(版画)	1924		
香蘭表紙下絵	〃		
第十四回二科展	〃		
ボスター	〃		
春陽会秋季展	1-6	銀座・	
松屋 [批] 産経18 (横川毅一郎)	〃		
須賀通泰個展	1-10	タケミ	
ヤ [批] 美術批評1月 (瀬木慎一)	〃		
光風会工藝展	1-7	光風会	
水彩運盟同人展	1-6	日本	
橋・三越	〃		
濱田庄司新作陶展	1-6	日	
本橋・三越	〃		
横山義雄個展	1-5	資生堂	
新筆会日本画展	1-8	新	
宿・伊勢丹	〃		
尚美展 1-4	〃		

石井柏亭近作展	1-5	大
阪・美交社	〃	
東西名家新作日本画展観	1-6	大
上嶋龍小品展	1-6	大阪・
ギヤラリ御門	〃	
北陸工藝名作展	1-6	大
阪・大丸	〃	
古澤岩美個展	2-7	中央公
論社画廊	〃	
全国漆器展	2-9	銀座・松
屋	〃	
5回丹楓会作品展	2-6	日
本橋・高島屋	〃	
笹川由為子個展	2-7	フォ
ルム [批] 美術批評29年1月	〃	
(瀬木慎一)	〃	
17回大潮会展	3-18	東京都
美術館	〃	
10回パンリアル展	3-7	京
都市美術館	〃	
明治・大正・昭和名作美術展	3-15	広島・福屋
年末日本美術家連盟展	4-9	
銀座・松坂屋	〃	
2回双主会日本画展	4-9	
日本橋・白木屋	〃	
双青会美術鑑賞会展	4-12	
サエグサ	〃	
日社小品展	4-9	銀座・
松坂屋 [批] 産経18 (横川毅一郎)	〃	
4回家具サロン	4-9	銀
座・松坂屋	〃	

美雲社木版画展	4-9	京
都・丸善	〃	
青松会日本画展	4-9	銀
座・松坂屋 [批] 産経18 (横川毅一郎)	〃	
11回明治会美術展	5-8	日
动画廊	〃	
6回全国勤労者美術展	5-18	
東京都美術館	〃	
3回川端龍子「奥の細道」連作展	5-10	大阪・三越
秋神道入近作書道展	6-10	
日本橋・丸善	〃	
青山熊治遺作展	6-10	大
阪・梅田画廊	〃	
田中忠雄個展	7-10	資生堂
[批] 時事9 (横川毅一郎)	〃	
鷹山宇一、斎藤芥二人展	7-12	
阿部善清堂	〃	
伊賀、菊山翁近作展	7-11	
黒田陶苑	〃	
宗々会展	7-10	壺中居
[批] 産経18 (横川毅一郎)	〃	
17回自由美術展	7-13	大阪
市立美術館	〃	
1回関西光風会展	7-13	大
阪市立美術館	〃	
4回白土会展	8-13	日本
橋・三越	〃	
高田正二郎個展	8-14	光風
会館	〃	
河内山賢祐彫刻個展	8-12	
日本橋・丸善	〃	
京都工芸美術展	8-13	日本

橋・三越	〃	
井高鼎山新作陶展	8-13	日
本橋・三越 [批] 産経18 (横川毅一郎)	〃	
洛風会日本画展	8-13	上
野・松坂屋	〃	
2回平和を守る美術展	8-20	
大阪市立美術館	〃	
半弓会日本画展	8-13	大
阪・阪急	〃	
河井寛次郎作陶四十年記念展	8-13	大阪・高島屋
4回皆川泰蔵民家染展	8-13	大丸
萩谷巖滯欧作展	9-13	日動
画廊 [批] 時事11 (横川毅一郎)	〃	
芝英会日本画展	9-13	日本
橋・高島屋	〃	
丹匠会新作工藝展	10-20	新
宿・伊勢丹	〃	
豊田一男蠟画個展	10-14	高
崎・珍竹林画廊	〃	
岩田藤七ガラス器展	10-16	
大阪・淀屋画廊	〃	
創造美術協会彫塑小品展	10-16	
16 大阪・ギヤラリ御門	〃	
田中佐一郎油絵個展	10-12	
京都・土橋画廊	〃	
ピカソエツチング展	11-16	
日本橋・丸善	〃	
4回一よう会和染展	11-16	
日本橋・白木屋	〃	
加藤正個展	11-20	タケミヤ

須田壽個展 11—15 資生堂

(批)美術批評1月(瀬木慎一)

紫草会日本画展 11—16 銀

座・松坂屋

中川一政新作展 11—16 大

阪・梅田画廊

5回美術展覧会—琉球文化と

タ・ウインチ展— 12—13

駒場・東大教養学部

西村喜久子個展 12—16 銀

座・村松時計店

28年度台東地区作品展 12—17

東京都美術館

石鼎俳画遺作展 12—13 京

橋・東貨ビル三階

一九五三年度日本広告ホスター

展 12—17 大阪・三越

春泥会小品画展 12—17 大

阪・三越

石川県工藝名匠展 13—20 銀

座・松屋

9回日展 13—11月11 京都市

美術館

現代洋画代表作家展 14—23

大阪・フジカワ画廊

平通武男個展 14—19 日本

橋・丸善

これでも展覧会 14—19 阿部

養清堂

12回青々会展 15—20 日本

橋・三越

7回踏青会展 15—20 日本

橋・三越

8回青季会展 15—19 光風会

館

井上良齋陶展 15—20 日本

橋・三越

日本漆工藝会展 15—18 日本

橋・高島屋

和田英作近作発表展 15—19

大阪・美交社

天羽義安バステル小品展 15—

20 大阪・阪急

日本画と漆藝展 15—25 大

阪・丸善美術

長谷川白峰、勇父子新作陶藝展

15—20 大阪・大丸

三木表悦漆藝展 15—20 大

阪・高島屋

松野奏風新作能画展 15—22

大阪・三越

上野山清貢個展 16—19 資生

堂

3回柏風会展 17—24 日本

橋・白木屋

三浦小平作陶展 17—23 黒田

陶苑

飯島博個展 17—19 銀座・交

詢社ビル

桑田道夫油絵小品展 17—22

京都府ギャラリー

線壽会展 18—24 銀座・松坂

屋

安井曾太郎滯欧スケッチ展 19

—26 フォルム (批)朝日24

松山雅英作陶展 19—23 日本

橋・高島屋

書壇院展 20—25 東京都美術

館

サロン・ド・ジュワン洋画展

21—26 日本橋・丸善

藝大火傷者救援展 21—26 中

中央論社画廊

モダンアート協会研究会展 21

—24 阿部養清堂

南大路一個展 21—24 資生堂

大森光彦新作陶展 21—26 日

本橋・三越

創元会々員展 21—26 日本

橋・三越

江藤哲個展 22—24 サエグサ

新作額装展 22—24 兼素堂

河合瑞豊・喜燕父子作陶展 23

—27 大阪・三越

広井力、勝本富士雄、勝呂忠、

吉田政治四人展 24—28 阿

部養清堂

大同会漆絵展 27—30 日本

橋・三越

新世代洋画展 28—30 日本

橋・丸善

山本恵一作品展 29—31 阿部

養清堂

「物故者」 ページ (155～163 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the Articles of the Deceased (pp.155-163)

Cut for protection of the personal information

美術文献目録 (昭和二八年)

凡例

- 一、ここに採録した文献はわが国において昭和二八年中に発行された単行図書、定期刊行物、および諸新聞に掲載されたものである。但し二七年の文献の補遺も適宜組み入れた。
- 二、単行図書の形で刊行されたもののうち多数の論文を集録したものは単行図書としてあげた他、その内容を定期刊行物中にも組み入れた。
- 三、現代美術文献目録は明治大正以後の美術に関するものを集めた。
- 四、定期刊行物所載の西洋美術に関する文献は別に一括してまとめた。
- 五、東洋古美術文献目録では編輯の都合上刀剣等を割愛した。
- 六、建築ならびに工藝の範囲は本文最初の凡例に記した範囲にとどめた。
- 七、現代美術文献目録と西洋美術文献目録において各項目内の配列は、単行図書では内容別により、定期刊行物所載文献では主として所載雑誌名による五〇音順、同一雑誌の配列はその発行順とし、古美術関係では内容別によつた。
- 八、この目録をつくるために採録した定期刊行物および新聞は下のとおりである。但し例外の特殊刊行物等は記載しなかつた。
- 九、雑誌の号数は主として通巻番号を採用した。尚三〇三—三〇五は三〇三号、三〇四号、三〇五号に互ることを示し、八・一一二は昭和二八年八月一日と二日附の新聞を示す。

朝日新聞	アトリエ	羽陽文化
改造	藝術新潮	経済史学
建築学会研究報告	建築学会論文集	建築学研究
建築雑誌	建築史研究	建築文化
考古学	考古学雑誌	工藝ニユース
国華	国学院雑誌	国語国文
国際建築	国立博物館ニユース	心
古代	古代学	古代学研究
古文	古文化財之科学	産業経済新聞
三彩	サンデー毎日	史淵
史学	史学雑誌	時事新報
史迹と美術	思想	史潮
週刊朝日	出版ニユース	上代文化
書品	史林	新建築
人文	人類学雑誌	駁台史学
西郊文化	世交	綜合世界文藝
艸美	淡人	中央公論
朝鮮学報	天地	東京新聞
東京タイムズ	東京日々新聞	陶説
東京方学	東京日々新聞	東京新聞
日本経済新聞	日本の茶道	東洋学報
日本歴史	美術手帖	日本美術工藝
美術史	美術手帖	美術研究
仏教藝術	仏教史学	美術批評
文化史学	文藝春秋	文藝
毎日新聞	みづ	ミューゼウム
大和文華	大和文化研究	読売新聞
立正史学	龍谷史壇	

(五〇音順)

目次

〔定期刊行物所載文献〕

現代美術文献

總 說	雜誌別五〇音順	一六
繪 画	"	一六
彫 刻	"	一七
工 藝	"	一七
建 築	"	一七
展 覽 会	"	一七
時 評	"	一七
行政・教育	"	一七
作 家	人名別五〇音順	一六
身 邊 雜 記	雜誌別五〇音順	一七
隨 筆	"	一七
物 故 作 家	"	一七
明 治 大 正	"	一七
以 降 美 術	"	一七
其 他	"	一七
西 洋 美 術 文 献		
總 說	雜誌別五〇音順	一七
繪 画	"	一七
彫 刻	"	一七
工 藝	"	一七

美術文献目錄

建 築	雜誌別五〇音順	一七
展 覽 会	"	一七
其 他	"	一七
東 洋 古 美 術 文 献		
總 說		一七
繪 画		一八
日 本		一八
中 国、其 他		一八
書 蹟・附 篆 刻・文 房 具		一八
總 記		一八
日 本		一八
中 国		一八
篆 刻・文 房 具		一八
彫 刻		一八
日 本		一八
朝 鮮、中 国、其 他		一八
建 築・庭 園		一八
日 本		一八
中 国、其 他		一八
工 藝		一八
總 記		一八
陶 磁 工		一八
金 工		一八
木 漆 工		一八
染 織 工		一八

籙子・玉工	一九
其 他	一九
考 古 学 関 係	一九
日 本	一九
朝 鮮、中 国、其 他	一九
歴 史 関 係・其 他	一九

〔単行圖書〕

現 代 美 術	一九
西 洋 美 術	一九
東 洋 古 美 術	一九

定期刊行物所載文献

現代美術文献

総説

日本におけるフラン ス文化	ジャン・ル キエ	朝日	三・三四
文学と美術	本間久雄	朝日	八・二九
日本の表現の可能性	富永惣一	アトリエ	三・三五
造型の歴史	岡本謙次郎	アトリエ	三・三五
東西美術論 (三〇一—四一)	アンドレ・ マルロオ 小松清訳	藝術新潮	四ノ一— 三
現代藝術の最尖端	土方定一 長谷川三郎 阿部辰也	朝日	四ノ一
われわれの目標 (座談会)	猪熊弦一郎 林武 福田平八郎	朝日	四ノ二
二〇世紀美術の問題	矢代幸雄 福島繁太郎	朝日	四ノ三
現代のフォルム	吉川逸治 勝見勝	朝日	四ノ七
日本人の空間感覚の 変遷	竹山道雄	朝日	四ノ八
裸体美の変遷	宮本三郎	朝日	四ノ二〇
美術批評家と手ふ	菊岡久利	朝日	三
日本美術の伝統 (対談)	田中一松 花田清輝	国立博物 館ニユー	七五
対談「日本美術の伝 統」に関連して	鈴木進 原田実	朝日	七

美術鑑賞について	長与善郎	心彩	六ノ八
東西の自然観照	富永惣一	綜合世界	七
自律的人間と近代美 術	青柳正広	文藝学	七
藝術的個性の研究	板垣應穂	美術学	三
藝術遺産の継承と発 展	北条元一	美術学	二
藝術における創造と 伝統	井島勉	美術手帖	六
造型本能と構図	三雲祥之助	美術手帖	六
国立近代美術館に問 う	植村鷹千代 田近憲三他	美術批評	三
国立近代美術館への 疑問に答える(対談)	今泉篤男 植村鷹千代	美術批評	二
庶民藝術ということ から	海老原喜之助	美術批評	二
藝術論と幸福論と	高橋義孝	美術批評	二
建築・絵画・彫刻 (対談)	徳大寺公英 池辺陽	美術批評	二
モニュメンタル藝術 への感想社会と個人 作家と美術批評(ア ンケート)	三雲祥之助	美術批評	二
変革期の視覚藝術— 私達の仕事について (対談)	青井辰雄 伊原宇三郎 等一六氏	美術批評	二
美術の中のヒューマ ニズム—日本国際展 を契機に—(対談)	北川民次 武谷三男	美術批評	二
美術の没落—上・下 美術批評の可能と限 界	山本正男 柳亮	美術批評	二
視覚藝術における対 象	ポール・デ カルブ	美術批評	二

絵画

アヴァンギャルドと リアリズム(座談会)	花田清輝 末松正樹 岡本太郎	美術批評	二
諸藝術に於ける空間 性について	井島勉	美術	三
素描に於ける空間美	黒田重太郎	美術	三
現代藝術 七	長谷川三郎	美術	三
線藝術観	山口蘭溪	美術	三
近代性とクリマ	植村鷹千代	美術	三
近代美術にあらわれ た人間観	隈元謙次郎	美術	三
図解デッサンの研究 (特集)	宮本三郎	アトリエ	三七
洋画技法全科の研究	山口薫 三雲祥之助 他十氏	アトリエ	三七
新人の明暗	田近憲三 大久保泰	藝術新潮	四ノ二
シニール・レアリス ム	勝見勝	藝術新潮	四ノ二
現代日本画十人集 (座談会)	田近憲三 河北倫明 福島繁太郎	藝術新潮	四ノ九
現代版畫の海外進出	恩地孝四郎	国立博物 館ニユー	七
現代抽象美術の課題	柳亮	東京	二・三— 四
版の味さまざま	恩地孝四郎	東京	二・三— 四
かすみ版の技法	鈴木金平	美術手帖	六
油絵具を初めて使ふ 人のために	中谷泰	美術手帖	六
気紛れなミューズ (版画と文)	イサミ・ド	美術手帖	七
初心者のために	イサミ・ド	美術手帖	七
水彩画・風景の場 合	小山良修	美術手帖	七

デッサンについて
人物画の場合
三雲祥之助 美術手帖 七

静物画の場合
吉井 淳二 美術手帖 七

原爆図を繞つて
井上長三郎 美術批評 三

新しい神様―壁面と
徳大寺公英 美術批評 三

タブローに就て―
北川 民次 美術批評 三

壁面とタブロー
鶴岡 政男 美術批評 三

秋の制作から(鼎談)
川端 政実 美術批評 三

森 芳雄 美術批評 三

瀨木 慎一 美術批評 三

吉川 逸治 美術批評 三

須田 勉 美術批評 三

吉原 治良 美術批評 三

大沢 雅休 美術批評 三

森田 光甫 美術批評 三

有田 光甫 美術批評 三

田中 忠雄 美術批評 三

阿部 展也 美術批評 三

今泉 篤男 美術批評 三

徳大寺公英 美術批評 三

昭和の洋画
徳大寺公英 美術批評 三

日本絵画の問題―
徳大寺公英 美術批評 三

際美術展の印象―
徳大寺公英 美術批評 三

国際彫刻コンクール
滝口 修造 美術新潮 四ノ七

顛末記
清水多嘉示 美術手帖 七

モニュマン建設に望
清水多嘉示 美術手帖 七

むもの
清水多嘉示 美術手帖 七

新しい彫材―
堀内 正和 美術手帖 七

ロン・ゲルについて
堀内 正和 美術手帖 七

彫刻の空間
堀内 正和 美術手帖 七

工 藝

ニューデザイン
劍持 勇 美術新潮 四ノ二

特集、世界のインダ
ス トリアル・デザイ
ン運動五〇年
石原 紘 美術新潮 三ノ一

デザイン資料の分類
石原 紘 美術新潮 三ノ二

―美術・工芸の十進
分類法(1)(2)(3)
石原 紘 美術新潮 三ノ三

座談会・室内とファ
ブリック
山崎 幸雄 美術新潮 三ノ三

モチーフよりみたパ
ターンの変せん
吉村 順三 美術新潮 三ノ三

ガラスと現代建築
産業工芸試験所
生田 勉 美術新潮 三ノ五

日本のインダストリ
アル・デザイン特集
柳 宗悦 美術新潮 三ノ七

座談会 リーチを囲
んで
柳 宗悦 美術新潮 三ノ七

クラフト特集
柳 宗悦 美術新潮 三ノ七

照明デザインの方向
服部 茂夫 美術新潮 三ノ九

ウインドウデイスプ
ーレとモダンアートの
植村 鷹千代 美術新潮 三ノ九

アスベンの国際デザ
イン会議の性格とそ
の精神(1)(2)
劍持 勇 美術新潮 三ノ一

特集、子供のための
デザイン
劍持 勇 美術新潮 三ノ二

バーナード・リーチ
を囲んで(座談会)
柳 宗悦 美術新潮 六ノ六

沖繩の陶藝
大原 宗一郎 美術新潮 三ノ七

工芸の新解釈
向井 寛三郎 美術新潮 三ノ七

更紗とオブジェ
西村 進 美術新潮 三ノ七

リーチ展について
内藤 匡 美術新潮 三ノ七

グッド・デザイン運
動と日本
劍持 勇 美術手帖 七

国際デザイン会議に
出席して
劍持 勇 美術批評 三

室内デザインの新し
い傾向と書―一つの
レポート―
浜口 隆一 美術批評 三

リーチ歓迎
谷川 徹三 美術批評 三

工業デザイン―生活
に色と形の美をおく
る―
勝見 勝 美術批評 七

バーナード・リーチ
の陶器
北大路魯山 美術批評 七

一九五二年の建築史
学界回顧
佐藤 武夫 建築史研 三

ユネスコ国際藝術家
会議の報告
吉阪 隆正 建築雑誌 七九四

色彩調節と建築配色
星野 昌一 建築雑誌 七九六

照明と色彩
小木曾定彰 建築雑誌 七九六

昭和二十七年日本建
築学会賞
日本建築学会
賞委員会 建築雑誌 七九七

錦帯橋の再建
青木 楠男 建築雑誌 八〇一

正倉院新宝庫の設計
について―主として
宝庫内の温湿度の間
題―
平山 嵩 建築雑誌 八〇三

寒地建築のデザイン
について(座談会)
西川 曉 建築文化 七四、七五

現代建築に寄与する
日本の建築二、三、四
佐藤 武夫 建築文化 七六

国立近代美術館
戦後の日本建築
浜口 隆一 建築文化 七六

展示デザインの新しい
傾向―国立近代美
術館ポスター展―
蔵田 周忠 建築文化 七六

教寄屋とタウト
蔵田 周忠 建築文化 七六

建 築

新制作展建築(写真)
正倉院新宝庫成る
日本新建築の課題
建築様式のゆくえ
第一七回新制作展建築部 座談会
アトリエの建築と採光

展覧会

九日会見たまの記
秋の画壇、何を観るべきか
日展工藝に新しさを
見ると
選定無形文化財工藝
内示展
朝日の現代陶藝二回
展(六月)
美を追求するよつめ
き、愚朗作碗展につ
いて
日本国際美術展
鉄斎展の感想
国際美術展をめくつ
て、現代世界画壇の
動向と日本 座談会

国家的榮譽を公平に
唱
美術団体の再編を提
唱
国際的藝術運動
日展、個展をめくつ
て
国際美術展

第二回国際美術展ベ
ストテン(座談会)
一九五三年の藝術界
(美術)
政治と文化
選定工藝技術に期待
するもの
古典と美術館
デパート古美術展批
判、近代美術館論議
など(座談会)
写真と抽象の二極
国際美術展をみて
一九五三年をかえり
みる―美術史学界の
動向―
デザイン時評
美術の海外交流につ
いて
本年度美術界を顧み
て 日本画と非具象
派
画壇の革新を望む
(社説)
本年度の美術界
近代から現代へ
今年の美術界の動き
文化の対外宣伝と官
僚の怠慢
アンデパンダン展の
可能性
あたらしいリアリズ
ムのために―ニッポ
ン展によせて―
下半年美術界を批判
する(座談会)

富永、田近、
吉川、岡本、
徳大寺
藝術新潮 四ノ七
今泉 篤男
福島繁太郎
岡本謙次郎
田内 静三
国立博物
館ニュー
ス 四ノ三
岡田 譲
近藤市太郎
河北 倫明
川上 涇
向井寛三郎
今泉 篤男
植村鷹千代
東京タイ
ムズ 九二四
東京日々
一三・七
伊原宇三郎
日 経 六二五
植村鷹千代
美術批評 五五
瀬木、福島
針生、伊藤
三三

植村鷹千代 朝 日 二・三
今泉 篤男 三・元
植村鷹千代 八・三
阿部、田中、
徳大寺 アトリエ 三二四
徳大寺公英 藝術新潮 四ノ六

発想を明確に 本年
度を回顧しての問題
点
近代美術館の課題
藝術院のあり方
いわば「第三の道」
について
モダニズムの諸問題
(二科と行動)
日本のクリマの天気
図 新制作、一水会
独立他評
一九五三年の美術界
現代美術界
美術と国交
ベニスとヴェンナー
レに日本館を

植村鷹千代 美術批評 二四
亀井勝一郎 三・三〇
植村鷹千代 みづゑ 五七
植村鷹千代 五七
柳 亮 五八〇
鈴木 進 ミニエー 三三
益田 義信 読 七・三
梅原龍三郎 九・三
北川 民次 改造 二
工藝ニユ 三ノ三
自由学園の工藝教
育 三ノ四
日大美術学科(造
型教室) 三ノ九
近代美術の殿堂に
国立近代美術館の開
館に際し

鷹巣 豊治 国立博物 館ニュー 交
飯島 惣一 三
富永 篤男 一
土方 定一 七
平岡 修 七
岡田 譲 三

行政・教育

奈良文化財研究所の構想 田沢 坦 国立博物館 七四
 学藝員に関する二三の問題 飯島 勇 七五
 博物館と児童教育 関 忠夫 七六
 奈良にある文化財研究所 関口 泰 週刊朝日 九・三
 博物館・美術館と課税の問題 佐々木利三 工藝 一七三

作家

朝井閑右衛門(美術人論) 東 京 九・元
 朝倉撰(作家訪問) 美術手帖 充
 松園賞の朝倉撰(天眼鏡) サンデー 二・三
 阿部展也(美術人論) 毎日 二・三
 阿部展也(私達の仕事について) 美術批評 一五
 石井鶴三(美術人論) 東 京 五・四
 石井柏亭() 九・元
 石川寅治() 二・七
 板谷波山() 二・五
 伊藤熹朔(作家訪問) 遠藤 慎吾 美術手帖 七二
 伊藤憲治(作家訪問) 植村鷹千代 充
 井上長三郎論 寺田 透 美術批評 二四
 井上照子(新人紹介) 寺田 千壘 美術手帖 充
 猪熊弦一郎(制作を訪ねて) 朝 日 四・九

今井俊満(若い日本画家の個展) 中村 直人 東 京 二・三
 岩田藤七(美術人論) 五・六
 上村松篁(美術人論) 一〇・四

梅原龍三郎(制作を訪ねて) 朝 日 四・二
 梅原龍三郎(本朝洋画家伝(1)) 岡本謙次郎 中央公論 七二
 梅原龍三郎(浅間山)(解説) 柳 亮 美術手帖 三
 梅原さんと恐妻家 吉田五十八 毎日夕刊 一・七
 瑛九のエッチング 滝口 修造 美術手帖 七四
 海老原喜之助(美術人論) 東 京 二・四
 小川マリ子(作家訪問) 美術手帖 六
 岡田謙三の近作 今泉 篤男 みづゑ 五七
 岡本太郎について 徳大寺公英 五八
 荻須高德 田淵 安一 美術手帖 七
 荻須高德個展 長谷川路可 みづゑ 五八
 小倉遊亀(制作を訪ねて) 朝 日 五・八
 奥村喜太郎氏の人形造り(名人ききがき帖5) 国立博物館 七四
 小山田二郎、野間宏対談(私達の仕事について) 美術批評 二四
 恩地孝四郎(美術人論) 東 京 三・七
 恩地孝四郎の製本美學 北園 克爾 出版ニュース 五・下
 各務敏三(作家訪問) 高橋 宗近 美術手帖 七三
 笠置季男(美術人論) 東 京 九・三
 桂ユキ子(作家訪問) 美術手帖 六六
 加藤唐九郎を語る―陶匠の片影― 大宮具山楼 陶 説 四
 鍋木清方(美術人論) 東 京 一・八
 鍋木清方 高橋誠一郎 藝術新潮 四ノ三
 亀倉雄策(美術人論) 六・三

斎藤 寅郎 美術手帖 七三
 川合玉堂(画人近況) 朝 日 八・七
 川合玉堂(美術人論) 東 京 三・〇
 川口軌外() 七二
 川口軌外() 七四
 川口軌外論 富永 惣一 みづゑ 五二
 川口軌外(制作を訪ねて) 朝 日 四・四
 木内省古さんの木画(名人ききがき帖3) 国立博物館 七三
 北大路魯山人 青山 二郎 藝術新潮 四ノ二
 北大路魯山人(作家訪問) 中村 光夫 美術手帖 七
 北川民次(作家訪問) 東 京 九・二
 木村伊兵衛(美術人論) 一・三
 熊谷守一() 一・三
 熊谷守一(一枚傑作の画家) 鍋井 克之 説 充 三・三
 愚朗の陶藝 館林唐一郎 工藝 一七六
 剣持勇の人と作品 木村 荘八 藝術新潮 四ノ八
 小杉放庵 東 京 八・五
 児玉希望(美術人論) 東 京 七・八
 駒井哲郎() 六・三〇
 近藤浩一路() 小松 清 藝術新潮 四ノ二
 近藤浩一路 河北 倫明 四ノ七
 坂本繁二郎 工藝 ニュ 三ノ五
 佐藤潤四郎の人と作品 東 京 五・九
 佐野繁次郎(美術人論) 一六九

佐野繁次郎「ピエロ」 (解説)	今泉 篤男	美術手帖	充	中川一政 (制作を訪ねて)	朝 日	四・三	本郷新 (美術人論断)	東 京	三・八
佐伯祐三 (本朝洋画家伝(9))	里見 勝蔵	中央公論	七・三	中川一政 (美術人論断)	東 京	一・七	松波多吉さんの素描 (名人ききがき帖1)	国立博物館ニユー	七
佐伯米子 (美術人論断)	東 京	四・四		仲田好江 (制作を訪ねて)	朝 日	四・三	前大峰さんの沈金 (名人ききがき帖2)	シ	七
清水多嘉示 (シ)	シ	三・三		仲田好江 (美術人論断)	東 京	四・六	前田青邨 (美術人論断)	東 京	四・七
杉浦非水 (シ)	シ	三・一		中村真 (作家訪問)	美術手帖	七	真野善一の人と作品	宮崎 正治	工藝ニユー
鈴木信太郎 (シ)	シ	九・三		南部芳松氏の突彫り (名人ききがき帖4)	国立博物館ニユー	七	三岸節子の場合 (別居結婚の解消)	週刊朝日	二・一
須田剋太 (作家訪問)	吉原 治良	美術手帖	七	野間仁根 (美術人論断)	東 京	六・九	三雲祥之助 (美術人論断)	東 京	四・三
高村光太郎 (制作を訪ねて)	朝 日	四・七		長谷川路可 (夢声対談(問答有用))	週刊朝日	一〇・二	三雲祥之助「画室」(解説)	柳 亮	美術手帖
高村光太郎一人さまさま	シ	七・三		初山滋 (美術人論断)	東 京	八・八	宮本三郎 (美術人論断)	東 京	三・三
彫刻家としての高村光太郎	石井 鶴三	藝術新潮	四ノ三	林武「十和田風景」(解説)	美術手帖	七	牟田洞山人 素描「陶匠の片影」	鴨居半太郎	陶 説
高村光太郎	土方 定一	シ	四ノ七	日高昌克氏の近業を見て	シ	七	棟方志功 (天眼鏡)	サンデー	五・四
高村さんのこと	奥平 英雄	国立博物館ニユー	充	福田豊四郎 (画人近況)	朝 日	七・三	毛利真美 (新人紹介)	船戸 洪	美術手帖
田辺三重松 (美術人論断)	東 京	九・五		福田豊四郎 (美術人論断)	東 京	二・三	森田元子 (美術人論断)	東 京	二・〇
田村孝之介 (シ)	シ	一〇・二		福田豊四郎 (作家訪問)	滝口 修造	美術手帖	安井曾太郎 (画人近況)	朝 日	七・元
島海青児 (シ)	シ	三・二		福田平八郎 (夢声対談(問答有用))	週刊朝日	三・七	安井曾太郎 (夢声対談(問答有用))	週刊朝日	五・七
鶴岡政男 (作家訪問)	針生 一郎	美術手帖	七・五	福田平八郎 (美術人論断)	東 京	三	安井曾太郎 (本朝洋画家伝(8))	徳大寺公英	中央公論
鶴岡政男について	岡本謙次郎	美術批評	三三	藤田嗣治 (夢声対談(問答有用))	週刊朝日	八・三	安井曾太郎の画面構成について	松原 久人	美術手帖
徳岡神泉「毎日美術受賞者」(天眼鏡)	サンデー	毎日	一・二五	藤田嗣治「こども」(解説)	東 京	六・二	安田鞆彦氏を訪う (愛蔵あり)	邑木 千以	日本美術
徳岡神泉 (美術人論断)	東 京	六・六		藤田さんのアトリエを訪ねて	阿部 徹雄	みづゑ	柳原義達 (美術人論断)	東 京	二〇・七
利根山光人 (新人紹介)	福島 辰夫	美術手帖	七	古川徹也の人と作品を訪ねて	久保田信雄	工藝ニユー	山口薫 子供のため	植村鷹千代	美術手帖
富本憲吉の人と焼物「陶匠の片影」	内藤 匡	説	七			三ノ九	山口薫 (シ)	シ	七・七
							山口薫 楽曲「田園」解説		

山口蓬春(制作を訪ねて) 朝 日 四・六

山下新太郎(美術人論) 東 京 一・二〇

山名文夫(作家訪問) 城 左門 美術手帖 七

山本丘人(制作を訪ねて) 朝 日 四・三

山本敬輔(作家訪問) 北園 克衛 美術手帖 五

山本豊市(美術人論) 東 京 八・四

横山大観(制作を訪ねて) 朝 日 五・三

日本画の巨匠横山大観 毎日夕刊 九・七

横山泰三(美術人論) 東 京 七・三

横山泰三(作家訪問) 伊藤 逸平 美術手帖 七

吉岡堅二(美術人論) 東 京 五・三

脇田和論 土方 定一 みづゑ 五七

渡辺力の人と作品 工藝ニユ 三ノ四

うつらうつら 三雲祥之助 朝 日 一・九

画人冗語 坂本繁二郎 朝 日 一・二

たこあげ 高島達四郎 朝 日 一・二四

パリ画信 荻須 高德 朝 日 一・三一

愛煙 山口 蓬春 朝 日 一・三三

東京昨今(ハ女性) 木村 荘八 朝 日 二・八

犬の散歩 村井 正誠 朝 日 二・三三

サバタの生地 北川 民次 朝 日 二・七

細い神経 小糸源太郎 朝 日 二・七

長寿 川島理一郎 朝 日 三・三

身辺雑記・随筆

私のモデル 鈴木信太郎 朝 日 三・四

モロッコ画信 鎌木 清方 朝 日 三・五

伊豆今昔 訪ソ画帖 野間 仁根 朝 日 三・六

雨のタイトルマッチ 清夏の京 中川 一政 朝 日 三・八

女一人パリに生きる 清夏の京 中村 研一 朝 日 三・二〇

パリ二十五年の収穫 石の美 林 武 朝 日 三・二四

絵かき族のくに 堀 文子 朝 日 三・二五

細絵を下絵としての 初山 滋 朝 日 三・二七

歌舞伎素描 村井 正誠 朝 日 一・一五

絵の哲学(小自叙伝) 林 武 朝 日 四・六

モデル女キキの死 高野三三男 朝 日 四・六

空間のデザイナ― 植木 茂 朝 日 四・七

―我が主張と実践― 大森 明恍 朝 日 四・七

富士を描いて三十年 亮るためのデザイン 河野 應思 朝 日 四・八

巴里画家の夏 佐野繁次郎 朝 日 四・八

パリに絵を売る 岡本 太郎 朝 日 四・八

パリの不思議な小唱 岡 鹿之助 朝 日 四・八

歌い 山口 勝弘 朝 日 四・八

ガラスの造型―我が主張と実践― 山口 勝弘 朝 日 四・八

美しい物体―私の主張と実践― 駒井 哲郎 朝 日 四・九

カララの一 長谷川路可 朝 日 四・二

大作ばやり 野間 仁根 朝 日 四・二

小自叙伝 鳥海 青児 朝 日 四・三

陶器の魅力 加山 四郎 朝 日 四・三

書に関連して 硯 伊之助 朝 日 四・七

書の深淵 高村光太郎 朝 日 四・七

「赤い風車」―絵の吟味― 大久保 泰 朝 日 四・七

ドフルジイシの古城 赤松 俊子 朝 日 四・九

挿絵ノート 小倉 遊亀 朝 日 四・九

生れてはじめてのもの 鈴木信太郎 朝 日 四・九

若い人 ジャンジャン横丁 福田豊四郎 朝 日 四・九

二〇年前の思い出 猪熊弦一郎 朝 日 四・九

絵そら事 野間 仁根 朝 日 四・九

製本三十年 恩地孝四郎 朝 日 四・九

朝顔の話 堅山 南風 朝 日 四・九

初夏 三雲祥之助 朝 日 四・九

日常生活の美 長谷川春子 朝 日 四・九

アイヌ・シヨウを見 裕 伊之助 朝 日 四・九

チイサナ・チイサナ(ロシア紀行) 赤松 俊子 朝 日 四・九

三世相 木村 荘八 朝 日 四・九

大蛇嘶韻 棟方 志功 朝 日 四・九

萩 三岸 節子 朝 日 四・九

「庭の美しさ」について 岡本 太郎 朝 日 四・九

一つの日 小杉 放庵 朝 日 四・九

パリ便り 中村 直人 東京 一〇・九一

我が青春記 石井 柏亭 一〇・三三

大島たより 松本 弘二 二〇・二〇

我が青春記 佐伯 米子 二〇・二九

回想の斎藤茂吉 中川 一政 二〇・九

胃腸患者の白書上下 福田豊四郎 二〇・二六

狸化学研究 浜口 陽三 二〇・二四

渡欧で得たもの 田村孝之介 二〇・二二

パリのバレエ上・下 岡 鹿之助 二〇・二一

都踊りのこと 和田 三造 二〇・二〇

芥川さんの句碑上下 小穴 隆一 二〇・一八

映画のロートレック 岡 鹿之助 二〇・一七

パリの犬と猫 宮本 三郎 二〇・一六

磊塊―胆石手術記 福田豊四郎 二〇・一五

立秋 上・下 小糸源太郎 二〇・一四

画と小説の手習い 青山 二郎 二〇・一三

上・下 難波田龍起 二〇・一二

札幌の精神文化 有島 生馬 二〇・一一

我が鎖夏法 池部 鈞 二〇・一〇

秋の味覚王 岡本 太郎 二〇・〇九

わが思索と画作を語る 恩地孝四郎 二〇・〇八

近頃の装本 藤島亥治郎 二〇・〇七

建築と秋 有島 生馬 二〇・〇六

年賀の客 中村 研一 東京タイムズ 一九

日焼 桂 ユキ子 七二四

歳末多忙 恩地孝四郎 三三・七

日日一言 佐伯 米子 東京日日 三二

雪 日本文学に書かれた 松本 弘二 日経 一三

浅草のあるパリ 土橋 醇一 二〇・二六

世界は一つ 川島理一郎 三三・二四

年末今昔 木村 荘八 三三・二六

ミラノの奇蹟 難波田龍起 美術批評 七

打つてかへし後日譚 岸田日出刀 文藝春秋 三ノ二

コメット初試乗記 宮田 重雄 三

新しいもの、古いもの 小倉 遊亀 三ノ五

癖 伊東 深水 三

旅先で見た景色 鈴木信太郎 三ノ七

風俗史の穴 木村 荘八 三ノ〇

アマチュア代表記 宮田 重雄 三ノ二

美人と犬 益田 義信 三

佐世保 小穴 隆一 三

越中おわら節 鈴木信太郎 三ノ七

送迎 長谷川路可 三

レンガ色について 林 武 毎日 一〇

画家の反省 ヨーロッパから帰つて 宮本 三郎 三・六

心ひかれる時宗 柳 宗悦 五・一〇

日本最初の挿絵記者 (平生の記) 結城 素明 読 七二七

伊吹山 小出 三郎 七二四

作家を志して画家へ (平生の記) 岩田専太郎 七二七

落語の師走 木村 荘八 三三・七、三四・三

六十有余年の画業 (平生の記) 横山 大観 三三・二八

口伝の庭 鳥海 青児 読売夕刊 一六

四万六千日 木村 荘八 八二八

物故作家

鬘光一人と作品― 井上長三郎 美術手帖 六

青木繁(本朝洋画家 伝③) 河北 倫明 中央公論 七三

父・青木繁 福田 蘭童 週刊朝日 五ノ五

荒井寛方 井上 靖 美術新潮 四ノ九

寛方アジヤンタ日記 竹内 尚次 アム 三六

抄 井上 靖 美術新潮 四ノ〇

上村松園 野尻 抱影 毎日夕刊 一・六

内田巖の画業 岡倉天心先生 五浦の天心遺跡 時 事 二・三

五浦の天心遺跡 深木 正策 美術手帖 三

萩島安二・人と藝術 石井 鶴三 東京 三二・一

彫刻の先覚萩原碌山 土方 定一 中央公論 七六

岸田劉生(本朝洋画家伝⑥) 松方 三郎 産 経 四・〇

高見沢遠治のこと、岸田劉生との交友 中川 一政 美術新潮 四ノ七

劉生と私 滝口 修造 美術手帖 七〇

北脇昇小論 井上 靖 美術新潮 四ノ八

国枝金三 クニヨシの業績 石垣綾太郎 四ノ七

渡航第一信第二信 中川 一政 三三・一六

ヴラマンクの知遇 里見 勝蔵 三三・二六

挿絵今昔談 槍穂高 足立源一郎 七二〇

国吉康雄のこと 仲田 好江 美術手帖 七〇

国吉康雄逝く 今泉 篤男 シ

小出橋重(本朝洋画家伝(5)) 鍋井 克之 中央公論 七五

非運な陶磁学者―塩田力蔵先生とその遺稿― 館林唐一郎 日本美術工藝 一七五

塩田力蔵君と私 桑原 雙蛙 シ

島崎鶏二一人と作品 吉井 淳二 美術手帖 七五

関根正二のこと 有島 生馬 シ

鉄斎をめぐつて「真物と偽もの」と 岡本 太郎 美術新潮 四ノ二〇

鉄斎の挫折 花田 清輝 美術批評 三〇

鉄斎展の感想 今泉 篤男 シ

中西君の遺作展に際して 脇田 和 美術手帖 六六

中村彝(本朝洋画家伝(4)) 森口 多里 中央公論 七四

野田英夫の回想 寺田 竹雄 美術手帖 六六

橋本関雪 井上 靖 美術新潮 四ノ六

トラの関雪さん 吉川 英治 読 五・七

速水御舟一人と作品 河北 倫明 美術手帖 七三

藤島武二(本朝洋画家伝(2)) 隈元謙次郎 中央公論 七三

松本竣介のこと 水沢 澄夫 美術手帖 六五

三岸好太郎の周辺 鳥海 青児 シ

万鉄五郎(本朝洋画家伝(7)) 裕 伊之助 中央公論 七七

万鉄五郎のこと 木村 莊八 美術手帖 七六

万鉄五郎氏に就いて 林 武 美術手帖 七六

明治大正以降美術

日本超現実派創生期 阿部 金剛 藝術新潮 四ノ七

明治の洋画 河北 倫明 みづゑ 五三

其 他

大正の洋画 石川 公一 みづゑ 五三

旧松方コレクションの受入れ モンパルナスの秋宜き哉、古き巴里の日本画壇 今泉 篤男 朝日 二三八

鎌倉美術館の一年 原色印刷第一号 後藤眞太郎 村田 良策 藝術新潮 四ノ一

漫画家の見た肖像画 松方コレクションのその後 花森 安治 清水 崑 式場隆三郎 阿部 展也 船戸 洪 矢代 幸雄 土方 定一 宮本 三郎 大久保 泰 空想の美術館(座談会) 筆と墨と 青眉抄余話 コレクター気質 実験グループ 博物館入。〇年略史(六) 萬集家と博物館 美と個性 倉敷美術館 熱海清談(座談会) 柳 梅原 安井 六ノ九

薩摩治郎八 改 造 三ノ三

庭造りと鑑賞 早春雑誌ピカソ、コルトー他 商業美術の社会性 現代漫画論 天然色映画と絵画 画材の話(鉛筆) 「紙」 「定規」 「ペン先」 「ポスターカラー」 「キャンパス」 「水彩絵具」 「木炭」 「筆」 「油絵具(1)(2) 絵は恐ろしい コラーージュの美学 批評を批評する 松方コレクションについて 画家を描いた小説 福島繁太郎 (訪問) 毎日書道展の新傾向について 日本色彩研究所 (訪問)

吉井 勇 心 六ノ三

関口 泰 週刊朝日 五・三一

丸山 鉄雄 世界 五五

橋本 喜三 淡交 五九

富田 惣一 伊能 吉郎 田沢 吉郎 谷口 吉郎 鳥海 青児 富永 惣一 田沢 吉郎 広津 和郎 板垣 鷹穂 横山 泰三 大久保 泰 美術手帖 七六

東京 三三

七・九一〇

六・三八

七・六

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

七・七

ニューヨーク近代美術館の日本人	嘉門 安雄	美術手帖	夫
サンパウロ第2回国際美術展応募出品不能の経緯	和田 新	美術批評	二八
日本美術作品海外展出品の経緯一覽 戦後より現在まで			二〇
文学・絵画・カルチュア	中野 重治 岡本 太郎 井上長三郎		
海外の美術出版など	富永 惣一	BOOKS	四一
二人の親日ドイツ人(キュンメル、ルンブ)	上野 直昭	文藝春秋	三ノ二〇
書とデザイン	井島 勉	墨 美	三六
デザインと書	早川 良雄		シ

西洋美術文献

総説

立体派は20世紀の古典	岡本 太郎	朝 日	三・三五
百人の美術家(ルネサンスー現代及日本)	富永 惣一	アトリエ	三三三
東西美術論(30) (41)	アンドレ・マルロオ	藝術新潮	四ノ一
パールベックとバルミユラ	小松 清沢		三三
女人像(座談会)	江上 波夫		四ノ三
宮本 三郎	林 武		四ノ五
菊池 一雄	田近 憲三		四ノ九
ヨーロッパの戦後派	岡本 太郎		四ノ九

モダンアート四〇〇〇年	滝口 修造	藝術新潮	四ノ二
アフガニスタンの遺跡	吉川 逸治		四ノ三
世界美術界の動向	矢代 幸雄	世界	八五
ゴシック藝術の美	中井 あい	艸 美	四
ゴシック藝術の魅惑	大倉 三郎		シ
リールルの古代美術史論に対する疑問ーヴァファイオの盃	谷口 鉄雄	美 学	一四
キリスト教美術の話	矢崎 美盛	美術手帖	五一六
1. マリア・オラ			
2. 古典の話			
藝術は人間である	ポール・エ		七四
ヨーロッパ美術の一面	西田義郎		七四
藝術の新しい使命	宮本 三郎	美術批評	一六
現代ヨーロッパ美術の展望ー国際美術展を見ながらー	ロジェ・エ		三
未来派と現代	土方 定一	みづゑ	五七五
イタリアの新しい動きー空間派の人々	植村鷹千代		五七六
リベラ会見記	岡本 太郎	朝 日	三・二九
パリ画壇の方向	富永・滝口		五・二六
ピカソ藝術の理解方法	林・伊原・神原・吉井	アトリエ	三二四
ピカソのリアリテイ	安部 公房		シ

絵画

クレーの藝術表現について	仲田定之助	アトリエ	三二五
世界の児童画(特集)	湯川尚文、勝見勝、ト		三六
セザンヌの研究(特集)	里見 勝蔵		三八
絵の見方(今日の絵画)	長谷川三郎		三〇〇
写真と絵画(特集)	勝見勝、長谷川三郎、滝口修造他		三二
ピカソとアラゴン	新村 猛	改 造	三ノ三
回想の父ルノワール	ジャン・ルノワール	藝術新潮	四ノ一
リュシアン・クートーの心理風景	土方 定一		四ノ二
ルオーとトレドの僧院	森 有正		シ
現代ヨーロッパ版画	恩地孝四郎		四ノ三
わが友アンリ・ルッソ	R・ドロネ		四ノ三、四
世界の風景画ーその変遷ー	滝口修造		四ノ四
ラ・フォンテーヌ寓話(版画)	田近 憲三		四ノ四
版画の巨匠シャガール	シャガール		シ
デュファイの遺したも	久保貞次郎		シ
詩集のこと・ピオー	福島繁太郎		四ノ五
ベルルのこと	鈴木信太郎		シ
ピカソに喰い下る『ヨーロッパ紀行』	脇田 和		四ノ六
我が秘められたる生涯	吉川 逸治		四ノ六
	岡本 太郎		四ノ七
	サルヴァド		四ノ八

セザンヌの家	江上 波夫	藝術新潮	四ノ九
現代オランダ版画	斎藤 清	シ	四ノ二〇
ルオー	W・サージヤント	シ	シ
ルオーの版画	岡本謙次郎	シ	四ノ二
ルネッサンスの佳人	清水多嘉示	シ	シ
グリージョン作ディ	アリス	シ	シ
ある女の語るアン・ゴグ	里見 勝蔵	シ	四ノ三
デルフト市のフェル	土方 定一	シ	シ
一枚のボッシュに	加藤 周一	シ	シ
裸体と着衣のマハ	須田国太郎	シ	シ
クレイの絵画に及ぼ	神代雄一郎	建築史研	二
響			
ルオー・人と藝術	土方 定一	国博ニ	七
ルオー展の教えるも	里見 勝蔵	シ	シ
の	嘉門 安雄	シ	七
ルオーの事	富永 惣一	思想	三五
諷刺画家オノレ・ド	梅原龍三郎	世界	六
イミエの生涯	大島 清次	綜合世界	七
デュファイの思ひ出	中村 恒夫	東 京	四・六
印度の美術界―勃興	阿部 展也	シ	三・九
する前衛絵画			
誌上現代美術館		美術手帖	六
抽象と非具象	長谷川三郎	シ	シ
幻想と超現実	滝口 修造	シ	シ
新具象他	富永 惣一	シ	シ
社会的主题による	植村鷹千代	シ	シ
地平線の神秘―リ	末松 正樹	シ	五
シアアン・クトー展の			
印象			

美術文献目録

マチス(カメラ・イ	阿部 徹雄	美術手帖	五
ンタヴヱー)			
クトー偶感	滝口 修造	シ	シ
モジリアニ「ズボロ	大久保 泰	シ	六
ウスキー夫人」解説			
ホアン・ミロ「陶片	滝口 修造	シ	シ
」解説			
マツシモ・カンピリ	柳 亮	シ	六
ローランサン「シャ	富永 惣一	シ	シ
ネル嬢の肖像」解説			
タンギー「青い水底	滝口 修造	シ	シ
」解説			
セラフィン・ルイの	高野三三男	シ	シ
こと			
ルドン「花の中の女	片山 敏彦	シ	シ
」解説			
メキシコの画家達	北川 民次	シ	シ
イタリヤの現代作家	宮本 三郎	シ	六
たち			
ブラック「ヴァニタ	柳 亮	シ	シ
ス(空虚)」解説			
ルノアル「書いている	久保 守	シ	シ
コロCoco Berlin			
and」解説	久保貞次郎	シ	シ
ゴーガン「タ・マテ			
ーテ(市場)」解説	植村鷹千代	シ	七
ジョン・パイパー			
「風景(グワッシュ)			
」解説	宮本 三郎	シ	シ
スペインの画家達			
レジェ「灰色のバツ	三雲祥之助	シ	七
クの鳥と女」解説			
モネ「海」解説	大久保 泰	シ	シ
フランチェスコ・グ			
ワルデイ「サン・ジ	今泉 篤男	シ	三
オルジョ・マジョー			
レ寺」解説			
ミノーを訪ねる	関口 俊吾	シ	シ
	大下 正男	シ	シ
ミノーの小品			
ゴッホの文献と資料	式場隆三郎	美術手帖	七
ゴッホについて			
ピカソ訪問前後	岡本謙次郎	シ	シ
ピカソ断想	滝口 修造	シ	三
セザンヌ「医師ガッ	森 芳雄	シ	シ
シエの家」解説			
シャガール「時間は	猪熊弦一郎	シ	シ
崖辺のない河であ			
る」解説	海藤日出男	シ	七
レジェ訪問	益田 義信	シ	シ
現代オランダ版画			
レーモン・クレイン	植村鷹千代	シ	シ
夫妻の画について	佐野繁次郎	シ	シ
ミロ			
ルオーの風景画にお	宮本 三郎	シ	七
ける構図			
ルオーの技術の変遷	宮本 三郎	シ	シ
ルオーの言葉	矢内原伊作	シ	シ
ジョルジュ・ルオー	柳 亮	シ	シ
ルオーの印象	益田 義信	シ	シ
ジュアン・サンシ	森 芳雄	シ	シ
エ・ユタン「静物」解説			
静物画の変遷	田近 憲三	シ	六
ジョン・マリ			
セヴェリニ「楽器の	北川 民次	シ	シ
あるコンポジショ			
ン」解説	江川 和彦	シ	シ
ロルジュと社会諷刺			
ルシアン・クトーに	土方 定一	美術批評	三
ついて			
抽象絵画はアカデミ	末松 正樹	シ	シ
スムか(1)(2)	花田 清輝	シ	シ
	シャルル・		
エスチエン	植村鷹	シ	一五―一六
千代訳			
實在への復帰―近代	針生 一郎	シ	七
絵画の運命			
アラゴンのピユッ	植村鷹千代	シ	九
エ論			

ルオー論覽書一九〇三 一〇一七	矢内原伊作	美術批評	三	ポール・ゴーガンの藝術と彼の逃避行	和田 定夫	みづゑ	五七四	インドの彫刻	木内 克	藝術新潮	四ノ七
ルオー論覽書―ミゼレー	〃	〃	三	デュファイの死	関口 俊吾	〃	〃	ハリィ・ベルトイア	今泉 篤男	美術手帖	六
ルオーの沈黙	小山田二郎	〃	三	ヒューマニズムの殉教者―ゴーギャンの生涯とその藝術	柳 亮	〃	〃	誌上現代美術館―彫刻	吳 茂一	〃	七〇
ルオーの群青と金色	麻生 三郎	〃	三	アルツェロ・トシ	宮本 三郎	〃	〃	ブルデル「弓を引くヘラクレス」(解説)	〃	〃	〃
宗教画と空間表現 (イタリヤ・ルネッサンス美術を中心)	中村 茂夫	仏教藝術	六	最近のバリ画壇の動向	岡本 太郎	〃	〃	近代社会に於ける彫刻家	ヘンリー・ムーア	美術批評	二四
抽象絵画の余白	吉原 治良	墨 美	三	ペン・ニコルソン小論	植村鷹千代	〃	〃	ヘンリー・ムーア「近代社会における彫刻家」について	池邊 陽	〃	二五
西洋画空間表現のいろいろ	須田国太郎	〃	〃	マーク・トビーとモリス・グレイヴス	岡本 太郎	〃	〃	フェノッサの彫刻	海老原喜之助	みづゑ	五七五
スーラージュ会見記	質問者ジャール・デュソール	〃	六	デ・キリコとカロロ・カルラ	土方 定一	〃	〃	米国工藝と日本的近代調	富永 惣一	〃	〃
ヴラマンクを訪ねて	小松 清	毎日夕刊	一・二四	ジョルジオ・モランディとマツシモ・カンピリ	宮本 三郎	〃	〃	米国のグッド・デザイン運動	青山 二郎	藝術新潮	四ノ四
トウルーズ・ローレック	富永 惣一	みづゑ	五九	ピカソの近作展	柳 亮	〃	〃	特集 世界のインダストリアル・デザイン運動の50年	工藝ニユース	三ノ一	〃
ILLUSTRATION	〃	〃	〃	アーノルド・ホフマン	清水 正策	〃	〃	工	〃	〃	〃
の伝統の中のロートレック	土方 定一	〃	〃	ある画家からの手紙	ド・ホフマン	〃	〃	藝	〃	〃	〃
ロートレック雑感	白川 一郎	〃	〃	現代絵画の課題と動向 座談会	岡本 太郎	〃	〃	エッセイ	〃	〃	〃
ロートレックをめぐつて	式場隆三郎	〃	〃	ヴァン・ゴッホにおける日本主義	シュネーデルトゥン	〃	〃	田淵安一	〃	〃	〃
ホアン・ミロ 曇り	ジョルジュ ユ・デュテュイ	〃	五七〇	オランダの現代版画	土方 定一	〃	〃	福島繁太郎	〃	〃	〃
のない絵画	滝口修造	〃	〃	ジャン・コクトーに就いて	関口 俊吾	〃	〃	福島繁太郎	〃	〃	〃
リュシアン・クローについて	土方 定一	〃	〃	マリー・レーモンとフレッド・クレイン	滝口 修造	〃	〃	高田 博厚	〃	〃	〃
マチス抽象絵画を攻撃―マチスとの対話―	植村鷹千代	〃	五七二	ジョルジュ・ルオー	高田 博厚	〃	〃	ルオー特輯―ジョルジュ・ルオー論	〃	〃	〃
ジャン・ヴィナイ	関口 俊吾	〃	五七二	ブルジョワ・ルオー	高田 博厚	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ブランクーシとマリノ・マリーニ	土方 定一	〃	〃	ジョルジュ・ルオー	高田 博厚	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ピカソの青の時代に	神原 泰	〃	五七三	ジョルジュ・ルオー	高田 博厚	〃	〃	〃	〃	〃	〃

世界のデザイン研究

工藝ニ
三ノ一

リーチ断想—東京だより—

観塔楼 日本美術工藝 二七四

展覽会其他

今泉 篤男 藝術新潮 四ノ二

モダンデザインの變貌とその商業的意義

ポール・レイリー

三ノ二

国際デザイン会議に出席して

劍持 勇 美術批評 三

クアメリカ通信をむすぶ

劍持 勇

三ノ二

藝術と自由について—フランス焼絵ガラ—

森 有正 毎日 日九・元

戦後のイタリヤの家具と手工藝

鈴木 道次

三ノ二

ス展小感—

三

アメリカの著名デザイナー

劍持 勇

三ノ四

ヨーロッパに於ける建築家

吉阪 隆正 建築雑誌 七五

インドの産業デザイン運動

勝見 勝

三ノ四

建築家

黒沢涼之助 建築雑誌 七六

デザイン名著紹介

前田 泰次

三ノ五

欧米の色彩調節

尾崎 久助 建築雑誌 七八

リンド・インダストリー

三ノ七

アメリカ建築の変貌

蔵田 周忠 建築史研究 三

クラブ特集

三ノ九

チャールズ・レニー・マッキントッシュ

蔵田 周忠 建築史研究 三

グッド・デザイン53年

山崎 幸雄

三ノ九

近代建築史学と建築評論のあいだ—J・M・Richardsの本によせて

宮内 嘉久 建築文化 七九

照明器具デザインの問題

R・C・ヒスコック

三ノ九

フランスの建築を語る(1)(2)

吉阪 隆正 建築文化 七九

ウォームリイは語る

エドワード・J・ウォームリイ

三ノ〇

マッキントッシュについて—近代建築家

蔵田 周忠 建築文化 八〇

ウイリアム・ポールマンの作品

服部 茂夫

三ノ〇

フランス・モダニズムのゆくえ—コルビュジエをめぐる現代建築の渦流を語る

吉阪 隆正 国際建築 二〇四

西ドイツ特集

劍持 勇

三ノ一

近代建築の三つのかがり火(1)(2)(3)

吉阪 隆正 美術批評 九

アスベンの国際デザイン会議とその精神

生田 勉

三ノ二

ル・コルビュジエのことから(座談会)

吉阪 隆正 美術批評 九

デザイン名著紹介カウフマン近代デザインとは何か?

河本 敦夫

三ノ二

建築の伝統と近代主義

佐藤 忠良 美術批評 九

原始文様と現代美術

今泉 篤男

三ノ二

建築の伝説と近代主義

佐藤 忠良 美術批評 九

バーナード・リーチの陶藝

水原 徳言

三ノ二

建築の伝説と近代主義

佐藤 忠良 美術批評 九

タウトの陶器

説ニ

三

建築の伝説と近代主義

佐藤 忠良 美術批評 九

デルファイ紀行

今泉 篤男

四ノ二

昔の仲間—マルシャン・デピエール

小松 清 建築雑誌 四ノ三

シリール島めぐり

江上 波夫

四ノ五

エトルリアの遺跡

土方 定一 建築雑誌 四ノ八

インドの国際美術展

阿部 展也

四ノ八

モードはいかにして生れるか

クリスチャール・デイオ 建築雑誌 四ノ二〇

印度の映画界

阿部 展也

四ノ二

スキラ訪問記—世界一の美術出版社長—

式場隆三郎 建築雑誌 四ノ三

家具に於ける現代裝飾

C・G・トムリー

三ノ四

アメリカ藝術大学めぐり

劍持 勇 建築雑誌 三ノ五

対談—西ドイツラフイック・デザインの世界的進出

勝見勝・原弘

三ノ二〇

ドロー展とハリウッド

田中耕太郎 建築雑誌 六ノ二〇

ステンドグラス略史

河本 敦夫

四

ピカソのスタリリン肖像事件その後

内山 敏 中央公論 七七六

ライフの「藝術村」での生活

天野 太郎

七七

パリの美術家達

中村 直人 東京 六・三五

パリには硬化徴—海外美術断想—

嘉門 安雄

二〇・六

サロン・ド・メエをみて

高島達四郎 日経 五・三五

誌上現代美術館—写真—

伊奈 信男

美術手帖 六

美術グループと展覽会(フランス)

和田 定夫 美術 六

おもいで的美術館
ドラクロアのアト
リエ、レンブラン
トの家、テート・
ギャラリーと戦争
博物館
私の美術紀行
1 アルタミラ洞
窟の絵
2 エジプトの絵
跡
3 ミケネの遺
跡
4 ギリシヤの島
々
5 エトルスクの
彫刻
6 イースタン
ール
7 パルセロナの
美術館など
8 アルル
9 ニューヨーク

土方 定一 美術手帖 三
今泉 篤男 三

ベルギーとスイス
の作品
パリのエタラージ
世界美術館めぐり
コルマールのウンタ
ーリンドン美術館
ジヨルジュ・デュテ
ユイ氏について
春のパリ美術展
クラヴァン氏紹介
スタインベルグの藝
術
スタインベルグの横
顔
ヨーロッパの美術館
サロン・ド・メエ開
く
秋のパリ画壇

田村孝之介 美術手帖 七
益田 義信 三
土方 定一 七
今泉 篤男 みづゑ 五〇
関口 俊吾 三
益田 義信 五八
原 弘 三
土方 定一 仏教藝術 六
荻須 高德 毎 日 五・六
関口 俊吾 二・四

美術グループと展覧
会(イギリス)
パリーの画塾 | アン
ドレ・ロートの教室
美術グループと展覧
会(アメリカ)
スイスのポスター
ニューヨークの美術
学校
日本国際美術展(特
輯)

植村鷹千代 三
毛利 真美 三
石垣栄太郎 三
亀倉 雄策 三
阿部 覚 三
宮本 三郎 三
三雲祥之助 三
菅野 圭哉 三
長谷川三郎 三

イタリヤの作品
フランスとメキシ
コの作品
ブラジルとドイツ
の作品
アメリカとイギリ
スの作品

東洋古美術文献

総説

井島 勉 仏教藝術 六
家永 三郎 美術史 八
マドレー
ス・ウーレル 美術研究 二六

美学と美術史
美術史学と歴史学
中村氏の批判に答ふ
ル | ヴル研究所に於
ける美術品の科学的
研究
古美術品の光学的鑑
識 | 最近の研究状況
とその成果
文化財の科学的保存
修理

岩崎 友吉 七

已(へび)

日本美術史八一―二
日本美術史研究六
恵心教美術 | 下 | 文
化史学的研究序論 |
伝統美の再発見
(座談会)
対談・日本美術の伝
統 | 広い観点からの
再検討を | 文化全体
の問題に関連する |
対談「日本美術の伝
統」に関連して
具体的な展開へ
出発点の再検討
日本の表現の可能性
美術にあらわれた自
然観

杉村 丁 ミニエゼ 三
下店 静市 淡 交 五五―五
石田 一良 文化史学 七
川端・小宮 淡 交 五八
谷川・堀口
田中 一松 博物館 七五
花田 清輝 ニュース 七五

中国古代理然観
平安時代風景画の
形成 | 鳳凰堂屏絵
を中心に |
水墨画の自然観 |
中国山水画と室町
水墨山水画
美術にあらわれた人
間観
東洋の人間観と西
洋の人間観 | 藝術
へのあらわれを通
じて |
原始時代の人間観
| 埴輪人物 |
古代美術にあらわ
れた人間観
中世の美術にあら
われた人間観

鈴木 進 三
原田 実 アトリエ 三五
富永 惣一 ミニエゼ 三
アム 三
杉村 丁 三
石田 茂作 三
秋山 光和 三
中村 秀男 三
小林太市郎 三
三木 文雄 三
千沢 楨治 三
野間 清六 三

近世美術における人間観	近藤市太郎	三ノ四	Ⅳ国のまほろば	竹山 道雄	四ノ二	愛蔵あり	邑木 千以	日本美術 二一
日本に於ける密教美術展開の過程	佐和 隆研	三ノ四	宇都宮二荒山神社と清嚴寺の調査	岩越 二郎	二七	12 川端 康成氏	13 立花 押尾氏	工藝 二
一 桃山美術随想	梅原龍三郎	四ノ五	湘西酒臼平野地域の遺跡・史跡と文化財	石野 瑛	二〇	15 林屋亀次郎氏	16 広田不孤斎氏	17 松本栄一氏
古寺巡礼			世義寺考 上・下	佐藤 虎雄	二七、二七、二七、二七、二七、二七	18 堀口 大学氏	19 岡部 敬氏	20 三井高大氏
1 醍醐寺	仏教藝術	一八	東林寺石塔と悟真寺弥陀像―北勢の文化財―	竹内 森太	二六	21 栗山善四郎氏	22 安田 靱彦氏	
2 淨瑠璃寺		一九	鳳凰堂に於ける浄土教美術と世俗美術の交流について	小椋 修	二六	一九五三年の美術界		
3 淨瑠璃寺		二〇	光学的方法による鳳凰堂の調査と撮影	久野 光和	二六	博物館展観	岡田 譲	
新古寺巡礼			冬の淨瑠璃寺	久野 健	二六	古美術界	奥平 英雄	
観世音寺	蔵田 蔵	三	笠置寺と笠置曼荼羅についての一試論	寿岳 文章	二六	アメリカにおける日本古美術展	嘉門 安雄	
深大寺の仏	鎌原 正巳	三	寺と水	堀池 春峰	二六	一九五三年をかえりみる	川上 涇	博物館 九
日向の薬師	金子 良運	三	正倉院の勅封	杉本 健吉	二六	美術史学界の動向	中村 秀男	
十念寺の来迎会	大串 純夫	三	進展する正倉院の調査	和田 軍一	二六	古美術界の歩み	野間 清六	
龍岩寺	福山 敏男	三	秋篠寺古今記 上	和田 軍一	二六	政治と文化	田内 静三	
投入堂	堀江 知彦	三	撰津極楽寺の五重塔と大般若経	西村 貞	二六	無形文化財の保存問題	平間 修	
周防の国分寺と阿弥陀寺	西川 新次	三	岩屋堂と龍岩寺	田岡 香逸	二六	蒐集家と博物館	田内 静三	
奈良			安藝白龍山龍泉寺	福山 敏男	二六	選定工藝技術に期待するもの	岡田 譲	
Ⅰ 法隆寺の中門	竹山 道雄	四ノ一	第三次新国宝抄	岡本 虎一	二六	古典と美術館	近藤市太郎	
Ⅱ 塔と釈迦三尊			其の後の文化財	久野 健	二六	建造物保存の問題	福山 敏男	
Ⅲ 抽象について			東村山地方にて	吉沢 忠	二六	学藝員に関する二三の問題	飯島 勇	
Ⅳ 宝物殿の諸像			西置賜中部地方	丸山 茂	二六	博物館と児童教育	関 忠夫	
Ⅴ 二様の線条			経塚遺宝	佐藤 栄太	二六	アプストラクトの流行	堀江 知彦	
Ⅵ 3			流転の名品	蔵田 蔵	二六	ルオー展の教えるもの	嘉門 安雄	
Ⅶ 玉虫厨子―飛鳥の性格―				白川 千春	二六	博物館の立場	奥平 英雄	
Ⅷ 日本人の空間感				蔵田 蔵	二六			
Ⅷ 夢殿観音―彫刻の平面性について				蔵田 蔵	二六			
Ⅷ 中宮寺観音				蔵田 蔵	二六			

米国における日本古美術展の反響—最近帰国の松下・嘉門両氏にきく	博物館 ニユース 六
アメリカの日本古美術展	宇治 亘 美術新潮 四ノ六
百済寺院と法隆寺	石田 茂作 朝鮮学報 五
東洋の再発見	谷川 徹三 天地人 五
黄土と色彩	米沢 嘉圃 四
中国古代美術の思想的背景—一三	松本 雅明 国華 七五、七六、七七、七八
中国に仏教をもつて来た人達に関する覚書	佐和 隆研 仏教藝術 三〇
唐代の大悲観音	小林太市郎 四
麦積山石窟寺	福山 敏男 美術史 九
麦積山と炳靈寺	熊谷 宣夫 美術新潮 四ノ二〇
新発見の甘肅省の石窟	野間 清六 アム 元
新発見の二石窟・その他	藤田 国雄 博物館 ニユース 七五
敦煌学五十年	神田喜一郎 龍谷史壇 三
敦煌石窟編年試論	福山 敏男 仏教藝術 一九
敦煌の遺跡	藝術新潮 四ノ四
敦煌石窟の発見とその藝術	水野 清一 四
ペリオの敦煌紀行	秋山 光和 B・ボーリ 美術史 二〇
敦煌西千仏洞	同崎 敬 仏教藝術 元
アスタアナ古墳群の研究—スタイン探險隊の調査を中心として—	小杉 一雄 四
行像—ベゼクリクの行像壁面?—	四

東トルキスタンと大谷探險隊	熊谷 宣夫 仏教藝術 一九
ペリオ調査団の中央アジア旅程とその考古学的成果—上・下の業績—	秋山 光和 マリンガー 一九
アフガニスタンの遺跡	吉川 逸治 藝術新潮 四ノ三
イランの遺跡	和田 新 四ノ六
—ナクシ・イ・ルスタム—	四ノ六
—ターク・イ・ブスターン—	四ノ六
ボロブドウルの日	蓮実 重康 アム 二七
ボロブドウル—仏教美術史上のユニークな建造物—	高田 修 二六
日本	日本
アメリカにある日本美術—上・下—主として絵画について—	松下 隆章 アム 三、三三
絵画の題材	野間 清六 三
風俗画について	藤懸 静也 三七
美術用語解説	鷹巢 豊治 三六
絵画の技法	鷹巢 豊治 三六
光学的研究方法による絵画の研究—ヨーロッパにおける研究の現状と東洋絵画への適用—	秋山 光和 美術研究 二六
日本顔料のX線透過に関する実験	中山秀太郎 三
絵因果経、紫式部日記絵巻、金棺出現図のX線による鑑識	秋山 光和 三

高井田古墳壁面の印象	土居 次義 美一
法隆寺金堂壁面の火災損傷について	田中 一松 久野 健 美術研究 二七
法隆寺金堂壁面の顔料及びその火災による変化について	山崎 一雄 三
法隆寺金堂火災後の科学的処置について	櫻井 友吉 高景 三
法隆寺壁面の錦文とその年代	太田 英藏 法隆寺金堂建築及壁面の文様研究 美術研究 二七
法隆寺壁面論文目録	三
法隆寺壁面関係図書、複製目録	三
天平時代画師考	本間 正義 国華 七三—七五
奈良時代の戯画について	野間 清六 アム 二四
当麻寺文亀曼荼羅の銘文について	川勝政太郎 史迹と美術 三六
兩部曼荼羅の建立とその史的意義	飯田 一郎 史潮 四
惠果、空海以後の密教美術	佐和 隆研 仏教藝術 六
金胎仏面帖と宅磨為遠	田中 一松 大和文華 三
醍醐三寶院藏阿梨諦母図について	佐和 隆研 三
鶴岡八幡廻御影と来迎廿五菩薩—中村岳陵氏藏—	近藤 喜博 国華 七〇、七三
日御碕社の十羅刹女	望月 信成 アム 三三
尊勝曼荼羅について—表具師能阿弥と来迎寺十界図—	蓮実 重康 美術史 二〇
屏風絵と歌と物語と	玉上 琢彌 国語国文 三ノ一
日本風景画の様式的展開—大和絵風景画の発生とその展開—	近藤市太郎 三 彩 六

敵島神社所蔵小形繪 扇繪について	秋山 光和	美術研究	一七三	八幡縁起繪卷解説 藤井徳義氏蔵	梅津 次郎	国 華	七〇	再び長谷川等伯と長 谷川信春との関係に ついて	土居 次義	人 文	二	
彩繪繪扇(敵島神社 蔵)	日野西資孝	ミューゼ アム	二四	合戦絵源流の一考察 結城合戦絵詞	滝川政次郎	大和文華	二〇	海北友松のこと	小杉 放庵	藝術新潮	四ノ一	
平家納経について	魚澄惣五郎	史迹と美 術	三三	三十二番職人歌合繪 卷解説 幸節静彦氏 蔵	藤懸 静也	国 華	七〇	新出土佐光吉筆源氏 物語絵帖に就いて	楠崎 宗重	国 華	七六	
平家納経	白畑 よし	ミューゼ アム	三三	鶴岡放生会職人歌合 繪卷解説 相田八四 郎氏蔵	白畑 よし	ミューゼ アム	七二	土佐光吉筆源氏物語 須磨解説	藤懸 静也	ミューゼ アム	七三	
久能寺経	島田修二郎	大和文華	二〇	歌仙重之像解説 鎌倉期の肖像面につ いて 後鳥羽天皇像 を中心として	白畑 よし	ミューゼ アム	七〇	土佐一得筆鶉図解説 幸節静彦氏蔵	持丸 一夫	美術研究	一七二	
繪巻における異時同 図法	奥平 英雄	ミューゼ アム	三三	子元祖元像解説 慈 照院蔵	島田修二郎	美術史	八	法然絵伝に現れた障 壁面	石山寺縁起と慕繪 詞に現れた障壁面	ミューゼ アム	三	
繪巻と繪詞と繪解 宇津保物語研究資 料	河野 多麻	文 学	三ノ四	中峯和尚像解説 選 仏寺蔵	田中 一松	国 華	七四	米国へゆく日本古美 術展の名品	米屋城本丸御殿障 壁面	ミューゼ アム	三	
家伝の「源氏繪巻」 わたしの国宝	益田 義信	藝術新潮	四ノ二〇	三蔵像解説 熊谷直 氏蔵	島田修二郎	ミューゼ アム	七九	浜松図屏風解説 里 見忠三郎氏蔵	田中 一松	国 華	七六	
王朝生活の一面―源 氏物語繪詞を中心と して	鈴木 敬三	国学院雜 誌	西ノ一	宗祇像解説 戴本荘 五郎氏蔵	楠崎 宗重	ミューゼ アム	七〇	太閤醍醐花見図解説	野間 清六	ミューゼ アム	七〇	
源氏物語白描繪雜考 信貴山縁起繪巻の詞 上・下―同繪巻研究 の序説として	白畑 よし	大和文華	三	水墨画の鑑賞につい て	熊谷 宣夫	天地人	五	花下遊樂図屏風解説	野間 清六	ミューゼ アム	七〇	
信貴山縁起画面解釈 として	大串 純夫	国 華	七三、 七三、 七三	伝周文筆山水図解説 大橋理祐氏蔵	島田修二郎	国 華	七六	新国宝、花下遊樂図 屏風	舟橋秀賢と狩野内膳 渡辺了譽筆山水図双 幅解説 里見忠三郎 氏蔵	楠崎 宗重	国 華	七五
信貴山縁起関係説話 ―同繪巻研究の序説 として	梅津 次郎	美術研究	一七〇	雪舟筆山水図 新国 宝紹介	中村 秀男	ミューゼ アム	三三	久隅守景の人と藝術	飯島 勇	ミューゼ アム	二四	
粉河寺縁起繪巻 新 国宝紹介	大串 純夫	美術研究	七〇	布袋図解説 藤井徳 義氏蔵	島田修二郎	国 華	七〇	隨筆宗達一―三 二、原三溪翁の光 悦、宗達観	矢代 幸雄	大和文華	二〇一三	
粉河寺縁起 解説	野間 清六	ミューゼ アム	七〇	宗善筆花鳥図解説 藤井徳義氏蔵	田中 一松	ミューゼ アム	七五	光淋の水墨画 ―維摩図への道―	飯島 勇	ミューゼ アム	三	
餽酬本大念仏縁起に ついて	佐和 隆研	美術史	八	米国へゆく日本古美 術展の名品	熊谷 宣夫	ミューゼ アム	三三	草花図解説 里見忠 三郎氏蔵	楠崎 宗重	国 華	七四	
不動利益縁起	奥平 英雄	ミューゼ アム	七六	雪村筆竜虎図解説 里見忠三郎氏蔵	藤懸 静也	国 華	七七	長沢蘆雪筆群猿図解 説 兵庫大乗寺襖繪	藤懸 静也	ミューゼ アム	七三	
春日験記繪詞聞書に ついて	近藤 喜博	国 華	七九	狩野山楽筆山水圖軸 解説 大橋理祐氏蔵	土居 次義	ミューゼ アム	七三					

吳春筆山水図又幅解 楢崎 宗重 国 華 七三

松村景文筆月夜山水 楢崎 宗重 国 華 七三

南画山水 北川 桃雄 世界 七三

彭城百川筆蓮花図解 藤懸 静也 国 華 七三

池大雅筆洞庭赤壁図 飯島 勇 アム 七三

与謝蕪村筆竹林茅屋 米沢 嘉圃 美術研究 一七〇

解 横江捷三氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七〇

高芙蓉筆山水図解 楢崎 宗重 国 華 七〇

岡田米山人筆箕面滝 楢崎 宗重 国 華 七〇

図解 安藤久兵衛 楢崎 宗重 国 華 七〇

氏蔵 藤懸 静也 七〇

谷文晁筆瀑布図解 藤懸 静也 七〇

大野文泉筆河本立軒 岡田 長平 七〇

像解 矢田三千男 七〇

岡田半江筆樓閣山水 楢崎 宗重 七〇

図解 大橋理祐氏蔵 楢崎 宗重 七〇

山本梅逸筆花卉図解 楢崎 宗重 七〇

渡辺嶺山 入交 好脩 経済史学 七

渡辺嶺山の思想と藝術について 蔵原 惟人 世界 九

嶺山の矛盾—特にその描線について— 吉沢 忠 美術史 九

嶺山の人物素描 菅沼 貞三 大和文華 三

嶺山の四州真景 菅沼 貞三 大和文華 三

高橋草坪筆猪名川至 楢崎 宗重 国 華 七三

神崎寛景巻解 米田邦造氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

諸大家書画帖解 大橋理祐氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

住吉具慶筆南都八景 解 英勝寺蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

蟹の絵馬 加藤 増夫 日本美術 一六

浮世絵の現代性—そのフラグメント— 吉田 暎二 藝術新潮 四〇

浮世絵と文化 香原 一勢 日本歴史 七〇

浮世絵版画と後期印象派 岡 長三郎 博物館 七〇

初期歌舞伎絵の変遷 近藤市太郎 アム 七〇

歌舞伎遊楽図屏風解 歌 大津賀善次郎氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

遊里図解 遊里 宗重 国 華 七三

菱川師宣の初期作に就いて 相見 香雨 大和文華 二

北尾重政筆普賢見立美人図解 金子孚 楢崎 宗重 国 華 七六

水氏蔵 歌川豊広筆納涼美人図解 楢崎 宗重 国 華 七三

栄昌筆隅田川図巻及び栄三筆三圍真乳山双幅解 土屋栄氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

北斎の洋風版画 織田 一磨 心 六〇

新収品紹介 北斎筆花鳥版画 菊地 貞夫 アム 六〇

葛飾北斎と曲亭馬琴 織田 一磨 心 六〇

北斎と明治文学—白秋、蘆花にあてた影響— 福本 和夫 改造 六〇

魚屋北溪筆二美人図 楢崎 宗重 国 華 七三

解 矢尾豊治氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

広重の感傷主義 高橋誠一郎 天地人 三

広重の富士 野村 胡堂 改造 三

日本美術史講座 ヨーロッパ美術の東漸と日本洋風画の展開—江戸時代の絵画— 近藤市太郎 博物館 六

泰西王侯騎馬図屏風 東明本洋人委楽図屏風について解 箱根美術館蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

寛永寺旧蔵聖ベテロ画像について 西村 貞 大和文華 九

福井家蔵の南蛮屏風 土居 次義 国 華 七〇

司馬江漢と板ガラス 板橋 倫行 日本歴史 七〇

中国、其他 小林太市郎 墨 美 三

東洋藝術に於ける空間の意義と表現—特に二、三の宋元画について— 米沢 嘉圃 東洋文化研究 四

白画源流考 米沢 嘉圃 東洋文化研究 四

後漢武梁氏祠石室画像石に就て 明石 染人 艸 美 一

ボストン美術館蔵搦図について 松下 隆章 仏教藝術 二

再説宋墓周文矩宮中 矢代 幸雄 美術研究 一六

明清画の諸問題 米沢 嘉圃 東方学 六

文微明筆輞川荘図解 川合定治郎氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七六

陸治筆秋景山水図解 楢崎 宗重 国 華 七三

八大山人筆木蓮図解 楢崎 宗重 国 華 七三

蕭雲從筆扇面周津図 楢崎 宗重 国 華 七三

解 住友寛一氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

賢筆山水図解 楢崎 宗重 国 華 七三

住友寛一氏蔵 楢崎 宗重 国 華 七三

高其佩筆遊魚圖解説	米沢 嘉圃	国 華	三七
金農筆墨竹図二種解説 橋本節哉氏蔵	〃	〃	三七
顧洛筆洛神賦図解説 藤山順吉氏蔵	〃	〃	三七
顧洛筆情合図藤山順吉氏蔵	〃	〃	三七
歎美抄 西域画樹下人物図	矢代 幸雄	大和文華	九
ベゼクリク諸窟寺將來の壁画補遺	熊谷 宣夫	美術研究	一七〇
キジル第三区摩耶洞將來の壁画―主として徒盧那像及び分舍利図について―	〃	〃	一七三
ソワイエト領中央アジアの古代壁画―エス・ペー・トルスタフのトップ・トラック・カラ発掘について―	大串、梶川 訳	仏教藝術	三〇

書蹟・附篆刻・文具

総記

書之美	伊東 卓治	ミニューゼ アム	三
文学と書表現	井島 勉	墨 美	三
書の伝統と新傾向	井島・内藤 久松・森田 相見 香雨	淡 交 奕	三
墨美の秋の秀逸	吉川幸次郎	墨 美	三
書の藝術の性質について	高村光太郎	博物館 ニューズ	七
書の深淵	是沢 恭三	ミニューゼ アム	三
皇室と書道	藤田 経世	博物館 ニューズ	七
書と現代	野間 清六	ミニューゼ アム	三
書道と生活	〃	〃	〃

美術文献目録

書の空間をめぐるつて 余白の美	有田 光甫	墨 美	三
書―漢字―碑碣	金子 鷗亭	〃	〃
書―漢字―日本の	手島 右卿	〃	〃
書―漢字―帖	有田 光甫	〃	〃
書―漢字―禅僧墨跡	川村 驥山	〃	〃
空白の利用、書―かな―色紙と呼ばれる	尾上 柴舟	〃	〃
古筆	谷辺 橋南	〃	〃
飯名の余白―書―かな―色紙と呼ばれない古筆	松井 如流	書 品	五
連綿草随想	村上 三島	博物館 ニューズ	七、八
連綿草について	小松 茂美	〃	〃
書の用語上・下	岩崎 友吉	古文化財 之科学	五
古文書類の虫害とその防除について	堀江 知彦	ミニューゼ アム	三
日本書道の展開	飯島 春敬	書 品	七
飛鳥時代の書道―特に法隆寺薬師像銘文について―	矢島 恭介	墨 美	元
上代に於ける墓誌について	西川 寧	書 品	七
飛鳥時代金文小記	曾我部静雄	日本歴史 英	〃
多胡碑の羊の字について	福山 敏男	墨 美	元
法隆寺五重塔の落書の和歌	太田 英蔵	書 品	六
鴨毛屏風の裝飾性	飯島 春敬	書 品	四
奈良時代の写経	堀池 春峰	書 品	四
瑜伽師地論の筆者について	石田 茂作	ミニューゼ アム	三
藤原写経の性格	堀江 知彦	美術史	九
道長の経筒	小松 茂美	書 品	四
久能寺経成立の背景上	田岡 香逸	史迹と美術	三三
摂津福祥寺蔵大般若經	佐藤 虎雄	〃	三三
伊勢村松の大般若經	堀江 知彦	ミニューゼ アム	三
古筆切	春名 好重	書 品	四
紀貫之の再検討	財津 永次	ミニューゼ アム	三
行成の白氏詩巻	秋山 光	美術史	〇
鳳凰堂色紙形筆者兼行説の根拠に対する一批判	吉沢 義則	ミニューゼ アム	三
平安朝のかな―五首一紙をめぐるつて―	小笹 喜三	墨 美	七
歌合十卷本〔巻第六〕について	堀江 秋菊	書 品	五
藍紙万葉	春名 好重	墨 美	三
寸松庵色紙	堀江 知彦	ミニューゼ アム	六
伝道風筆本阿弥切	春名 好重	墨 美	三
伝源俊頼筆卷子本古今集序 大倉喜七郎氏蔵 解説	春名 好重	墨 美	三
伝源俊頼筆古今集卷十三	伊東 卓治	大和文華	〇
太田切	春名 好重	墨 美	三
伝源俊頼筆安宅切	藤田 経世	〃	〃
書道史上の三十六人集	江川 吟舟	〃	〃
石山切の分割	春名 好重	〃	〃
伊勢集(石山切)	佐藤 真令	〃	〃
伊勢集の美しさ	〃	〃	〃

源氏物語と書 1 春名 好重 書 品 五

藤原定信とその時代 小松 茂美 アム 三

一条拱政集 春名 好重 墨 美 三

一条拱政集 鈴木 翠軒 墨 美 三

二荒山後撰和歌集と藤原教長 小松 茂美 墨 三

雅経後撰集の発見 田中 塊堂 墨 三

「後撰」の恋 堀江 知彦 墨 三

熊本の古筆 春名 好重 書 品 三

高倉天皇の御手跡 小松 茂美 アム 三

世尊寺経朝の書道の地位 田中 塊堂 史迹と美術 三三

世尊寺経朝の扁額 川勝政太郎 史迹と美術 三三

堀ノ内妙法寺所蔵日蓮聖人真筆の断片について 茂田井教亨 西郊文化 一

墨跡 田山 方南 アム 三

純寧一山墨跡 伊東 卓治 美術研究 一六

日本美術史講座 和様の展開と唐様の勃興—江戸時代の書跡 堀江 知彦 博物館 充

江戸時代の唐様について 神田喜一郎 ミニユーゼ 三

利休の真跡一〇— 田山 方南 淡交 五—五、五九—六二、六三、六四、六八

芭蕉の遺墨 二点 菊山当年男 日本美術工藝 二七

徂徠と荷蘭 秋 菊 書 品 元

慈雲尊者の書を語る (座談会) 喜多 楯蔵 墨 美 三

慈雲尊者の書について 他 墨 美 三

慈雲尊者の生涯から 神田喜一郎 墨 三

良寛晩年の一詩 木南 卓一 墨 三

良寛晩年の一詩 宮 栄二 ミニユーゼ 三

随筆良寛の書 武田 正泰 日本美術工藝 一八

高芙蓉百七十年忌について 中 国 書 品 三

中国書道の流れ—書道名品展にちなんで 西川 寧 アム 三

書のはなし 中田 勇 天地人 五

呉説とその游糸書 松井 如流 書 品 四

開通褒斜道石刻 谷村 薫斎 墨 三

鑿宝子碑 西川 寧 墨 三

北魏奚智墓誌解説 翁氏化度寺碑全国校字記 中田 勇 墨 三

化度寺碑の伝承 田山 方南 ミニユーゼ 三

仏鑑禪師 末 宗広 日本美術工藝 一八〇—

虚堂の墨跡一—三 伊東 卓治 ミニユーゼ 三

古林清茂墨跡 田山 方南 墨 三

了庵清欲の墨跡 内藤淳一郎 書 品 三

金冬心の年譜八一—一〇 井上 春谿 墨 三

書譜解疑疑義二 西川 寧 墨 三

篆刻・文房具

中国の古印について (座談会) 神田喜一郎 墨 三

漢印私考一—四 他 墨 三

「漢委奴国王」金印に関する二三の文献 岡部 長章 墨 三

東漢曹氏六面印跋 魏崇徳侯純金印 西川 寧 墨 三

穆如清風室藏印五—七 西川 寧 墨 三

篆刻屑語 山田 正平 天地人 五

篆刻の余白 園田 湖城 墨 美 三

関東・東北における田面硯 内藤 政恒 史迹と美 三六

中国の古硯研究 坂東 貫山 天地人 五

唐澄泥石渠硯 南唐官硯 杉村 丁 ミニユーゼ 三

文房四宝 紙と墨 木村 康一 天工開物の研究

彫刻 日本 上野 照夫 史迹と美 三九

仏像の美しさの叙述 和様の研究—彫刻史における国風問題の前提として— 柏瀬清一郎 名大文学部研究論集VI哲学2

平安朝初期仏像の肥満の発生 本間 正義 ミニユーゼ 三六

藤原後期に於ける定朝様式 小沢 洋子 史 論 一

鎌倉時代の彫刻に就いて 田沢 坦 大和文化 一〇二

日本美術史講座 近代を準備する空白 千沢 植治 博物館 三

江戸時代の彫刻 古代彫刻とXレイ 久野 健 藝術新潮 四ノ五

青銅製仏像の透視写真撮影 望月 信成 古代学 二ノ二

木心乾漆像について—光学的方法による古美術品の研究— 久野 健 美術研究 二七

思维の仏たち上・中・下 壽岳 文章 淡交 毛—亮

用語解説(彫刻)鋳型 金子 良運 ミニユーゼ 三

所謂止利仏師と元興寺造仏に就いて	藤沢 一夫	古文化	一〇二
康慶の一資料	毛利 久	アムニューゼ	元
大仏師法印湛慶―日本彫刻作家研究の一節―	小林 剛	大和文華	三
快慶の法眼叙位について	毛利 久	史迹と美術	三三
快慶と醍醐寺	赤松 俊秀	史迹と美術	三三
仏師法眼康俊と子息康成	大田 古朴	史迹と美術	三五
仏師法眼院覚―日本彫刻作家研究の一節―	小林 剛	大和文華	九
三条仏師明圓上・下―日本彫刻作家研究の一節―	〃	国華	七三、七四
椿井仏師舜寛房春慶―日本彫刻作家研究の一節―	〃	大和文化研究	一〇一
慈恩寺阿弥陀像の手印	佐藤 栄太	羽陽文化	七
善教寺阿弥陀如来の胎内納入物に關して	平松 令三	史迹と美術	二三
円成寺の阿弥陀如来像と大日如来像	小林 剛	大和文華	二
仁和寺阿弥陀三尊像	久野 健	美術史	二〇
神護寺五大虚空蔵像解説	辻 晉堂	仏教藝術	六
新国宝 観音寺十一面觀音立像	毛利 久	アムニューゼ	七
阿修羅像	蓮実 重康	史迹と美術	三〇
法隆寺戊子釈迦像銘文	三田 清白	書品	三〇
新国宝紹介 夢違観音像	金子 良運	アムニューゼ	三三
薬師寺金堂本尊薬師像の光背について	田村 吉永	史迹と美術	三三
薬師寺金堂月光菩薩像に就いて	〃	史迹と美術	三三

美術文献目録

唐招提寺の千手観音立像	太田 古朴	史迹と美術	三三
米国へゆく日本古美術展の各品 唐招提寺の衆王菩薩像	小林 剛	アムニューゼ	三
銅板押出阿弥陀三尊及び侍者像	西川 新次	史迹と美術	三
長谷寺不動明王立像と胎内御影鏡	太田 古朴	史迹と美術	三七
長福寺龍洞院の阿弥陀如来像解説	〃	史迹と美術	三七
地蔵菩薩像解説 奈良旧白米寺地蔵堂藏	小林 剛	大和文化研究	一〇二
東壽院の快慶作阿弥陀如来坐像	毛利 久	国華	七四、七五
神崎町辻の薬師如来坐像	市場直次郎	佐賀県文化財調査報告2	〃
丹生川上中社の女神像解説	〃	仏教藝術	二〇
小和御霊神社の女神像と資料	岡本 康子	大和文化研究	一〇一
大三島の不思議 大山祇神社の古神像	丸尾彰三郎	アムニューゼ	二四
金銅藏王権現立像解説 幸節静彦氏藏	保坂 三郎	国華	七三
鑑真和上像 唐招提寺の祕宝	西川 新次	アムニューゼ	二四
法華寺維摩像	久野 健	仏教藝術	六
興正菩薩像解説 西大寺藏	小林 剛	大和文化研究	一〇一
空也上人像	金子 良運	アムニューゼ	三〇
天人像―旧法隆寺金堂天盖附属	木下 龍也	大和文華	三
仏像につけられた鬼形	金子 良運	アムニューゼ	三三
鬼から般若へ	野間 清六	史迹と美術	三三
丹生神社の能面資料	岡本 康子	大和文化研究	一〇二

春日山地獄谷石窟仏の疑問	太田 古朴	史迹と美術	三元
九州白杵の石仏群	久野 健	藝術新潮	四〇九
朝鮮、中国、其他	〃	〃	〃
朝鮮の弥勒半跏像	榎本 杜人	アムニューゼ	元
松広寺の小仏龕像について	中吉 功	朝鮮学報	五
松広寺三尊仏龕像解説	〃	美術史	二〇
新羅の石仏―特殊の法眼について―	小泉 顕夫	古文化	一〇一
中国古代彫像例の二、三	梅原 末治	大和文華	九
雲岡石窟とその調査報告	小野 勝年	仏教藝術	六
山西省祁県の六朝石仏	道端 良秀	仏教史学	三〇四
延昌二年交脚菩薩像	北野 正男	仏教藝術	六
クムトラ将来の塑造菩薩頭	熊谷 宣夫	大和文華	三
クメールの女神像トルソー 解説	高田 修	アムニューゼ	六
インドの彫刻 解説	木内 克	藝術新潮	四〇七
建築・庭園	〃	〃	〃
歴史的建造物の修理方法	R・パーネ 飯田喜四郎	建築史研究	二
日本	〃	〃	〃
一九五二年の建築史学界回顧―日本建築史	伊藤 延男	建築史研究	三
古建築への入門 一一〇	近藤 豊	史迹と美術	三九一
日本建築の性格	浅野 清美	史迹と美術	三八

日本建築の構造と意匠的特質 浅野 清 美術史 九

重要文化財建造物 院客殿 建築文化 七

大浦天主堂 角屋 建築文化 七

如庵 護国院多宝塔 建築文化 七

瑞巖寺 安楽寺八角三重塔 建築文化 七

密庵 飛雲閣 建築文化 七

春日と加茂 羽陽古建築雑抄 建築文化 七

板敷について 藤島亥治郎 建築文化 七

土間と板敷 太田博太郎 建築文化 七

高床々ということ 太田茂比佐 建築文化 七

上代詩における窓その他 増田 友也 建築文化 七

庇について 村田 治郎 建築文化 七

大野丘の塔というもの一柱を立てる風習の一節 三田 克彦 建築文化 七

唐居敷、門の限一古建築細部についての国学者の誤解 山田 孝一 建築文化 七

本光国師日記を通じて見た江戸時代初期の建築事情 川上 貢 建築文化 七

江戸時代初期の徳川氏直轄作事について(京都周辺の場合) 島田 武彦 建築文化 七

京都大工頭中井支配の棟梁について 建築文化 七

用語解説(建築) 福山 敏男 ミニエゼ アム 七

国分寺伽藍に於ける中心建築物の有する諸性質 太田 静六 建築学会 三

近世的塔頭方丈成立過程の考察 川上 貢 建築学会 七

曹洞宗の伽藍配置に就いて 横山 秀哉 建築学会 七

伽藍に於ける幢について 杉山 信三 建築学会 七

禅利の方丈について 横山 秀哉 建築史研究 三

禅利の後架について 横山 秀哉 建築史研究 三

禅利の山門について 川上 貢 建築史研究 三

中世に於ける私僧房の建築について(書院造形成過程の一考察) 川上 貢 建築史研究 三

日本仏塔平面に於ける古代尺による計画類型について 加藤 泰 建築史研究 三

日本塔婆の古代尺高さ法による分類について 加藤 泰 建築史研究 三

中村観音堂の新資料―寛正の納額を発見― 羽陽文化 九

新重文の博物館の収蔵倉―旧十輪院の経蔵― 矢島 恭介 博物館 ニュース 七

無量光院発掘調査の日記 藤橋孝三郎 羽陽文化 九

加賀大乘寺伽藍について 横山 秀哉 建築学会 三

大恩寺念仏堂の前身建物について 太田博太郎 建築学会 三

夏身寺について 藪田嘉一郎 史迹と美術 三三

夏身寺の異説について 毛利 久 史迹と美術 三三

崇福寺塔心礎納置品 石田 茂作 ミニエゼ アム 七

円成寺の建築と庭園 森 蘊 大和文華 二

正伝寺方丈に就いて(金地院小方丈移建説の疑) 大森 健二 建築学会 三

龍光院の昭堂―創建時の形式と前身建物について 川上 貢 建築史研究 三

龍光院の黒田如水霊堂について 野地 修左 建築学会 三

ふたたび東求堂の床間について1、2―吉永義信氏の批判にこたえて 野地 修左 建築史研究 二、三

十禅寺の得月台について 景山 春樹 大和文華 二

平安時代建築における絵画的性質(鳳凰堂を中心として) 井上 充夫 建築学会 三

鳳凰堂中堂の修理 関野 克 博物館 ニュース 七

広隆寺草創考一―四 向井 芳彦 史迹と美術 三三

円教寺大講堂の建立年代 野地 修左 建築学会 三

書写山円教寺常行堂について 野地 修左 建築学会 三

法隆寺金堂罹災調査概要 福山 敏男 美術研究 一七

法隆寺金堂の装飾文様 福山 敏男 美術研究 一七

法隆寺金堂の雲斗、雲肘木 石井 鶴三 藝術新潮 四〇

法隆寺五重塔及金堂木部の赤色顔料の色及び化学成分について 山崎 一雄 古文化財之科学 五

東大寺大仏殿院一 福山 敏男 大和文化 一〇

鎌倉再興東大寺廻廊の一資料 山本 栄吾 建築学会 三

東大寺開山堂と鐘樓 伊藤 延男 ミニエゼ アム 七

正倉院紫壇塔の残欠について	浅野 清	美術史	八
再び薬師寺の占地上について	木村 良雄	史迹と美術	三六
大和法華寺に於ける新発見について	田村 吉永	史迹と美術	三六
海龍王寺の創立年代と伽藍形式	浅野 清	大和文化研究	一〇一
大崎八幡および瑞巖寺の龍虎の欄間	田村 吉永	古文化研究	一〇一
龍門寺塔址の発掘	飯田須賀斯	建築学会研究報告	四
大岩水分神社境内の中心礎	浅野 清	大和文化研究	一〇二
備後における白鳳寺院址二題	田村 吉永	史迹と美術	一〇一
神社建築の発生に關する二つの問題	村上 正名	史迹と美術	一〇二
日光東照宮彫刻意匠の源流に就て	林野 全考	建築学会研究報告	三
日光東照宮の裝飾文様1・2	藤原 義一	建築学会研究報告	三
箱崎の燈籠堂	辻合喜代太郎	建築学会研究報告	三、四
薩藩の外城及麓	井口 海仙	淡交	五
水戸城天守式城櫓建築の系統について	野村 孝文	建築学会研究報告	三
安土城の成立と復原について	城戸 久	建築学会研究報告	三
小豆島に於ける近世築城用採石について	中田 行	建築学会研究報告	三
寛永仮皇居とその遺構(京都御所の研究7)	城戸 久	建築学会研究報告	三
承応内裏について(28)	藤岡 通夫	建築学会研究報告	三
寛永度の後水尾院御所東福院御所について(仙洞御所女院御所の研究2)	藤岡 通夫 平井 聖	建築学会研究報告	三

明正院御所について(29)	平井 聖	建築学会研究報告	三
近世の紫宸殿清凉殿と寛政度の様式復古について(京都御所の研究六)	藤岡 通夫	大和文化研究	九
初期桂離宮の意匠	森 蘊	建築学会研究報告	三
民家の史的的研究に關する一提案(長野県平出聚落を材料として)	藤島亥治郎 内山 嘉郎	建築学会研究報告	三
聚落型民家の系譜2 一 律令時代の聚落及農家の形式と規模について	白木小三郎	建築学会研究報告	三
山村住居の成立根拠	稲垣 栄三	建築史研究	三
沼・堅穴住居の復原について	渋谷 泰彦	建築学会研究報告	三
「えつり」と「こまひ」住居の外観構造	三田 克彦	建築学会論文集	四
群馬県長井敷石住居址調査報告	山崎 義男	考古学雑誌	三九〇
杉並区堀ノ内済美台土師式住居址調査報告	萩原 弘造	西郊文化	六
千葉県印旛郡和田村熊野神社前の土師住居址発掘報告	丸子 亘	文学部論叢(立正大学)	一
仙台藩に於ける武家聚落(仙台市七郷笹屋敷の成立とその居住形式)	佐藤 巧	建築学会研究報告	三
黒門の博物館移建	高尾 政雄	博物館ニュース	三
武者小路千家の茶室	岡田 孝男	新建築	三〇二
室町後期の二茶湯の語をめぐる二つの建築史的課題(武家貴族の生活を中心として)	野地 修左	建築学会研究報告	三

平城京に於ける市民の宅地割について	大井重二郎	史迹と美術	三〇
丹生郡旧吉野村附近の条里について	斎藤 優	文化財調査報告(福井県)	一
古瓦より見た奈良朝地方文化相の一傾向	内藤 政恒	古代	二
埼玉県入間郡東金子村窯址とその出土古瓦について	宇野信四郎	西郊文化	六
武蔵国分寺創建時における瓦について	大賀 一郎	古文化財之科学	六
武蔵国分寺及び国分尼寺址出土の布目瓦の糸目について(大賀式湿拓表現法による麻布の鑑別)―布目瓦の研究3―	大賀 嘉子	古文化財之科学	六
飛鳥の瓦窯跡	中村 春寿	大和文化研究	一〇二
石造美術講義一―三墳墓標識としての石造塔婆 上・中・下	川勝政太郎	史迹と美術	三三、三三六、三三六―二
安祥寺新出の蟠龍石柱について	日野 一郎	史迹と美術	三三六
大原の石造美術新資料	景山 春樹	史迹と美術	三三六
旧高麗寺の石塔	毛利 久	史迹と美術	三三六
檜隈墓の猿石と益田の岩船	佐々木利三	史迹と美術	三三六
播磨に於ける弘安在銘の石造層塔に就いて	川勝政太郎	大和文化研究	九
長坂寺境内五輪塔	保田与重郎	史迹と美術	三三三
讚岐大宝院石造宝塔―石造遺物調査録1―	浅田 芳朗	史迹と美術	三三三
笠塔婆	藤原 義一	史迹と美術	三三三
	藤井 直正	史迹と美術	三三三
	日野 一郎	古代	三

仁王・楽人図所刻の石燈籠 川勝政太郎 史迹と美術 三三七

天野山金剛寺の石燈籠 三九

石燈籠と手水鉢 小早川秋声 淡交 五〇一六

石の美—智積院、妙法院、桃山御香宮 富本 憲吉 藝術新潮 四ノ四

寸庭めぐり 森 蘊淡 交 五

大橋理祐邸を訪ねる 角屋をたづねて 三

陶宮陽発の家桑名邸をたづねて 三

稲畑邸をたづねて 三

涼しい中庭の泉 羽田邸を訪ねて 三

大橋邸を訪ねて 久恒 秀治 藝術新潮 四ノ二

中国、其他

支那印度附朝鮮の仏塔高さに於ける古代尺について 加藤 泰 建築学会 二四

新羅一般型石燈の造立年代について 杉山 信三 三

北魏の首都洛陽城の構造 服部 克彦 龍谷史壇 三

唐長安城の東南部—呂大防長安図碑の復原 福山 敏男 古代学 二ノ四

校注河京新記卷第三 水野 清一 美術研究 一七〇

文字瓦当 村田 治郎 建築学会 研究報告 三

工 藝

工藝の形姿 田沢 坦 ミュージアム 三

天工開物について 藪内 清 天工開物の研究 一七五

選定無形文化財工藝内示展 観 塔 樓 日本美術 一七五

談山神社本殿下出土遺物について 小島 俊次 大和文化 一ノ二

原始文様と現代美術 河本 敦夫 艸 美 一

日本の原始文様 末永 雅雄 三

罽と蛇の原始文様 宮武 辰夫 二

陶 磁 工

陶磁器の味わい 奥田 誠一 天地人 五

横河コレクションについて 谷川 徹三 ミニユーゼ 三

横河古陶磁展を観て 梅沢彦太郎 陶 説 四

横河博士蒐集の東洋古陶磁展を見て 尾崎 洵盛 三

横河コレクション 久志 卓真 三

横河氏の人とコレクション 内藤 匡 三

横河コレクションを見て 吉原 一 三

横河コレクション 久志 卓真 道 日本茶 三

陶瓷を通じて国際観 料治 熊太 陶 説 六

善 川崎 浩良 羽陽文化 七

染付けもの 中川 千咲 美術研究 二六

紫外線による古陶磁の実験 加藤土師萌 道 日本茶 三〇

茶陶の訂正 加藤義一郎 日本美術 一七一

ちやわん抄 加藤義一郎 工藝 二八二

(48)山本与興作黒染富士山・(49)さつま筒・(50)ピカソの茶碗・(51)黒織部香形白文様・(52)堅手「蘆手」・(53)釘彫いらぼ「玉たれ」・(54)白染「白象」伝常慶作金印・(55)色織部「三角」・(56)高麗「明保農」・(57)長次郎赤「常盤」・(58)一入黒朱釉「於花」・(59)練上手志野「巖」

東都茶盤譜 佐藤 進三 交 五五—五八、六〇、六二、六四

一入黒茶碗 銘「華橋」・奥高麗茶碗・熊川茶碗 銘「春雲」・練上手志野茶碗・堅手茶碗 銘「横笛」・絵唐津平茶碗 文字入・本手彫三鳥茶碗・御所丸茶碗

日 本

日本陶磁史概説 小山富士夫 三 彩 六

日本の陶器—覚え書 青山 二郎 淡 交 六

日本美術史講座 近世各窯の展開—江戸時代 田中作太郎 博物館 三

戸時代の陶磁器

人とその作品について 小林 一三 淡 交 六

ての一鼎談 富本 憲吉

作陶随想 国焼 河合卯之助 ミニユーゼ 三

四国・岡山の旅 加藤土師萌 陶 説 四

雀離浮図考 村田 治郎 建築学会 研究報告 三

蒐集家の愛情 広田不孤斎 陶 説 四

大矢沢須恵器発掘
上・下 久志 卓真 日本美術 一七〇

上代の緑釉陶 藤岡 了一 日本美術 一七〇

壺坂寺奥院発見の緑釉平瓶骨壺 中村 春寿 大和文化 一ノ二

開化工人の郷愁―天平三年在銘の土師器 墨田 栄吉 日本美術 一七三

常滑 小山富士夫 陶 説 七

古常滑窯址調査 沢田 由治 陶 説 七

常滑古窯址予備調査概要 中沢三千夫 陶 説 七

平安期の常滑陶について 田中作太郎 陶 説 七

常滑地方に就ての伝説を考ふる 赤塚 幹也 陶 説 七

古常滑の平水指 小山富士夫 淡交 六

瀬戸獅子香炉 岡田 宗叡 日本美術 一八〇

黄瀬戸狛犬の断片―前号岡田宗叡氏の「瀬戸獅子香炉」よせて 桂 又三郎 陶 説 一八二

あやめ手黄瀬戸 陶 説 一七四

名陶志野 陶 説 一七六

黄瀬戸・志野・織部 加藤土師萌 陶 説 一七七

「志野・織部・黄瀬戸展」を顧りみて 小森 松庵 陶 説 一

古田織部と志野・織部 磯野風船子 日本美術 一七二

織部 加藤土師萌 陶 説 五

織部のすがた 日本美術 一七四

美濃の発掘品 中川 千咲 博物館 三

越中瀬戸窯 藤岡 了一 ミニエ 三

古九谷秘帳 館林唐一郎 日本美術 一七五

「古書記年銘物」への一追求 保田 憲司 陶 説 一

木米瓜文様鉢 満岡 忠成 大和文華 九

楽の二代目 紫松 居 日本美術 一七

三田青磁窯略史上・下―欣賞古堂龍祐を中心として 保田 憲司 陶 説 三、六

倉崎権兵衛一・二 桑原 雙蛙 陶 説 三、三

古萩の鑑賞 有 声 庵 日本美術 三三

萩焼開祖李勻光の問題 桂 又三郎 日本美術 一六

梁瀬焼 太田 和堂 陶 説 六

唐津の北鮮系と南鮮系 今枝 半庵 日本美術 一六

絵唐津について 立花 押尾 陶 説 一六

刷毛目唐津 佐藤 進三 陶 説 一八〇

唐津茶入の一考察 満岡 忠成 大和文華 二〇

古伊万里松竹梅文大壺 岡田 喜一 陶 説 六

古薩摩の磨擦の二作品の発見に就て 陶 説 六

朝鮮 朝鮮 陶 説 六

朝鮮の陶磁器 土井 浜一 ミニエ 三

高麗古陶概説 G・M・ゴム パーツ 陶 説 八

高麗陶磁 野守 健 陶 説 八

我国の遺跡出土の高麗陶磁 小山富士夫 陶 説 八

高麗茶碗 佐藤 進三 陶 説 八

高麗青磁の茶器 満岡 忠成 陶 説 八

三島の銘 小山富士夫 墨 美 六

井戸茶盤を載る 日本美術 一七五

李朝鉄砂葡萄絵壺 満岡 忠成 大和文華 二

中国・其他 中国の製陶技術 木村 康一 天工開物の研究 一―三

東洋陶磁の蒐集 J・G・フイ ガス 博物館 三

中国陶磁と茶道界 竹内 逸 ニュース 三

陶説について―一―三 尾崎 洵盛 陶 説 一―三

中国の製陶技術 尾崎 洵盛 陶 説 一―三

化粧について―中国陶磁を中心に 加藤土師萌 ミニエ 三

中国古陶磁の文様 中川 千咲 ミニエ 三

中国の青磁 杉村 丁 ミニエ 三

歎美抄―青磁雑感 矢代 幸雄 大和文華 三

粉紅青磁について―コックス氏の質問に答う― 米内山庸夫 陶 説 二

陶磁用語解説 林屋 晴三 ミニエ 三

中国古陶器 増田 精一 ミニエ 三

彩陶と灰陶 八幡 一郎 陶 説 二

黒陶 藤田 国雄 陶 説 二

白陶 梅原 末治 大和文華 二〇

中国上代の二三の古陶―古明器と施釉の器 原田 淑人 ミニエ 三

漢六朝の明器 原田 淑人 ミニエ 三

馬に乗らんとする男子像 林屋 晴三 考古学雑誌 一ノ一

唐代の陶藝 尾崎 洵盛 ミニエ 三

宋元の陶器 尾崎 洵盛 ミニエ 三

宋瓷名品展について 広田不孤斎 日本美術 一八三

紅樓夢の汝窯美人瓶について 谷田 関次 大和文華 二〇

嘯變天目の研究
小山富士夫
古文化財
六

緑釉黒牡丹文劃花瓶
とその類品
山崎 一雄
之科学
九

南宋官窯の研究―中
間報告八―一九
米内山庸夫
日本美術
工藝
二七―
二八

元末明初の染附―
三―白江、コックス
内藤 匡
一五―
一七

両氏及ポーブ氏の研
究
田中作太郎
ミューゼ
二五

明清の陶磁
洪武の染付
成化の陶磁一・二
米内山庸夫
陶 説
六
久志 卓真
二二

嘉靖彩瓷魚藻文方盤
谷田 闕次
大和文華
二

呉須赤絵の産地―海
外における東洋陶磁
の研究―
内藤 匡
日本美術
工藝
二六

清朝陶磁
久志 卓真
陶 説
九

遼三彩
田中作太郎
ミューゼ
二六

緑釉注瓶 解説
久志 卓真
陶 説
九

金 工

日本美術史講座
技法の著しい発達―
江戸時代の金工
蔵田 蔵
博物館
七五

天工開物の製錬・鋳
造技術
吉田 光邦
天工開物
の研究
二

美術用語(金工)
蔵田 蔵
ミューゼ
二四

一群の同範鑄造銅鐸
の絵画について
梅原 末治
上代文化
二四

谷文晁旧蔵の銅鐸に
ついて
シ
人類学雜
誌
三〇―
三一

坂井郡雄島村米ヶ脇
出土の新銅鐸につい
て
印収 邦雄
福井県文
化財調査
報告
一

大阪府高槻市出土の
銅鐸
曾野 寿彦
東大教養
学部人文
学科紀要
二

銅製宝塔 解説 奈
良原神社蔵
蔵田 蔵
ミューゼ
三

馨について
立田 三朗
アム
七

志摩半島八代神社の
鏡
矢島 恭介
シ
六

古芦屋作十一面観音
香炉釜について 解
説 細見良氏蔵
長野 埜志 国 華
七三

釜師久恰について
田村 吉永
史迹と美
三〇

大三島の甲冑につい
て
尾崎 元春
アム
二四

大三島大山祇神社の
甲冑
シ
博物館
充

用語解説(刀劍)
沼田 鎌次
アム
三

一文字吉房
佐藤 貫一
シ
七

蓮花文金鼓
蔵田 蔵
シ
三

元興寺の朝鮮鐘
田村 吉永
史迹と美
三九

殷代青銅器研究の動
向
佐藤 武敏
古代学
二〇―
二一

殷商青銅器編年の諸
問題
水野 清一 東方学報
京都三
三

宝鶏鬪鶏台の諸器に
ついて―中国古銅器
聚成への一つの試み
岡田芳三郎
シ
三

鉞と矛について―殷
商青銅利器に関する
一研究
岡崎 敬
シ
三

殷周銅器に現れる龍
について 附論・殷
周銅器における動物
表現形式二三につい
て
林 巳奈夫
シ
三

殷代技術小記
吉田 光邦
シ
三

中国古代の宝飾帶鈎
梅原 末治 大和文華
二

中国古鏡銘文の類別
的研究
樋口 隆康
東方学
七

海獸葡萄鏡
蔵田 蔵
アム
六

古香炉詩
吉川幸次郎
大和文華
三

木 漆 工
溝口 三郎
博物館
三

日本美術史講座
生活につながる美―
江戸時代の漆工・上
飾りたてた細工美―
江戸時代の漆工・下
飾りたてた細工美―
美術用語 研出時絵
シ
ミューゼ
三

玉虫厨子の場合―日
本美術におよぼした
朝鮮の影響
榎本 杜人
シ
三

玉虫厨子の Popor-
tion について―
Dynamic symme-
try の現象的研究
高田 克巳
建築学会
研究報告
三

千体寺の厨子 解説
守田 公夫
大和文化
研究
一〇―
一一

当麻寺の黒漆螺鈿玳
瑁念珠宮
吉野 富雄
大和文華
二〇

黒漆螺鈿洲浜鶴千鳥
文硯箱
シ
三

片輪車蒔絵螺鈿手箱
吉岡 道隆
アム
三

花鳥沈金手箱
岡田 譲
シ
三

名鞍譜
シ
三

沃懸地獅子螺鈿鞍
溝口 三郎
シ
三

三月堂の所謂天蓋は
天井の倒蓮華ならん
飯田須賀斯
建築学会
研究報告
三

室生寺弥勒堂発見の
剎塔
中村 春壽
大和文
化研究
一〇―
一一

木画考
木内 武男
アム
三

染織工

日本美術史講座
江戸時代の染織をつ
ちかかすもの―江戸時
代の染織―
山辺 知行 博物館 七

江戸染織の主流をな
すもの―江戸時代の
染織―
守田 公夫 艸 美 三

桃山時代の刺繍
天寿国繡帳に就て
明石 染人 シ

長岳寺蔵阿弥陀繡像
について
西村 兵部 シ

阿弥陀如来繡像 解
長岳寺蔵
町野 とく シ

正倉院宝物刺繍樹皮
色袈裟の縫に就いて
町野 とく シ

正倉院法隆寺の古裂
の塵粉から蘚類を拾
う
山辺 知行 古文化財 五

装束裂九重のもみぢ
日野西資孝 アム 元

黒川能の装束
山辺 知行 羽陽文化 三

蜀江狩衣と光狩衣―
黒川能装束調査記
アム ミニューゼ 三

茶の湯と名物裂
明石 染人 淡 交 五五、六
五五、六

名物裂解説
興福寺金欄・蜀江錦(法隆寺裂)・雲龍文有栖川錦・
大鶏頭金欄・なでしこ手(金欄)・日野漢東・覆盆子
手錦・望月間道・赤地間道・宮内間道・五色漢東織
糸屋金欄

上代染色に関する一
疑問
前田 千寸 古文化財 六

丁字染余言
日本歴史 査

江戸小紋
用語解説友禪染・上
用語解説友禪染・上
北村 哲郎 美術手帖 九

紅花の話 附紅製法
の事
岩淵 誌 羽陽文化 六

紅花雑考
川崎 浩良 シ

最上紅花史放談
今田 信一 シ

天工開物の機織技術
太田 英蔵 天工開物
の研究

支那の古代染色と本
草学
上村 六郎 古文化 一ノ一

中央アジア出土裂に
ついて
山辺 知行 アム 三

古代ペルーと正倉院
の羅の織技上比較
山辺 知行 アム 三

更紗に関する賞書二
北村 哲郎 艸 美 二

硝子・玉工
朝比奈貞一 古文化財 五

中尊寺ガラスの研究
と日本の古代ガラス
について
小田 幸子 古文化財 五

唐招提寺白瑠璃舍利
瓶並びに伝香寺瑠璃
瑠璃舍利壺について
山崎 文雄 六

β線後方散乱による
ガラスの鉛含量測定
斎藤 精宏 六

安閑天皇の玉腕
井上 靖 藝術新潮 四ノ一

珠玉考
敷内 清 天工開物
の研究

其 他
岸辺 成雄 考古学雑 元ノ二

筑後の淵源 上
江馬 務 淡 交 元

京洛人形行脚―節句
に因んで―
江馬 務 淡 交 元

日本郷土玩具の評価
加藤 増夫 日本美術 一七

正月の遊戯具
カルタ
貝合せ
双六
岡田 譲 日本美術 一七

春の床の間入趣
近藤市太郎
日野西資孝
岡田 譲 日本美術 一七

北日本の古代文化
斎藤 忠 古代学 二ノ二

宮城県牡鹿郡万石浦
湾を中心とした沼津
石巻地方の史前文化
に就いて
杉山 寿 人類学雑 査ノ二

北浦をめぐる古き代
海老原 幸 考古学 三

東狄考古記
甲野 勇 西郊文化 五

東九州先史文化断想
富来 隆 日本歴史 五

古代対馬文化の一考
足田 通夫 シ 五

対馬の考古学調査の
一断面
三木 文雄 アム 三

今夏の考古調査から
老岐考古調査記
藤田 国雄 博物館 ニノ一

対馬の考古調査
増田 精一 博物館 ニノ一

薩南諸島の考古学的
調査―第一報―種ヶ
島北部・屋久島 淡
に於ける調査
国分 直一 考古学雑 元ノ一

日本における石器文
化の階梯について
杉原 荘介 シ 元ノ二

考古学関係

日本

常北地方石器時代概説	伊東 重敏	考古学 二	善福寺川神田上水流域の縄文式文化早期遺跡	江坂 輝弥	西郊文化 四	千葉縣龍角寺古墳調査概報	玉口 時雄	古代 三
北信・野尻湖底発見の無土器文化(予報)	菅沢 長介	考古学 雜 元ノ二	久ヶ原遺跡に於ける弥生式竈穴調査	菊地 義次	古代 九	多摩川ベリ古墳発掘	久保 哲三	博物館 ニュース 充
縄文文化の特質	江坂 輝弥	史 学 元ノ三・四	海師洞窟―三浦半島に於ける弥生式遺跡	赤星 直忠	神奈川縣文化財調査報告 二〇	武蔵瀬戸岡における一奈良時代墳墓	大塚 初重	駿台史学 三
甲斐弥生式文化編年に関する二三の覚書	山本寿々雄	古代学 研 八	下高井地方先史遺跡	小野 勝年	長野縣埋蔵文化財報告 一	成宗富士塚と出土の壺について	荻原 弘道	西郊文化 五
甲斐曾根丘陵一円の弥生式文化	直良 信夫	西郊文化 四	高丘村弥生式遺跡	坪井 清足	大和文化 一ノ一、二	武生市岡本茶臼山第一号墳の調査	清水 潤三	福井縣文化財調査報告 一
赤土の中の遺跡はいつ頃のものだろうか	須見 保男	上代文化 二四	大和の考古学遺跡 一・二	末永 雅雄	研究 一ノ一、二	滋賀県東浅井郡湯田村雲雀山古墳郡調査	藤原 光輝	大坂市立大歴史学教室紀要 一
北海道根室半島トサムボロオホツク式遺跡調査報告	江坂 輝弥	古代 三	常陸国川尻貝塚	野口 義麿	上代文化 二四	歌姫猫塚古墳調査概報	中村 春寿	大和文化 一ノ一
青森県下北半島稲崎遺跡調査報告	西村 正衛	二〇	牛久沼沿岸貝塚踏査記	中村 盛吉	考古学 二	玉島村谷口古墳	梅原 末治	佐賀縣文化財調査報告 二
青森県森田村附近の遺跡調査概報	核井 清彦	二	相模平坂貝塚	岡本 勇	駿台史学 三	葉山尻支石墓調査概報	松尾 禎作	考古学 雜 元ノ一
盛岡市大館堤遺跡調査報告	小岩 末治	二	備内新邸貝塚―中部瀬戸内地方中期弥生式文化の一つの様相	近藤 義郎	古代学 研 八	阿豆那比考―合葬論 第一	小林 行雄	古文化 一ノ一
吹浦の石器時代遺跡	柏倉 亮吉	羽陽文化 六	鹿兒島縣熊毛郡中種子屋町久津若浜	盛岡 尚孝	二	合葬墓	武下 嘉宏	日本歴史 宅 三五
吹上遺跡の再発見	佐藤 次男	考古学 二	古墳方位考	斎藤 忠	考古学 雜 元ノ二	磐境の信仰と遺跡	大場 馨雄	史迹と美術 三
杉並発見古代遺跡地名表	荻原 弘道	西郊文化 一	高塚古墳の源流	鏡山 猛	史 淵 天	磨製石剣―石製模造品考序説 1	佐野 大和	国学院 雜 西ノ一
杉並区新町発見の石器時代遺跡に就いて上・下	大場 馨雄	一、二	石蓋土壙に関する覚書	菊池 清彦	古代 二	但馬国城崎郡新田村塩津出土の石剣について	藤原 光輝	古代学 研 八
東京西郊発見の所謂ブレ縄文の遺跡	滝沢 浩	四	岩手県鬼柳村古墓群調査報告	後藤 守一	考古学 雜 元ノ一	讃岐石包丁資料	藤井 直正	二
杉並区西田町戸谷遺跡調査報告	地歴研究部	五	上野国愛宕塚	後藤 守一	考古学 雜 元ノ一	原始の美―原始陶土器によせて	樋口 清之	淡 交 六
杉並区松ノ木中学校校庭の土師式竈穴遺跡	荻原 弘道	三	足利市本城両崖山東麓古墳調査報告	滝口 輝政	古代 二〇	Relations of the Shirahama and Fukukizawa Ceramic to the Comberamic	樋口 清之	淡 交 六
上代集落の形態―方南町峰遺跡の場合	荻原 弘道	二	上総大多喜の古墳	滝口 宏	九	千葉縣君津郡三つ作貝塚発見の早期縄文式土器	西村 正衛	古代 三
杉並区済美台発見の集落環溝址	荻原 健	西郊文化 五	千葉縣香取郡昭栄村地蔵原第一号古墳	大川 清	二			
古代神田川流域に於ける農業集村の位置	荻原 弘道	四	千葉縣印旛郡阿蘇村栗谷古墳	大川 清	二			

秩父出土の尖底土器 小林 茂 古代 二〇
 下高井戸三丁目塚山の土器について 江坂 輝弥 西郊文化 三
 南九州の押型土器 寺師 見国 古代学 二ノ二
 弥生式土器基本形態の地方差 佐藤 次男 考古学 三
 弥生式土器における所謂特徴ある繩文について 〃 〃 〃
 福島県天王山遺跡の弥生式土器—東日本弥生式文化の性格 坪井 清足 史 林 二ノ一
 常陸地方弥生土器に關する系統と時差の問題 伊東 重敏 考古学 三
 杉並区松ノ木出土の弥生式大甕について 萩原 弘道 西郊文化 一
 用語解説須恵(祝部) 三木 文雄 アム 元
 矩形埴輪考 下津谷達雄 上代文化 二
 天冠をつけた男子埴輪 村井 富雄 ミニエ 三〇
 豊中市出土の女子埴輪 山本 博 考古学雑誌 元ノ一
 善福寺池附近にて採集の土偶頭部 篠遠 喜彦 西郊文化 六
 甕棺累考二—遠賀川式甕棺とその源流— 鏡山 猛 史 淵 五
 信濃国間山発見の合口甕棺 桐原 健 上代文化 二
 土師式合口甕棺の一例—近江坂本蓮華院遺跡について— 景山 春樹 〃 〃
 東背振村三津の石蓋甕棺と内行花紋明光鏡 七田 忠志 佐賀県文化財調査報告 二
 京都府久世郡城陽町青谷出土の陶棺について 小江 慶雄 京都学藝大学々報 Aノ二

静岡県発見の銅鏃 中野 国雄 考古学雑誌 元ノ一
 新たに発見された東九州の銅鏃銅戈 賀川 光夫 〃 〃 元ノ二
 岡山出土の一銙帶 増田 精一 博物館 克
 紀伊国発見の一鹿角製品 伊勢田 進 考古学雑誌 元ノ一
 杉並区立教學園内発見の玦状耳飾 吉田 格 西郊文化 三
 河内国分出土の異形碧玉製品 梅原 末治 考古学雑誌 元ノ一

朝鮮、中国、其他
 朝鮮半島における支石墓の在り方について—支石墓資料の検討・整理と支石墓集成表の作成— 三上 次男 史学雑誌 空ノ四
 慶州における壺杆塚の発掘 上田 宏範 古代学 二ノ二
 韓国慶北・慶州・九政里出土遺物について 金 元龍 考古学雑誌 元ノ二
 「慶北・慶州・九政里出土遺物」あとがき 榎本 杜人 〃 〃
 朝鮮石器時代の「すりらす」 有光 教一 史 林 五ノ四
 中国科学院最近の発掘 藤田 国雄 博物館 究
 齐家期について—中国先史時代の一研究— A Wealth Motif on a Han Dynasty Tomb Brick. R. C. Rudolph 古代学 二ノ三
 中国の古代土器 杉村 丁 博物館 七
 中国の古代の戦車 増田 精一 ミニエ 三
 古代中国の尺度について 関野 雄 東洋学報 四 三ノ三

甲骨文断代研究法の再検討—董氏の文武丁時代卜辞を中心として— 伊藤 道治 東方学報 京都三
 スキタイの起源問題 角田 文衛 古代学 二ノ一
 ファティヤノフゾオ文化の一樣相 高橋 小枝 〃 〃
 バクトラの調査 梅津 和郎 〃 〃 二ノ三
 ウラジオストック東郊パザルギン貝塚について 角田 文衛 〃 〃 二ノ二
 東亜の有肩石斧 伊東 信雄 〃 〃
 エトロフ島の土器 滝口 宏 古代 二
 Ein Paar Erime-Kornelia rungen an M. I. Kanokogi Rostowzew 古代学 二ノ二

歴史關係・其他
 密教と羽陽文化 川崎 浩良 羽陽文化 二〇
 中尊寺藤原氏遺体のミイラの成生について 森 八郎 古文化財之科学 五
 多摩古代文化と帰化人 大場 磐雄 西郊文化 六
 高僧延鎮と丹生川上 森口奈良吉 大和文化 一ノ二
 南島部野の史蹟と伝説 竹村 俊則 史迹と美術 三六
 北山の氷室特集 竹村 俊則 〃 〃 三三
 北山水室紀行 竹村 俊則 〃 〃
 氷室社の拜殿 川勝政太郎 〃 〃
 大和遺文一・二 堀池春峰編 大和文化 一ノ二
 三輪私解 黒田 源次 〃 〃 一ノ一
 吉野川味稻・柘媛の伝承と流水生誕説話 池田 源太 〃 〃 一ノ二

藝術体系における茶の湯の位置
総合藝術としての茶の湯
茶道に於ける「好み」について
茶道と基督精神
宗珠の片影
利休と芭蕉
利休好みといふことなど
利休居士の禅境
キリンタン茶人伝
高山右近
小西行長
戦国大名の教養一筒
井順慶と金春能

谷川 徹三 淡交 五
W・ポール デインガー シ
千 あさ子 美 学 一
牧野 虎次 淡 交 二
芳賀幸四郎 陶 説 三
保田与重郎 淡 交 三
久松 真一 シ 空
柴山 全慶 シ 空
西村 貞 シ 美、毛
永島福太郎 大和文華 二
壹一六

現代 美術単行図書

総説

藝術論
藝術論 (藝術の転換期の文明)
藝術論 (フロイド選集)
藝術と革命 (岩波文庫)
藝術の運命 (フォルミカ選書)
藝術とは何か (アテネ文庫)

マルクス・エンゲルス 青木書店
川口 浩 訳
エリック・ギル 創元社
増野正衛 訳
フロイド 日本教文社
高橋義孝 訳
ワグネル 岩波書店
北村義男 訳
ウエイドレ 創文社
深瀬其宣 訳
井島 勉 弘文堂

擬宝珠名称考一
室生寺新発見の石茶臼
武蔵三部製紙業に関する若干の問題
新羅九州五京攷
古代東亜人文史上における船
股代産業に関する若干の問題
竹管文に関する試論
古代研究・満洲地区における支石墓社会の推移と高句麗政権の成立

久保 常晴 立正史学 刊三(復)
川勝政太郎 史迹と美術 三三
丸子 亘 立正史学 刊三(復)
藤田 亮策 朝鮮学報 五
松本 信広 史 潮 四
天野元之助 東方学報 京都三
麻生 優 上代文化 二
三上 次男 東大教養学部人文科学紀要 二

藝術学小辞典
ヒューマニズムと藝術哲学
民衆の藝術 (岩波文庫)
無の藝術
美術概論
近世美学史 (創元文庫)
抽象と感情移入 (岩波文庫)
パロック藝術の精神

高沖 陽造 厚文社
T・E・ヒュム 宝文館
長谷川 鈺平 創元社
ウイリアム・モリス 岩波書店
中橋一夫 訳
山口 諭助 理想社
森口 多里 東峰書房
デイルタイ 創元社
徳永郁介 訳
ヴォーリン 岩波書店
草薙正夫 訳
寺田 透 東京大学出版会

様式の歴史 (岩波写真文庫)

西洋美術史

ポムペイの美術

今日の美術と明日の美術

アヴェマリア

世界美術全集

1巻 原始

2巻 古代エジプト

3巻 インド古代、中国、東南アジア

4巻 中世、明、清

5巻 少年美術館 4巻 5巻 6巻

美術カード

西洋彫刻全期

日本絵画現代

日本彫刻全期

日本建築全期

西洋美術館めぐり 下巻

近代美術 (岩波写真文庫)

京都大学美術史研究 都出版社

原 浩三 作品社

滝口 修造 読売新聞社

矢崎 美盛 岩波書店

安井、梅原 岩波書店

沢柳編

美術出版社

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

絵画

システイナ礼拝堂 (岩波写真文庫)
ミケランジェロの生涯 (ロマン・ロラン文庫)
セザンヌ (創元文庫)
セザンヌの構図
美わしき野生—ゴッホの私記—
ヴァン・ゴッホ

ロマン・ロラン 岩波書店
ミケランジェロの生涯 岩波書店
セザンヌ (創元文庫) 創元社
セザンヌの構図 美術出版社
美わしき野生—ゴッホの私記— 新潮社
ヴァン・ゴッホ 式場隆三郎 編著

ゴッホ巡礼
ゴッホ(岩波写真文庫)
C O C H I 1・2・3・8
ドオミエ(青木文庫)
セガンチニ(信友文庫)
夢のかげに(シャガール
自伝)
ブラック画集

式場隆三郎
岩波書店
学風書院
美術出版社

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

須山計一編
横井 弘三
シャガール
中山省三訳
ジョルジュ
・ルオー
植村鷹千代
訳

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

河北 倫明
大久保泰編
奥平英雄編
山田 邦祐
美術出版社

新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

ルオー展画集
ルオー デッサン集
ピカソ(青木文庫)
青春ピカソ
レービン(青木文庫)
梅原龍三郎―ベニスとパ
リ―
安井曾太郎素描淡彩集
安井・梅原・ルノワール
・ゴッホ
梅原龍三郎 1・2
中西利雄作品集
近代絵画(岩波新書)―印
象派から現代まで―
英国の絵画
ヨーロッパの現代美術
今日の絵画
近代絵画とは何か

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

求 竜 堂
読売新聞社
吉井 忠編
岡本 太郎
大月源二編
求竜堂出版部

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

矢代 幸雄
美術出版社
中西利雄作
品集刊行会
福島繁太郎
岡本謙次郎
土方 定一
日・リード
植村鷹千代
A・日・パー
ル著
内田園生訳
矢崎 美盛
中村 研一

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

求 竜 堂
読売新聞社
吉井 忠編
岡本 太郎
大月源二編
求竜堂出版部

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

求 竜 堂
読売新聞社
吉井 忠編
岡本 太郎
大月源二編
求竜堂出版部

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

求 竜 堂
読売新聞社
吉井 忠編
岡本 太郎
大月源二編
求竜堂出版部

龍子画業二十五年 青龍
社とともに
改訂世界の名画1-6
現代世界美術全集1巻2
巻5巻

藤本韶三編
今泉 篤男
岡鹿之助編

新しい写生画の導き方
新しい図案構成の指導
新しい版画の導き方
新しい児童画の見方
創造する子供達
子どもの絵と教育
画の上手な描き方
俳画入門1-3
南画初歩

ユネスコ美術
教育連盟
美術出版社
北川 民次
内田 巖
赤松 柳史
矢野橋村指
導

新しい図案

美術出版社 美術出版社

YAMANA AYA O

山名 文夫

現代図案カット大成・新編増補

辻 克己 大同出版社

応用彩色図案集・新編増補

田中作太郎 京都書院

東西古陶名品集

京都染色美術協会

第三回京都染色美術協会展図録

推古書院

建築

西洋建築史図録

日本建築学会編 彰 国 社

ブルーノ・タウト

藤島亥治郎

グロピウス

蔵田 周忠

マッキントッシュ

神代雄一郎

ミース・ファン・デル・ローエ

山本 学治

ル・コルビジエ作品集

スタモ・ババダキ編 美術出版社

リチャード・ノイトラ作品集

国際建築協会編

モデュロール

コルビジエ

世界の現代建築 (全10集)

吉阪隆正訳

英和建築字典

猪野勇一・小池新一編

建築用語字典編纂委員会編

彰 国 社

其他

日本美術年鑑

美術研究所 東京文化財研究所

一九五三年版

平 凡 社

三年版

平 凡 社

私たちの生活百科事典第12巻 藝術

生活百科刊行会

国際写真情報別冊「秋の美術展」

国際情報社

パリ・ローマ・欧州カメラ紀行

阿部 徹雄 毎日新聞社

劉生絵日記 第3巻

岸田 劉生 龍 星 閣

画商の想い出(創元文庫) 上・下

ワオラール 創 元 社

本の美術

小山敬三訳 誠文堂新光社

恩地孝四郎

誠文堂新光社

東洋古美術単行図書

総説・総録

世界美術全集 1原始

平 凡 社

2011インド・東南アジア中国IV

平 凡 社

日本美術史

都 出 版 社

日本美術史要説

京大美学美術史研究室

解説日本美術史

久野 一夫 吉川弘文館

日本美術全集 1絵画上

持丸 一夫 乾 元 社

2. 絵画下・3. 彫刻・4. 工

福田 新生 株式会社

藝・5. 工芸・6. 建築庭園

東都文化交易株式会社

美術カド 8. 日本絵画

室町一江戸・10. 日本彫刻

全期・12. 日本工芸全期

文化史学会 飛 鳥 閣

日本美術史図版2・3

文化財保護委員会

日本名画名品集

金井 紫雲 推古書院

松竹梅之巻

岩波書店

陶藝・漆藝之巻

岩波書店

岩波写真文庫 華師寺・唐招提寺 美人画 写楽宗達

文化財保護委員会

国宝図録二

文化財協会

日本の顔

毎日新聞社

純現代風俗帖

木村 莊八 東峰書房

閑中忙人(隨筆集)

鍋井 克之 朝日新聞社

火の誓い(隨筆集)

河井寛次郎

藝々集 I

桜井猶司編 美術出版社

民家の庭

西村 貞 学風書院

藝文家墓所誌

結城 素明 学風書院

文化財の理解と鑑賞

文化財協会 新 光 閣

正倉院御物図録一七

国立博物館

鎌倉国宝館図録一

文化財保護委員会

校刊美術史料三四一四五

藤田経世編

文化財の理解と鑑賞一

文化財協会 新 光 閣

文化財の手引

文化財協会

わが国の文化財

安田 満

朝日新聞調査研究室報告要旨五三ノ一

黒板博士記 念会編

古文化財の保存と研究

吉川弘文館

宮城県の文化財

宮城県教育委員会

神奈川県の文化財(国宝及び重要文化財2)

神奈川県教育委員会

神奈川県文化財調査報告20

福井県教育委員会

文化財調査報告1

山梨県教育委員会

山梨県文化財

山梨県教育委員会

長野県文化財調査報告書1

長野県教育委員会

京都の新国宝1

京都市役所

奈良県総合文化調査報告書(吉野川流域・龍門地区)

島根県の文化財

広島県文化財のしおり

山口県文化財概要1

香川県文化財調査報告2

文化財調査報告5

福岡県内文化財一覽

佐賀県文化財調査報告2

奈良県教育委員会

島根県教育委員会

広島県教育委員会

山口県教育委員会

香川県教育委員会

高知県教育委員会

福岡県教育委員会

佐賀県教育委員会

書 蹟

書の歴史

書の歴史 中国篇

書の歴史 日本篇

書の古典 中国篇

書の古典 日本篇

書の鑑賞 中国篇

書の鑑賞 日本篇

古写経目録

日本写経綜覽

唐墨和墨図説

書道出版社

須羽 源一

春名 好重

森田 子龍

須羽 源一

森田 子龍

須羽 源一

春名 好重

須羽 源一

森田 子龍

外狩素心庵

美術出版社

野間 清六

創元社

大阪市立美術館

京大人文科学研究所

重要文化財智識寺本堂修理工事報告書

松本城国宝保存工事昭和二十五年実地報告書

重要文化財妙心寺小方丈修理工事報告書

重要文化財熊野神社本殿并拝殿修理報告書

民家の庭

天工開物の研究

日本の文様

東西古陶名品集

明代の染付と赤絵

釜一歴史と鑑賞

あしやの釜

江戸鋳師名譜

中国古鏡の研究

琉球染織名品集

日本史の黎明

日本考古図録

大昔の人の生活一瓜郷遺跡の発掘

姥山貝塚

伊場遺跡

島田川

同修理委員会

同工事事務所

京都府教育庁文化財保護課

同修理委員会

西村 貞

美術出版社

藪内 清編

守田 公夫

田中作太郎

日本陶磁協会

木下 桂風

長野 埜志

香取 秀真

駒井 和愛

明石 染人

中川 伊作

八幡 一郎

東京国立博物館編

和島 誠一

J.グロート

小野忠照・他

絵 画

絵の歴史 日本2

日本の絵画

日本中世絵画史

三十六人家集と久能寺経

吉利支丹洋画史序説

浮世絵

浮世絵の美

清長

秘版清長

春信

北斎

石濤・羅浮山図冊(西川寧解説)

憚南田と石濤

慶陵1

美術出版社

野間 清六

春山 武松

京都博物館

岡本 良知

中井宗太郎

吉田 映二

浮世絵研究

所編

吉田 映二

近藤市太郎

住友 寛一

田村 実造

小林 行雄

彫 刻

日本の彫刻Ⅱ鎌倉時代

日本の面

石仏

雲岡石窟 第三卷 第八卷 第九卷 第十卷

建築・庭園

日本建築辞彙

中国建築の日本建築に及ぼせる影響

法隆寺建築綜観

法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究一美術研究所研究報告

京都御所

重要文化財瑞巖寺本堂修理工事報告書

書道出版社

須羽 源一

春名 好重

森田 子龍

須羽 源一

森田 子龍

須羽 源一

春名 好重

須羽 源一

森田 子龍

外狩素心庵

美術出版社

野間 清六

創元社

大阪市立美術館

京大人文科学研究所

重要文化財智識寺本堂修理工事報告書

松本城国宝保存工事昭和二十五年実地報告書

重要文化財妙心寺小方丈修理工事報告書

重要文化財熊野神社本殿并拝殿修理報告書

民家の庭

天工開物の研究

日本の文様

東西古陶名品集

明代の染付と赤絵

釜一歴史と鑑賞

あしやの釜

江戸鋳師名譜

中国古鏡の研究

琉球染織名品集

日本史の黎明

日本考古図録

大昔の人の生活一瓜郷遺跡の発掘

姥山貝塚

伊場遺跡

島田川

同修理委員会

同工事事務所

京都府教育庁文化財保護課

同修理委員会

西村 貞

美術出版社

藪内 清編

守田 公夫

田中作太郎

日本陶磁協会

木下 桂風

長野 埜志

香取 秀真

駒井 和愛

明石 染人

中川 伊作

八幡 一郎

東京国立博物館編

和島 誠一

J.グロート

小野忠照・他

対馬(東方考古学叢刊
乙種第六冊)

水野 清一
樋口 隆康
岡崎 敬

東亜考古学会

大日本史料 二ノ八・三
ノ十一・六ノ三〇・九ノ
八・十二ノ三十五

史料編纂所

東京大学

日本古墳文化資料綜覧
第二分冊

斎藤 忠

吉川弘文館

大日本古記録 梅津政景
日記一・御堂関白記中・
新井白石日記下・庶軒
日記

岩波書店

岩波書店

山形県の古墳

柏倉 亮吉

山形県文化財
保護協会

大日本古文書 家わけ
十東寺文書五・幕末外交
関係文書二十四

東京大学

東京大学

日吉加瀬古墳(白山古墳
第六天古墳調査報告)

柴田 常恵
森 貞成

三田史学会

史料綜覧 十一・十二

東京大学

東京大学

横須賀大塚古墳

斎藤 忠

神奈川県教育
委員会

大日本近世史料 上田藩
村明細帳上・中

東京大学

東京大学

小田原市久野諏訪原古墳
調査報告

吉田章二郎
市川健二郎

小田原市教育
委員会

平安遺文 四

東京大学

東京大学

千種(新潟県文化財報告
書1考古編)

新潟県教育委
員会

新潟県教育委
員会

東大寺遺文 六

仙台市

仙台市

長野県埋蔵文化発掘調査
報告1

長野県教育委
員会

長野県教育委
員会

堀池 春峰

仙台市

仙台市

静岡賤機山古墳

後藤 守一
斎藤 忠

静岡市教育委
員会

河内黒姫山古墳の研究
(大阪府文化財調査報告
1)

大阪府教育委
員会

大阪府教育委
員会

金山古墳および大籠古墳
の調査(大阪府文化財調
査報告2)

小林 行雄
橋崎 彰一

古代学研究会

津山市
文化財保護委
員会

津山市

津山市

カトンボ山古墳の研究

佐良山古墳群の研究

大湯町環状列石(埋蔵文
化財発掘調査報告2)

縄文土器のはなし

甲野 勇
世 界

矢鳥書房

東南亜細亜民族学先史学
研究二

鹿野 忠雄

鹿野 忠雄

鹿野 忠雄

鹿野 忠雄

鹿野 忠雄

世界歴史事典14-19

日本文化史 別録1-4

中世文化の基調

辻 善之助
林屋辰三郎

平 凡 社

春秋社
東大出版会

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

歴史関係・其他

附
録

便

覽

(昭和二十九年一〇月現在)

最近、電話局の新設、編成替え等が多く、記載電話の局名、番号に尚多少変動があることと思ひます。御了承下さい。

美術関係法規

文化財保護法(昭和二十五年五月三十日 法律第二百十号)

沿革

昭和二十六年二月二十四日法律第一八号、二七年七月三十一日第二七二号、二八年八月一日第一九四号、一五日第二一三一号、二九年五月二十九日第一三一号改正

文化財保護法をここに公布する。

文化財保護法

目次

第一章 総則(第一条―第四条)

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則(第五条―第十五条)

第二節 事務局(第十六条―第十九条)

第三節 附属機関及び事務局出張所(第二十条―第二十四条)

第四節 職員(第二十五条―第二十六条)

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財(第二十七条―第五十六条)

第一款 指定(第二十七条―第二十九条)

第二款 管理(第三十条―第三十条)

第三款 保護(第三十四条の二―第四十七条)

第四款 公開(第四十七条の二―第五十三条)

第五款 調査(第五十四条・第五十五条)

美術関係法規

第六款 雑則(第五十六条)

第二節 重要文化財以外の有形文化財(第五十六条の二)

第三章の二 無形文化財(第五十六条の三―第五十六条の九)

第三章の三 民俗資料(第五十六条の十―第五十六条の十八)

第四章 埋蔵文化財(第五十七条―第六十八条)

第五章 史跡名勝天然記念物(第六十九条―第八十四条)

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立(第八十五条―第八十五条の九)

第二節 国に関する特例(第八十六条―第九十七条)

第三節 地方公共団体及び教育委員会(第九十八条―第一百五十二条)

第七章 罰則(第一百六条―第一百二十二条)

附則(第一百三十三條―第一百三十三條)

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、左に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的財産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの及び考古資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的財産でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件でわが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗資料」という。)

四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡でわが国にとつて歴史上又は芸術上価値の高いもの、庭園、橋りょう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地でわが国にとつて芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)、及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む)でわが国にとつて芸術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

3 この法律の規定(第二十一条第二項第一号、第二十七条から第二十九条まで、第三十七条、第五十五条第一項第四号、第八十八条、第九十四条及び第一百五十五条の規定を除く。)中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第二十一条第二項第十五号及び第十六号、第六十九条、第七十条、第七十一条、第七十七条、第八十三条第一項第四号、第八十八条並びに第九十四条の規定を除く。)中

「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用に努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当つて関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

第二章 文化財保護委員会

第一節 総則

(設置)

第五条 国家行政組織法(昭和二十三年法律第二十号)第三条第二項の規定に基いて、文部省の外局として、文化財保護委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2 委員会の委員は、独立してその職権

を行ふ。

(任務)

第六条 委員会は、文化財の保存及び活
用、文化財に関する調査研究その他第
一条の目的を達成するため必要な事務
を行うことを任務とする。

(権限)

第七条 委員会は、その所掌事務を遂行

するため、左に掲げる権限を有する。

但し、その権限の行使は、法律(これ
に基く命令を含む。)に従つてなされな
ければならない。

一 予算の範囲内で、所掌事務の遂行

に必要な支出負担行為をすること。

二 収入金を徴収し、所掌事務の遂行

に必要な支払をすること。

三 所掌事務の遂行に直接必要な事務

所等の施設を設置し、及び管理する

こと。

四 所掌事務の遂行に直接必要な業務

用資材、図書その他研究用資材、事

務用品等を調達すること。

五 職員の内免及び賞罰を行い、その

他職員の人事を管理すること。

六 職員の厚生及び保健のため必要な

施設をなし、及び管理すること。

七 所掌事務の監察を行い、法令の定

めるところに従い、必要な措置をと

ること。

八 所掌事務の周知宣伝を行うこと。

九 委員会の公印を制定すること。

十 広く利用に供する適当な記録を整
備すること。

十一 所掌事務に係る公益法人につい

て許可若しくは認可を与え、又はそ

の許可を取り消すこと。

十二 所掌事務に関する国庫支出金を

割り当て、配分すること。

十三 所掌事務に関する物資の確保に

ついて援助すること。

十四 所掌事務に関する統計調査の資

料及び結果を収集し、解釈し、及び

刊行頒布すること。

十五 所掌事務に関する国家的又は国

際的関心のある題目について会議、

研究会、討論会等を主催するこ

と。

十六 文化財の保護に関する法令案を

作成すること。

十七 前各号に掲げるものの外、法律

(これに基く命令を含む。)に基き委

員会に属せしめられた権限

委員会は、その権限の行使に当つ

て、法律(法律に基く命令を含む。)に

別段の定がある場合を除いては、行政

上及び運営上の監督を行わないもの

とする。

(構成)

第八条 委員会は、五人の委員をもつて

組織する。

(委員の任命及び欠格事由)

第九条 委員は、文化に関し高い識見を

有する者のうちから両議院の同意を経

て、文部大臣が任命する。

2 左の各号の一に該当する者は、委員
となることができない。
一 禁治産者若しくは準禁治産者又は

破産者で復権を得ない者

二 禁こ以上の刑に処せられた者

3 委員は、そのうち三人以上が同一政

党に属する者となることとなつてはな

らない。

4 委員(委員長である委員を除く。)は、

非常勤とする。

(委員の任期)

第十条 委員の任期は、三年とする。但

し、補欠の委員は、前任者の残任期間

在任する。

2 委員は、再任されることが出来る。

3 第一項の規定にかかわらず委員は、

国会の閉会又は衆議院の解散の場合に

任期が満了したときは、その後最初に

召集された国会において両議院の同意

を経て文部大臣が委員を任命するまで

の間、なお在任するものとする。

(委員の失職及び罷免)

第十一条 委員は、第九条第二項各号の

一に該当するに至つた場合及び既に委

員中二人が所属している政党にあらた

に所属するに至つた場合においては、

その職を失ふ。

2 文部大臣は、委員が心身の故障のた

め職務の執行ができないと認める場合

又は委員に職務上の義務違反その他委

員たるに適しない行為があると認める

場合においては、両議院の同意を経

て、これを罷免することができる。

3 文部大臣は、両議院の同意を経て、

左に掲げる委員を罷免する。
一 委員中何人も所属していなかつた
一 政党にあらたに三人以上の委員

が所属するに至つた場合、これらの

者のうち二人をこえる員数の委員

二 委員中一人が既に所属している政

党にあらたに二人以上の委員が所属

するに至つた場合、これらの者のう

ち一人をこえる員数の委員

4 両議院は、前項各号に規定する事実

があると認めるときは、同項各号の規

定により罷免すべき員数の委員の罷免

の同意を与えるべきものとする。

5 国会の閉会又は衆議院の解散のた

め、第二項又は第三項の規定による罷

免につき両議院の同意を経ることがで

きないときは、その後最初に召集され

た国会において両議院の承認を得れば

足りる。

(委員長)

第十二条 委員会に委員長を置く。委員

長は、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を

代表する。

3 委員会は、委員長に事故があるこ

き、又は委員長が欠けたときにその職

務を代理する委員を、あらかじめ、定

めて置かなければならない。

(委員の給与)

第十三条 委員長及び委員は、別に法律

の定めるところにより相当額の給与を

受ける。

(会議)

第十四条 委員会は、委員長が招集す

る。二人以上の委員から請求があると

きは、委員長は、委員会を招集しなけ

ればならない。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(文化財保護委員会規則)

第十五条 委員会は、法律（これに基づく政令を含む）で特に定める場合の外、その権限に属する事項を執行するため必要な手続について、文化財保護委員会規則（以下「委員会規則」という。）を定めることができる。

2 委員会規則は、官報で公布する。

第二節 事務局

(事務局)

第十六条 委員会に、その所掌事務を遂行するため、国家行政組織法第七条第四項の規定に従い、事務局を置く。

第十七条及び第十八条 削除

第十九条 委員会の事務局に事務局長及び次長一人を置く。

2 事務局長は、委員長の指揮監督を受けて事務局の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

3 次長は、事務局長を助け、事務局の事務を整理する。

第三節 附属機関及び事務局出張所

(附属機関)

第二十条 委員会の附属機関として、文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。

(文化財専門審議会)

美術関係法規

第二十一条 文化財専門審議会は、委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する専門的及び技術的事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認める事項を委員会に建議する。

2 委員会は、左に掲げる事項については、あらかじめ、文化財専門審議会に諮問しなければならない。

一 国宝又は重要文化財の指定及びその指定の解除

二 重要文化財の管理又は国宝の修理に関する命令

三 委員会による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行

四 重要文化財の現状変更又は輸出の許可

五 重要文化財の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

六 重要文化財の買取

七 重要無形文化財の指定及びその指定の解除

八 重要無形文化財の保持者の認定及びその認定の解除

九 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの選択

十 重要民俗資料の指定及びその指定の解除

十一 重要民俗資料の管理に関する命令

十二 重要民俗資料の買取

十三 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきもの選択

十四 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行

十五 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定及びその指定の解除

十六 史跡名勝天然記念物の仮指定の解除

十七 史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令

十八 委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置の施行

十九 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可

二十 史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令

二十一 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わない場合又は史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止に違反した場合の原状回復の命令

二十二 重要文化財の現状変更若しくは史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可又はその許可の取消の権限の都道府県の教育委員会への委任

3 委員会は、前項各号に掲げる事項の外、文化財の保存又は活用に関する専

門的又は技術的事項で重要と認めるものについては、文化財専門審議会に諮問するものとする。

4 前三項の規定により所掌する事項を分掌させるため、文化財専門審議会に分科会を置く。

5 文化財専門審議会及びその分科会の組織及び所掌事務並びに専門委員、臨時専門委員その他の職員については、他の法律（これに基づく命令を含む。）に特別の定がある場合を除く外、政令で定める。

(国立博物館)

第二十二條 国立博物館は、有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する事業を行う。

2 国立博物館の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京	国立博物館	東	京 都
京	都国立博物館	京	都 市
奈良	国立博物館	奈	良 市

3 国立博物館の内部組織は、委員会規則で定める。

(国立文化財研究所)

第二十三條 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。

2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名	称	位	置
東京国立文化財研究所		東京	都
奈良国立文化財研究所		奈良	市

3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は、委員会規則で定める。

(事務局出張所)

第二十四条 委員会は、その所掌事務の一部を分掌させるため、所要の地に事務局出張所を設置することができる。

その名称、位置、所掌事務の範囲は、委員会規則で定める。

第四節 職員

(職員)

第二十五条 委員会に置かれる職員の任免、昇任、懲戒その他人事管理に関する事務については、国家公務員法(昭和二十二年法律第二十号)及びその特例に関して規定する法律の定めるところによる。

(定員)

第二十六条 委員会に置かれる職員の定員は、別に法律で定める。

第三章 有形文化財

第一節 重要文化財

第一款 指定

(指定)

第二十七条 委員会は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2 委員会は、重要文化財のうち世界文

化の見地から価値の高いもので、たぐいがない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

(告示、通知及び指定書の交付)

第二十八条 前条の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

2 前条の規定による指定は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該国宝又は重要文化財の所有者に対しては、同項の規定による通知が当該所有者に到達した時からその効力を生ずる。

3 前条の規定による指定をしたときは、委員会は、当該国宝又は重要文化財の所有者に指定書を交付しなければならない。

4 指定書に記載すべき事項その他指定書に關し必要な事項は、委員会規則で定める。

5 第三項の規定により国宝の指定書の交付を受けたときは、所有者は、三十日以内に国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

(解除)

第二十九条 国宝又は重要文化財が国宝又は重要文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、国宝又は重要文化財の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該

国宝又は重要文化財の所有者に通知してする。

3 第一項の規定による指定の解除には、前条第二項の規定を準用する。

4 第二項の通知を受けたときは、所有者は、三十日以内に指定書を委員会に返付しなければならない。

5 第一項の規定により国宝の指定を解除した場合において当該有形文化財につき重要文化財の指定を解除しないときは、委員会は、直ちに重要文化財の指定書を所有者に交付しなければならない。

第二款 管理

(管理方法の指示)

第三十条 委員会は、重要文化財の所有者に対し、重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

(所有者の管理義務及び管理責任者)

第三十一条 重要文化財の所有者は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の指示に従い、重要文化財を管理しなければならない。

2 重要文化財の所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつばら自己に代り当該重要文化財の管理の責に任ずべき者(以下この節及び第六章において「管理責任者」という。)に選任することができる。

3 前項の規定により管理責任者を選任したときは、重要文化財の所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、当該管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。管理責任者を解任した場

合も同様とする。

4 管理責任者には、前条及び第一項の規定を準用する。

(所有者又は管理責任者の変更)

第三十二条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、旧所有者に対し交付された指定書を添えて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。

2 重要文化財の所有者は、管理責任者を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、新管理責任者と連署の上二十日以内に委員会に届け出なければならない。この場合には、前条第三項の規定は、適用しない。

3 重要文化財の所有者又は管理責任者は、その氏名若しくは名称又は住所を変更したときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、二十日以内に委員会に届け出なければならない。氏名若しくは名称又は住所の変更が重要文化財の所有者に係るときは、届出の際指定書を添えなければならない。

(管理団体による管理)

第三十二条の二 重要文化財につき、所有者が判明しない場合又は所有者若しくは管理責任者による管理が著しく困難若しくは不適當であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該重要文化財の保存のため必要

な管理（当該重要文化財の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該重要文化財の所有者の所有又は管理に属するものの管理を含む。）を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、当該重要文化財の所有者（所有者が判明しない場合を除く。）及び権原に基く占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、前項に規定する所有者、占有者及び地方公共団体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第二十八條第二項の規定を準用する。

5 重要文化財の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人（以下この節及び第六章において「管理団体」という。）が行う管理又はその管理のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

6 管理団体には、第三十條及び第三十一條第一項の規定を準用する。

第三十二條の三 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項及び第二十八條第二項の規定を準用する。

第三十二條の四 管理団体が行う管理に

要する費用は、この法律に特別の定めがある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理により所有者の受ける利益の限度において、管理に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

(滅失、き損等)

第三十三條 重要文化財の全部又は一部が滅失し、若しくはき損し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたときは、所有者（管理責任者又は管理団体がある場合は、その者）は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事実を知つた日から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(所在の変更)

第三十四條 重要文化財の所在の場所を変更しようとするときは、重要文化財の所有者（管理責任者又は管理団体がある場合は、その者）は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、且つ、指定書を添えて、所在の場所を変更しようとする日の二十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合には、届出を要せず、若しくは届出の際指定書の添附を要せず、又は委員会規則の定めるところにより所在の場所を変更した後届け出ることをもつて足りる。

第三十條 保護

(修理)

第三十四條の二 重要文化財の修理は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うものとする。

(管理団体による修理)

第三十四條の三 管理団体が修理を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その修理の方法及び時期について当該重要文化財の所有者（所有者が判明しない場合を除く。）及び権原に基く占有者の意見を聞かなければならない。

2 管理団体が修理を行う場合には、第三十二條の二第五項及び第三十二條の四の規定を準用する。

(管理又は修理の補助)

第三十五條 重要文化財の管理又は修理につき多額の経費を要し、重要文化財の所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別の事情がある場合には、政府は、その経費の一部に充てさせるため、重要文化財の所有者又は管理団体に対し補助金を交付することができる。

2 前項の補助金を交付する場合には、委員会は、その補助の条件として管理又は修理に関し必要な事項を指示することができる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、第一項の補助金を交付する重要文化財の管理又は修理について指揮監督することができる。

(管理に関する命令又は勧告)

第三十六條 重要文化財を管理する者が不適任なため又は管理が適当でないた

め重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の管理をする者の選任又は変更、管理方法の改善、防火施設その他の保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の規定による命令又は勧告に基いてする措置のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

3 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、前条第三項の規定を準用する。

(修理に関する命令又は勧告)

第三十七條 委員会は、国宝がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、国宝以外の重要文化財がき損している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、所有者又は管理団体に対し、その修理について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の規定による命令又は勧告に基いてする修理のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とする

4 前項の規定により国庫が費用の全部又は一部を負担する場合には、第三十五条第三項の規定を準用する。

(委員会による国宝の修理等の施行)

第三十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、国宝につき自ら修理を行い、又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をすることができらる。

一 所有者、管理責任者又は管理団体が前二条の規定による命令に従わなるとき。

二 国宝がき損している場合又は滅失し、き損し、若しくは盗み取られる虞がある場合において、所有者、管理責任者又は管理団体に修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないと思はれるとき。

2 前項の規定による修理又は措置をしようとするときは、委員会は、あらかじめ、所有者、管理責任者又は管理団体に對し、当該国宝の名称、修理又は措置の内容、着手の時期その他必要と認める事項を記載した令書を交付するとともに、権原に基く占有者にこれらの事項を通知しなければならない。

第三十九条 委員会は、前条第一項の規定による修理又は措置をするときは、その職員のうちから、当該修理又は措置の施行及び当該国宝の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

2 前項の規定により責に任ずべき者と

定められた者は、当該修理又は措置の施行に当たるときは、その身分を証明する証票を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な意見を十分に尊重しなければならない。

3 前条第一項の規定による修理又は措置の施行には、第三十二条の二第五項の規定を準用する。

第四十条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要する費用は、国庫の負担とする。

2 委員会は、委員会規則の定めるところにより、第三十八条第一項の規定による修理又は措置のために要した費用の一部を所有者(管理団体がある場合は、その者)から徴収することができる。但し、同条第一項第二号の場合には、修理又は措置を要するに至つた事由が所有者、管理責任者若しくは管理団体の責に歸すべきとき、又は所有者若しくは管理団体がその費用の一部を負担する能力があるときに限る。

3 前項の規定による徴収については、行政代執行法(昭和二十三年法律第四十三号)第五条から第七条までの規定を準用する。

第四十一条 第三十八条第一項の規定による修理又は措置によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

2 前項の規定による補償額に不服のある者は、訴をもつてその増額を請求することができる。但し、前項の補償の

決定の通知を受けた日から六箇月を経過したときは、この限りでない。

(補助等に係る重要文化財譲渡の場合の納付金)

第四十二条 国が修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置(以下この条において、「修理等」という。)につき第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第三十六条第二項、第三十七条第三項若しくは第四十条第一項の規定により費用を負担した重要文化財のその当時における所有者又はその相続人、受遺者若しくは受贈者(第二次以下の相続人、受遺者又は受贈者を含む。以下この条において同じ。)(以下この条において、「所有者等」という。)

は、補助又は費用負担に係る修理等が行われた後当該重要文化財を有償で譲り渡した場合においては、当該補助金又は負担金の額(第四十条第一項の規定による負担金については、同条第二項の規定により所有者から徴収した部分を控除した額をいう。以下この条において同じ。)(の合計額から当該修理等が行われた後重要文化財の修理等のため自己の費した金額を控除して得た金額(以下この条において、「納付金額」という。))を、委員会規則の定めるところにより国庫に納付しなければならない。

2 前項に規定する「補助金又は負担金の額」とは、補助金又は負担金の額を、補助又は費用負担に係る修理等を施した重要文化財又はその部分につき委員

会が個別的に定める耐用年数で除して得た金額に、更に当該耐用年数から修理等を行った時以後重要文化財の譲渡の時までの年数を控除した残余の年数(二年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。)を乗じて得た金額に相当する金額とする。

3 補助又は費用負担に係る修理等が行われた後、当該重要文化財が所有者等の責に歸することのできない事由により著しくその価値を減じた場合又は当該重要文化財を国に譲り渡した場合に、委員会は、納付金額の全部又は一部の納付を免除することができる。

4 委員会の指定する期限までに納付金額を完納しないときは、国税滞納処分例により、これを徴収することができる。

5 納付金額を納付する者が相続人、受遺者又は受贈者であるときは、第一号に定める相続税額又は贈与税額と第二号に定める額との差額に相当する金額を第三号に定める年数で除して得た金額に第四号に定める年数を乗じて得た金額をその者が納付すべき納付金額から控除するものとする。

一 当該重要文化財の取得につきその者が納付した、又は納付すべき相続税額又は贈与税額

二 前号の相続税額又は贈与税額の計算の基礎となつた課税価格に算入された当該重要文化財又はその部分につき当該相続、遺贈又は贈与の時に行つた修理等に係る第一項の補

助金又は負担金の額の合計額を当該課税価格から控除して得た金額を課税価格として計算した場合に当該重要文化財又はその部分につき納付すべきこととなる相続税額又は贈与税額に相当する額

三 第二項の規定により当該重要文化財又はその部分につき委員会が定めた耐用年数から当該重要文化財又はその部分の修理等を行った時以後当該重要文化財の相続、遺贈又は贈与の時までの年数を控除した残余の年数（一年に満たない部分があるときは、これを切り捨てる。）

四 第二項に規定する当該重要文化財又はその部分についての残余の耐用年数

6 前項第二号に掲げる第一項の補助金又は負担金の額については、第二項の規定を準用する。この場合において、同項中「譲渡の時」とあるのは、「相続、遺贈又は贈与の時」と読み替えるものとする。

7 第一項の規定により納付金額を納付する者の同項に規定する譲渡に係る所得税法（昭和二十二年法律第二十七号）第九条第八号に規定する譲渡所得の計算については、第一項の規定により納付する金額は、同法第九条第八号に規定する譲渡に関する経費とする。

（現状変更の制限）

第四十三条 重要文化財の現状を変更しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、その維持

の措置をする場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 委員会は、第一項の許可を与える場合において、その許可の条件として同項の現状の変更に関し必要な指示をすることが出来る。

4 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員会は、許可に係る現状の変更の停止を命じ、又は許可を取り消すことが出来る。

（修理の届出等）

第四十三条の二 重要文化財を修理しようとするときは、所有者又は管理団体は、修理に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要文化財の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要文化財の修理に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

（輸出の禁止）

第四十四条 重要文化財は、輸出してはならない。但し、委員会が文化の国際的交流その他の事由により特に必要と認めて許可した場合は、この限りでない。

（環境保全）

第四十五条 委員会は、重要文化財の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることが出来る。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

（国に対する売渡の申出）

第四十六条 重要文化財を有償で譲り渡そうとする者は、譲渡の相手方、予定対価の額（予定対価が金銭以外のものであるときは、これを時価を基準として金銭に見積つた額。以下同じ。）その他委員会規則で定める事項を記載した書面をもつて、まず委員会に国に対する売渡の申出をしなければならない。但し、当該譲受人に対して特に譲り渡したい特別の事情がある場合において委員会の承認を受けたときは、この限りでない。

2 前項の規定による売渡の申出のあつた後三十日以内に委員会が当該重要文化財を国において買い取るべき旨の通知をしたときは、前項の規定による申出書に記載された予定対価の額に相当する代金で、売買が成立したものとみなす。

3 第一項に規定する者は、前項の期間（その期間内に委員会が当該重要文化財を買い取らない旨の通知をしたとき

は、その時までの期間）内は、当該重要文化財を譲り渡してはならない。

4 委員会が第一項但書の規定による承認をしない旨の処分をした場合において、その処分に不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることが出来る。

（管理又は修理の受託又は技術的指導）

第四十七条 重要文化財の所有者（管理団体がある場合は、その者は、委員会の定める条件により、委員会に重要文化財の管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託することが出来る。

2 委員会は、重要文化財の保存上必要があると認めるときは、所有者（管理団体がある場合は、その者）に対し、条件を示して、委員会にその管理（管理団体がある場合を除く。）又は修理を委託するように勧告することが出来る。

3 前二項の規定により委員会が管理又は修理の委託を受けた場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

4 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会に重要文化財の管理又は修理に関し技術的指導を求めることが出来る。

第四款 公開

（公開）

第四十七条の二 重要文化財の公開は、所有者が行うものとする。但し、管理団体がある場合は、管理団体が行うも

のとする。

2 前項の規定は、所有者又は管理団体の出品に係る重要文化財を、所有者及び管理団体以外の者が、この法律の規定により行行公開の用に供することを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する重要文化財を公開する場合には、当該重要文化財につき観覧料を徴収することができる。

(委員会による公開)

第四十八条 委員会は、重要文化財の所有者(管理団体がある場合は、その者)に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会の行行公開の用に供するため重要文化財を出品することを勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につき、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者(管理団体がある場合は、その者)に対し、一年以内の期間を限つて、国立博物館その他の施設において委員会の行行公開の用に供するため当該重要文化財を出品することを命ずることができる。

3 委員会は、前項の場合において必要があると認めるときは、一年以内の期間を限つて、出品の期間を更新することができる。但し、引き継ぎ五年をこえてはならない。

4 第二項の命令又は前項の更新があつたときは、重要文化財の所有者又は

管理団体は、その重要文化財を出品しなければならない。但し、委員会が所有者又は管理団体の申請によりやむを得ない事由があるものと認める場合は、この限りでない。

5 前四項に規定する場合の外、委員会がある場合は、その者(管理団体がある場合は、その者)から国立博物館その他の施設において委員会の行行公開の用に供するため重要文化財を出品したい旨の申出があつた場合において適当と認めるときは、その出品を承認することができる。

第四十九条 委員会は、前条の規定により重要文化財が出品されたときは、第百条に規定する場合を除いて、国立博物館所属の職員その他委員会の職員のうちから、その重要文化財の管理の責に任すべき者を定めなければならない。

第五十条 第四十八条の規定による出品のために要する費用は、委員会規則の定める基準により、国庫の負担とする。

2 政府は、第四十八条の規定により出品した所有者又は管理団体に対し、委員会規則の定める基準により、給与金を支給する。

(所有者等による公開)

第五十一条 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇月以内の期間を限つて、重要文化財の公開を勧告することができる。

2 委員会は、国庫が管理又は修理につ

き、その費用の全部若しくは一部を負担し、又は補助金を交付した重要文化財の所有者又は管理団体に対し、三箇月以内の期間を限つて、その公開を命ずることができる。

3 前項の場合には、第四十八条第四項の規定を準用する。

4 委員会は、重要文化財の所有者又は管理団体に対し、前三項の規定による公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

5 重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体が前項の指示に従わない場合には、委員会は、公開の停止又は中止を命ずることができる。

6 第二項及び第三項の規定による公開のために要する費用は、委員会規則の定めるところにより、その全部又は一部を国庫の負担とすることができる。

7 前項に規定する場合の外、重要文化財の所有者又は管理団体から、その所有又は管理に係る重要文化財を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合において、委員会が適当と認めてこれを承認したときは、委員会規則の定めるところにより、その公開のために要する費用の全部又は一部を国庫の負担とすることができる。この場合には、第四項及び第五項の規定を準用する。

第五十一条の二 前条の規定による公開の場合を除き、重要文化財の所在の場所を変更してこれを公衆の観覧に供す

るため第三十四条の規定による届出があつた場合には、前条第四項及び第五項の規定を準用する。

(損害の補償)

第五十二条 第四十八条又は第五十一条の規定により出品し、又は公開したことに起因して当該重要文化財が滅失し、又はき損したときは、政府は、その重要文化財の所有者に対し、通常生ずべき損害を補償する。但し、重要文化財が所有者、管理責任者又は管理団体の責に歸すべき事由によつて滅失し、又はき損した場合は、この限りでない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(所有者等以外の者による公開)

第五十三条 重要文化財の所有者及び管理団体以外の者がその主催する展覧會その他の催しにおいて重要文化財を公衆の観覧に供しようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、あらかじめ、委員会の承認を受けた博物館その他の施設において、委員会以外の国の機関又は地方公共団体が主催する場合は、委員会に届け出ることをもつて足りる。

2 委員会は、前項の許可を与える場合において、その許可の条件として、許可に係る公開及び当該公開に係る重要文化財の管理に關し必要な指示をすることができる。

3 第一項の許可を受けた者が前項の許可の条件に従わなかつたときは、委員

会は、許可に係る公開の停止を命じ、又は許可を取り消すことができる。

第五款 調査

(保存のための調査)

第五十四条 委員会は、必要があると認めるときは、重要文化財の所有者、管理責任者又は管理団体に対し、重要文化財の現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき報告を求め、これをすることができる。

第五十五条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお重要文化財に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する場所に立ち入つてその現状又は管理、修理若しくは環境保全の状況につき実地調査をさせることができる。

- 一 重要文化財の現状変更の許可の申請があつたとき。
- 二 重要文化財が、損しているとき又はその現状若しくは所在の場所につき変更があつたとき。
- 三 重要文化財が滅失し、き損し、又は盗み取られる虞のあるとき。
- 四 特別の事情によりあらためて国宝又は重要文化財としての価値を鑑査する必要があるとき。

- 2 前項の規定により立ち入り、調査する場合においては、当該調査に当る者は、その身分を証明する証書を携帯し、関係者の請求があつたときは、これを示し、且つ、その正当な

意見を十分に尊重しなければならない。

第六款 雑則

- 3 第一項の規定による調査によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。
- 4 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第六款 雑則

(所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条 重要文化財の所有者が変更したときは、新所有者は、当該重要文化財に關しこの法律に基いてする委員会の命令、勧告、指示その他の処分による旧所有者の権利義務を承継する。

- 2 前項の場合には、旧所有者は、当該重要文化財の引渡と同時にその指定書を新所有者に引き渡さなければならぬ。
- 3 管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第一項の規定を準用する。但し、管理団体が指定された場合には、もつぱら所有者に属すべき権利義務については、この限りでない。

第二節 重要文化財以外の有形文化財

(技術的指導)

第五十六条の二 重要文化財以外の有形文化財の所有者は、委員会規則の定めるところにより、委員会に有形文化財の管理又は修理に關し技術的指導を求め、これをすることができる。

第三章の二 無形文化財

(重要無形文化財の指定等)

第五十六条の三 委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる。

- 2 委員会は、前項の規定による指定をするに当つては、当該重要無形文化財の保持者を認定しなければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該重要無形文化財の保持者として認定しようとする者に通知してする。

4 委員会は、第一項の規定による指定をした後においても、当該重要無形文化財の保持者として認定するに足りる者があると認めるときは、その者を保持者として追加認定することができる。

5 前項の規定による追加認定には、第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の指定等の解除)

第五十六条の四 重要無形文化財が重要無形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要無形文化財の指定を解除することができる。

2 保持者が心身の故障のため保持者として適当でなくなつたと認められる場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、保持者の認定を解除することができる。

3 第一項の規定による指定の解除又は前項の規定による認定の解除は、その旨を官報で告示するとともに、当該重

要無形文化財の保持者に通知してする。

4 保持者が死亡したときは、保持者の認定は解除されたものとし、保持者のすべてが死亡したときは、重要無形文化財の指定は解除されたものとする。この場合には、委員会は、その旨を官報で告示しなければならない。

(保持者の氏名変更等)

第五十六条の五 保持者が氏名若しくは住所を変更し、又は死亡したとき、その他委員会規則の定める事由があるときは、保持者又はその相続人は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、その事由の生じた日(保持者の死亡に係る場合は、相続人がその事実を知つた日)から十日以内に委員会に届け出なければならない。

(重要無形文化財の保存)

第五十六条の六 委員会は、重要無形文化財の保存のため必要があると認めるときは、重要無形文化財について自ら記録の作成、伝承者の養成その他その保存のため適当な措置を行い、又は保持者若しくは地方公共団体その他その保存に當ることを適当と認める者に対し、その保存に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合においては、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

(重要無形文化財の公開)

第五十六条の七 委員会は、重要無形文化財の保持者に対し重要無形文化財の

公開を、重要無形文化財の記録の所有者に対しその記録の公開を勧告することができる。

2 重要無形文化財の保持者又は重要無形文化財の記録の所有者から、重要無形文化財又は重要無形文化財の記録を国庫の費用負担において公開したい旨の申出があつた場合には、第五十一条第七項の規定を準用する。

3 前項の規定により公開したことに起因して当該重要無形文化財の記録が滅失し、又はき損した場合には、第五十二条の規定を準用する。

(重要無形文化財の保存に関する助言又は勧告)

第五十六条の八 委員会は、重要無形文化財の保持者又は地方公共団体その他の保存に当ることを適当と認める者に対し、重要無形文化財の保存のため必要な助言又は勧告をすることができる。

(重要無形文化財以外の無形文化財の記録の作成等)

第五十六条の九 委員会は、重要無形文化財以外の無形文化財のうち特に必要のあるものを選択して、自らその記録を作成し、保存し、若しくは公開し、又は適当な者に対し、当該無形文化財の公開若しくはその記録の作成、保存若しくは公開に要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の規定により補助金を交付する場合には、第三十五条第二項及び第三項の規定を準用する。

第三章の三 民俗資料

(重要民俗資料の指定)

第五十六条の十 委員会は、有形の民俗資料のうち特に重要なものを重要民俗資料に指定することができる。

2 前項の規定による指定には、第二十八條第一項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の指定の解除)

第五十六条の十一 重要民俗資料が重要民俗資料としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、重要民俗資料の指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除には、第二十九條第二項から第四項までの規定を準用する。

(重要民俗資料の管理)

第五十六条の十二 重要民俗資料の管理には、第三十條から第三十四條までの規定を準用する。

(重要民俗資料の保護)

第五十六条の十三 重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとする者は、現状を変更し、又は輸出しようとする日の二十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならぬ。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 重要民俗資料の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る重要民俗資料の現状変更又は輸出に關し必要な事項を指示することができる。

第五十六条の十四 重要民俗資料の保護には、第三十四條の二から第三十六條まで、第三十七條第二項から第四項まで、第四十二條、第四十六條及び第四十七條の規定を準用する。

(重要民俗資料の公開)

第五十六条の十五 重要民俗資料の所有者及び管理団体(第五十六条の十二で準用する第三十二條の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人をいう。以下この章及び第六章において同じ。)以外の者がその主催する展覧会その他の催しにおいて重要民俗資料を公衆の観覧を供しようとするときは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、観覧に供しようとする最初の日の三十日前までに、委員会に届け出なければならない。

2 前項の届出に係る公開には、第五十一条第四項及び第五項の規定を準用する。

(重要民俗資料の保存のための調査及び所有者変更等に伴う権利義務の承継)

第五十六条の十六 重要民俗資料の公開には、第四十七條の二から第五十二條までの規定を準用する。

第五十六条の十七 重要民俗資料の保存のための調査には、第五十四條の規定を、重要民俗資料の所有者が変更し、又は重要民俗資料の管理団体が指定され、若しくはその指定が解除された場合には、第五十六条の規定を準用す

(無形の民俗資料の記録の作成等)

第五十六条の十八 無形の民俗資料には、第五十六条の九の規定を準用する。

第四章 埋蔵文化財

(発掘に関する届出、指示及び命令)

第五十七条 土地を発掘して埋蔵物である文化財(以下「埋蔵文化財」という。)について調査しようとする者は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発掘に着手しようとする日の三十日前までに委員会に届け出なければならない。但し、委員会規則の定める場合は、この限りでない。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る発掘に關し必要な事項を指示し、又はその発掘の禁止、停止若しくは中止を命ずることができる。

第五十七条の二 土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を発掘しようとする場合には、前条第一項の規定を準用する。

2 埋蔵文化財の保護上特に必要があると認めるときは、委員会は、前項で準用する前条第一項の届出に係る発掘に關し必要な事項を指示することができる。

(委員会による発掘の施行)

第五十八条 委員会は、埋蔵文化財について調査する必要があると認めるとき

は、自ら埋蔵文化財を包蔵すると認められる土地の発掘を施行することができ。

2 前項の規定により発掘を自ら施行しようとするときは、委員会は、あらかじめ、当該土地の所有者及び権原に基づく占有者に対し、発掘の目的、方法、着手の時期その他必要と認め事項を記載した令書を交付しなければならぬ。

3 第一項の場合には、第三十九条及び第四十一条の規定を準用する。

第五十九条 前条第一項の規定による発掘により文化財を発見した場合において、委員会は、当該文化財の所有者が判明しているときはこれを所有者に返還し、所有者が判明しないときは、遺失物法(明治三十二年法律第八十七号)第十三条で準用する同法第一条第一項の規定にかかわらず、警察署長にその旨を通知することをもつて足りる。

2 前項の通知を受けたときは、警察署長は、直ちに当該文化財につき遺失物法第十三条で準用する同法第一条第二項の規定による公告をしなければならぬ。

(提出)

第六十条 遺失物法第十三条で準用する同法第一条第一項の規定により、埋蔵物として差し出された物件が文化財と認められるときは、警察署長は、直ちに当該物件を委員会に提出しなければならぬ。但し、所有者の判明している場合は、この限りでない。

(鑑査)

第六十一条 前条の規定により物件が提出されたときは、委員会は、当該物件が文化財であるかどうかを鑑査しなければならぬ。

2 委員会は、前項の鑑査の結果当該物件を文化財と認めたとときは、その旨を警察署長に通知し、文化財でないと思えたときは、当該物件を警察署長に差し戻さなければならぬ。

(引渡)

第六十二条 第五十九条第一項又は前条第二項に規定する文化財の所有者から、警察署長に対し、その文化財の返還の請求があつたときは、委員会は、当該警察署長にこれを引き渡さなければならぬ。

(国庫帰属及び報償金)

第六十三条 第五十九条第一項又は第六十一条第二項に規定する文化財でその所有者が判明しないものの所有権は、国庫に帰属する。この場合においては、委員会は、当該文化財の発見者及びその発見された土地の所有者にその旨を通知し、且つ、その価格に相当する額の報償金を支給する。

2 前項に規定する発見者と土地所有者とが異なるときは、前項の報償金は、折半して支給する。

3 前二項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(譲与等)

第六十四条 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存の

ため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見者又はその発見された土地の所有者に、その者が前条の規定により受けるべき報償金の額に相当するものの範囲内でこれを譲与することができ

2 前項の場合には、その譲与した文化財の価格に相当する金額は、前条に規定する報償金の額から控除するものとする。

3 政府は、前条第一項の規定により国庫に帰属した文化財の保存のため又はその効用から見て国が保有する必要がある場合を除いて、当該文化財の発見された土地を管轄する地方公共団体に對し、その申請に基づき、当該文化財を譲与し、又は時価よりも低い対価で譲渡することができる。

(遺失物法の適用)

第六十五条 埋蔵文化財に關しては、この法律に特別の定のある場合の外、遺失物法第十三条の規定の適用があるものとする。

第六十六条から第六十八条まで 削除

第五章 史跡名勝天然記念物

(指定)

第六十九条 委員会は、記念物のうち重要なものを史跡、名勝又は天然記念物(以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

2 委員会は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特

別天然記念物(以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

3 前二項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者に通知しする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、委員会は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の揭示場に揭示することができる。この場合においては、その揭示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第一項又は第二項の規定による指定は、第三項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。但し、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基づく占有者に対しては、第三項の規定による通知が到達した時又は前項の規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる。

(仮指定)

第七十条 前条第一項の規定による指定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うこと

ができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府県の教育委員会は、直ちにその旨を委員会に報告しなければならない。

3 第一項の規定による仮指定には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

(所有権等の尊重及び他の公益との調整)

第七十条の二 委員会又は都道府県の教育委員会は、第六十九条第一項若しくは第二項の規定による指定又は前条第一項の規定による仮指定を行うに当つては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

(解除)

第七十一条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物がその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、委員会又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第七十条第一項の規定により仮指定された史跡名勝天然記念物につき第六十九条第一項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から二年以内と同条同項の規定による指定がなかつたときは、仮指定は、その効力を失ふ。

3 第七十条第一項の規定による仮指定が適当でないとき、委員会は、これを解除することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第六十九条第三項から第五項までの規定を準用する。

(管理団体による管理及び復旧)

第七十一条の二 史跡名勝天然記念物につき、所有者がないか若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第七十四条第二項の規定により選任された管理の責に任ずべき者による管理が著しく困難若しくは不適当であると明らかに認められる場合には、委員会は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な管理及び復旧(当該史跡名勝天然記念物の保存のために必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するもの管理及び復旧を含む。)を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十一条の三 前条第一項に規定する

事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項並びに第六十九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第七十二条 第七十一条の二第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この章及び第六章において「管理団体」という。)は、委員会規則の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界標、囲さくその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。

2 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者(所有者が判明しない場合を除く。)及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、管理団体が復旧を行う管理若しくは復旧又はその管理若しくは復旧のために必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第七十二条の二 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定のある場合を除いて、管理団体

の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

第七十三条 管理団体が行う管理又は復旧によつて損害を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損害を補償しなければならない。

2 前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

第七十三条の二 管理団体が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定される、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項の規定を準用する。

(所有者による管理及び復旧)

第七十四条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物の管理及び復旧に当るものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当る所有者は、特別の事情があるときは、適当な者をもつば自己に代り当該史跡名勝天然記念物の管理の責に任ずべき者(以下この章及び

第六章において「管理責任者」というに選任することができる。この場合には、第三十一条第三項の規定を準用する。

第七十五条 所有者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条、第三十三条並びに第七十二条第一項及び第二項(同条第二項については、管理責任者がある場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項の規定を、管理責任者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条第三項、第三十三条、第四十七条第四項及び第七十二条第二項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)

第七十六条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞があると認めるときは、委員会は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に關し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)

第七十七条 委員会は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な

命令又は勧告をすることができる。

2 委員会は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物が、き損し、又は喪失している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。

(委員会による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)

第七十八条 委員会は、左の各号の一に該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

一 管理団体、所有者又は管理責任者が前二条の規定による命令に従わな

いとき。

二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪失している場合又は滅失し、き損し、喪失し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、喪失若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)

第七十九条 国が復旧又は滅失、き損、

喪失若しくは盗難の防止の措置につき第七十三条の二及び第七十五条で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第七十六条第二項で準用する第三十六条第二項、第七十七条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは前条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)

第八十条 史跡名勝天然記念物に關しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、委員会の許可を受けなければならない。但し、現状変更については維持の措置をする場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

2 前項但書に規定する維持の措置の範囲は、委員会規則で定める。

3 第一項の規定による許可を与える場合には、第四十三条第三項の規定を、第一項の規定による許可を受けた者には、同条第四項の規定を準用する。

4 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の第一項の規定による処分には、第七十条の二の規定を準用する。

5 第一項の規定による許可を受けず、又は第三項で準用する第四十三条第三項の規定による許可の条件に従わな

変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、委員会は、原状回復を命ずることができる。この場合には、委員会は、原状回復に關し必要な指示をすることができる。

(復旧の届出等)

第八十条の二 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の三十日前までに、委員会規則の定めるところにより、委員会にその旨を届け出なければならない。但し、前条第一項の規定により許可を受けなければならない場合は、この限りでない。

2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、委員会は、前項の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に關し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)

第八十一条 委員会は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第八十条第五項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を、準用する。

(保存のための調査)

第八十二条 委員会は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができ

第八十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、且つ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当る者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、障害物の除却その他調査のため必要な措置をさせることができる。但し、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しい損害を及ぼす虞のある措置は、させてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。
二 史跡名勝天然記念物が、損し、又は喪失しているとき。
三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、喪失し、又は盗み取られる虞のあるとき。
四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によ

つて損害を受けた者に対しては、政府は、その通常生ずべき損害を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合に、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項の規定を準用する。

(遺跡発見の届出)

第八十四条 土地の所有者又は占有者が、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したときは、その現状を変更することなく、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、発見の日から十日以内に委員会に届け出なければならぬ。但し、第五十七条第一項の規定による届出をした場合は、この限りでない。

2 前項の規定による届出があつた場合には、委員会は、当該遺跡の保護上必要な事項を指示することができる。

第六章 補則

第一節 聴聞及び異議の申立

(聴聞)

第八十五条 委員会が左に掲げる処分又は措置を行おうとするときは、関係者又はその代理人の出頭を求めて、公開による聴聞を行わなければならない。

一 第三十八条第一項又は第七十八条第一項の規定による修理若しくは復旧又は措置の施行

二 第四十三条第四項(第八十条第三項で準用する場合を含む)又は第五十三条第三項の規定による許可の取

消

三 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

四 第五十一条第五項(同条第七項(第五十六条の七第二項で準用する場合を含む)、第五十一条の二、第五十六条の十五第二項、及び第五十六条の十六で準用する場合を含む)の規定による公開の中止命令

五 第五十五条第一項又は第八十三条第一項の規定による立入調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の禁止又は中止命令

七 第五十八条第一項の規定による発掘の施行

八 第八十条第五項(第八十一条第三項で準用する場合を含む)の規定による原状回復の命令

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、前項各号に規定する処分又は措置を行おうとする理由、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに当該関係者に通告し、且つ、その処分又は措置の内容並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

3 聴聞においては、当該関係者又はその代理人は、自己又は本人のために意見を述べ、又は釈明し、且つ、証拠を提出することができる。

4 当該関係者又はその代理人が正当な理由がなくて聴聞に応じなかつたとき

は、委員会は、聴聞を行わないで第一項に規定する処分又は措置をすることができる。

(異議の申立)

第八十五条の二 委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会がした左に掲げる処分不服のある者は、委員会に対し、異議の申立をすることができ

一 第四十三条第一項又は第八十条第一項の規定による現状変更等の許可又は不許可

二 第四十五条第一項又は第八十一条第一項の規定による制限、禁止又は命令で特定の者に対して行われるもの

三 第七十一条の二第一項の規定による管理団体の指定

2 前項の規定による異議の申立は、処分の相手方及び処分通知を受けるべき者にあつては処分あつた日又は処分の通知を受けた日から、その他の者にあつては処分あつたことを知つた日から三十日以内に、委員会規則の定める事項を記載した申立書を委員会に提出して、行わなければならない。

3 正当な事由により前項の期間内に異議の申立をすることができなかつたことを疎明した者は、同項の期間の経過後でも、異議の申立をすることができ

る。

(却下)

第八十五条の三 委員会は、異議の申立

が不適当であると認めるときは、申立

を却下する

ことができる

こととする

こととする

を却下しなければならぬ。

(異議の申立のあつた場合の聴聞)

第八十五条の四 異議の申立があつたときは、第八十五条の二第一項第二号の事案に係る場合及び申立を却下する場合を除き、委員会は、申立を受理した日から三十日以内に、公開による聴聞を開始しなければならない。

2 委員会は、前項の聴聞を行おうとするときは、聴聞の期日及び場所をその期日の十日前までに異議の申立をした者に通告し、且つ、事案の要旨並びに聴聞の期日及び場所を公示しなければならない。

(参加)

第八十五条の五 異議の申立をした者の外、当該処分について利害関係を有する者で聴聞に参加して意見を述べようとするものは、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、委員会にその旨を申し出て、その許可を受けなければならない。

(証拠の提示等)

第八十五条の六 第八十五条の四の規定による聴聞においては、異議の申立をした者、処分の相手方、処分の通知を受けるべき者及び前条の規定により聴聞に参加した者又はこれらの者の代理人に対して、当該事案について、証拠を提示し、且つ、意見を述べる機会を与えなければならない。

(決定)

第八十五条の七 決定は、文書をもつて行い、且つ、理由を附さなければならない。

2 委員会は、決定書の正本を、異議の申立をした者及び聴聞に参加した者に交付しなければならない。但し、申立を却下する決定については、異議の申立をした者に交付すれば足りる。

(決定前の協議等)
第八十五条の八 鉱業又は採石業との調整に関する事案に係る異議の申立については、委員会は、申立を却下する場合を除き、あらかじめ、土地調整委員会に協議した上、決定をしなければならない。

2 関係各行政機関の長は、異議の申立に係る事案について意見を述べることが出来る。

(手続)
第八十五条の九 前七条に定めるものの外、異議の申立に関する手続は、委員会規則で定める。

第二節 国に関する特例
(国に関する特例)
第八十六条 国又は国の機関に対しこの法律の規定を適用する場合において、この節に特別の規定のあるときは、その規定による。

第八十七条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物が国有財産法(昭和二十三年法律第七十二号)に規定する国有財産であるときは、そのものは、文部大臣が管理する。但し、そのものが文部大臣以外の者が管理している同法第三条第二項に規定する行政財産であるときその他文部大臣以外の者が管理すべき特別の必要のあるものであるときは、そのものを関係各省各庁

の長(同法第四条第二項に規定する各省各庁の長をいう。以下同じ。)が管理するか、又は文部大臣が管理するかは、文部大臣、関係各省各庁の長及び大蔵大臣が協議して定める。

2 前項但書の規定により協議する場合には、文部大臣は、委員会の意見を聞かなければならない。
第八十七条の二 前条第一項の規定により重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を文部大臣が管理するため、所屬を異にする会計の間において所管換又は所屬替をするときは、国有財産法第十五条の規定にかかわらず、無償として整理することが出来る。

第八十八条 国の所有に属する有形文化財又は民俗資料を国宝若しくは重要文化財又は重要民俗資料に指定したときは、第二十八条第一項又は第三項(第五十六条の十第二項で準用する場合を含む。)の規定により所有者に対し行すべき通知又は指定書の交付は、当該有形文化財又は民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、国宝の指定書を受けた各省各庁の長は、直ちに国宝に指定された重要文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

重要民俗資料を管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。この場合においては、当該各省各庁の長は、直ちに指定書を委員会に返付しなければならない。

3 国の所有又は占有に属するものを特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定し、若しくは仮指定し、又はその指定若しくは仮指定を解除したときは、第六十九条第三項(第七十条第三項及び第七十一条第四項で準用する場合を含む。)の規定により所有者又は占有者に対し行ふべき通知は、その指定若しくは仮指定又は指定若しくは仮指定の解除に係るものを管理する各省各庁の長に対し行ふものとする。

第八十九条 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理する各省各庁の長は、この法律並びにこれに基いて発する委員会規則及び委員会の勧告に従い、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理しなければならない。

第九十条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、文部大臣を通じ委員会に通知しなければならない。
一 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を取得したとき。
二 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の所管換を受け、又は所屬替をしたとき。
三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の全部又は一部が滅失し、き損し、若し

くは喪亡し、又はこれを亡失し、若しくは盗み取られたとき。

四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の所在の場所を変更しようとするとき。

五 所管に属する重要文化財又は史跡名勝天然記念物を修理し、又は復旧しようとするとき（次条第一項第一号の規定により委員会の同意を求めなければならない場合その他委員会規則の定める場合を除く。）

六 所管に属する重要民俗資料の現状を変更し、又はこれを輸出しようとするとき。

七 所管に属する史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたとき。

八 所管に属する土地において貝づか、住居跡、古墳その他遺跡と認められるものを発見したとき。

2 前項第一号及び第二号の場合に係る通知には、第三十二条第一項並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第三号の場合に係る通知には、第三十三条並びに同項を準用する第五十六条の十二及び第七十五条の規定を、前項第四号の場合に係る通知には、第三十四条及び同条を準用する第五十六条の十二の規定を、前項第五号の場合に係る通知には、第四十三条の二第一項及び第八十条の二第一項の規定を、前項第六号の場合に係る通知には、第五十六条の十

三第一項の規定を、前項第七号の場合に係る通知には、第七十二条第二項の規定を、前項第八号の場合に係る通知には、第八十四条第一項の規定を準用する。

3 委員会は、第一項第五号、第六号又は第八号の通知に係る事項に関し必要な勧告をすることができる。

第九十一条 左に掲げる場合には、関係各省各庁の長は、あらかじめ、文部大臣を通じ委員会の同意を求めなければならない。

一 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするとき。
二 所管に属する重要文化財を輸出しようとするとき。
三 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の貸付、交換、売却、譲与その他の処分をしようとするとき。
2 各省各庁の長以外の国の機関が、重要文化財又は史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、あらかじめ、委員会の同意を求めなければならない。

3 第一項第一号及び前項の場合には、第四十三条第一項但書及び同条第二項並びに第八十条第一項但書及び同条第二項の規定を準用する。
4 委員会は、第一項第一号又は第二項に規定する措置につき同意を与える場

合においては、その条件としてその措置に関し必要な勧告をすることができ

5 関係各省各庁の長その他の国の機関は、前項の規定による委員会の勧告を十分に尊重しなければならない。

第九十二条 委員会は、必要があると認めるときは、文部大臣を通じ各省各庁の長に対し、左に掲げる事項につき必要な勧告をすることができる。

一 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理方法
二 所管に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の修理若しくは復旧又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置
三 重要文化財又は史跡名勝天然記念物の環境保全のため必要な施設
四 所管に属する重要文化財又は重要民俗資料の出品又は公開
2 前項の勧告については、前条第五項の規定を準用する。

3 第一項の規定による委員会の勧告に基いて施行する同項第二号に規定する修理、復旧若しくは措置又は同項第三号に規定する施設に要する経費の分担については、文部大臣と各省各庁の長が協議して定める。

4 前項の規定により協議する場合に、第八十七条第二項の規定を準用する。

第九十三条 委員会は、左の各号の一に該当する場合には、国の所有に

属する国宝又は特別史跡名勝天然記念物につき、自ら修理若しくは復旧を行い、又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置をすることができ

この場合においては、委員会は、当該文化財が文部大臣以外の各省各庁の長の所管に属するものであるときは、あらかじめ、修理若しくは復旧又は措置の内容、着手の時期その他必要な事項につき、文部大臣を通じ当該文化財を管理する各省各庁の長と協議し、当該文化財が文部大臣の所管に属するものであるときは、文部大臣の定める場合を除いて、その承認を受けなければならない。

一 関係各省各庁の長が前条第一項第二号に規定する修理若しくは復旧又は措置についての委員会の勧告に応じないとき。
二 国宝又は特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは喪亡している場合又は滅失し、き損し、喪亡し、若しくは盗み取られる虞のある場合において、関係各省各庁の長に当該修理若しくは復旧又は措置をさせることが適当でないときと認められるとき。

第九十四条 委員会は、国の所有に属するものを国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に指定するに当り、又は国の所有に属する国宝、重要文化財、重要民俗資料、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物に関する状況を確認するため必要がある

と認めるときは、関係各省各庁の長に
対し調査のため必要な報告を求め、又
は、重要民俗資料に係る場合を除き、
調査に当る者を定めて実地調査をさせ
ることができる。

第九十五条 委員会は、国の所有に属す
る重要文化財、重要民俗資料又は史跡
名勝天然記念物の保存のため特に必要
があると認めるときは、適当な地方公
共団体その他の法人を指定して当該文
化財の保存のため必要な管理（当該文
化財の保存のため必要な施設、設備そ
の他の物件で国の所有又は管理に属す
るものの管理を含む。）を行わせること
ができる。

2 前項の規定による指定をするには、
委員会は、あらかじめ、文部大臣を通じ
当該文化財を管理する各省各庁の長の
同意を求めるとともに、指定しようとな
する地方公共団体その他の法人の同意
を得なければならない。

3 第一項の規定による指定には、第三
十二条の二第三項及び第四項の規定を
準用する。

4 第一項の規定による管理によつて生
ずる収益は、当該地方公共団体その他
の法人の収入とする。

5 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による管理を行う場合には、重
要文化財又は重要民俗資料の管理に係
るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十二条の四第一項、第三十三
条、第三十四条、第三十五条、第三十六
条、第四十七条の二第三項及び第五十

四条の規定を、史跡名勝天然記念物に
係るときは、第三十条、第三十一条第一
項、第三十三条、第三十五条、第七十
二条第一項及び第二項、第七十二条の
二第二項及び第三項、第七十六条並び
に第八十二条の規定を準用する。

第九十五条の二 前条第一項の規定によ
る指定の解除については、第三十二条
の三の規定を準用する。

第九十五条の三 委員会は、重要文化
財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記
念物の保護のため特に必要があると認
めるときは、第九十五条第一項の規定
による指定を受けた地方公共団体その
他の法人に当該文化財の修理又は復旧
を行わせることができる。

2 前項の規定による修理又は復旧を行
わせる場合には、第九十五条第二項の
規定を準用する。

3 地方公共団体その他の法人が第一項
の規定による修理又は復旧を行う場合
には、重要文化財又は重要民俗資料に
係るときは、第三十二条の四第一項及
び第三十五条の規定を、史跡名勝天然
記念物に係るときは、第三十五条、第
七十二條の二第一項及び第七十三条の
規定を準用する。

第九十六条 委員会は、第五十八条第一
項の規定により自ら発掘を施行しよう
とする場合において、その発掘を施行
しようとする土地が国の所有に属し、
又は国の機関の占有するものであると
きは、あらかじめ、発掘の目的、方
法、着手の時期その他必要と認める事

項につき、文部大臣を通じ関係各省各
庁の長と協議しなければならない。但
し、当該各省各庁の長が文部大臣であ
るときは、その承認を受けるべきもの
とする。

第九十七条 第六十三条の規定により国
庫に帰属した文化財は、委員会が管理
する。但し、その保存のため又はその
効用から見て他の機関に管理させるこ
とが適当であるときは、これを当該機
関の管理に移さなければならない。

第三節 地方公共団体及び教育 委員会

（地方公共団体の事務）

第九十八条 地方公共団体は、文化財の
管理、修理、復旧、公開その他その保
存及び活用に要する経費につき補助す
ることができる。

2 地方公共団体は、条例の定めるところ
により、重要文化財、重要民俗資
料、重要無形文化財及び史跡名勝天然
記念物以外の文化財で当該地方公共団
体の区域内に存するもののうち重要な
ものを指定して、その保存及び活用の
ため必要な措置を講ずることができる。

3 前項の条例に関する議案の作成及び
提出については、教育委員会法（昭和
二十三年法律第七十号）第六十一条
に規定する事件の例による。
4 第二項に規定する条例の制定若しく
はその改廃又は同項に規定する文化財
の指定若しくはその解除を行つた場合
には、教育委員会は、委員会規則の定

めるところにより、委員会にその旨を
報告しなければならない。

（権限の委任）

第九十九条 委員会は、必要があると認
めるときは、左に掲げる委員会の権限
の一部を都道府県の教育委員会に委任
することができる。

一 第三十五条第三項（第三十六条第
三項（第五十六条の十四、第七十六
条第二項（第九十五条第五項で準用
する場合を含む。）及び第九十五条第
五項で準用する場合を含む。）、第三
十七條第四項（第五十六条の十四及
び第七十七条第三項で準用する場合
を含む。）、第五十六条の六第二項、第
五十六条の九第二項（第五十六条の
十八で準用する場合を含む。）、第五
十六条の十四、第七十三条の二、第
七十五条、第九十五条第五項及び第
九十五条の三第三項で準用する場合
を含む。）、の規定による指揮監督
二 第四十三条又は第八十条の規定に
よる現状変更又は保存に影響を及ぼ
す行為の許可及びその取消並びにそ
の停止命令（重大な現状変更又は保
存に重大な影響を及ぼす行為の許可
及びその取消を除く。）

三 第五十一条第五項（同条第七項（第
五十六条の七第二項で準用する場合
を含む。）、第五十一条の二（第五
十六条の十六で準用する場合を含む。）、
第五十六条の十五第二項及び
第五十六条の十六で準用する場合を
含む。）、の規定による公開の停止命令

四 第五十三条の規定による公開の許可及びその取消並びに公開の停止命令

五 第五十四条(第五十六条の十七及び第九十五条第五項で準用する場合を含む)、第五十五条、第八十二条(第九十五条第五項で準用する場合を含む。)又は第八十三条の規定による調査又は調査のため必要な措置の施行

六 第五十七条第二項の規定による発掘の停止命令

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委任に基き同項第二号若しくは第四号に規定する許可の取消又は同項第五号に規定する立入調査若しくは調査のため必要な措置を行う場合には、第八十五条の規定を準用する。

(出品された重要文化財等の管理の委任)

第百条 委員会は、必要があると認めるときは、都道府県又は地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第百五十五条第二項の市の教育委員会に対し第四十八条(第五十六条の十六で準用する場合を含む。)の規定により出品された重要文化財又は重要民俗資料の管理の事務を委任することができる。

2 前項の規定による委任を受けた場合には、都道府県又は前項に規定する市の教育委員会は、その職員のうちから、当該重要文化財又は重要民俗資料の管理の責に任ずべき者を定めなければならない。

(修理等の施行の委託)

第百一条 委員会は、必要があると認めるときは、第三十八条第一項又は第九十三条の規定による国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行、第五十八条第一項の規定による発掘の施行及び第七十八条第一項又は第九十三条の規定による特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、喪亡若しくは盗難の防止の措置の施行につき、都道府県の教育委員会に対し、その全部又は一部を委託することができる。

2 都道府県の教育委員会が前項の規定による委託に基き、第三十八条第一項の規定による修理又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、第三十九条の規定を、第五十八条第一項の規定による発掘の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第三項で準用する第三十九条の規定を、第七十八条第一項の規定による復旧又は措置の施行の全部又は一部を行う場合には、同条第二項で準用する第三十九条の規定を準用する。

(重要文化財等の管理等の受託又は技術的指導)

第百二条 都道府県の教育委員会は、あらかじめ、委員会の承認を得て、所有者管理団体がある場合は、その者又は管理責任者の求めに応じ、重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理(管理団体がある場合を除く)、修理若しくは復旧につき委託を

受け、又は技術的指導をすることができ

2 都道府県の教育委員会が前項の規定により管理、修理又は復旧の委託を受ける場合には、第三十九条第一項及び第二項の規定を準用する。

(書類等の経由)

第百三条 この法律の規定により文化財に関し委員会に提出すべき届書その他の書類及び物件の提出は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。

2 都道府県の教育委員会は、前項に規定する書類及び物件を受理したときは、意見を具してこれを委員会に送付しなければならない。

3 この法律の規定により文化財に関し委員会が発する命令、勧告、指示その他の処分告知は、都道府県の教育委員会を経由すべきものとする。但し、特に緊急な場合は、この限りでない。

4 この法律の規定により委員会に対してなすべき届出、報告、申出又は指定書の返付は、その届書その他の書類又は指定書が第一項の規定により經由すべき都道府県の教育委員会に到達した時に行われたものとみなす。

(指揮監督及び経費の負担)

第百四条 委員会は、この法律の規定により都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会に行わせる事務につき、その教育委員会を指揮監督することができる。

2 都道府県又は第百条第一項に規定する市の教育委員会が第九十九条から第

百一条までの規定による事務を処理するために要する経費は、国庫の負担とする。

(委員会に対する意見具申)

第百四条の二 都道府県の教育委員会は、当該都道府県の区域内に存する文化財の保存及び活用に関し、委員会に対して意見を具申することができる。

(教育委員会の文化財専門委員)

第百四条の三 都道府県の教育委員会に文化財専門委員を置くことができる。

2 文化財専門委員は、文化財の保存及び活用に関し、都道府県の教育委員会の諮問に答え、又は都道府県の教育委員会に意見を具申し、及びこのために必要な調査研究を行う。

3 文化財専門委員に関し必要な事項は、当該都道府県の条例で定める。

4 前項の条例に関する議案の作成及び提出には、第九十八条第三項の規定を準用する。

第百五条 削除

第七章 罰則

第百六条 第四十四条の規定に違反し、

委員会の許可を受けないで重要文化財を輸出した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は十万円以下の罰金に処する。

第百七条 重要文化財を損壊し、き棄し、又は隠匿した者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

2 前項に規定する者が当該重要文化財

の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第七七条の二 史跡名勝天然記念物の現狀を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をして、これを滅失し、き損し、又は衰亡するに至らしめた者は、五年以下の懲役若しくは禁錮又は三万円以下の罰金若しくは科料に処する。

二 前項に規定する者が当該史跡名勝天然記念物の所有者であるときは、二年以下の懲役若しくは禁錮又は一万円以下の罰金若しくは科料に処する。

第七七条の三 法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者がその法人又は人の業務又は財産の管理に関して前三条の違反行為をしたときは、その行為者を罰する外、その法人又は人に対し、各本条の罰金刑を科する。

(行政罰)

第八八条 第三十九条第一項(第四十七條第三項(第五十六条の十四で準用する場合を含む)、第七十八條第二項、第一百一条第二項又は第二百一条第二項で準用する場合を含む)、第四十九條(第五十六條の十六で準用する場合を含む)、又は第一百零二條に規定する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理、修理又は復旧の施行の責に任ずべき者が怠慢又は重大な過失によりその管理、修理又は復旧に係る重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を滅失し、き損し、衰亡

し、又は盗み取られるに至らしめたときは、三万円以下の過料に処する。

第九九条 左の各号の一に該当する者は、三万円以下の過料に処する。

一 正当な理由がなくて、第三十六條第一項(第五十六條の十四及び第九十五條第五項で準用する場合を含む)又は第三十七條第一項の規定による重要文化財若しくは重要民俗資料の管理又は国宝の修理に関する委員会の命令に従わなかつた者
二 第四十三條の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで重要文化財の現狀を変更し、又は委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現狀変更の停止の命令に従わなかつた者

三 正当な理由がなくて、第七十六條第一項(第九十五條第五項で準用する場合を含む)又は第七十七條第一項の規定による史跡名勝天然記念物の管理又は特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する委員会の命令に従わなかつた者

四 第八十條の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わないで史跡名勝天然記念物の現狀を変更し、若しくはその保存に影響を及ぼす行為をし、又は委員会若しくはそ

の権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の現狀変更若しくは保存に影響を及ぼす行為の停止の命令に従わなかつた者

第十條 左の各号の一に該当する者は、一万円以下の過料に処する。

一 第三十九條第三項(第一百一条第二項で準用する場合を含む)で準用する第三十二條の二第五項の規定に違反して、国宝の修理又は滅失、き損若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者
二 正当な理由がなくて、第四十五條第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者
三 第四十六條(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定に違反して、委員会に国に対する売渡の申出をせず、若しくは申出をした後同

第四十六條(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定に違反して、国以外の者に重要文化財又は重要民俗資料を譲り渡し、又は同条第一項(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定による売渡の申出若しくは同項但書(第五十六條の十四で準用する場合を含む)の規定による承認の申請につき、虚偽の事実を申し立てた者

四 第五十三條の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の許可を受けず、若しくはその許可の条件に従わな

委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止の命令に従わなかつた者

第七十八條第二項又は第一百一条第二項で準用する第三十九條第三項で準用する第三十二條の二第五項の規定に違反して、特別史跡名勝天然記念物の復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置の施行を拒み、又は妨げた者

六 正当な理由がなくて、第八十一條第一項の規定による制限若しくは禁止又は施設の命令に違反した者
第七十一條 左の各号の一に該当する者は、五千円以下の過料に処する。

一 第二十八條第五項、第二十九條第四項(第五十六條の十一第二項で準用する場合を含む)又は第五十六條第二項(第五十六條の十七で準用する場合を含む)の規定に違反して、重要文化財又は重要民俗資料の指定書を委員会に返付せず、又は新所有者に引き渡さなかつた者

二 第三十一條第三項(第五十六條の十二及び第七十四條第二項で準用する場合を含む)、第三十二條(第五十六條の十二及び第七十五條で準用する場合を含む)、第三十三條(第五十六條の十二、第七十五條及び第九十五條第五項で準用する場合を含む)、第三十四條(第五十六條の十二及び第九十五條第五項で準用する場合を含む)、第四十三條の二第一項、第五十六條の五、第五十六條の

十三第一項、第五十六條の十五第一項、第五十七條第一項、第七十二條第二項（第九十五條第五項で準用する場合を含む）、第八十條の第二項又は第八十四條第一項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者

三 第三十二條の二第五項（第三十四條の三第二項（第五十六條の十四で準用する場合を含む）及び第五十六條の十二で準用する場合を含む）又は第七十二條第四項の規定に違反して、管理、修理若しくは復旧又は管理、修理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避した者

四 第四十八條第四項（第五十一條第三項（第五十六條の十六で準用する場合を含む）及び第五十六條の十六で準用する場合を含む）の規定に違反して、出品若しくは公開をせず、又は第五十一條第五項（同条第七項（第五十六條の七第二項及び第五十六條の十六で準用する場合を含む）、第五十一條の二（第五十六條の十六で準用する場合を含む））及び第五十六條の十五第二項で準用する場合を含む）の規定に違反して、委員会若しくはその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の公開の停止若しくは中止の命令に従わなかつた者

五 第五十四條（第五十六條の十七及び第九十五條第五項で準用する場合を含む）、第五十五條、第八十二條

（第九十五條第五項で準用する場合を含む）又は第八十三條の規定に違反して、報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は当該公務員の立入調査若しくは調査のため必要な措置の施行を拒み、妨げ、若しくは忌避した者

六 第五十七條第二項の規定に違反して、委員会又はその権限の委任を受けた都道府県の教育委員会の発掘の禁止又は停止若しくは中止の命令に従わなかつた者
七 第五十八條の規定による発掘の施行を拒み、又は妨げた者
附則
第一百十二條 削除

（施行期日）
第一百十三條 この法律施行の期日は、公布の日から起算して三箇月をこえない期間内において、政令で定める。（昭和二十五年八月政令第二百七十六号
和二十五年八月二十九日から施行）

（関係法令の廃止）
第一百十四條 左に掲げる法律、勅令及び政令は、廃止する。
国宝保存法（昭和四年法律第十七号）
重要美術品等の保存に関する法律（昭和八年法律第四十三号）
史跡名勝天然記念物保存法（大正八年法律第四十四号）
国宝保存法施行令（昭和四年勅令第二百十号）
史跡名勝天然記念物保存法施行令（大

正八年勅令第四百九十九号）
国宝保存会官制（昭和四年勅令第二百十一号）
重要美術品等調査審議会令（昭和二十四年政令第二百五十一号）
史跡名勝天然記念物調査会令（昭和二十四年政令第二百五十二号）

（法令廃止に伴う経過規定）
第一百十五條 この法律施行前に行つた国宝保存法第一條の規定による国宝の指定（同法第十一條第一項の規定により解除された場合を除く）は、第二十七條第一項の規定による重要文化財の指定とみなし、同法第三條又は第四條の規定による許可は、第四十三條又は第四十四條の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前の国宝の滅失又はき損並びにこの法律施行前に行つた国宝保存法第七條第一項の規定による命令及び同法第十五條前段の規定により交付した補助金については、同法第七條から第十條まで、第十五條後段及び第二十四條の規定は、なおその効力を有する。この場合において同法第九條第二項中「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替へるものとする。

3 この法律施行前にした行為の処罰については、国宝保存法は、第六條及び第二十三條の規定を除く外、なおその効力を有する。

5 前項の規定による届出があつたときは、委員会は、当該所有者に第二十八條に規定する重要文化財の指定書を交付しなければならぬ。

6 第四項の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、五千円以下の過料に処する。

7 この法律施行の際現に国宝保存法第一條の規定による国宝で国の所有に属するものを管理する各省各庁の長は、委員会規則の定める事項を記載した書面をもつて、この法律施行後三箇月以内に委員会に通知しなければならない。但し、委員会規則で定める場合は、この限りでない。

8 前項の規定による通知があつたときは、委員会は、当該各省各庁の長に第二十八條に規定する重要文化財の指定書を交付するものとする。
第一百十六條 この法律施行の際現に重要美術品等の保存に関する法律第二條第一項の規定により認定されている物件については、同法は当分の間、なおその効力を有する。この場合において、同法の施行に関する事務は、委員会が行うものとし、同法中「国主」とあるのは、「文化財保護法ノ規定ニ依ル重要文化財」と、「主務大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と、「国宝保存法第一條ノ規定に依リテ国宝トシテ指定シ」とあるのは、「文化財保護法第二

十七条第一項ノ規定ニ依リテ重要文化財トシテ指定シ」と読み替へるものとす。

2 文化財専門審議会においては、当分の間、委員会の諮問に応じて重要美術品等の保存に関する法律第一条の規定による輸出及び移出の許可、同法第二条の規定による認定の取消に関する事項その他重要美術品等の保存に関する重要事項を調査審議し、且つ、これらの事項に関し必要と認めらるる事項を委員会に建議する。

3 重要美術品等の保存に関する法律の施行に關しては、当分の間、第百三条の規定を準用する。

第百十七條 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第一条第一項の規定による指定（解除された場合を除く。）は、第六十九条第一項の規定による指定、同法第一条第二項の規定による仮指定（解除された場合を除く。）は、第七十条第一項の規定による仮指定とみなし、同法第三条の規定による許可は、第八十条第一項の規定による許可とみなす。

2 この法律施行前に行つた史跡名勝天然記念物保存法第四条第一項の規定による命令又は処分については、同法第四条及び史跡名勝天然記念物保存法施行令第四条の規定は、なおその効力を有する。この場合において同令第四条中「文部大臣」とあるのは、「文化財保護委員会」と読み替へるものとする。

3 この法律施行前にした行為の処罰に

美術関係法規

つては、史跡名勝天然記念物保存法はなおその効力を有する。
(最初の委員の任命)

第百十八條 委員会の最初の委員の任命については、国会の閉会又は衆議院の解散の場合に限り、第九条第一項の規定にかかわらず、その後最初に召集された国会において両議院の事後の承認を得れば足りる。

2 文部大臣は、前項の規定による両議院の事後の承認が得られないときは、その委員を罷免しなければならない。
(第一回の委員会の招集)

第百十九條 この法律に基く第一回の委員会は、第十四条の規定にかかわらず文部大臣が招集する。

(最初の委員の任期)
第百二十條 この法律により初めて任命される委員会の委員で委員長及びその職務を代理する委員以外のものの任期は、第十条第一項の規定にかかわらず、一人については一年、二人については二年とする。

2 前項の規定の適用を受ける委員の任期は、くじで定める。
(国家行政組織法の一部改正)

第百二十一條 国家行政組織法の一部を次のように改正する。

別表第一中	文部省
	文化財保護委員会

を「文部省文化財保護委員会」に改める。
(文部省設置法の一部改正)

第百二十二條 文部省設置法（昭和二十四年法律第百四十六号）の一部を次のように改正する。
目次中「第三章職員（第二十五条・第二十六条を）」第三章外局（第二十五条・第二十六条を）第四章職員（第二十七条・第二十八条）に改める。

第二條第一項第二号中「国宝、重要美術品、史跡名勝天然記念物その他の文化財」を「文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四十四号）に規定する文化財」に改める。

同条第三項中「出版」を「文化財保護法に規定する文化財、出版」に改める。
第十条第九号を次のように改める。
九 削除

第十三条中「国立博物館」を削る。
第十四条第一項中「国立博物館、」を削る。

第十七條を次のように改める。
第十七條 削除

第二十四條左表中国宝保存会、重要美術品等調査審議会及び史跡名勝天然記念物調査会の項を削る。
第三章を第四章とし、第二十五条を第二十七条とし、第二十六条を第二十八条とし、第二章の次に次の一章を加える。

第三章 外局
(外局の設置)

第二十五條 国家行政組織法第三条第二項の規定に基いて文部省に置かれる外局は、左の通りとする。
文化財保護委員会

(文化財保護委員会)

第二十六條 文化財保護委員会の組織所掌事務及び権限は、文化財保護法の定めるところによる。
(行政機関職員定員法の一部改正)

第百二十三條 行政機関職員定員法（昭和二十四年法律第二百六十六号）の一部を次のように改正する。

第二條第一項中「文部省本省 三、六八八 うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。」を

本省	三、六三三	うち六一、八四七人は、国立学校の職員とする。
文化財保護委員会	四二	職員とする。
計	三、六七五	

に改める。
(従前の国立博物館)

第百二十四條 法律（これに基く命令を含む。）に特別の定のある場合を除く外、従前の国立博物館及びその職員（美術研究所及びこれに所属する職員を除く。）は、この法律に基く国立博物館及びその職員となり、従前の国立博物館附置の美術研究所及びこれに所属する職員は、この法律に基く研究所及びその職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

2 この法律に基く東京国立文化財研究所は、従前の国立博物館附置の美術研究所の所掌した調査研究と同一のものについては、「美術研究所」の名称を用いることができる。
(特別職の職員の給与に関する法律の一部改正)

第二百二十五条 特別職の職員の給与に関する法律（昭和二十四年法律第二百五十二号）の一部を次のように改正する。

第一条第十四号の二の次に次の一号を加える。

十四の三 文化財保護委員会の委員長及び委員

別表中「全国選挙管理委員会委員長」「全国選挙管理委員会委員長」「文化財保護委員会委員長」に、「中央更生保護委員会委員」を、「中央更生保護委員会委員」に改める。

（遺失物法の一部改正）
第二百二十六条 遺失物法の一部を次のように改正する。

第十三条第二項から第四項までの規定を削る。

2 この法律施行前に国庫に帰属した埋蔵物については、前項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

（国有財産法の一部改正）
第二百二十七条 国有財産法の一部を次のように改正する。

第三条第二項第二号中「国宝」の下に「その他の重要文化財」を加える。

（屋外広告物法の一部改正）
第二百二十八条 屋外広告物法（昭和二十四年法律第八十九号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕
（教育委員会法の一部改正）
第二百二十九条 教育委員会法（昭和二十

三年法律第七十号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕
（富裕税法の一部改正）
第三百十条 富裕税法（昭和二十五年法律第七十四号）の一部を次のように改正する。

〔次のよう略す〕
附則（昭和二十六年十二月二十四日法律第三百十八号抄）

1 この法律は、公布の日から施行する。但し、第二十條、第二十二條、第二十三條及び第二百二十四條第二項の改正規定並びに附則第三項の規定は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 この法律施行前にした行為に対する罰則の適用については、改正前の文化財保護法第三十四条の規定は、なおその効力を有する。

附則（昭和二十七年七月三十一日法律第二百七十二号抄）

（施行期日）
1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。但し、附則第三項の規定は、公布の日から施行する。

2 この法律施行の際現に東京国立博物館の分館の職員である者は、別に辞令を発せられない限り、同一の勤務条件をもつて、奈良国立博物館の職員となるものとする。

附則（昭和二十八年八月十日法律第九十四号抄）

1 この法律は、公布の日から施行する。

2 この法律の施行前六箇月以内はこの法律による改正前の文化財保護法第四十三條第一項若しくは第八十條第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五條第一項若しくは第八十一條第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令

3 この法律の施行前六箇月以内はこの法律による改正前の文化財保護法第四十三條第一項若しくは第八十條第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五條第一項若しくは第八十一條第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令

4 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

5 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令（昭和二十八年政令第二百八十九号）は、廃止する。

6 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体及び同令附則第二項の規定により同令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体とみなされたもので法人であるものは、新法第七十一条の二第一項又は第九十五条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の法人とみなす。

7 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第七十一条の二、第九十五条又は第九十五条の三の規定にかかわらず、この法律の施行の日から一年間は、新法第七十一条の二第一項、第九十五条第一項又は第九十五条の三第一項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法中第七十一条の二第一項又は第九十五

る。附則（昭和二十八年八月十五日法律第二百十三号抄）

1 この法律は、昭和二十八年九月一日から施行する。〔後略〕

2 この法律施行前従前の法令の規定によりなされた許可、認可その他の処分又は申請、届出その他の手続は、それぞれ改正後の相当規定に基いてなされた処分又は手続とみなす。

3 この法律施行の際従前の法令の規定により置かれていた機関又は職員は、それぞれ改正後の相当規定に基いて置かれるものとみなす。

附則（昭和二十九年五月二十一日法律第三百三十一号抄）

1 この法律は、昭和二十九年七月一日から施行する。

2 この法律の施行前にした史跡名勝天然記念物の仮指定は、この法律による改正後の文化財保護法（以下「新法」という。）第七十一条第二項の規定にかかわらず、新法第六十九条第一項の規定による指定があつた場合の外、この法律の施行の日から三年以内と同条同項の規定による指定がなかつたときは、その効力を失う。

3 この法律の施行前六箇月以内はこの法律による改正前の文化財保護法第四十三條第一項若しくは第八十條第一項の規定によつてした現状変更等の許可若しくは不許可の処分又は同法第四十五條第一項若しくは第八十一條第一項の規定によつてした制限、禁止又は命令

4 この法律の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。

5 史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令（昭和二十八年政令第二百八十九号）は、廃止する。

6 旧史跡名勝天然記念物を管理すべき団体の指定等に関する政令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体及び同令附則第二項の規定により同令第一条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の団体とみなされたもので法人であるものは、新法第七十一条の二第一項又は第九十五条第一項の規定により指定を受けた地方公共団体その他の法人とみなす。

7 前項に規定する団体で法人でないものには、新法第七十一条の二、第九十五条又は第九十五条の三の規定にかかわらず、この法律の施行の日から一年間は、新法第七十一条の二第一項、第九十五条第一項又は第九十五条の三第一項に規定する管理及び復旧を行わせることができる。この場合には、新法中第七十一条の二第一項又は第九十五

る。附則（昭和二十八年八月十五日法律第二百十三号抄）

条第一項の規定による指定を受けた法人に関する規定を準用する。

文化財保護委員会委員

- 委員長 高橋誠一郎
- 委員 矢代 幸雄
- 細川 護立
- 一万田尚登
- 内田 祥三

文化財専門審議会令

(昭和二十五年十月十三日政令 第三百九号)

- 沿革 昭和二十八年政令第二号(第一次改正)
- 昭和二十九年政令第六十三号(第二次改正)

文化財専門審議会令

内閣は、文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四号)第二十一条第五項の規定に基づき、この政令を制定する。

(所掌事務)

第一条 文化財専門審議会(以下「審議会」という)は、文化財保護委員会(以下「委員会」という)の諮問に応じて、左に掲げる事項を調査審議し、及び文化財の保存又は活用に関する専門的又は技術的事項に関し必要と認められる事項を委員会に建議する。

- 一 文化財保護法(以下「法」という)第二十一条第二項各号に掲げる事項
- 二 法第二十一条第三項の規定により委員会が重要と認めた事項
- 三 法第十六条第二項に規定する重要美術品等の保存に関する重要事項

美術関係法規

で組織する。

2 特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時専門委員を置くことができる。

第三条 専門委員及び臨時専門委員は、学識経験のある者のうちから、委員会が任命する。

第四条 専門委員の任期は、二年とし、その欠員が生じた場合の補欠専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時専門委員は、特別の事項の調査審議が終了したときは、退任するものとする。

3 専門委員及び臨時専門委員は、非常勤とする。

第五条 専門委員より会長として互選された者は、審議会の会務を総理する。

2 専門委員により副会長として互選された者は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(分科会)

第六条 審議会に置かれる分科会は、左表上欄に掲げる通りとし、それぞれ同表下欄に掲げる事項を分掌する。

分科会の名称	分掌事項
第一分科会	建造物以外の有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第二分科会	建造物である有形文化財(埋蔵物であるものを除く)に関する事項
第三分科会	記念物、民俗資料及び埋蔵文化財に関する事項
第四分科会	無形文化財に関する事項

2 前項の規定中有形文化財その他文化財に関する用語の定義は、法における用語の定義による。

第七条 専門委員及び臨時専門委員は、委員会の指名により、前条の分科会のいずれかに分属するものとする。

第八条 各分科会に属する専門委員により分科会長として互選された者は、各分科会の会務を掌理する。

2 分科会長に事故があるときは、その分科会に属する専門委員のうちから分科会長があらかじめ指名する者がその職務を代理する。

第九条 審議会は、その定めるところにより、分科会の議決又は二以上の分科会の合同の議決をもつて、審議会の議決とすることができる。

(部会)

第十条 第六条の分科会は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき専門委員及び臨時専門委員は、分科会長が指名する。

3 各部会に属する専門委員により部長として互選された者は、各部会の会務を掌理する。

4 分科会は、その定めるところにより、部会の議決又は二以上の部会の合同の議決をもつて、分科会の議決とすることができる。

(議事)

第十一条 審議会は、専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数が出席しなければ、議事を開き議決をすることができない。

2 審議会の議事は、出席した専門委員及び議事に関係のある臨時専門委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3 前二項の規定は、分科会又は部会の議事及び二以上の分科会又は部会の合同の議事に準用する。この場合において、二以上の分科会又は部会の合同の議事を整理する会長には、審議会又はその部会を置いた分科会の定めるところにより、その分科会又は部会の会長のうち一人が当るものとする。

(庶務)

第十二条 審議会の庶務は、委員会事務局において処理する。

(雑則)

第十三条 この政令に定めるもののほか、審議会の議事の手続その他その運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附則

この政令は、公布の日から施行する。

附則(第一次改正の附則)

この政令は、公布の日から施行し、第十二条の改正規定は、昭和二十七年八月一日から適用する。

附則(第二次改正の附則)

この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文化財専門審議会議事規則

(昭和二十五年十二月二十一日決定)

第一条 文化財専門審議会令に規定する

もののほか、文化財専門審議会(以下「審議会」という)の議事の手続その他その運営に関し、必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 審議会の会議(以下「会議」という)は、会長が招集する。

第三条 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

第四条 会長及び副会長にともに事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

第五条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第六条 建議案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第七条 修正の動議を提出しようとする者は、案を作り、議長に差し出さなければならない。但し、軽易な修正については、口頭で述べることができる。

第八条 動議は、賛成がなければ、議題とすることができない。

第九条 議事の採決は、起立又は挙手によつてきめる。但し、議決により、記名投票又は無記名投票によつて行ふことができる。

第十条 文化財保護委員会委員及び議事に関係のある職員は、審議会において、発言をすることができる。

第十一条 分科会長又は部会長は、分科会又は部会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を会議に報告しなければならない。

第十二条 審議会に、幹事及び書記を置くことができる。

第十三条 第二条、第三条及び第五条から第十条までの規定は、分科会及び部会について準用する。この場合において、第二条及び第十条中「審議会」とあるのは、「分科会」又は「部会」とあり、第三条及び第六条中「会長」とあるのは、「分科会長」又は「部会長」と読み替えるものとする。

第十四条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十五条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十六条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十七条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十八条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十九条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十一条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十二条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十三条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十四条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十五条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第二十六条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議会常任委員
会設置規則

(昭和二十六年三月十五日決定)

第一条 文化財専門審議会(以下「審議会」という)に、その能率的且つ一体的運営を期するため、常任委員会を置く。

第二条 常任委員会は、前条の目的を達成するため、左に掲げる事項をつかさどる。

一 審議会から附託された事項の調査審議

二 審議会から附託された事項に関する建議案の作成

三 審議会から審議会に代つて議決することを附託された事項についての議決

四 文化財専門審議会令(以下「令」という)第六条の規定による分科会相互間の連絡調整

第五条 常任委員会は、令第五条の規定による会長及び副会長並びに令第八条第一項の規定による分科会長及び同条第二項の規定により分科会長があらかじめ指名する者をもつて組織するものとする。

第六条 常任委員会の会長及び副会長は、それぞれ審議会の会長及び副会長が当るものとする。

第七条 分科会長である常任委員会の委員は、分科会の分掌事項に関する調査審議の経過及び結果を常任委員会に報告するものとする。

第八条 文化財保護委員会委員並びに議事に関係のある専門委員及び臨時専門委員並びに職員は、常任委員会の会長の求めに応じ、又はその承認を得て、常任委員会において発言することができる。

第九条 常任委員会の会長は、第二条の事項に関する調査審議の経過及び結果を審議会に報告しなければならない。

第十条 文化財専門審議会議事規則第二条から第九条まで及び第十二条の規定は、常任委員会について準用する。この場合において同規則第二条及び第十二条中「審議会」とあるのは、「常任委員会」と読み替えるものとする。

第十一条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十二条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十三条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十四条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

第十五条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し、必要な事項は、審議会の承認を経て会長が定める。

文化財専門審議会諮問事項
等取扱要領

(昭和二十五年十二月二十二日
総会決議)

一、総会事項及び分科会事項については、それぞれ分科会及び部会において下審議をすることができるものとする。……………(各分科会共通事項)

二、原則として総会事項とし、緊急を要する場合に限り分科会において措置することを認める事項

1 国宝の指定及び解除(法第二十一条第二項第一号)……………(第一分科会)

2 重要文化財に係る許可の権限の都道府県の教育委員会への委任(法第二十一条第二項第四号)……………(第一分科会)

3 国宝及び重要文化財の指定の基準……………(第一分科会)

4 特別史跡名勝天然記念物の指定及び解除(法第二十一条第九号)……………(第三分科会)

5 特別史跡名勝天然記念物の復旧に関する命令(法第二十一条第九号)……………(第三分科会)

6 史跡名勝天然記念物に係る許可の権限の都道府県の教育委員会への委

一任(法第二十一条第二項第十二号)……(第三分科会)

7 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の指定の基準(法第二十一条第二項第十四号)……(第三分科会)

8 助成の措置を講ずべき無形文化財の選定の基準(法第二十一条第二項第八号)……(第四分科会)

三、原則として分科会の事項とし、緊急を要する場合は、あらかじめ分科会の定めるところにより部会で措置することを認めるが、重要な事項については総会の議に附し、また二以上の分科会に関係ある事項については、その都合合同分科会等を経て審議することとするもの。

1 重要文化財(国宝を除く。)の指定及び解除(法第二十一条第二項第一号)……(第一分科会)

2 重要文化財(国宝を含む。)の管理又は修理に関する命令(法第二十一条第二項第二号)……(第一分科会)

3 国宝の修理及び滅失又はき損防止の措置の施行(法第二十一条第二項第三号)……(第一分科会)

4 重要文化財(国宝を含む。)の現状変更及び輸出の許可(法第二十一条第二項第四号)……(第一分科会)

5 重要文化財(国宝を除く。)の環境保全のために行ふ行為の制限、禁止

及び必要な施設の命令(法第二十一条第二項第五号)……(第一分科会)

6 重要文化財(国宝を含む。)の買取(法第二十一条第二項第六号)……(第一分科会)

7 埋蔵文化財の発掘の施行(法第二十一条第二項第七号)……(第三分科会)

8 史跡名勝天然記念物の指定及び解除(法第二十一条第二項第九号)……(第三分科会)

9 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の管理に関する命令(法第二十一条第二項第十号)……(第三分科会)

10 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損又は喪失の防止の措置の施行(法第二十一条第二項第十一号)……(第三分科会)

11 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可(法第二十一条第二項第十二号)……(第三分科会)

12 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の環境保全のためにする行為の制限、禁止及び必要な施設の命令(法第二十一条第二項第十三号)……(第三分科会)

13 助成の措置を講ずべき無形文化財の選定(法第二十一条第二項第八号)

14 各年度において保護助成すべき無形文化財の種類を選定(法第二十一条第二項第十四号)……(第四分科会)

条第二項第十四号)……(第四分科会)

四、分科会部会処理事項
第一分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日決定)

(一) 次の事項については緊急やむを得ない場合において措置することを認める。

1 重要文化財(国宝を含む。)の管理及び修理に関する命令

2 緊急を要する重要文化財(国宝を含む。)の輸出の許可

3 重要文化財(国宝を含む。)の環境保全のために行ふ行為の制限、禁止及び必要な施設の命令

3 重要文化財(国宝を含む。)の買取
第三分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日第三分科会決定)

(二) 次の事項については部会において措置することを認める。

1 史跡名勝天然記念物及び特別史跡名勝天然記念物の現状変更のうち緊急を要するもの及び軽微な事項

2 緊急を要する埋蔵文化財の発掘の施行

3 埋蔵文化財の鑑定、譲与等に関する処理
第四分科会部会処理事項(昭和二十五年十二月二十二日第四分科会決定)

【第一分科会】 分科会長和辻哲郎、分科会長代理藤田亮策、(絵画彫刻部会) 部長福井利吉郎、部会長代理米澤嘉圃、相見香雨、田澤坦、藤懸静也、源豊宗、和辻哲郎、(兼)安田新三郎、(兼)下村壽一(工芸部会) 部会長松田權六、部会長代理海野清、明石國助、太田英藏、奥田誠一、尾崎洵盛、河瀬虎三郎、末永雅雄、溝口三郎、三矢宮松、宮形武次、安田新三郎、吉野富雄、(兼)石田茂作、(兼)田澤坦、(兼)後藤守一、(兼)水町和三郎、(臨)宇佐美毅(書跡部会) 部会長尾上八郎、部会長代理石田幹之助、神田喜一郎、武内義雄、辻善之助、禿氏祐祥、(兼)芝葛盛、(臨)田中親美(考古部会) 部会長石田茂作、部会長代理八幡一郎、柴田常恵、藤田亮策、(兼)梅原末治、(兼)後藤守一、(兼)原田淑人

【第二分科会】 分科会長藤島玄治郎、分科会長代理堀口捨巳、岸熊吉、岸田日出刀、古宇田實、下村壽一、田邊泰、谷口吉郎、福山敏男、村田治郎

【第三分科会】 分科会長芝葛盛、分科会長代理鑄木外岐雄、(臨)窪谷直光、(臨)武部英治、(臨)間島大治郎、(臨)柴田榮、(臨)川上為治、(臨)森本潔、(臨)柴田榮、一部会長原田淑人、部会長代理坂本太郎、芝葛盛、(兼)石田茂作、(兼)後藤守一、(兼)辻善之助、(兼)長谷部言一、(兼)藤島玄治郎、(兼)勝部会) 部会長吉永義信、部会長代理辻村太郎、石井満吉、關口鉄太郎、龍居松之助、(兼)谷口吉郎、(兼)堀口捨巳(天然記念物部会) 部会長鑄木外岐雄、部会長代理本田正次、内田清

之助、黒田長禮、佐竹義輔、藤本治義、吉井義次、渡邊武男(兼)辻村太郎(埋蔵文化財部会)一部会長(兼)藤田亮策、部会長代理(兼)石田茂作、梅原末治、後藤守一、長谷部言人、(兼)原田淑人(民俗資料部会)一部会長(兼)長谷部言人、部会長代理岡正雄、金田一京助、今和次郎、澁澤敬三、柳田國男、(兼)田邊尚雄、(兼)本田安次

【第四分科会】分科会長久保田万太郎、分科会長代理河竹繁俊、(藝能部会)一部会長河竹繁俊、部会長代理加藤成之、久保田万太郎、小宮豊隆、蘭廣茂、田邊尚雄、新關良三、能勢朝次、野々村戒三、花柳芳三郎、本田安次、町田嘉章、南江治郎、三宅周太郎、(兼)柳田國男、(臨)寺中作雄、(臨・兼)宇佐美毅(工藝技術部会)一部会長西澤昂一、部会長代理野口眞造、水町和三郎、(兼)明石國助、(兼)海野清、(兼)藤懸静也、(兼)松田龍六、(兼)溝口三郎

文部省組織令抄

(昭和二十七年八月三十日 政令第三百八十七号)

治 章 昭和二十九年政令第六十六号(第一次改正)

第一章 本省の内部部局

第二章 文化財保護委員会事務局

(事務局の分課)
第四十九条 文化財保護委員会事務局に左の七課を置く。

- 一 庶務課
- 二 管理課

- 三 会計課
- 四 記念物課
- 五 美術工芸課
- 六 建造物課
- 七 無形文化課(庶務課)

第五十条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文化財保護委員会(以下「委員会」といふ。)の機密に関すること。
- 二 委員会の公印を制定し、並びに委員長、事務局長及び次長の官印及び委員会印を管掌すること。
- 三 委員会の組織及び定員に関すること。
- 四 委員会の職員の職階、任免、給与、分限、懲戒、服務その他の人事並びに教養及び訓練に関すること。
- 五 委員会に関する栄典及び表彰に関すること。
- 六 委員会の所管行政について総合調整を行うこと。
- 七 委員会の所掌事務に関する法令案を作成すること。
- 八 公文書類を審査し、接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 九 委員会の所掌事務の監察に関すること。
- 十 委員会の政策の普及並びに文化財に関する知識の普及及び理解の徹底その他広報に関すること。
- 十一 委員会の所掌事務に関する会議、研究会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

十二 文化財の保存又は活用に関する条約その他の国際約束の実施及び文化財の保存又は活用のための国際的諸活動に関すること。

十三 地方公共団体の行う文化財の保存及び活用のための措置に関し、教育委員会の報告を受け、及びこれに對し指導と助言を与えること。

十四 都道府県の教育委員会その他の関係機関に對し、委員会の所掌事務に関する一般的、共通の事項について連絡し、及び助言すること。

十五 委員会の所掌事務に関する民法(明治二十九年法律第八十九号)第三十四条に規定する法人に関する事務を処理すること。

十六 委員会に對する異議の申立及び委員会の執行聴聞に関する事務を処理すること。

十七 委員会の所掌事務に関する事項の官報掲載に関すること。

十八 委員会及び文化財専門審議会の会議その他庶務に関すること。

十九 国立博物館及び国立文化財研究所に関する事務を処理すること。

二十 委員会の所掌事務で他の所掌に属しない事務を処理すること。

(管理課)

第五十一条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 重要文化財(国宝を含む。以下第五十四条第一号及び第五十五条第一号の場合を除き同様とする。)についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。

二 重要無形文化財についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに重要無形文化財以外の無形文化財についての国庫補助に関すること。

三 重要民俗資料についての国庫補助、国庫負担及び損害補償並びに無形の民俗資料についての国庫補助に関すること。

四 史跡名勝天然記念物(特別史跡名勝天然記念物を含む。以下同じ)についての国庫補助、国庫負担及び損害補償に関すること。

五 重要文化財及び重要民俗資料の出品に對する給付金に関すること。

六 重要文化財及び重要民俗資料の買取に関すること。

七 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に係る損害補償に関すること。

八 埋蔵文化財の発見に對する報償金に関すること。

九 重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物を管理すべき地方公共団体その他の法人の指定及びその解除に関すること。

十 委員会の権限の委任に関する事務を処理すること。

十一 文化財の保存及び活用に関する一般的統計調査に関すること。

十二 文化財に関する調査研究の委託に関すること。

(会計課)

第五十二条 会計課においては、左の事

務をつかさどる。

一 委員会の経費及び収入の予算、決算及び会計並びに会計の監査に関すること。

二 行政財産及び物品の管理に関すること。

三 国の所有又は占有に属する重要文化財、重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理について連絡調整すること。

四 委員会の管理する事務所等の営繕に関すること。

五 委員会の職員の衛生、医療その他の福利厚生に関すること。

六 委員会の職員の共済組合に関すること。

七 委員会の職員に貸与する国設宿舍に関する事務を処理すること。

八 庁内の取締に関すること。

九 委員会の所掌事務に関する物資の割当及びあつ旋その他物資の確保についての総括に関すること。

(記念物課)

第五十三条 記念物課においては、左の事務をつかさどる。

一 重要民俗資料、史跡、名勝、天然記念物、特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物の指定及びその解除に関すること。

二 無形の民俗資料のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。

三 重要民俗資料及び史跡名勝天然記

念物の管理又は修理若しくは復旧についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。但し、建造物課の所掌に属するものを除く。

四 特別史跡名勝天然記念物の復旧及び滅失、き損、盗難又は喪亡の防止の措置の施行に関すること。

五 重要民俗資料の現状変更及び輸出についての届出に関すること。

六 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可及び史跡名勝天然記念物の環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。

七 史跡名勝天然記念物についての原状回復の命令に関すること。

八 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物についての調査並びに史跡名勝天然記念物の調査のために必要な措置の施行に関すること。

九 重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物の管理又は復旧についての届出に関すること。

十 重要民俗資料の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び届出に関すること。

十一 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた重要民俗資料の管理又は修理に関すること。

十二 管理又は復旧の委託を受けた史跡名勝天然記念物の管理又は復旧に関すること。

十三 無形の民俗資料の記録の作成等の実施に関すること。

十四 遺跡発見の届出に関すること。

十五 埋蔵文化財に係る土地の発掘に関する届出、指示及び命令に関すること。

十六 委員会による埋蔵文化財の調査のための発掘の施行に関すること。

十七 埋蔵物として委員会に提出された物件の鑑査に関すること。

十八 埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの譲与及び譲渡に関すること。

十九 国の所有又は占有に属する重要民俗資料及び史跡名勝天然記念物並びに埋蔵物として委員会に提出された文化財で国庫に帰属したものの管理、修理及び復旧に関すること。

二十 重要民俗資料、選択された無形の民俗資料及び史跡名勝天然記念物に関する台帳の整備に関すること。

二十一 民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

二十二 有形の民俗資料、記念物及び埋蔵文化財に関する記録、写真、複写及び複製に関すること。

第五十四条 美術工芸課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物以外の有形文化財(以下「美術工芸品」という。)としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に関すること。

二 美術品若しくは骨とう品として価値のある火なわ銃式火器又は美術品として価値のある刀剣類の登録に関

すること。

三 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること、但し、建造物課の所掌に属するものを除く。

四 美術工芸品である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に関すること。

五 美術工芸品である重要文化財の出品又は公開についての、命令、勧告、承認及び許可に関すること。

六 美術工芸品である重要文化財の現状変更及び輸出等の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必要な施設の命令に関すること。

七 美術工芸品である重要文化財についての調査に関すること。

八 重要文化財の輸出の禁止の確保に関すること。

九 美術工芸品である重要文化財の管理又は修理についての届出に関すること。

十 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十一 国の所有又は占有に属する美術工芸品である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十二 美術工芸品に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 美術工芸品である重要文化財の

管理及び修理に必要な資料を刊行すること。

十四 美術工芸品に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十五 文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四号）第百十六条の規定によりなおその効力を有する旧重要美術品等の保存に関する法律（昭和八年法律第四十三号。以下「旧法」という。）の施行に関する事務のうち美術工芸品に関するものを処理すること。

十六 美術工芸品である重要文化財の管理のための防火施設その他の保存施設に関し、建造物課に対し勧告すること。

第五十五条 建造物課においては、左の事務をつかさどる。

一 建造物としての国宝又は重要文化財の指定及びその解除に関すること。

二 建造物である重要文化財の管理又は修理についての命令、勧告、指示及び指揮監督に関すること。

三 建造物である国宝の修理及び滅失、き損又は盗難の防止の措置の施行に関すること。

四 建造物である重要文化財の出品又は公開についての命令、勧告、承認及び許可に関すること。

五 建造物である重要文化財の現状変更及び輸出の許可並びにその環境保全のための制限若しくは禁止又は必

要な施設の命令に関すること。

六 重要文化財・重要民俗資料又は史跡名勝天然記念物の管理のための防火施設その他の保存施設に関する命令、勧告、指示及び指揮監督並に文化財の防火施設その他の保存施設に関する専門的、技術的な指導と助言に関すること。

七 建造物である重要文化財についての調査に関すること。

八 建造物である重要文化財の管理又は修理についての届出に関すること。

九 出品され、又は管理若しくは修理の委託を受けた建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十 国の所有又は占有に属する建造物である重要文化財の管理又は修理に関すること。

十一 建造物である重要文化財に関する台帳の整備に関すること。

十二 建造物に関し、専門的、技術的な指導と助言を与えること。

十三 建造物に関する記録、写真及び複製に関すること。

十四 旧法の施行に関する事務のうち建造物に関するものを処理すること。

（無形文化財課）

第五十六条 無形文化財においては、左の事務をつかさどる。

一 重要無形文化財の指定及びその解除に関すること。

二 重要無形文化財の保持者の認定及びその解除に関すること。

三 重要無形文化財以外の無形文化財のうち委員会が記録を作成すべきもの又は記録の作成等につき補助すべきものの選択に関すること。

四 重要無形文化財の保持者に関する届出に関すること。

五 重要無形文化財についての記録の作成、伝承者の養成その他その保存のための措置の実施に関すること。

六 重要無形文化財の公開及び重要無形文化財の記録の公開についての勧告及び承認に関すること。

七 重要無形文化財の保存に関し、助言と勧告を与えること。

八 無形文化財の記録の作成等の実施に関すること。

九 文化財の修理技術者の養成に関すること。

十 重要無形文化財及び選択された無形文化財に関する台帳の整備に関すること。

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 略

附則

この政令は、昭和二十九年七月一日から施行する。

会計課長 細川 可賀

記念物課長 平岡 修

美術工芸課長 本間 順治

建造物課長 関野 克

無形文化課長 佐藤 薫

東京国立博物館組織規程

（昭和二十六年一月三十一日）
文化財保護委員会規則第四号
沿革 昭和二十七年文化財保護委員会規則第二号（第一次改正）
昭和二十七年文化財保護委員会規則第九号（第二次改正）

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四号）第二十二條第四項の規定に基づき、国立博物館組織規程を次のように定める。

東京国立博物館組織規程

（東京国立博物館の組織）

第一条 東京国立博物館（以下「東京博物館」という。）の所掌事務を分掌せしめるため、左の二部を置く。

庶務部

学芸部

（庶務部の分課）

第二条 庶務部に左の三課を置く。

管理課

会計課

普及課

（管理課の所掌事務）

第三条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

一 機密に関すること。

二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における、職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管守すること。

五 東京国立博物館評議員会に関すること。

六 警備に関すること。

七 翻訳、通訳その他渉外に関すること。

八 他部課の所掌に属さない事務を処理すること。

九 東京博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(会計課の所掌事務)
第四条 会計課においては、左の事務をつかさどる。

一 予算案の準備等予算に関すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

三 行政財産及び物品の管理に関すること。

四 営繕に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

(普及課の所掌事務)
第五条 普及課においては、左の事務をつかさどる。

一 この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及に関すること。

二 外国人に対しこの館の事業に関する美術及び歴史資料を解説すること。

美術関係法規

三 この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布に関すること。

四 その他この館の事業の普及宣伝に関すること。

2 普及課が前項各号の事務を行うに当つては、学芸部各課の助言を得、又は学芸部各課と連絡して処理するものとする。

(学芸部の分課)
第六条 学芸部に左の四課を置く。

美術課
工芸課
考古課
資料課

(美術課の四室及び所掌事務)
第七条 美術課に、美術課の所掌事務を分掌せしめるため、絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室を置く。

2 絵画室、彫刻室、書跡室及び建築室の四室は、それぞれ絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(工芸課の五室及び所掌事務)
第八条 工芸課に、工芸課の所掌事務を分掌せしめるため、金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室を置く。

2 金工室、刀剣室、陶磁室、漆工室及び染織室の五室は、それぞれ金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、

模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(考古課の四室及び所掌事務)
第九条 考古課に、考古課の所掌事務を分掌せしめるため、先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室を置く。

2 先史室、原史室、有史室及び土俗室の四室は、それぞれ先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(資料課の五室及び所掌事務)
第十条 資料課に、資料課の所掌事務を分掌せしめるため、庶務室、資料室、図書室及び写真室の四室を置く。

2 庶務室は、学芸部の一般庶務をつかさどる。

3 資料室は、図書以外の資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

4 図書室は、図書の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

5 写真室は、写真の作成、収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

(東京国立博物館評議員会)
第十二条 東京国立博物館に東京国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、東京博物館の重要事項について調査審議するのほか、東京博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、二十人以上の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるものうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則
この規則は、公布の日から施行し、昭和二十五年八月二十九日から適用する。

附則(第一次改正の附則)
この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則(第二次改正の附則)
この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

京都市立博物館組織規程
(昭和二十七年三月二十五日)
(文化財保護委員会規則第三号)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十二條第四項の規定に基

づいて、

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

き、京都国立博物館組織規程を次のように定める。

京都国立博物館組織規程

(京都国立博物館の組織)

第一条 京都国立博物館(以下「京都博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課
学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 機密に関すること。
- 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管守すること。

五 京都国立博物館評議員会に関すること。

六 翻訳、その他渉外に関すること。

七 予算案の準備等予算に関すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関すること。

十 営繕に関すること。

十一 職員(福利厚生)に関すること。

十二 警備に関すること。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

十四 京都博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室
美術室
工芸室
考古室
資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作成並びに図書、写真その他資料の収集、整理、保管、閲覧及び調査研究に関する

事務をつかさどる。
(館長及び次長)

第四条 京都博物館に館長及び次長を置く。

2 館長は、館務を総理する。

3 次長は、館長を助けて館務を処理する。

(京都国立博物館評議員会)

第五条 京都博物館に京都国立博物館評議員会(以下「評議員会」という。)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、京都博物館の重要事項について調査審議するのほか、京都博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるもののうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

奈良国立博物館組織規程

(昭和二十七年八月十四日)
文化財保護委員会規則第八号

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十二條第四項の規定に基

き、奈良国立博物館組織規程を次のように定める。

奈良国立博物館組織規程

(奈良国立博物館の組織)

第一条 奈良国立博物館(以下「奈良博物館」という。)の所掌事務を分掌させるため、左の二課を置く。

管理課
学芸課

(管理課の所掌事務)

第二条 管理課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 機密に関すること。
- 二 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。

三 公文書類の接受、発送、編集及び保存に関すること。

四 公印を管守すること。

五 奈良国立博物館評議員会に関すること。

六 内外文化の交流その他国際文化に関すること。

七 予算案の準備等予算に関すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関すること。

九 行政財産及び物品の管理に関すること。

十 営繕に関すること。

十一 職員(福利厚生)に関すること。

十二 警備に関すること。

十三 他課の所掌に属さない事務を処理すること。

理すること。

十四 奈良博物館の所掌事務の総合調整に関すること。

(学芸課の五室及び所掌事務)

第三条 学芸課に、学芸課の所掌事務を分掌させるため、左の五室を置く。

普及室

美術室

工芸室

考古室

資料室

2 普及室においては、この館の事業に関する出版物の刊行及び頒布、この館の事業を行うために必要な美術及び歴史に関する知識の普及その他この館の事業の普及宣伝に関する事務をつかさどる。

3 美術室においては、絵画、彫刻、書跡及び建築に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

4 工芸室においては、金工、刀剣、陶磁、漆工及び染織に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

5 考古室においては、先史考古、原史考古、有史考古及び土俗に関する陳列品の収集、保管、陳列、鑑査、修理、模写、模造、調査研究及び解説に関する事務をつかさどる。

6 資料室においては、写真の作製並びに図書、写真その他資料の収集、整理、

美術関係法規

保管、閲覧及び調査研究に関する事務をつかさどる。

(館長及び次長)

第四条 奈良博物館に館長を置く。館長は、館務を総理する。

2 奈良博物館に次長を置くことができる。次長は、館長を助けて館務を処理する。

(奈良国立博物館評議員会)

第五条 奈良博物館に奈良国立博物館評議員会(以下「評議員会」という)を置く。

2 評議員会は、館長の諮問に応じて、奈良博物館の重要事項について調査審議するのほか、奈良博物館の重要事項について館長に助言するものとする。

3 評議員会は、十五人以内の評議員で組織する。

4 評議員は、学識経験のあるもののうちから、文化財保護委員会が任命する。

5 評議員の任期は、二年とする。

6 この規則に定めるもののほか、評議員会の議事その他運営に関し必要な事項は、評議員会の議を経て、館長が定める。

附則

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年八月一日から適用する。

東京国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
文化財保護委員会規則第四号

沿革

昭和二十九年六月二十九日
文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第二十三条第四項の規定に基づき、東京国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

東京国立文化財研究所組織規程

(東京国立文化財研究所の組織)

第一条 東京国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の三部及び一室を置く。

美術部

芸能部

保存科学部

庶務室

(美術部の三室及び所掌事務)

第二条 美術部に、美術部の所掌事務を分掌させるため、第一研究室、第二研究室及び資料室の三室を置く。

2 第一研究室においては、わが国の上代、中世及び近世の美術並びに東洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 第二研究室においては、わが国の近代及び現代の美術並びに西洋美術の調査研究並びにその結果の公表に関する事務のほか、黒田記念室に関する事務をつかさどる。

4 資料室においては、美術研究資料の作成、収集、整理、保管、公表及び閲覧並びに美術研究資料に関する写真の

作成及びその原板の保管並びにエツクス線写真、赤外線写真、紫外線写真その他の特殊写真による美術の研究に関する事務をつかさどる。

(芸能部の三室及び所掌事務)

第三条 芸能部に、芸能部の所掌事務を分掌させるため、演劇研究室、音楽舞踊研究室及び郷土芸能研究室の三室を置く。

2 演劇研究室においては、演劇及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 音楽舞踊研究室においては、音楽及び舞踊並びにその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 郷土芸能研究室においては、郷土芸能及びその保存に関する調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(保存科学部の三室及び所掌事務)

第四条 保存科学部に、保存科学部の所掌事務を分掌させるため、化学研究室、物理研究室及び生物研究室の三室を置く。

2 化学研究室においては、文化財及びその保存に関する化学的及び分析的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

3 物理研究室においては、文化財及びその保存に関する物理学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

4 生物研究室においては、文化財及び

その保存に関する生物学的調査研究並びにその結果の公表に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

- 一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
- 二 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
- 三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。
- 四 行政財産及び物品の管理に関すること。
- 五 職員の福利厚生に関すること。

附則

1 この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

2 美術研究所組織規程（昭和二十六年文化財保護委員会規則第五号）は、廃止する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

奈良国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日)
(文化財保護委員会規則第五号)

沿革 昭和二十九年六月二十九日
文化財保護委員会規則第一号(第一次改正)

文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二十三条第四項の規定に基

き、奈良国立文化財研究所組織規程を次のように定める。

奈良国立文化財研究所組織規程

(奈良国立文化財研究所の組織)

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、左の四室を置く。

- 美術工芸研究室
- 建造物研究室
- 歴史研究室
- 庶務室

(美術工芸研究室の所掌事務)

第二条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財並びに工芸技術に関する調査研究並びにその普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(建造物研究室の所掌事務)

第三条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(歴史研究室の所掌事務)

第四条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(庶務室の所掌事務)

第五条 庶務室においては、左の事務をつかさどる。

- 一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員の人事に関すること。
- 二 公文書類の接受及び公印の管守そ

の他事務に関すること。
三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。

四 行政財産及び物品の管理に関すること。

五 職員の福利厚生に関すること。

附則

この規則は、昭和二十七年四月一日から施行する。

附則

この規則は、昭和二十九年七月一日から施行する。

文部省社会教育局芸術課

文部省組織規定(省令)抜萃

第二十五条 社会教育局に左の六課を置く。

- 社会教育課
- 社会教育施設課
- 体育課
- 芸術課
- 視聴覚教育課
- 著作権課

(芸術課)

第二十九条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

- 一 文学、音楽、美術、演劇その他の芸術及び国民娯楽に関し、左に掲げる事務を行うこと。
- イ 情報、資料の収集及び利用に関すること。
- ロ 研究会、講習会、展示会その他の催しの主催又はこれらへの参加に関すること。

ハ 向上及び普及のための援助と助言に関すること。

二 国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。

三 芸術に関する団体との連絡に関すること。

国立近代美術館

国立近代美術館関係
文部省設置法抜萃

文部省設置法(抄)

昭和二十四年五月三十一日

法律 第一四六号

第二章 本省

第一節 内部部局

第十条 社会教育局においては、左の事務をつかさどる。

- 一 国立科学博物館、国立近代美術館及び日本芸術院に關し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を行うこと。

(以下省略)

第二節 国立の学校その他の機関

(国立の学校等)
第十四条 第二十六条(中央教育審議会)及び第二十七条(審議会等)に規定するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置く。

- 日本ユネスコ国内委員会
- 国立教育研究所
- 国立科学博物館

国立近代美術館
緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(評議員会)

第十五条 前条の機関のうち、国立教育研究所、国立科学博物館、国立近代美術館、統計数理研究所及び国立遺伝学研究所にそれぞれ評議員会を置く。

2 評議員会は、それぞれの機関の事業計画、経費の見積、人事その他の運営管理に関する重要事項について、それぞれの機関の長に助言する。

3 それぞれの機関の長は、評議員会の推薦により、文部大臣が任命する。

4 評議員会は、二十人以上の評議員で組織する。

5 評議員は、学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。

6 評議員の推薦、任期その他評議員会の組織及び運営の細目については、政令で定める。

(国立近代美術館)

第二十条 国立近代美術館は、近代美術に関する作品その他の資料を収集、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれに関連する調査研究及び事業を行う機関とする。

2 国立近代美術館は、東京都に置く。

8 国立近代美術館の内部組織は、文部省令で定める。

附則

美術関係法規

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

(以下省略)

附則(昭和二十七年六月)
法律第六十八号

この法律は、公布の日から施行する。
(後略)

附則(昭和二十七年七月)
法律第二百七十一号

1 この法律は、昭和二十七年八月一日から施行する。

(以下省略)

文部省設置法施行規則(抄)

(昭和二十八年一月十三日)
文部省令第二十二号

第三章 所轄機関

第四節 国立近代美術館

(館長及び次長)

第四十五条 国立近代美術館に館長及び次長を置く。

一 館長は、館務を掌理する。

二 次長は館長を助け、館務を整理すること。

(内部組織)

第四十六条 国立近代美術館に左の二課を置く。

一 庶務課

二 事業課

(庶務課)

第四十七条 庶務課においては、左の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の衛生、医療及び福利厚生に

関する事務を処理すること。

三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。

四 公印を管掌すること。

五 国立近代美術館の所掌事務に関し、連絡調整すること。

六 国立近代美術館評議員会に関すること。

七 予算に関する事務を処理すること。

八 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

九 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

十 展示品の保全の為の警備に関すること。

十一 庁内の取締に関すること。

十二 前各号に掲げるものの外、他の所掌に属しない事務を処理すること。

(事業課)

第四十八条 事業課においては、左の事務をつかさどる。

一 近代美術に関する作品その他の資料を収集し、保管し、展示し、解説し、及び修理すること。

二 前号に掲げる資料を館外で展示すること。

三 近代美術に関し、専門的な調査研究を行うこと。

四 近代美術に関する出版物等を作成し、及びこれらを刊行、頒布する等利用に供すること。

五 近代美術に関する展覧会、講演

会、講習会、映写会、研究会等の催しを企画し、及び実施すること。

六、第一号に掲げる資料の利用に関し、内外の美術館、博物館、その他関係団体等と連絡協力して、刊行物、情報の交換等の相互援助を行うこと。

附則

1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十八年一月一日から適用する。

2 左に掲げる省令は、廃止する。

(前略)

六 国立近代美術館組織規程(昭和二十七年文部省令第二十一号)
(後略)

文部省組織令(抄)

(昭和二十七年八月三十日)
政令第三百八十七号

第一章 本省の内部部局

第四節 社会教育局

第二十七条 芸術課においては、左の事務をつかさどる。

(芸術課)

一 (省略)

二 国立近代美術館及び日本芸術院に関し、予算案の準備その他の他部局に属しない事務を処理すること。

三 (省略)

附則

1 この政令は、昭和二十七年九月一日から施行する。

2 (省略)

文部省所轄機関評議員会令(抄)

(昭和二十四年七月十八日
政令第二百七十四号
昭和二十七年六月六日
政令第一七五号改正)

第三章 国立近代美術館評議員会
(所掌事務)

第十二条 国立近代美術館に置かれる評議員会(以下「国立近代美術館評議員会」といふ)は、左に掲げる事項に關して審議し、国立近代美術館長に助言する。

- 一 国立近代美術館の行ふ毎年の事業の計画
- 二 国立近代美術館の行ふ事業の経費その他国立近代美術館の運営に必要な経費の見積
- 三 国立近代美術館の人事その他の運営管理に關する重要事項

(組織)
第十三条 国立近代美術館評議員会は、評議員二十人以内で組織する。

(準用規定)
第十四条 第一条第二項から第四項まで、第二条第二項及び第三条から第九条までの規定は、国立近代美術館評議員会に準用する。

- 1 この政令は、公布の日から施行する。
- 2 この政令施行の際、現に各評議員会の評議員の職にある者は、改正後の文部省所轄機関評議員会令(以下「評議員会令」といふ)第三条第一項の規定に

かわらず、残任期間の短い者にあつてはその任期の終るまで、残任期間の長い者にあつては、残任期間の短い評議員の任期の終つた日の翌日から起算して一年間在任するものとする。

3 この政令施行の後最初に任命される国立近代美術館評議員会の評議員のうち、半数の者の任期は、評議員会令第十四条において準用する同令第三条第一項の規定にかかわらず、一年とする。

4 前項の評議員のうち、任期を一年とする評議員は、くじで定める。

5 この政令施行後最初の国立近代美術館評議員会の会議は、評議員会令第十四条において準用する同令第五条の規定にかかわらず、文部大臣が招集する。

国立近代美術館評議員会運営規則

(昭和二十八年三月二十四日
国立近代美術館評議員会決定)

第一条 文部省所轄機関評議員会令(昭和二十四年七月十八日政令第二百七十四号)に規定するものの外、国立近代美術館評議員会(以下「評議員会」といふ)の議事その他運営に關し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

第二条 会長は、会議の会長となり、議事を整理する。

第三条 発言しようとする者は、議長の許可を受けなければならない。

第四条 国立近代美術館長に対する助言の案を提出しようとする者は、案を作り、三人以上の賛成者と連署して、会長に差し出さなければならない。

第五条 動議は、賛成者がなければ、議題とすることができない。

第六条 議事の採決は、起立又は挙手によつて行ふ。但し議決により、記名投票又は無記名投票によつて行ふことができる。

第七条 評議員会に、幹事及び書記を置くことができる。

2 幹事及び書記は、国立近代美術館職員のうちから国立近代美術館長が任命する。

第八条 この規則に定めるものの外、評議員会の運営に關し必要な事項は、評議員会の承認を経て、会長が定める。

この規則は、公布の日から施行し、昭和二十七年九月一日から適用する。

国立近代美術館運営委員会規程

(運営委員会)

第一条 国立近代美術館(以下「館」といふ)の事業運営等について協議するため、館に運営委員会を置く。

第二条 運営委員会の議事を掌理するため、運営委員会に議長を置く。

2 議長は、館長をもつてあてる。

3 館長に事故があるときは、次長が館長の職務を代理する。

(運営委員)

第三条 運営委員会に運営委員十五人以上を置く。

2 運営委員は、学識経験ある者のうちから館長が委嘱する。

3 館長は、特に必要と認めるときは、臨時に運営委員を委嘱することができる。

4 次長は、運営委員会に出席して、議事に参加することができる。

(分科会)

第四条 運営委員会は、館の事業運営上、特に必要と認めるときは、運営委員会の下に、分科会を設けることができる。

2 分科会の委員は、運営委員のうちから館長が委嘱する。

3 次長は、分科会の議長となる。

4 次長に事故があるときは、事業課長が議長の職務を代理する。

(資料の提出及び説明)

第五条 運営委員会及び分科会は、議事の必要により、館職員に資料の提出及び説明を求めることができる。

(庶務)

第六条 運営委員会の庶務は、館が掌る。

(その他)

第七条 前各条に規定する事項の外、運営委員会について必要な事項は、館長が運営委員会と協議して定める。

附則

この規程は、昭和二十七年九月一日から適用する。

日本藝術院

明治四十年勅令第二百十号をもつて美術審査委員会官制が制定され、これに基き毎年文部省美術展覧会を開催し、美術審査委員会は美術展覧会の出品を審議した。大正八年に本官制が廃止され、新たに勅令第四百十七号をもつて帝國美術院規定が制定された。帝國美術院は文部大臣の管理に属し美術の発達を裨補することを目的とし、文部大臣の諮詢に依り、美術に関する意見を開示し、その他美術に関する重要事項を建議する機関であつた。

昭和十年勅令第四百十七号をもつて帝國美術院官制が新たに制定され、帝國美術院規定は廃止された。

昭和十二年勅令第二百八十号をもつて帝國美術院官制が新たに制定され、美術部門の他に文学及び音楽の両部門が加えられ、同時に帝國美術院官制を廃止された。

昭和二十二年政令第二百五十四号をもつて帝國美術院は日本芸術院と名称が変更され、昭和二十四年六月一日政令第二百八十一号をもつて日本芸術院令が制定せられ、日本芸術院官制は廃止されて今日に至つてゐる。

(文部省設置法抜萃)

第二節 国立の学校その他の機関
(国立の学校等)

第十四条 第二十六条及び第二十七条に規程するもののほか、文部大臣の所轄の下に、国立の学校及び左の機関を置

美術関係法規

く。

日本エネスコ国内委員会

国立科学博物館

国立近代美術館

緯度観測所

統計数理研究所

国立遺伝学研究所

国立国語研究所

日本芸術院

(日本芸術院)

第二十五条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するために置かれる機関とする。

2 日本芸術院会員には、予算の範囲内で、文部大臣の定めるところにより、年金を支給することができる。

3 日本芸術院の内部組織、会員その他職員及び運営については、政令で定める。

附則

1 この法律は、昭和二十四年六月一日から施行する。

2 左の勅令及び政令は廃止する。但し、法律(これに基き命令を含む)に別段の定がある場合を除くほか、従前の機関及び職員は、この法律に基き相當の機関及び職員となり、同一性をもつて存続するものとする。

文部省官制(昭和十七年
勅令第七百四十八号)

日本芸術院官制(昭和十二年
勅令第二百八十号)

日本藝術院令

(昭和二十四年六月一日
政令第二八一号)

内閣は、文部省設置法(昭和二十四年法律第四百十六号)第二十三条第三項の規定に基き、この政令を制定する。

(日本芸術院の目的)

第一条 日本芸術院は、芸術上の功績顯著な芸術家を優遇するための榮譽機関とする。

2 日本芸術院は、芸術に関する重要事項を審議し、芸術の発達に寄与する活動を行い、及び芸術に関する重要事項について文部大臣に建議することができる。

(組織)

第二条 日本芸術院は、院長一人及び職員百人以内で組織する。

2 日本芸術院に左の三部を置く

第一部 美術

第二部 文芸

第三部 音楽、演劇、舞蹈

3 会員は、いずれかの部に分属する。

第三条 会員は、部会が推薦し、總會の承認を経た候補者につき、院長の申出により、文部大臣が任命する。

2 前項の部会の推薦する者は、部会において芸術上の功績顯著な芸術家につき選挙を行い、部会員の過半数の投票を得た者とする。

3 前項の投票において、病氣その他の事故のため出席できない者は、郵便その他の方法により投票することができる。

る。

第四条 会員は、終身とする。但し、会員が、退任を申し出た場合には、總會の承認を経てこれを認めることができる。

第五条 院長は、芸術に關し卓越した識見を有する者につき、会員の選挙により過半数の投票を得た者を、文部大臣が任命する。

2 前項の場合において、過半数の得票者のないときは投票の最多数を得た者一人につき、更に会員が投票を行い、多数の得票を得た者をもつて当選者とする。但し、得票数が同数のときは、年長者をもつて当選者とする。

3 第三条第三項の規定は、前一項の選挙に準用する。

4 院長の任期は、三年とする。

5 院長は、非常勤とする。

6 院長は、院務を総理する。

7 院長に事故があるときは、部長のうち最年長者が、その職務を代理する。

第六条 各部に属する会員により部長として互選された者は、各部の部務を掌理する。

2 部長は、三年ごとに改選する。

(公會)

第七条 日本芸術院の會議は、總會、部会及び連合部会とする。

2 總會は、年一回、院長が招集する。但し、必要があるときは、臨時にこれを招集することができる。

3 部会は、部長が招集する。

4 連合部会は、關係する部の部長の申

出により、院長が招集する。

5 総会は、会員の過半数が出席しなければ、議決をすることができない。但し、あらかじめ通知した議題について、書面をもつて意思を表示した者は、その議題に限り、出席したものと認めることができる。

6 総会の議決は、出席した会員の多数による。

7 前一項の規定は、部会及び連合部会の会議に準用する。

（職員）
第八条 日本芸術院に事務長一人及びその他の職員五人以内を置く。

2 事務長は、院長の指揮をうけ、日本芸術院に関する庶務を整理し、その他の職員は、上司の指揮をうけ、庶務に従事する。

（雑則）
第九条 この政令の定めるもののほか、日本芸術院の運営に關し必要な事項は、総会の議を経て院長が定める。

附則
この政令は、公布の日から施行し、昭和二十四年六月一日から適用する。

日本藝術院会則

（昭和二十五年五月三十日
総会決議）

第一条 日本芸術院各部の定員は、左に掲げる通りとする。

第一部 美術 五十名以内

第二部 文芸 三十名以内

第三部 音楽、演劇、舞踊 二十名以内

第二条 各部に左の分科を置く。

第一部 美術

第一分科 日本画

第二分科 洋画

第三分科 彫塑

第四分科 工芸

第五分科 書

第六分科 建築

第二部 文芸

第七分科 小説、戯曲

第八分科 詩歌

第九分科 評論、翻訳

第三部 音楽、演劇、舞踊

第十分科 洋楽

第十一分科 邦楽（能楽及び雅楽を含む）

第十二分科 演劇（人形劇及び映画を含む）

第十三分科 舞踊（洋舞及び邦舞を含む）

第三条 日本芸術院会員の候補者を選考するため、日本芸術院に日本芸術院会員選考委員会を置く。

2 前項の委員会については、日本芸術院会員選考委員会規則の定めるところによる。

第四条 日本芸術院は卓越した芸術作品と認められるものを製作した者及び芸術の進歩に貢献する顕著な業績ありと認める者に対して賞を授ける。

2 前項の授賞については、日本芸術院

授賞規則の定めるところによる。

第五条 院長は、総会及び連合部会の議長となり、議事を整理する。

2 部長は、部会の議長となり、議事を整理する。

3 総会、部会又は連合部会の議事が、可否同数のときは、議長が決するところによる。

第六条 一の部において、その部に属する会員の三分の一以上の請求があるときは、その部の部長は部会を招集しなければならぬ。

2 二の部において、それらの部に属する会員の各三分の一以上の請求があるときは、院長は、連合部会を招集しなければならぬ。

第七条 部会または連合部会の議長は、必要があると認めるときは、他の部に属する会員中適当な者を指名して部会または連合部会に出席を求め、その意見を求めることができる。

第八条 会議を公開するか否かは、その都度これを定める。

第九条 この会則の改正は、総会の議決がなければ行ふことができない。

日本藝術院会員選考委員会規則

昭和二十五年五月三十日
総会決議
昭和二十八年五月二十六日
一部改正
昭和二十九年五月二十一日
一部改正

補者選考委員会（以下「委員会」といふ）を置く。

第二条 委員会は、三十人以内の委員をもつて組織し、委員の任期は一年とする。但し、再選を妨げない。

2 委員に欠員を生じたときは、各部において予め定めた順位に従い委員を補充する。

3 補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会に美術、文芸及び芸能の三選考部会を置く。

第三条 日本芸術院の各部会員はその互選により、各々十人以内の委員を選出する。

第四条 日本芸術院長は、委員会の委員長として、その会務を総理する。

2 委員長に事故があるときは、出席委員により、代理委員長として互選されたものが、委員長の職務を代理する。

第五条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。但し、委員はやむを得ない事情があるときは、自己の属する部会の他の委員に、議決権を委任することができる。

2 前項の規定は、部会の議事に準用する。

第六条 日本芸術院会員は、その所属する部会に属すべき候補者を当該選考部会に対し推薦することができる。

第七条 選考部会は、推薦された候補者につき、選考に必要な調査をしなければならぬ。

2 選考部会は、推薦者及び被推薦者に
対し、選考に必要な資料の提出を求め
ることができる。

3 選考部会は、日本芸術院会員、会員
以外の学識経験者等適當なる者から、
候補者の選考に關し、意見を聴取する
ことができる。

第八条 各選考部会は、被推薦者につき、
その調査にもとづく調査書を作成し、
順位を附して委員会に報告しなければ
ならない。

2 委員会は、選考部会の報告にもとづ
き、候補者に推薦された者について、
補充すべき会員数だけの無記名連記投
票を行う。

3 前項の場合各部の投票数は同数とな
るよう取り計い、また候補者が属すべ
き部会の委員の投票は二倍に計算する
ものとする。

第九条 委員会は、前条の選挙により、
出席委員の過半数の得票を得た者を当
選者とする。但し、過半数の得票者が
各部につき、その部にて補充すべき会
員数の二倍をこえるときは、その限度
に達するまで、得票順によつて候補者
を決定する。各部につき、過半数の得
票のない場合は、最高点者と次点者
につき、決戦投票を行い、過半数を得
た者を当選者とする。

第十条 委員会は、候補者を決定した後
選考部会の報告にもとづいて審査報告
書を作成しなければならない。

2 前項の報告書には各被推薦者につい
て、選考部会の決定した順位及び委員

美術関係法規

会の得票数を記載しなければならない
い。

第十一条 委員会は、前条の規定により
作成した審査報告書を日本芸術院の各
部長に提出するものとする。日本芸術
院の各部は前項の審査報告書に記載さ
れた候補者について選挙を行う。

日本藝術院授賞規則

昭和二十五年五月三十日 議決
昭和二十八年五月二十六日 改訂
昭和二十九年五月二十一日 改正
第一部 改訂
第二部 改正

第一条 日本藝術院は、卓越した芸術作
品及び芸術の進歩に貢献する顯著な業
績ありと認める者に対して授賞する。
第二条 賞は、恩賜賞及び日本藝術院賞
とする。

2 恩賜賞は、毎年一個とし、もしその
年度内に授与しないときは、繰越して
授与することができる。
第三条 賞は、賞状及び賞金とする。
第四条 賞は、日本藝術院会員でない者
に授ける。但し擬賞の議決があつた後
会員となつた者は此の限りでない。

第五条 授賞は、日本藝術院会員の推薦
による。
2 日本藝術院会員が授賞の推薦をしよ
うとするときは、その所属する分科に
属すべき候補者を毎年十二月その所属
の部会に提議しなければならない。

3 前項の提議のあつた場合は、部会は
各部会員より互選された委員をもつ
て組織する授賞候補者選考委員会(以

下委員会といふ)において授賞候補者
又は授賞候補作品の選考審査を行う。

4 委員は、各部より十名以内互選す
るものとする。委員の任期は一年とす
る。但し再選は妨げない。
5 委員会は、選考審査につき必要ある
場合は、委員以外の日本藝術院会員又
は学識経験者の意見を徴することができる。

第六条 委員会の議決は多数決による。
第七條 委員会は、選考並びに審査の経
過及び結果を部会に報告しなければならない。

第八條 部会における擬賞の議決には、
投票総数の過半数の賛成を要する。
第九條 前条の規定によつて擬賞の議決
のあつたときは、部長は部会における
結果について総会に報告しその承認を
得なければならない。

第十條 擬賞の議決については、投票は
無記名とする。
2 病氣その他の事故で出席することが
できないものは、封書で投票すること
ができる。

第十一條 賞を受けた者は、受賞の目的
である作品又は著書にその旨を表示す
ることができる。
第十二條 擬賞の議決があつた後、賞を
受くべき者が死亡した場合には、日本
藝術院は授賞の旨を告示しその者に授
くべき賞の処分を定める。

日本藝術院年金支給規則
(昭和二十五年五月三十日 議決)

第一条 年金は区分して六月、九月、十
二月、三月の四期にこれを支給する。
第二条 年金を支給する場合は、初年度
において、その発令が六月三十日以前
にある者は全額を、九月三十日以前に
ある者はその四分の三を、十二月三十
一日以前にある者はその二分の一を、
三月三十一日以前にある者はその四分
の一を支給する。
2 年金受領者が死亡した場合の支給額
は、その月の属する受給期分までとす
る。

日本藝術院会員

院長

昭和二三、八、一一 高橋誠一郎

第一部 会員

昭和一一、二、六、二四 鍋木 健一(清方)

川合芳三郎(玉堂)

菊池 完爾(契月)

小林 茂(古徑)

西山卯三郎(翠嶂)

前田 廉造(青邨)

松林 篤(桂月)

結城 貞松(素明)

安田新三郎(靉彦)

昭和二三、四、一七 福田平八郎

奥村 義三(土牛)

野田 道三(九浦)

小野 英吉(竹喬)

中村 恒吉(岳陵)

堂本三之助(印象)

昭和二五、一一、一五 山口 三郎(蓬春)

昭和一一、六、二四 有島壬生馬(生馬)

昭和一二、六、二四 石井 満吉(柏亭)
梅原龍三郎

昭和一二、六、二四 小杉國太郎(放庵)
中澤 弘光

昭和一二、六、二四 藤田 嗣治
安井曾太郎

昭和一二、六、二四 山下新太郎
和田 英作

昭和一二、六、二四 和田 三造
辻 永

昭和一二、七、一四 須田國太郎
昭和一二、一〇、五 川島理一郎

昭和一二、一、二五 中村 研一
昭和一二、六、二四 朝倉 文夫

北村 西望
齋藤 知雄

佐藤 清藏
内藤 伸

平籾偵太郎(田中)
藤井 浩佑

昭和一二、五、六、一 石井 鶴三
昭和一二、六、二四 板谷 嘉七(波山)

清水 六和
松田 權六

昭和一二、二、一七 海野 清
昭和一二、五、二、一五 高村 豊周

昭和一二、一、一 岩田 藤七
昭和一二、六、二四 尾上 八郎(柴舟)

昭和一二、七、一四 豊道 慶中(春海)
昭和一二、九、一、一 吉田五十八

第二部、第三部 会員略
(昭和二九年九月現在)

日本美術展覧会

日本美術展覧会運営会規則
第一条 本会は、日本美術展覧会運営会と称し、事務所を日本芸術院(文部省内)に置く。
第二条 本会は、日本芸術院に協力して、日本美術展覧会を開催することを目的とする。

第三条 本会は、日本芸術院第一部会員をもつて組織する。
第四条 本会に左の役員を置く。

第五條 会長は、日本芸術院長をもつてこれに充てる。
会長は、本会を代表し、会務を総理する。

第六條 理事は、理事会の議長となる。
理事は、理事会の互選によつてこれを定め、理事会を構成する。

理事中若干名を常任理事とし、会長これを依職する。
会長事故あるときは、その指定した常任理事これを代理する。

第七條 理事の任期を二年とし、毎年その半数を交替する。
第七條 理事会は、会長これを招集する。理事会は本会の運営上重要な事項を審議する。

理事会は全員の半数以上出席しなければ議決をなすことができない。但し、会議に出席することのできない者は、予め通知された事項について書面をもつて表決をなし、又は委任状を提出す

ることにより他の理事を代理人とすることができ、

理事会の議事は出席者の過半数をもつてこれを決する。可否同数のときは、議長が決する。

第八条 本会に参事若干名を置く。
参事は、会長がこれを指名する。
参事は、日本美術展覧会の運営に關し、会長の諮問に應ずる。

参事の任期は二年とする。ただし留任を妨げない。
第九条 本会の事務を処理するため事務局を置く。

第十回日本美術展覧会規則

第一章 総則
第一条 日本美術展覧会は、日本芸術院と日本美術展覧会運営会(以下日展運営会という)が開催する。

第二条 展覧会は、作品の種類に依つて左の五科に分け、各科の総合展覧会とする。

第一科 絵画(日本画)
第二科 絵画(油画、水彩画、パス
テル画、素描、創作版画)

第三科 彫塑
第四科 美術工芸
第五科 書(漢字、仮名、てん刻)

第三条 陳列する作品は鑑査して決定する。
鑑査を経て陳列された作品及び次項第六号に規定する作品については、審査の上特選として授賞することができ、第四、五、六号についてはその他

の賞を授与することがある。但し左の各号の一に該当するもの専門技術による作品は、前項の規定にかかわらず、無鑑査で陳列することができる。

一、日本芸術院会員
二、日展運営会参事
三、当該年度審査員
四、前年度審査員
五、本展覧会に出品を依頼されたもの

六、前年度特選受賞者
第四条 鑑査、審査及び陳列のため審査員長及び審査員を置く。

審査員は、日本芸術院会員の一部、日展運営会参事の一部及び本展覧会に出品を依頼された者等の中から日本芸術院会員が選考したもものにつき、日本芸術院長がこれを依職する。審査員の各

科員数は、第一科十五名、第二科二十一名、第三科十五名、第四科二十一名、第五科十五名以内とする。

第五条 審査員は、その専門によつて第一科から第五科に分類し、その属する科の作品について鑑査及び審査を行う。各科の審査員はその互選によつて審査主任を決定する。各科の審査主任はその互選または推薦によつて審査員長を決定する。

第六条 本展覧会に出品を依頼されるものは、日本芸術院会員が特に優秀な作家と認められたものの中から選考したものに、日本芸術院長が指名する。(出品を依頼されるもの指名は、毎年これをおこなう)

その員数は第一科八十五名、第二科百六十六名、第三科五十八名、第四科七十三名、第五科三十七名以内とする。

第二章 出品

第七条 出品作品は自己の製作したものに限り。

出品作品とは無鑑査出品作品及び応募作品をいう。(以下作品と称する)故人(無鑑査)の製作したものはその遺族において、運営会の承認を経てこれを出品することができる。

第八条 第三科の作品で原型製作者と実材製作者とが異るときは原型製作者とその出品人とする。

第四科の作品で協同製作であるときは、その代表製作者一名を出品人とする。この場合には、代表製作者は協同製作者の氏名を附記することができる。

第九条 作品は各科ともに一点とする。

第十条 作品の大きさの制限を次の通りとする。(但し額とも)

第一科は縦十尺、横七尺以内。第二科は百号以内。第五科は条幅は巾三尺以内のものは丈八尺を限度とす。

巾三尺以上六尺までのものは、丈七尺を限度として運搬にも便ならしむる様仕上ぐるものとす。(対幅は巾三尺、丈八尺以内の寸法で二枚とすることが出来る)但し額及び横巻に限り縦三尺横八尺以内とする。

第十一条 左に掲げる作品は提出することができない。

一、製作後五年以上経たもの
二、既に公募の展覧会に出陳したこ

とがあるもの

第十二条 作品はすべて所定書式の申込書に所定の手数料五百円を添えて公示の場所に搬入しなければならない。既納の手续费は返付しない。作品に題名及び出品人氏名を明示しなければならない。

第十三条 作品を受理したときは、本展覧会は引換に預り証を交付する。

第十四条 受理された作品は撤回することができない。但し審査員長の許可を得たときはこの限りでない。

第十五条 第一科の作品は額面、屏風。第二科の作品は額面とし、わく縁を附け、第五科の作品はてん刻の外はわく張額面、屏風(二曲、四曲)横巻、帖および対幅とし、すべて縦八寸、横五寸以内の積文二枚を附けるものとする。

積文を添えぬ作品は受理しないことがある。てん刻は印影(台紙寸法縦一尺二寸、横一尺以内)をつける。てん刻の連作の二題は一点と見なす。

第十六条 作品の荷造及び運送費はすべて出品人の負担とする。

第十七条 受理した作品の保管については、本展覧会での責を負う。但し正常な管理のもとにおいて生じた紛失、破損等に対してはその責を負わない。

第十八条 受理した作品の撮影または模写は、出品人の承諾のあるものに限る。審査員長が許可する。

前項の許可を受けたものが会場で作品の撮影または模写をするときは、許可証を係員に示し、その指図を受けるこ

とを要する。日本藝術院または日展運営会は受理した作品を撮影若しくは模写し、またはこれを刊行することがある。

第三章 鑑査、審査及び陳列

第十九条 鑑査、審査及び陳列の方法は、各科の審査員がこれを決定し審査員長の承認を得るものとする。

第二十条 鑑査及び審査の結果は、審査主任から審査員長に報告しその承認を得て決定するものとする。

第二十一条 出品者は鑑査及び審査に対して異議を申し立てることはできない。

第二十二条 出品者は陳列の位置、配列等に対して異議を申し立てることはできない。

第四章 売却及び搬出

第二十三条 陳列作品の売却については本会は関与しない。

第二十四条 陳列作品は地方展陳列作品を除き十二月三日より同月七日まで(午前十時から午後四時まで)出品人において搬出することを要する。前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で処置することがある。

第二十五条 陳列することに決定した作品以外のものは、十一月三日より同月七日迄、(午前十時から午後四時まで)出品人において預り証を提示のうえ搬出することを要する。

前項の期間内に搬出されないものは日展運営会で処置することがある。

第五章 観覧

第二十六条 観覧時間は開会中毎日午前

九時から午後四時までとする。但し都合によつてこれを伸縮または観覧を停止することがある。

第二十七条 観覧者は陳列品に触れてはならない。観覧者は場内の指示に従わなければならない。

第二十八条 観覧者で、他の観覧者の鑑賞を妨げるおそれがあると認められるものは、入場を禁止し、または退場させることがある。

第二十九条 観覧の入場料を百円とする。

第六章 地方日展

第三十条 東京展終了後、開催希望道府県教育委員会又は、美術館、新聞社、文化団体等と日展運営会との共同主催によつて地方展を開催する。

第三十一条 地方展の開催地、開催期日その他は日展運営会と開催希望地代表者と協議の上定める。

第三十二条 地方展は東京展出陳作品中より選ばれたものをもつて構成する。

今般日本藝術院及び日本美術展覧会運営会において第十回日本美術展覧会の会場、出品期限その他を次のように定めた。

名称 第十回日本美術展覧会
会場 東京都台東区上野公園内東
京都立美術館
会期 昭和二十九年十月二十九日
から十二月一日まで

搬入期日 出品申込み及び作品の受理
期間は昭和二十九年十月十日
から同月十四日までとす

る。但し無鑑査者の出品は十月二十四日までとし、前年度特選受賞者は十月二十日までとする。出品は右期間内毎日午前九時から午後四時まで金五百円の手数料を添えて所定書式の申込書と共に之を会場に搬入しなければならない。

事務所

本会の事務所は昭和二十九年十月七日までは日本芸術院事務局内(文部省内)に、十月八日以後は会場に置く。

注意

彫塑工芸の出品について未納税移出承認申請書の提出は不要です。但し作品の移動についてその移動期間及び作品名を作者居住地の所轄税務署に届け出ると同時に、作者自身の帳簿にも記載しておかねばなりません。

日本美術展覧会運営会役員

会長及理事(◎非常任理事)

- 会長 高橋誠一郎
- 理事 ◎中村 岳陵
- ◎堂本 印象
- 山口 蓬春
- 福田平八郎
- ◎辻 永
- ◎山下新太郎
- 石井 柏亭
- 中村 研一

理事

- ◎藤井 浩佑
- ◎齋藤 知雄
- 朝倉 文夫
- 北村 西望
- ◎高村 豊周
- ◎岩田 藤七
- 松田 權六
- ◎尾上 八郎(柴舟)
- ◎豊道 慶中(春海)

参事(昭和二十九年五月二二日改選)

- 池田 遙邨、伊東 深水、岩田 正巳
- 宇田 荻邨、大智 勝觀、堅山 南風
- 金嶋 桂華、川崎 小虎、児玉 希望
- 德岡 神泉、服部 有恒、望月 春江
- 森 白甫、矢野 橋村、山口 華楊

第二科(西洋画)一四名

- 石川寅治、伊原宇三郎、大久保作次郎
- 鬼頭鍋三郎、木下 孝則、小絲源太郎
- 小山 敬三、齋藤 與里、鈴木千久馬
- 寺内萬治郎、中野 和高、裕 伊之助
- 長谷川 昇、三上 知治

第三科(彫塑)一五名

- 雨宮 治郎、加藤 顯清、國方 林三
- 古賀 忠雄、後藤 清一、佐々木大樹
- 澤田 晴廣、清水多嘉示、橋本 朝秀
- 藤野 舜正、堀 進二、松田 尚之
- 横江 嘉純、吉田 三郎、吉田 久継

第四科(美術工藝)二一名

- 飯塚琅玕齋、石田 英一、大須賀 喬
- 各務 鑛三、香取 正彦、河村 靖山
- 岸本 景春、清水六兵衛、楠部 彌式
- 杉田 禾堂、高野 松山、内藤 春治

正倉院評議会規程

(昭和二十二年七月十四日)
(宮内府訓令第八号)
改正(昭和二十四年六月一日)
(宮内庁訓令第一号)

正倉院評議会規程

第一条 宮内庁に、正倉院評議会を置く。

第二条 正倉院評議会は、宮内庁長官の諮問に応じ、正倉院に関する重要事項を審議する。

第三条 正倉院評議会は、会長及び会員で、これを組織する。

第四条 会長及び会員は、宮内庁長官が、これを委嘱する。

第五条 会長は、会務を総理し、正倉院評議会の意見を、宮内庁長官に答申する。

正倉院評議会

- 正倉院評議会 会長 安倍 能成
- 瓜生 順良
- 鈴木 菊男
- 西原 英次
- 原田 淑人
- 細川 護立
- 辻 善之助
- 安田新三郎
- 芝 葛盛
- 小宮 豊隆
- 石田 茂作
- 本郷 定男
- 稻田 周一
- 三井 安彌
- 高橋誠一郎
- 原田 治郎
- 和辻 哲郎
- 上野 直昭
- 藤田 亮策
- 淺野 長武
- 黒田 源次
- 高尾 亮一
- 和田 軍一

帝室技藝員

帝室技藝員の制度は明治二十三年一〇月我が皇室におかれられて、明治維新以来藝術的に衰退し経済的に困窮していた当時の我が美術界振興の思召から制定されたもので、帝室技藝員には人格藝術共に後進の師表と仰がれる大家を、特にその為選ばれた委員をして銓衡させ、任命されたものである。

帝室技藝員名簿

- 日本画 川合 玉堂 拜命年月 大正六年六月
- 横山 大觀 昭和六年六月
- 安田 靱彦 昭和九年一二月
- 菊池 契月
- 西山 翠嶂 昭和一九年七月
- 堂本 印象
- 鈴木 清方
- 前田 青邨
- 松林 桂月

洋画 小林 古徑 昭和一九年七月
和田 英作 昭和一九年二月
金山 平三 昭和一九年七月
中澤 弘光 多
梅原龍三郎 多
安井曾太郎 多

彫刻 朝倉 文夫 多
平櫛 田中 多

工藝 板谷 波山 昭和九年一月

美術関係研究施設

東京大学史料編纂所

東京都文京区本富士町
電小石川二一六六、三一八五
(内線三〇一六)

史料編纂所は明治二年三月史料編輯国史校正局を旧和学講談所に設置したのに初まり其後数度の改変を経て明治二八年四月史料編纂掛として帝国大学文科大学に置かれ、更に昭和四年七月史料編纂所と改称した。同二年四月東京大学附置研究所に改組、現在に至っている。本邦に関する史料の研究、編纂及び出版を行い、第一部(編年史料)第二部(古文書)第三部(古記録)第四部(近世、維新史料)第五部(海外史料)第六部(史料調査)事務部の七部を置く。(所長)坂本太郎(一部長)第二(吉村茂樹、第二(寶月圭吾、第三)川崎庸之(第四)伊東多三郎、第五)岡田章雄、(第六)森末義彰、

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区大塚町五五六
電大塚五〇九、六九八六

東洋文化の総合研究を目的として昭和一九年一月東京帝国大学内に設置された。昭和二三年四月外務省所管東方文化学院を併合し研究所を文京区大塚町に移した。設立当初は哲・文・史学部、法・政、経・商部の三部門であつたが昭和二四年新に三部門を加へ、更に二六年二部門を増加し現在、一、哲学・宗教二、文学・言語 三、歴史 四、文化人類学五、人文地理学 六、美術史・考古学七、法律・政治 八、経済・商業の八部門に分れている。研究発表は講演会の外本研究所発行の「東洋文化研究所紀要」或は東洋学会機関誌「東洋文化」を通じて行つている。

(所長) 仁井田陞 [教授] 仁井田陞、飯塚浩二、(兼)山田盛太郎、江上波夫、結城合開、植田捷雄、米澤嘉圃、(兼)丸山真男、川野重任、石田英一郎、(兼)辻直四郎

東京国立文化財研究所 美術部

(美術研究所)

東京都台東区上野公園
電駒込四四八七、一九二三

当所は故黒田清輝子爵の遺志に基づき、その遺産を以て開始されたもので、昭和五年開設の準備完了とともに政府に寄附移管された。初め帝国美術院附属として設置されたが昭和一九年六月帝国美術院

美術関係法規・美術関係研究施設

改革に伴い、新に美術研究所官制を制定、文部省所管、帝国美術院に附置され、次で昭和一二年六月官制改正の上文部省の直轄研究所となつた。昭和二二年国立博物館官制の成立とともに同館附属の研究所となり、更に昭和二五年八月文化財保護法制定により国立博物館より分離し、美術研究所として文化財保護委員会の附属となつた。次いで同二七年四月文化財保護法の一部改正に伴い東京文化財研究所が設置されるに及んで同研究所の美術部として藝能部・保存科学部と共に新発足し、更に昭和二九年七月文化財保護法の一部改正により、東京国立文化財研究所美術部となつた。現在の内部組織は庶務室(東京国立文化財研究所の人事並びに業務全般の事務的統轄管理及び総合調整を行う)第一研究室(東洋及び日本の古美術の調査研究を行う)第二研究室(日本の近代及び西洋美術の調査研究を行う)資料室(図書、写真等基礎資料の蒐集の他、特殊写真による光学的研究を行う)となつている。定期刊行物としては「美術研究」「日本美術年鑑」が有り、また「美術研究資料」や「研究報告」等を出版、その他随時講演会・特別展観等を開催する。なお所内には黒田記念室を設けその遺作を陳列、毎週木曜日午後六時に公開している。美術研究のために着実な基礎を提供すると共に文化財の保存活用に貢献している。

(所長) 田中一松 (美術部長) 福山敏男 (室長) (庶務室) 小島忠二、(第一研究室) 熊谷宣夫、(第二研究室) 隈

元謙次郎、(資料室) 福山敏男(二〇一、二〇二、二一九、二二九頁参照)

産業工藝試験所

東京本所 大田区下丸子町三二一三
電蒲田六一四一―一六

同分室 中央区銀座七ノ五
(工業技術院内)

東北支所 電銀座六二二―一九
仙台台 七四八、七四九

九州出張所 電久留米 三三三・三三九
久留米市津福本町 三六

我国固有の技術である木工・金工・漆工その他各種工藝産業の改善発達を図るため、昭和三年設置された。当初商工省内に仮事務所を設け、同年一月仙台市内に建築中の庁舎竣工と共に事務を移転し事業を開始したが、其後事業の進展に伴い東京における調査研究の必要を認め昭和八年五月商工省内に本所出張員事務所を設け常時所員を駐在せしむる事となつた。昭和一二年八月には官制の改正に依り「木工及金属工品」を「工藝品」に改め職員を増員し、必要と認められる地に支所を置き事務を分掌させることとなつた。昭和一四年八月に輸出工藝雑貨の中心地である大阪江の子島に関西支所を置き、翌一五年一月には商工省告示を以て工藝指導所本所を東京市に移転、又従来の仙台の施設を東北支所に改めて態勢を強化した。戦時中は研究の方向転換を余儀なくされ、本所、関西支所は戦災焼失した。昭和二三年一月川崎市久地元日

本光学工場を借用し本所の再建を図ると共に同年八月久留米市に九州支所を設置、同二四年四月には布施市に関西支所を新築した。近時工藝指導所の業務内容も発展し、工藝に関する研究指導の外、工業意匠の改善研究、包装に関する研究等を加えて研究諸施設の整備充実を図つてゐる。昭和二六年本所を現在地へ移設、二七年機構を改め、関西支所を廃し、通商産業省工業技術院の管轄の下に名称も産業工藝試験所として新発足した。組織と事務分掌は左の通りである。

〔指導部〕

〔企画課〕—試験研究等の調整、広報事務、〔指導課〕—工藝・意匠・包装技術の指導、研究成果の実施、講習・講演・展示・鑑定審査の実施その他、〔調査課〕—工藝・意匠・包装技術の調査、調査統計資料・研究資料の調査等

〔意匠部〕

〔工業意匠課〕—工業製品の意匠の図案設計・試験・研究等、〔雑貨意匠課〕—工藝品意匠の図案設計・試験・研究等

〔技術部〕

〔技術第一課〕—木工・塗装を主とする工藝品の工作技術の試験・研究等〔技術第二課〕—金工を主とする工藝品の工作技術の試験・研究等、〔試験課〕—原材料の品質、規格及試験、研究等

〔包装部〕

〔包装試験課〕—包装原材料・製品の試験・研究等〔包装技術課〕—包装技術の試験・研究等

〔庶務課〕 庶務・人事・会計・用度等

〔東北支所〕 (指導課)—工藝品の意匠・設計の研究・指導、地方工藝技術事情の調査等 (漆工課)—漆工品の素地工作・塗装・加飾・金属部分の試験・研究等 (試験課)—漆液・漆器素地の原材料の品質・規格の試験・研究等 (庶務課)—支所の庶務・人事・会計等

〔九州出張所〕 地方工藝技術の指導・調査、工藝品・工業製品・包装の意匠の設計・研究・指導

〔所長〕 松崎福三郎 (部長) (指導部) 藤井左内、(意匠部) 劍持勇、(技術部) 岡籬太郎、(包装部) 福岡和雄、(課長)

〔庶務課〕 小吹善男、(企画課) 伊達信義、(指導課) 畑正夫、(調査課) 服部茂夫、(工業意匠課) 明石一男、(雑貨意匠課) 芳武茂介、(技術第一課) 船倉鏡、(技術第二課) 梶尾宗一、(試験課) 小松和、(包装試験課) 芦原晋、(包装技術課) 有吉金太

〔東北支所長〕 安部郁二、〔課長〕 (指導課) 猪狩英一、(漆工課) 武田豊太郎、(試験課) 鈴鹿清之助、(庶務課) 栗山樹人(九州出張所長) 松田一雄

京都大学人文科学研究所

京都市左京区北白川小倉町五〇 電 吉田四〇五

本研究所は昭和一四年八月、国家に須要なる東亜に関する人文科学の総合研究を行うため設立された京都大学人文科学研究所を中核として、外務省所管東方文化研究所と、財団法人西洋文化研究所を合併して昭和二四年三月新に世界文化に関する人文科学の総合研究を行う研究所として発足した。創立の際は三部門であ

つが、合併により一部門に増加し、これを日本部、東洋部、西洋部に分け相互に協力して研究を推進している。「京都大学人文科学研究所紀要」其他出版物、講演会によつて研究発表を行い、又常設人文科学講座を開いている。

〔所長〕 貝塚茂樹 (教授) (日本部) 坂田吉雄 (東洋部) 塚本善隆、安部健夫、貝塚茂樹、水野清一、森鹿三、藪内清、長尾敏雄、岩村忍、(西洋部) 桑原武夫、清水盛光

奈良国立文化財研究所 奈良市春日野町五〇 電 奈良 五五七五

昭和二七年文化財保護法の一部改正が行われ、同法の規定に基き同年四月一日、奈良市に当研究所が設置された。所内の組織は庶務室、及び美術工藝研究室 (絵画、彫刻、工藝品、書その他建造物以外の有形文化財並びに工藝技術に関する調査研究を行う) 建造物研究室 (建造物に関する調査研究を行う) 歴史研究室 (考古及史跡に関する調査研究を行う) の四室からなつてゐる。

〔所長〕 田澤坦 (室長) (庶務室) 森川幸男、(美術工藝研究室) 小林剛、(建造物研究室) 森蘊、(歴史研究室) 田澤坦 (二〇一、二〇二、二三〇頁参照)

美術関係学会 (五〇音順)

(括弧内は代表者)

京都大学美学会 京都市左京区吉田 京大文学部美学美術史研究室内 電吉田四一一(井島勉)

藝術学会 文京区大塚窪町 東京教育大学内 電 大塚一八一 (三哲正雄) 古文化資料自然科学研究会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込三七一一(内線三八)(柴田雄次) 機関誌「古文化財之科学」発刊 史学会 文京区本富士町東京大学文学部内(坂本太郎)機関誌「史学雑誌」発刊 東方学会 千代田区西神田二ノ二 電 九段一〇六一(羽田亨)機関誌「東方学」 「東方学論集」各々二回発刊 東洋学会 文京区本富士町 東京大学東洋文化研究所内 電 小石川二二二(内線二九六)(長内太郎吉) 機関誌「東洋文化」発刊 日本藝術学会 文京区本富士町 東京大学文学部美術史研究室内 電 小石川二二二(内線四五二)(藤懸静也) 機関誌「藝術学報」発刊 日本建築学会 中央区銀座西三ノ一 電 京橋一三三二、一三三八、六〇八〇 (石井桂) 機関誌「建築雑誌」発刊 日本考古学会 台東区上野公園 東京国立博物館内 電 駒込三七一—一五 (原田淑人) 機関誌「考古学雑誌」発刊 日本考古学協会 文京区森川町 東京大学文学部考古学教室内 (藤田亮策) 「日本考古学年報」発刊 日本民俗学会 世田谷区成城町三七七 民俗学研究所 電 砧八一—二六(柳田国男) 美学会 文京区本富士町一 東京大学文学部美学研究室内 電小石川一三二(内線二三五一)(竹内敏雄)機関誌「美学」発刊

美術教育学会 台東区上野公園東京藝術大学美術学部内 電 駒込三七六一(小塚新一郎)

美術史学会 台東区上野公園 東京国立文化財研究所内 電 駒込四四八七(熊谷宣夫) 機関誌「美術史」発刊

仏教史学会 京都市中京区東洞院三条上ル四四九 平楽寺書店内 電 本局一六(禿氏祐祥) 機関誌「仏教史学」発刊

三田藝術学会 港区芝三田 慶応義塾大学文学部藝術学研究室内 電 三田五一八一(守屋謙二)

早稲田大学美術史学会 新宿区戸塚町一ノ六四七 早稲田大学演劇博物館内

早稲田大学大学院文学研究科藝術科研究室内 電 九段八五八五内線八二(坂崎坦)

東北大学美術史学会 仙台市片平丁 東北大学美術史研究室内 電 仙台六一〇一(村田潔)

美術教育施設

(学校)

東京藝術大学美術学部

台東区上野公園 電 駒込三七六一一六

東京藝術大学美術学部の前身東京美術学校は明治二〇年一〇月勅令を以て設置せられ、文部省専門学務局長濱尾新が学長事務取扱を命ぜられ、同二二年二月授業を開始した。同二三年濱尾新に代つて岡倉寛三学長となつたが、同三一年

美術関係学会・美術教育施設

退官し、彼と共に教授橋本雅邦以下多数の教授、助教授が辞職した。高嶺秀夫、久保田鼎に次いで同三四年正木直彦学長となり昭和七年和田英作、同一一年芝田

徹心、同一一年澤田源一、更に同一一年六月上野直昭が学長に任ぜられた。昭和二四年五月三十一日法律第五十号を以て国立学校設置法が公布され、東京美術

学校は東京音楽学校と共に新制大学に包括され東京藝術大学美術学部及び東京藝術大学東京美術学校として夫々発足した。初代の学長には上野直昭、美術学部長には村田良策が任ぜられ、美術学部長

は村田良策の兼任となつた。次いで昭和二七年三月三十一日旧制課程廃止により東京美術学校及び同校附属工芸技術講習所は廃止された。

美術学部の学科は本科だけとなり旧制師範科は昭和二七年三月三十一日官制を以て廃止された。

〔本科〕
絵画科(日本画、油画)
彫刻科(石井教室、菊池教室)
工藝科(図案部、彫金部、鍛金部、鋳金部、漆藝部、工芸計画部)

建築科
藝術学科
修業年限 四年。授業料 年額六〇〇〇円。

入学資格
(1) 高校卒業者
(2) 通常の課程による一二年の学校教育を修了した者
(3) 文部大臣の指定した者

(4) 大学入学資格検定規程により文部大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

〔専攻生〕
入学資格 本学卒業生
〔聴講生〕
学生以外の者で本学に於て教授する学科日中一科目若しくは教科目を選び学習しようとするものは教授上差支ない場合に限り聴講を許可する。

検定料二五〇円。入学科二五〇円。聴講料一単位につき二〇〇円。

昭和二九年八月一日に於ける各科学学生数は左の通りである。

〔絵画科〕 男一八八名、女七〇名
〔彫刻科〕 男 九九名、女 八名
〔工藝科〕 男二二五名、女五七名
〔建築科〕 男 五三名
〔藝術学科〕 男 四六名、女二九名
〔専攻生〕 男 四一名、女一七名
〔聴講生〕 男 一八名、女二〇名

尚、陳列館と正木記念館があり、随時展覧を行い学生及び一般に公開している。

〔学長〕上野直昭〔美術学部長〕小塚新一郎〔教授〕村田良策、脇本十九郎、海野清、前田廉造、石井鶴三、丸山義男、松田義之、藤田亮策、岡田捷五郎、吉田五十八、内藤春治、松田権六、林武臣、西田正秋、横澤三郎、新規矩男、菊池一雄、摩壽意善郎、須藤雅路、伊藤廉、小磯良平、山本豊〔兼任教授〕谷信一〔助教〕入谷昇、太田榮吉、日下喜一郎、田中文雄、磯矢陽、久保守、内藤四郎、山

脇洋二、笹村良紀、吉村順三、三井安蘇夫、宮川ムツ、寺田春式、西本順、小池岩太郎、前田泰次、末田利一、六角顕雄、野口三千三、櫻林仁、小口八郎、新村撰吉、後藤年彦〔講師〕兼子秀賢、八木梯二、菅原安男、中島清、村田徳松、須田善二、上原之節、高田正二郎、田中芳郎、鈴木信一、山本學治、伊藤茂之、山口薫、川合清、牛島憲之、加山四郎、淀井敏夫〔非常勤講師〕蒔田宗次、藏田周忠、吉野富雄、黒崎静男、水谷武彦、佐藤隆三、豊田三郎、清水正雄、石川葉彌、酒井勉、鈴木清、吉川逸治、伊藤要太郎、岩佐正夫、山上正太郎、石田啓、成川武夫、時岡弘、奥野吟右衛門、藏田藏、毛利登、勝見勝、服部茂夫、明石亀太郎

京都工芸繊維大学
本部 京都市上京区
北野神社前
電 西陣 五三三―五三三

工芸学部 京都市左京区松ヶ崎
御所海道町
電 吉田 四四二―四四三

織維学部 京都市上京区
大将軍坂田町
電 西陣 三三三、三三三、四

明治三五年三月設置された京都高等工芸学校は昭和一九年四月官制改正により京都工業専門学校と改称、更に昭和二四年五月京都織維専門学校と合併して京都工芸繊維大学工芸学部及び織維学部となつた。京都工業専門学校は昭和二六年三月廃止された。

〔工芸学部〕 機械工芸学科、建築工芸

二四一

学科、色染工藝学科、窯業工藝学科、意匠工藝学科(昭和29年増設)

〔纖維学部〕 養蚕学科、製糸紡績学科、纖維化学科

学生定員は工藝学部各学科二二〇名(但し意匠工藝学科八〇名)とする。

〔学長〕 中澤良夫 〔工芸学部長〕 向井實三郎 〔纖維学部長〕 櫻井基 〔美術関係教授・講師〕 河本敦夫、土居次義、向井寛三郎、福永俊吉、藤原義一、大倉三郎、高原道夫、白石博三、明石剛助、霜鳥正三郎、須田國太郎、松田尚之

京都市立美術大学

京都市東山区今熊野 電 祇園 一五八

明治四二年三月創立された京都市立絵画専門学校は初め京都市立美術工藝学校の西隣に校舎を設けたが大正一五年現地に移転した。昭和二〇年京都市立美術専門学校と改称、更に昭和二五年新制大学令により京都市立美術大学となった。京都市立美術専門学校は昭和二七年三月廃止された。

〔学部及学科〕

〔学生定員〕

美術学部 日本画科 二二〇名
西洋画科 二二〇名
彫刻科 四〇名
工藝科 一一〇名
図案専攻、陶磁器専攻
塗装専攻、染織専攻
専攻科
〔学長〕長崎太郎 〔教授〕神原安造、黒田重太郎、須田國太郎、久松真一、金子光介、上野伊三郎、富本憲吉、松原厚、金

尾音美、石村忠次、重久篤太郎、岡本平一、佐和隆研、谷田岡次、上村信太郎
京都市日吉ヶ丘高等学校美術工藝課程
京都市東山区泉涌寺山内町
電 祇園 四一四二

明治一三年京都府画学校が設立され、その後二四年に京都美術学校、二七年に京都市立美術工藝学校と名称を変えたが、更に昭和二三年京都市立美術高等学校となり、同二四年には京都市立日吉ヶ丘高等学校の綜合制の中へ美術課程として併置された。三年の課程の上に更に実技の実習のために二年の専攻科を設置する。

〔学科〕
日本画科
西洋画科
彫刻科
図案科
漆藝科
陶藝科
服飾科

〔校長〕横山佐久郎 〔職員〕勝田哲、天野大虹、川島浩、松下明治、錦義一郎、矢野判三、藤庭賢一、安田謙、笠岡嘉一郎、水内平一郎、平石晃祥、中島清、加藤英子、他
女子美術大学
杉並区和田本町八六〇
電 中野 九一〇

明治三三年本郷弓町に女子美術学校として創立された。後菊坂に移り、昭和四年専門学校に昇格女子美術専門学校と改称、同一〇年杉並に移転した。昭和二四

年四月新制大学として女子美術大学となつた。

〔藝術学部〕

洋画科

日本画科

図案科

工藝科

修業年限 四年。授業料年額一五、〇〇円。

〔学長〕佐藤達次郎 〔主要職員〕加藤成之、森岡喜三郎、石橋嘉一郎、村岡景夫、澤柳大五郎、西田正秋、坂崎坦、富永惣一、久野健、後藤守一、川島理一郎、木下義謙、中山巍、森田元子、櫻井悦、佐々木四郎、岡田節子、春田安喜子、今井麗子、上原綾子、荻野康児、奥村土牛、三谷十糸子、後藤芳仙、大塚和、麻生秀二、新井泉、乗松巖、福田良一、由良玲吉、橋本徹郎、河野鷹思、松井直樹、上原之節、高田力之、桑澤洋子、柳宗悦、芹澤銈介、柚木沙彌郎、柳悦孝
多摩美術大学
世田谷区玉川上野毛町三三
電 玉川 五 六

昭和一〇年九月、北聆吉、牧野虎雄、杉浦非水、近藤清吾によつて多摩帝国美術学校が設立され、更に昭和二二年専門学校令による多摩造形藝術専門学校となつた。昭和二五年新制大学令に伴い、三年制の短期大学として多摩美術短期大学と改称したが、二八年度より四年制の新制大学となつた。

〔学科〕
絵画科(日本画、油画)

彫刻科(塑造、木彫)
図案科
修業年限 四年。

〔学長〕井上忻治 〔学部長〕逸見梅榮
〔職員〕奥村土牛、郷倉千靱、森白甫、新井勝利、島田訥郎、中村研一、宮本三郎、林武、鈴木信太郎、鈴木保徳、鈴木誠、大澤昌助、川端實、菊地精二、高橋庸男、長屋勇、佐々木大樹、笠置季男、末松正樹、早川巍一郎、圓鏡勝二、杉浦非水、山名文夫、吉田謙吉、今井兼次、芹澤銈介、木村和一、岩下洋
武蔵野美術学校
武蔵野市吉祥寺三二〇
電 武蔵野 二四七二

昭和四年設立された帝国美術学校は同二二年造形美術学園と改称され、更に同二四年武蔵野美術学校となつた。

〔学科〕

日本画科
西洋画科
彫刻科
デザイン科

以上の入学資格は新制高校、旧制中
学卒業者
研究科
本校卒業程度以上
修業年限 四年。学生定員五〇〇名。
授業料年額一二、〇〇〇円。

〔校長〕丸山鶴吉 〔教育部長〕名取堯
〔主要職員〕服部有恒、川崎小虎、林武、三雲祥之助、鈴木信太郎、森芳雄、清水多嘉示、原弘、鶴倉雄策、三林亮太郎、金原省吾、板垣應穂

附設図工科 教員養成所

修業年限一ヶ年(高校卒以上)

〔所長〕 名取堯

教職員は本校に同じ。

洋画通信教育部

各科職員は本部に同じ。

日本大学藝術学部

練馬区江古田町
電 落合(三三三七)

昭和六年専門部に藝術専攻科が設置されたのに始まり、昭和二年新制大学となり、大学院も併置している。

〔藝術学部〕

美術学科

音楽学科

文藝学科

演劇学科

写真学科

映画学科

〔藝術学部長〕 渡辺俊平 (美術学科主任)

教授) 山脇巖 (主要職員) 湯川制、櫻林

仁、野口彌太郎、吉岡憲、澤健太郎、山

本豊市、柳原義達、深瀬嘉臣、水谷武彦、

三苦正光、富永惣一、吉田謙吉、田中一

松、岡田讓、阿部公正

文化学院美術科

千代田区神田駿河台

電 (二九)二二七四一五

大正一一年西村伊作により一般の学校

教育とは異なる自由教育を標榜して設立さ

れた。

〔美術科〕

〔夜間美術科〕

美術教育施設

修業年限 二年。授業料年額九〇〇〇

円。材料費三〇〇〇円。

入学資格 旧制中学、新制高校卒業程

度。及び同等の実力を持つ

者。

〔日曜美術科〕

授業料年額五〇〇〇円。材料費一五〇

〇円。

〔院長〕 西村伊作

盛岡短期大学美術工藝科

盛岡市内丸六九

電 盛岡二七一

昭和二三年五月、絵画・彫刻及び工藝

の両域に亘つて専門家・美術教育者及び

市町村の工藝指導者を養成すると共に藝

術を中心としての教養・技術によつて生

産・文化に寄与するのを目的として岩手

県立美術工藝学校が設立され、昭和二六

年四月盛岡短期大学美術工藝科に昇格し

た。更に翌年従来の美術工藝学校を改組

して岩手県立美術工藝高等学校が同地に

併置された。初代盛岡短期大学美術工藝

科長森口多里が岩手県立美術工藝高等学

校長を兼任している。

修業年限 三年。学生定員一五〇名。

〔美術工藝科長〕 深澤省三 (美術工藝科

関係教授) 森口多里、堀江起、深澤省三、

深澤紅子、池田桃太郎、(助教) 佐々木

一郎、三鬼勤、奈知安太郎、(講師) 小杉

一雄、船越健次郎、高橋吉雄、橋本八百

二、戸田芳鉄、小池岩太郎、松本總、三

ヶ尻正、手塚健二

岩手県立美術工藝高等学校

盛岡短期大学美術工藝科参照。一般高

等学校の学課規程に従い、その他専門学

課と専門実習を課す。

〔学科〕

美術科 (日本画専修、油絵専修、彫刻専

修)

工藝科 (図案専修、木工専修、漆工専

修、金工専修)

〔校長〕 森口多里 (主要職員) 加藤英夫、

松本總、池田龍甫、三ヶ尻正、堀江起、

海野經、深澤省三、深沢紅子、佐々木一

郎、奈知安太郎、杉江康彦、三鬼勤、中

島嘉雄、戸田芳鉄、照井儀也、菅原圭

三、手塚健二、小関六平

金沢美術工藝短期大学

金沢市下本多町三番丁九

電 金沢③三五三〇、一

昭和二一年七月金沢美術工藝専門学校

が設立され同一月開校した。同二五年

短期大学として金沢美術工藝短期大学と

なり、森田龜之助が初代学長に任命され

た。

〔本科〕

美術科 (日本画専攻、油画専攻、彫塑

専攻)

工藝科 (陶磁専攻、漆工専攻、金工専

攻)

修業年限三年、入学資格新制高校卒

〔選科〕 入学資格 学歴を問わない。

〔学長〕 森田龜之助 (教授) 野田九浦、小

糸源太郎、吉田源十郎、高村豊周、板垣

鷹穂、秋山光夫、高山錦成、北出塔次

〔実技研究所〕

〔東京〕

春陽会美術研究所

会場 千代田区麹町四番町六

電 九段七九一六

事務所 大田区新井宿四ノ一

一〇一三井永一方

昭和四年九月創立、春陽会の藝術活動

の一翼として純粋美術を研究することを

目的とする。実技指導、作品批評、講義

講演等。入所資格は主として、春陽会々

員、準会員、又は所員の紹介による。入

会金五〇〇円、午前及午後石膏部 (月謝

五〇〇円)。夜間、人体部五日間単位と

し固定ポーズ(二五〇円)、土、日曜午後、

夜間クロッキー部(七回三五〇円)

毎月第三日曜は特別研究会としクロッ

キー作品批評及講演を行う、所員五〇

円。臨時聴講者一〇〇円。(指導者) 加山

四郎、中谷泰、三雲祥之助、南大路一他

春陽会々員及準会員

日社研究所

会場 上野・桜亭

事務所 板橋区大谷口町一〇

四〇

昭和二五年創立、日本画の研究所、毎

月一回研究会及び講演会を上野桜亭で開

く。研究会費は会員年三〇〇円で入所資

格は委員推薦による。(指導者) 伊東深

水、児玉希望、矢野橋村

青山絵画研究所

港区赤坂青山南町六ノ一〇八

昭和二四年一〇月創立、洋画の基礎技

術

二四三

術の指導と藝大受験を目的とする。種目は石膏・人体デッサン・人体油絵・風景・静物で毎日午前八時—十二時、午後一時—五時、夜間五時半—九時の三部に別れ研究費は月五〇〇円。〔指導者〕辻永、小川傳四郎

光風会美術研究所

港区新桜田町一九 光風会館内
電 東京(59)一七三二

昭和二七年創立。光風会々員指導の洋画実技研究所で、油絵、木炭素描の外西洋美術史、服飾研究の講習も行う。石膏部(午前) 月五〇〇円、人体部(午後) 月一〇〇〇円、クロッキー(夜間) 六回券三〇〇円。〔指導者〕辻永、中村研一、寺内萬治郎、小糸源太郎、耳野卯三郎、小寺健吉他光風会々員、〔代表者〕淀橋区戸塚諏訪町一八 中澤弘光

第一美術研究所

文京区高田豊川町六〇 石川重信方 電 大塚一五〇一

昭和二二年創立。専門家及び中・小学生を含む洋画の実技研究所。種目はデッサン、油絵、水彩、クレヨンに亘り、毎週土曜日、月謝五〇〇円。〔指導者〕石川重信、高橋亮、谷井喜三郎、村上松次郎、野澤孝作、上原重和、塙忠

ブルビ美術研究所

(文京絵画研究所改称)
文京区駒込千駄木町七
電 駒込一一七九

昭和二七年一月創立。資格に制限なく絵画に興味を持つ人々が気軽に勉強できることを目的としている。油絵、日本画、

水彩画、パステル等の種目があり三部に分れている。石膏部月曜—土曜、午後(入金三〇〇円)、月謝四〇〇円、五回券一五〇円) 人体部月曜—土曜、夜間(入金三〇〇円)、月謝五〇〇円、五回券一五〇円)、静物、風景部毎日曜午後(入金三〇〇円、五回券二五〇円)、臨時会員は一回五〇円、入会金不用。子供部日曜午前、木曜、土曜午後(週一回三〇〇円、週二回五〇〇円)

行動美術東京研究所

文京区富坂町一ノ二

昭和二二年六月創立。将来美術家を志す人、及び広く美術に親しむ一般の人々に解放し、基礎的研究と新しい美術に対する教養を高めることを目的とする。石膏部は日曜日を除き毎日午前と午後の部に分れ、各部月謝五〇〇円。人体固定ボーズは月一金夜間、月謝七〇〇円。人体油絵は日曜日午後、クロッキーは土曜日夜間。入会金各組共通五〇〇円。子供部は日曜日午前、月謝三〇〇円。〔指導者〕林是、榎倉吾吾、向井潤吉、其他行動美術協会々員。

ナガハマ染彩画塾

文京区指ヶ谷町六〇
電 小石川一三八二

昭和二四年九月創立。皮革、布帛の染色全般に亘り本格的染色技術の指導を行う。毎日曜日曜午前十時—午後四時(一回二〇〇円) 研究科は随時で毎月一五〇〇円。毎金曜午後一時—四時クロッキー研究。〔指導者〕長濱重太郎、中村妙子

日本画院研究会

会場 都美術館を借用
本部 台東区谷中清水町一
望月春江方
電 駒込 三八一〇

昭和二四年四月創立。美術に関する教養を高め日本画制作上必要な技術の研究指導することを目的とする。入会資格は日本画の修得を志すもので日本画院同人の推薦を経た作家、尚研究会は美術に関する専門家の講演、見学並びに美術映画の鑑賞を行う。毎月一回開催。会費毎回五〇〇円。〔指導者〕岩田正巳、服部有恒、川崎小虎、野田九浦、望月春江、他同人

日本水彩画会研究所

会場 台東区根岸小学校美術教室
事務所 中野区江古田一ノ二二
日本水彩画会 細島方

明治四〇年創立。男女、年齢、職業を問わず水彩画の指導を行う。毎週日曜日、九時—四時。石膏、人体、静物、風景、記名料二〇〇円。会費毎回八〇円。臨時参加一回一〇〇円。〔指導者〕石井鶴三、水野以文他日本水彩画会々員(主任)内藤秀因、渡辺義一、〔代表者〕日本水彩画会幹事細島昇一

現代版画研究会

会場 新宿区笹筒町一五
(都立新宿生活館)
電 九段三六六七
事務所 杉並区東荻町八八

日本版画協会

昭和二五年創立。創作版画の普及を目的とし、特に初心者のために実技指導を行っている。木版を主とし一年間一二回で大要を伝える。以後は随意出席。毎月第一土曜午後一時—四時、研究費一回五〇円、三回一〇〇円。〔指導者〕恩地孝四郎、品川工、北岡文雄、關野準一郎、駒井哲郎、平塚運一、吉田政次、他日本版画協会々員

目白洋画研究所

新宿区下落合一ノ五二一
電 落合 五三一三

昭和二六年五月創立。毎日午後。裸婦デッサン、油彩、月謝六〇〇円。夜間、裸婦クロッキー、一回五〇〇円。〔指導者〕荻太郎、森田茂、田崎廣助、〔代表者〕神保重義

中央美術研究所

新宿区戸塚町二ノ五四
杉本 鷹 方

昭和二三年二月創立。年齢・資格を問わず一般に開放し、石膏、人体のデッサンから制作の指導に及ぶ。毎日午前は石膏、午後及び夜はモデル、日曜は午前午後ともモデルを使用する。入所費三〇〇円、石膏部二〇〇円、人体部六〇〇円。〔指導者〕野口彌太郎、吉岡憲、井上長三郎、麻生三郎、中谷泰、布施浩、杉本鷹

陶彫会研究所

中野区江古田二ノ九二八
瀧川 美 一方

陶磁彫刻の基礎的な技術の相互研究と併せて有為な陶彫家の育成のための実技

指導を行うことを目的とする。クロッキ
ー、塑像、型取、型起、釉薬、焼成。毎
週土、日曜日午前九時—午後四時。入所
金五〇〇円。聴講研究費一日一回一〇〇
円。〔指導者〕陶彫会々員

国画会美術研究所

杉並区上荻窪二ノ六〇
クローバー学院内
電東京(39)五七

昭和二六年五月創立。専門家、藝術大
学受験生及びアマチュアも含めた洋画の
実技研究所で美術講義批評等も毎週行
う。石膏、デッサン部は毎日午前九時—
一二時、午後五時—八時の二回、月謝各
五〇〇円。石膏、人体部は毎日午後一時
—四時、月謝七五〇円。入会金五〇〇円。
〔指導者〕主任、川口軌外の他伊藤廉、大
森啓助、大淵武夫、久保守、土田文雄、
原精一等在京国画会員が毎週二名で交代
指導。〔責任者〕武蔵野市境七七一、大淵
武夫

阿佐ヶ谷洋画研究所

杉並区高円寺三ノ一八四
昭和二二年一月創立。男女年齢を問わ
ず随時入所出来、個人的指導を行う。種
目は油絵、水彩、デッサン(石膏、モデ
ル)、美術史等で、(午前部)九時—正午、
(午後部)一時—四時、(夜間部)六時—九
時。月謝各部七〇〇円。日曜は午前と午
後の部に分れ月謝は各四〇〇円、終日五
〇〇円。児童部は日曜のみ。工藝家志望
者は別教室で行う。入所金一〇〇〇円。
〔指導者〕上原之節、三輪孝、佐藤功、
井手宣通、小山清男

新水彩作家協会研究所

杉並区上荻窪一ノ一三
電荻窪六四六五
五井開一方

昭和二五年四月創立。基本的技術並び
に水彩画一般についての指導を行う。石
膏(木炭)、人体(木炭)、水彩、水彩画研究
の科目があり第一、第三の土曜・日曜
日。月謝五〇〇円。尚通信指導も行う。
〔指導者〕五井開一、古郷八郎、前林章
司、他同協会々員

創藝協会研究所

杉並区東荻町六九 神津
港人方 電 荻窪四四三

昭和二七年二月創立。石膏素描による
基礎的写形を指導する。初学者向。毎週
日・土の午前九時より正午迄。入所資
格は一七歳以上の者で創藝協会々員の紹
介あるものに限る。月謝七〇〇円。〔指導
者〕神津港人

東京美術研究所

(全日本個人聯盟附属)

杉並区馬橋三ノ四二四
土味川 独甫方

昭和二〇年四月創立。個人的指導によ
り初心者のための実技を主とし併せて専
門教育も行。本科は二ヶ年で毎日九時
—五時、月謝七〇〇円。他に専攻科一年、
デッサン科、研究科があり、毎日、午前
の部月謝四〇〇円。午後の部、夜間部月謝
各五〇〇円。日曜部九時—五時月謝三〇
〇円。入所金五〇〇円。またクロッキ
ー部を設け毎日曜の午後、及び夜間モデル
を使用(一回五〇〇円)。〔指導者〕土味川独

甫、他全日本個人聯盟会員、外山卯三郎等

光陽会 研究所

(旧太平洋洋画会研究所)

北区上中里町一の二
多々羅 義雄方

明治三七年四月創立された太平洋洋画会
研究所は昭和四年太平洋美術学校となつ
たが、同二〇年戦災によつて焼失した。
研究所は同校再建までの暫定措置として
設けられたが昭和二九年太平洋洋画会より
光陽会が分離し光陽会研究所と改名し
た。美術学校入学準備、後進美術家養成
を目的とする。石膏素描部、水彩・油絵
部、人体部があり毎日午前九時—一二
時。月謝人体部実費負担他は三〇〇円。
入所資格は新制中卒卒業以上。入所金三
〇〇円。〔指導者〕多々羅義雄、井口勇、
早川芳彦、他一〇名

豊島絵画研究所

豊島区池袋三ノ一三九九
水谷 美 秋 方

昭和二七年一月創立、誰にでも絵が
描ける様にとりうのが目的で、デッサン、
油絵を教える。月・火・木曜日、石膏、
油。水曜日、固定ポーズ。金・土・日、
クロッキ。昼夜二部制(時に変わるこ
とあり)月謝三五〇円、クロッキ一回六
〇円、児童部もある。

春日部水彩研究所

豊島区長崎五ノ三二
春日部たすく方

昭和一二一年創立。水彩画を専門とし、
学童、専門家の別がある。毎土・日曜日、
月謝三〇〇円。〔指導者〕春日部たすく

露露社研究所

練馬区大泉学園町七七八
平子 聖 龍 方

昭和二二年一月創立。余技、専門の
区別を問はず指導する。種目及び指導者
は日本画(平子聖龍)、書道(國岡竹畦)華
道(上原伸仲)毎日曜、一回一〇〇円。

双台社写真研究所

渋谷区代々木上原一三三〇

基礎技術の訓練に重きをおく。A・B
のクラスがあり、Aは素描、水彩、油絵。
Bはクレヨン、パステル、水彩、油絵。
Aクラスは高校生以上一般、毎土曜、月
謝三〇〇円。Bクラスは小・中学生、毎
日曜日謝四〇〇円。〔指導者〕石井柏亭、
平塚運一、荒谷直之介、他双台社会員(代
表者)品川区大井塚四八三二 田坂乾
代々木絵画研究所

渋谷区代々木山谷二七七

本宮 昭 五 郎 方

昭和二九年八月創立。初心者Aクラ
スと習熟者のBクラスの二室に分け人体
描写の習得に主眼をおく。児童部もあ
る。午前九時—正午、又は午後一時—四
時、月謝一〇〇〇円。夜六時—九時、月
謝七〇〇円。日曜日午後(アマチュアクラ
ス特設、一ヶ月四〇〇円)日曜夜間(特設
クロッキークラス、一回五〇〇円)。〔指導
者〕平沢喜之助、秋野克彦

絵の教室

世田谷区松原町三ノ八〇五

昭和二六年八月創立。素人を対象とす
る。油絵、水彩画、デッサン、クレパ
ス、パステル画を教える。毎日曜、午前

(子供)月謝五〇〇円。午後(大人)月謝七〇〇円。(指導者)一水会々員 坂本正春
黏藝術会研究所

世田谷区大蔵町一八三五
中野秀人方

昭和二四年一〇月創立。同会の趣旨は
絵画を主とし文化一般の理解を高めるこ
とにある。人体デッサン、油絵、水彩、
パステル。程度は初歩より専門家を含
む。毎土・日曜、午後一時より、月謝二
五〇円。

田園調布純粋美術研究室

世田谷区玉川田園調布二ノ七

一三 電田園調布二〇八九
昭和二〇年一二月創立。洋画の実技を
指導する。モデル使用によるデッサン及
び油絵の勉強で土曜日以外毎日、午後は
固定ポーズ。夜間はクロッキー(月謝昼
夜通し六〇〇円)入会金八〇〇円、土曜
日休み。(指導者及び代表者)大田区田園調
布二ノ八一〇 猪熊弦一郎

自由ヶ丘絵画研究所

目黒区自由ヶ丘二八九

昭和一五年四月創立。高校生以上のA
クラス。小・中学生のBクラスの別があ
る。A—油絵、水彩、デッサン。毎日曜
午後一時—四時。月謝四〇〇円(石膏)、
五〇〇円(人体)。

B—水彩、クレパス等、毎土曜午前九
時—午後五時。毎日曜日午前九時—一二
時。月謝三〇〇円。(指導者)須山計一他
近藤吾朗アトリ

大田区田園調布一ノ一六

昭和二五年創立。一般教養のための絵

画教育を目的としている。種目は油画、
水彩、素描に亘り、毎日曜午前十一時—午
後四時、月謝六〇〇円。児童は毎土曜の
午後、月謝四〇〇円。(指導者)近藤吾朗
斗潮美術研究所
(旧河合美術研究所)

大田区久ヶ原町六四二
河合斗潮方

昭和六年創立。太平洋画会委員河合斗
潮他、同会委員数人の指導による絵画並
びに、染色の研究所。(顧問)熊谷守一

織田石版術研究所

武蔵野市吉祥寺校小路一七三七

昭和二七年一〇月創立。石版術の普及
を目的とし、入所資格はない。一ヶ月二
回(午前九時—午後四時迄)月謝一五〇〇
円。(指導者)織田一磨

【地方】

創型会彫塑研究所

浦和市常盤町六ノ二二

中野四郎方 電 浦和
五三六七

事務所 世田谷区玉川奥沢町二
ノ一四九 森大造方

昭和二六年創立。モデルを使用してク
ロッキー、塑像及び基本型体の構成と応
用研究。入所資格は石膏像製作に多少経
験あるもの。研究日は日曜と春夏冬の休
暇(指導者)中野四郎、その他創型会同人

造形美術研究所

浦和市外野町大戸四二八

手塚方 電 浦和二四〇二

昭和二六年一二月創立。絵画、彫塑、
造形理論、造形教育原理等、各部門に亘
る基本的研究。その他、毎週、土曜、日
曜児童、生徒の実技指導。(研究所員)手
塚又四郎、田中修、飛岡文一、大坪實、
石原英雄、大里光春、岡澤光雄、番匠宇
司、染谷英五、星野祐二、磯谷猛、三森
一伸、公業源一郎、高野万年

茨城綜合美術研究所

茨城県土浦市富士崎町四八六

昭和二六年一〇月創立。専門部、児童
部、クロッキー部があり、油絵、水彩、素描
等を教える。時間は毎日、午後一時—四
時。夜間六時—九時。なお土曜、日曜は
特別日として午前、午後、夜間の三つに
分け裸体モデルのクロッキーを行う。研
究費は専門部一ヶ月五〇〇円。児童部一
ヶ月二五〇円、入会金研究生五〇〇円。
児童一〇〇円。(指導者)荒城季夫、織
田廣喜、鶴岡義雄、寺田竹雄、服部正一
郎

サロンド・ジュワン

名古屋市中区和区御器所町
五ノ三〇 真島建三方

昭和二七年三月創立。基本的な理論と
技術の指導を目的とする。人体デッサン
毎日曜日夜間、月八回毎週水、金の夜
間。月謝五〇〇円。入所資格制限なし。
(指導者)大口登、真島建三

関西美術院

京都市左京区岡崎南御所町四〇

明治三九年三月創立。創立以来一派、一
団体の機関とせず、流派を超えて後進養

成に努めている洋画研究機関。研究生が
主体となり委員互選で経営を行つてい
る。種目は洋画実技(素描、油絵)と専門学
科(美術史、技法史、構図法等)の二つが
ある。洋画実技、人体は毎日午前九時—
一二時。石膏、静物写生は午前九時—午
後五時。専門学科は随時研究会を催す。
月謝は各料一〇〇円、(燃料費モデル費
は別)資格制限なし。(指導者)黒田重
太郎(研究所代表者)、川端彌之助、津
田周平

行動美術京都研究所

京都市左京区川端丸太町下ル
和風書院内 電吉田二六八四

昭和二〇年六月創立。美術の研究のみ
ならず美術運動を目的とす。夜間部は
毎日曜、土曜、午後六時—九時。日曜部
は毎日曜午前九時—午後四時、月謝は孰
れも石膏が三〇〇円、人体四五〇円。ク
ロッキー部は毎月曜午後六時—九時、毎
回四五円。他に学生部毎土曜午後二時—
五時がある。(指導者)伊谷賢蔵、伊藤
久三郎、福井勇、飯田清毅、(研究所代
表者)保地謙哉

紫野洋画研究所

京都市上京区北大野町六八
山田新一方 電(呼出)西六
五三三

昭和一〇年創立。創設者太田喜二郎の
遺志をつぎ健全な基礎技術の指導を目的
とする。石膏、人体デッサン部及びクロ
ッキー部一回五〇円、一ヶ月一七〇円。人
体(油絵、水彩)部、午前、午後各六〇円、終
日一〇〇円。何れも、日曜午前午後、金、

土曜午後、夜間。木曜夜間。入所金五〇〇円。〔指導者〕山田新一、霜鳥之彦、坪井一男、由里明、富士一男

独立美術京都研究所

京都市下京区八条西酢屋町

四

昭和八年九月創立。毎日午後六時半—九時半、月謝六〇〇円。少年部は日曜午前及び午後。〔指導者〕須田國太郎、田中佐一郎、今井憲一

大阪市立美術館附設美術研究所

大阪市天王寺区天王寺公園内(市立美術館)

電天王寺六一〇、四六〇九

昭和二年五月創立。日本画、洋画、彫塑の三科あり各々初歩指導、美術学校受験者の指導等を行。日曜祭日を除き九時—四時。入所金三〇〇円。月謝は洋画人体、彫塑、日本画部各三五〇円。洋画石膏部三〇〇円。〔指導者〕日本画—中村貞以、矢野橋村、菅橋彦、生田花朝他。洋画—須田國太郎、鍋井克之、小磯良平、田村孝之介他。彫塑—保田龍門、上田曉

美術観覧施設

〔東北地方〕

本間美術館

山形県酒田市浜畑町二二
電 酒田一四二九

昭和二年五月創立。地方文化に貢献するために旧本間家別邸を美術館として公開した。文書・陶器等東洋美術関係四

美術教育施設・美術観覧施設

〇〇点、油画・版画等西洋美術関係三〇〇点。運営は別に組織された酒田美術協会が当つてゐる。

〔館長〕 本間祐介

〔観覧日〕 月曜を除き、毎日午前九時—午後四時半

〔観覧料〕 五〇円

致道博物館

山形県鶴岡市家中新町戊一
電 鶴岡一一九九

昭和二七年三月創立。維新後、藩校致道館廃止と共に、旧藩主酒井家邸内に図書研究所文会堂を設け、各種郷土資料の研究調査公開を行つて来たが、昭和二年財団法人以文会の設立と同時にこれを継承し、更に同二七年博物館法により財団法人以文会立致道博物館となつた。

古文書五六八点、甲冑二〇点、刀劍三四点、書画数十点、考古学資料二〇〇〇点等を有し、美術展・文化史展等を開き、郷土文化の向上を図り資料の保管陳列等を行つてゐる。

〔館長〕 犬塚又太郎

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

〔観覧料〕 展覧会の規模に応じて之を定める。

上杉神社釋照殿

山形県米沢市南堀端町三六
電 米沢一七三〇

大正一一年四月創立。上杉神社祭神謙信公及び鷹山公の遺品を収蔵。絵画、工芸品及び文書約五〇〇点

〔観覧日〕 希望に応じ随時開館

〔観覧料〕 三〇円
掏珍巧藝館

山形県小松町二九一一

昭和七年四月創立。財団法人組織。学術参考資料として支那、朝鮮及日本の古陶磁其他約五〇〇点を陳列公開する。

〔館長〕 井上庄七

〔観覧日〕 四、五、六、七、九、一〇の六ヶ月間、毎日午前一時—午後三時

〔観覧料〕 無料

中尊寺宝物庫

岩手県西磐井郡平泉町
電 平泉一

明治三一年四月創立。大日如来坐像、一字金輪仏、清衡公金棺を始め多数の仏像、仏画、工芸品、古文書類を蔵し、又同寺境内には国宝建造物金色堂がある。

〔観覧日〕 四月—一〇月(午前八時—午後五時) 一二月—三月(午前八時半—午後四時半)

齋藤報恩会博物館

仙台市大聖寺裏門通三
電 仙台②四七七

大正一二年二月創立。大正一二年文部省認可となり昭和八年に開館一般公開した。昭和二〇年戦災を受けたが二三年修理再開した。東北地方の自然科学資料、文化史資料を陳列する。

〔館長〕 齋藤養之助

〔観覧日〕 月曜日を除き毎日

〔観覧料〕 一〇〇円

〔関東地方〕

茨城県立美術館

茨城県東茨城郡磯浜町東光台
電 磯浜一七六

昭和二年五月創立。新憲法公布を記念して設立され、美術思想の普及向上を図る目的を以て展覧会・講演会等の事業を行つてゐる。日本画・洋画・彫刻・工芸の所蔵品がある。

〔館長〕 沼里俊

〔観覧日〕 四月—一〇月(午前八時—午後五時) 一二月—三月(午前九時—午後四時)

〔観覧料〕 一五円

笠間町立美術館

茨城県西茨城郡笠間町
佐白山麓公園内
電 笠間四一

創立昭和五年一月。県内外に存在する国宝指定の仏像の複製(石膏)を保存し、且、国宝仏像管理寺院の照会及び參觀視察の便宜を計る。複製仏像の所蔵約一点、他に随時絵画展なども行。〔館長〕 根本政太郎

〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

鹿島神宮宝物館

茨城県鹿島郡鹿島町宮中
電 鹿島九

甲冑・古文書等鹿島神宮の宝物を陳列。〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 一般一〇〇円、学生五円

日光宝物館

栃木県日光市山内
電 日光一一四

大正四年五月東照宮三〇〇年祭記念事

業として建設され、東照宮、二荒山神社、輪王寺所蔵の宝物類を陳列し、江戸時代の工藝品が多い。

〔視覧日〕 毎日、四月一〇月午前八時—午後五時、一二月—三月午前八時—午後四時

〔視覧料〕 一〇〇円、二社一寺の殿堂拝観料に含まる。

東京国立博物館

台東区 上野公園
電 駒込三七一一—五

創立は明治五年正院に於ける博覧会事務局の設置に始まり、其後同局を博物館と改称し内務省の管轄に付したが同一四年農商務省へ移管となり、事務所(当時博物館と称す)を上野の旧寛永寺本坊跡に移転し翌一五年同所に新築の本館を開いた。一九年宮内省管理となり二二年帝國博物館と改められ、歴史、美術、美術工藝、工藝、天産の五部を設け、三三年帝國省に改められた。天産部は大正一四年文部省に移管された。大正天皇の御成婚記念として造営された表慶館は明治四一年に竣工した。昭和二年従来の歴史課、美術課を廃し列品課に改め、別に学藝課を新設した。陳列本館は震災に大破し、其の後表慶館を列品陳列に充てたが今上陛下の御即位記念事業である帝室博物館復興興賛会の復興大工事が昭和一二年に竣工し、同一三年一月開館された。昭和二二年五月帝室博物館は文部省国宝調査室、同保存修理室及び美術研究所と合併し、文部省の管轄の下に国立博物館と

して発足した。陳列課、事業課、調査課、保存修理課、資料課、監理課、附属美術研究所の六課一所制をとり、奈良帝室博物館は国立博物館奈良分館と称することとなつた。ついで昭和二五年八月文化財保護法が制定実施され、さきに国立博物館に合併された調査課、保存修理課は文化財保護委員会事務局保存部に入るることとなつて再び博物館から離れ、美術研究所も分離し、博物館は文化財保護委員会の附属機関となつた。その内部組織は館長、次長の下に新に庶務、学藝の二部を設け、庶務部には管理、会計、普及の三課、学藝部には美術、工藝、考古、資料の四課をおき、また諮問機関として国立博物館評議員会を設置し、奈良分館には分館長の下に庶務、学藝、普及の三課が置かれたが二七年四月文化財保護法の一部改正にともない、当館は東京国立博物館と改称され、更に同年八月当館附属の奈良分館は奈良国立博物館となつて東京国立博物館から分離した。(二〇一、二一九、二二六頁参照)

建物は地上二階、地下二階、総面積六五二二坪、鉄骨鉄筋コンクリート造りの東洋風建築である。又構内には九条道秀及び益田孝より夫夫妻贈され、昭和一一年開館された九条館及び応挙館がある。前者はもと京都御所内九条邸にあつたもので伝山楽山雪筆の四季楼閣山水図の画かれた床張付、襖等があり、後者には圓山應舉筆の壁張付、襖等がある。その他茶室六窓庵、校倉等の建物がある。

〔館長〕 淺野長武 (次長) 田内静三
〔部長〕 (庶務) 深見吉之助 (学藝) 石田茂作 (課長) (管理) 山田秀吉 (會計) 出牛清次郎 (普及) 野間清六 (美術) 鷹巣豊治 (工藝) 溝口三郎 (考古) 矢島恭介 (資料) 石澤正男
〔評議員〕 宇佐美毅、上野直昭、梅原末治、河原春作、小宮豊隆、坂本太郎、杉榮三郎、辻善之助、羽田亨、原田淑人、藤山愛一郎、藤懸静也、藤田亮策、三矢宮松、和辻哲郎
〔視覧日〕 月曜日、年末年始を除き、三月—十月午前九時—午後四時半、十一月—二月午前九時—午後四時
〔視覧料〕 大人二〇円、小人一〇円
国立近代美術館
中央区京橋三ノ一
電 京橋 八二二—五
五七七—八
昭和二七年八月一日創立、一二月一日開館。建物は旧日活会館を買上げ、建築家前川國男に依頼して改装した。(二三〇頁参照)
敷地 一六九坪
建坪 総坪数五〇九坪(鉄骨鉄筋コンクリート)、各階九四坪(地上四階、地下一階) 屋外展示場一六坪、車庫二二坪
〔視覧日〕 一月四日から二月二八日迄。午前一〇時—午後五時、但し夏期は午前一〇時—午後六時。毎月曜休館。
〔視覧料〕 大人五〇円。学生三〇円、小人二〇円
〔館長〕 岡部長景 (次長) 今泉篤男
〔庶務課長〕 原敏夫 (事業課長) 河北倫明

〔評議員〕 一万田尚登、石橋正二郎、細川護立、大谷竹次郎、岡安彦三郎、河原春作、鍋木清方、高橋誠一郎、竹尾式、團伊能、上野直昭、山下新太郎、矢代幸雄、安井曾太郎、松田權六、藤山愛一郎、淺野長武、齋藤知雄、坂崎坦、岸田日出刀
〔運営委員〕 岩動道行、池田義信、飯島正、富永愨一、和田新、嘉門安雄、吉川逸治、瀧口修造、村田良策、牛原虚彦、宇野俊郎、野間清六、隈元謙次郎、山田智三郎、前川國男、清水晶、島崎清彦、土方定一、關野嘉雄
台東区 上野公園
電 駒込 三七二六—七、
四八九六

田權六、板谷波山、岩田藤七、豊道春海、海野清、藤井浩佑、内藤伸、齋藤素殿、朝倉文夫、佐藤清藏、小杉放庵、和田三造、安井曾太郎、山下新太郎、和田英作、石井栢亭、中澤弘光、辻永、有島生馬、梅原龍三郎、石井鶴三、上野直昭、吉田五十八、齋藤隆三、尾上柴舟、川島理一郎、高村豊周、中村研一、山口蓬春

〔参予〕 伊東深水、吉岡堅二、兒玉希望、郷倉千輒、望月春江、石川寅治、猪熊弦一郎、東郷青兒、田崎廣助、中山巍、木村莊八、小糸源太郎、宮本三郎、中野和高、山本豊市、藤野舜正、大須賀喬、山崎覺太郎、柳田泰雲、西川寧、嘉門安雄、谷信一

一、東京都美術館館規程(略)

二、東京都美術館顧問及び参予規程

第一条 東京都美術館(以下館という)に顧問及び参予若干人を置く。都教育委員会がこれを委嘱する。

第二条 参予の任期は二年とし、再任を妨げない。

第三条 顧問及び参予は館の運営について館長の諮問に応ずる。

第四条 館に常任参予若干人を置くことができる。参予の中から都教育委員会これを委嘱する。

附則

この規則は、昭和二十二年四月一日からこれを施行する。

附則(昭和二十五年教育委員会規則第七号)

この規程は、公布の日から施行する。
東京都美術館使用条例
第一条 東京都美術館(以下館と称する)

美術観覧施設

は、次の目的を有する者にこの条例によつて使用せしめる。

- 一、美術についての創作の展覧
- 二、新古美術品の陳列
- 三、その他美術についての事業

前項各号の使用者がない場合に限り芸術等の会に臨時に使用せしめることができる。

第二条 館を使用しようとする者は、別に定める様式によつて、要項を記して館長の承認を受けなければならない。

第三条 前条によつて承認を受けた者は、使用料を前納しなければならない。但し、特別な事情があると認めるときは、相当の保証人を附け又は保証金を納めさせた上後納を許すことがある。

第四条 使用料は左の範囲で都教育委員会これが定める。

- 一、全館(本館地階陳列室を除く)使用の場合 一日 一万二千円以内
- 二、一部使用の場合 一分区 一日 四千円以内
- 三、本館地階陳列室使用の場合 一分区 一日 八百円以内
- 四、会議室使用の場合 一日 一千円以内
- 五、小講堂使用の場合 一日 一千円以内

部屋の模様替その他の設備を必要とするときは、館長の承認を受けてその実費を納めなければならない。

看守、受付、下足等については、使用者がその費用によつてこれを施設しなければならない。

第五条 館の使用の承認を受けた後これを他に転貸することは出来ない。

第六条 既納の使用料はこれを還付しない。但し左の場合はその一部又は全部を還付することがある。

一、不可抗力によつて指定の場所を使用することができないとき。

二、館の都合によつて使用承認を取消したとき。

第七条 使用者が切符売場その他特別の設備をしようとするときは館長の承認を受けなければならない。

第八条 使用者が館についての諸規定及びこれに基いてする館長の指示を遵守せず又は公安風紀を紊る虞があると認められる場合には、館長は、使用者に対してその使用の承諾を取消することがある。

前項の処分によつて使用者に損害が生ずることがあつても、館は、その賠償の責は負わない。

第九条 使用者が使用を終り若くは使用中止したとき又は使用の承認を取消されたときは、速に使用の場所を原状に回復し館長の検査を受けなければならない。

第十条 故意又は過失によつて建物及び使用物を汚損し又は毀損した場合は、使用者はその賠償の責を負わなければならない。

第十一条 館長において必要と認めるときは、使用者に対して臨機の処置をなすことができる。

第十二条 この条例施行に必要な細則は

都教育委員会が定めることができる。

附則(昭和二十七年) 条令第二十四号

この条例は昭和二十七年四月一日から施行する。

東京都美術館使用規則(略) 演劇博物館

(早稲田大学坪内博士記念) 新宿区戸塚町一ノ六四七 電九段八五八一―一九

昭和三年一〇月創立。坪内逍遙博士の古稀の賀及びシエクスピア全集翻訳完成を記念して学界、芸能界其他有志数千人の拠出により創立、昭和三年一〇月開館した。西洋、日本の演劇に関する参考資料、文献を蒐集陳列して一般の観覧に供する一方、附属演劇図書館をもち、演劇文化の向上発展に資するを目的としている。早稲田大学の管理に属すが公共機関として一般に無料で公開されている。

季刊「演劇博物館」を発行。

〔館長〕 河竹繁俊〔観覧日〕 毎日午前九時―午後四時。休館は毎月曜及び祭日の翌日、年末年始の他夏期数日間。

大倉集古館 港区赤坂葵町三 電 赤坂 七八一

大正六年八月創立。財団法人大倉集古館は其の土地、建物、蒐集品、維持資金等悉く故大倉喜八郎がその授爵記念として寄附したものである。創立当時土地四八二五坪、建物延一〇六四坪、美術品三六九二点、書籍一五、六〇〇冊であつた

美術観覧施設

が大正一二年の大震災で蒐集品の大部分を焼失、大正一五年再び大倉男の寄附により現在の陳列館を起工、焼失を免れた蔵品を基礎に多数の新収品を加え昭和三年八月開館した。本館は鉄筋コンクリート鋼葺屋根延三三七坪の支那風建築である。絵画は毎月陳列替を行い、彫刻、工藝品等は三ヶ月一六ヶ月で陳列替を行う。

〔館長〕 大崎新吉

〔理事長〕 門野重九郎〔理事〕 大倉

桑馬 大崎新吉〔評議員〕 門野重九郎

大倉桑馬 大倉喜七郎 大倉喜六郎 大

崎新吉 大倉彦一郎 吉武一雄 藤田武

雄 伊藤勇二 横田保

〔観覧日〕 四月―九月午前九時より午

後四時迄、一〇月―三月午前一〇時より

午後四時迄、但毎月曜、天皇誕生日、憲

法記念日、勤労感謝の日、年末年始は休

館

〔観覧料〕 無料

書道博物館 台東区上根岸町一二五

昭和十一年一月創立。財団法人書道博

物館は故中村不折が四〇年に亘つて蒐集

した書道に関する参考品一二、〇〇〇余

点を以て昭和十一年一月開館した。

〔館長〕 中村丙午郎

〔観覧日〕 月曜を除き毎日午前九時―

午後四時

〔観覧料〕 五〇円

東洋文庫 文京区駒込上富士前町一四七

電 大塚二二九、六六八 大正六年九月岩崎久彌が前中華民国

総督府顧問ジョージ・アーネスト・モリ

ソンより購入したモリソン文庫を核心と

し、其後更に東洋に關する諸書の蒐集を

行つたもので現在の場所文庫を新築し

大正一三年一月財団法人組織とし東洋

文庫と称した。文庫の敷地、建物、図書

其他一切の設備は岩崎の寄附によるもの

である。終戦後文庫の図書部は国立国会

図書館の支部東洋文庫として運営される

こととなり、研究部は従前の如く財団法人

人にて経営されている。事業としては前

記の如く東洋關係の図書を蒐集し閲覧に

供するとともに東洋学の研究上有益なる

図書の出版、複製をなし又講演会、展覧

会等を行い、また欧米小壮東洋学者の留

学をも補導している。

〔文庫長〕 岩井大慧〔理事長〕 細川

護立〔理事〕 和田清 有光次郎 徳川

宗敬 澁澤敏三、小倉正恒、羽田亨〔監

事〕 岡東浩〔観覧日〕 日曜以外毎日午

八時半―午後四時半、但毎木曜、午後閉

館〔観覧料〕 無料

日本民藝館 目黒区駒場八六一

電 渋谷五九一 昭和十一年一〇月創立。民藝品の蒐集

並に常置陳列を行い、地方民藝の指導と

開発に當るを目的とす。蒐集の事業は大

正一五年に始められたが、昭和十一年一

〇月大原孫三郎の寄附によつて建物完成

し、一二月財団法人組織となつた。

〔館長〕 柳宗悦〔観覧日〕 月曜日を除

き午前一時―午後四時、但八月、一

月、二月休館〔観覧料〕 五〇円

根津美術館

港区赤坂青山南町六ノ一五

電 赤坂二五三六、二五八七

昭和十一年一月創立。根津嘉一郎の

蒐集になる東洋美術品と邸宅庭園を、翁

の没後その遺志により寄附を受け財団法人

根津美術館として設立し、翌一六年一

一月開館第一回展を開いた。以後、春秋

二季の特別展覧と年数回の小展覧を行つ

てきたが第二次大戦により建物を焼失し

たので二八年一〇月より早大教授内藤多

仲、今井兼次郎の設計による鉄筋コンクリ

ートの陳列館を建築中で三〇年四月頃開

館予定。主な收藏品は日本及東洋の古美術。

〔館長〕 河西豊太郎〔主事〕 依田太

郎〔学藝員〕 酒井千尋、奥田直栄、

ブリツヂストン美術館 中央区京橋一ノ一

電 京橋六三二七 昭和二十七年一月開館、石橋正二郎によ

りブリツヂストンビルの二階に創設され

た常設美術館で、所蔵の西洋及日本近代

の油絵、彫刻を主として陳列する。

〔顧問〕 和田英作、細川護立、淺野長

武〔参事〕 上野直昭、入間野武雄、大

原總一郎、久保貞次郎、矢代幸雄、松本

榮一、福島繁太郎、秋山光夫、今泉篤

男、河北倫明〔運営委員長〕 團伊能

〔運営委員〕 石橋幹一郎、猪熊弦一郎

富永物二、嘉門安雄、谷信一〔主事〕

岩佐新〔観覧日〕 月曜を除き午前一〇

時―午後五時半

〔観覧料〕 五〇円 牧野記念館 (駒場高等学校美術館)

目黒区上目黒八ノ六六〇

都立駒場高校内

電 渋谷二〇〇八

昭和二十五年七月創立。故牧野虎雄の遺

作油絵七七点、面帖等を保存し常置陳列

を行う。〔観覧日〕 希望により随時開館

〔観覧料〕 無料

明治神宮宝物殿 渋谷区代々木外輪町

電 澁橋二一六、一一七

大正一〇年一月開館。明治神宮儀式

課の所管で、明治天皇、昭憲皇太後の御

物を保管陳列する。

〔観覧日〕 四月―九月 毎日午前八時

半―五時、一〇月―三月午前九時―四時

〔観覧料〕 三〇円

〔神奈川〕 金澤文庫 横浜市金沢区金沢町二二七

電 長者町九〇六九 昭和五年八月再建。史蹟金沢文庫及び

称名寺に収蔵する書籍その他の文化財を

襲継し、又図書記録の類を蒐集保存して

一般に閲覧させる。金沢文庫は鎌倉中期

北条実時が蒐集した和漢書を納れるため

に創建し、鎌倉末期迄四代に亘つて経営

された。その後一時称名寺によつて保管

されたが、昭和五年御大典記念事業とし

て神奈川県が現在の文庫を再建した。

〔文庫長〕 熊原政男

〔観覧日〕 毎月末日、年末年始を除

き、毎日午前九時―午後四時半

〔観覧料〕 二〇円

神奈川県立近代美術館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一〇
五二 電 鎌倉二五〇〇

昭和二六年一月開館。建物は坂倉準三の設計による。近代美術だけでなく、凡ゆる美術を新しい観点から展観する。

〔館長〕 村田良策〔副館長〕 土方定一〔運営委員〕 安井曾太郎、内山岩太郎、伊東深水、木下孝則、小山富士夫、中村岳陵、坂倉準三、佐藤敬、富永惣一、山口蓬春、吉川逸治、山田智三郎、近藤市太郎、田辺至

〔観覧日〕 毎月曜を除き午前九時—午後四時但土、日曜日午後四時半

〔観覧料〕 六〇円
鎌倉国宝館

神奈川県鎌倉市雪ノ下一〇三四 電 鎌倉七五三
昭和三年四月創立。主に鎌倉を中心とする社寺及び個人寄託の古美術品を収蔵展観する。

〔館長〕 洪江二郎

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 一〇〇円

鶴岡八幡宮宝物殿

神奈川県鎌倉市雪ノ下一〇五一 電 鎌倉三二五

鶴岡八幡宮に伝来する神宝・刀剣・武器・工芸品等社宝の一般展観をなす。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

長尾美術館

本館 神奈川県鎌倉市深沢町
笹田一六三七

美術観覧施設

電 鎌倉九二二三

分室 世田谷区深沢町四ノ一
三二二 電 世田谷一九八六一七

昭和二二年五月創立。財団法人組織、長尾欽彌の蒐集による絵画・陶磁器その他美術工芸品を保管公開展観する。毎年春秋二季特別展観を行う。

〔理事長〕 長尾欽彌〔理事〕 草間時光、村田五郎、木内四郎、太田耕造、井上清一〔監事〕 清瀬三郎
箱根神社宝物殿

神奈川県足柄下郡箱根町
元箱根 電 箱根町三一

明治四〇年六月創立、現在の建物は昭和九年に新設された。同社所蔵の古美術品、古文書等を展観する。

〔観覧日〕 毎日、四月—一〇月午前八時—午後五時、十一月—三月午前九時—午後四時

〔観覧料〕 一〇〇円

箱根美術館

神奈川県足柄下郡宮城野村強羅
電 箱根宮ノ下 五〇三

昭和二七年六月創立。世界救世教々主岡田茂吉によって設立され、財団法人東明美術保存会箱根美術館として広く美術品を蒐集し一般に公開する。常設展の他に毎年各種の特別展並に箱根夏期美術講座等開催。

〔館長〕 岡田茂吉

〔観覧日〕 四月一日—十一月三〇日
迄、午前九時—午後五時(休日なし)

〔観覧料〕 普通観覧料一〇〇円。

【中部地方】

三島大社博物館

静岡県三島市伝馬町一
電 三島一七二

昭和五年三月創立。三島大社所蔵の宝物を始め郷土出土品等を陳列する。絵画一三三点、工藝一二四二点。

〔館長〕 矢田部盛枝
〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時
〔観覧料〕 二〇円
久能山東照宮宝物館

静岡市根古屋三八九
大正三年三月宝物館を新築し現在に及んでいる。家康公遺品等徳川歴代將軍の武器刀剣類四〇〇点を陳列する。

〔観覧日〕 午前八時—午後四時 初穂料として三〇円以上奉納せる者にのみ拝観させる。
身延山宝物館

山梨県南巨摩郡身延町
電 身延山二、三

大正一五年五月創立。日蓮宗本山に關する歴史考古資料等を公開する。

〔観覧日〕 毎日午前八時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円

上田市立博物館

長野県上田市新参町
昭和四年九月創立の上田徵古館が昭和二年四月より市立博物館として新発足したもの。旧上田城南櫓内に郷土資料を陳列公開する。

〔館長〕 倉沢卓示

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 一〇円

諏訪市美術館

長野県諏訪市大字上諏訪中
浜町 電 諏訪二二一七

昭和五年八月創立。従来片倉會館の一部として懷古館と称し、常時諏訪地方出土の考古学参考品を陳列し、又美術展覧会を行つて来たが、昭和二八年諏訪市に寄附されたものである。油絵・水彩・版画等を収蔵している。

〔館長〕 金井清
〔観覧日〕 毎日
松本市立博物館

長野県松本市二の丸三
電 松本一三三三

長野県に關する山岳、自然科学、考古、民俗、歴史、美術に關する資料を蒐集陳列し地方文化の向上を計り、学校教育に資する。山岳資料に重点を置く。
〔館長〕 本郷巳津男
大観進宝物館

長野市元善町四九二のイ
電 長野二四六〇

明治四〇年創立。大正七年増設、寺宝約一五〇点を収蔵、参拝者、信徒に拝観させることを目的とする。

〔館長〕 高野忠衛

〔観覧日〕 毎日

〔観覧料〕 一〇円

北方文化博物館

新潟県中蒲原郡横越村大字
沢海

新潟県中蒲原郡横越村大字
沢海

〔館長〕 横越一番甲

〔観覧日〕 昭和二〇年一〇月創立、旧伊藤文吉邸とその所蔵品を基として、財団法人組織

〔観覧料〕 一〇円

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時

〔観覧料〕 一〇円

美術観覧施設

により、美術、民俗、考古、郷土資料、農業資料等を展示公開する。

- 【館長】 伊藤文吉
【観覧日】 毎日午前九時—午後五時
【観覧料】 二〇円
高岡市美術館

富山県高岡市古城公園内
電 高岡二六六六
昭和二六年八月創立。主として郷土出身作家の作品を所蔵陳列している。日本画、洋画、工藝、彫刻等現代美術約一〇〇点。

- 【館長】 中條豊治
【観覧日】 毎日午前九時—午後五時
【観覧料】 無料
徳川美術館

名古屋市東区徳川町
電 名古屋東六六二六
昭和六年一二月財団法人黎明会により設立され昭和一〇年一月開館。尾州徳川家伝来の美術品、古文書等を保存し展観する。絵画、彫刻、工藝品外約一萬点。

- 【館長】 熊澤五六
【観覧日】 年末、年始を除き毎日午前九時—午後四時
【観覧料】 三〇円

【近畿地方】

神宮徴古館

宇治山田市倉田山
電 山田二六四四
神宮農業館附属の工藝館として明治二七年開設され、同四二年、財団法人神苑会によつて新築、徴古館と称し四四年神宮に献納された。神宮宝物その他歴史参

考品を収蔵し一般に公開する。昭和二〇年戦災により焼失したが、同二八年二月第五九回神宮式年遷宮附帯事業として同所に新築開館した。

- 【館長】 秋岡保治 (主幹) 来田新明
【観覧日】 一月一日—二月二八日午前八時半—午後四時半
【観覧料】 三〇円
熊野速玉神社宝物館

和歌山県新宮市新宅
電 五三三三
明治四〇年創立。主として鎌倉より室町に至る美術品数百点を収蔵、展観する。

- 【館長】 上野殖
【観覧日】 毎日午前九時—午後四時
【観覧料】 五〇円。

【京都】

京都国立博物館

京都市東山区大和太路通
七条上ル 電 祇園五四
明治二二年五月宮内省達を以て図書寮附属博物館が廃止され帝國博物館、帝國奈良博物館と同時に帝國京都博物館が設置された。二五年工事に着手し二八年竣工、三〇年五月開館した。この後官制改革により京都帝室博物館と改称、大正一三年今上陛下の御成婚に際し宮内省より京都市に下賜され、同年二月一日より恩賜京都博物館と改称し、京都市の経営するところとなつたが、昭和二七年文化財保護法の一部改正により同法の規定に基づき四月一日より国立移管をもつて京都国立博物館として新発足をした。内部組織

は館長、次長の下に管理課、学藝課を置き館長諮問機関として京都国立博物館評議員会が設置されている。(二〇一、二二七頁参照)

- 【館長】 神田喜一郎 (次長) 富岡益五郎 (課長) (管理課) 有本利三郎
【学藝課】 梅津次郎
【評議員】 石田芳之助、羽田享、本田親男、堂本三之助、大宮庫吉、岡田戒玉、貝塚茂樹、高山義三、辰馬悦蔵、瀧川幸辰、長崎太郎、村田治郎、上野精一、梅原末治、須田国太郎

【観覧日】 一月四日—二月二八日及び一月一日—二月二五日午前九時—午後四時、三月一日—一〇月三一日午前九時—午後四時半

- 【観覧料】 大人二〇円、小人一〇円
京都市美術館

京都市美術館

京都市左京区岡崎法勝寺町
電 吉田 四一〇七—八
今上陛下の御即位大札を記念し京都市が建設したもので昭和八年竣工した。同市並に同館主催の美術展覧会を開催する他、一般美術団体に陳列室を貸与する。昭和二一年進駐軍により接収されたが、同二六年五月解除となり、九月から再び開館した。

- 【館長】 原興作 (職員) 岡部三郎、加藤一雄他六名
北野天満宮宝物殿
京都市上京区馬喰町
電 西 陣 五

昭和二年一二月創立、菅原道真公歿後一〇二五年祭(半万燈祭)の記念事業の一

つとして設立され、国宝北野天神縁起絵巻を初め絵画、古文書等の宝物類を展示する。

- 【観覧日】 毎月二五日の月次祭当日と春秋二季の臨時開館日 午前九時—午後四時
【観覧料】 三〇円
廣隆寺靈宝殿

京都市右京区太秦蜂岡町
大正一一年一〇月創立。聖徳太子一三〇年遠忌記念に創設された。同寺蔵の飛鳥時代彌勒菩薩像を始め多くの仏像、仏画、美術工藝品等を収蔵している。

- 【観覧日】 毎日 (観覧料) 四〇円
醍醐寺靈宝殿
京都市伏見区醍醐東大路町二二

電 醍 醐 二
昭和一〇年四月開館 醍醐天皇一〇〇〇年遠忌の記念事業として設立された。

醍醐寺所蔵の彫しい仏画、一般絵画、彫刻、古文書記録、經典等を保管整理し、又一般に公開する。

- 【館長】 岡田戒玉 (主事) 佐和隆研
【観覧日】 春秋二季(四月—五月、一月—二月)毎日午前八時—午後四時
【観覧料】 三〇円

仁和寺靈宝館

京都市右京区御室仁和寺
電 西 陣 三 八
昭和二年五月竣工開館、聖教三十帖冊子、孔雀明王等仁和寺所蔵の国宝その他宝物を保管し一般に公開する。

- 【館長】 小川義章
【観覧日】 毎日午前九時—午後五時

〔観覧料〕 三〇円
豊国神社宝物館

京都市東山区大和大路正面
茶屋町 電 祇園三八〇二

大正一四年一月開館。神社宝物、歴史風俗資料を陳列する。

有 鄰 館

京都市左京区岡崎円勝
寺町四四 電 上 五

大正一五年一月創立。藤井善助の寄附行為による財団法人藤井善助会の経営。藤井善助の蒐集せる東洋古美術品を保存展覧する。

〔代表理事〕 藤井志づ

〔観覧日〕 毎月第一、第三日曜の正午—三時迄開館、但し一月、八月は休館。

〔観覧料〕 無料

陽 明 文 庫

京都市右京区宇多野上ノ
谷町一 電西陣七五〇

昭和二三年九月財団法人組織として設立。旧近衛家文庫古文書一〇万余点、古典籍三万余部を収蔵し、研究者のもとに依り随時閲覧の便を計つている。

〔総裁〕 近衛文隆(在リ) 〔主事〕 小笹喜三

【奈良】

奈良国立博物館

奈良市登大路町五〇
電奈良六四二—一三

明治三二年奈良帝國博物館設置せられ同二八年四月開館。三三年官制の改革と共に奈良皇室博物館と改められ、更に昭和

美術観覧施設

和二二年五月官制改正により皇室博物館は文部省の管轄の下に国立博物館となるに及んで国立博物館奈良分館と改称された。ついで二五年八月文化財保護法の制定にともない文化財保護委員会会の管轄に、又二七年四月東京国立博物館奈良分館に、同年八月文化財保護法一部改正により東京国立博物館より分離し、奈良国立博物館と改められて新発足をした。内部組織は館長の下に次長が置かれ、従前の庶務、学藝、普及の三課は廃されて新たに管理、学藝の二課が置かれ、館長の諮問機関として奈良国立博物館評議員会が設置されている。

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時
但し、七、八月は午前八時半—午後四時半

〔観覧料〕 二〇円
天理参考館

奈良県丹波市町守目堂
電 丹波市 三四一

昭和一三年四月創立。天理大学の教材として蒐集した海外土俗資料に、更に支那朝鮮の古美術の蒐集を合併し続いて西洋古美術資料、日本の塚貝資料、アイヌ資料、文楽人形等も加え、大学附属として公開している。

〔主事〕 福原喜代男

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後四時
〔観覧料〕 無料

東洋民俗博物館

奈良県生駒郡伏見町
電 富雄 六 九

昭和三年一月創立。財団法人組織。大正六年頃より九十九豊勝が個人として蒐集したものを収蔵し展覧する。各国、民族資料、特に比較宗教学に関する資料が多い。

〔館長〕 九十九豊勝 〔観覧料〕 二〇円

橿原公苑大和歴史館

奈良県高市郡畝傍町
電 奈良県橿原四七八

昭和一五年一月創立の大和国史館が同二四年八月大和歴史館と改称した。主として大和に関する上代の遺品、その他歴史的な事物を収集展示し、歴史教育に資する。又、一定期間に亘つて特に調査研究を希望するものに資料を閲覧さ

せる特別観覧の制度を設けている。

〔館長〕 土井實 〔主任〕 小島貞三
〔観覧日〕 毎日午前八時半—午後五時
月、火曜日午後休館

〔観覧料〕 普通、一〇円

【大阪】

大阪市立美術館

大阪市天王寺区茶臼山町二二一
電 天王寺 六一〇、四六〇九

古美術品の常設展覧と一般美術展の展覧場としての設備を兼ね、昭和一二年五月落成した。同月開館し、古美術の常設展覧は同年九月より開始した。絵画・彫刻・美術工藝・考古学資料に亘る同館蒐集保存の古美術品を常設展覧し、展覧会室・講堂は一般美術展・講演会等に貸館する。又図書閲覧室は規定に従つて一般の閲覧に開放する。

〔館長〕 望月信成 〔事務長〕 樋渡静男 〔学藝係長〕 藤井源一 〔学藝員〕 今村龍一、佐々木利三他

〔観覧日〕 一月六日—二月二八日、午前九時—午後五時 〔観覧料〕 二〇円

日本工藝館

大阪市北区堂島上二ノ四六
電 福島 五二—一四

昭和二六年六月創立。堂島の米倉であつたものを改増築し、民藝の研究と普及を目的として、財団法人組織により設立された。日本の現代民衆工藝品を主体として現代美術工藝品・版画等を蒐集常時展覧する。

〔館長〕 三宅忠一

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

〔観覧料〕 二〇円

〔観覧日〕 毎日午前九時—午後五時

〔観覧日〕 日曜・祭日を除き午前十時
―午後八時 〔観覧料〕 三〇円
観心寺霊宝館

大阪府南河内郡川上村
電 河内長野一三四
霊宝館は明治三三年に開設され、国宝
如意輪観音像を始め、仏像、古文書等の
寺宝を保管展観する。

〔館長〕 永島行善
〔観覧日〕 毎日午前九時半―午後五時
〔観覧料〕 一〇〇円

〔兵庫県〕
市立神戸美術館

神戸市葺合区熊内町一丁目
電 葺合 三〇 四三

南蠻美術の蒐集で著名な池長美術館
〔昭和一五年三月創立〕が建物・所蔵品共
に昭和二六年四月神戸市へ寄附され市立
神戸美術館となった。同年七月より開館。

〔館長〕 上月順治
〔観覧日〕 毎月一日より二十五日迄、
午前九時―午後五時。月曜休館
〔観覧料〕 二〇〇円
白鶴美術館

神戸市東灘区住吉町落合一
五四五 電⑧ 六〇〇一

昭和九年五月創立。昭和六年嘉納治兵
衛の古稀を記念してその美術工藝品、考
古資料の蒐集を永久に保存するため財団
法人白鶴美術館を設立した。建物は同九
年竣工し、五月から公開した。中国青銅
器、陶磁器、鏡、銀器及日本奈良古物等
の工藝品、金石類、刀剣等の所蔵品を春
秋陳列し、他に特別展を開催する。

〔理事長兼館長〕 嘉納治兵衛〔主事代
理〕 三杉隆敏
〔観覧日〕 四、五、九、一〇月の春秋
二季展の他に特別展を随時開き、年間
一五〇日開館
午前一〇時―午後四時 月曜休館

〔観覧料〕 五〇円
鶴林寺宝物館
兵庫県加古川市加古川町
北在家 電加古川五六三

大正一〇年一〇月聖徳太子一三〇〇年
御忌記念として宝物館を建設し、絵画、工
藝美術品、古文書等の什宝を保管し、希
望者のある毎に開館する。

〔中国地方〕
大原美術館

岡山県倉敷市新川町
電 倉敷五

昭和五年一月創立。故洋画家尾島虎
次郎を記念し、美術の研究発達に資する
ため絵画及びその他の美術品の蒐集、陳
列公開等を行う。大原孫三郎によつて創
設され、昭和一〇年三月財団法人となつ
た。泰西絵画、彫刻、古代エヂプト工藝
品等の収蔵品が著名である。

〔館長〕 武内潔眞
〔観覧日〕 年末年始、毎月曜日、祭日
を除き、毎日午前九時―午後四時
〔観覧料〕 五〇円、学生 三〇円
倉敷考古館

岡山県倉敷市前神町
電 倉敷一五四二

昭和二五年一月創立。考古学の研究
普及と地方文化の向上を目的として、財

団法人組織をとつている。考古学関係資
料一五〇〇点を収蔵す。

〔館長〕 鎌木義昌
〔観覧日〕 月曜日、年末年始、祭日
を除き、午前九時―午後四時
〔観覧料〕 四〇円
倉敷民藝館

岡山県倉敷市前神町
電 倉敷一六三七

昭和二三年一月創立。岡山県民藝協
会の事業の一つとして創設され、のち、
財団法人として独立した。古今東西の民
藝品の蒐集、展観、普及に當つてゐる。
所蔵品約二二〇〇点。附属工藝研究所が
ある。

〔館長〕 外村吉之介
〔観覧日〕 月曜日、年始年末、祭日
を除き、午前九時―午後四時
〔観覧料〕 四〇円
吉備考古館

岡山県都窪郡山手村
電 総社 四三三

昭和一七年創立、吉備地方を中心とし
た考古資料・郷土資料を展観する。
〔観覧日〕 毎日。開、閉館時間は不定。
〔観覧料〕 二〇円
畷島神社宝物館

広島県佐伯郡宮島町
電 宮島 三六

創立明治三〇年。現在の建物は昭和九
年建造され、畷島神社宝物として伝承し
た藤原時代以後の書蹟・工藝品等を公開
する。

〔館長〕 野坂元定
〔観覧日〕 毎日 〔観覧料〕 二〇円

出雲大社宝物殿

島根県簸川郡大社町
電 大社四八、三二二

大正三年三月創設。神像、古文書、武
器、祭器等を収蔵する。

〔観覧日〕 毎日、午前八時―午後四時。
長府博物館
山口県下関市大字豊浦村
電 五五五

昭和八年二月創立。当初は故桂彌一
が財団法人長府尊攘堂を創設し明治維新
前後の志士の遺墨等を収集陳列したもの
であつた。戦後は財団法人長府博物館と
改称、郷土を中心とした文化資料を陳列
保管する他各種特別展を行う。

〔館長〕 棟惣一
〔観覧日〕 三、四、五、九、一〇、一
一の各月以外は毎月月曜休館、午前九時
―午後五時、〔観覧料〕 一〇円
防府天満宮宝物館
(旧松崎神社宝物館)

山口県防府市宮市

松崎神社は昭和二七年四月炎上、同宝
物館は災禍を免れたが現在閉鎖中、尚昭
和二八年一月二二日松崎神社は防府天満
宮と改称した。

忌宮神社宝物館

山口県下関市長府町宮の内
電 長府 一九三

大正四年三月創立。神社創建以来の古
文書其他寄進による絵画、工藝品等を収
蔵する。

〔館長〕 磯部稜威雄 〔観覧日〕 無休
〔観覧料〕 二〇円

【四国地方】

高松美術館

香川県高松市栗林公園内
電 高松 三一 一六

昭和二十四年一月開館。昭和二十四年高松観光大博覧会を機会にその建物の一部三〇六坪を市立美術館として存置し、日展、県展、各種美術展を開催、地方文化の普及を計つてゐる。

〔館長〕 中村良三

金刀比羅宮博物館

香川県琴平町
電 琴平 一

金刀比羅宮博物館は宝物館、学藝館、金刀比羅宮書院の三施設に分れてゐる。

宝物館は明治三八年創立。金刀比羅宮所蔵の書画、刀剣、古文書等を収蔵展観する。学藝館は昭和三年創立。学藝参考品、標本等の外高橋由一の作品二六点を収蔵展観する。書院には鶴の間外四室に書かれた應舉の絵(重要文化財)がある。

〔館長〕 琴陵光重

〔観覧日〕 無休、午前八時―午後四時

〔観覧料〕 二〇円

総本山善通寺宝物館

香川県仲多度郡善通寺町
電 一一 一

明治三五年四月創立。善通寺伝来の絵画、仏像、工芸品等約一二〇余点を陳列展覧する。〔館長〕 亀谷宥英

〔観覧日〕 春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 一〇円

大山祇神社宝物館

愛媛県越智郡宮浦村

電 大三島三二

大正一五年六月創立。鎧、太刀等工芸品一〇〇〇余点を収蔵、展観する。

〔館長〕 三島敦雄

〔観覧日〕 無休。春、夏、午前八時―午後五時。秋、冬、午前九時―午後四時

〔観覧料〕 四〇円

【九州地方】

市立長崎博物館

長崎市馬町二一
電 九九 九

昭和一六年二月創立。開国史に關係ある郷土資料、主として中国、オランダ貿易關係の資料を蒐集し展観する。

〔館長〕 伊藤正雄

〔観覧日〕 毎日、午前九時―午後五時

〔観覧料〕 無料

本妙寺宝物館

熊本県熊本市花園町六
電 六三 〇

明治四二年五月創立。明治四二年清正公三〇〇年祭に際し公の威徳顕彰の目的を以て開設した。

〔館長〕 池上義豊

〔観覧日〕 毎日、午前八時―午後五時

〔観覧料〕 一〇円

菊池神社宝物館

熊本県菊池郡隈府町隈府
電 一四九

大正八年一月創立。菊池神社の教化活動の一助として設けたもので、菊池氏の遺墨その他を収蔵、展観する。

〔館長〕 櫻井勝之進

〔観覧日〕 午前八時―午後四時 但一〇月二二日より五日間休館

〔観覧料〕 二〇円

宮崎県立博物館

宮崎市神宮町
電 四〇 〇四

昭和二六年四月創立。昭和一五年、紀元二六〇〇年記念事業として奉議会が設立した徴古館を同二六年県立博物館として新発足したもの。考古資料を主とした博物館。

〔館長〕 日高重孝

〔観覧日〕 午前九時―午後四時半

〔観覧料〕 一〇円

鹿児島市美術館

鹿児島市山下町

昭和二九年八月創立。黒田清輝記念室を設け、その他藤島武二等郷土作家による作品の常置陳列を行ふ。

〔館長〕 谷口午二

〔観覧日〕 月曜を除き毎日、午前九時―午後五時

〔観覧料〕 二〇円

東京画廊一覽

白木屋画廊 中央区日本橋通一ノ九 電

千代田三五五

高島屋画廊 中央区日本橋通二ノ五 電

日本橋四一一

松坂屋画廊(銀座店) 中央区銀座六ノ一

電 銀座三一 八一

シシ (上野店) 台東区上野広小路

一 電 下谷一一 一一

三越画廊 中央区日本橋室町一ノ七

電 日本橋三三 一一

兜屋画廊 中央区銀座西六ノ三 電

銀座六三 三一

兼素洞 中央区京橋三ノ四第百生命館 電 東京(外)二〇七〇

壺中居 中央区日本橋通三ノ一 電

日本橋一八四六

松屋画廊 中央区銀座三ノ一 電

橋三一 一一

サエグサ 中央区銀座三ノ二 電

ギャラリ 橋五三 五六

和光 中央区銀座四ノ一 電

橋二四 三一

阿部養清堂 中央区銀座西五ノ五 電

銀座一三 一一

村松ギャラ 中央区銀座七ノ一 電

銀座七四 八九

資生堂画廊 中央区銀座西七ノ三ノ五

電 銀座七六 四一

新橋画廊 中央区銀座東八ノ三 電

銀座一三 九

教寄屋橋 中央区銀座西六ノ六 鉄道工

業ビル一階 電 銀座一八

六四

たくみ 中央区銀座西八ノ三 電

銀座二〇 一七

東京画廊 中央区銀座西七ノ五 電

銀座一八 〇八

日動画廊 中央区銀座西五ノ一 電

銀座二五 五三

丸善画廊 中央区日本橋通二ノ六 電

千代田二二 三二

松島ギャラ 中央区銀座三ノ二 電

橋七五 八七

三笠画廊 中央区銀座西六ノ一 電

銀座二六 五〇

室町画廊 中央区室町二ノ二 室町ビル

一階 電 日本橋一六 六一

弥生画廊 中央区西銀座並木通り 電 銀座三三〇

フォルム 中央区銀座五丁目二川瀬商 會二階 電 銀座五〇六一

草土舎画廊 千代田区神田小川町 電 千代田二七七二

竹見屋画廊 千代田区神田駿河台下 電 神田九二七

三省堂画廊 千代田区神田神保町一ノ一 電 東京(一)一三六

文房堂画廊 千代田区神田神保町一ノ二 一電 東京(一)七〇〇一

中央公論社 千代田区丸ビル二階 電 和田倉一〇二一

日比谷画廊 千代田区日比谷公園内 港区芝新校田町一九 電 東京(一)一七三二

光風会美術 港区芝新校田町一九 電 東京(一)一七三二

美松書房 港区芝田村町一ノ三 電 東京(一)五五一二

伊勢丹画廊 新宿区新宿三ノ八 電 淀橋二五四

西武百貨店 豊島区池袋二丁目 電 大塚一五一

京都画廊一覽

京都府 ギャラリー 下京区四条通河原町西入 電 本局五二〇七

丸善画廊 中京区河原町通蛸薬師上 電 本局二六一

土橋画廊 下京区四条通堺町東 電 本局一三三

大丸美術 中京区四条高倉 電 本局 二二二一

丸物美術 下京区烏丸通七条上 電 下八七二一

画築堂画廊 下京区河原町通五条下 下八七五

祇園商会 東山区祇園町南側五六二 電 祇園一四四六

京都美術倶楽部 東山区新門前通東大路西入

大阪画廊一覽

梅田画廊 北区曾根崎上二ノ三八 電 堀川二六二二

フジカワ 東区瓦町二 フジカワビル 電 (一)四九〇一、四四九四一五

美交社画廊 東区大川町四 電 北浜二五四二

淀屋画廊 東区今橋五ノ三六 電 北浜六〇一八

堂島画廊 北区神明町五〇 電 堀川五五一九

丸善美術 北区梅田町四七 新阪神ビル二階 電 福島六七九七

阪急画廊 北区角田町六二 電 福島六四六一

三越画廊 東区高麗橋二ノ六三 電 北浜八五一

大丸画廊 南区心齋橋一 電 南三五三一

そごう画廊 南区心齋橋一 電 南八四三六

高島屋画廊 南区難波新地六 電 戎一 二五一

松坂屋画廊 浪速区日本橋三ノ四五 電 戎一五三一

近鉄画廊 阿倍野区阿倍野町一ノ一 電 天王寺五一三一

美術団体一覽(五〇音順)

(い)

一采社(日) 世田谷区成城町二二九
高山辰雄方 昭和16年4月創立、同20年 戦災のため展覧会を中止したが翌21年より 引続き毎年春に展覧会を開き、昭和28 年4月第12回展開催。
〔会員〕 大山忠作、加藤東一、加藤長 明、河部貞夫、高山辰雄、中村正義、浦田 正夫、野島青枝、山口吉三郎、山田申吾、 朝倉攝、我妻碧宇、佐藤隼夫、三尾雄次、 嶋谷自然、森緑翠、鈴木竹柏、伊藤弘 一、水会(洋・版) 練馬区豊玉北町四ノ 一五田崎廣助方 (電練馬六六) 昭和11 年12月、旧二科会員八名は「会場藝術を 非とし、技術を重んじ、高雅なる藝術を 尊重することに於て一致」、同会を創立 した。同12年12月東京府美術館に第1回 公募展を開催し、爾後毎年秋季に展覧会 を開き、昭和29年9月第16回展開催。
〔委員〕 石井柏亭、池部鈞、池邊一郎 裕三彩亭、小野末、奥田郁太郎、高橋庸 男、高田誠、田崎廣助、仲田好江、中村 善策、中村琢二、納富進、山下新太郎、 安井曾太郎、深澤紅子、福田新生、小山 敬三、高野三三男、有島生馬、安宅庸雄、 荒谷直之介、木下孝則、木下義謙、鈴木 良三(〔会員〕 一〇七名)

一線美術(洋) 渋谷区穂田二ノ六三
石井栄方 昭和25年7月創立、年1回春

に展覧会を開き昭和29年3月第4回展開 催。
〔委員〕 岩井彌一郎、石川久三郎、石 上駒吉、石井榮、石川晴雄、伊藤行雄、 伊藤徳衛、磯村利雄、濱田羊、長谷川ハ ツ、新野歡一、別府貫一郎、千木良富士、 沖田稔、萩原城舟、河崎千代子、神田房 光、横山嘉平、田村満、村瀬眞治、上野 山清貢、山田篤、山田新吉、矢部桂一郎、 町田文雄、松浦喜久次、兒玉勝次、小柳 勇兒、秋山良太郎、西東重義、佐々木榮 松、紫藤卓三、平田健三、寺田正、簀輪初 太郎、宮澤今朝雄、三浦きよ子、木村博之

(ろ、え)

上野会(挿) 杉並区馬橋二ノ二四四
山本武夫方 昭和24年創立、東京美術学 校出身者よりなる挿絵家を主とする集り
〔会員〕 伊藤文七、富田千秋、織田音 也、小川洗二、鴨下晃湖、田中良、竹田 忠丸、山本武夫、梁川剛一、藤形一男、 三輪孝、三谷一馬、三輪秀、清水三重三 エスプリ会(洋) 世田谷区若林町四六 一 西田信一方 昭和27年11月創立、近 代絵画の研究会
〔会員〕 長谷川三郎、西田信一、脇田 和、川端實、村井正誠、山口薫、小松義雄

(お)

旺玄会(洋) 武蔵野市吉祥寺三二六一
堀田清治方 昭和19年解散した牧野虎雄 を主宰者とする旺玄社が21年新に旺玄会

として発足した。昭和29年5月第8
回展開催。

〔委員〕 青山襄、堀田清治、金井文彦、
金子保、近藤せい子、小林喜代吉、小林
猶治郎、皆見鶴三、長屋勇、大久保作次
郎、阪井谷松太郎、佐藤文雄、鈴木金平、
高間惣七、高野眞美、田邊嘉重、田澤八
甲、遠山純一、梅野順三、吉村吉松

大阪工藝美術会(工) 大阪市天王寺区
逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内 乙住
会、九和会を解消してその他の工藝家を
加え、昭和23年8月組織したが、昭和29
年解散し、阪都美術工藝会を結成。

〔会務代表者〕 柴崎風岬

岡山県民藝協会 岡山県倉敷市向市場
電倉敷一五四一 昭和21年6月創立、凡
ゆる生活用具を健康、簡素、誠実ならし
め、生活に真の美を直結せしめること
を趣旨とし、工藝品の調査、指導、地方
民藝館の創設経営、工藝研究所及び図案
指導所等の開設を事業目的としている。

〔会員〕 個人三三〇名、法人一〇団体

(か)

華敵美術協会(洋) 京都市上京区北大
路新町東入ル(事務代表者京都市上京区
塔之段敷ノ下町四二一 中川義憲方 昭
和15年6月創立。紀元二六〇〇年を記念
して彌歩会を解散、華敵美術協会とし
て再発足した。昭和28年9月第16回展開
催。

〔会員〕 赤澤正次、赤松文子、新井
完、荒木貞人、居井直胤、伊丹愛子、

井垣嘉平、池田治三郎、井上三郎、岩
田順三、梅林良子、上田輝七郎、角
野判治郎、北川威夫、浦見文雄、小西
丘太郎、小林富蔵、小林正雄、島戸繁、
霜鳥之彦、篠崎貞五郎、鈴木和、関口正
夫、武田新太郎、坪井一男、辻川新十郎、
中井潔、中川義憲、中堀愛作、成田浩子、
成瀬十郎、西岡義一、則元醇、原田久之
助、伴庄兵衛、富士一男、藤松舟之助、
古澤廣樹、正木順子、松田藤兵衛、松田
淑子、三尾孝三、水谷ミヨ、南素行、宮
内順三、安江孝治、山尾平、山田新一、
山田キミ、由里明

関西水彩画協会(水) 大阪市阿倍野区
北畠東一ノ二九 桂龍雄方(電住吉二一
四〇) 昭和10年4月創立、関西在住の
水彩画家の団結、親睦、普及研究を趣旨
とする。機関誌「関西水彩」発行。公募展
開催。

〔会員〕 池島勘治郎、別車博資、桂龍
雄、青野馬左奈、乾一雄、大庭しづ子、
小倉賢海、田村雅保、芹生政夫、庭田定
男、松村豊太郎、大久保正義、赤尾長二、
山田一雄、上田素由、栗林忠男、佐野比
呂志、溝尻頼吉

〔会務代表者〕

〔会務代表者〕 柴崎風岬

(き)

菊池画塾(日) 京都市上京区平野鳥居
前町四二 菊池契月方 菊池契月主宰の
日本画塾。

九元社(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ
一四九 森大造方 昭和9年創立、昭和
18年迄毎年展覧会を開催していたが現在

は活動を中止している。

〔会員〕 高橋泰蔵、中野四郎、村井辰
夫、鈴木三郎助、長沼孝三、紺谷英儀、
石塚貞男、森大造、奥山泰堂、長谷川宏
九室会(洋・彫) 杉並区久我山二の六
二六 森田信夫方 昭和13年11月創立。
二科展の第9室を中心とする新傾向作家
の親睦を図り、併せて各自の研究を目的
とする。戦時中絶、昭和25年再組織、昭
和26年第1回展開催、毎年春期展覧会開
催予定。

〔絵画賛助会員〕 阿部金剛、井上覺造、
桂ユキ子、桑原實、中原實、野村守夫、
岡本太郎、大澤昌助、荻野康児、織田廣
喜、鷹山宇一、寺田竹雄、鶴岡義雄、山
口長男、山路真護、山本敬輔、吉原治良、
伊藤研之、松葉清吾

〔会員〕 安藤幹衛、藤田金之助、萩尾
テル、搞賢三、春田安喜子、長谷川三千
春、橋上菁児、今泉六郎、今長谷巖、稲
垣克己、因藤壽、伊勢谷慶子、伊藤静尾、
岩田安郎、狩野守、清川(旧姓柏田)泰次、
加藤孝一、加藤正一、木俣滋彦、近藤長
三郎、越谷繁造、増田勉、森田信夫、中
川時之助、中田豊、浪江勘次郎、根本茂
子、西村千太郎、能岡弘、大淵陽一、織
田りら、小川清、齋藤三郎、榊山勝、佐
佐木良三、田川覺三、高橋滿州男、丹下
富士男、田中君子、竹中清、戸川串田、
戸川ふみ子、上田民子、山本不二夫、山
ノ内靖己、山谷鉄一、米田三男之介、吉
村勲、依岡恒喜、吉田一夫

〔彫塑賛助会員〕 浅野孟府、堀内正
和、笠置季男、乗松巖、上田暁、植木

力、野水信、淀井敏夫、廣瀬不可止

〔会員〕 飯田巖三、岩元権子、水野修
道、野口嘉光、關口孝吉、曾山節雄、植
村育子

京都金藝作家協会(工) 京都市上京区
等持院西町一六 加藤宗藏方 昭和26年
5月創立。京都金藝作家の同志的集り。
展覧会を銜錚展という。昭和29年6月第
3回展開催。

〔会員〕 浅井清太郎、今大路長光、上
田哲三、大久保鼎湖、加藤宗藏、加茂靈
峯、金谷五良三良、金江宗観、小林尚珉、
小泉八郎、野田喜市、村田信續、村上直
行、辻井健三、五島正広

京都新彫刻家クラブ(彫) 京都市東山
区五条橋東五ノ四六七 清水禮四郎方
(電祇園三三三) 昭和27年2月創立。

〔会員〕 伊室重孝、清水禮四郎、藤庭
賢一、藤林重次、河野薫郎、小谷謙、岡
本庄三、山本恪二、三宅五穂

〔洋〕 豊島区要町一ノ四八ノ四
梶田英一方 昭和27年10月創立。昭和16
年12月東京美術学校油絵科卒業生の集
団。昭和29年6月第2回展開催。

(付)

型生派美術家協会(洋) 世田谷区宇奈根町八一〇 庫田發方 国画会中堅会員により昭和25年結成された。昭和29年第5回展開催。

〔委員〕 宇治山哲平、香月泰男、喜多村知、國松登、熊谷九壽、庫田發、須田翹太、福留章太、福井敬一、山崎隆夫、原精一、橋本三郎

現代美術協会(洋) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ三二四 宮島資雄方 昭和23年11月、日本作家協会洋画部、現代美術作家協会新生派美術家協会の三団体が合同して設立発足したものである。昭和29年6月第10回展開催。

〔委員〕 朝田進、丘野美、小澤正、佐藤亘宏、原田雅兆、古川恂、三浦勝治、宮島資雄、〔委員〕 大野堯岳、齋藤森重、鈴木重雄、田中皓四郎、武藤重典、由比謙三郎、升紇、照丘晃子、島崎貞子、相澤謙一、加藤喜男、中野龍次郎、根来茂、村瀬卓郎

(二)

工彩会(上) 北区中十条二ノ八 會田富康方(電王子六五五五) 昭和17年研究団体として発足。昭和24年第1回展を開く。昭和29年7月第6回展開催その間地方に於いて移動展を開催する。

〔委員〕 飯塚小軒齋、伊藤隆光、伊藤鎌一、井上良齋、大谷玲石、大坪重周

岡本玉水、岡本輝子、山本曠、川上南甫、加藤愷男、梶本義英、勝田静璋、竹内蘭山、高木幾望、武田三千子、中田錦石、長野埜志、中島珠光、中島実、山本正年、前大峰、松本佐吉、小林清、後藤九吉、寺井直次、會田富康、有田利章、天野策地、明石義祐、櫻井一郎、佐藤貞一、三井義夫、三田村秀雄、三村昌弘、新村撰吉、平野利太郎、平田郷陽、安きよ子、介川芳秀、中野馨一

紅土会(洋) 新宿区下落合三ノ一八五九 櫻井慶治方 昭和23年6月創立。同年より毎年展覽会開催。昭和29年8月第8回展を開いた。

〔委員〕 櫻井慶治、上島一司、宮脇憲三、矢口洋、武内和夫、野本正雄、海老澤敏夫、花田忠吾、尤道健治、武林敬吉、篠田喜代志、仲町謙吉、森清治郎、寺橋本萬寿子、遊馬正(協賛指導者) 寺内萬治郎、渡邊武夫

行動美術協会(洋・彫) 世田谷区弦巻町一ノ二六ノ一 向井潤吉方(電世田谷三五六〇) 昭和20年11月創立、昭和19年二科会解散し、翌年8月終戦後二科会は再結成を図つたがその際主張の異なる旧二科会々員の一部を中心として組織された。昭和29年9月第9回展開催

信、川原章二、山中春雄、高井寛二、佐藤真一、齋藤真成、津高和一、田中勇次郎(彫塑部) 建昌覺造、中島快彦、向井良吉、板谷慎、今村輝久、伊勢典賢、林是、阿井正典

光風会(洋・工) 港区芝新松田町一九光風会館内(電東京〇一七三三) 責任者小寺健吉。明治45年創立。明治44年白馬会解散後、中澤弘光、山本森之助、三宅克己、杉浦非水、岡野榮、小林鐘吉、跡見泰の七氏発起して創立、第1回展を45年6月上野竹之台陳列館に開催した。官展系洋画家の団体、毎年春季公募展を開催。昭和29年4月第40回展を開いた。

〔委員〕(絵画) 石橋武治、井手宣通、伊藤應九、伊藤梯三、伊藤四郎、岩船修三、伊藤鎗一、井上武、飯田彌生、池野壽彦、服部亮英、橋口康雄、西山眞一、西村厚定、西尾善樹、西村俊郎、西村喜久子、西岡義一、星野正三、遠山清、土佐林豊夫、土橋醇一、戸塚孝三郎、鳥井昇、中條茂、岡田又三郎、小川智、大澤海藏、大河内信敬、緒方亮平、斧山萬次郎、小川博史、奥山堤、大原省三、大倉克次、大桃寛、渡邊實夫、和田香苗、和田清、河井清一、梶原貫五、花嚴殿、角野判治郎、笠井忠郎、金子徳衛、金澤秀之助、米本一郎、田村一男、高木春太郎、高宮一榮、田中實一、反町博彦、高橋道雄、高宮一也、竹岡良太郎、高田正二郎、竹澤基、相馬其一、辻光、辻朗、辻村八五郎、根津莊一、長原坦、中村研一、中澤弘光、中尾達、永田精二、名渡山愛順、内藤聿、中島音次郎、村岡平藏、宇城

時志、上島一司、野平上、黒田頼綱、黒田久美子、熊澤欽三、樽松正利、山中清一郎、山下忠平、山口猛彦、山喜多二郎、山崎坤象、山村孝太郎、山本彪一、柳瀬俊雄、山田新一、牧野司郎、松尾正巳、益山雅衛、松浦莫章、藤彦右衛門、藤本東一良、古屋浩蔵、舟木徳重、藤井芳子、藤江理三郎、福山進、小絲源太郎、小林眞二、小寺健吉、小林易夫、江藤純平、江坂清作、寺内萬治郎、赤城泰舒、安達眞太郎、足立眞一郎、足代義郎、朝比奈文雄、有馬三斗枝、秋元松子、荒井邦朝、鮫島利久、笹岡了一、阪倉宜暢、笹鹿彪、櫻井悦、櫻田精一、齋藤齊、坂田虎一、櫻井慶治、清原重以知、鬼頭鍋三郎、木村八郎、北濱淳、幸島重雄、由里明、耳野卯三郎、南政善、水上信雄、三輪孝、溝江勘二、三上義人、宮脇憲三、三尾文夫、白石隆一、市ノ木慶治、新道繁、白川一郎、島野重之、神保和幸、新保兵次郎、庄司榮吉、日原晃、久本弘一、森山肇、森田元子、森桂一、守屋千之、妹尾壽信、瀬戸千代三、杉村悖、鈴木三五郎、菅谷邦敏、浅井光男、石河彦男、岡本由郎、千田徹夫、松本正人、森清治郎(工藝) 一噌元治、西村英夫、大富隼男、大阿久重治、驚田りめ、川合修二、巽勇、染川鐵之助、辻光典、中田満雄、中村俊介、中村董一、夏井清、上野正之輔、上野斌郎、山形駒太郎、小林清、佐藤正巳、杉浦非水、三輪智一、久保駒太郎、松風榮一、福原達朗、武田信弘

神戸洋画会(洋) 神戸市東灘区本山町田辺三八 三木朋太郎方(電御影七五八六)昭和21年創立、阪神在住の洋画家をもつて組織、毎年展覧会を開く。

〔常任委員〕 朝倉斯道、大塚銀次郎、小磯良平、川西英、上田清一、小松益喜、大石輝一、江田誠郎、三木朋太郎〔会員〕 宮下貞之介、大石輝一、藤井二郎、石黒平三郎、根本從之介、伊藤慶之助、辻愛造、山崎隆夫、上田清一、三木朋太郎、前田藤四郎、大垣泰治郎、田村孝之介、岡正一、松田豊、奥村隼人、小磯良平、小松益喜、青木一夫、中岡恒雄、江田誠郎、久本弘一、細谷重雄、津谷鹿市、佐藤篤郎、川西英、角野判治郎、伊川寛、別車博資、榊井一夫、尾田龍、新井完、神原浩

光陽会(洋) 北区上中里一ノ二 多々羅義雄方(電王子五七〇九) 昭和29年2月創立。太平洋画会を脱退した会員により結成され、民族性を活かした独自の藝術を創作することを目的とする。昭和29年7月第1回展開催。

〔会員〕 多々羅義雄、井口勇、早川芳彦、齋藤武、間所一郎、丸山精一、森田賢、柴田康雄、吉川俊久、北原毅、大田宗平、島田良雄、若林清、西本雅哉、原田繁男、石田道治、小林孝一、根本和子、大川美友、保田勲夫〔顧問〕 椎野孝

國画会(洋・版・工・写真) 世田谷区松原町三の八の四 前田政雄方 大正7年1月小野竹喬、土田麥僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰の五名は國画創作協会を設立、爾來毎秋東京及京都に於て協会展を開催し、又入江波光はじめ数名

の若い作家を同人に推挙したが、同15年梅原龍三郎、川島理一郎の両名を迎えて第二部を新設し更に富本憲吉、金子九平次を加えて彫刻及び工藝を同部に置いた。その後昭和3年7月解散したが、第二部は存続して國画会と改称し大橋幸吉、梅原龍三郎、川島理一郎、金子九平次、富本憲吉、山脇信徳の旧会員に新高村光太郎、椿貞雄、河野通勢の三名が参加し、翌4年「第4回國画会展」を公募の上開催した。第6回展に版画部新設、平塚一が鑑査を担当した。10年梅原龍三郎及び富本憲吉は新帝院会員に任命され、同年6月川島理一郎は同会を脱退した。尚第14回展には写真部を新設し、鑑査には福原信三、野島康三の両名が当った。同14年彫刻部は同会を結束離脱し、清水多嘉示を除いて他の全員が新制作派に合流し同会は彫刻部を解消した。29年理事制を廃し客員制を設けた。昭和29年4月第28回展開催。

〔名譽会員〕 梅原龍三郎〔会員〕(絵画部) 青山義雄、青木達彌、伊藤廉、池部貞喜、井上三綱、石井照、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌外、香月泰男、喜多村知、木内廣、國松登、熊谷九壽、久保守、庫田愛、小林邦報、小泉清、澤野岩太郎、里見勝蔵、澁川榮志、島内キミ、杉本健吉、須田勉太、曾宮一念、立石鐵臣、高松健太郎、辻愛造、椿貞雄、土田文雄、中村博、中村好宏、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、

二見利節、細谷重雄、益田義信、馬越研太郎、眞垣武勝、松大満史、松田正平、宮田重雄、村上巖、山村誠、山崎隆夫、養田つや子、和田忠志、鈴木正二、小館善四郎、上田清一、田中道久、北村綱義、音部幸司(版画部) 畦地梅太郎、橋本興家、恩地孝四郎、川上澄生、川西英、齋藤清、下澤木鈇郎、品川工、笹島喜平、關野準一郎、平塚運一、ブブノワ、前田政雄、山口源(写真部) 入江泰吉、小野由行、木村伊兵衛、中居正躬、西山清、錦古里孝治、野島康三、北角玄三、長濱慶三、吉川富三、内田美胤、竹見義雄、島田貫一郎(工藝部) パナード・リッチ、上田恒次、及川全三、岡村吉右衛門、河井武一、小島憲次郎、後藤清吉郎、佐久間藤太郎、芹澤銈介、鈴木繁男、外村吉之介、廣本長子、船木道忠、船木研志、三代澤本壽、柚木沙彌郎、柳悦孝、安川慶一(客員) 福島繁太郎、浜田庄司、河井寛次郎、西村繪左衛門、野島康三、柳宗悦

〔名譽会員〕 梅原龍三郎〔会員〕(絵画部) 青山義雄、青木達彌、伊藤廉、池部貞喜、井上三綱、石井照、宇治山哲平、内堀勉、大森啓助、大谷房吉、大淵武夫、尾田龍、柏木俊一、川口軌外、香月泰男、喜多村知、木内廣、國松登、熊谷九壽、久保守、庫田愛、小林邦報、小泉清、澤野岩太郎、里見勝蔵、澁川榮志、島内キミ、杉本健吉、須田勉太、曾宮一念、立石鐵臣、高松健太郎、辻愛造、椿貞雄、土田文雄、中村博、中村好宏、長谷川春子、原精一、橋本三郎、南風原朝光、平塚運一、日向裕、福留章太、福井敬一、

7月第22回展開催。〔会員〕 伊藤幹雄、井上正喜、羽藤馬佐夫、加藤正信、金子絃通、茅原隆、横山徳二郎、竹上義治、高木秀男、中島久雄、山本甚作、矢島俊一、古賀正秋、越次勇、佐藤昌祐、木村昭彌、白石延夫、鈴木堅司、杉原正一、堀口安衛、小野弘雄、後藤高司、荒井一男、野末兆光、酒井たみ、徳本立憲、角田和志郎、横山俊郎、大和田一郎

サロンド・ジュワン(洋) 豊島区長崎六ノ四一 米倉壽仁方 昭和26年6月創立、昭和29年7月第4回展開催。〔会員〕 濱田稔、堀田操、大口登、渡邊寛治、米倉壽仁、中島覆、眞島建三、三水公平、木谷俊、辻葦夫、盛益子

3季会(洋) 大田区調布鶴ノ木町一八六 木内廣方 昭和28年6月創立。國画会所属の三〇代作家を主体とする。昭和29年9月第2回展開催。〔会員〕 石原宏策、音部幸司、木内廣、高松健太郎、野田好子、本田克己、和田忠志、小館善四郎、川村浩章、菊地辰幸、鈴木正二、積田鑑子、張普正次、渡邊貞一、東貞美、田宮裕己、水木徳子

三光会(日) 杉並区堀之内一ノ一三二 田中針水方 川金玉堂の塾生により昭和21年11月創立、昭和29年3月第8回展開催。〔会員〕 井上恒也、田中針水、山下巖

朔日会(洋) 台東区谷中真島町一ノ一 羽藤馬佐夫方 昭和13年創立、昭和27年

楢原健三方 昭和22年10月創立、昭和29年3月第7回展開催

〔代表者〕 石川寅治 (常任委員) 石川寅治、三上知治、奥瀬英三、光安浩行

〔委員〕 江崎寛友、半田圭治、田原輝夫、水戸敬之助、三井滋雄、松木重雄、中村新次郎、楢原健三、奈良岡正夫、能見三次、大沼静巖、大内田茂士、寺崎善次郎、阿部廣司、山田説義

〔會員〕 安西恒男、青木純子、阿部廣司、江崎寛友、富士一男、半田圭治、原本虎雄、原本敏子、細梅久彌、細島昇一、石川寅治、伊藤源右衛門、木下克己、木下邦子、工藤靖彦、三上知治、水戸敬之助、三井滋雄、光安浩行、松木重雄、盛忠七、中村新次郎、中村勝美、中谷健次、楢原健三、奈良岡正夫、内藤秀因、能見三次、加藤義雄、奥瀬英三、奥森多可志、大沼静巖、大内田茂士、太田嘉兵衛、織田寅之助、齋藤俊雄、佐野喜太郎、清水敦次郎、關口文雄、芹生政夫、鈴木満、田原輝夫、武田一郎、玉井力三、寺崎善次郎、戸津文雄、内野英實、飛塚安吉、吉原甲蔵、山川利夫、山田説義、進藤正一郎、佐々木四郎、盛國春、平光軍一、吉田敏夫、波多野光臣、梶一郎、大坪實、木村米仁、佐々木眞夫、居岡金一、天井陸三、石橋フク、小村平八、長内亮、海野経、三田村武雄

〔會員〕 伊豆藏壽郎、宇野三吾、岡本素六、大西金之助、加藤仁、鈴木康之、中西美和、沼田一三、林康夫、雲雀民雄、藤田作、益田哲、三浦省吾、渡邊好章

〔顧問〕 伊東深水、児玉希望、矢野橋村

〔客員〕 寺島榮明、田中以知庵、池田遙郎

〔委員〕 西野新川、奥田元宋、田中針水、武藤嘉亭、海野旭世、山下巖、牧野雅彦、福与悦夫、白井烟富、森正元、佐藤太清、白鳥映雪、浜田台児、渡邊阿以湖、笠原可於、立石春美、村松乙彦、松本郭南、鈴木由太郎、鈴木石鴨子、松浦満、間宮正、八幡白帆、直原玉青、大平華泉、川上青山、秋元節朗、北村明道、森戸國次、伊東萬耀、水野陽翠、森田秀治

〔會員〕 一四三名

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

〔會員〕 品川区上大崎長者丸三

森川昭、森堯茂、乙葉統、小山壽男、八幡健二、比田井仁史、石壽星、峰村リツ子、灰谷正男、井上信道、奈知安太郎

主潮社(日) 大阪府豊中市麻田一〇九四ノ九 矢野橋村方 (電石橋三四二) 昭和22年1月創立、矢野橋村を会長とする日本画塾。〔委員長〕直原玉青

出版美術家連盟 新宿区下落合四ノ二 一一一 林唯一方 (電落合三三五四) 昭和25年10月創立、戦前の日本挿絵画家協会を戦後改称したもの。〔理事長〕岩田専太郎 (専務理事) 鴨下晃湖

朱葉会(洋) 新宿区下落合二ノ六六七 吉田ふじを方 (電落合四三三七) 大正7年創立、女流洋画家の団体、昭和29年6月第6回連立展開催。

〔会員〕 友田みね子、吉田ふじを、山田文字子、大久保爲世子、赤津捨子、岩村芳子、水澤順子、南桂子、吉田千鶴子、小川イチ、佐藤榮子、森野照子、石川よし子、仲敬子、直井澄子、梅川慶子、重松京子、他

青甲社(日) 京都市東山区八坂通東大路西入 西山翠峰方(電祇園一六八四) 西山翠峰を塾主とした日本画研究団体、大正10年1月創立。〔総務〕西山英雄

〔幹事〕 樋口富磨

春泥会(日) 大阪市住吉区帝塚山中三ノ二六 中村貞以方 中村貞以の主催する日本画の画塾。昭和11年5月創立 昭和29年6月第13回展開催。

春陽会(洋・版・舞台装置) 杉並区和田本町八三二 水谷清方(電中野六三七八) 大正9年秋日本美術院洋画部を脱退した

小杉未醒、山本鼎、倉田白羊、森田恒友、長谷川昇、足立源一郎の六名は同11年1月、新帰朝の梅原龍三郎を加え、更に九名の客員を迎えて同会を創立、「春陽会」は従来屢々見たる如き既成会への社会的対抗として興らず、単なる藝術家の心を以て因縁相熟したるものとす」と声明した。翌年5月上野竹之台陳列館に第1回展を開き、爾後毎年春季に公募展を開催し、又東京開催後大阪、名古屋等に地方展を催している。昭和26年から舞台美術部を設けた。昭和29年4月第31回展開催。尚春陽会研究所は昭和4年開設、現在に及んでいる。

〔会員〕(油絵)石井鶴三、石井光胤、伊藤慶之助、岩田榮之助、伊川鷹治、今竹七郎、岩崎又二郎、伊藤善、原田武男、原田平治郎、新沼杏一、本莊起、豊泉恵三、友田みね子、岡鹿之助、小穴隆一、鬼塚金華、小栗哲郎、大澤鉦一郎、小川マリ子、大嶺政寛、小川緑、若山爲三、加山四郎、川端彌之助、加賀孝一郎、川隅路之助、川上尉平、川島昇太郎、加藤秀夫、横堀角次郎、吉田達磨、高田力蔵、高橋辰雄、田中壽太郎、田川勤次、田辺謙輔、田中岑、土屋義郎、中川一政、南城一夫、中谷泰、中村徳三郎、村山密、上野春香、上原欽二、魚津良吉、野村千春、栗田雄、倉田三郎、山川清、藤野龍、藤井令太郎、小杉放庵、小泉倫之助、遠藤典太、足立源一郎、秋口保波、荒木市三、佐藤篤郎、佐藤昌胤、木村班八、水谷清、三雲祥之助、南大路一、宮田武彦、宮脇晴、三井永一、志村一男、森川

鏡、角南松生(版画)長谷川潔、前田藤四郎、古川龍生、駒井哲郎、北岡文雄(舞台美術)伊藤薫朔、吉田謙吉、織田音也、河野国夫、北川勇

上彩会(総) 千代田区立今川小学校内(電茅場町七八〇)九代表者藤澤典明、昭和22年創立、東京都小学校在職者にて終戦後東京都学術派遣生として東京美術学校に派遣された二六名にて結成する。

女流画家協会(洋) 三鷹市下連雀三〇 五 桜井浜江方 昭和21年11月創立。女流画家相互の研究と新人の登龍門としてアンデパンダン形式の展覧会を開催する。昭和29年6月第8回展開催。

〔会員〕 一〇〇余名

新工人協会(工) 世田谷区若林町二〇 四 辻協子方 昭和26年12月創立、若い工藝家の新作発表機関、昭和29年6月第5回展開催。

〔会員〕 辻輝子、林尚月斎、近藤実、北原央他一五名

新構造社(総) 北多摩郡小金井町小金井四四八 三村英一方 昭和10年6月構造社有志幹事会は絵画部の解消を決議したが同部は翌月構造社總會を招集彫刻部会員を退会者なりとして決議の上開催した。11年7月彫塑団体十七会の加盟により名を新構造社と改称、更に工藝部を新設した。昭和24年から太平洋画会、新構造社、朱葉会、創造美術会の四団体による自主連立展を開催し、3回展を了えて太平洋画会が退会、三団体による連立展を經營している。毎年1回展覧会開催、

昭和29年6月第6回自主連立展開催。

〔会員〕(絵画)新井時厚、本目勇市、市川兼治、石崎勝三郎、改井貞子、何徳來、本村晃郎、清浦正風、楠本繁、北澤博生、小祝嘉一郎、齋藤六郎、齋藤慶一、三村英一、岡田洋采、岡本壽一郎、岡義長、古川彰治郎、中川安一、南部一信、難波魁、大野元明、大澤康之、太田友一、及川康雄、小田福丸、小口一郎、島太郎、三枝徳太郎、妹尾弓子、上松二朗、竹澤要作、寺中増直、徳山巍、多比羅榮一、山本好信、下淵冷泉子、山中馨(彫刻) 濱田三郎、思田忠一、鍋元治、林達川、鈴木博、寺畑助之丞、戸張幸男(工藝) 齋藤あき子(写真) 秋山青磁、岩間恒久、則松皓一、天野光章、熊谷辰男、長口宮吉、仙波巖、八木治、三溝貞之助、赤穂英一、立花浩二、山田廣次、田村榮、山名常人

再興新興美術院(日) 中野区江古田二ノ一五 茨木杉風方 昭和12年9月日本美術院を脱退した元院友一二名を以て結成、戦争中一時中絶していたが昭和25年旧新興美術院同人六名に他二名を加え再興新興美術院として発足、毎年春秋2回展覧会を開催、昭和29年5月第4回秋季展開催。

〔会員〕 茨木杉風、横田仙草、田中案山子、岡田魚降森、小林菓居人、鬼原素俊、芝垣興生、高島祥光、林部圭幸、岡田鏡石、倉持晋一、松永光玉、兒玉三鈴、岩崎巴人、上田臥牛、安孫子荻聲、箱山精一、花岡朝生、養父清道、田中きみ代、谷口正春

新樹会(洋・彫・版) 台東区谷中清水町三 大河内信敬方(電駒込四八八七) 昭和22年3月創立、昭和29年8月第8回展開催。

〔会員〕 井手宣通、原勝郎、濱口陽三、大河内信敬、大久保泰、山本豊市、朝井閑右衛門、齋藤愛子、木内克、南政善、清水多嘉示

新樹会(工) 京都市上京区北野紅梅町三三 黒田暢方(電西陣六八二八) 昭和23年5月創立。昭和23年の京都絵画専門学校卒業生を中心に結束した染織研究団体。昭和28年6月大阪松坂屋で展覧会開催。

〔会員〕 伊藤逸平、横山茨明、中島正三郎、黒田暢、寺石正作、斎田あさ、来野月乙、日高祥三郎、杉田博美、鹿野雄次郎

新匠会(工) 京都市右京区川島北裏町五七 稲垣稔次郎方(電桂三三二) 昭和22年新匠工藝会として第1回展を開催、昭和26年第5回展より新匠会と改め、昭和27年在野団体として新発足。昭和29年第9回展開催。

〔会員(陶) 福田力三郎、藤本能道、熊倉順吉、近藤悠三、森一正、鈴木清、富本憲吉、徳力孫三郎、徳力牧之助、山田詰(染)稲垣稔次郎、河合隆三、暮田延美(漆)山永光甫、古山英司(金)増田三男

森々会(日) 杉並区阿佐ヶ谷三ノ五二八 川崎小虎方(電荻窪一〇七七) 昭和25年7月川崎小虎塾有志により結成。昭和29年5月第4回展開催。

〔顧問〕 川崎小虎、東山魁夷〔会員〕

石曾根貞亀、石田重子、大田歳夫、奥山芳泉、小倉芳司、小澤春子、川崎鈴彦、川崎春彦、田中千恵、永山十志夫、奈良裕功、小關きみ子、佐藤永芳、三河義太郎、山本瑛幾、大島秀信、小野茂明、石倉正富

新水彩作家協会(水・染色・版画・写真) 杉並区上荻窪一ノ一三 五井開一方(電東京(南)六四六五) 昭和24年2月創立、昭和29年3月第6回展開催。

〔会員〕 (水彩・版画部) 姫野正義、古郷八郎、小林新吉、前林章司、滝澤清、五井開一、増田大豊、大久保覺郎、小倉静三、田村貫一、三輪田元也、柴原雪子(染色部) 大坪重周、奈良東明子、中村光哉、栗原宏(写真部) 岡田紅陽、植木康次、深沢富造、山田温水、有賀長敏、関清、富岡畔草

新制作協会(日・洋・彫・建) 豊島区椎名町一ノ一八〇三 竹谷富士雄方 昭和11年7月、第二部会が文展に参加するに及び猪熊弦一郎、内田巖、佐藤敬、中西利雄、小磯良平、三田康の六名は同会を離脱、脇田和、伊勢正義、鈴木誠の三名とともに新制作派協会を設立、同14年7月国画会の彫刻部を脱退した本郷新、佐藤忠良、山内壮夫、柳原義達、吉田芳夫、舟越保武、明田川孝によつて彫刻部を設けた。同24年には建築部を新設、26年には日本画在野団体創造美術と合流し新に日本画部を設け新制作協会と改称した。展覧会回数は従来の回数を追うことになつた。昭和29年9月第18回展開催。

〔会員〕 (油絵部) 伊藤綱郎、猪熊弦一郎、石川滋彦、伊勢正義、西田勝、荻太郎、荻須高徳、太田忠、脇田和、角浩、川端實、竹谷富士雄、田中修、内田武夫、桑田道夫、小磯良平、小松益喜、古茂田守介、佐藤敬、坂井範一、三田康、三岸節子、瀬島好正、鈴木誠、(日本画部) 岩崎鐸、堀文子、奥村厚一、吉岡堅二、高橋周策、向井久万、上村松篁、山本丘人、福田豊四郎、朝倉翫、麻田鷹司、秋野不矩、澤宏毅、菊池隆志、信太金昌、廣田多津、稗田一穂、(彫刻部) 伊東徳、早川巍一郎、西常雄、本郷新、岡本庄三、吉田芳夫、田畑一作、武次郎、村田勝四郎、久保孝雄、柳原義達、山内壯夫、山本常一、山本恪二、舟越保武、明田川孝、芥川永、佐藤忠良、菊池一雄(建築部) 池邊陽、岡田哲郎、吉村順三、谷口吉郎、丹下健三、山口文象、前川國男、剣持勇

新世代(洋) 品川区大井原町五二〇〇 原小学校内(電大森八九四) 代表東俊二 昭和27年創立、教職にあるものでモダンアートの傾向に立つ作家の集り、昭和28年7月第1回展開催。

〔会員〕 東俊二、勝田寛一、藤澤典明等二五名

農鳥社(日) 京都市上京区北野紅梅町三三ノ一 山口華楊方 明治45年創立の西村五雲塾農鳥社は昭和13年9月五雲の逝去により解散、同年11月6日旧塾生の総意に依り新たに農鳥社を結成した。現在山口華楊が主宰する。

水彩聯盟(水) 品川区東大崎三ノ二一五 荒谷直之介方 昭和15年5月創立、昭和29年3月第13回展開催。

〔会員〕 荒谷直之介、春日部たすく、小堀進、長澤節、上田哲農、古川弘、海老原省象、山本彪一、牧原萬之助、仁戸田秀吉、中村忠二、酒泉淳、増永直樹、坂上明司、寺居健一、加治屋隆、三橋兄弟治、新井邦雄、藤川九郎、田中実、渡部百合子

生活工藝集団(工) 中央区寶町一ノ二 前田保三方(電京橋二〇六二) 型々工藝集団とココ工藝が合体、同時に同志を糾合して昭和26年発足した。昭和28年3月第1回展開催。

〔会員〕 麻田植三、浅野陽、飯田美郎、磯矢阿俊良、緒方正祥、小倉絃梧、北村一朗、後藤年彦、鈴木泰、須田利雄、関谷四郎、田中芳郎、田村耕一、帖佐美行、寺本美茂、内藤四郎、西川宏夫、西村純一、林尚月齋、林二郎、前田保三、宮野光雄、矢部連光、吉原良雄

葺莪会(日) 京都市上京区上賀茂坂口町二 水田竹圃方(電上七二八二) 水田竹圃の主宰する日本画塾。

〔会員〕

〔会員〕

〔会員〕

青季会 (洋) 練馬区豊玉北四ノ一新道繁方 昭和22年創立。年一回展覧会開催。

〔会員〕 森田元子、鬼頭鍋三郎、幸島重雄、土佐林豊夫、田村一男、大澤海蔵、小川博史、高光一也、櫻井悦、村岡平蔵、朝比奈文雄、新保兵次郎、新道繁

青丘会(洋) 新宿区下落合四ノ一五八入 高木紀重方 日展所属各団体の中堅作家各二名よりなる研究団体。昭和25年9月創立。

〔会員〕 西尾善積、渡邊武夫、大内田茂士、橋原健三、高田誠、廣瀬功、森田茂、山本日子士良、伊藤清永、平松謙、(在仏会員) 小野彦三郎、館慶)

青晴会(洋) 杉並区天沼二の三九四 田中美知子方 国画会の在京女流出品者により昭和26年結成された。

〔会員〕 田中美知子、土田次枝、野田好子、川越昭子

青陶会(陶) 京都市左京区岡崎田勝寺町 楠部彌次方 (電吉田三二五) 昭和28年6月創立。楠部彌次を中心とする陶藝研究会。

〔会員〕 二〇余名。

青龍社(日) 大田区新井宿四ノ一〇五三 川端龍子方 (電大森三二二) 昭和3年、日本美術院を脱退した川端龍子が、龍子及び其御形塾員の製作発表の機関として同4年6月同社を創立した。同年東京府美術館に第1回展覧会開催。同29年9月第26回展覧会。尚秋期本展覧会に対して毎年「春の青龍社展」を開催する。春期展は秋期展に於ける入選者を出品資格者

として鑑別の上陳列する。「健剛なる会場芸術」を唱え、在野団体として官展には参加しない。

〔主宰〕 川端龍子〔社人〕 加納三樂、福岡青嵐、山崎豊、市野亭、安西啓明、小島鼎子、時田直善、龜井玄兵衛、琴塚英一、松宮左京、佐藤土筆、佐々木邦彦、結城天童、大塚香緑、竹内未明、渡邊不二根

織維意匠創作協会(工) 中央区日本橋兜町三ノ五 米山ビル(電兜町五七一五、七七七六) 昭和25年3月創立。織維業界の共同研究機関として織維意匠及流行に関する研究グループを組織し各事業会社との連携により製品の向上に寄与する目的で設立された。別にTDC美術研究所を設けている。

〔理事長〕 大島亮治〔常任理事〕 新井泉、湯原五郎〔専門委員〕 毛利登、乗松巖、小池岩太郎、由良玲吉、石山彰、池邊義敦、池田美明、松川照二、河野鷹思、小杉二郎、福田良一、中田満雄

前衛美術会(洋・日・彫・版・建) 豊島区千川町二ノ一 山下菊二方 (電落合五一七六呼) 昭和22年5月創立。戦後、美術文化協会より分れ、佐田勝、赤松俊子、丸木位里、大塚陸、入江弘、井手則雄、吉井忠、山下菊二、箕田源二郎等に新居広治、尾藤豊、島田澄也等が加わり発足。昭和29年第9回展覧会。

〔会員〕 (絵画) 尾藤豊、岩原正男、箕田源二郎、中野秀人、小川宏、大塚陸、菅野陽、島田澄也、櫻井誠、高山良策、山下菊二、新井廣治、鈴木賢二、瀧平二

郎、大野齊治、瀧連三、穂積穂、宮城泰助(彫刻) 井手則雄、入江弘、林原英世(建築) 武内芳夫、山喜多次世志

全国美術館会議 二七〇頁参照
全日本画人連盟(日・洋・版・写) 杉並区馬橋三ノ四二四 土味川独甫方 昭和25年1月創立、昭和28年7月第4回展覧会開催。

〔会員〕 土味川独甫、中林松太郎、朝木良之助、關根根、菅野剛吉、渡邊健、遠藤敏彌、窪田知矩、奥田正昭、竹内利枝、杉浦以登、小林恒火子、恩田耕作、飯田庸夫、木村光夫、水谷賢二

全日本工芸美術家協会(工) 千代田区有楽町二ノ五 東京都商工指導所内 梨谷静山(電和田倉二二八六) 昭和26年10月創立。

〔会長〕 徳川宗敬〔副会長〕 海野清、高村豊周〔委員長〕 杉田禾堂〔事務局長〕 梨谷静山

(七)
創型会(彫) 世田谷区玉川奥沢町二ノ一四九 森大造方(電田園調布三二八〇) 九元社の会員有志により結成。昭和26年11月創立。昭和29年6月第3回展覧会開催。〔同人〕 森大造、中野四郎、村井辰夫、奥山泰堂、大田重範、法元六郎、金城眞輔、奏紹世、阿部是工

創藝協会(洋・彫・工・写) 杉並区東荻町六九 神津港人方(電荻窪四四三三) 昭和25年3月創立。昭和24年6月緑巷会第10回展覧終了後、解体再編成を行い創藝協

会として再発足したもので緑巷会を継承している。昭和29年6月第5回展覧会開催。〔会員〕 神津港人、河野磨津良、金澤茂元、後藤積三、佐藤利平、島田彦五郎、田島長齡、中森進、平井為成、山下鐵之輔、小林三郎等二七名

造型版画協会(版) 台東区金杉一ノ六清水正博方(電浅草一九〇) 昭和7年新版画集団として創立。11年第6回展覧を経て組織変更、12年3月造型版画協会と改称、版画の純粋なる絵画的造型性の確立を目的とす。戦時中一時展覧会を休止し、24年再出発して29年5月第12回展覧会開催。

〔会員〕 松下芳太郎、水船六洲、武藤六郎、小野忠重、柴秀夫、清水正博、磯博、後藤忠光

造形美育研究所 浦和市外大戸四二八手塚又四郎方(電浦和三一九〇呼) 昭和26年11月創立。

〔会員〕 石原英雄、大里光春、岡澤光雄、手塚又四郎、染谷英五、田中修、飛岡文一、磯谷猛、三森一伸、番匠宇司、田村俊夫

創元会(洋) 中野区鷺ノ宮二ノ八七五 倉員辰雄方 昭和16年創立。昭和29年4月第13回展覧会開催。〔会員〕 青地秀太郎、安藤信哉、金澤重治、倉員辰雄、鈴木千久馬、中野和高、田中繁吉等一〇〇名

創作工芸協会(工) 大田区西六郷一ノ七 各務クリスタル製作所内(電蒲田三三三〇) 昭和27年6月創立。工藝的素材を以て自由な創造をめざし工藝及び産業工芸に於けるデザインの水準を高めるために積極的な活動を行う。昭和29年9月

第3回展開催。

高橋節郎、吉田丈夫、佐治正、佐藤潤四郎、染川鐵之助、芳武茂介、青木滋芳、蓮田修吾郎、山脇洋二、安原喜明

創造美術会(洋・写) 世田谷区世田谷二ノ一二八 保科米三方 昭和22年創立。同29年6月第6回連立展開催。

〔公員〕(絵画部) 保科米三、山村勝人、松本茂雄、青樹宮三、坂口辰巳、樹下行雄、國分治、椎名剛美、下田範次、外山英知、福島長二朗、小泉鐵太郎、坂田悦三、金子弘、染木照、渡邊喜一、小栗慶太郎(写真部)小合正勝、風見武秀、岩佐義文等七名、(実用美術部会員)五名

創造美術協会(洋・日・彫) 大阪市住吉区粉浜本町三ノ二 上嶋龍方 昭和10年創立の洋画団体セクションダールが同15年創造美術協会と改称、関西在住の各派美術家により組織されたもの。昭和29年第15回会員展、同29年第7回公募展を開催。

〔実行委員〕 上嶋龍、荒木由三、伊藤歳夫、貝原六一、森島包光、(以上絵画)白石正義、松岡卓(以上彫刻)

〔委員〕 西原修、玉澤潤一、小林武夫、下高原龍巳、高須國之、河野通紀、川原章二、船越かつみ、井寄武夫、山田千秋、荒井秀宜、野尻弘、田中阿喜良、藤田重夫、陰山光義、武本憲太郎、中如美奈子、今村市久、米田三男之介、菊地三郎、神戸繁雄、河端亮治(以上絵画)藤本義弘、今村輝久、仲真弘、杉村尚(以上彫刻)

双台社(洋) 世田谷区玉川奥沢町一ノ三八四 鍋谷傳一郎方 昭和16年創立、昭和29年7月第13回展開催。

〔同人〕 石井柏亭、赤城泰筈、荒谷直之介、上田哲農、岡田行一、大兼實、刑部人、林鶴雄、堀忠義、細島昇一、下澤木鉢郎、鈴木良三、鈴木信太郎、須山計一、田坂乾、瀧川太朗、近藤吾朗、高橋庸男、近岡善次郎、千ヶ崎梯六、多和與三、齋藤州外、平塚運一、鍋谷傳一郎、納富進、眞下慶治、松村三冬、他

著野社(日) 神奈川県逗子市山ノ根四二三 中村岳陵方(電逗子三七九) 中村岳陵の主宰する日本画塾。

第一美術協会(洋・工)〔事務局〕 文京区高田豊川町六〇 野澤孝作方 昭和4年5月創立。毎年展覧会開催。昭和29年5月第25回展開催。

〔委員長〕 石川重信、〔副委員長〕 高橋亮、岡登貞治

〔委員〕 石川重信、高橋亮、岡登貞治、谷井喜三郎、村上松次郎、細井繁誠、任補豊丸、横山群、竹野谷仁重、上原重和、野澤孝作、山口美勇、岡所春、齋蔵茂

藤豊、板坂辰治

第二紀念(洋・彫) 杉並区下高井戸四ノ八五九 栗原信方 二科会は昭和19年第30回展後解散し戦後再結成を図つたが、旧二科会員黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井禮市の九名は参加せず旧二科会の活動を第一期とし、戦後新しく第二の紀元を劃するの目的を以て昭和22年5月第二紀元を創立した。昭和29年10月第8回展開催。

〔公員〕(絵画) 黒田重太郎、栗原信、田村孝之介、中川紀元、鍋井克之、正宗得三郎、宮本三郎、横井禮市、佐野繁次郎、橋本徹郎、峰岸義一、宮川仁、藏野正雄、成井弘文、大兼實、大石俊彦、佐佐木孔、秋保正三、高山道雄、森英、津田周平、中野安次郎、井上安男、佐伯米子、土岐國彦、近藤嘉男、島岡實、鳥取敏、兒玉幸雄等九四名(彫刻) 川上全次、菅沼五郎、中川為延、松村外次郎、八柳恭次

太平洋画会(洋・彫・写) 文京区白山御殿町一〇 布施信太郎方 明治22年創立の明治美術会を同34年組織を一新し翌年1月太平洋画会と改称、第1回展を上野公園五号館に開催した。同37年洋画研究所を開設昭和14年太平洋美術学校と改称し同20年戦災校舎焼失迄経営す。爾來毎年展覧会を都美術館に開催し昭和29年7月第五十回紀念展を開催した。

〔絵画部会員〕(代表) 布施信太郎 浅川恒明、尼谷良、秋葉洋治、青山清、石井明、石井弥一郎、市川專太郎、市川

光雄、一井増郎、円城寺邦夫、大木卓、大宮松太郎、大森商二、小柳津経広、河合斗潮、角田栄三、川島義一、近藤洋二、近馬勘吾、小宮惣太郎、小泉秀松、小島清、沢村みちる、島添鶴雄、爾見信郎、砂田正巳、鈴木武志、高橋虎之助、多田栄二、武田好文、竹内栄蔵、佃武昭、辻周里、椿沼三、野村寛、原正俊、原ツマ子、菱沼藤男、灰島八重子、藤田親安、藤田実、堀潔、本日豊吉、真木孝之、丸毛利久、牧田実、三浦金之進、門馬治夫、山田武、山口美好、梅原英子、長岡忠三郎、深水正策、山田稔、宇佐見昭三、岩崎英子、今田勲、行友藏(彫刻部) 佐藤重治、吉田陽悦(写真部) 金丸重嶺、渡辺義雄、魚住勲、田中清隆、大東元、相浦勝、吉田專造、船山克、中俣正義

〔工・染〕 京都市左京区下鴨東本町三三 皆川泰蔵方(電上六二二三) 昭和23年4月創立。染色美術家の集り、毎年一回京都にて展覧会開催。

〔公員〕 皆川泰蔵、今西良雄、春日井秀雄、三浦景雄、山出守二

竹枝会(日) 京都市上京区衣笠小松原北町七六 濱田觀方 明治28年故竹内栖鳳塾生にて創立。昭和27年4月第5回展を京都で開催。

〔公員〕 西山翠峰、小野竹喬、徳岡神泉、金島桂華、池田遙邨、濱田觀、伊藤小坡、中田晃陽、森月城、池田虹影、大村廣陽、榎原若山、山本紅雲、東原方穂

三木翠山、青木生沖、大矢峻嶺、川口吳川、柴原希祥、岩岡環、山本朝光、稻葉春生、佐藤寛山、伊藤石華、小豆島甘兆
 中央美術協会(洋) 杉並区善福寺町四八 郡山三郎方 昭和27年5月創立。中央美術学園の指導者と卒業生をもつて組織する。昭和29年1月第3回展開催、機関誌「中央美術」及び「学友」発行。
 【参予】 今泉篤男等一四名【会員】 新倉政英等三三名

(7)

デッサン社 品川区西中延五ノ一二五
 一 旭正秀方 大正15年創立。昭和29年第19回展開催、機関誌「デッサン」発行。
 【特別賛助員】 小林古径、安井曾太郎、中川一政、石井鶴三【主任】 旭正秀
 デモクラート美術家協会(洋) 世田谷区北沢四ノ三一八 加藤正方 昭和26年創立の前衛的な作家の集り。昭和29年3月第6回展開催。
 【会員】 青原俊子、アイオウ、瑛九、泉茂、加藤正、菊地秀行、森啓、森泰子、生島笑子、三木登、小笠原健一、杉村恒、高井美博、吉田利次

(8)

東亜美術院(日) 新宿区築地町一〇
 今福武雄方(電九段五九〇九、九二五八) 昭和12年創立。
 東五社(日) 京都市平野桜木町二八(電西陣九六八) 堂本印象の主筆する画

美術団体一覽

塾で毎年京阪神で展覧会を開催する。昭和28年4月第10回記念展開催。

【代表者】 京都市左京区上鴨北山町六三輪晃勢

東京展 世田ヶ谷区北沢五ノ八六一
 竹上義治方 昭和29年2月創立。新しい写真と真面目な藝術活動を目的とする。
 【会員】 羽藤真佐夫、加藤正信、鈴木堅司、竹上義治、佐藤昌祐、白石延夫、井上正喜、山本甚作

東京美術文化協会 台東区上根岸町四四(電浅草三〇一、三四五六) 小中学及高校の図画教育の振興のため昭和21年財団法人として創立。毎年展覧会開催。研究雑誌「美術教室」を年4回発行。

東光会(洋) 豊島区椎名町一ノ一八七
 三 森田茂方 昭和7年創立。昭和29年5月第20回展開催。
 【会員】 岩下三四、石本秀雄、家永駒三郎、西川高次、大和田富士、渡邊義一、渡邊浩三、河井達海、河原修平、田代順七、辻利平、桑原福保、胡桃澤源人、熊岡正夫、山本日子土良、山崎修二、柳田久、松永敏太郎、松岡正、山本富太郎、小早川篤四郎、齋藤里里、佐藤一章、水野一好、三田村架、江藤哲、平通武男、森田茂、関真等一四五名

東陶会(工・陶) 中野区川添町一 大森方 昭和2年創立。年1回、同人展及全国陶藝展開催。昭和28年4月第4回展開催。

【会長】 板谷波山【会員】 安原喜明、宮之原謙、井上良齋、土肥刀泉、唐杉壽光、大森信比古、中野昭平、館野善次

郎、古宇田正雄、城戸夏男、板谷梅樹、水野一善、磯谷丹刺春、横山朝陽、山本正年、中野馨一、杉田栄助、林茂松
 読画会(日) 板橋区常盤台一ノ二九
 西澤篤政方(電板橋二二〇) 明治41年故荒木寛政及十政の門下を主体として発足、毎年展覧会を開催。展覧会名を一新社展と改め昭和26年第3回展開催。

【委員】 西澤篤政、森白甫、永田春水、朝井觀波、田口黄葵、木本大果、松久休光、湯原柳歌、亀割隆

独立美術協会(洋) 台東区谷中初音町四ノ一七 島村三七雄方(電駒込一二六二) 昭和5年11月創立、里見勝藏、児島善三郎、林重義、林武等二科会の会員会友及び同会出品者一名に国画会の高島達四郎、春陽会の三岸好太郎を加え「我々は既設の団体より絶縁し新時代の美術の確立を期す」と宣言、独立美術協会を創立した。翌年1月第1回展を開き新婦朝の福澤一郎も第1回展から会員として参加した。昭和29年10月第22回展開催。

【会員】 青柳暢夫、赤星孝、赤堀佐兵、足立襄、池島勤治郎、今井憲一、居串佳一、伊藤彪、宇根元警、海老原喜之助、江川平三、大久保泰、岡部文之助、岡村芳男、小原雄二、片山公一、加藤陽、菊地精二、木村忠太、久保一雄、熊谷登久平、小出三郎、児島善三郎、小島善太郎、小林和作、齋田武夫、齋藤長三、齋藤求、坂本善三、佐川敏子、島村三七雄、清水鍊徳、志村計介、末永胤生、菅野恵介、鈴木保徳、鈴木亜夫、須田國太郎、妹尾

正彦、高島達四郎、田中行一、高橋忠彌、田中佐一郎、島海青児、島居敏文、中尾彰、中津瀬忠彦、中岡冊夫、中村節也、中村善種、中山鶴、鳩川誠一、野口彌太郎、狭間二郎、林武、樋口加六、藤岡一、堀之内一誠、斑目秀雄、松崎真一、松島一郎、松島正人、緑川廣太郎、宮崎精一、宮島佐一郎、李田たけを、矢崎牧廣、山田榮二、山道榮助、山本正、横地康國、吉岡憲、吉川清

土曜会(工) 大阪市天王寺区逢坂上ノ町一四一 柴崎風脚方 昭和27年1月創立。関西在住の官展系工藝作家の同志的集り。
 【会員】 平松宏春、角谷一圭、森崎静亮、小林美春、川端三義、田邊竹雲齋、中島保美、穂山竹司、米澤藤峰、楠田撫泉、伊東栗壺、宮下善壽、堂本漆軒、中村鶴生、勝尾青龍洞、森野嘉光、柴崎風脚

(9)
 二科会(洋・彫・理・漫・商業美術・写) 杉並区久我山二ノ五九〇 東郷青児方(電萩窪五二四) 大正3年文展第二部に二科設置運動が起つたが、当局に容れられず、同年10月ついに文展より分離して、上野竹之台陳列館に二科美術展覧会を開催した。同展開催の際の鑑査員一名は翌年そのまま会員となり在野団体として独立した。爾來同会は新進流派の作家を包容して我洋画史上に啓蒙的功績を挙げている。大正8年藤川勇造会員に推され

【会長】 板谷波山【会員】 安原喜明、宮之原謙、井上良齋、土肥刀泉、唐杉壽光、大森信比古、中野昭平、館野善次

初めて彫刻部の加入をみた。其後昭和5年児島善三郎、里見勝蔵等は退会し独立美術協会を創立、更に石井柏亭、有島生馬、山下新太郎、安井曾太郎等の名誉会員辞退があり、会員の移動はあつたが在野として行動を続け昭和18年第30回展を開催した。翌19年は情報局の指令により展覧会は中止となり更に諸般の事情により同年10月ひとまず解散した。同20年終戦となり再結成を図つたが旧会員中、向井潤吉、古家新等は行動美術協会を、又、正宗得三郎、熊谷守一等は第二紀会を結成して離脱した。昭和20年新に工藝部、理論部を、同26年漫画部、商業美術部同28年写真部を設けた。昭和29年9月第39回展開催。

〔会員〕(絵画部)阿部金剛、青山龍水、藤井二郎、藤川榮子、福島金一郎、服部正一郎、伊庭傳治郎、井上賢三、井上寛造、伊藤研之、加治屋隆二、北川民次、小林喜一郎、桑原實、桂ユキ子、松本弘二、松井正、松葉清吾、米良道博、中原實、錦義一郎、野間仁根、野村守夫、岡本太郎、岡田謙三、大澤昌助、萩野康児、織田廣喜、佐藤吉五郎、鈴木信太郎、清水刀根、鱈利彦、高岡徳太郎、鷹山宇一、寺田竹雄、東郷青児、鶴岡義雄、山口長男、山尾薫明、山路真護、山本敬輔、吉井淳二、吉原治良(彫塑部)笠置季男、上田暎、淺野孟府、大西金次郎、安藤菊男、堀内正和、乗松巖、尾尾健太郎、野水信、堀内敏夫、植木力、廣瀬不可止(理論部)鈴木崧、山中散生、菊岡久利(漫画部)近藤日出造、清水崑(写真部)

大竹省三、秋山庄太郎、早田雄二、林志彦
日本アブストラクト・アート・クラブ
(洋・版・彫・評) 世田谷区若林町四六一
一 西田信一方(電世田谷一五八七) 昭和28年6月創立。アブストラクト・アートの国際交流を目的として結成した集団。
〔会員〕 恩地孝四郎、西田信一、川口軌外、末松正樹、山口長男、植木茂、山口正城、長谷川三郎、吉原治良、村井正誠、植村鷹千代、瀧口修造
日本インダストリアル・デザイナー協会(工) 千代田区四番町六(電九段七九一六) 昭和27年10月創立。
〔会長〕 加納久朗(理事長) 豊口克平(理事) 剣持勇等九名(正会員) 金子徳次郎等二二名(顧問) 三名
日本浮世絵協会 港区麻布市兵衛町二ノ一 国華社内(電赤坂一七五二)旧日本浮世絵協会とその後設立された浮世絵同好会が合体して昭和16年に創立されたもの。不定期に浮世絵に関する講演会を開催又展覧会を指導する。
〔会長〕 淺野長武(理事長) 藤懸静也(常任理事) 楠崎宗重、金田信武、渡邊庄三郎
日本画院(日) 台東区谷中清水町一
望月春江方(電駒込三八一〇)昭和13年5月創立。昭和29年5月第14回展開催。
〔同人〕 岩田正巳、川崎小虎、野田九浦、松本姿水、望月春江、服部有恒、根上富治、町田曲江、穴山勝堂、高山錦成、石塚青莪、太田藏夫、小関きみ子、長領

雅男、永山十志夫、是水伸一、森村宜永
日本硝子絵協会 中野区桜山町九 昭和26年2月創立。昭和27年5月第3回展開催。
〔会員〕 鈴木信太郎、桂ユキ子、佐田勝、山田光春、赤松俊子、神谷信子、寺田政明、田村貞子、佐藤美代子、北川民次、山道榮助、富山妙子、山下鐵之輔、三保憲司、鈴木亜夫、高間惣七、河村俊子、井上照子、中谷泰、西尾善積
日本工人社(工) 京都市上京区西洞院通下立売上ル西大路町京都府教育庁(電西陣八四〇八)文化財保護課内 昭和28年9月創立。無形文化財として後世に伝うべき伝承的工藝技術の調査研究を行い、あわせて後継者の指導育成を行うと共に技術者相互の協力を深め、日本文化の向上発展に寄与するを目的とする。
〔顧問〕 明石染人、萩野二郎、坂田正
〔幹事〕 法山龍正(会員) 田畑喜八、中川華邨、土屋素秋、上野爲二、羽田登喜男、岡本庄三、岡本正太郎、川瀬正太郎、齊田梅亭、永田末次郎、北村玉芳、飛来一閑、宇野宗郷、石黒宗鷹、伊藤富三郎、森村清太郎、三木表悦
日本山林美術協会(絵・彫・工) 豊島区要町二ノ三三 鶴田吾郎方 昭和29年5月創立。山林による凡ゆる面に對しての美術創作と活動を行ふ。
〔会員〕 鶴田吾郎、光安浩行、古賀忠雄、安達眞太郎、清水敦次郎、刑部人、松田文雄、二口善雄、太田洋愛、桑原宏、小原工藝会、光安鶴子、二口志保子

日本水彩画会(水) 中野区江古田一ノ二九一 細島昇一方 故大下藤次郎、故丸山晚霞、故河合新蔵の三人の経営せる日本水彩画会研究所を大正2年4月、石井柏亭、白滝幾之助、眞野紀太郎等三七名の発起に依り、改制擴張して新に各派水彩画家の綜合団体として設立。毎年1回東京及関西で展覧会開催、昭和29年7月第42回展開催。
〔会員〕 一一八名
日本染織美術協会 世田谷区上馬町一ノ六〇七(電世田谷一〇三三) 昭和20年4月創立。機関誌「染織美術」を発行。
〔会長〕 野口眞造(主幹)本吉春三郎
日本宣伝美術会 中央事務局・千代田区有楽町一ノ三電氣クラブ、日本制作社内(電和田倉九三)東京事務所・中央区銀座西六ノ一熊谷ビル3階(電銀座二二九一) 昭和26年6月創立、毎年東京・大阪・名古屋・九州・北海道その他各地区事務所々在地で展覧会を開催、そのほかデザイン講習会等を行ふ。
昭和29年8月第3回展開催。
〔中央委員〕 板橋義夫(事務局長・東京)・伊藤憲治(東京)・大橋正(東京)・大智浩(東京)・龜倉雄策(東京)・小林葉三(大阪)・河野鷹思(東京)・佐々木貴士(札幌)・重成基(大阪)・田村晃(大阪)・中嶋康雄(大阪)・西本滋(福岡)・橋本徹郎(東京)・早川良雄(大阪)・原弘(東京)・深井敏夫(名古屋)・宮永岳彦(東京)・山名文夫(東京)
日本彫塑家倶楽部(彫) 台東区谷中初音町三ノ五 昭和28年2月創立、昭和22

年創立の日本彫刻家連盟を發展改称したもので職能団体的性格を離れ彫塑家相互の親睦と彫塑の研究、發展を目的として再発足した。

創立委員は加藤顯清、北村治郎、古賀忠雄、澤田晴廣、中野桂樹、長沼孝三、橋本朝秀、晝間弘、藤野舜正、安田周三郎、山本稚彦。昭和29年4月第2回日本彫塑展開催。

〔顧問〕 朝倉文夫、北村西望、齋藤知雄、藤井浩佑、〔参予〕 雨宮治郎、石川確治、池田勇八、小倉右一郎、加藤顯清、北村正信、國方林三、後藤良、後藤清一、澤田晴廣、佐々木大樹、清水多嘉示、畑正吉、橋本朝秀、堀進二、毛利教武、松田尚之、横江嘉純、吉田三郎、吉田久繼〔理事〕 四五名〔評議員〕 一〇四名〔会員〕 一四〇余名

日本彫塑家倶楽部關西支部(彫) 京都市左京区修学院大林町一六 松田尚之方(電吉田五一〇八) 昭和28年6月創立。関西日展彫塑家協会が發展改称し、日本彫塑家倶楽部(東)に合流し、其の関西支部として新発足した。昭和28年10月京都、同11月大阪神戸で第2回展開催、29年6月宝塚にて野外展開催。

〔会員〕 三三名。

日本童画会 豊島区長崎一ノ二二 安泰方 昭和21年創立。毎年展覽會開催。〔役員〕 秋岡芳夫、黒崎義介、武井武雄、鳥居敏文、初山滋、安泰、井口文秀、久坂晴夫、中尾彰、林義雄、松山文雄、外会員一〇四名

日本陶磁協会 中央区東銀座二ノ一一

日本医事新報社梅澤彦太郎方(電京橋八一五〇) 昭和20年1月創立。社団法人。毎月研究会、講演會並びに春秋二回古陶磁の展覧、講演會等を行う。機関誌「陶説」毎月発行。

〔役員〕 (顧問) 尾崎洵盛、奥田誠一、小林一三、團伊能、松永安左衛門、細川護立、島山一清(理事長 梅澤彦太郎(理事) 磯野信威、大屋敦、小田榮作、加藤唐九郎、加藤土師萌、久志卓真、黒田領治、小山富士夫、小森新一、佐藤進三、陶守三思郎、瀬川昌世、瀬津伊之助、田中作太郎、鷹巢豊治、内藤匡、中村一雄、中本守、廣田熙、堀口捨巳、藤山順吉、滿岡忠成、森村義行、保田憲三、田山信郎、武田正泰、田中丸善八(会員) 二〇〇名

日本陶彫會 中野区江古田二ノ九二八 滝川美一方 昭和26年創立。

〔会長〕 沢田晴廣、〔副会長〕 古賀忠雄 〔会員〕 雨宮治郎、安藤士、荒井徳亮、赤堀信平、〇團鏑勝二、船津英治、長谷川塊記、長谷川義起、〇伊奈重孝、〇伊藤芳雄、片山辰之助、〇唐杉壽光、木下繁、〇清水禮四郎、久保駒太郎、眞鍋知道、松村秀太郎、三澤寛、〇三井高義、森豊一、宮本光庸、水船六洲、松岡正雄、長野隆業、〇長沼孝三、中川為延、中島浩、中村直人、中野五一、沼田喜代子、野口嘉光、大内青圃、大野信藏、柴田佳石、菅野操子、菅原安男、〇多田瑞穂、〇瀧川美一、瀧一夫、竹下恵一、竹林薫、津上昌平、〇分部順治、〇安田周三郎、藤野舜正、片岡静観、柴山

清風、杉江瀟軒、坂上政克、佐々木大樹、富永直樹、〇山知阿利一、中野桂樹、浅井行雄、佛子泰夫、井上美邦、〇加藤土師萌、坂田芳信、鈴木賢二、林茂松、(〇委員)

日本銅版画家協会(版) 杉並区高円寺三ノ一八〇 關野準一郎方 昭和28年7月創立。關野、濱田、駒井等の中堅作家が発起人となつて銅版画家の全国的な集団をつくつた。〔理事長〕 關野準一郎、〔理事〕 濱田知明、駒井哲郎〔經理〕 田河水泡〔会員〕 一〇〇名

日本板画院(版) 杉並区荻窪四ノ五七 棟方志功方(電荻窪五三〇) 昭和27年5月創立。同11月第1回展開催。

〔顧問〕 碓伊之助、富本憲吉、梅原龍三郎、安井曾太郎、藤懸静也

〔会員〕 棟方志功、棟方末華、大澤竹胎、ブノワ、笹島喜平、北澤民治、下澤木鉢郎、長谷川富三郎、金守世志夫、木内克、永瀬義郎、澤田晴廣、岡村吉右衛門、芹沢銈介

日本版画協会 杉並区東荻町八八 恩地孝四郎方(電荻窪一四) 大正7年創立の日本創作版画協会が昭和6年版画家の大同団結をはかり改組したもの、昭和29年4月第22回展開催。

〔会長〕 石井鶴三〔会務委員〕 畦地梅太郎、稲垣知雄、恩地孝四郎、川西英、北岡文雄、駒井哲郎、齋藤清、品川工、関野準一郎、初山滋、武井武雄、平塚運一、前川千帆、前田政雄、加藤八洲、〔会員〕 織田一磨、川上澄生、前田藤四郎、ブノワ、吉田遠志、吉田穂高、濱

田知明、濱口陽三他七〇余名

日本美術院(日・彫) 台東区谷中上三崎南町五二(電駒込四五一〇) 明治31年10月、当時東京美術学校長を退いた岡倉覺三を盟主とし、橋本稚邦以下二十六名を正員として結成。新時代における東洋美術の維持並開發が創立に際しての二大主張であつた。同年10月第1回展を開催、研究所を下谷中初音町に設置して後進の養成に努め雑誌「日本美術」を発刊、同39年12月に至り一時東京の研究所を撤廃、同人四名は岡倉覺三と共に常陸の五浦に退去し専念研鑽に努めたが、大正2年岡倉覺三病歿するに及び、直ちに院の再興を画し新に院舎を谷中上三崎南町に起し翌3年9月開院式を挙行、10月再興第1回展を開催した。再興に當つたのは横山大觀、下村觀山、木村武山、安田靉彦、今村紫紅、小杉未醒、辰澤延次郎、笹川種郎、齋藤隆三等で其の中実技者六名を以て同人とした。再興美術院には彫刻部並に洋画部を設けたが洋画部は大正9年小杉未醒、山本鼎、倉田白羊等の脱退と共に消滅した。毎年秋期に公募展を開き、又春季には内部の試作展を開く。

大正10年米国クリーブランド美術館の要請に応じ、以降日本美術の海外紹介にも努めた。昭和10年帝院改組に際して、同人合議の上新帝院への参加を声明し、横山大觀、安田靉彦、小林古径、前田青邨、富田溪仙、平櫛田中、佐藤朝山、藤井浩佑の八名が会員に就任した。昭和29年9月第39回展開催。

〔経営者・同人〕 横山大観、安田靉彦、小林古徑、前田青邨、大智勝観、平衛田中〔経営者幹理〕 齋藤隆三〔同人〕

佐藤清蔵、石井鶴三、保田龍門、眞道黎明、郷倉千観、堅山南風、酒井三良、富

取風堂、喜多武四郎、新海竹蔵、大内青圃、奥村土牛、小倉遊瓏、田中青坪、山

本豊市、太田聽雨、中村貞以、中村直人、宮本重良、松原松造、村田徳次郎、關谷

充、新井勝利、北澤映月、辻晋堂、小谷津任牛、小松均、古藤正雄、中島清、片

岡球子、中島多茂都、岩橋英遠

日本美術会 杉並区天沼三ノ八七四

新海覚雄方 昭和21年創立。毎年アンデパンダン展開催。同29年第9回展開催

〔委員長〕 井上長三郎、〔中央委員〕新海

覺雄、吉井忠、井上長三郎、佐田勝、永

井潔、金野新一、松山文雄、箕田源二郎

等八〇名

日本美術家連盟 台東区上野公園東京

都美術館内〔電駒込三三二六、七〕昭和24年6月創立。美術家の個人加盟によ

つて組織し美術家の職能組合として権益

の擁護、相互扶助、其他文化に寄与する

ための諸事業を行う。

〔会長〕 安井曾太郎〔委員長〕 伊原

宇三郎〔委員〕 六〇名〔会員〕 八七

三名

日本美術協会 台東区上野公園桜ヶ丘

〔電駒込三九一〇〕 明治12年創立の龍池

会を同20年日本美術協会と改称し財団法人

組織とした。毎年展覧会を継続して太

平洋戦争までに一四五回に及んだ。本邦

美術の振興をはかるを以て目的とし、戦

後組織を新たに

して各流各派を綜合融和

した方針を以て絵画展を東京並びに各地

で開催している。昭和28年第6回展開

催。

〔総裁〕 高松宮宣仁親王〔顧問〕 細

川護立、淺野長武、岡部長景、横山大観、

川合玉堂、他二五名〔理事〕 高山一清、

長尾欽彌、團伊能、秋山光夫〔会頭〕

團伊能〔専務理事〕 秋山光夫〔常任委

員長〕 松林桂月〔常任委員〕 二二名

〔委員〕 四七名

日本彫会〔影〕 杉並区高円寺五ノ八

五二 佐々木大樹方 昭和4年創立、昭

和29年4月第14回展開催。

〔委員〕 石井滋、長谷川昂、西田明史、

岡正敏、内藤伸、内藤四郎、中野桂樹、

熊谷幸太郎、日下寛治、山脇敏男、山脇

正司、山口伊之助、古川武治、佐々木大

樹、木村威夫、三國慶二、水島弘一、清

水源可、森野圓象

人形玩具文化の会 板橋区常盤台一ノ

二九 西澤笛歌方〔電板橋一二〇一〕 昭

和11年創立、同25年財団法人となる。

〔会長〕 金森徳次郎〔理事長〕 西澤

笛歌〔理事〕 板谷波山、團伊能、佐藤

達夫、鈴木隆夫、品田豊治

(は)

白鳥会〔洋〕 豊島区高松町一ノ六 伊

藤彪方 昭和27年7月創立、昭和29年6

月第2回展開催。

〔委員〕 熊谷守一、野口彌太郎、藤田

鶴夫、多田榮二、鳥居敏文、桑原實、島

津純一、賀茂牛之輔、伊藤彪、江川平三、

福島金一郎

白日会〔洋・彫〕 北区田端町一九四

川島實方〔電駒込一四六四〕 大正13年創

立。昭和29年3月第30回展開催。

〔委員〕〔絵画部〕 千葉精三、福田義之

助、古川弘、灰野文一郎、平松謙、廣本

了、堀英治、伊藤清水、伊藤利行、岩月

光金、石崎五郎、東理次良、川口榮、川

村精一郎、川島實、小堀進、小林一雄、

間部時雄、牧原萬之助、三浦明鏡、水野

富美夫、村上織太郎、森谷重夫、長井幸

一、中澤弘光、大崎善生、酒泉淳、島田

四郎、篠原薫、坂上明司、笹口淳、富山

芳男、内山又輔、渡部百合子、山本道乘、

吉田比古蔵、柳澤叔郎、青木春見、宮島

武男、田中君江、山田鶴左久、難波榮子、

〔彫刻部〕 堀義雄、星野宣、伊奈重孝、

伊藤五百亀、木村珪二、菊岡義政、児島

正典、小池藤雄、坂手讓、笹野恵三、富

田匠美、内堀功、吉田三郎

白鳳会〔洋〕 中野区沼袋五六〇 篠窪

亮方 昭和15年創立。昭和28年9月第11

回展開催。昭和16年東京美術学校油画科

藤島教室を卒業した一〇名に依り創設し

た。

〔委員〕 井上慎、加藤長一、北岡文雄、

小泉富司、吳天華、鮫島宗明、篠窪亮、

高田肇三、高田久、松永敏太郎、松永和

夫、安田寛、吉野廣行、吉田政次、原良

次、友澤泰男

阪都美術工藝会〔工〕 大阪市天王寺区

逢坂上ノ町一四一 汎工藝社内〔電天王

寺九七〇五〕 昭和29年7月創立。大阪を

中心に在住する有志による研究団体で同

人の大部分は日展出品に重点を置く作家

からなる。

〔委員〕 橋田裕士、川端三義、角谷一

圭、田邊竹雲齋、中島保美、小林美春、

滝山竹司、島野三秋、平松宏春〔会員

一〇余名

汎美術家協会〔洋〕 大阪市阿倍野区北

畠西一ノ一〇五 前田藤四郎方 昭和22

年7月創立。関西在住の洋画家の団体。

昭和27年2月第5回展開催。

〔委員〕 荒井龍男、藤井二郎、原精一、

長谷川三郎、橋上菁児、萩森久朗、伊藤

久三郎、井上覺造、井上賢三、井川捷視、

池島勘治郎、石丸一、伊庭傳治郎、江川

平三、川西英、小出三郎、前田藤四郎、

松井正、米良道博、宮下貞之介、李田た

けを、中村真、中村善種、仲村一男、中

川力、中村徳三郎、中畑艸人、錦義一郎、

須田剋太、佐藤篤郎、田川勤次、植木茂、

山本敬輔、山崎隆夫、吉原治良、和田季

悦、渡邊修

パンリアル美術協会〔日〕 京都市東山

区五条橋東六ノ五三一 山崎隆方〔電祇

園一二五三〕 昭和23年6月創立。昭和29

年7月第11回展開催。

〔委員〕 生駒國一、不動茂彌、日ノ下

淳一、星野真吾、小林司郎、三上誠、野

村耕二郎、大野秀隆、下村良之介、湯田

寛、山崎隆

(ひ)

美術記者会 中央区京橋三ノ一一

国立近代美術館内

〔会員〕 社名五〇音順 ○印幹事

朝日新聞社 社会部〇牧田 茂

学藝部 高松喜八郎

企画部 遠山 孝

出版局 赤井 正友

共同通信社 特信部 松江 智壽

社会部 長興 道夫

産業経済新聞社 文化部 山田 一郎

〇藤谷 雨道

時事新報社 文化部 日野耕之祐

社会部 鈴木 徹夫

信濃毎日新聞社 文化部 牛木 聖児

新聞三社連合 文化部 岡山 東

中部日本新聞社 文化部 白木 博

社会部 北村 義朗

東京新聞社 文化部 宮川 謙一

〇寺田 千壘

〇桑原 住雄

西日本新聞社 文化部 伊東 浩三

社会部 宗 榮之助

日本経済新聞社 文化部 仁村美津夫

〇川本 雄三

〇木庭 典三

日本放送協会 文化部 島野 功

報道新聞社 社会部 松宮 保夫

北海道新聞社 学藝部 船戸 洪吉

毎日新聞社 整理部 上島 長健

〇藤澤 漁哉

〇和田伊都夫

読売新聞社 社会部 藤本 憲治

企画部 平川富太郎

美術評論家クラブ 中央区京橋三ノ一

一 国立近代美術館内 昭和15年創立の

美術問題研究会は同25年改組して美術評

論家組合として再出発したが、同26年更

に美術評論家クラブと改称した。美術評

論家相互の親睦と活動に必要な事業を行

うを目的とする。

〔幹事〕 土方定一、田近憲三、河北倫

明、瀧口修造、徳大寺公英、鈴木進、江

川和彦〔会員〕 六〇余名

美術評論家連盟 中央区京橋三ノ一

国立近代美術館内、昭和29年5月創立。

日本に於ける美術評論家の団結をはかる

とともに、国際的に協力し、造型文化の

発達に寄与することを目的とする。国際

美術評論家協会に加盟し、その日本支部

となつてゐる。〔会長〕 土方定一〔常

任委員長〕 富永惣一〔常任委員〕 今泉

篤男、金丸重樹、勝見勝、嘉門安雄、浜

口隆一、山田智三郎、和田清〔事務総

長〕 河北倫明

美術文化協会〔洋・彫・写〕 世田谷区

宇奈根七九八 福沢一郎方〔電話八一六

四〕、板橋区志村前野町一三九 中沢岩

美方 独立を脱退した福澤一郎を中心と

主として独立、二科の所謂前衛派の新進が

昭和14年に結成した。同会は絵画、彫刻、

写真、装飾、図案、文筆等各分野を網羅

し総合的に前衛運動を行つた。昭和28年3

月第13回展開催。昭和29年4月分裂し、

各々事務所を置き、現在双方美術文化協

会と称している。

〔事務所を福沢方におく美術文化協会

々員〕 浅野弥衛、小関通、田中昇、松岡

吉一、浅利篤、小原勉、谷口克己、真鍋

英雄、猪飼重明、皆光茂、東光寺啓、宮

崎利行、岩倉正仁、加藤一夫、土井俊生、

村上馨、今村幸生、香川勇、戸川金雄、

村岡和雄、入来天、川元進、内藤健一、

森宏平、宇佐美晴海、近藤正治、羽坂清、

山崎貴英子、内田慎蔵、島津純一、長谷

川望、山田武彦、太田一男、白木正一、

早瀬龍江、大和秋平、大野英一、須賀卯

夫、原田圭司、山中弘士、岡田徹、竹村

文男、福沢一郎、幸寿、小笠原一郎、多

田雄蔵、藤田鶴夫、吉田隆、尾崎喜久雄、

滝山恭輔、増田彰、加藤丞、清川泰次

〔事務所を古沢方におく美術文化協会

々員〕 池原正男、石井玲一、伊藤好一

郎、笠井一、谷口克己、奥口徳雄、多田

雄蔵、古沢岩美、福田杜子夫、小林勇、

佐伯和美、佐久間阿佐緒、清家清、千田

健二

美術文化研究会 京都市上京区小山下

板倉町三二 小牧源太郎方〔電西陣七三

四七呼〕 昭和21年創立。昭和29年6月29

日を以て閉会。

〔会員〕 小牧源太郎、圓角太郎、田中

杏児、笠井一、高藤義雄、羽阪清、長谷

川望、香川勇、須賀卯夫、坂田明道、里

見勝三、橋永一男、齋藤萬次郎、狩野儀

三郎

舞踊美術家懇話会 武蔵野市吉祥寺二

〇九五 東原徹方〔電武蔵野二九四五〕

舞台美術の発展に寄与するため昭和27年

創立した。

〔会員〕 荒島鶴吉、石濱日出雄、國東

清、三枝大二、島公靖、田中良、東原徹、

遠山静雄、長瀬直諒、中村正典、眞木小太

郎、三林亮太郎、三輪祐輔、吉村俊一、

渡邊正男

プラス美術家群〔洋〕 新宿区下落合二

ノ六六七 吉田遠志方〔電落合四三二七〕

昭和25年8月創立。

〔会員〕 浅井真、吉田千鶴子、小林森

次、海洲正太郎、田村玄一郎、吉田ふじ

を、吉田遠志、吉田穂高

（ハ）

醫藥社〔綜〕 練馬区大泉学園町七一八

平子聖龍方 昭和21年10月創立。昭和29

年5月第8回展開催。

〔主宰者〕 平子聖龍〔各部代表者〕

〔日本画部〕 平子聖龍、岡岡竹雄〔華道〕

上原理伸

（ま）

真赤土工藝会〔工〕 世田谷区喜多見町

一三三三 平沼浄方 昭和17年5月創立

毎年東京他各地で展覧会を開く。

〔会員〕 染色、堀友三郎、武藤貞波留、

栗原宏、里内幸、清水喜美、日比野近三

〔陶器〕 森一紀〔彫金〕 織田慎一〔綴

織〕 古戸忠平〔竹工〕 横田峰齋、平沼浄

〔漆工〕 渡邊六郎、村山久、三木義榮

〔ガラス〕 藤田喬平〔木彫〕 逸見良之助

(七)

無厭会(工・陶) 京都市東山区五条橋東六丁目 山崎光洋方(電祇園二二三) 昭和22年2月創立。清水焼作家二〇名によつて結成。昭和29年5月第7回展開催。

〔会員〕 河合瑞豊、河合榮之助、米澤蘇峯、高橋道八、大丸北峰、宇野仁松、久世久齋、山崎光洋、近藤悠三、淺見五郎助、赤澤露石、清水六和、清水六兵衛、三浦竹泉、宮川香齋、七兵衛信翠、新開邦太郎、永樂善五郎、森野嘉光、諏訪蘇山

武蔵野会(洋) 豊島区駒込六ノ七三〇 土橋醇一方(電大塚四六六五) 昭和18年創立。昭和27年2月第9回展開催。

〔会員〕 土橋醇一、岡田又三郎、渡邊武夫、金子徳衛、田中實一、永田精二、山口猛彦、松尾正己、藤本東一良、寺内萬治郎、阪倉宜暢、里見明正、南政善、島野重之、妹尾壽信、杉村悳、杉山一正、松永敏太郎

(八)

木彩会(工・木) 北区西ヶ原一ノ四四 須田利雄方 昭和23年4月木工藝の制作又は研究に携わる者が集つて創立した。昭和28年9月第6回展開催。昭和29年6月現代工藝連合展参加。

〔会員〕 河津直武、梅田總太郎、山口壽泉、山本葉彌志、前田保三、松原貞嗣、麻田權三、浅川藤治、佐藤豊、本吉

春三郎、本橋政一、須田利雄、原田英、大友中和、落合一郎、大熊喜英、高田義雄、内藤幸夫、櫻井博、江刺英一

モダンアート協会(洋) (東京) 世田谷区上北沢三ノ一一一九 山口薫方 (大阪) 大阪市南区久左衛門町三三三 中村眞方 昭和25年9月創立。昭和29年2月第4回展開催。

〔会員〕 荒井龍男、朝妻治郎、東俊二、江波戸一郎、廣井力、小松義雄、城所昌夫、北垣正樹、勝本富士雄、勝田寛一、藤山光義、村井正誠、靱山七重、宮田正己、中村眞、大森朔衛、小川孝子、周襄吉、杉本龜久雄、勝呂忠、谷澤秀晃、竹田長年、植木茂、和田季悦、矢橋六郎、山口薫、清野恒、吉田政次

モダンアート研究会(洋) 目黒区柿ノ木坂二二一 吉田政次方 大阪市南区久左衛門町三三三 中村眞方 昭和27年モダンアート協会の補助団体として発足したものの。

〔会員〕 モダンアート協会々員及び同会所属出品者

(九)

立軌会(洋) 大田区小林町二八 有岡一郎方 昭和24年4月創立、元創元会の会員七名によつて結成、第2回展より有岡一郎が参加した。昭和29年8月第6回展開催。

〔会員〕 有岡一郎、飯島一、牛島憲之、榎戸庄衛、大貫松三、須田壽、山下大五郎、玉置弘三、藤松博、若狭暁男、

藤橋正枝

(一〇)

レアル美術会(洋) 世田谷区赤堤町一ノ一三 野崎利喜男方 昭和27年9月創立。一水会々員一三名により設立。昭和28年3月第1回展開催。

〔会員〕 福田新生、林鶴雄、池邊一郎、金丸直衛、中畑岬人、中川力、野崎利喜男、尾崎正章、高橋貞一郎、高森捷三、筒井廣道、矢野雄蔵

黎明美術研究会(洋) 目黒区中目黒四ノ一三二一 松村禎夫方 昭和18年4月創立。基礎理論の徹底、新技法の習得等を目的とする。

〔会長〕 柳亮 〔会員〕 一一〇名 連袖会(洋) 大田区馬込東一ノ一〇六 〇 山川勇一郎方 昭和12年安井曾太郎の門下を以て組織、昭和29年7月第16回展開催

〔会員〕 廣瀬功、本郷悳、金子博信、狩野壽一、笠置いづ子、加藤水城、木村辰彦、兒島三吉、中村琢二、二宮雪夫、丸野豊司、三浦俊輔、岡本半三、小野末、大津鎮雄、竹中恵美子、菅野矢一、高田誠、高見耿太郎、寺田春式、幸雅二、山川勇一郎、松本恵子、皆吉志郎

(一一)

六窓会(綜) 豊島区要町一ノ二九、山田申吾方 東京美術学校昭和6年卒業の同窓を以て昭和25年創立。昭和29年4月

第5回展開催。

〔会員〕(日本画) 橋本明治、加藤榮三、山田申吾、東山魁夷(洋画)伊勢正義、大貫松三、佐藤敬、須田壽(彫刻)長沼孝三、野々村一男、大須賀力、黒田嘉治(建築)吉村順三(工藝)内藤四郎 [追加]

全国美術館会議 台東区上野公園 東京都美術館内 昭和27年11月14日発足。第1回27年11月14日於東京都美術館。第2回28年10月22-24日於京都市美術館。第3回29年8月5-7日於ブリッヂストン美術館。

第一章 総則

第一条 本会は全国美術館会議という。第二条 本会の事務所は東京都美術館内におく。

第二章 目的及び事業

第三条 本会は美術館相互の連絡提携を図るを以て目的とする。第四条 本会は前条の目的を達成するために左の事業を行う。

- (一) 美術に関する協議会、展覧会、講習会、講演会、研究会等の開催。(二) 美術団体との連絡(三) 美術館相互の連絡情報及び出版物の交換(四) 其他本会の目的達成上必要な事業

第三章 組織

第五条 本会は全国的美術館施設を以て組織する。第六条 本会の会費は年額金壹千円とする。

第四章 役員

第七条 本会に左の役員を置く。

会長一名 副会長一名 幹事若干名
第八条 本会の役員は互選による、会長は本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長を代理する。

幹事は会務を処理する。

第九条 役員任期は二年とす。

第五章 会議

第十条 総会は全会員を以て構成し会長が召集する。

通常総会は毎年一回開く。必要に応じて臨時に総会を開くことができる。

第十一条 総会は会員総数の三分の一以上の出席を以て成立し、其の議事は出席者の過半数を以て決する、可否同数のときは議長の決するところによる。

第六章

第十二条 本会の経費は会費及び寄附金を以てこれにあてて。

第十三条 本会の予算は総会の承認を経なければならぬ。

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月末日終る。

〔会長〕東京都美術館長〔副会長〕大阪市立美術館長〔幹事〕ブリッヂストーン美術館主事、東京国立博物館長、京都市美術館長、神奈川県立近代美術館長、本間美術館長〔会員〕東京都美術館(杉山司七)、ブリッヂストーン美術館(岩佐新)、根津美術館(河西豊太郎)、都立駒場高校美術館(長倉邦雄)、国立博物館(浅野長武)、国立近代美術館(岡部長景)、京都市美術館

(原与作)、神奈川県立近代美術館(村田良策)、高岡市美術館(中条豊治)、大阪市立美術館(望月信成)、大原美術館(武内潔真)、高松美術館(中村良三)、佐賀県文化館(明石正彦)、白鶴美術館(山口雅生)、市立神戸美術館、大阪市天王寺区、奈良国立博物館(黒田源次)、京都国立博物館(神田喜一郎)、滋賀県立産業文化館(草野文男)、茨城県立美術館(名越那珂次郎)、笠間美術館(根本政太郎)、本間美術館(本間祐介)、箱根美術館(岡田茂吉)、天理参考館(福原喜代男)、大倉集古館(大崎新吉)

美術家及美術関係者名簿

昭和二九年一〇月現在

凡 例

一、本名簿にのせた美術家及美術関係者の数は一六〇六名である。
我が国において、美術家として社会的地位を有する人々を採録した。
不備の点は次年度に補いた。

一、名簿は氏名の頭文字の発音により五〇音順に記載した。発音の同じ場合は字訓の少ないものを先にし、頭文字の同じものは二字目の発音により、その発音の同じ場合は字訓の少ないものを先に掲げた。但し同字は訓音の異なるものもなるべく一箇所に集めた。安宅、安達、安西、安藤等を同一箇所に掲げた如くである。

一、名簿に用いた略語はだいたい左の通りである。

- (日)日本画 (洋)洋画 (挿)挿画 (版)版画 (漫)漫画 (彫)彫塑
- (工)工藝 (漆)漆工藝 (陶)陶磁 (金)金工藝 (染)染色 (織)織物
- (繡)刺繡 (硝)硝子工藝 (建)建築 (写)写真 (字)字者 (評)美術評論家 (記)美術記者 (文)文化財事務局文化財保護委員会事務局 (文)文化財専審委文化財専門審議会専門委員 (日展)日本美術展覧会 (日展無)日本美術展覧会無鑑査 (日展依)日本美術展覧会出品依頼者 (日展審)日本美術展覧会審査員 (日展参)日本美術展覧会運営会参事 (日展理事) (日展常任理事)日本美術展覧会運営会理事、同常任理事 (東京藝大)東京藝術大学 (東美校)東京美術学校 (京都美術大)京都市立美術大学 (京都絵専校)京都市立絵画専門学校 (京都美術専校)京都市立美術専門学校 (女子美大)女子美術大学 (女子美術校)女子美術学校・女子美術専門学校 (帝国美術校)帝国美術学校 (日美校)日本美術学校 (大阪美術校)大阪美術学校 (東京高工藝校)東京高等工藝学校 (東京高工業校)東京高等工業学校 (京都高工藝校)京都高等工藝学校 (名古屋高工業校)名古屋高等工業学校 (京都美工藝校)京都市立美術工藝学校

一、日展無、日展依、日展審は昭和二九年第一〇回日本美術展覧会の無鑑査(昭和二八年第九回展特選者、出品依頼者、審査員を示す。元日展無、元日展依、元日展審は日本美術展覧会運営会、日本藝術院共催による昭和二四年第五回日展から昭和二八年第九回日展迄の間の無鑑査、出品依頼者、審査員を示す。

一、住所中東京都のみは都名を略して区名を以て始めた。

「美術家及美術関係者名簿」 ページ (274～308 ページ)

個人情報保護のため非公開

Pages of the list of Artists and Experts in Art (pp.274-308)

Cut for protection of the personal information

美術関係定期刊行物一覽 (五〇音順)

ア ト リ エ	月刊、編輯北原義雄、発行アトリエ社、千代田区神田神保町三ノ一三、電九段二五七五・二五七六	史 迹 と 美 術	月刊、編輯川勝政太郎、発行史迹美術同致会、京都市上京区紫野下柳町一四、電西陣五九五六
藝 術 學 報	編輯金丸重嶺、発行日本藝術学会、文京区本富士町東大文学部美術史研究室内	書 品	月刊、編輯庄司一夫、発行東洋書道協会、中央区京橋二ノ三、電京橋三〇四・二七八一・三八五六
藝 術 新 潮	月刊、編輯佐藤義夫、発行新潮社、新宿区矢来町七一、電(34)七一一一七一一八	新 建 築	月刊、編輯吉岡保五郎、発行新建築社、中央区宝町一ノ六電京橋四七五二
建 築 史 研 究	編輯建築史研究会(藤島亥治郎)、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一	染 色 美 術	編輯本吉春三郎、発行日本染織美術協会、世田ヶ谷区上馬町一ノ六〇七 第十四号(一七年七月発行)以降休刊
建 築 雜 誌	月刊、編輯北村正雄、発行日本建築学会、中央区銀座西三ノ一、電京橋一二三三・一二三八	艸 美	月刊、編輯芸艸会同人、発行芸艸堂、京都市中京区寺町二条南入、電上三六一三、東京都湯島一ノ一、電神田五八四〇
建 築 文 化	月刊、編輯井上精二、発行彰国社、千代田区平河町二ノ一	淡 交	月刊、編輯能村圭、発行淡交社、京都市上京区小川通寺ノ内上ル、電西陣七一一〇
工 藝 ニ ユ ー ス	一、電九段二九三・二八五一・四五二三 月刊、編輯工藝学会編集委員会、発行財団法人工藝学会、港区麻布三河台町二四、電赤坂一〇三四	刀 劍 美 術	編輯宮崎芳樹、発行日本刀劍美術保存協会、台東区上野公園東京国立博物館内
考 古 學 雜 誌	月刊、編輯日本考古学会(原田淑人)、発行日本考古学会、台東区上野公園東京国立博物館内	日 本 漆 工	月刊、編輯安藤鉦一、発行多摩書房、中野区新井町六四九
國 際 建 築	月刊、編輯藤懸静也、発行国華社、港区麻布市兵衛町二ノ一、電赤坂一七五二	日 本 の 茶 道	月刊、編輯古谷豊吉、発行日本漆工協会、中央区日本橋通二ノ二加藤ビル内、電千代田九四七〇
國 立 博 物 館 ニ ユ ー ス	月刊、編輯国際建築協会(小山正和)、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇・一一三	日 本 美 術 工 藝	月刊、編輯粟田常太郎、発行日本の茶道社、港区赤坂青山南町二ノ五三 第二二八号(一八年一〇月発行)以降廃刊
古 文 化 財 之 科 学	月刊、編輯野間清六、発行国立博物館、台東区上野公園、電駒込三七一一一三七一五	汎 工 藝	月刊、編輯加藤義一郎、発行日本美術工藝社、大阪市北区梅田阪急ビル内
三 彩	編輯柴田雄次、発行古文化資料自然科学研究会、台東区上野公園東京国立博物館研究室内	美 術 學	旬刊、編輯柴崎俊吉、発行汎工藝社、大阪市天王寺区逢坂上町一四一
	季刊、編輯藤本韶三、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村町一五、電九段九九〇・一一三	美 術 館 ニ ユ ー ス	季刊、編輯美学会(男澤淳)、発行美術出版社
		美 術 研 究	編輯井上芳郎、発行東京美術倶楽部、港区芝新橋七ノ一二
			月刊、編輯早川治平、発行東京都美術館友の会、台東区上野公園、電駒込四八九六
			隔月刊、編輯美術研究所(田中一松)、発行吉川弘文館、千

美術関係定期刊行物一覽

- 美術史 代田区神田神保町三ノ一九、電九段一九〇〇
 季刊、編輯美術史学会(熊谷宣夫)、発行便利堂、京都市中
 京区新町通竹屋町南
- 美術新聞 週刊、編輯佐久間善三郎、発行藝術文化研究所、大田区蓮
 沼町一〇七
- 美術探求 隔月刊、編輯難波專太郎、発行美術探求社、大田区石川町
 九八
- 美術通信 旬刊、編輯高木紀重、発行日本美術通信社、新宿区下落合
 四ノ一五八八
- 美術手帖 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村
 町一五、電九段九九〇一―三
- 美術ニュース 月刊、編輯上田宏範、発行大阪市立美術館友の会、大阪市
 天王寺公園、電天王寺六一〇・四六〇九
- 美術批評 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村
 町一五、電九段九九〇一―三
- 佛教藝術 季刊、編輯仏教藝術学会、発行毎日新聞社、大阪堂島、東
 京有楽町
- 文化財月報 編輯安達健二、発行文化財保護委員会、千代田区霞ヶ関三
 ノ四
- 萌春 編輯猪木達二、発行猪木達二、東京都千代田区神田神保町
 三ノ二九
- 墨美 月刊、編輯森田子龍、発行書道出版社、京都市上京区紫竹
 大門町一二
- みづゑ 月刊、編輯大下正男、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本村
 町一五、電九段九九〇一―三
- ミュージアム 月刊、編輯国立博物館、発行美術出版社、新宿区市ヶ谷本
 村町一五、電九段九九〇一―三
- 大和文華 編輯大和文華館、発行大和文華館出版部、大阪市長区船越
 町一ノ四八、電東三八五七
- 大和文化研究 編輯大和文化研究会(小泉顯夫)、発行同研究会 奈良市登
 大路町五〇奈良国立博物館内

印刷 昭和29年10月20日

発行 昭和29年11月20日

日本美術年鑑

—昭和29年版—

編集者 東京国立文化財研究所
美術部 (美術研究所)

印刷所 大蔵省印刷局
東京都新宿区市ケ谷本村町15
電話 (33) 531~9

発行所 東京国立文化財研究所
東京都台東区上野公園
電話 駒込 4487. 1923
